

茨城県教育財団調査報告第82集

(仮称) 水戸浄水場予定地内
埋蔵文化財調査報告書

白石遺跡

平成5年3月

財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団調査報告第82集

(仮称) 水戸浄水場予定地内
埋蔵文化財調査報告書

白 石 遺 跡

平成 5 年 3 月

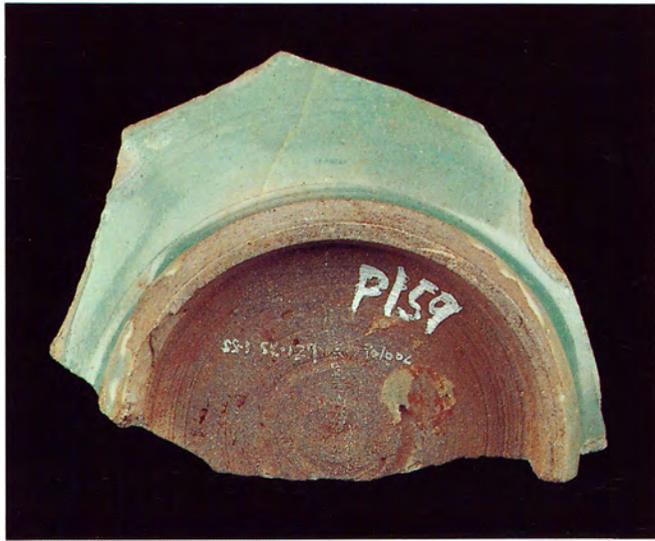
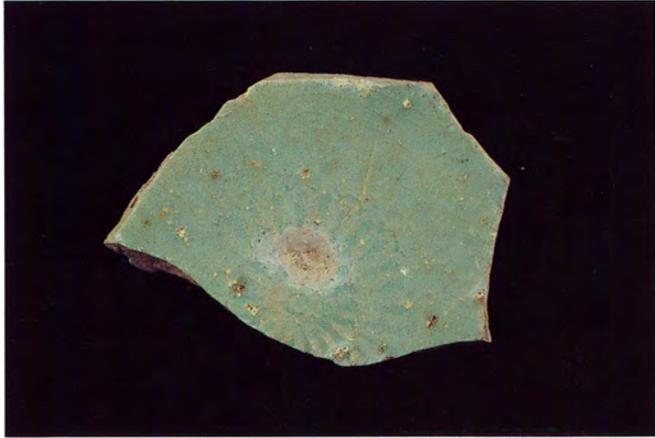
財団法人 茨城県教育財団



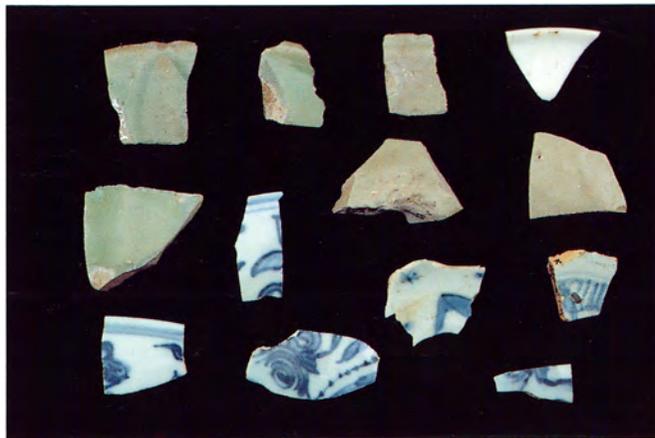
遺跡遠景



第596号土壙出土 龍泉窯 青磁杯



第127号土坑出土
龍泉窯 青磁坏



龍泉窯青磁・染付・
白磁



瀬戸産陶器



瀬戸産瓶子



瀬戸産天目茶碗



常滑産甕

序

茨城県は、霞ヶ浦をはじめ利根川、那珂川など水資源に恵まれており、その有効活用が望まれています。 (仮称) 水戸浄水場は、那珂川の水を県中央部の地域住民の生活用水として、供給が図られるところです。浄水場の建設は、県企業局によって水戸市田谷町内において進められており、その建設予定地内に白石遺跡は所在しております。

財団法人茨城県教育財団は、県企業局と埋蔵文化財発掘調査事業について委託契約を結び、平成2年4月から平成3年9月まで発掘調査を実施いたしました。

本書は、白石遺跡の調査成果を収録したものでありますが、今回の調査により、中世の館跡の全容を把握することができ、良好な研究資料を収録することができました。本書が、郷土の歴史の理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として、活用されることを希望いたします。

なお、発掘調査及び整理を進めるに当たり、委託者である県企業局からいただいた御協力に対し心から感謝申し上げます。

また、茨城県教育委員会、水戸市教育委員会をはじめ、関係各機関及び関係各位から御指導、御協力いただいたことに、衷心より感謝の意を表します。

平成5年3月

財団法人 茨城県教育財団

理事長 磯田 勇

例 言

1 本書は、平成2・3年度に茨城県企業局の委託により、財団法人茨城県教育財団が実施した水戸市田谷町に所在する白石遺跡の発掘調査報告書である。

2 白石遺跡の調査及び整理に関する当教育財団の組織は、次のとおりである。

平成4年度初めの組織改正により、従来の企画管理課は、企画管理課と経理課の二課に分かれることとなった。

理 事 長	磯 田 勇	昭和63年6月～	
副 理 事 長	小 林 元	昭和63年4月～平成3年7月	
	角 田 芳 夫	平成3年7月～	
常 務 理 事	小 林 洋	平成元年4月～平成3年3月	
	本 田 三 郎	平成3年4月～	
事 務 局 長	一 木 邦 彦	平成元年4月～平成4年3月	
	藤 枝 宣 一	平成4年4月～	
埋蔵文化財部長	石 井 毅	平成2年4月～	
企 画 管 理 課	課 長	北 澤 勝 行	平成2年4月～平成4年3月
	課 長	水 飼 敏 夫	平成4年4月～、(平成2年4月～平成4年3月企画管理課課長代理)
	主任調査員	小 山 映 一	平成2年4月～平成3年3月
	主任調査員	根 本 康 弘	平成3年4月～
	係 長	園 部 昌 俊	昭和63年4月～平成3年3月
	主 事	吉 井 正 明	平成元年4月～平成4年3月
	主 事	杉 山 秀 一	平成4年4月～
経 理 課	課 長	藤 田 和 行	平成4年4月～
	主 任	飯 島 康 司	平成4年4月～、(平成3年4月～平成4年3月企画管理課)
	主 事	大 貫 吉 成	平成4年4月～、(平成2年4月～平成4年3月企画管理課)
調 査 課	課長(部長兼務)	石 井 毅	平成元年4月～
	調査第三班	柴 正	平成2年度
	調査第一班	久 野 俊 度	平成3年度
	主任調査員	齋 藤 眞 人	平成2年4月～平成3年9月調査
	主任調査員	緑 川 正 實	平成2年7月～平成2年9月調査
	主任調査員	小 高 五十二	平成3年4月～平成3年9月調査
	調 査 員	吉 川 明 宏	平成2年10月調査
	調 査 員	樫 村 宣 行	平成2年4月～平成3年3月調査
	調 査 員	黒 沢 秀 雄	平成2年8月～平成3年3月調査
整 理 課	課 長	沼 田 文 夫	平成2年4月～
	調 査 員	樫 村 宣 行	平成4年度整理・執筆・編集

3 本書の作成にあたり、中世陶磁器は国立歴史民俗博物館助教授小野正敏氏に、古代陶器は愛知県陶磁資料館学芸課長柴垣勇夫氏に、館の縄張りは中世城郭研究会三島正之氏、東京都立大学講師藤本正行氏に御指導をいただいた。また、炭化豆の同定については、農林水産省農業生物資源研究所の江川宜伸氏に依頼し、分析結果の報告をいただいた。炭化材の分析については、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。

4 本書に使用した記号等については、第4章第1節の2の項を参照されたい。

5 発掘調査及び出土遺物の整理に際して御指導・御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

6 遺跡の概略

遺 跡 名	白石遺跡				
フリガナ	シライシイセキ				
副 題	(仮称) 水戸浄水場予定地内埋蔵文化財調査報告書				
シ リ ー ズ	茨城県教育財団文化財調査報告第82集				
著 者	檜 村 宣 行				
編 集 機 関	財団法人 茨城県教育財団				
発 行 機 関	財団法人 茨城県教育財団				
住 所	〒310 茨城県水戸市見和1丁目356番2号				
発 行 日	1993(平成5)年3月31日				
所 収 遺 跡	市 町 村	コ ー ド	北 緯	東 経	標 高
白 石 遺 跡	水戸市	08201-221	36°25'26"	140°27'40"	32.904m
所 収 遺 物	主 な 時 代		主 な 遺 構		主 な 遺 物
白 石 遺 跡	縄文(中期),古墳(後期) 奈良・平安,中世(鎌倉 ~戦国)		住居23軒,掘立柱建物14 棟,堀10条,溝17条,地 下式墳30基,土坑299基		土器,石製品(臼,砥石), 木製品(盆,櫛,皿),石器, 金属製品(古銭,刀子)

目 次

口 絵	
序	
例 言	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	6
第3章 調査方法	11
第1節 地区設定	11
第2節 基本層序	11
第3節 遺構確認	12
第4節 遺構調査	12
第4章 遺構と遺物	14
第1節 遺跡の概要と遺構・遺物の記載方法	14
1 遺跡の概要	14
2 遺構・遺物の記載方法	14
第2節 縄文時代の遺構と遺物	20
1 竪穴住居跡	20
第3節 古墳時代の遺構と遺物	28
1 竪穴住居跡	28
第4節 奈良・平安時代の遺構と遺物	40
1 竪穴住居跡	40
2 掘立柱建物跡	91
3 溝	100
4 基 壇	106
5 土 坑	108

第5節 中 世	113
1 館 跡	113
2 その他の遺構	248
第6節 その他の遺構と遺物	295
1 塚	295
2 土 坑	299
3 遺構外遺物	311
第5章 考 察	323
第1節 縄文時代から平安時代の土器	323
1 縄文時代	323
2 古墳時代	323
3 奈良時代	331
4 平安時代	332
第2節 館跡の変遷と中世土器	333
1 I 期	334
2 II 期	334
3 III 期	335
4 IV 期	336
第3節 文献から見た館跡	344
1 I 期	344
2 II 期	346
3 III 期	346
4 IV 期	347
結 語	351
附 章 (炭化豆種子の品種同定, 炭化材の材質同定)	352

插图目次

第 1 图 白石遺跡調査区…………… 3	第 29 图 第 4 号住居跡出土遺物実測図… 50
第 2 图 遺跡周辺地形図…………… 5	第 30 图 第 5 号住居跡・竈実測図…………… 52
第 3 图 白石遺跡周辺遺跡位置図…………… 9	第 31 图 第 5 号住居跡出土遺物実測図… 53
第 4 图 調査区呼称方法概念図…………… 11	第 32 图 第 6 号住居跡・竈実測図…………… 55
第 5 图 基本土層図…………… 11	第 33 图 第 6 号住居跡出土遺物 実測・拓影図…………… 56
第 6 图 第 2 号住居跡実測図…………… 20	第 34 图 第 7 号住居跡実測図…………… 58
第 7 图 第 2 号住居跡出土遺物 実測・拓影図…………… 21	第 35 图 第 7 号住居跡竈実測図…………… 59
第 8 图 第 8 号住居跡実測図…………… 23	第 36 图 第 7 号住居跡出土遺物 実測図(1)…………… 60
第 9 图 第 8 号住居跡出土遺物 実測・拓影図…………… 24	第 37 图 第 7 号住居跡出土遺物 実測・拓影図(2)…………… 61
第 10 图 第 17 号住居跡実測図…………… 26	第 38 图 第 9 号住居跡実測図…………… 63
第 11 图 第 17 号住居跡出土遺物 実測・拓影図…………… 27	第 39 图 第 9 号住居跡竈実測図…………… 64
第 12 图 第 1 号住居跡<II 区>実測図…………… 29	第 40 图 第 9 号住居跡出土遺物 実測図(1)…………… 65
第 13 图 第 1 号住居跡<II 区>竈実測図… 30	第 41 图 第 9 号住居跡出土遺物 実測図(2)…………… 66
第 14 图 第 1 号住居跡<II 区>出土遺物 実測図(1)…………… 31	第 42 图 第 10 号住居跡実測図…………… 69
第 15 图 第 1 号住居跡<II 区>出土遺物 実測図(2)…………… 32	第 43 图 第 3 号住居跡<II 区>実測図…………… 70
第 16 图 第 2 号住居跡<II 区>実測図…………… 35	第 44 图 第 3 号住居跡<II 区>出土遺物 実測図…………… 71
第 17 图 第 2 号住居跡<II 区>竈実測図… 36	第 45 图 第 4 号住居跡<II 区>実測図…………… 72
第 18 图 第 2 号住居跡<II 区>出土遺物 実測図…………… 37	第 46 图 第 4 号住居跡<II 区>出土遺物 実測図…………… 72
第 19 图 第 8 号住居跡<II 区>・竈実測図… 39	第 47 图 第 5 号住居跡<II 区>実測図…………… 73
第 20 图 第 8 号住居跡<II 区>出土遺物 実測図…………… 40	第 48 图 第 5 号住居跡<II 区>竈実測図… 74
第 21 图 第 1 号住居跡実測図…………… 41	第 49 图 第 5 号住居跡<II 区>出土遺物 実測図…………… 75
第 22 图 第 1 号住居跡竈実測図…………… 42	第 50 图 第 6 号住居跡<II 区>実測図…………… 77
第 23 图 第 1 号住居跡出土遺物 実測・拓影図…………… 43	第 51 图 第 6 号住居跡<II 区>竈実測図… 78
第 24 图 第 3 号住居跡実測図…………… 45	第 52 图 第 6 号住居跡<II 区>出土遺物 実測図(1)…………… 79
第 25 图 第 3 号住居跡竈実測図…………… 46	第 53 图 第 6 号住居跡<II 区>出土遺物 実測図(2)…………… 80
第 26 图 第 3 号住居跡出土遺物 実測図(1)…………… 47	第 54 图 第 7 号住居跡<II 区>・竈実測図 81
第 27 图 第 3 号住居跡出土遺物 実測図(2)…………… 48	第 55 图 第 7 号住居跡<II 区>出土遺物 実測図…………… 82
第 28 图 第 4 号住居跡・竈実測図…………… 49	

第 56 图	第 9 号住居跡<II 区>実測図……	84	第 83 图	第 5 号堀断面図……	118
第 57 图	第 9 号住居跡<II 区>竈実測図…	85	第 84 图	第 5 号堀出土遺物実測図……	119
第 58 图	第 9 号住居跡<II 区>出土遺物 実測図……	85	第 85 图	第 16 号溝実測図……	120
第 59 图	第 10 号住居跡<II 区>・竈 実測図……	87	第 86 图	第 18 号溝実測図……	121
第 60 图	第 10 号住居跡<II 区>出土遺物 実測図……	88	第 87 图	第 24 号溝実測図……	122
第 61 图	第 11 号住居跡<II 区>実測図……	89	第 88 图	第 1 号井戸・出土遺物実測図…	125
第 62 图	第 11 号住居跡<II 区>竈実測図…	90	第 89 图	第 6 号井戸・出土遺物 実測図(1)……	126
第 63 图	第 11 号住居跡<II 区>出土遺物 実測図……	90	第 90 图	第 6 号井戸出土遺物 実測図(2)……	127
第 64 图	第 1 号掘立柱建物跡実測図……	92	第 91 图	第 6 号井戸出土遺物 実測図(3)……	128
第 65 图	第 2 号掘立柱建物跡実測図……	94	第 92 图	第 4 号地下式塙実測図……	129
第 66 图	第 3 号掘立柱建物跡出土遺物…	95	第 93 图	第 4 号地下式塙出土遺物 実測図……	131
	実測図		第 94 图	第 7 号地下式塙・出土遺物 実測図……	132
第 67 图	第 3 号掘立柱建物跡実測図……	96	第 95 图	第 11 号地下式塙・出土遺物 実測図……	134
第 68 图	第 1 号掘立柱建物跡<II 区> 実測図……	98	第 96 图	第 17 号地下式塙・出土遺物 実測図……	135
第 69 图	第 2 号掘立柱建物跡<II 区> 実測図……	99	第 97 图	第 2 号小竪穴状遺構実測図……	136
第 70 图	第 3 号掘立柱建物跡<II 区> 実測図……	101・102	第 98 图	第 151 号土坑実測図……	137
第 71 图	第 11 号溝断面・出土遺物 実測図……	103	第 99 图	第 2 号堀断面・出土遺物 実測図(1)……	139
第 72 图	第 12 号溝断面・出土遺物 実測図……	103	第 100 图	第 2 号堀出土遺物実測図(2)……	140
第 73 图	第 15 号溝・出土遺物 実測図……	104	第 101 图	第 3 号堀断面・出土遺物 実測図(1)……	141
第 74 图	第 1 号溝<II 区> 出土遺物実測・拓影図……	106	第 102 图	第 3 号堀出土遺物実測図(2)……	142
第 75 图	第 1 号基壇実測図……	107	第 103 图	第 4 号堀・出土遺物 実測図(1)……	144
第 76 图	第 1 号基壇出土遺物実測図……	108	第 104 图	第 4 号堀出土遺物実測図(2)……	145
第 77 图	第 159 号出土遺物実測図, 第 480 号 土坑・出土遺物実測図……	109	第 105 图	第 21 号堀断面図……	146
第 78 图	第 828 号土坑・出土遺物実測図…	111	第 106 图	第 5 号掘立柱建物跡実測図……	148
第 79 图	第 8 号溝断面図……	114	第 107 图	第 6 号掘立柱建物跡実測図……	149
第 80 图	第 9 号溝断面図……	114	第 108 图	第 6 号掘立柱建物跡出土遺物 実測図……	150
第 81 图	第 10 号溝断面・出土遺物 実測図……	115	第 109 图	第 7 号掘立柱建物跡実測図……	151
第 82 图	第 4 号掘立柱建物跡実測図……	116	第 110 图	第 8 号掘立柱建物跡実測図……	153
			第 111 图	第 9 号掘立柱建物跡実測図……	154
			第 112 图	第 10 号掘立柱建物跡実測図……	155

第113图	第11号掘立柱建物跡実測図……………156	実測図……………188
第114图	第18号住居跡・竈実測図……………157	第144图 第26号堀・出土遺物
第115图	第18号住居跡出土遺物実測図…158	実測図(1)……………190
第116图	第2号方形竪穴状遺構実測図…159	第145图 第26号堀出土遺物実測図(2)……………191
第117图	第2号方形竪穴状遺構 出土遺物実測図……………159	第146图 第1号方形竪穴状遺構実測図…194
第118图	第4号方形竪穴状遺構実測図…160	第147图 第3号方形竪穴状遺構実測図…195
第119图	第5号方形竪穴状遺構実測図…161	第148图 第7号土橋断面図……………197
第120图	第5号方形竪穴状遺構 出土遺物実測図……………162	第149图 第8号土橋断面図……………197
第121图	第3号井戸・出土遺物実測図…163	第150图 第1号柵列実測図……………199
第122图	第10号井戸実測図……………164	第151图 第4号井戸実測図……………200
第123图	第11号井戸実測図……………165	第152图 第5号井戸・出土遺物実測図…201
第124图	第13号井戸実測図……………166	第153图 第7号井戸・出土遺物実測図…202
第125图	第15号井戸実測図……………167	第154图 第8号井戸・出土遺物実測図…204
第126图	第2号地下式墳実測図……………168	第155图 第12号井戸実測図……………205
第127图	第6号地下式墳実測図……………169	第156图 第16号井戸実測図……………206
第128图	第6号地下式墳出土遺物 実測図……………170	第157图 第17号井戸・出土遺物実測図…207
第129图	第12号地下式墳・出土遺物 実測図……………172	第158图 第1号地下式墳・出土遺物 実測図……………208
第130图	第13号地下式墳・出土遺物 実測図……………173	第159图 第3号地下式墳・出土遺物 実測図……………210
第131图	第21号地下式墳・出土遺物 実測図……………175	第160图 第8号地下式墳実測図……………211
第132图	第24号地下式墳出土遺物 実測図……………177	第161图 第9号地下式墳実測図……………213
第133图	第4号小竪穴状遺構実測図…178	第162图 第9号地下式墳出土遺物 実測図……………214
第134图	第9号小竪穴状遺構・出土遺物 実測図……………179	第163图 第10号地下式墳実測図……………215
第135图	第24号小竪穴状遺構・出土遺物 実測図(1)……………180	第164图 第10号地下式墳出土遺物 実測図……………216
第136图	第24号小竪穴状遺構出土遺物 実測図(2)……………181	第165图 第14号地下式墳実測図……………217
第137图	土坑実測図……………182	第166图 第15号地下式墳実測図……………218
第138图	土坑出土遺物実測図……………183	第167图 第16号地下式墳・出土遺物 実測図……………220
第139图	第1号堀断面図……………184	第168图 第18号地下式墳実測図……………221
第140图	第1号堀出土遺物実測図……………185	第169图 第19号地下式墳実測図……………222
第141图	第6号堀断面図……………186	第170图 第20号地下式墳実測図……………224
第142图	第7号堀断面図……………187	第171图 第20号地下式墳出土遺物 実測図……………225
第143图	第25号堀・出土遺物	第172图 第25号地下式墳実測図……………226
		第173图 第26・27号地下式墳実測図……………228
		第174图 第26号地下式墳出土遺物 実測図……………229
		第175图 第28号地下式墳実測図……………230

第176图	第29号地下式墳・出土遺物 実測図……………231	第203图	第3号墓壙群出土遺物 実測図……………260
第177图	第30号地下式墳実測図……………232	第204图	第13号溝断面図……………261
第178图	第13号小竪穴状遺構実測図……………233	第205图	第14号溝実測図……………261
第179图	第22・23号小竪穴状遺構 実測図……………234	第206图	第17号溝実測図……………262
第180图	第30号小竪穴状遺構実測図……………235	第207图	第19号溝・出土遺物 実測図……………263
第181图	第36号小竪穴状遺構・出土遺物 実測図……………236	第208图	第22号溝実測図……………264
第182图	第41・42号小竪穴状遺構 実測図……………238	第209图	第23号溝実測図……………264
第183图	第3・7号小竪穴状遺構 実測図……………239	第210图	第27号溝実測図……………265
第184图	第8・11号小竪穴状遺構 実測図……………240	第211图	第28号溝実測図……………266
第185图	第8号小竪穴状遺構出土遺物 実測図……………241	第212图	第29号溝実測図……………267
第186图	第10・18号小竪穴状遺構 実測図……………241	第213图	第5号地下式墳実測図……………269
第187图	第25・27号小竪穴状遺構 実測図……………242	第214图	第22号地下式墳実測図……………270
第188图	第27号小竪穴状遺構出土遺物 実測図……………243	第215图	第23号地下式墳実測図……………271
第189图	第48号小竪穴状遺構実測図……………243	第216图	第16号小竪穴状遺構・出土遺物 実測図……………272
第190图	第126号土坑・出土遺物実測図……………244	第217图	第28号小竪穴状遺構実測図……………273
第191图	第847号土坑実測図……………244	第218图	第32号小竪穴状遺構実測図……………274
第192图	土坑実測図(1)……………245	第219图	第37号小竪穴状遺構実測図……………275
第193图	土坑出土遺物実測図……………246	第220图	第39号小竪穴状遺構実測図……………276
第194图	土坑実測図(2)……………247	第221图	第1・5・6号小竪穴状遺構 実測図……………277
第195图	第1号墓壙群実測図……………249	第222图	第12・14・15・17号小竪穴状遺構 実測図……………278
第196图	第127・137号土壙・第127号土壙 出土遺物実測図……………250	第223图	第19・20・21・26号小竪穴状遺構 実測図……………279
第197图	第2号墓壙群実測図……………252	第224图	第29・31・33号小竪穴状遺構 実測図……………280
第198图	第2号墓壙群出土遺物 実測図(1)……………253	第225图	第34・35号小竪穴状遺構 実測図……………281
第199图	第2号墓壙群出土遺物 実測図(2)……………254	第226图	第38・40号小竪穴状遺構 実測図……………282
第200图	第2号墓壙群出土遺物 実測図(3)……………255	第227图	第43・44号小竪穴状遺構 実測図……………283
第201图	第596号土壙・出土遺物実測図……………257	第228图	第45・46・47号小竪穴状遺構 実測図……………284
第202图	第3号墓壙群実測図……………259	第229图	第49・50・51・52号小竪穴状遺構 実測図……………285
		第230图	第1・52号小竪穴状遺構出土遺物 実測図……………286

第231図	土坑実測図	291	第246図	遺構外出土須恵器拓影図	314
第232図	土坑出土遺物実測図(1)	292	第247図	遺構外出土遺物実測図(1)	315
第233図	土坑出土遺物実測図(2)	293	第248図	遺構外出土遺物実測図(2)	317
第234図	古銭拓影図	294	第249図	遺構外出土遺物実測図(3)	319
第235図	第1号積石状塚・出土遺物 実測図(1)	296	第250図	遺構外出土遺物実測図(4)	320
第236図	第1号積石状塚出土遺物 実測図(2)	297	第251図	遺構外出土遺物実測図(5)	321
第237図	第2号積石状塚・出土遺物 実測図	298	第252図	土器編年図-1	324
第238図	土坑実測図(1)	306	第253図	幡山2号窯出土遺物実測図	326
第239図	土坑実測図(2)	307	第254図	土器編年図-2	327・328
第240図	土坑実測図(3)	308	第255図	土器編年図-3	329・330
第241図	土坑実測図(4)	309	第256図	白石館跡Ⅰ期	334
第242図	土坑実測図(5)	310	第257図	白石館跡Ⅱ期	335
第243図	土坑実測図(6)	311	第258図	白石館跡Ⅲ期	336
第244図	遺構外出土縄文式土器 拓影図(1)	312	第259図	土器編年図-4	337・338
第245図	遺構外出土縄文式土器 拓影図(2)	313	第260図	土器編年図-5	339・340
			第261図	白石館跡Ⅳ期	341
			第262図	陶磁器の構成図	343
			第263図	地割と館跡	345
			第264図	佐竹支族(南酒出氏)系図	348
			第265図	中世の常陸国の勢力図	349

附章挿図目次

第1図	炭化豆種子の長さの変異	353	第2図	炭化豆種子の長幅比の変異	353
-----	-------------	-----	-----	--------------	-----

付図目次

付図1	白石遺跡全体図	付図2	堀・溝配置図
-----	---------	-----	--------

表目次

表1	白石遺跡周辺遺跡一覧表	10	表5	古銭一覧表	293
表2	奈良・平安時代の土坑一覧表	112	表6	その他の土坑一覧表	299
表3	小竪穴状遺構一覧表	286	表7	白石遺跡住居跡一覧表	321
表4	中世土坑一覧表	288			

附章表目次

表1	白石遺跡1次出土炭化材 の樹種	355	表2	白石遺跡2次炭化材の樹種	359
----	--------------------	-----	----	--------------	-----

写真目次

- P L 1 調査前風景
- P L 2 白石遺跡1次全景
- P L 3 白石遺跡2次全景
- P L 4 第1号住居跡・竈
- P L 5 第2号住居跡遺物出土状況, 第3号住居跡竈
- P L 6 第7号住居跡遺物出土状況, 第8号住居跡
- P L 7 第9号住居跡遺物出土状況
- P L 8 第10号住居跡, 第1号住居跡〈II区〉遺物出土状況
- P L 9 第4号住居跡〈II区〉, 第6号住居跡〈II区〉遺物出土状況
- P L 10 第6号住居跡〈II区〉・竈遺物出土状況
- P L 11 第7・8号住居跡〈II区〉
- P L 12 第9・11号住居跡〈II区〉
- P L 13 第1・2・3号掘立柱建物跡
- P L 14 第1・2号掘立柱建物跡〈II区〉
- P L 15 第1号溝, 第3号掘立柱建物跡〈II区〉, 第829・830号土坑
- P L 16 第1号基壇・版築状況
- P L 17 第1・2号土橋
- P L 18 第1号堀西側・南西コーナー
- P L 19 第1号堀西側作業風景, 第2号堀
- P L 20 第1・3号堀北側・東側
- P L 21 第3号堀西側馬歯出土状況, 第4号堀北東コーナー
- P L 22 第4号堀東側遺物出土状況, 第5号堀西側
- P L 23 第6号堀
- P L 24 第7・21号堀
- P L 25 第25・26号堀
- P L 26 第1・2・3・4・5号堀断面
- P L 27 第8・9・10号溝断面, 第6・7・21・25・26号堀断面
- P L 28 第4・5号掘立柱建物跡
- P L 29 第6・7号掘立柱建物跡
- P L 30 第8・9号掘立柱建物跡
- P L 31 第18号住居跡, 竈
- P L 32 第1・3号方形竪穴状遺構
- P L 33 第2号方形竪穴状遺構断面, 第4号方形竪穴状遺構
- P L 34 第1・3・4・5・6・10号井戸, 第3・6号井戸断面
- P L 35 第11・12・13・15・16・17号井戸, 第14・16号井戸断面
- P L 36 第7号地下式墳・第9号地下式墳断面
- P L 37 第8号地下式墳・断面
- P L 38 第11・12号地下式墳
- P L 39 第13号地下式墳人骨出土状況, 第16号地下式墳
- P L 40 第18号地下式墳, 第19号地下式墳断面
- P L 41 第21号地下式墳断面, 第24号地下式墳
- P L 42 第25・29号地下式墳
- P L 43 第30号地下式墳・側壁工具痕
- P L 44 第1・45号小竪穴状遺構断面, 第3・4・9・10・14・15・16号小竪穴状遺構
- P L 45 第19・20・21号小竪穴状遺構・断面, 第22・26・27・32号小竪穴状遺構, 第24号小竪穴状遺構遺物出土状況, 第35号小竪穴状遺構断面
- P L 46 第38号小竪穴状遺構断面, 第39・40・41・42・46・47・48号小竪穴状遺構, 第40号小竪穴状遺構断面
- P L 47 第1号墓壇群
- P L 48 第2号墓壇群
- P L 49 第596号土壇・遺物出土状況
- P L 50 第2・3号墓壇群
- P L 51 第80・126・177・244・257・553・578・863号土坑

- P L 52 第27・375・556・847号土坑，第61・84・85号土坑〈Ⅱ区〉
- P L 53 第1号積石状塚作業風景・断面
- P L 54 第2号積石状塚・作業風景
- P L 55 第2号墓壙群出土初山窯皿
- P L 56 第1・2・3号住居跡出土遺物
- P L 57 第3・5・6・7号住居跡出土遺物
- P L 58 第7・9号住居跡出土遺物(1)
- P L 59 第9号住居跡出土遺物(2)
- P L 60 第9号住居跡出土遺物(3)
- P L 61 第9号住居跡出土遺物(4)
- P L 62 第17号住居跡出土遺物
- P L 63 第1号住居跡〈Ⅱ区〉出土遺物
- P L 64 第1・2号住居跡〈Ⅱ区〉出土遺物
- P L 65 第2・3・4・5号住居跡〈Ⅱ区〉出土遺物
- P L 66 第6・7号住居跡〈Ⅱ区〉出土遺物
- P L 67 第9・10・11号住居跡〈Ⅱ区〉出土遺物，第3号掘立柱建物跡出土遺物
- P L 68 第1号溝〈Ⅱ区〉出土遺物，第1号基壇，第1・2号堀出土遺物
- P L 69 第2・3・4号堀出土遺物
- P L 70 第4・5・25・26号堀出土遺物，第15号溝出土遺物
- P L 71 第8号住居跡出土遺物，第1・4・6・7・9・10号地下式壙出土遺物
- P L 72 第10・11・16・20・21号地下式壙出土遺物，第2・5号方形竪穴状遺構出土遺物
- P L 73 第1・2号積石状塚出土遺物，第2・3号墓壙群出土遺物，第9号小竪穴状遺構出土遺物
- P L 74 第36・49・52号小竪穴状遺構出土遺物，第5・6号井戸出土遺物
- P L 75 第6号井戸出土遺物
- P L 76 第8号井戸出土遺物，第159・217・282・432・480・508・578号土坑出土遺物
- P L 77 第828号土坑出土遺物，遺構外出土遺物(1)
- P L 78 遺構外出土遺物(2)
- P L 79 遺構外出土遺物(3)
- P L 80 遺構外出土遺物(4)
- P L 81 白石遺跡1次・炭化材の顕微鏡写真
- P L 82 白石遺跡2次・炭化材の顕微鏡写真

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経過

(仮称)水戸浄水場は、那珂川左岸の那珂台地上に平成5年の完成を目指し、建設が進められている総面積222,000㎡の近代的な大型浄水場である。昭和59年に、茨城県企業局は安定した水源としての那珂川の水を県中央部の水戸・勝田・那珂湊市など3市8町2村に対し、水質的に安全な生活用水を供給するという目的で、浄水場の建設を計画した。

工事に先立ち、昭和63年12月8日、県企業局は茨城県教育委員会に建設予定地内における埋蔵文化財の有無について照会した。県教育委員会は、直ちに建設予定地の水戸市・那珂町教育委員会と埋蔵文化財の有無及びその取り扱いについて協議した。その結果、水戸市側に白石遺跡が所在するとの確証を得、県教育委員会は、県企業局に白石遺跡が所在する旨の回答をした。平成元年4月18日より、県教育委員会は県企業局の依頼を受け、白石遺跡の確認調査を実施し、遺跡の範囲を確認した。平成元年6月9日、県教育委員会と県企業局は文化財保護の立場から、白石遺跡の取り扱いについて協議を重ねたが、現状保存が困難なため、記録保存の措置を講ずることとなった。そして、県教育委員会は、調査機関として茨城県教育財団を紹介した。茨城県教育財団は、県企業局と埋蔵文化財発掘調査に関する業務委託契約を結び、平成2年4月1日から、白石遺跡の発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

白石遺跡の発掘調査は、平成2年4月1日から平成3年9月30日までの1年6ヶ月にわたって実施した。以下、調査経過について、その概要を月ごとに記述する。

平成2年度

- 4 月 6日から調査のための諸準備を行った。26日、調査の安全を祈って、鍬入れ式を挙行し、遺跡内の伐開作業を開始した。
- 5 月 伐開作業を完了後、グリッドとトレンチを併用して試掘を開始した。遺構は、溝や土坑等を確認し、土師器や陶磁器片等の遺物が中心に出土した。その他、表面観察で確認できた土塁を伴う「ㄣ」状の落ち込みは、トレンチ試掘によって、幅6m、深さ4m程の箱堀(第1号堀)であることを確認した。
- 6 月 調査の結果、中世館跡と縄文、古墳、奈良・平安時代の集落跡の複合遺跡であることを確認し、重機による表土除去の準備をすすめた。それと同時に、表面観察できた積

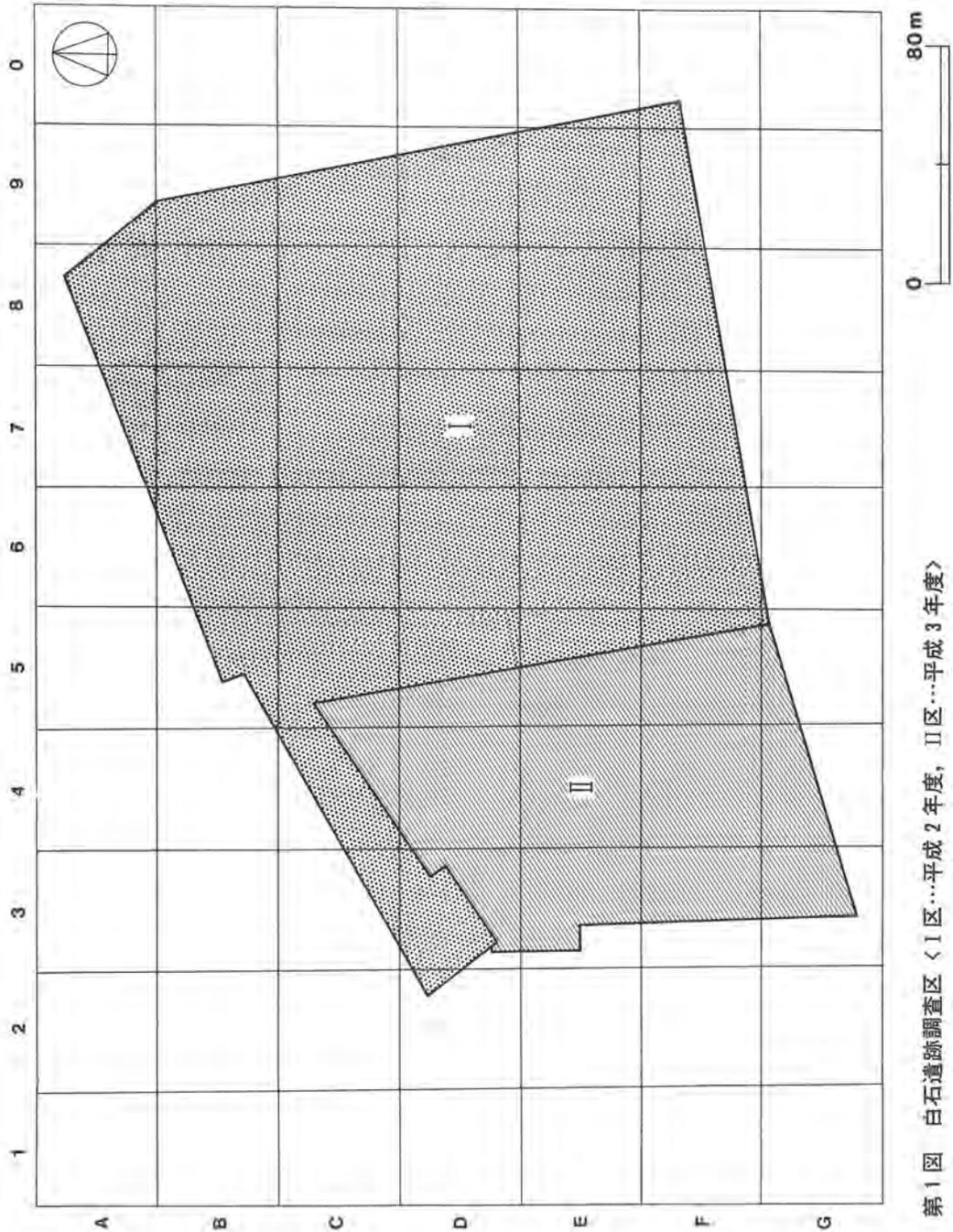
石状の塚（TM-1）の調査を開始した。20日からは、調査区北端部から重機による表土除去とそれに並行して、遺構確認作業を開始した。

- 7 月 遺構確認作業により、住居跡、土坑、堀、井戸等を確認した。特に、第1号堀は一辺165mで「□」状に廻ることから方形館跡であることを確認した。また、内郭部は堀や土坑が複雑で、遺構確認に困難を極めた。31日、住居跡の調査を開始した。
- 8 月 1日、茨城県建設技術公社によって、基準杭打ちを始めた。第1号堀は、覆土が多量で人力で掘ることは困難であると判断し、人力と重機を併用することにした。第1号堀の西部が調査区外であったので、県企業局、文化課、教育財団の三者協議の結果、拡張して調査をすることとなった。
- 9 月 引き続き、第1・3・9号住居跡、第1号堀の調査を進め、4日からは、土坑調査も開始した。第1号堀の土層断面図は、作成に当たって危険が伴うので写実実測を行った。第9号住居跡からは、盆や櫛等の木製品が出土した。17日からは、第1号堀の西部（拡張部）の重機による表土除去を開始した。
- 10 月 堀内からは、内耳鍋片や陶磁器片が出土し、館の構築年代を知る上で貴重な資料となった。住居跡の調査がほぼ完了し、第128～160号土坑、第3・4・10・11・15号堀・溝を中心に調査を進めた。
- 11 月 引き続き、第161～254号土坑、第1号掘立柱建物跡、第2・5・7・13・17号堀・溝の調査を実施した。
- 12 月 第1・2・3号掘立柱建物跡の調査を27日まで実施し、翌28日から1月7日まで年末年始の休業日とした。
- 1 月 9日、第1・2・3号堀の平面図を写実実測で作成した。
- 2 月 郭内の土坑及び小竪穴状遺構、地下式墳の調査を進めた。
- 3 月 2日、現地説明会を開催し、遺構・遺物を一般公開した。4日からは、補足調査を開始した。26日から安全対策として、堀や深い土坑を重機で埋め戻し、31日には、平成2年度分の調査を完了した。

平成3年度

- 4 月 5日、調査の準備を進め、12日からグリッドによる試掘を開始した。
- 5 月 調査区内は、攪乱を受けていたが試掘の結果、住居跡等を確認することができた。
- 6 月 5日から重機による表土除去を開始し、並行して遺構確認作業を行った。住居跡や掘立柱建物跡等の遺構を確認した。
- 7 月 第2・5～9号住居跡〈Ⅱ区〉、第87号土坑〈Ⅱ区〉調査を開始し、土師器の甕、坏や須恵器の坏、蓋等が出土した。

- 8 月 第3・4・10・11号住居跡〈Ⅱ区〉調査と共に、第1・2号溝〈Ⅱ区〉の調査を実施した。
- 9 月 補足調査を実施した。24日、調査機材等の搬出と事務所の撤去を行い、30日には、白石遺跡の全ての調査を完了した。



第1図 白石遺跡調査区〈Ⅰ区…平成2年度, Ⅱ区…平成3年度〉

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

白石遺跡は、茨城県水戸市田谷町1,707番地ほかに所在する。

当遺跡の所在する水戸市は、県のほぼ中央部に位置し、市域は東西24.51km、南北21.07kmで総面積175.90km²である。東は東茨城郡大洗町、西は笠間市、南は東茨城郡内原町・同郡茨城町、北は勝田市、那珂郡那珂町と接している。水戸市の人口は、246,921人(平成4年3月3日現在)である。当市は、江戸時代水戸徳川家の城下町として栄え、明治時代以後は県庁所在地として、本県の政治、経済、文化の中心地として発展している。当市は交通の要衝で、常磐自動車道や国道6号が南西から北東に走っている。また、JR東日本常磐線の「水戸駅」は水戸線、水郡線の起点ともなっており、駅周辺は、県内一の商業都市で市街地が広がっている。一方、市街地近郊の台地は畑作農業も盛んに行われ、那珂川流域の低地は水田地帯となっている。

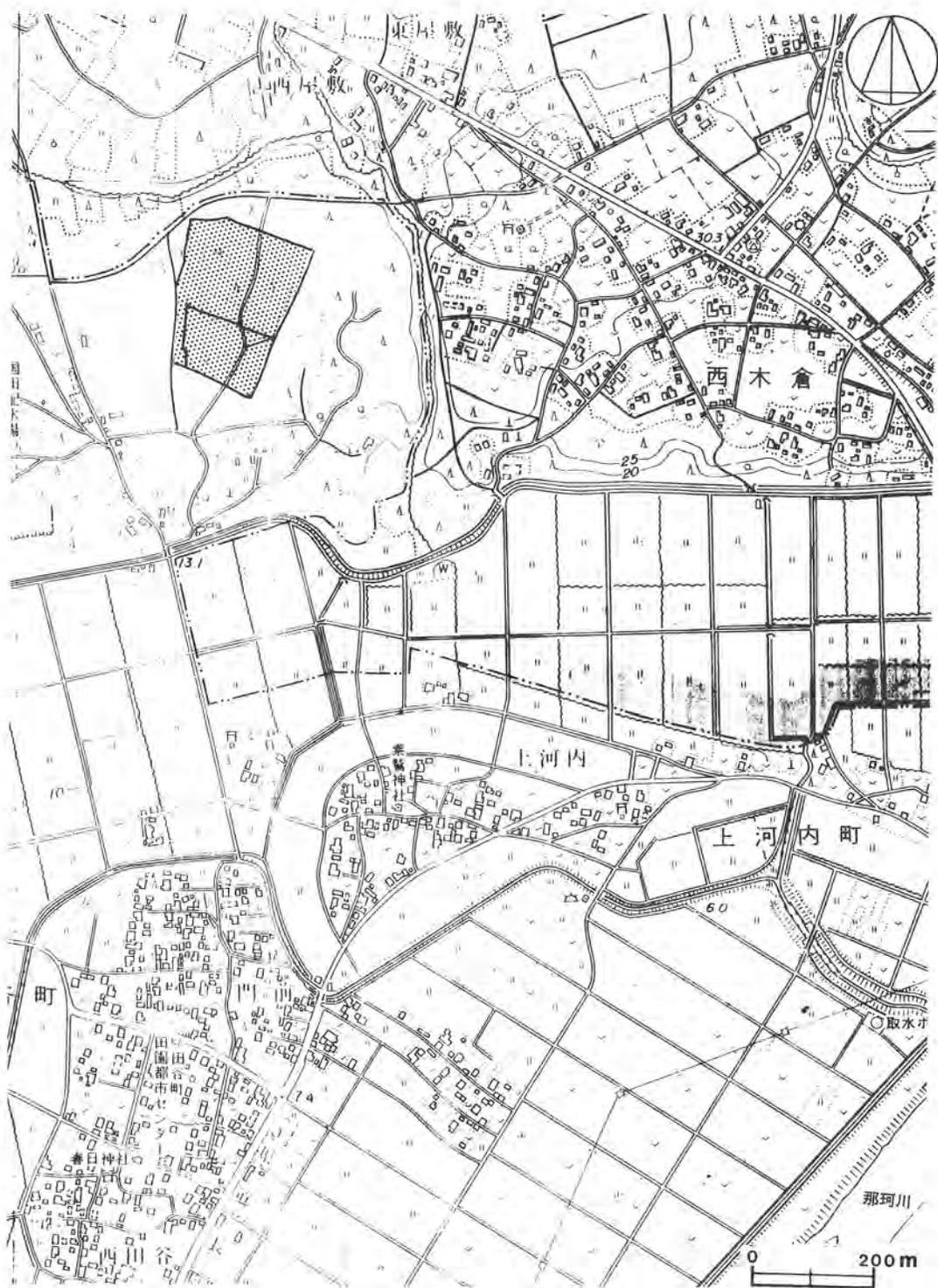
水戸市の地形は、北西から南東に流れる那珂川とその支流である桜川や澗沼川によって形成された沖積低地(標高10m以下)と南西側の東茨城台地(洪積層台地、標高20~30m)、北西側は鶏足山塊からの丘陵地(標高60~200m)、北東側の一部は那珂川左岸の那珂台地からなっている。

地質は、台地上では鶏足層を基盤とし、泥岩によって形成されている第三紀層の水戸層がその上に堆積しており、さらにその上に粘土・砂によって形成されている第四紀層の見和層、礫からなる上市層、灰白色粘土の常総粘土層、そして、関東ローム層の順で水平に堆積している。また、低地では沖積谷を河川堆積物である砂礫が埋め、場所によっては有機質の黒色泥や草炭類似のもの堆積が見られる。

当遺跡は、水戸市街地の北西約2.5kmにあり、那珂川左岸の那珂台地南西端に所在しており、遺跡の北東側と南東側には那珂川の支流である砂川が流れており、自然の要害をなしている。また、遺跡及び北西側の台地は畑地や山林となっている。南西側は、那珂川流域の沖積低地が広がり、稲作が盛んで水戸市の穀倉地帯になっており、台地と水田の比高は、約10mである。

参考文献

- 水戸市史編纂委員会 『水戸市史 上巻』 1963年
那珂町史編纂委員会 『那珂町史 自然環境・原始古代編』 1988年
蜂須紀夫 『茨城県 地学のガイド』 1986年



第2図 遺跡周辺地形図

第2節 歴史的環境

水戸市には、原始・古代からの多くの遺跡が確認されている。奈良時代に書かれた「常陸国風土記」には、大串貝塚のことが「平津ノ駅家ノ西一二里ニ岡アリ。名ヲ大櫛トイフ。上古二人アリ。体極メテ長大キニ身ハ丘壟ノ上ニ居リテ、蟹ヲ採リテ食イキ。積聚リテ岡ト成リキ。…」とあり、古代において貝塚の存在を知っていたようである。また、河内駅家のことが「郡ヨリ東北、粟河ヲ挾ミテ駅家ヲ置ク。其ノ南ニ当リテ泉、坂ノ中ニ出ヅ。…」と記載されている。中世には、群雄割拠の中、常陸大掾氏、江戸氏、佐竹氏と領主が目まぐるしく変わって行った。江戸時代には、水戸は徳川35万石のお膝元でもあり、当時の建築物も数多く残されている。以下、「茨城県遺跡地図⁽¹⁾」の中で報告されている水戸市・那珂町を中心に主な遺跡を時代別に概述する。

先土器時代の遺跡については、水戸市⁽²⁾ 十万原遺跡 [39] がある。昭和38年に十万原二の沢の台地上から刃器形石器が表面採集され、水戸市においても、先土器時代の人々が生活していたことが分かった。その他、那珂町⁽³⁾ 額田大宮遺跡の発掘調査では、細石刃文化を知るうえで貴重な資料を得ている。

縄文時代になると、数多くの遺跡や遺物が確認されている。特に、水戸市十万原遺跡は、早期から前期の遺跡として、また、大串貝塚は前期の貝塚として県内では著名である。また、アラヤ遺跡⁽⁴⁾ [2] では、大洞BC式土器が出土しており、那珂川流域における縄文文化の終焉と弥生文化の成立を考える上で、重要な遺跡となっている。その他、水戸市では当財団によって調査され、加曾利E式土器を多量に出土した⁽⁵⁾ 砂川遺跡 [19] をはじめ、早期から中期の土器を出土した⁽⁶⁾ 馬場尻遺跡 [51] や⁽⁷⁾ 安土星遺跡 [7]、⁽⁸⁾ 塙遺跡 [8]、⁽⁹⁾ 権現山遺跡 [14]、⁽¹⁰⁾ 小原内遺跡 [17] などがある。那珂町では、⁽¹¹⁾ 東木倉遺跡 [58]、⁽¹²⁾ 西木倉遺跡 [59]、⁽¹³⁾ 木倉遺跡 [63] などがあり、いずれも加曾利E式土器が出土している。

弥生時代の遺跡としては、中期の足洗式土器が出土した那珂町東木倉遺跡や水戸市元吉田分譲地遺跡⁽¹⁴⁾ [24] がある。足洗式土器を伴う住居跡が3例しか確認されていない現在、これらの遺跡は貴重な遺跡となると言えよう。後期は、東中根式土器の散布が見られる水戸市⁽¹⁵⁾ 平塚遺跡 [15] をはじめ、十王台式土器を出土する水戸市十万原遺跡、⁽¹⁶⁾ 阿川遺跡 [13]、⁽¹⁷⁾ 仲根遺跡 [6]、⁽¹⁸⁾ 堀遺跡 [21]、⁽¹⁸⁾ 那珂町東木倉遺跡などがあり、いずれも那珂川河岸台地上に所在している。

古墳時代の遺跡としては、五領式土器が散布する水戸市⁽¹⁹⁾ 坏渡里遺跡 [20]、⁽²⁰⁾ ニガサワ遺跡 [38]、⁽²¹⁾ 宮塚遺跡 [42]、⁽²²⁾ 後山田遺跡 [44]、⁽²²⁾ 那珂町西木倉遺跡がある。その他、和泉式土器や鬼高式土器を出土する遺跡として、水戸市中河内遺跡 [22]、⁽²⁴⁾ 坪内遺跡 [18]、⁽²⁵⁾ 那珂町戸立石遺跡 [57] などがある。古墳では、国指定文化財である⁽²⁶⁾ 愛宕山古墳 [25] がある。同古墳は、全長148m、前方部巾90m、高さ8m、後円部径84m、高さ10mの前方後円墳であり、茨城県においては石岡市

の舟塚山古墳、常陸太田市の梵天山古墳に次ぐ大形古墳である。6世紀に築造されたもので、那珂国造初祖建借間命の推定墓である。6世紀後半になると各地に有力豪族が生まれ、それらも古墳を造るようになり群集墳が成立する。水戸市においても、安土星古墳群⁽²⁷⁾ [27]、十万原古墳群⁽²⁸⁾ [39]、権現山古墳群⁽²⁹⁾ [31]、富士山古墳群⁽³⁰⁾ [16]、那珂町戸古墳群⁽³¹⁾ [64]、西木倉古墳群⁽³²⁾ [61]等が造られた。特に、富士山古墳群の中の前方後円墳が昭和36年に発掘され、調査の結果、墳丘に一列の円筒埴輪を確認した。また、家形・武人・馬形などの埴輪も出土している。

奈良・平安時代の遺跡としては、水戸市砂川遺跡、推農遺跡⁽³³⁾ [45]、那珂町東木倉遺跡、福ヶ平遺跡⁽³⁴⁾ [66]のように庶民の集落以外に、公的建物跡も確認されている。例えば、長者山政庁跡⁽³⁵⁾ [34]、台渡里廃寺跡⁽³⁶⁾ [34]、田谷廃寺跡⁽³⁷⁾ [35]が挙げられる。前二者は、同じ台地上に位置し、成立時期もほぼ同じである。発掘調査によって、台渡里廃寺からは9棟の建物跡が確認され、素縁八葉花文中心同環二重式軒丸瓦や鋸齒文縁八葉花文式軒丸瓦、礎石等が出土している。また、長者山政庁跡でも、2棟の建物跡や台渡里廃寺と同じ瓦、調・庸に関係すると思われる「某郷某里戸主某」の文字瓦が出土していることなどから那珂郡衙の推定地になっている。田谷廃寺は、那珂川左岸の台地上にあり発掘調査により土壇や台渡里廃寺と同じ軒丸瓦が出土している。河内駅家や台渡里廃寺との関係等多くの問題点もある。古墳においては、大化薄葬令以後横穴墓が増加していった。水戸市では、権現山横穴群⁽³⁸⁾ [32]が江戸時代の書物である「新編常陸国誌」⁽³⁹⁾において紹介されている。同横穴群は、昭和37年学術調査がなされ、土師器、須恵器はもとより、切子玉や金環等多くの副葬品が出土している。

当遺跡に関係する城館跡については、少し詳しく記述してみる。平安時代中頃より、中央の中・下級貴族は、受領として地方に任じ土着し、介や大掾という官職を得ている。10世紀になり、平将門の乱を鎮めた平貞盛の甥維幹が常陸大掾になり、筑波郡を中心に勢力を持ち、大掾氏と称し常陸平氏の中心となった。それに対し、前九年・後三年の役で軍功を得た源義家の弟新羅三郎義光は常陸介に任じられた。その孫昌義は、佐竹氏を称し常陸源氏の中心となった。中世以降になると、この地域も戦乱が続き、多くの城館跡が築かれ領地等複雑な様相を呈した。12世紀には、那珂通泰が那珂西城⁽⁴⁰⁾ [67]を、弟の能通が戸村城⁽⁴¹⁾ [62]を築き、佐竹氏の那珂川中流域の拠点となった。大掾氏は、八支族（吉田・行方・鹿島・真壁・東条・下妻・小栗）の1つ吉田摂津太郎清幹に水戸の吉田に館⁽⁴²⁾を築かせた。さらに、13世紀に入って清幹の孫馬場資幹は水戸城を築き常陸大掾の北方拠点とした。また、14世紀には常陸大掾氏の家臣鍛冶弾正貞国は河和田城⁽⁴³⁾を築いている。佐竹氏は一族の白石七郎祐義に白石台城⁽⁴⁴⁾を築かせている。このように、那珂川を挟んで佐竹氏と大掾氏は領地拡張を図り、鏖戦を繰り返していた。15世紀初頭、ついに佐竹家臣江戸通房が大掾氏を一掃し、河和田城、水戸城を手に入れた。さらに、中頃には江戸家臣春秋駿河守に長者山城⁽⁴⁵⁾ [36]を、神生遠江守に神生館⁽⁴⁶⁾ [37]を築かせ、那珂川流域の守りを固めた。天正

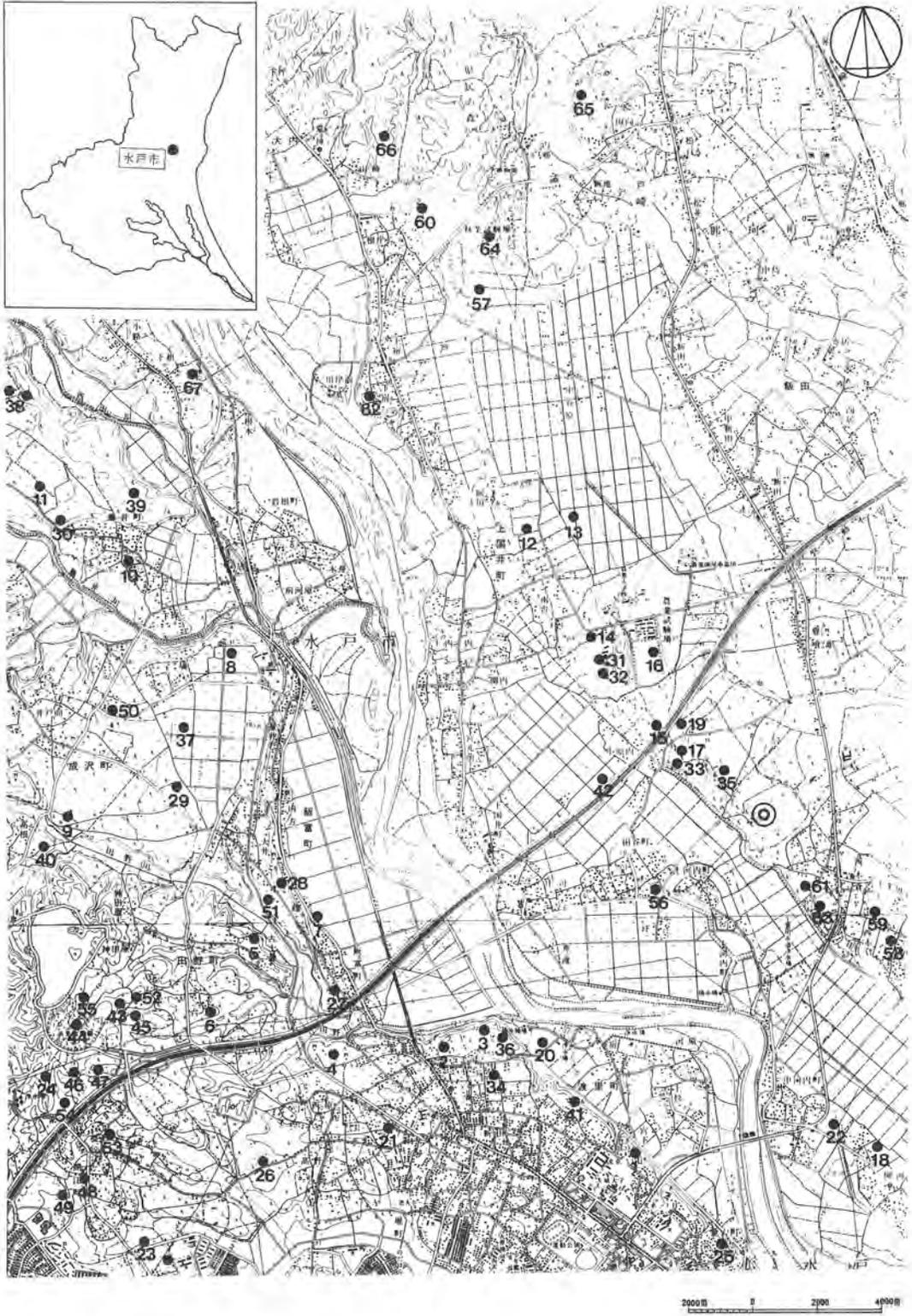
18年（1590年）、佐竹義宣は水戸城から江戸重通を追った。さらに、天正19年には鹿島・畑田など大掾氏一族を誘殺して常陸国を統一し、水戸城に入城した。以後、慶長7年（1602年）出羽国に国替になるまでの約10年間常陸国54万5800石を経営した。ついで、徳川頼房が入封し、御三家の一つ水戸徳川家の基礎を作り、明治に至るまで10代250年間水戸の地を治めた。

以上のように、先土器時代から江戸時代の生活の跡を伺い知ることができる。

※ 文中の [] の番号は、表1、第3図中の該当番号と同じである。

注・参考文献

- 1 茨城県教育委員会 『茨城県遺跡地図』 1990年
- (2)(35)～(38)(42)～(46) 水戸市史編纂委員会 『水戸市史』 1963年
- (4) 水戸市教育委員会 『水戸市埋蔵文化財分布調査報告』 1984年
- (5) 茨城県教育財団 『宮部遺跡・鹿の子遺跡・砂川遺跡』 茨城県教育財団文化財調査報告第16集 1982年
- (6) 茨城高等学校史学部 『馬場尻遺跡』 1979年
茨城高等学校史学部 『馬場尻遺跡 A 地点発掘調査概報』 1982年
- (7)～(10)(13) 茨城県 『茨城県史料 考古資料編－先土器・縄文時代』 1979年
- (3)(11)(12)(34) 那珂町史編纂委員会 『那珂町史 自然環境・原始古代』 1988年
- (14)～(18) 茨城県 『茨城県史料 考古資料編－弥生時代』 1991年
- (19)～(33) 茨城県 『茨城県史料 考古資料編－古墳時代』 1974年
- (39) 「那珂郡下国井村ノ溜池ノ傍ナル山涯ニアリ、天明7年（1787年）春土人也ヲ浚ヘ垠ヲ修スル時ニ、岸ニ岩ヲ穿テケルニ、岩窟相並デアリ、各方6尺ばかり、入口ニハ柱敷居ノ如クニ彫テ、岩ヲ以テ戸トス、内ハ空虚ニテ、下ニハ小石ヲシキタリ、一方ヨリ行基焼（須恵器）ノ壺ヲ出セリ、其他物アルコトナシ云」（第8巻 卷81墳墓「国井荒墳」）
とかなり詳しい説明がなされている。
- (40)(41) 新人物往来社 『日本城郭大系 4』 1979年



第3図 白石遺跡周辺遺跡位置図

表1 白石遺跡周辺遺跡一覧表

図中 番号	遺 跡 名	遺 跡 の 時 代						図中 番号	遺 跡 名	遺 跡 の 時 代						
		先	縄	弥	古	奈	鎌			江	先	縄	弥	古	奈	鎌
1	袴塚遺跡	○	○					35	田谷廃寺跡					○		
2	アラヤ遺跡	○	○					36	長者山城跡					○	○	
3	長者山遺跡	○			○			37	神生館跡						○	
4	西原遺跡 西原古墳群	○					○	38	ニガサワ遺跡 ニガサワ古墳群		○	○	○			
5	古士巻遺跡	○						39	十万原遺跡 十万原古墳群	○	○	○	○			
6	仲根遺跡	○	○	○				40	高根遺跡					○	○	
7	安土星遺跡	○	○					41	渡里町遺跡	○	○					
8	埴遺跡	○		○				42	宮塚遺跡	○	○	○				
9	下宿遺跡	○						43	三ッ児塚古墳群				○			
10	藤井町遺跡	○						44	後山田遺跡	○		○				
11	清水台遺跡	○		○				45	推農遺跡	○				○		
12	南台遺跡	○	○	○				46	山田遺跡	○	○	○	○			
13	阿川遺跡	○	○	○				47	前山田遺跡	○		○				
14	権現山遺跡	○	○					48	金剛寺遺跡	○		○				
15	平塚遺跡	○	○					49	寺山遺跡	○		○				
16	富士山遺跡 富士山古墳群	○	○	○				50	成沢大塚遺跡	○		○				
17	小原内遺跡	○	○	○				51	馬場尻遺跡	○	○	○				
18	坪内遺跡			○	○	○		52	山田古墳群				○			
19	砂川遺跡	○				○		53	開江宿遺跡				○			
20	坏渡里遺跡				○			54	大久保遺跡				○			
21	堀遺跡				○			55	山田窯跡群				○			
22	中河内遺跡				○			56	田谷城跡						○	
23	下荒匂遺跡 下荒匂古墳群				○			57	戸立石遺跡			○	○			
24	元吉田分譲地遺跡				○	○		58	東木倉遺跡	○	○			○		
25	愛宕山古墳(群)				○			59	西木倉遺跡	○		○				
26	堀町西遺跡				○			60	立石古墳群				○			
27	安土星古墳群				○			61	西木倉古墳群				○			
28	大井下古墳群				○			62	戸村城跡						○	
29	塚山添古墳群				○			63	木倉遺跡	○		○	○			
30	清水台古墳群				○			64	戸古墳群				○			
31	権現山古墳群				○			65	戸崎鹿島神社周辺遺跡	○	○	○				
32	権現山横穴群				○			66	福ヶ平遺跡	○	○	○				
33	小原内古墳群				○			67	那珂西城跡						○	
34	台渡里廃寺跡 長者山政庁跡					○		◎	白石遺跡	○	○		○	○	○	

第3章 調査方法

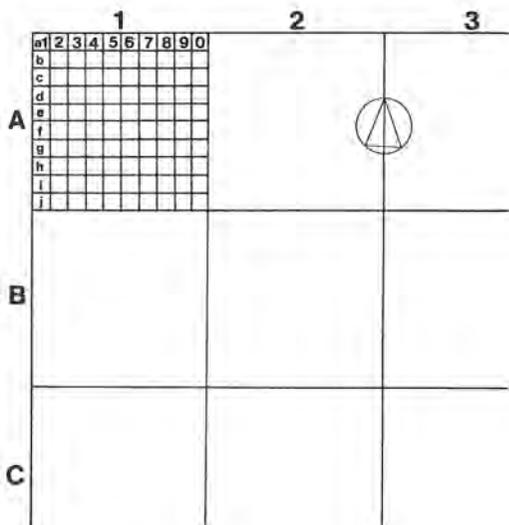
第1節 地区設定

白石遺跡の発掘調査を実施するに当たり、遺跡及び遺構の位置を明確にするために調査区を設定した。

当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標を用いて区画し、X軸（南北）+47,440m、Y軸（東西）+56,360mの交点を基準点として、東西・南北各々40mずつ平行移動して大調査区を設定した。更に、大調査区を東西・南北に各々10等分して、4m方眼の小調査区を設定した。

大調査区は、北から南へ「A」・「B」・「C」…、西から東へ「1」・「2」・「3」…とし、

「A1」区・「B2」区と表記した。小調査区も同様に北から南へ「a」・「b」・「c」…「j」、西から東へ「1」・「2」・「3」…「9」と小文字を付し、位置を表示する場合は大調査区と合わせて、「A1b₁」区・「A2b₂」区のように表記した（第4図）。



第4図 調査区呼称方法概念図

第2節 基本層序

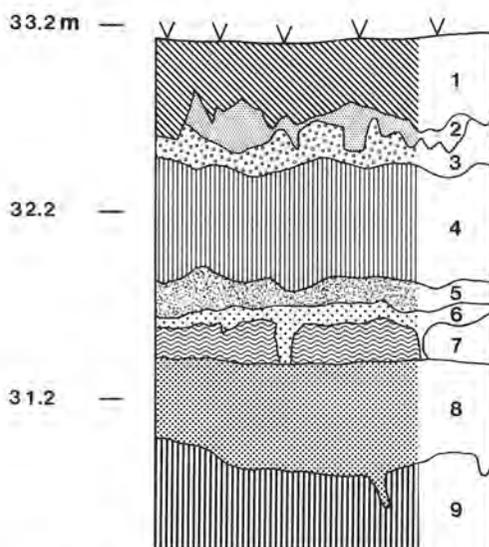
調査区西端中央部にテストピットを掘り、基本土層の観察を行った（第5図）。

第1層は、40～50cmの厚さの耕作土である。

第2層は、3～30cmの厚さのソフトロームへの漸移層である。耕作による攪乱が入っており、部分的に確認できる。

第3層は、10～20cmの厚さのソフトローム層である。

第4層は、50～70cmの厚さのハードローム



第5図 基本土層図

層である。

第5層は、8～25cmの厚さでかなり締まりのあるハードローム層である。

第6層は、5～30cmの厚さで鹿沼パミス層への漸移層である。第5層と鹿沼パミスの混合層である。

第7層は、20cm前後の厚さの鹿沼パミス層で、ブロック状に層を形成している。

第8層は、40～80cmの厚さで締まりと粘性のあるハードローム層である。明褐色を呈している。

第9層は、層の中で一番硬質で明褐色を呈している。

住居跡等の遺構は、表土下50cm程の第3層上面で確認された。また、堀の底面は深いところで第9層まで達している。

第3節 遺構確認

白石遺跡の現況は、南部が畑地で北部が山林であった。北部では、一辺160m程の平面L字状を呈する落ち込みを確認した。その部分は古老によると「馬場」という言い伝えがあるとのこと、城館跡の何らかの遺構であると考え、数ヶ所に2m巾のトレンチを入れ、堀であることを確認した。また、南部ではゴボウ耕作等の攪乱により、土師器片や須恵器片の散布が見られた。遺跡北側に隣接している田谷廃寺跡との関連遺構や同時期の集落跡の存在を考え、グリッド法による遺構確認調査を実施した。その結果、調査エリア全域に遺構が存在することがわかった。そこで、重機による表土除去を行い遺構確認作業を実施した。遺構確認作業は、トレンチャーや木の根等の攪乱により困難を極めたが、住居跡23軒、土坑299基、掘立柱建物跡14棟、堀10条等を確認した。

第4節 遺構調査

遺構の調査は、次のような方法で実施した。

竪穴住居跡の調査は、長軸方向とそれに直行する方向に十字の土層観察用ベルトを設け、「四分割法」で実施した。地区の名称は、北から時計回りに1～4区とした。また、重複が認められる場合には、切り合いが把握できるような位置を考慮してベルトを設定した。土坑・井戸の調査は、長軸を基準に「二分割法」で実施した。堀・溝の調査は、適宜な位置に土層観察用ベルトを設定して実施した。

土層の観察については、色調、含有物、混入物の種類や量、粘性、締まり具合を観察し、分類の基準とした。

遺物の取り上げについては、住居跡、土坑、堀等の各区名と遺物番号、出土位置、レベル等を記録して収納した。

遺構や遺物の平面実測は、水糸方眼地張り測量で行った。土層断面図や遺構断面図の実測は、標高をもとに実測基準線を設定して行った。縮尺は、20分の1を基本としたが、堀等は200分の1で作成した。また、第1・2・3号堀については、写真測量で実施した。

調査の記録方法は、土層断面写真撮影→土層断面図作成→遺物出土状況写真撮影→遺物出土状況図作成→遺構平面写真撮影→遺構断面図作成→遺構平面図作成の順で行うことを基本とした。図面や写真に記録できなかったことや考察等については、そのつど野帳に記録し、これを調査記録カードや遺構カードにまとめた。

第4章 遺構と遺物

第1節 遺跡の概要と遺構・遺物の記載方法

1 遺跡の概要

白石遺跡は、水戸市の北西部、那珂台地南西端の標高33m前後の台地上に所在している。調査区は、東西約1,700m、南北約2,700m、面積45,055㎡であり、現況は畑地と山林である。

当遺跡は、江戸時代の『水府志料』に「土人白石の城と云伝ふ、馬場のあと今に存す。…」と記述されており、当遺跡の字名が白石であること等から、水戸市史では白石台城の推定地としている。また、調査区の西側約500m地点には田谷廃寺跡があり、寺院に関連する遺構・遺物も考えられていた。今回の調査によって、当遺跡は縄文時代、古墳時代から平安時代の集落跡や中世の館跡等の複合遺跡であることが判明した。

調査によって検出された遺構は、中世館跡をはじめ、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、堀、溝、土坑等である。縄文時代の遺構は、住居跡3軒で、調査区の東部で確認された。古墳時代の遺構は、住居跡3軒で、調査区の南部で確認された。奈良・平安時代の遺構は、住居跡16軒、掘立柱建物跡6棟、基壇1か所、溝4条が確認された。特に、第1・2・3号掘立柱建物跡はほとんど規模、軸線とも同じで、整然と並んだ状態で確認された。中世の遺構は、館跡に関係するもので、何回かの堀の拡張によって三重の堀に囲まれる堅固なものとなっている。特に、内郭部は土坑や竪穴状遺構、掘立柱建物跡等が複雑に切り合っており、長期の存続をうかがい知ることができる。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に72箱程出土している。先土器時代の遺物は、尖頭器3点がローム面直上と遺構の覆土から出土したが、遺物集中地点は確認できなかった。縄文時代中期や古墳時代後期の土器も出土している。平安時代の遺物は、土師器の坏を中心に須恵器、木製品（櫛・盆・皿）が出土している。中世では、内耳鍋、青磁、刀装具、石塔、古銭等が出土している。特に、土壌内から出土した龍泉窯の双魚文坏は、逸品である。

2 遺構・遺物の記載方法

本書における遺構・遺物の記載方法は、下記の要領で統一した。

(1) 使用記号

名称	竪穴住居跡	土坑・地下式竈	井戸	掘立柱建物跡	塚	堀・溝	柵列	不明	ピット	土器	土製品	石器・石製品	金属製品	木製品
記号	SI	SK	SE	SB	TM	SD	SA	SX	P ₁	P	DP	Q	M	W

(2) 遺構・遺物の表示方法



(3) 遺構番号

遺構番号については、調査の過程において遺構の種別毎、調査順に付したが、整理の段階で遺構でないと判断したものは、欠番とした。整理の過程で新たに番号を付したものについては、旧番号を [] 内に表示した。また、便宜上、平成3年度分の遺構には〈Ⅱ区〉を付した。

例 第1号住居跡〈Ⅱ区〉

(4) 土層の分類

各遺構における堆積土の土層については、調査時に、色調、含有物、粘性、縮まり具合などを観点として線引きし観察記録を行った。色調については『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著・日本色研事業株式会社発行)を使用し、図版実測図中に土層解説を記載した。

なお、攪乱層については「K」と表記した。

(5) 遺構実測図の記載方法

- ① 住居跡は、縮尺20分の1の原図をトレースして版組みし、それをさらに3分の1や4分の1に縮小して掲載した。
- ② 土坑は、縮尺20分の1の原図をトレースして版組みし、それをさらに3分の1に縮小して掲載することを基本とした。
- ③ 竈、炉は、縮尺10分の1の原図をトレースして版組みし、それをさらに3分の1に縮小して掲載した。
- ④ 長大な堀・溝については、その規模に応じて縮尺200分の1の原図をトレースして版組みし、それをさらに2分の1に縮小して掲載することを基本とした。
- ⑤ 実測図中のレベルは標高であり、m単位で表示した。

また、同一図中で同一標高の場合に限り一つの記載で表し、標高が異なる場合は各々表示した。

⑥ 本文の住居跡の記載について

- 「位置」は、遺構が占める面積の割合が最も大きいグリッド名をもって表示した。
- 「重複関係」は、住居跡の切り合い関係を記した。
- 「平面形」は、壁の上端部で判断し、方形、長方形の場合は下記の分類基準を設け、そ

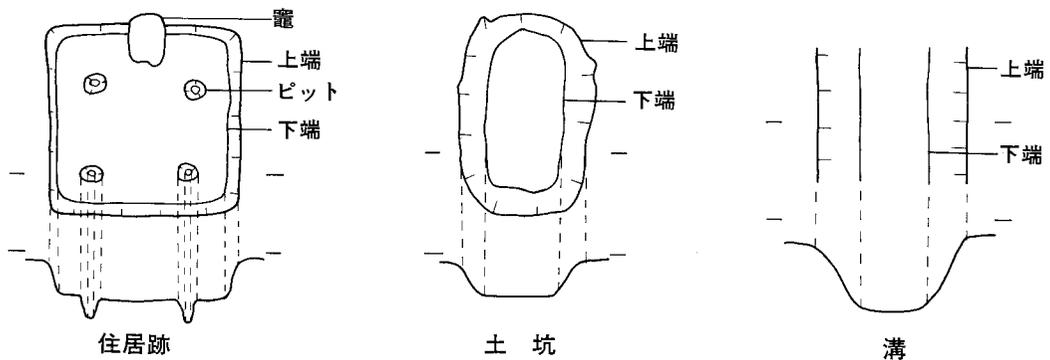
のいずれかを明記した。なお，[] を付したものは，推定を表す。

方形（短軸：長軸＝1：1.1未満のもの），長方形（短軸：長軸＝1：1.1以上のもの）

- 「規模」は，壁の上端部の計測値であり，長軸，短軸の順に m 単位で表記した。壁高は，残存壁高の計測値である。
- 「主（長）軸方向」は，炉，竈を通る線を長軸として，その長軸が座標北からみて，どの方向にどれだけ傾いているかを角度で表示した。
- 「壁」は，床面からの立ち上がり角度が $81^{\circ}\sim 90^{\circ}$ を垂直， $65^{\circ}\sim 80^{\circ}$ を外傾， 65° 未満を緩傾，さらに 90° 以上を内傾とした。
- 「壁溝」は，その形状や規模を記述した。
- 「床」は，傾斜（「平坦」，「緩い傾斜」）や床質等を記載した。
- 「ピット」は，その住居跡に伴うと考えられるピットを P で表示し， P_1 ， P_2 はピット番号を表し，さらに，ピットの直径と深さを記述した。
- 「貯蔵穴」は，その形状を記述し，数字は長径（軸），短径（軸）及び深さを示した。
- 「覆土」は，堆積の状態が自然堆積の場合は「自然」，人為堆積の場合は「人為」，攪乱を受けている場合は「攪乱」と記した。
- 「遺物」は，遺物の種類と量，さらに出土遺物や状態を記述した。

また，遺構の平面図中に(2)で示した記号を用い，出土位置をドットで表示し，接合できたものは実線で結んだ。出土遺物に付した数字は，遺物実測図及び拓影図の番号と符合する。

- 「所見」は，当該住居跡についての時期やその他特記すべき事項を記述した。

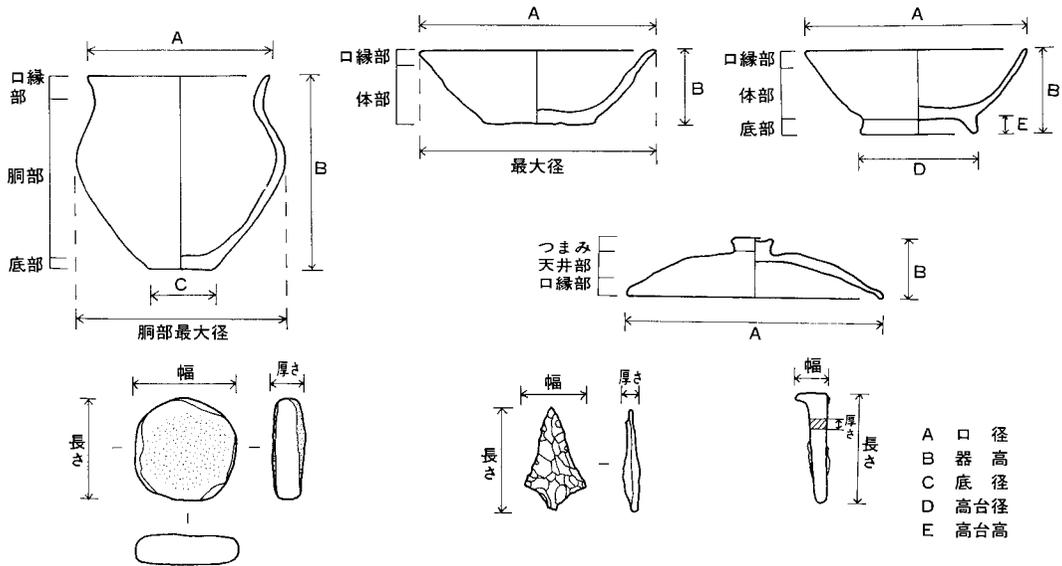


(6) 遺物実測図の記載方法

遺跡から出土した遺物については，実測図，拓影図，写真等により掲載した。

- ① 土器の実測は，原則として中心線の左側に外面，右側に内面と断面を図示した。
- ② 土器拓影図は，右側に断面を図示した。

- ③ 遺物は、原則として実測図をトレースしたものを3分の1に縮小して掲載した。しかし、種類や大きさにより異なる場合もある。



(7) 表の見方

① 住居跡一覧表

住居跡 番号	位置	主軸方向 (長軸)	平面形	規模		床面 柱穴数	炉・竈	覆土	出土遺物	備考
				長軸(m)×短軸(m)	壁高(cm)					

- 位置は、遺構が占める面積の割合が最も大きいグリッド名をもって表示した。
- 主軸方向は、座標北をN-0°とし、東(E)・西(W)に何度傾いているかを表示した。
(例 N-10°-E, N-10°-W) なお、[] を付したものは推定である。
- 平面形は、現存している形状の上端面で判断し、方形及び長方形の場合は下記の分類基準を設け、そのいずれかを明記した。
 方形(短軸:長軸=1:1.1未満) 長方形(短軸:長軸=1:1.1以上)
- 規模の欄の長軸・短軸は、上端の計測値であり、壁高は残存壁高の計測値である。
- 床面は、平坦、凹凸、皿状及び緩い起伏に分類して表記した。
- 柱穴数は、平面図中に表示されたピットの中からその住居跡に伴うと思われる柱穴の本数を記した。
- 炉、竈は、その種類を記した。
- 覆土は、自然堆積のものは「自然」、人為堆積のものは「人為」と表記し、不明のものは空欄とした。

- 出土遺物は、実測個体数を除いた遺物の種類と、出土土器片の数を記した。
- 備考は、重複関係（古→新）等について記した。

②土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模			壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
				長径(m)	短径(m)	深さ(cm)						

- 土坑番号は、発掘調査の過程で付した番号をそのまま使用した。また、整理の過程で土坑でないと判断したものは欠番とした。
- 平面形は、掘り込み上面の形状を記した。
円形（短径：長径＝1：1.1未満のもの） 楕円形（短径：長径＝1：1.1以上のもの）
- 規模の欄の長径及び短径は、上端部の計測値（m）で表した。また、地下式墳については、下端部の計測値（m）で表した。
- 壁面は、坑底からの立ち上がりの状態を簡潔に記した。
- その他の項目については、住居跡一覧表の記載方法に準じた。
- 一部の土坑と地下式墳は、土坑一覧表から除外し、文章で記述した。

③出土土器観察表

ア．縄文式土器

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考

イ．土師器・須恵器・土師質土器・陶磁器

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考

- 図版番号は、実測図中の番号である。写真図版の番号にも用いた。
- 法量は、A－口径 B－器高 C－底径 D－高台径 E－高台高，単位はcmである。
なお、現存値は（ ）で、推定値は[]を付して示した。
- 胎土・色調・焼成の欄は、上から胎土、色調及び焼成の順で記した。色調については、前節の土層の分類と同じ土色帖を使用した。焼成については、良好、普通及び不良に分類し焼き締まって硬いものは良好、焼成があまく手でこすると器面が剥落するものを不良とし、その中間のものを普通とした。
- 備考の欄は、土器の残存率、実測（P）番号、出土位置及びその他必要と思われる事項

を記した。

④土製品一覧表

図版 番号	器種	法 量				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		

- 図版番号は、実測図中の番号である。写真図版の番号にも用いた。
- 重量の欄で、() を付した数値は、一部を欠損しているものの現存値である。

⑤木器・木製品一覧表

図版 番号	器種	法 量				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		

⑥石器・石製品一覧表

図版 番号	器種	石質	法 量				出土地点	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		

⑦古銭一覧表

図版 番号	銭名	初 鑄 年		出土地点	備考
		時代	年号		

⑧金属製品一覧表

図版 番号	器種	法 量				特 徴	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			

第2節 縄文時代の遺構と遺物

1 竪穴住居跡

縄文時代の竪穴住居跡は、調査区南東部から3軒検出されている。以下、検出された住居跡の特徴や出土遺物について記載する。

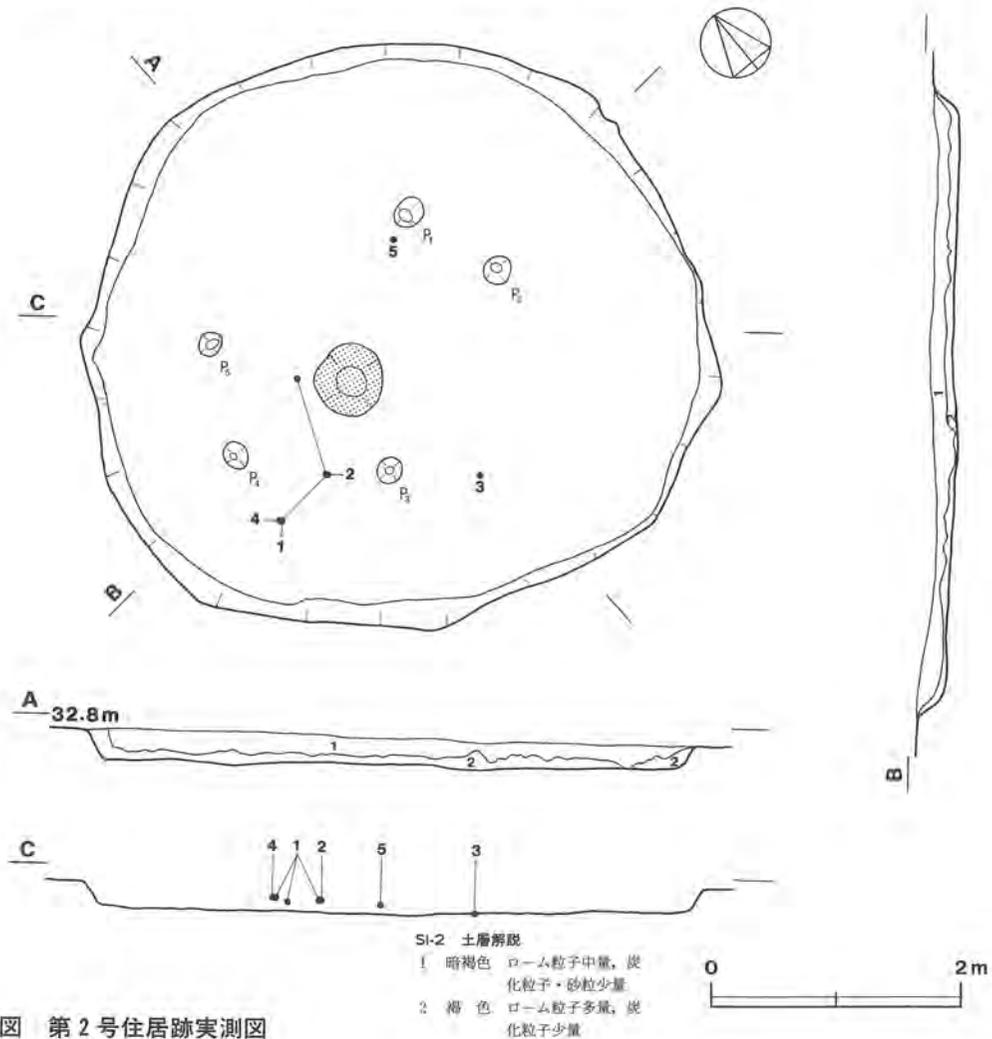
第2号住居跡（第6図）

位置 調査区の南東部、E9c₃区を中心に確認されている。本跡の南側2.4mの地点に同時代の第17号住居跡が確認されている。

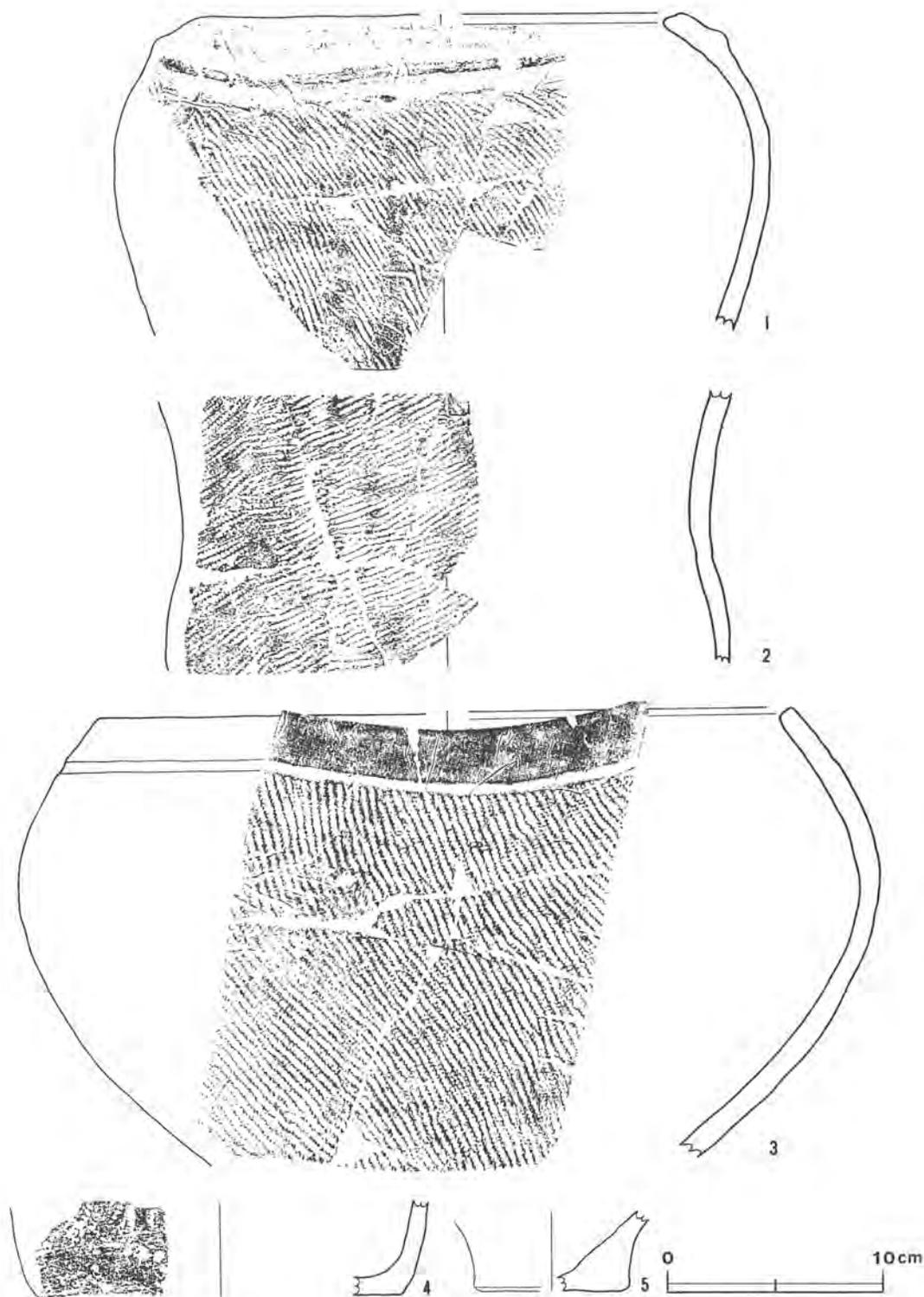
規模と平面形 径5m程ではほぼ円形を呈している。

方向 N-14°-W

壁 壁高は、20cm前後で、外傾して緩やかに立ち上がっている。



第6図 第2号住居跡実測図



第7图 第2号住居跡出土遺物実測・拓影図

床 ほぼ平坦で、全体的に軟らかい。

炉 中央からやや西側に検出されている。平面形は、長径63cm、短径56cmで楕円形を呈している。

覆土は、少量の焼土と炭化物を含んでいる。炉床は、赤変硬化している。

ピット 炉を囲むようにして、5か所 (P₁~P₅) 検出されている。P₁~P₅は径10~13cmの円形を呈し、深さ11~26cmで、支柱穴と考えられる。

覆土 自然堆積

遺物 壁際の覆土から縄文式土器片 (深鉢5, 細片71点) や礫が出土している。その他、流れ込みと思われる須恵器、陶磁器片が少量出土している。1の深鉢片は、南西壁寄りの床面直上から横位で潰れた状態で出土している。4の深鉢底部は、西壁際の覆土下層から出土している。

所見 本跡は、遺構の形態及び出土土器 (加曾利 E III 式土器) から縄文時代中期の住居跡と考えられる。

第2号住居跡出土土器観察表

図版番号	器種	法量 (cm)	器形の特徵及び文様	胎土・色調・調整	備考
第7図 1	深鉢形土器	A [22.0]	口縁部片。口縁部は胴部から内彎しながら立ち上がる。口縁部上位には両側にナデを加えた隆起線が施され、中・下位には縦位の単節 LR の回転縄文が施されている。	砂粒・長石 明赤褐色 普通	30% P 3 加曾利 E III。 南西壁寄り床面直上。
	縄文式土器	B (15.3)			
2	深鉢形土器	B (12.8)	頸部片。外面は横位の単節 RL の回転縄文が施されている。	長石 にぶい褐色 普通	20% P 18 加曾利 E III。 西部覆土。
	縄文式土器				
3	深鉢形土器	A [32.4]	口縁部片。口縁部下位は内彎しながら立ち上がり、上位でさらに内彎する。口縁部上位は棒状工具による沈線によって縄文帯と無文帯を区画し、下位は横位の単節 RL の回転縄文が施されている。	長石・石英・スコリア 浅黄色 普通	20% P 4 加曾利 E III。 南部床面直上。
	縄文式土器	B (20.9)			
4	深鉢形土器	B (4.4)	底部、胴部片。胴部は内彎ぎみに外傾する。胴部下位は縦位の隆起線が見られ、それを境に無文帯と縦位の単節 RL の回転縄文が施された施文帯とに区画されている。	長石 にぶい黄褐色 普通	5% P 7 加曾利 E III。 西壁際覆土。
	縄文式土器	C [16.8]			
5	深鉢形土器	B (3.7)	底部、胴部片。底部は突出ぎみの平底。胴部は強く外傾して立ち上がる。胴部下位は無文帯。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	5% P 8 加曾利 E III。 中央部覆土。
	縄文式土器	C [7.3]			

第8号住居跡 (第8図)

位置 調査区の南東部、E8j₃区を中心に確認されている。

規模と平面形 長径3.6m、短径3.2mで、楕円形を呈している。

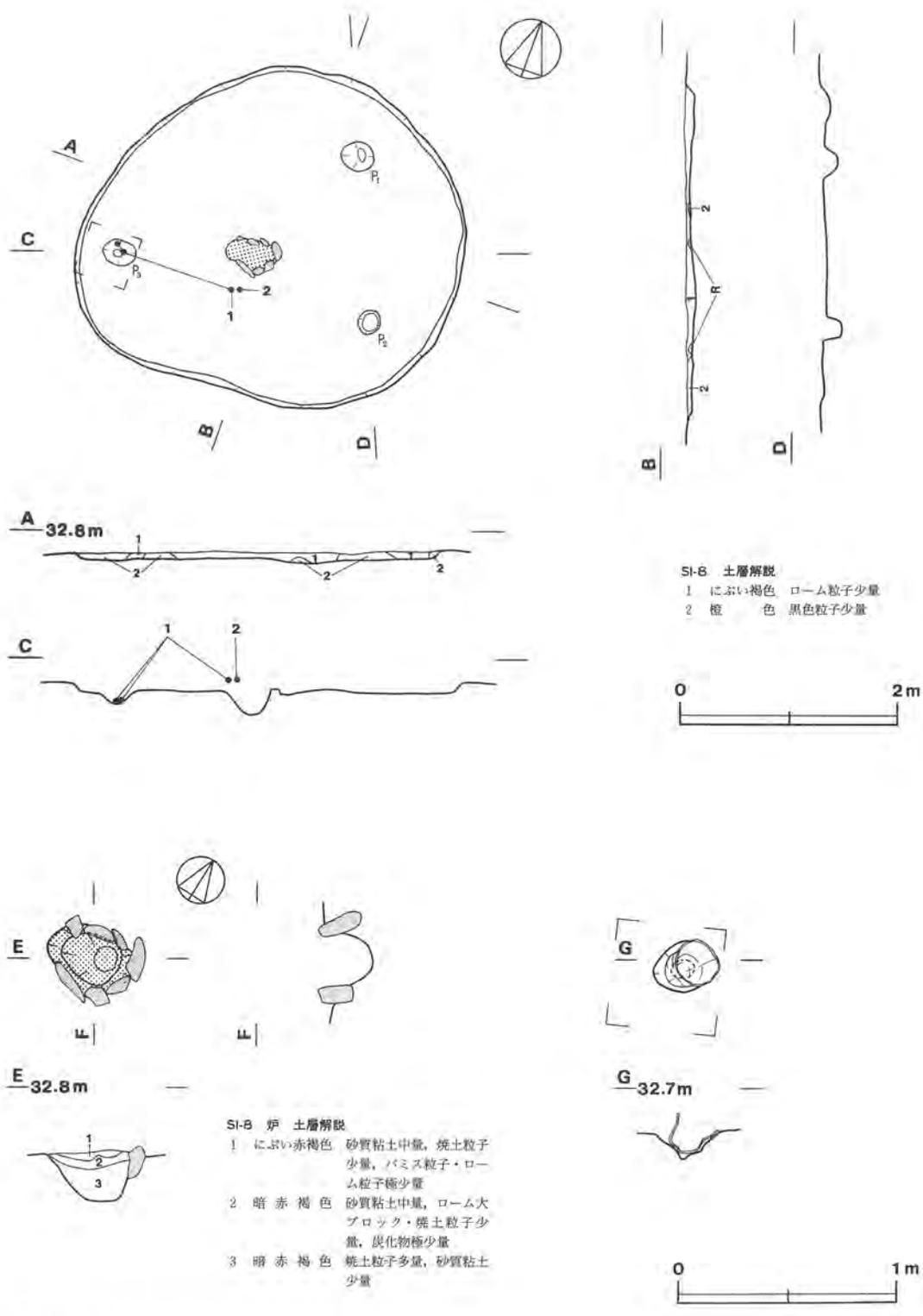
方向 N-49°-E

壁 壁高は、南東壁で2cm、他の壁で10cm前後と低いが、緩やかに傾斜して立ち上がっている。

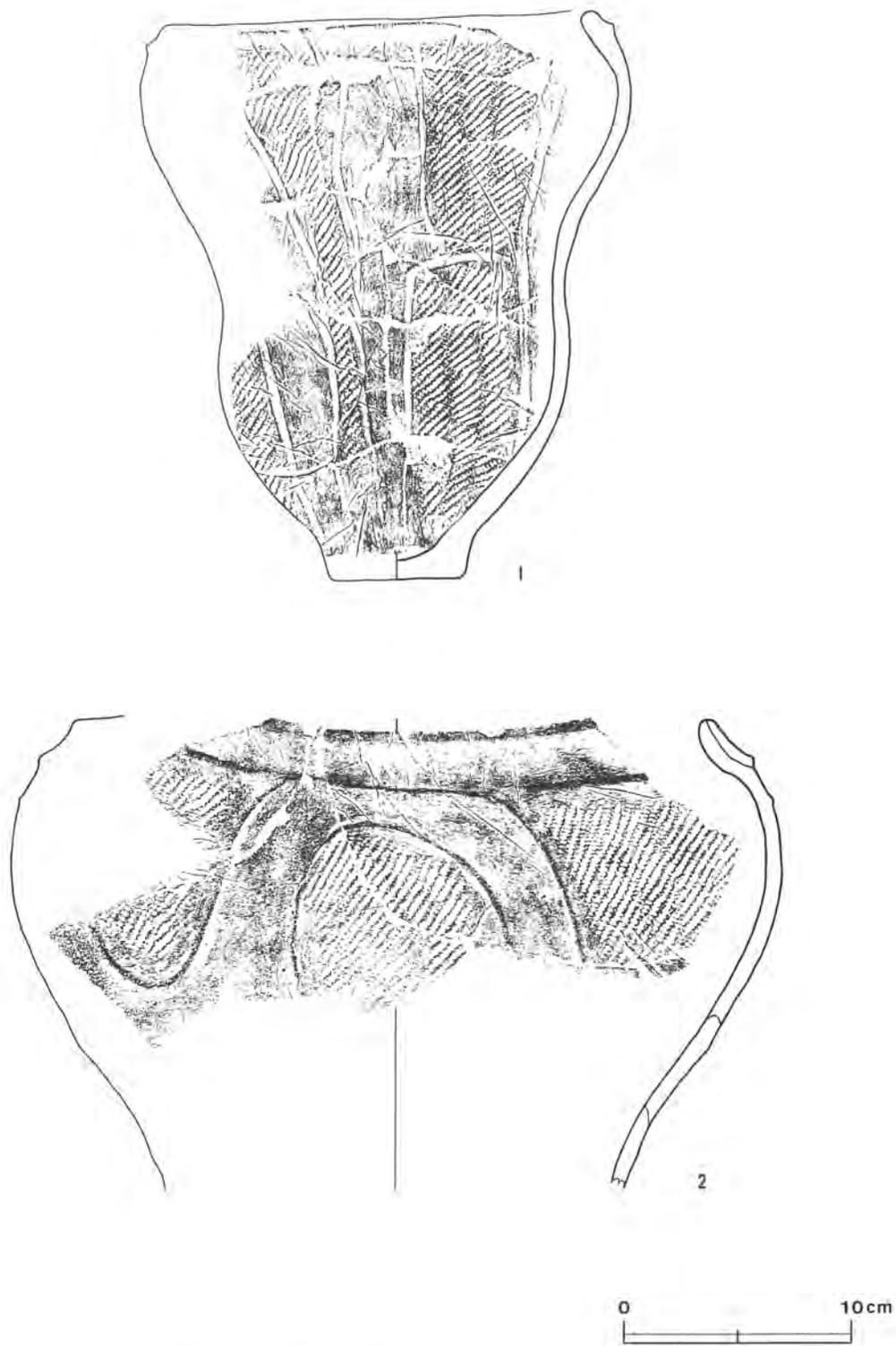
床 部分的に窪みが確認されているが、炉の南側は良く踏み固められて硬い。

炉 中央からやや南側に石囲炉が検出されている。平面形は、長径41cm、短径29cmの楕円形をしており、深さは46cmとかなり深い。炉の北、東、南側からは、扁平な河原石が検出されている。焼土量が少なく、炉の底面が赤く焼けていないことから短期の使用と考えられる。

ピット 3か所 (P₁~P₃) 確認されている。P₁, P₂は径20~30cmの円形を呈し、深さ10~16cmで、



第 8 図 第 8 号住居跡実測図



第9图 第8号住居跡出土遺物実測・拓影図

支柱穴と考えられる。P₃は長径30cm、短径22cmの楕円形を呈し、深さ20cmで、甕が埋納されていた。

覆土 大きめのロームブロックを含んでおり、人為堆積である。

遺物 炉や壁際の覆土下層や床面直上から縄文式土器片（深鉢2，細片18点）と礫13点が出土している。その他、流れ込みと考えられる土師器（甕）片が少量出土している。1の深鉢は、P₃内に正位で置かれた状態で出土している。

所見 本跡は、遺構の形態及び出土土器（加曾利EⅣ式土器）から縄文時代中期の住居跡と考えられる。

第8号住居跡出土土器観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・調整	備考
第9図 1	深鉢形土器	A 19.1 B 25.5 C 6.0	胴部一部欠損。胴部下位は内彎ぎみに外傾し、頸部でくびれ、口縁部上位に向かって内彎ぎみに外傾し、さらに上位で内彎して立ち上がる。口縁部上位は横位の隆起線が見られ、それより上は無文帯となっている。口縁部から胴部下位にかけて、縦位の2条の沈線が無文帯と横位の単節LR充填縄文帯を区画している。沈線は頸部で逆「U」字状に入る部分と入らない部分が交互に見られる。胴部下位は無文帯である。	長石・石英 におい黄橙色 普通	80% P58 加曾利EⅣ。 内・外面スガが 付着。 二次焼成痕。 P ₃ 内。
	縄文式土器				
2	深鉢形土器	A [28.4] B (22.7)	口縁部片。口縁部は胴部から内彎ぎみに立ち上がっている。口縁部は2条の隆起線によって、「X」字状に区画され、区画内はヘラ磨きが施されている。縄文帯には縦位の単節RLの回転縄文が充填されている。	長石・スコリア におい黄橙色 良好	30% P59 加曾利EⅣ。 中央部覆土。
	縄文式土器				

第17号住居跡（第10図）

位置 調査区の南東部、E9d₃区を中心に確認されている。本跡の北側2.4mの地点に同時代の第2号住居跡が確認されている。

規模と平面形 長径4.2m、短径3.7mの不整楕円形を呈している。

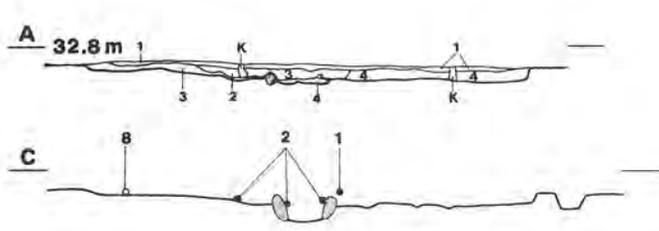
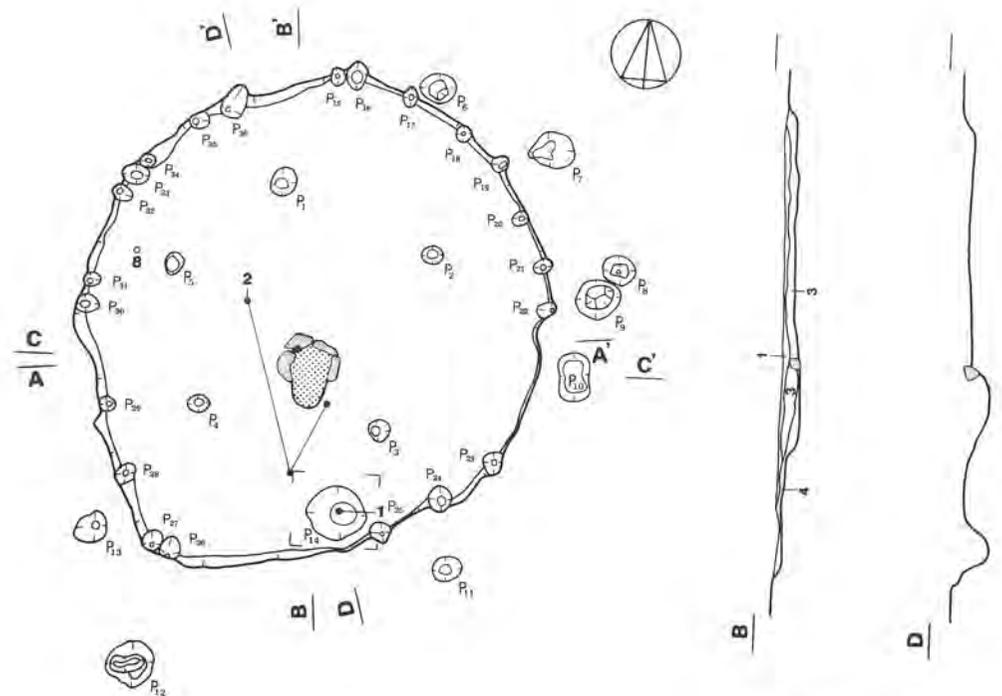
方向 N-36°-E

壁 壁高は、4～8cmである。壁は、軟らかい。西壁は、緩やかに外傾して立ち上がるのに対し、他の壁はほぼ垂直に立ち上がっている。

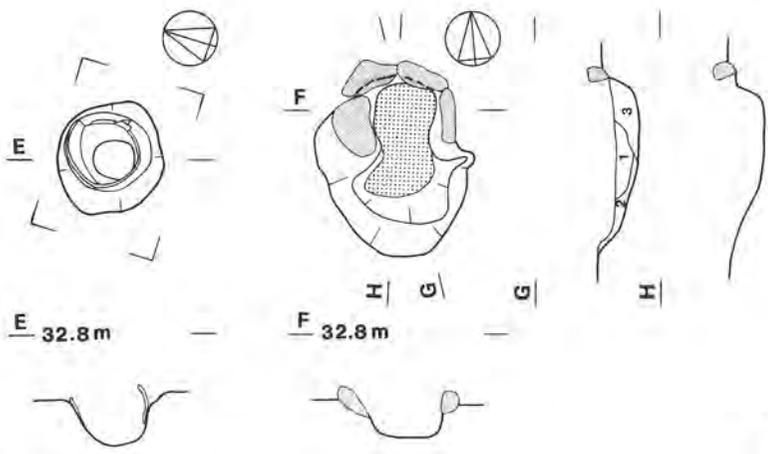
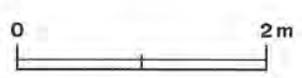
床 西から東へ向かって緩やかに傾斜している。炉の付近は、良く踏み固められて硬い。

炉 中央からやや南側に石囲炉が検出されている。平面形は、長径70cm、短径60cmの楕円形を呈し、炉の北、東、西側から平たい面を内側に配した偏平な河原石が検出されている。断面形は皿状を呈し、深さは15cmである。焼土は少量出土している。

ピット 36か所（P₁～P₃₆）確認されている。P₁～P₅は径17～25cmの円形を呈し、深さ14cmで、支柱穴と考えられる。P₁₅～P₃₆は径20cm前後の円形を呈し、壁柱穴と考えられる。P₁₄は長径50cm、短径44cmの楕円形を呈し、深さ20cmで、甕が埋納されていた。P₆～P₁₃は径25～40cm、深さ11～19cmで、不規則な並びをしており、性格は不明である。

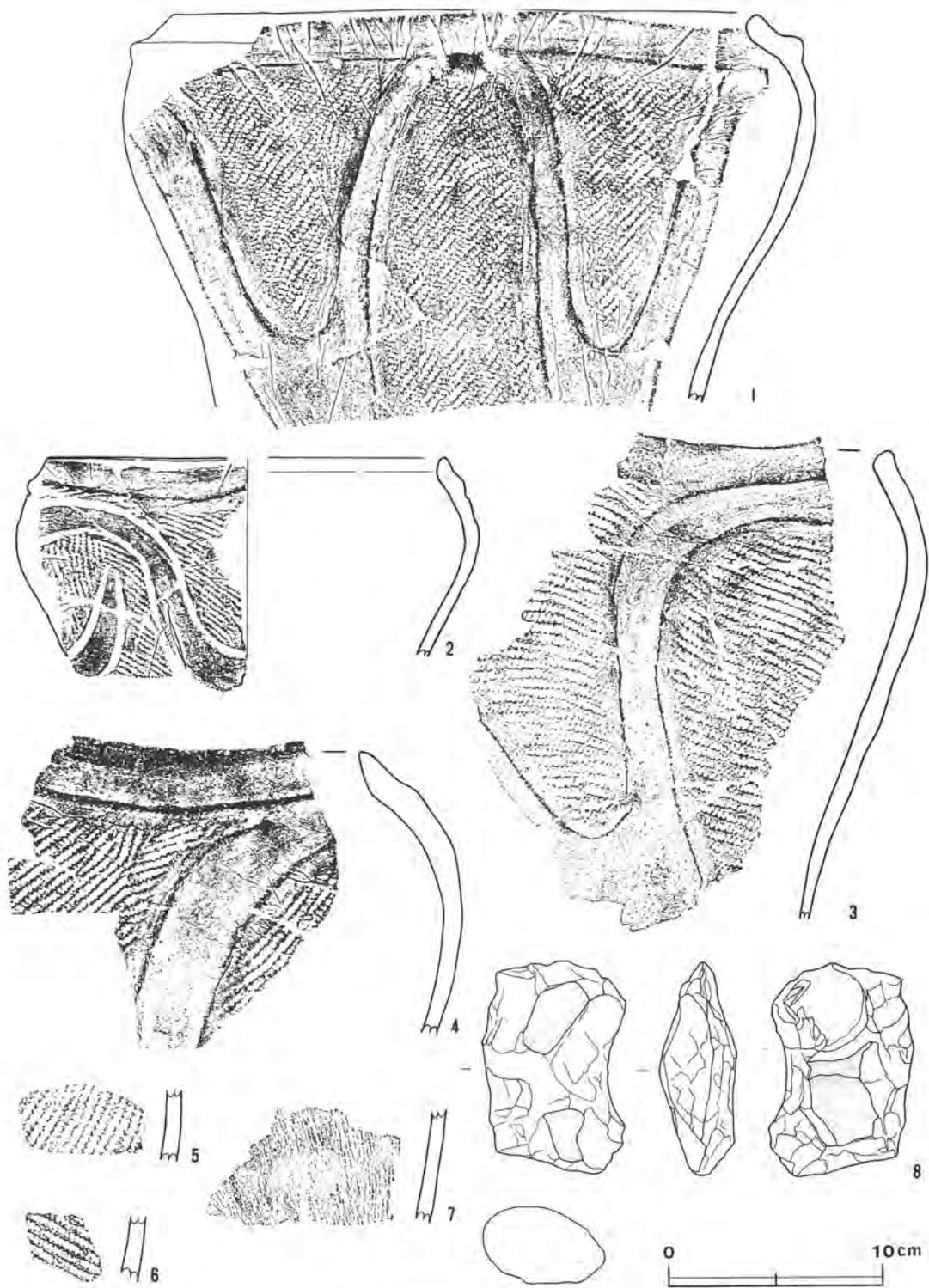


- SI-17 土層解説
- 1 黒褐色 ローム粒子少量
 - 2 極暗褐色 ローム粒子中量
 - 3 暗褐色 ローム粒子中量
 - 4 褐色 黒色粒子少量, 炭化粒子極少量



- SI-17 炉 土層解説
- 1 褐色 炭化粒子・暗褐色ブロック・灰粒子少量
 - 2 褐色 黒色粒子微量
 - 3 褐色 焼土ブロック・砂粒少量

第10図 第17号住居跡実測図



第11图 第17号住居跡出土遺物実測・拓影図

覆土 自然堆積

遺物 縄文式土器片（深鉢2，細片19点）が，壁際から少量出土している。その他，礫が床面直上から9点出土している。8の砂岩質の分銅形打製石斧や2の深鉢が住居中央部の床面直上から出土している。1の深鉢は，P₁₄内からほぼ正位で出土しており，埋め甕と考えられる。

所見 本跡は，住居の形態や出土遺物（加曾利EⅣ式土器）等から縄文時代中期の住居跡と考えられる。

第17号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・調整	備考
第11図 1	深鉢形土器	A 27.3 B (18.7)	底部欠損。口縁部下位は内彎しながら外傾し，上位は強く内彎する。口縁部上位は1条の横方向の隆起線が施され，それより上は無文帯である。中位は縦位の単節RLの回転縄文が施され，2条の隆起線によって「Y」字状に区画し，区画内を磨消している。	長石・砂粒 にぶい黄橙色 普通	50% P82 加曾利EⅣ。 P ₁₄ 内。
	縄文式土器				
2	深鉢形土器	A [18.4] B (9.4)	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。口縁部上位は1条の横方向の隆起線が施され，それより上は無文帯である。中位は縦走縄文LRが斜位に施され，2条の沈線によって「渦巻き」状の区画がなされ，区画内は縄文が磨消されている。	長石・石英 暗赤褐色 良好	15% P83 加曾利EⅣ。 中央部床面直上。
	縄文式土器				

図版番号	器種	石質	法量				出土地点	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第11図 8	打製石斧	砂岩	10.0	6.8	3.6	253.0	西壁際床面直上	分銅形 Q2

第11図の3～7は加曾利EⅣ式土器片の拓影図である。3は口縁部片で，2条の隆起線文と横位の単節RLの回転縄文が施されている。4は口縁部片で，2条の隆起線文と縦位の単節RLの回転縄文が施されている。5は胴部片で，縦位の単節RLの回転縄文が施されている。6は胴部片で，横位の単節RLの回転縄文が施されている。7は胴部片で，条痕文が施されている。

第3節 古墳時代の遺構と遺物

1 竪穴住居跡

古墳時代の竪穴住居跡は，調査区の西部から3軒検出されている。以下，検出された住居跡の特徴や出土遺物について記載する。

第1号住居跡〈Ⅱ区〉(第12図)

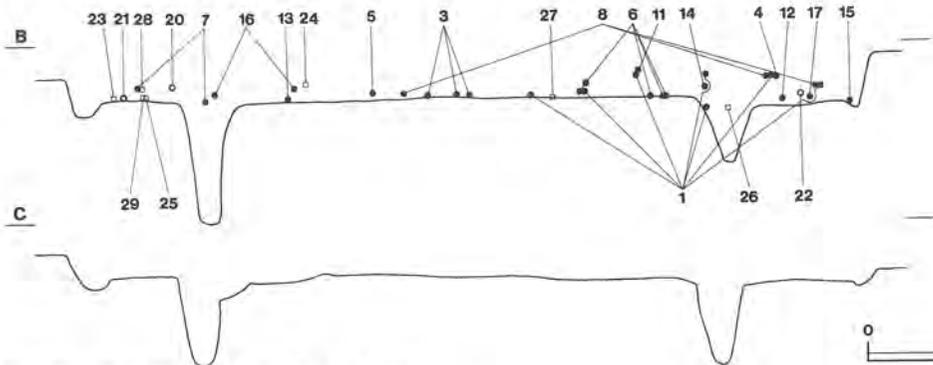
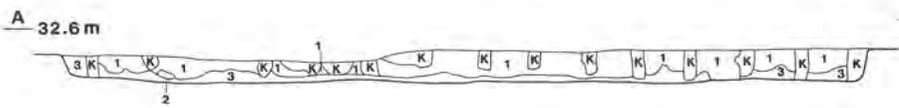
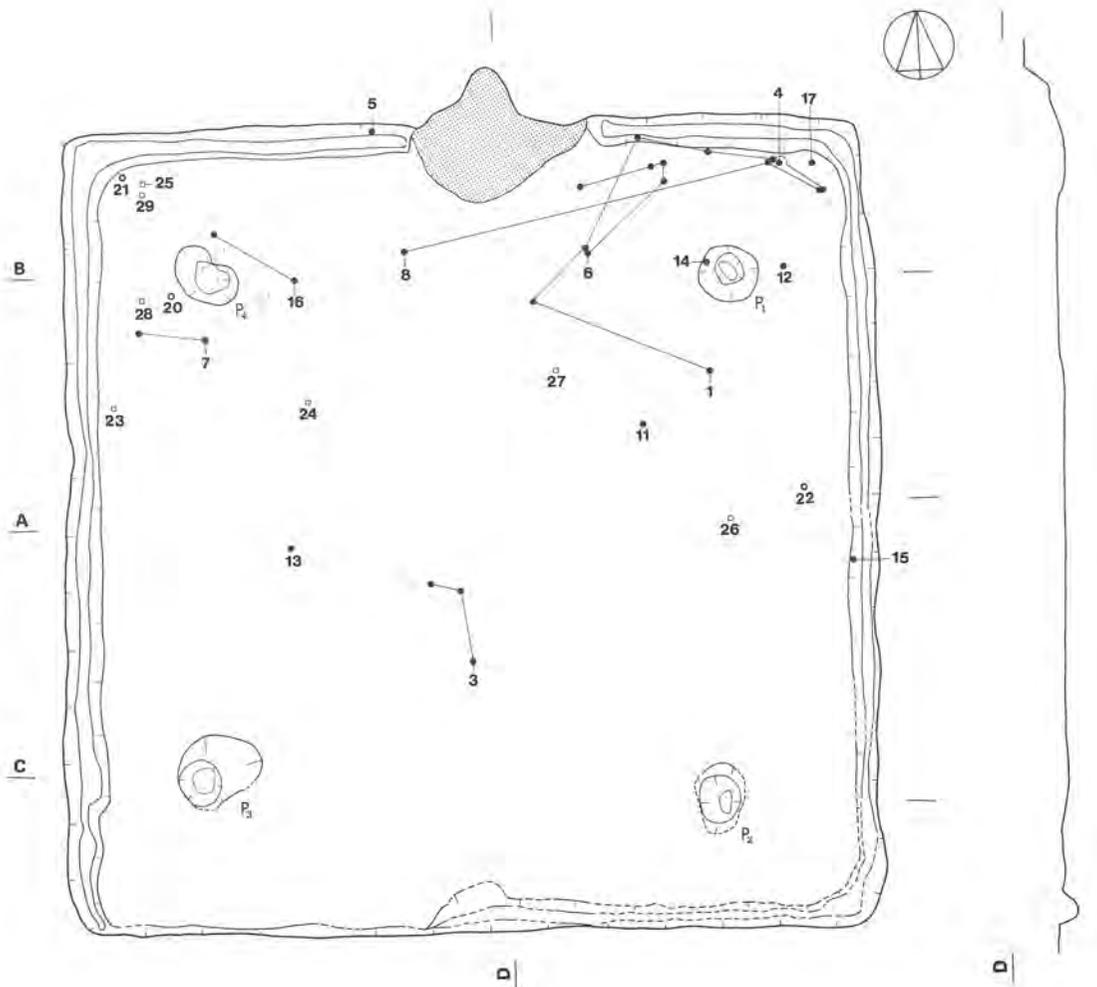
位置 調査区の西部，D3j₄区を中心に確認されている。

規模と平面形 長軸8.6m，短軸8.4mの方形を呈している。

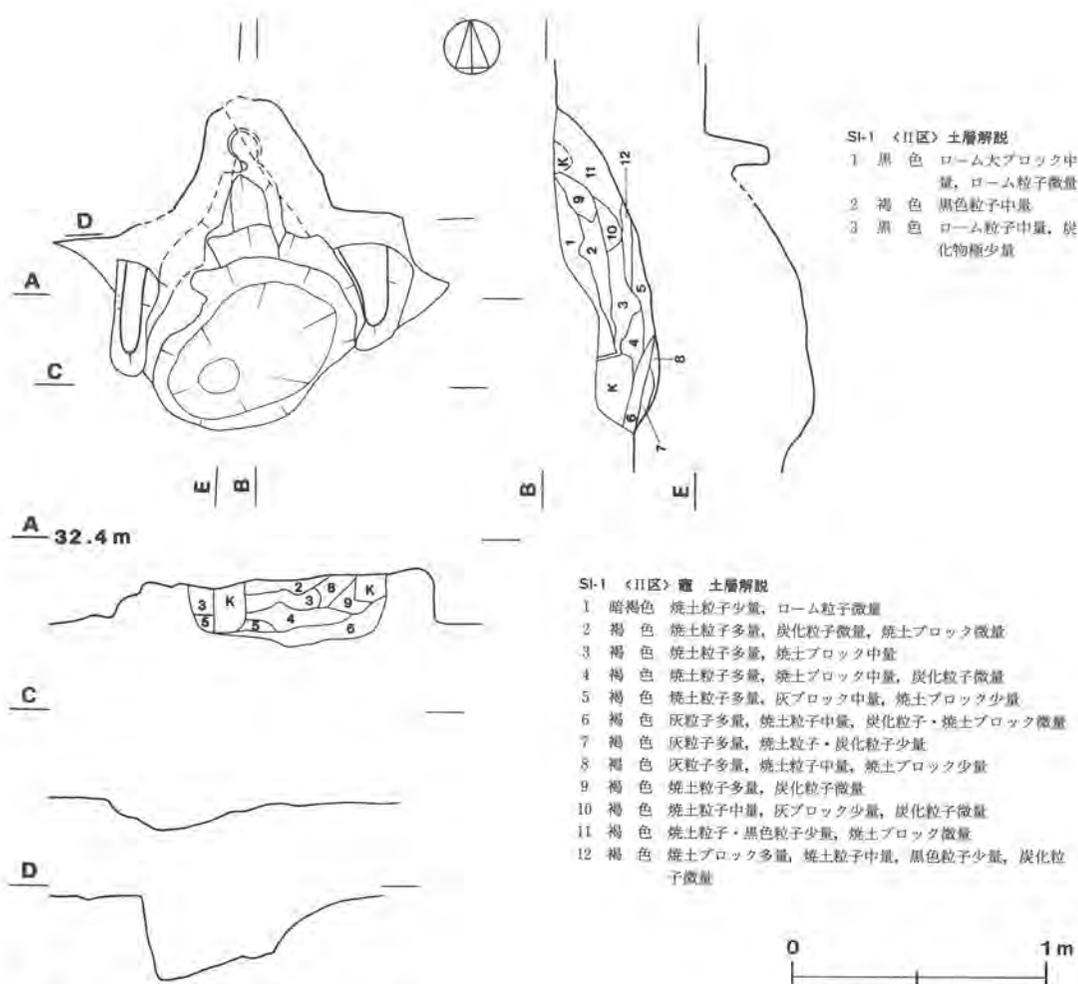
主軸方向 N-0°

壁 壁高は，15～50cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝 南壁西側の出入口部を除いて廻っている。幅18～45cm，深さ6～20cmで，断面形は「U」字状を呈している。



第12図 第1号住居跡〈Ⅱ区〉実測図



第13図 第1号住居跡<II区>竈実測図

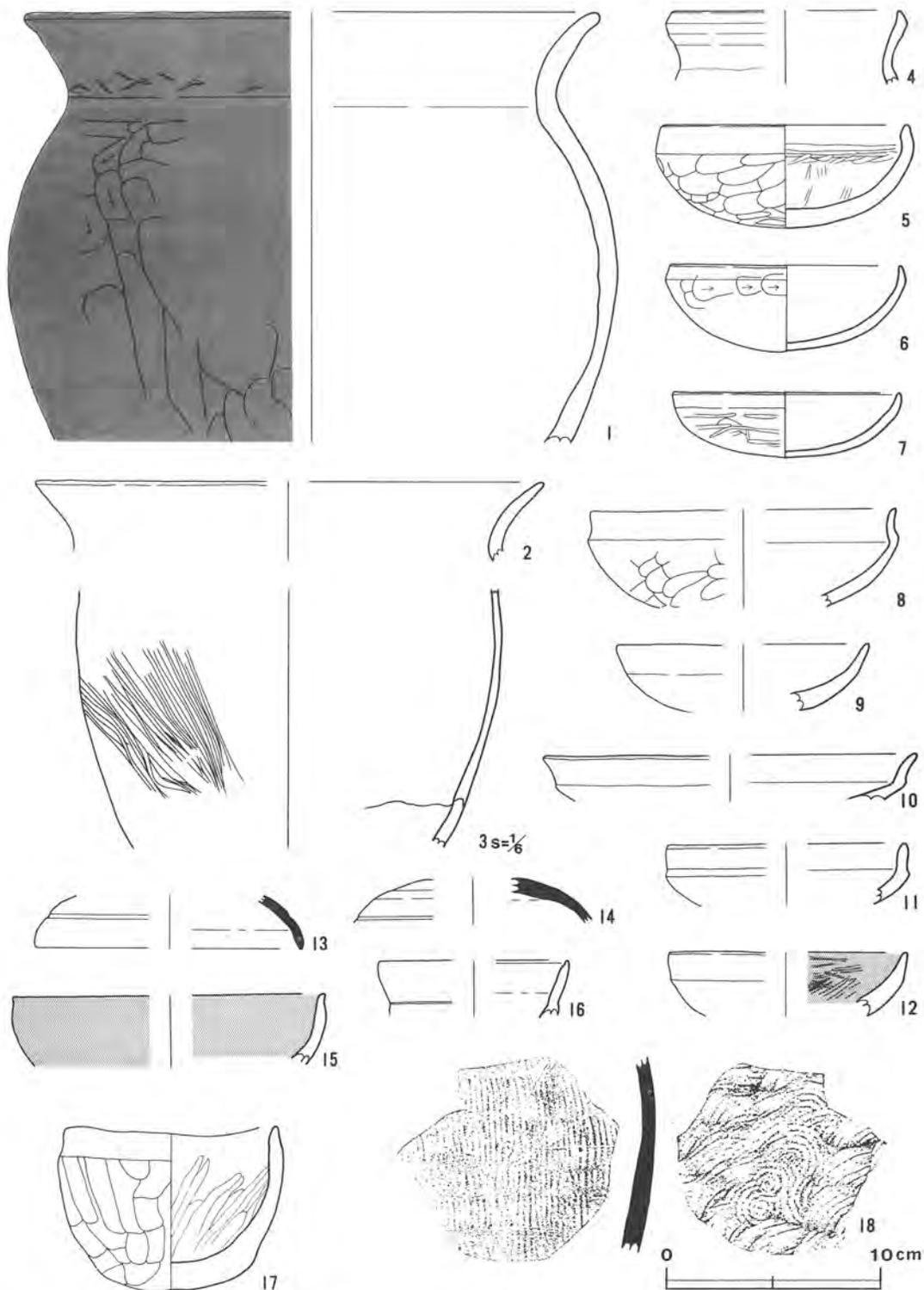
床 ほぼ平坦で、中央部を中心に良く踏み固められて硬い。南壁西側付近は出入口部と考えられ、床面が若干盛り上がり、特に硬質である。

ピット 4か所 (P₁~P₄) 検出されている。P₁~P₄は径45~85cmの円形を呈し、深さ60~130cmで、支柱穴と考えられる。全ての柱受け部から粘土が検出されている。

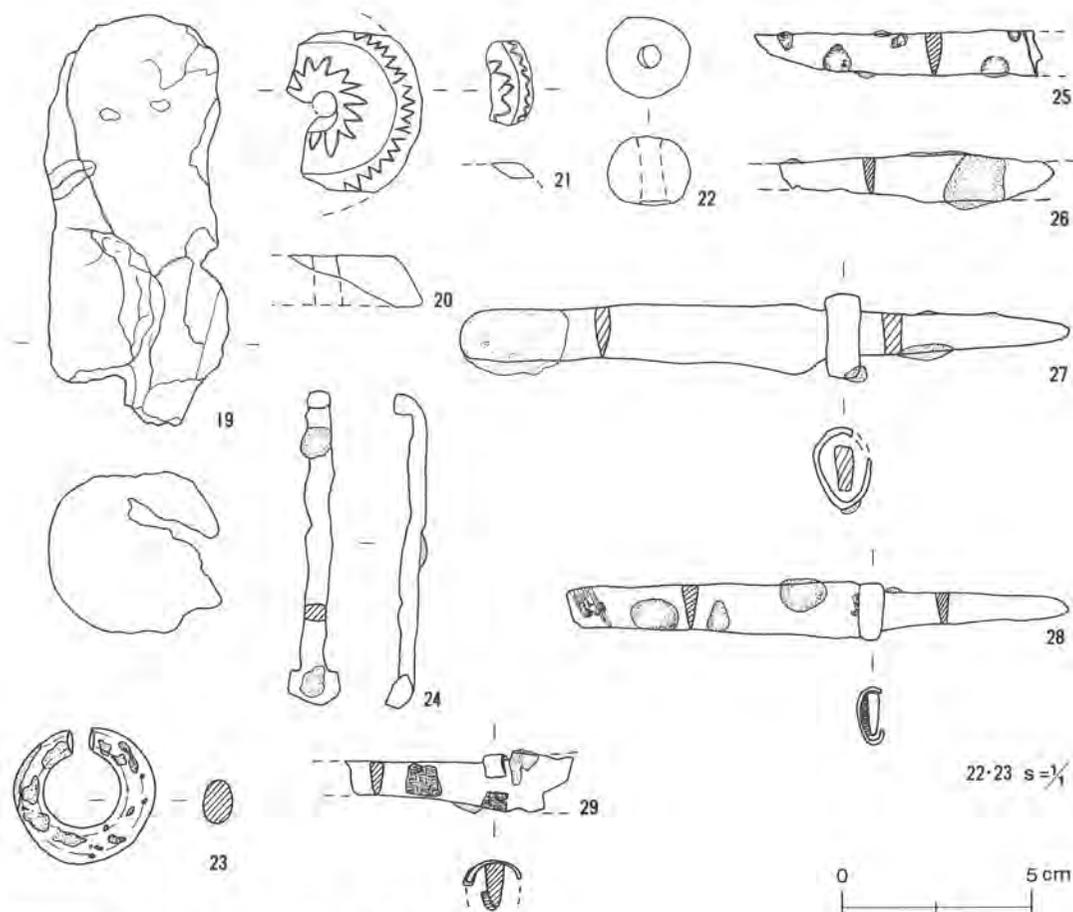
竈 北壁の中央部を壁外へ45cm程掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は長さ175cm、幅120cmであり、遺存の良い竈である。袖部は、床のロームを掘り残して基部としている。火床は、長径80cm、短径55cmの楕円状を呈している。火床部から焚口部にかけては、レンガ状に赤変硬化している。また、覆土からは土製支脚が出土している。煙道は、火床から緩やかに立ち上がっている。

覆土 自然堆積。

遺物 多量の土師器片 (甕3, 埴2, 坏9, 細片720点) や須恵器片 (蓋2, 細片34点) が、住居の中央部の覆土から出土している。その他、流れ込みと思われる4の灰釉陶器片 (窖窯I期)



第14图 第1号住居跡〈Ⅱ区〉出土遺物実測図(1)



第15図 第1号住居跡〈II区〉出土遺物実測図(2)

が出土している。北東コーナー付近の床面直上からは、17の壺がやや横に傾いた状態で出土している。13の須恵器の坏蓋片は、住居の中央部床面直上から出土している。P₁付近の床面直上からは、炭化米や20の紡錘車が出土している。北西コーナー付近の床面直上からは25と29の刀子が出土しており、その他、22のガラス玉や23の銅芯金張耳環も出土している。壁際の床面直上からは、炭化材や焼土が検出されており、焼失家屋と考えられる。

所見 本跡は、出土遺物や住居跡の形態から7世紀前半の住居跡と考えられる。また、同時期の住居跡の中で規模の一番大きいものであることや、ガラス玉や耳環等の貴重品が出土していることから、当該時期の中心的な住居跡と考えられる。

第1号住居跡〈II区〉出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第14図 1	甕 土師器	A [26.5] B (20.3)	胴部、口縁部片。胴部中位に最大径。口縁部は「く」の字状を呈し、上位はさらに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。胴部と口縁部の一部に赤彩。頸部外面ヘラナデ。胴部外面ヘラ削り。	小石・石英にふい黄橙色 普通	35% P 85 北部床面直上。

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第9図 2	甕 土師器	A [23.4] B (3.7)	口縁部片。口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 橙色 普通	5% P86 覆土。
3	甕 土師器	B (24.1)	胴部片。胴部は内彎しながら外上方に立ち上がる。	胴部外面下位から中位にかけて縦方向のヘラ磨き。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	10% P87 二次焼成痕 中央部床面直上。
4	壺 陶器	A [10.6] B (3.5)	口縁部片。口唇部を上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 灰白色 良好	5% P150 窖窯I期。12c。 北東コーナー際覆土。
5	坏 土師器	A 11.3 B 4.9	底部は丸底。体部と口縁部の境にわずかな稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部から底部外面はヘラ削り、内面はナデ後ヘラ磨き。	小石・石英 (外)明褐色 (内)にぶい褐色	100% P88 北壁覆土。
6	坏 土師器	A 10.7 B 4.1	口縁部一部欠損。底部は丸底。体部と口縁部の境にわずかな稜を持ち、口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。	長石・石英 (外)灰褐色 (内)にぶい褐色 普通	95% P89 二次焼成痕。 北東コーナー付 近覆土。
7	坏 土師器	A 10.5 B 3.1	底部一部欠損。底部は丸底。体部は内彎しながら外傾し、口縁部は上方に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部、底部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面丁寧なヘラ磨き。内面赤彩。	小石・長石・石英 (外)にぶい橙色 (内)明赤褐色 良好	70% P90 北西部床面直上。
8	坏 土師器	A [14.3] B (4.6)	体部、口縁部片。体部は内彎しながら外傾し、体部と口縁部の境に明瞭な稜を持つ。口縁部は下位で内彎し、上位で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面横ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	20% P91 北東コーナー付 近覆土。
9	坏 土師器	A [11.8] B (3.1)	体部、口縁部片。体部は内彎しながら外上方に立ち上がり、口縁部は器肉を減じながら外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。	石英・雲母 にぶい橙色 普通	15% P92 窯覆土。
10	坏 土師器	A [17.3] B (2.1)	口縁部片。器肉が薄い。体部と口縁部の境に稜を持ち、口縁部上位で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	5% P93 北東部覆土。
11	坏 土師器	A [11.0] B (2.9)	口縁部片。体部と口縁部の境に明瞭な稜を持ち、口縁部は上方に直線的に立ち上がる。	口縁部内・外面ヘラ磨き。	長石 (外)暗褐色(内)に ぶい赤褐色。良好	10% P94 中央部覆土。
12	坏 土師器	A [11.0] B (3.0)	体部、口縁部片。体部と口縁部の境にわずかな稜を持つ。	口縁部外面横ナデ。体部外面ヘラナデ、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	スコリア・石英 (外)にぶい黄褐色 (内)黒色。普通	10% P97 北東部覆土。
13	蓋 須恵器	A [12.4] B (2.5)	体部片。天井部と口縁部の境に1条の沈線が巡る。	体部内・外面横ナデ。	砂粒 灰色 良好	5% P98 中央部床面直上。
14	蓋 須恵器	B (2.1)	体部、口縁部片。天井部は丸みを持ち、下位に1条の浅い沈線が巡る。	天井部上位回転ヘラ削り調整。	砂粒 灰色 良好	10% P99 北東部覆土。
15	坏 土師器	A [10.2] B (3.4)	口縁部片。口縁部は垂直に立ち上がり、口唇部でわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面黒色処理。	長石・石英 暗灰色 普通	10% P96 東壁際床面直上。
16	塊 土師器	A [8.8] B (2.7)	口縁部片。体部と口縁部の境に明瞭な稜を持つ。口唇部内面に1条の浅い沈線が巡る。	口縁部内・外面横ナデ。	長石 浅黄褐色 普通	10% P95 北西部覆土。
17	塊 土師器	A 9.9 B 7.7	底部は丸底。体部と口縁部の境にわずかな稜を持ち、口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面横ナデ後ヘラ磨き。	小石・スコリア 明赤褐色 普通	98% P100 北東コーナー付 近床面直上。

図版 番号	器種	法 量				出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第15図 19	支 脚	(10.9)	(4.8)	-	(154.5)	甕覆土	泥岩 DP 2

図版 番号	器種	石 質	法 量				出土地点	備 考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
20	紡 錘 車	粘 板 岩	(3.6)	(4.3)	1.3	(18.0)	P ₄ 付近房面直上	表面に花卉文線刻, 側面に鋸 歯文線刻あり Q 3
21	紡 錘 車	粘 板 岩	(1.2)	(2.3)	(0.4)	(1.0)	北西コーナー際床面直上	20と同一個体か Q 4
22	ガラス玉	ガ ラ ス	0.9	1.2	1.0	0.9	東壁際覆土	孔径0.5cm Q 5

図版 番号	器種	法 量				特 徴	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
23	耳 環	1.8	1.8	0.6	4.7	銅芯金張	西壁際床面直上	銅製 M13
24	不 明	8.4	1.4	0.4	7.2		北西部覆土	鉄製 M 8
25	刀 子	(7.6)	(1.2)	0.4	(8.6)	刀身の先端のみ遺存	北西コーナー際床面直上	鉄製 M 7
26	刀 子	(5.3)	1.3	0.4	(8.4)	刀身は研ぎ減っている	東部床面直上	鉄製 M 9
27	刀 子	(16.1)	2.4	0.5	(32.1)	刀身の先端を欠損, 鉄製鏃が遺存	中央部床面直上	鉄製 M11
28	刀 子	(13.3)	1.6	0.4	(19.9)	刀身の先端を欠損, 鉄製鏃が遺存	北西コーナー付近覆土	柄の木質が一部遺存 M12
29	刀 子	(5.6)	(1.6)	0.5	(9.5)	刀身と基部を欠損, 鉄製鏃が遺存	北西コーナー際床面直上	柄の木質が一部遺存 M10

第14図の18は須恵器の甕片の拓影図で、外面に平行タタキ目、内面に青海波文が見られる。

第 2 号住居跡 <II区> (第16図)

位置 調査区の西部, D3f₀区を中心に確認されている。

規模と平面形 長軸5.9m, 短軸5.3mの隅丸長方形を呈している。

主軸方向 N-5°-E

壁 壁高は25cmで、外傾して立ち上がっている。

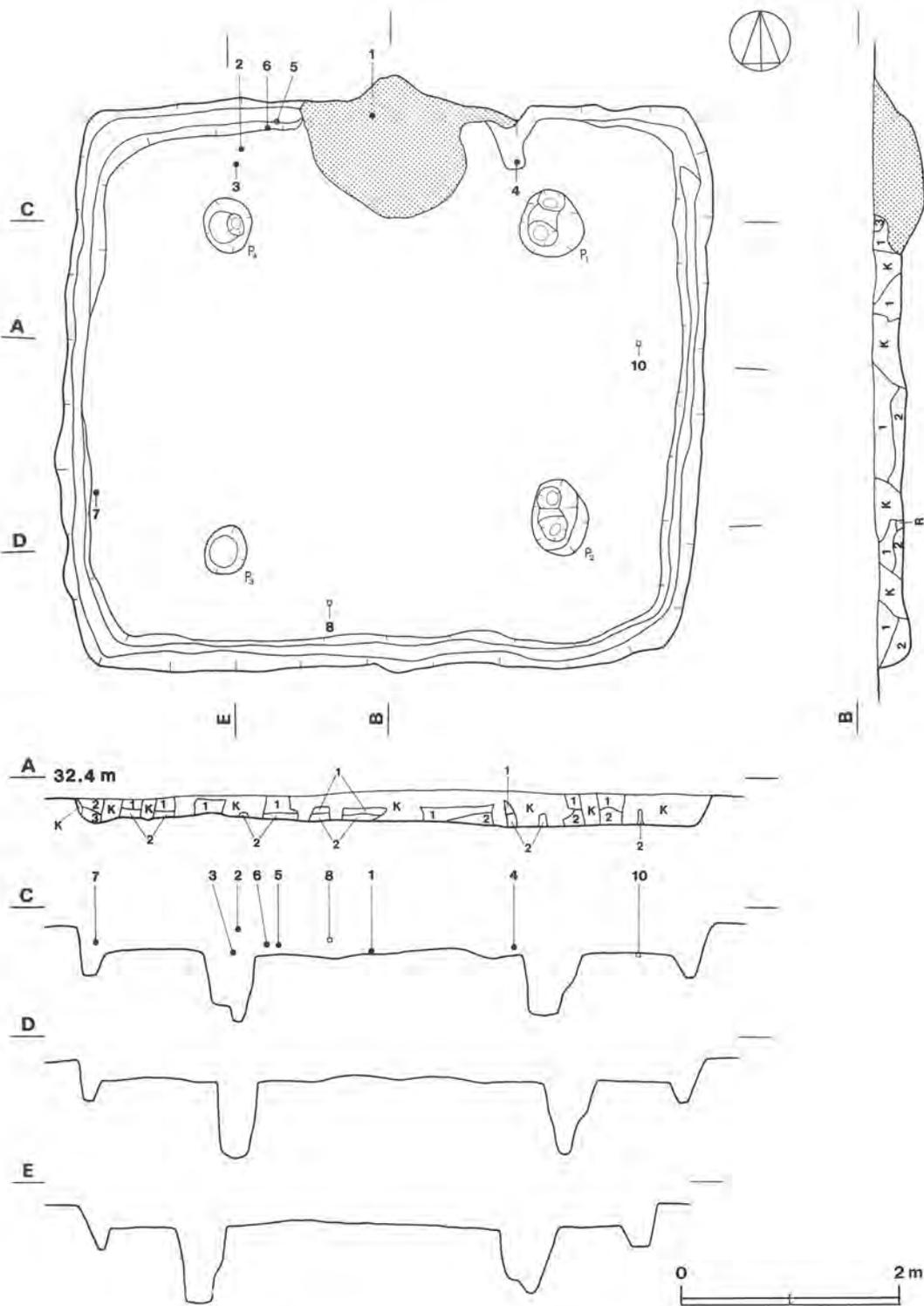
壁溝 北壁東側を除いた壁際から検出されている。幅20~30cm, 深さ18cmで、断面形は「┌」状を呈している。

床 攪乱が床面まで達しているが、遺存している中央部の床面は硬い。

ピット 4か所(P₁~P₄)検出されている。P₁~P₄は長径46~70cm, 短径40~60cmの楕円形を呈し、深さは50~70cmで、支柱穴と考えられる。P₁, P₂の両柱穴からは、それぞれ柱受け部が2か所検出されているので、柱が立て替えられた可能性も考えられる。

竈 北壁のほぼ中央部を壁外へ30cm程掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は長さ138cm, 幅100cmである。トレンチャーによる攪乱が竈の下位まで達しており、遺存状況は悪い。火床は、径90cm程の円形で浅い窪みになっていたものと考えられる。煙道は、火床から緩やかに立ち上がっている。

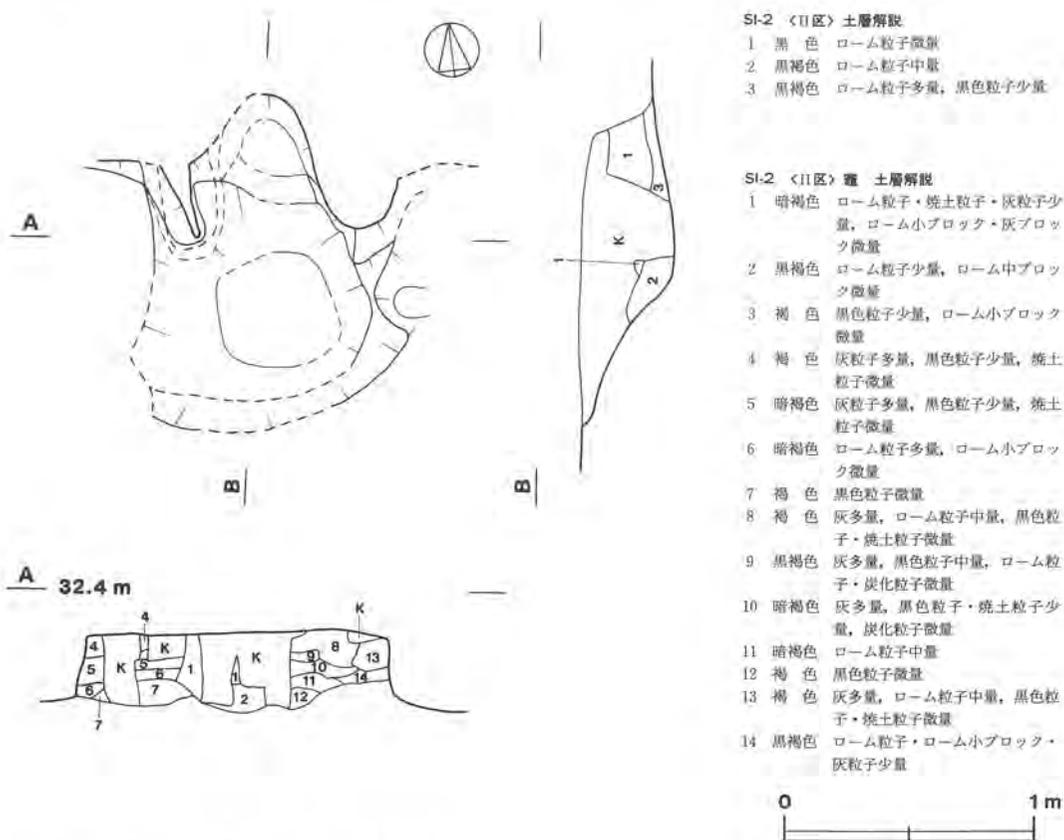
覆土 攪乱のため明確ではないが、自然堆積と考えられる。



第16图 第2号住居跡〈Ⅱ区〉実測図

遺物 土師器片（甕2，埴1，坏3，細片343点）や須恵器片（壺1，細片12点）が住居跡中央部の覆土下層や床面直上から多量に出土している。その他，7点の鉄製品が床面直上から出土している。須恵器は，7の長頸壺の頸部片等4，5片が西壁際の覆土下層から出土している。3と6の土師器の坏片，2の甕片は竈西側の覆土下層から出土している。8の有袋鉄斧は，南壁際の床面直上から出土している。

所見 本跡は，出土遺物や住居跡の形態から7世紀前半の住居跡と考えられる。

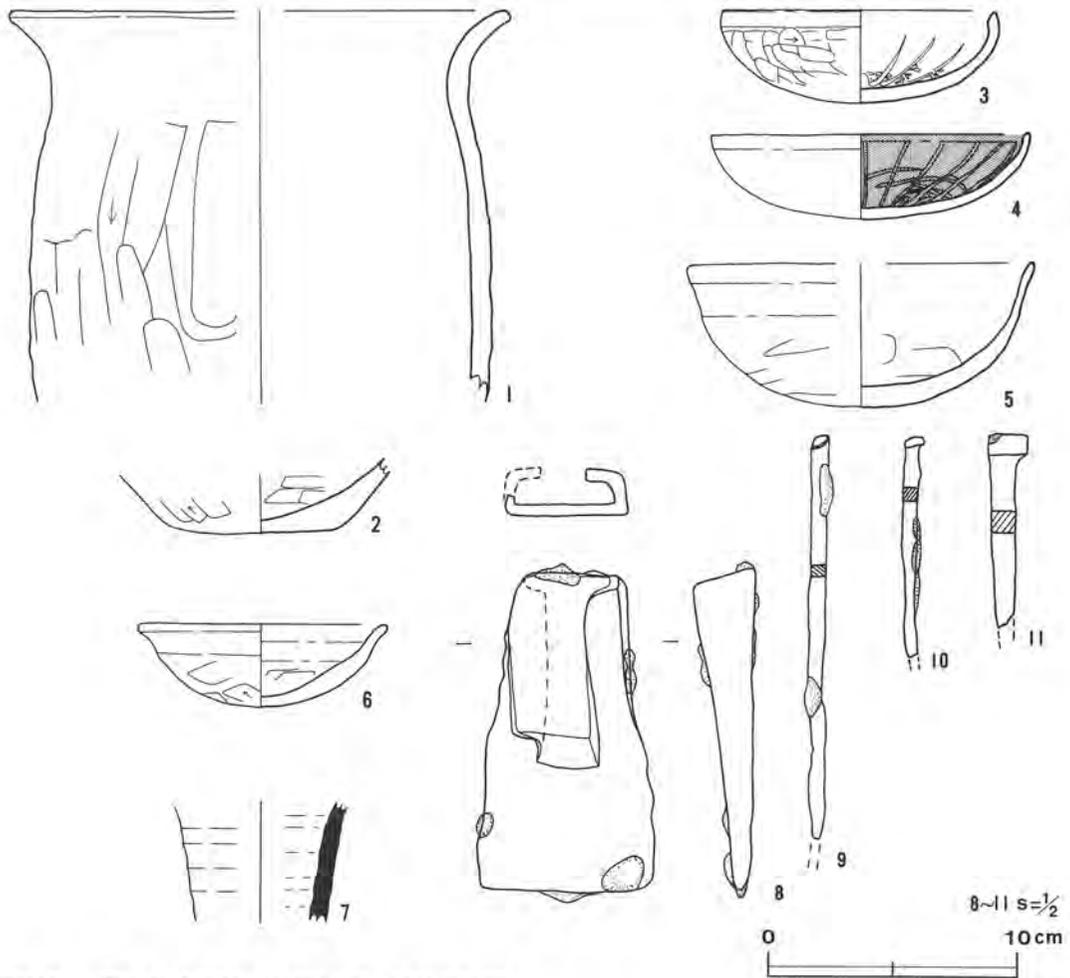


第17図 第2号住居跡<II区>竈実測図

第2号住居跡<II区>出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第18図 1	甕 土師器	A [19.8] B (15.9)	胴部，口縁部片。胴部は肩が張らずに直線的に立ち上がる。口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。胴部外面縦方向のヘラ削り。	小石にぶい橙色 普通	20% P101 竈覆土。
2	甕 土師器	B (3.0) C [6.9]	底部，胴部片。平底。胴部は直線的に外傾する。	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。底部ヘラ削り。	長石 黒褐色 普通	10% P102 北壁付近覆土。

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第18図 3	環 土師器	A 10.9 B 3.8	体部一部欠損。丸底。体部と口縁部の境にわずかな稜を持つ。口唇部をわずかにつまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面不定方向のヘラ磨き後放射状のヘラ磨き。底部ヘラ切り後ヘラナデ。内面黒色処理。	長石・石英・スコリア 灰白色 普通	85% P103 北部覆土。
4	環 土師器	A 12.9 B 3.4	体部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら外傾し、体部と口縁部の境にわずかな稜を持つ。	体部外面ナデ、内面ナデ後不定方向のヘラ磨きをし、最後に放射状のヘラ磨き。内面黒色処理。	小石・スコリア (外)にふい黄橙色 (内)黒色 普通	60% P104 北部床面直上。
5	埴 土師器	A [13.8] B 5.8	口縁部一部欠損。体部と口縁部の境にわずかな稜を持ち、口縁部上位で若干外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・スコリア 普通	90% P105 北壁付近覆土。
6	環 土師器	A 9.9 B 3.4	底部は丸底。体部は内彎しながら外傾し、体部と口縁部の境にわずかな稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ヘラナデ。	長石・石英 橙色 普通	95% P106 北壁付近覆土。
7	長頸壺 須恵器	B (4.9)	頸部片。頸部は外傾しながら立ち上がる。	頸部ロクロ目を残す。	砂粒 灰色 良好	5% P108 西壁際覆土。



第18図 第2号住居跡〈II区〉出土遺物実測図

図版番号	器種	法量				特徴	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第18図 8	鉄 斧	(8.6)	4.9	1.8	(111.4)	有袋で若干の肩を残す	南壁際覆土	M14
9	不 明	(10.8)	0.5	0.3	(4.1)		覆土	鉄鏃の茎部か、鉄製 M19
10	角 釘	(5.9)	0.5	0.4	(2.2)	頭部を直角に折り曲げている	東壁際床面直上	鉄製 M18
11	角 釘	(5.2)	1.1	0.6	(6.4)	頭部を直角に折り曲げている	覆土	鉄製 M20

第 8 号住居跡 <II区> (第19図)

位置 調査区の西部，E4f₉区を中心に確認されている。

規模と平面形 長軸4.0m，短軸3.7m の隅丸方形を呈している。

主軸方向 N - 8° - E

壁 壁高は25cm前後で，外傾して立ち上がっている。

壁溝 壁下を全周している。幅35cm，深さ8～16cmで，断面形は「U」字状を呈している。

床 一部トレンチャーによる攪乱が見られるが，全体的に良く踏み固められていて硬い。

ピット 4か所 (P₁～P₄) 検出されている。P₁は長径48cm，短径30cmの楕円形を呈し，深さ30cmである。P₂は長径60cm，短径50cmの楕円形を呈し，深さ20cmである。P₃は長径40cm，短径35cmの楕円形を呈し，深さ15cmである。P₄は長径35cm，短径20cmの楕円形を呈し，深さ25cmである。これらのピットは位置が不規則で，性格は不明である。

竈 北壁の中央部を壁外へ50cm程掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は長さ107cm，幅87cmである。東側袖部は，床のロームを掘り残して基部にしている。火床は，長径78cm，短径30cmの浅い楕円形を呈しており，赤変硬化している。煙道は，火床から急な傾斜で立ち上がっている。

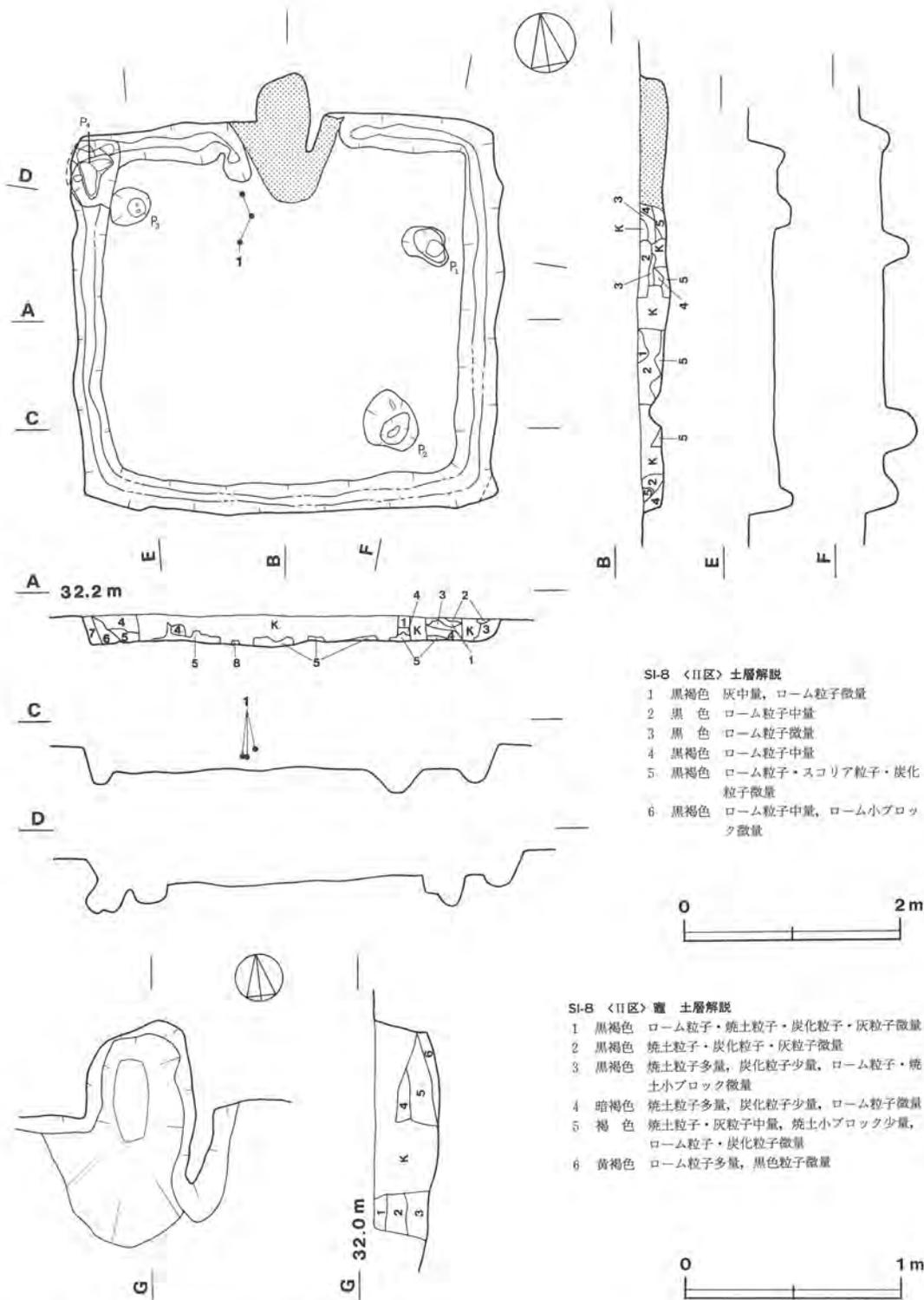
覆土 自然堆積と考えられる。

遺物 竈付近を中心に土師器片 (埴1，坏1，細片46点) が少量出土している。1の坏は，北壁付近覆土から出土している。2の埴は，南西コーナーの壁溝内から出土している。

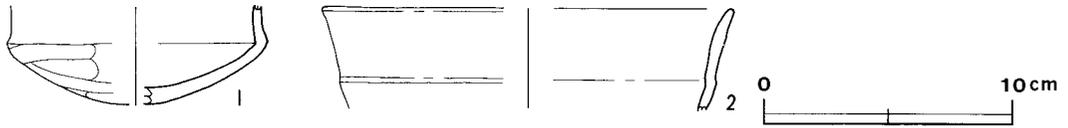
所見 本跡は，出土遺物が少ないが，住居跡の形態等から7世紀前半の住居跡であると考えられる。

第 8 号住居跡 <II区> 出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第20図 1	坏 土師器	B (4.0)	底部から口縁部片。丸底。体部と口縁部の境に稜を持つ。口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。	スコリア・長石 灰褐色 普通	30% P136 北壁覆土。
2	埴 土師器	A [16.4] B (4.1)	体部，口縁部片。体部と口縁部の境に稜を持ち，口縁部上位はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	小石・長石・石英 灰黄褐色 普通	5% P135 南西部壁溝内覆土。



第19図 第8号住居跡<II区>・竈実測図



第20図 第8号住居跡〈II区〉出土遺物実測図

第4節 奈良・平安時代の遺構と遺物

1 竪穴住居跡

奈良・平安時代の竪穴住居跡は、調査区全体から16軒検出されている。以下、検出された住居跡の特徴や出土遺物について記載する。

第1号住居跡（第21図）

位置 調査区の北東部，B8g₀区を中心に確認されている。

規模と平面形 長軸5.1m，短軸3.7mの長方形を呈している。

主軸方向 N-63°-E

壁 壁高は16～26cmで，緩やかに外傾して立ち上がっている。

床 全体的に平坦で，第2号竈付近が良く踏み固められて硬い。

ピット 16か所（P₁～P₁₆）検出されている。P₄～P₉は長径20～26cm，短径13～26cmの楕円形を呈し，深さは60cm前後で，6本構成の主柱穴である。P₁₂は長径22cm，短径19cmの楕円形を呈し，深さ20cmで，出入口施設に伴うピットと思われる。P₁～P₃，P₁₀，P₁₁，P₁₃～P₁₆の性格は不明である。

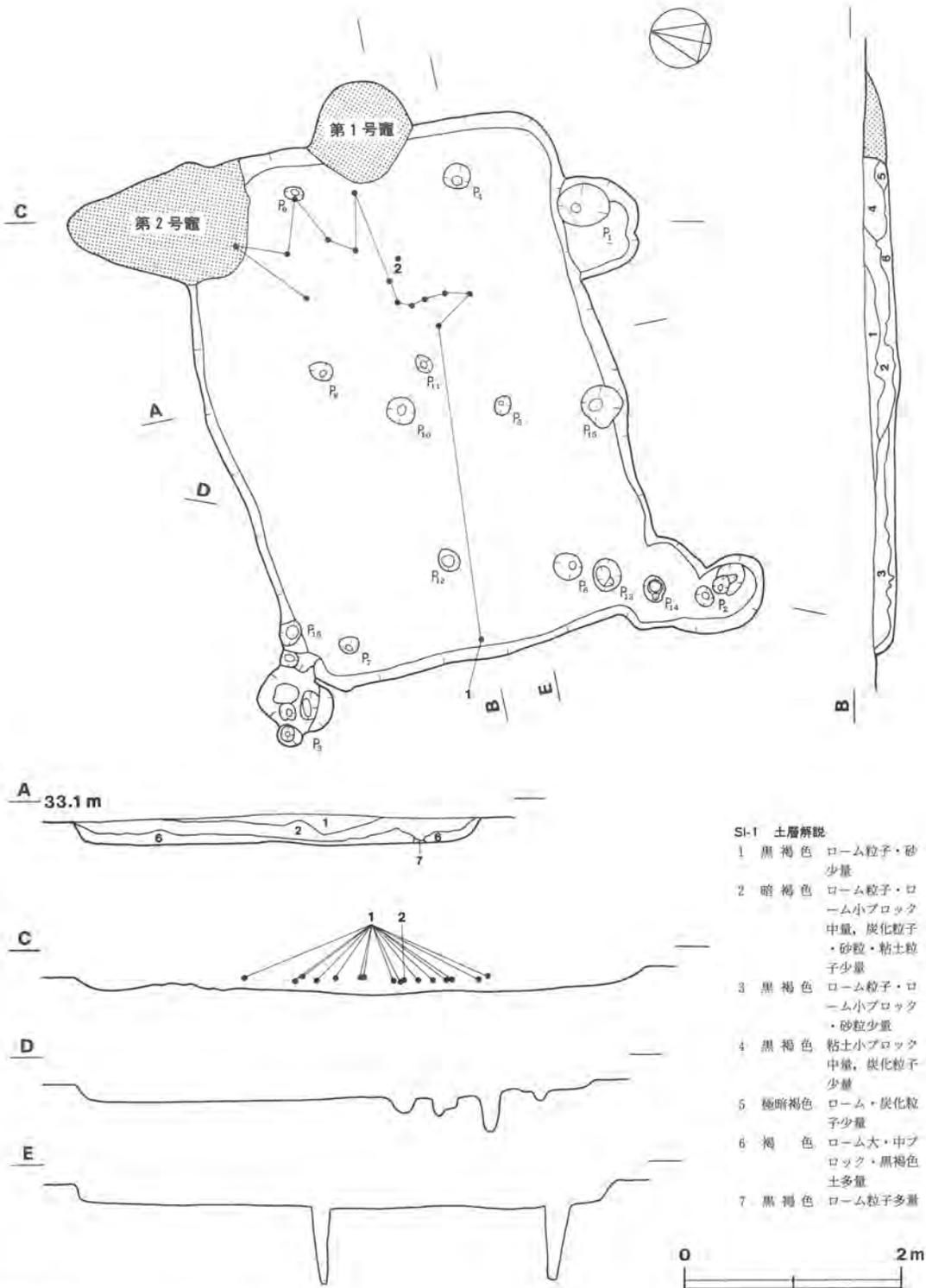
竈 本跡からは，2か所の竈が検出されている。第1号竈は北東壁中央部に構築されているが，完全に壊された状態で検出されている。第2号竈は，北コーナーを壁外へ120cm程掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は長さ148cm，幅120cmである。天井部は，崩落している。火床は，皿状に僅かに窪み，赤変硬化している。煙道は，火床から緩やかに傾斜して立ち上がっている。

第1・2号竈は形態や竈付近の床面の状態等からみて，第1号竈が壊れた後に第2号竈を構築したものと考えられる。

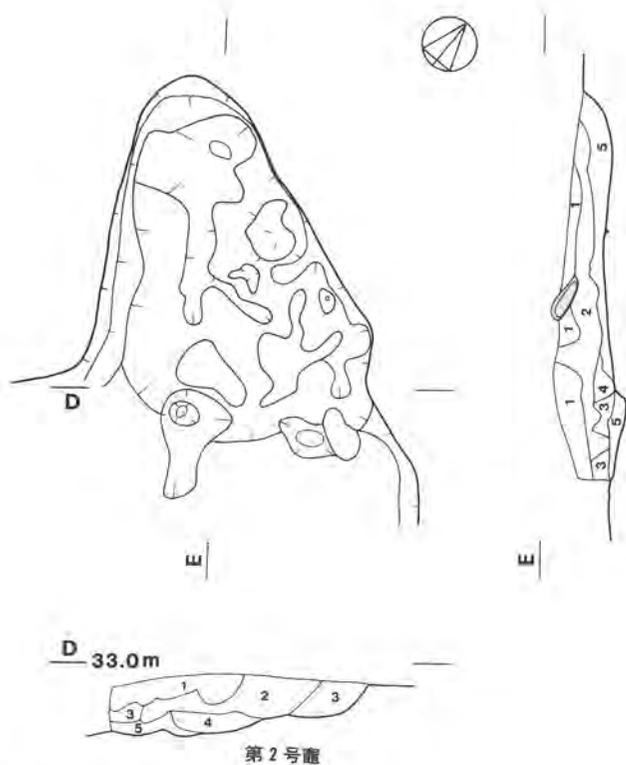
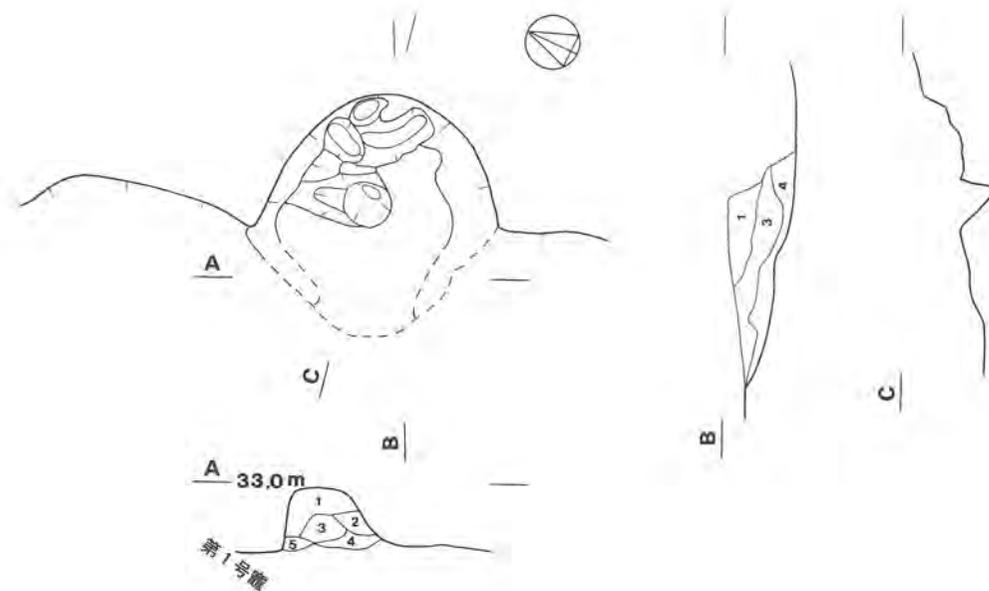
覆土 自然堆積

遺物 第2号竈付近を中心に土師器片（甕2，細片24点）と須恵器片（蓋1，坏1，細片1点）が少量出土している。第2号竈付近の床面直上からは炭化物と混じって，1の甕が出土している。竈内の覆土上層からは，凝灰岩の円錐状の石が横位の状態で出土しているが，煤の付着や加熱痕が見られ，支脚として使用されたものと考えられる。

所見 本跡は，出土遺物や住居跡の形態や竈の形態等から8世紀前半の住居跡と考えられる。

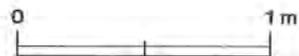


第21図 第1号住居跡実測図

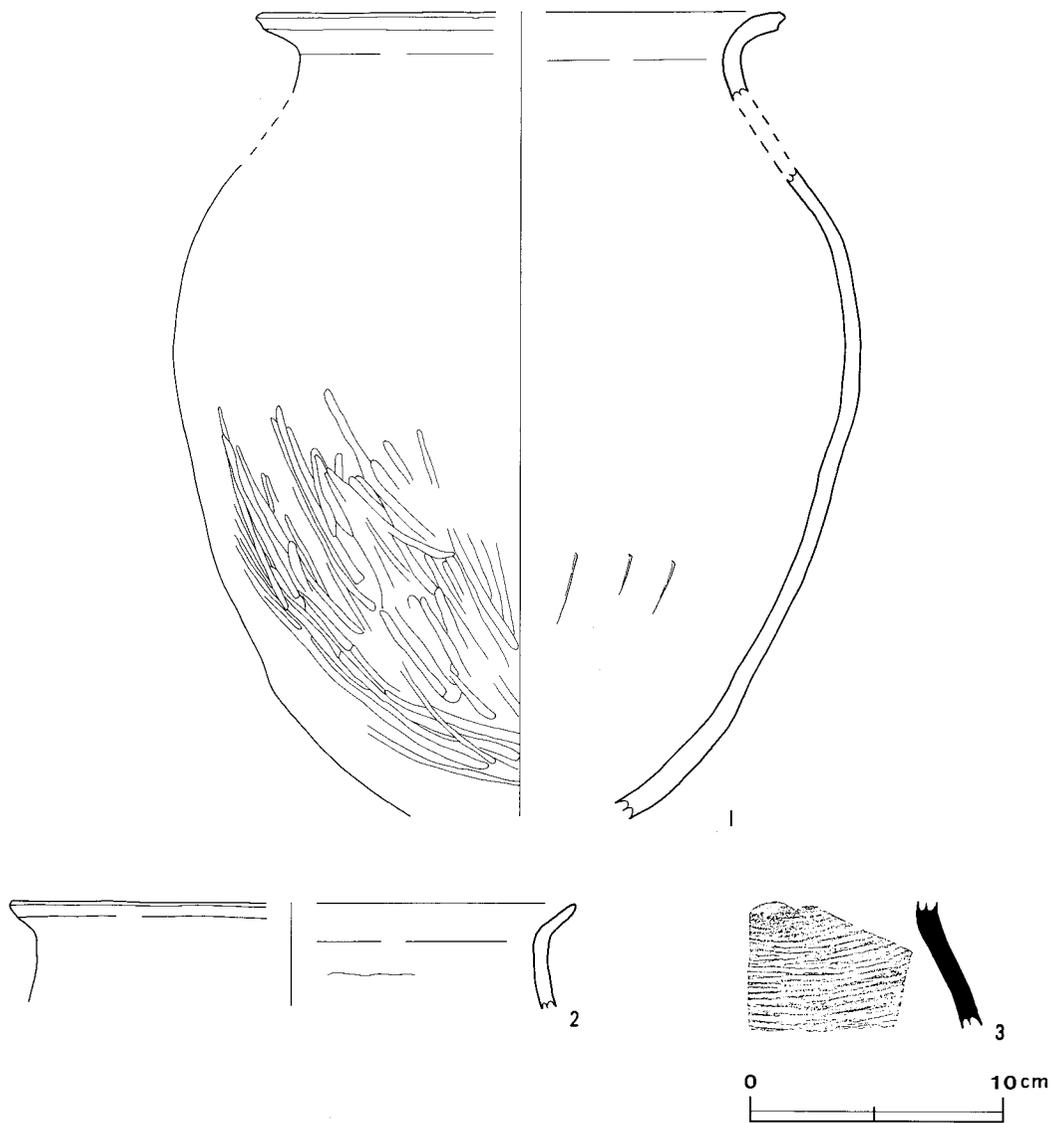


- SI-1 第1号窟 土層解説
- 1 暗褐色 焼土ブロック少量
 - 2 灰褐色 ローム粒子多量
 - 3 にぶい褐色 焼土粒子多量
 - 4 明赤褐色 焼土粒子・ローム粒子多量, 焼土ブロック少量
 - 5 明赤褐色 焼土粒子少量

- SI-1 第2号窟 土層解説
- 1 褐灰色 炭化材・ローム粒子少量
 - 2 灰褐色 ロームブロック・ローム粒子・砂粒多量
 - 3 にぶい褐色 焼土粒子・黒色粒子・ロームブロック少量
 - 4 暗褐色 ロームブロック多量, 黒色ブロック少量
 - 5 橙黄色 黒色粒子多量, 焼土粒子少量



第22図 第1号住居跡竈実測図



第23図 第1号住居跡出土遺物実測・拓影図

第1号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第23図 1	甕 土師器	A [21.1] B (30.0)	胴部、口縁部片。胴部は内彎しながら外傾する。口縁部は強く外反する。口唇部外面に浅い沈線が巡る。	胴部外面ナデ後下位から中位にかけてヘラ磨き、内面ヘラナデ。	雲母・長石・石英にふい黄橙色良好	80% P1 甕付近床面直上。
2	甕 土師器	A [22.4] B (4.2)	口縁部片。口縁部は単口縁で短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	小石・長石・石英 浅黄橙色 普通	5% P2 東部覆土。

第23図の3は須恵器の甕片の拓影図で、外面に平行タタキ目が見られる。

第3号住居跡（第24図）

位置 調査区の中央部西寄り，D6g₂区を中心に確認されている。

規模と平面形 長軸4.1m，短軸3.9mの隅丸方形を呈している。

主軸方向 N-32°-W

壁 壁高は28～36cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝 北西壁際に検出されている。幅約10cm，深さ8～18cmで，断面形は「└」状を呈している。

床 南西部に若干の凹凸が確認されているが，壁際を除いて全体的に良く踏み固められて硬い。

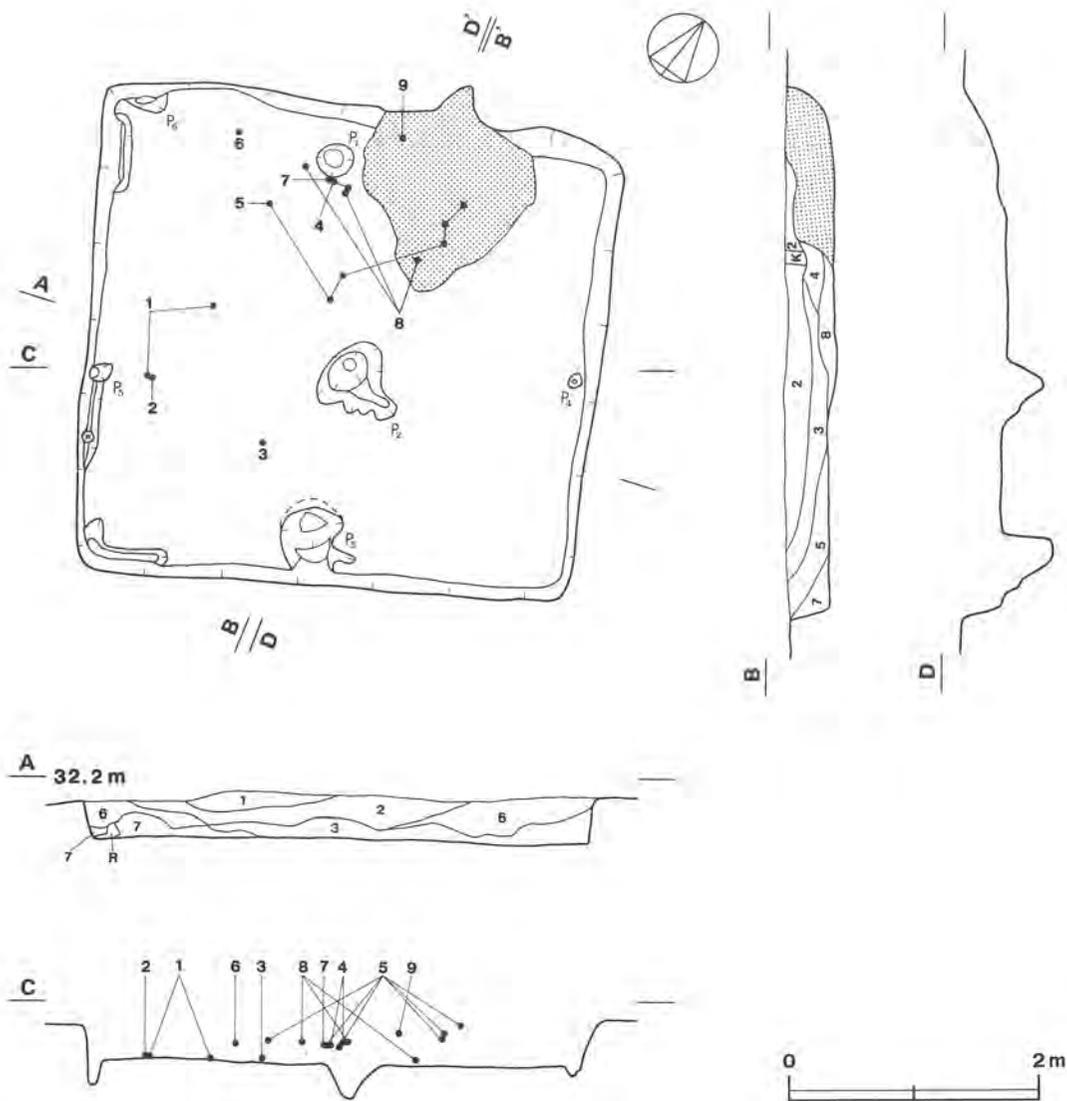
ピット 6か所（P₁～P₆）検出されているが，柱穴は確認されなかった。P₃は長径50cm，短径35cmの楕円形を呈し，深さ20cmで，出入口施設に伴うピットと考えられる。P₁，P₂，P₄～P₆は，性格不明である。

竈 北西壁中央から北寄りを壁外に30cm程掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は長さ105cm，幅137cmである。一部トレンチャーによる攪乱を受けているが，煙道部，天井部等良く遺存している。袖部は，床のロームを掘り残して基部とし，天井部は，厚さ5cmの砂質粘土で構築されて良く遺存している。火床は，皿状を呈しており，レンガ状に赤変硬化している。火床中央部には，支脚を立てるためのものと思われる長径20cm，短径14cm，深さ10cm程のピットが検出されている。煙道は，火床から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

覆土 自然堆積。

遺物 住居跡の覆土下層や床面直上から多量の土師器片（甕3，細片102点）や須恵器片（蓋3，坏1，細片3点）が出土している。その他，礫が26点出土している。南西壁際の床面直上から1，2の土師器の甕と小形甕が正位で潰れた状態で出土している。竈の西部の床面直上からは，4の須恵器の坏と8の須恵器の蓋が出土している。5の坏は，住居跡中央の床面直上から出土しているが，口唇部内側に1条の沈線が見られ，関西系の土器と考えられる。

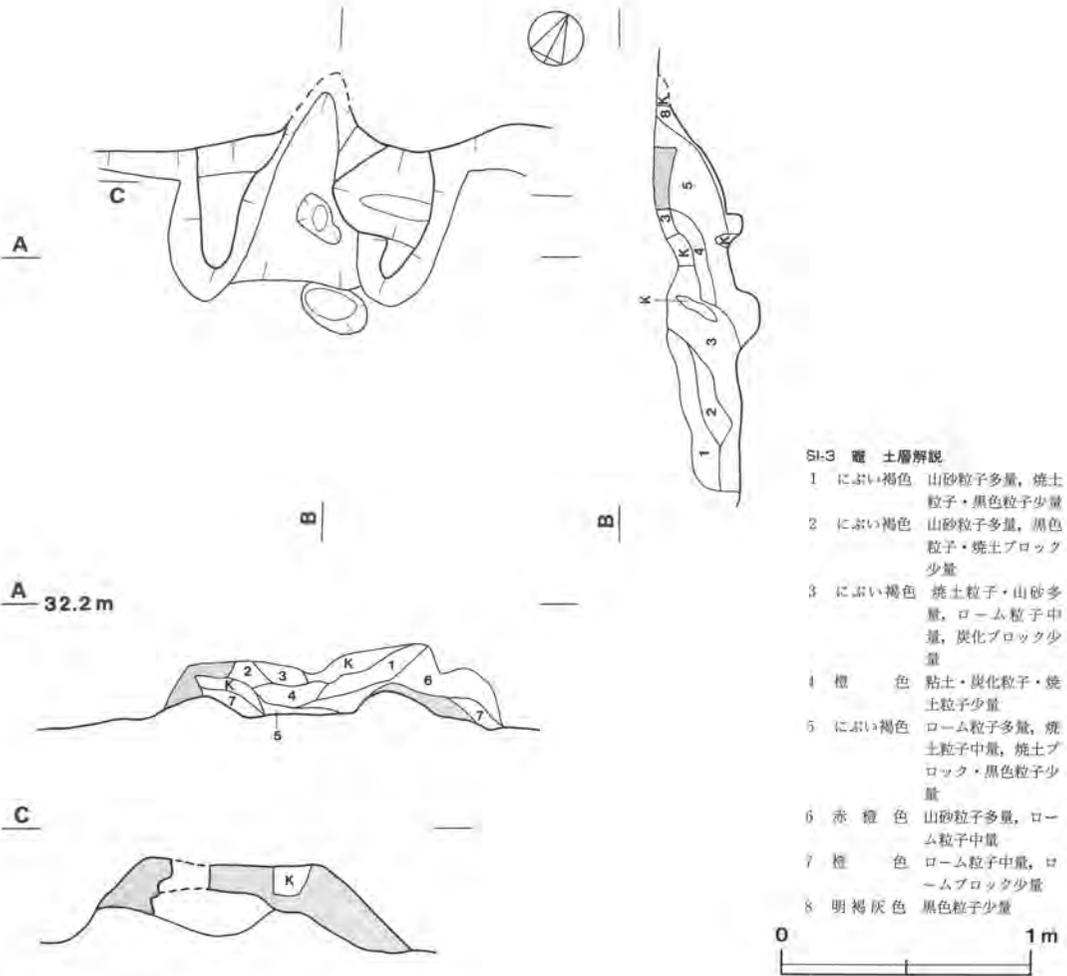
所見 本跡は，住居跡の形態や出土遺物，特に須恵器の特徴から8世紀第1四半期頃の住居跡と考えられる。



SI-3 土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子多量, ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量, ロームブロック・炭化ブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック・ローム粒子多量, 黒色粒子・焼土粒子少量
- 4 にぶい褐色 黒色粒子多量, 焼土粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子多量
- 6 にぶい褐色 ローム粒子多量, 黒色粒子少量
- 7 にぶい褐色 ローム粒子多量, ロームブロック少量
- 8 灰褐色 山砂中量, 焼土粒子・焼土ブロック・黒色ブロック少量

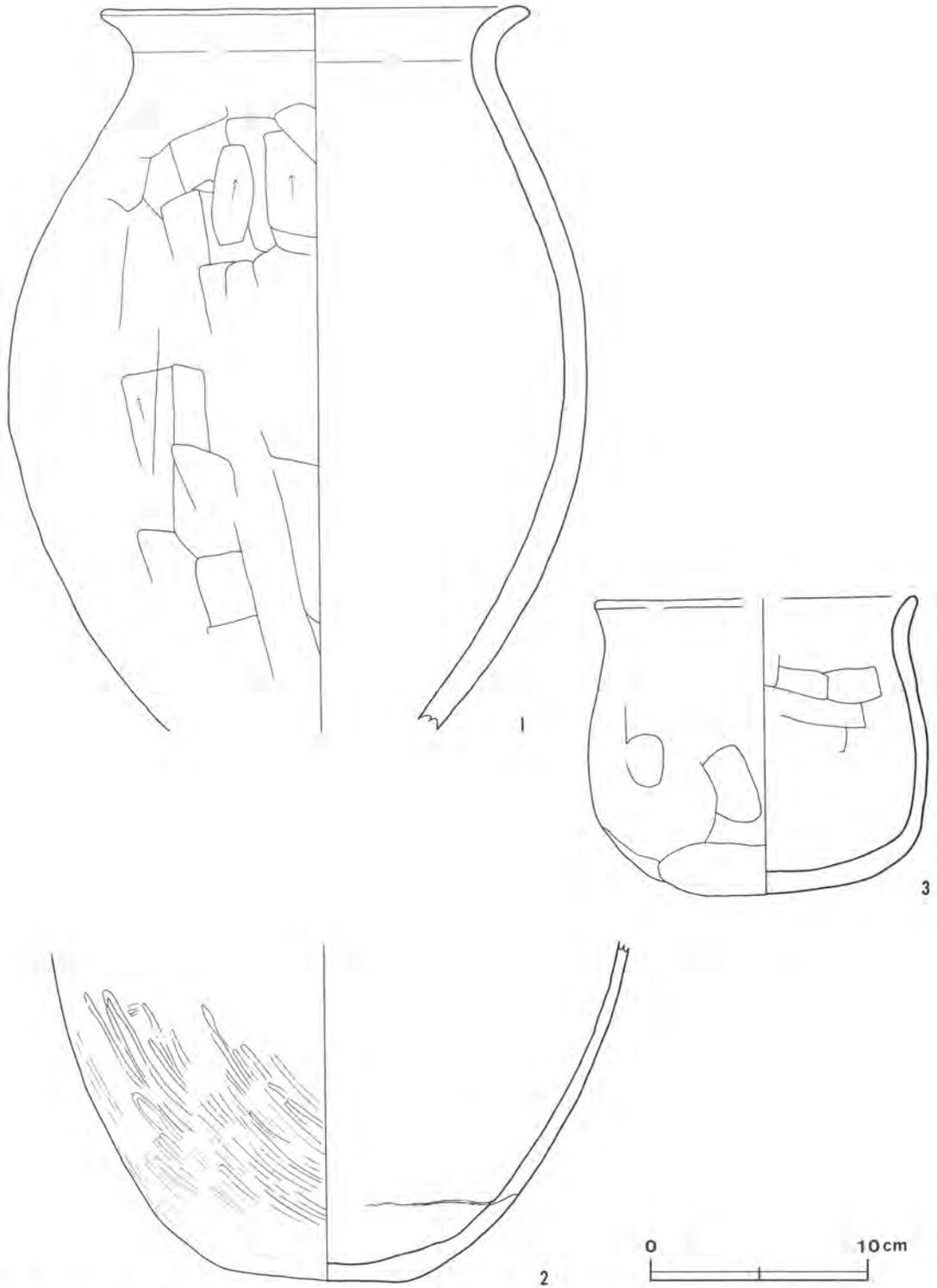
第24図 第3号住居跡実測図



第25図 第3号住居跡竈実測図

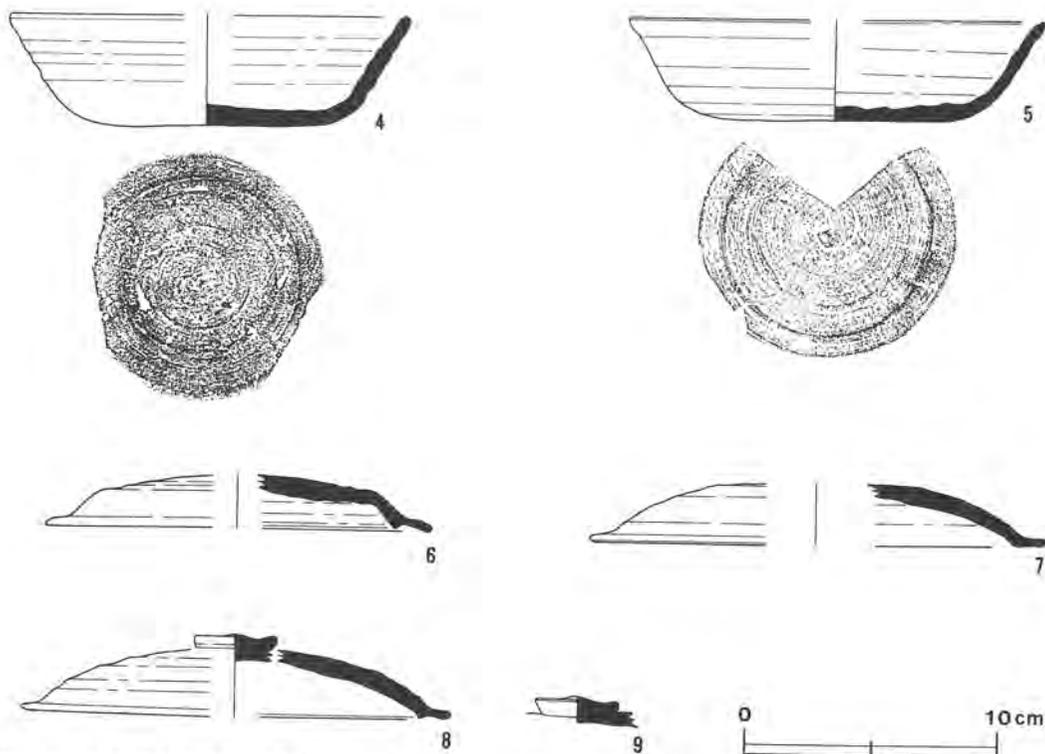
第3号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第26図 1	甕 土師器	A 19.8 B (33.9)	底部欠損。胴部は卵形を呈す。 口縁部は肉厚で強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。胴部外面縦方向のヘラ削り。	長石・石英 浅黄色 普通	90% P 9 二次焼成痕。 南西壁際床面直上。
2	甕 土師器	B (15.8) C 10.0	口縁部欠損。底部は丸底ぎみ。 胴部は内彎しながら外傾する。	胴部ナデ後斜方向の丁寧なヘラ磨き。底部ヘラ削り後一部ヘラ磨き。輪積み痕。	スコリア・雲母・長石 にぶい黄橙色 普通	50% P 10 南西壁際床面直上。
3	小形甕 土師器	A [14.9] B 14.0	胴部一部欠損。底部は丸底ぎみ。 口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。胴部、底部外面は縦方向の粗いヘラ削り、内面ヘラナデ。	小石・長石 にぶい橙色 普通	70% P 11 二次焼成痕。 南部床面直上。
第27図 4	坏 須恵器	A [15.6] B 4.5 C 8.0	体部、口縁部一部欠損。平底。 体部、口縁部は外傾して立ち土がる。	体部はロクロ目を残す。底部回転ヘラ切り。	砂粒・長石 灰白色 不良	50% P 12 竈の西部床面直上。
5	坏 須恵器	A [16.6] B 4.1 C 8.8	底部から口縁部片。平底。体部は外傾し、口縁部はわずかに外反する。口唇部内面に沈線が巡る。	体部はわずかなロクロ目を残す。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り。	砂粒 灰色 良好	40% P 13 竈覆土。



第26図 第3号住居跡出土遺物実測図(1)

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第27図 6	蓋 須恵器	A [15.4] B (2.1)	天井部, 口縁部片。天井部から緩やかに口縁部に至る。口唇部は平行に開き内面にかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り調整。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石 灰白色 普通	25% P14 北西壁際覆土。
7	蓋 須恵器	A [17.8] B (2.5)	天井部, 口縁部片。天井部から緩やかに口縁部に至る。口唇部は平行に開き内面にかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り調整。口縁部内・外面横ナデ。	雲母・長石・石英 淡黄色 良好	20% P15 竈の西部覆土。
8	蓋 須恵器	A [17.2] B (3.7) F 3.2 G 0.5	天井部, 口縁部片。天井部から緩やかに口縁部に至る。口唇部は平行に若干開き内面にかえりが付く。中央部に突出する偏平なつまみが付く。	天井部回転ヘラ削り調整。口縁部内・外面横ナデ。	雲母・長石・石英 浅黄色 不良	30% P16 竈の西部床面直上。
9	蓋 須恵器	B 1.1 F 3.2 G 0.5	天井部片。つまみは中央部がやや突出する。	天井部回転ヘラ削り調整。	雲母・長石・石英 灰白色 良好	15% P17 竈覆土。

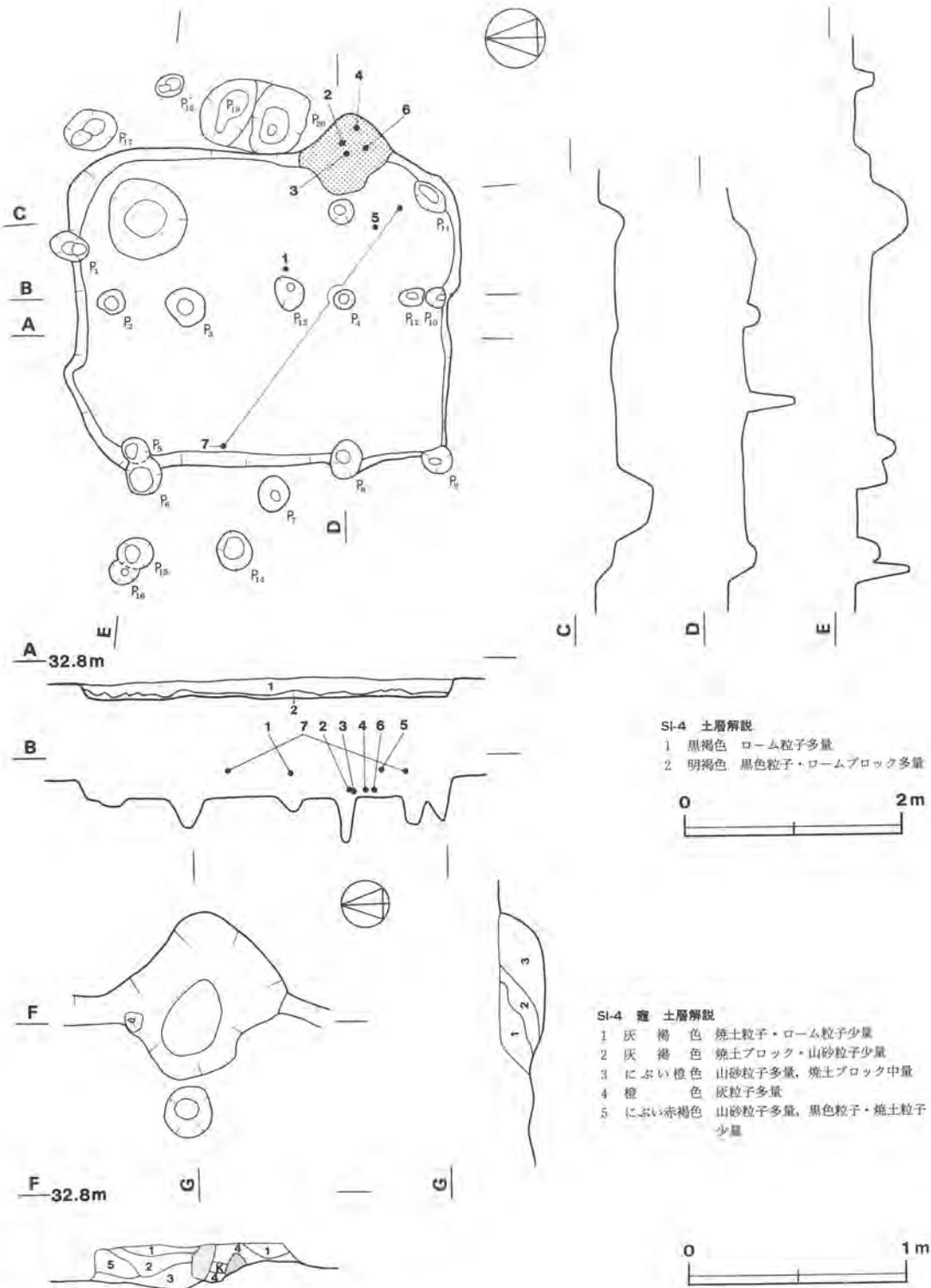


第27図 第3号住居跡出土遺物実測図(2)

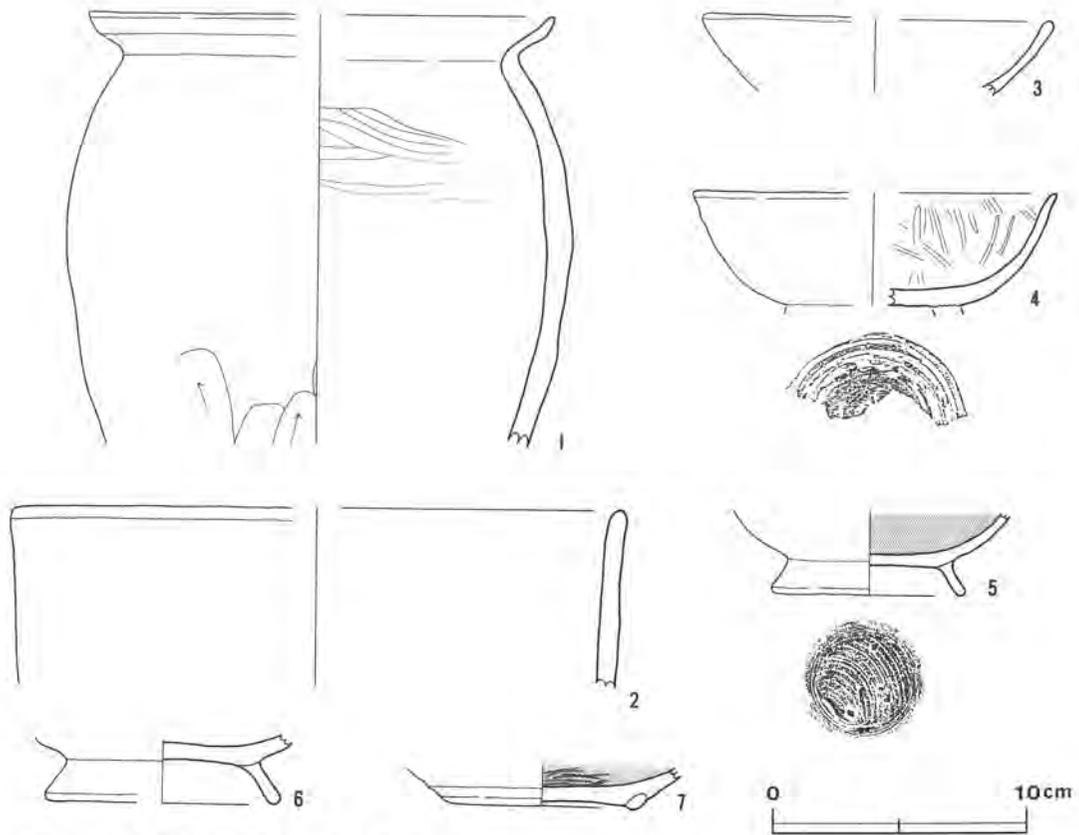
第4号住居跡 (第28図)

位置 調査区の南東部, E7j₆区を中心に確認されている。

規模と平面形 長軸3.6m, 短軸3.0mの隅丸方形を呈している。



第28図 第4号住居跡・竈実測図



第29図 第4号住居跡出土遺物実測図

主軸方向 N-90°-E

壁 壁高は20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、全体的に良く踏み固められて硬い。

ピット 住居跡内 (P₁~P₆, P₈~P₁₃)・外 (P₇, P₁₄~P₂₀) から20か所検出されている。住居跡内のP₃・P₄は、どちらも径20cmで円形を呈し、深さはP₃が26cm, P₄が42cmあり、支柱穴と考えられる。P₁, P₂, P₅~P₁₂は、長径20~40cm, 短径20~30cmの楕円形を呈し、深さ20cm程で、支柱穴と考えられる。P₁₃~P₂₀は、不明である。

貯蔵穴 北東コーナーに検出されている。径78cmで円形を呈し、深さ30cmの皿状を呈している。

竈 東壁中央から南寄りを壁外へ35cm程掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は長さ80cm, 幅72cmである。北側の袖部からは、柱状の凝灰岩を袖の芯材として使用していたと思われる小ピットが検出されている。竈の遺存は悪く、潰れた状態で検出されている。火床の西側からは、泥岩で作られた円錐状の支脚が横位で出土している。火床は、床面を僅かに皿状に掘り窪め赤変硬化している。煙道は、火床から緩やかに立ち上がっている。

覆土 自然堆積。

遺物 竈内や住居跡中央部の覆土から土師器片（甕1，甗1，坏5，細片22点）が少量出土している。その他，流れ込みと思われる縄文式土器片や陶磁器片が出土している。5と7は，いずれも内面黒色の土師器の坏で南東コーナー付近の覆土から出土している。竈内からは，土師器の4の高台付坏や2の甗片が出土している。

所見 本跡は，出土遺物や住居跡の形態から10世紀の住居跡と考えられる。

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第29図 1	甕 土師器	A [18.6] B (17.5)	胴部，口縁部片。胴部は内彎ぎみに外傾し，口縁部は強く外反し，口唇部で斜方向につまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。胴部外面ナデ後下位縦方向のヘラ削り，内面木目状工具による横ナデ。	石英 にぶい橙色 良好	20% P19 二次焼成痕。 中央部覆土。
2	甗 土師器	A [24.2] B (7.2)	胴部，口縁部片。胴部，口縁部はやや外反しながら直線的に立ち上がる。	口縁部，胴部内・外面横ナデ。	スコリア・長石・石英 にぶい黄橙色 普通	5% P20 竈覆土。
3	坏 土師器	A [13.6] B (3.1)	体部，口縁部片。体部，口縁部は内彎しながら外傾して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面横ナデ。	長石・石英 灰黄褐色 普通	15% P21 竈覆土。
4	坏 土師器	A [14.5] B (4.7)	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら緩やかに立ち上がり，口縁部上位でわずかに外反する。	口縁部，体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。高台接合部に4条の溝。	長石・石英 にぶい黄褐色 良好	40% P23 竈覆土。
5	坏 土師器	B (3.3) D 7.4 E 1.4	底部，体部片。高台は低く，やや外反する。体部は内彎ぎみに外傾する。	体部外面横ナデ。底部回転糸切り。内面黒色処理。	雲母・長石・石英 (外)にぶい黄褐色 (内)黒色 良好	25% P24 南東コーナー覆土。
6	坏 土師器	B (2.9) D [9.0] E 1.7	底部片。高台は直線的に開く。	高台部横ナデ。底部内面放射状にヘラ磨き。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	25% P25 竈覆土。
7	坏 土師器	B (1.8) C 4.0	底部，体部片。高台部を二次加工して，平底にしている。体部は内彎ぎみに外傾する。	体部外面横ナデ。体部，底部内面丁寧なヘラ磨き。内面黒色処理。	小石 (外)浅黄褐色 (内)黒色 普通	20% P22 南東コーナー覆土。

第5号住居跡（第30図）

位置 調査区の南東部，E7i4区を中心に確認されている。本跡の東側3mには，第4号住居跡が確認されている。

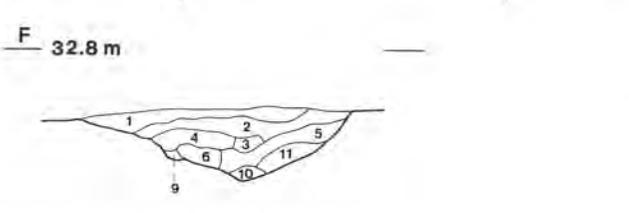
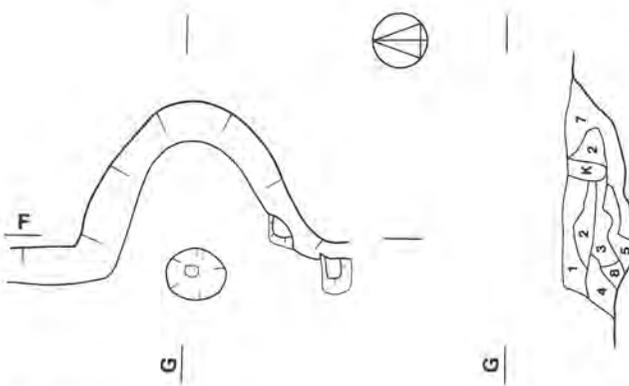
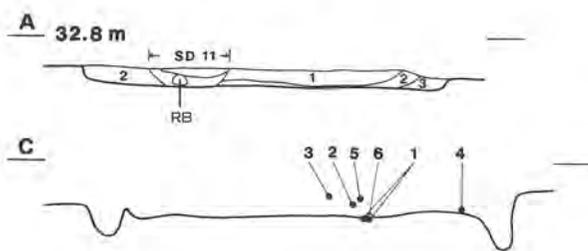
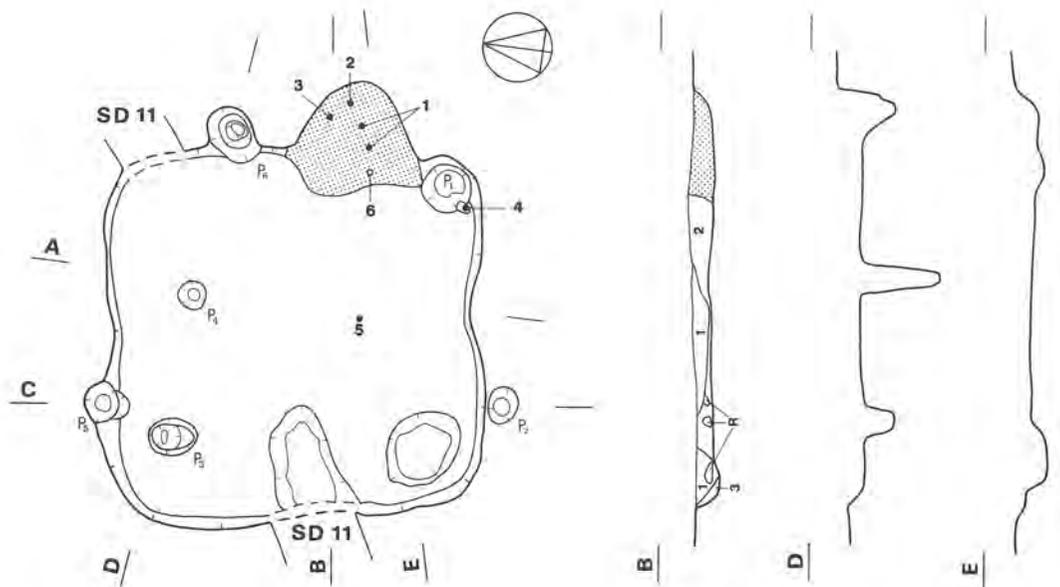
重複関係 本跡の北東コーナーと西壁の中央部は，第11号溝に掘り込まれている。

規模と平面形 径3.1mの隅丸方形を呈している。

主軸方向 N-73°-E

壁 壁高は8～23cmで，北・東壁は緩やかに外傾して立ち上がっているのに対し，南・西壁はほぼ垂直に立ち上がっている。

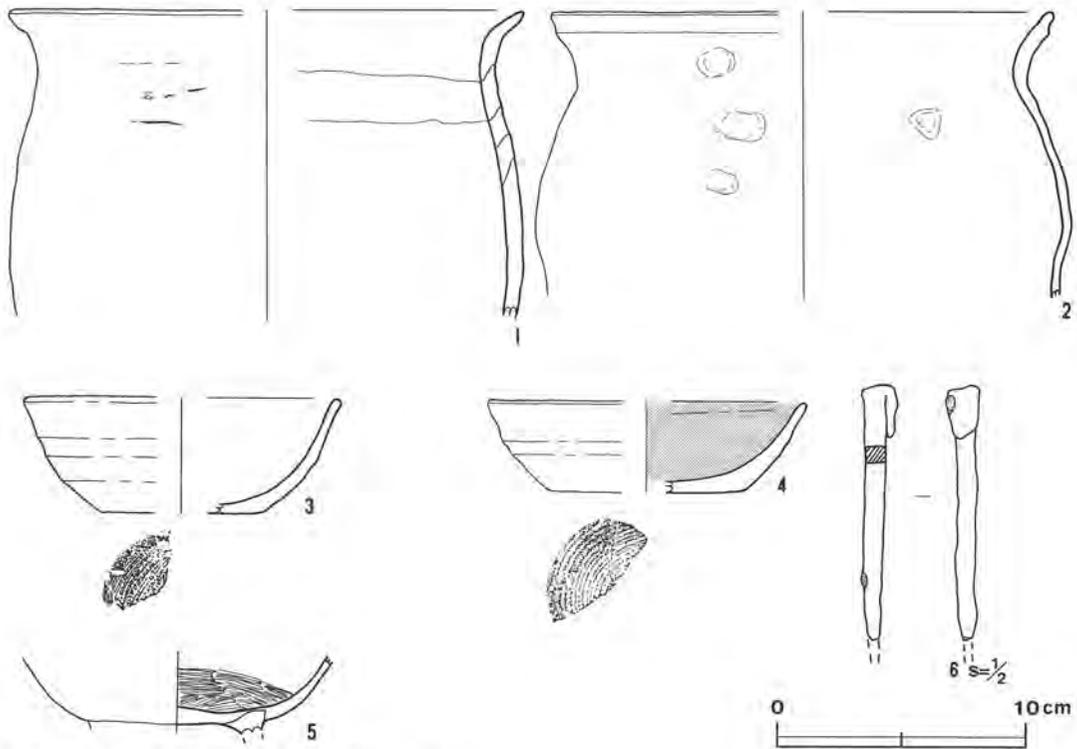
床 ほぼ平坦で，全体的に硬く，特に竈の付近を中心に良く踏み固められている。



- SI-5 土層解説
- 1 暗褐色 パミス粒子中量, ローム粒子少量
 - 2 黒褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・パミス粒子少量
 - 3 明褐色 ローム粒子多量
- 0 2m

- SI-5 竈土層解説
- 1 赤黒色 黒色粒子多量, ローム粒子・砂・焼土粒子・炭化粒子微量
 - 2 暗赤灰色 黒色粒子多量, ローム粒子・砂・焼土粒子・炭化粒子微量
 - 3 にぶい赤褐色 粘土多量, 焼土粒子少量, 砂・ローム粒子微量
 - 4 暗赤褐色 黒色粒子多量, 焼土粒子少量, 粘土・砂・ローム粒子微量
 - 5 暗赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子少量, 炭化粒子・砂微量
 - 6 暗赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
 - 7 赤褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
 - 8 にぶい赤褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子中量, 焼土粒子少量, 砂微量
 - 9 暗赤褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・焼土粒子少量, 砂・粘土微量
 - 10 暗赤褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・焼土ブロック少量, 炭化粒子・砂微量
 - 11 黒褐色 黒色粒子多量, ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量, 砂微量
- 0 1m

第30図 第5号住居跡・竈実測図



第31図 第5号住居跡出土遺物実測図

ピット 6か所 ($P_1 \sim P_6$) 検出されている。 $P_1 \sim P_3$, P_6 は径30~40cmの円形を呈し、深さ22~66cmで、支柱穴と考えられる。 P_4 , P_5 は、性格不明である。

貯蔵穴 南西コーナーに検出されている。長径72cm、短径55cmで楕円形を呈し、深さ10cmの皿状を呈している。

竈 東壁の中央から南寄り壁外に50cm程掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は長さ55cm、幅95cmである。竈内からは、竈の補強材として使用された土師器の甕片が出土している。北側の袖基部からは、芯材として使用されたと思われる柱状の凝灰岩の切石が2個出土している。火床はほぼ平坦で、赤変硬化している。煙道は、火床から緩やかに立ち上がっている。

覆土 自然堆積。

遺物 住居跡中央部の覆土からは、土師器片 (甕2, 坏3, 細片35点) が少量出土している。その他、流れ込みと思われる縄文式土器が極少量出土している。4の土師器の坏は、南西壁付近の床面直上から出土している。竈内からは、1や2の大きめの甕片や甕の胴部の細片が10数片出土しており、いずれも火を受けた痕跡がある。これらの土師器の破片は、竈の補強のために使用したものと考えられる。

所見 本跡は、重複関係から第11号溝より古い。出土遺物や住居跡の形態から10世紀の住居跡と考えられる。

第5号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	法量 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第31図 1	甕 土師器	A [20.6] B (12.6)	胴部、口縁部片。胴部は内彎ぎみに外傾し、口縁部は直線的に立ち上がり、上位近くで外反する。	口縁部、胴部内・外面横ナデ。	小石・長石にぶい橙色 普通	30% P27 二次焼成痕。 甕覆土。
2	甕 土師器	A [20.0] B (11.7)	胴部、口縁部片。胴部は内彎しながら外傾し、頸部は「く」の字状に開き、口唇部外面にわずかな凹線を有す。	口縁部内・外面横ナデ。胴部外面ナデ。	スコリア・長石・石英 橙色 普通	15% P28 二次焼成痕。 指頭圧痕。 甕覆土。
3	坏 土師器	A [12.4] B 4.7 C [6.4]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾し、口縁部上位でわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面横ナデ。底部静止糸切り。	雲母・長石・石英 ぶい黄橙色 普通	25% P29 二次焼成痕。 甕覆土。
4	坏 土師器	A [12.6] B 4.7 C [7.6]	底部から口縁部片。平底。体部は器肉を減しながら内彎し、口縁部でわずかに外反する。	口縁部、体部外面横ナデ。底部回転糸切り。内面黒色処理。	雲母・長石・石英 (外)にぶい黄橙色 (内)青黒色 普通	20% P30 南西コーナー付 近床面直上。
5	坏 土師器	B (3.4)	底部、体部片。平底。体部は内彎しながら外傾する。	底部回転ヘラ切り。体部外面横ナデ、内面ヘラ磨き。	長石・石英 にぶい橙色 普通	40% P31 二次焼成痕。 中央部覆土。

図版番号	器種	法量				特徴	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
6	角釘	(6.9)	1.0	0.4	(6.6)	頭部を180°折り曲げている	甕底面	鉄製 M2

第6号住居跡 (第32図)

位置 調査区の南部、E7f₁区に確認されている。

重複関係 本跡の南壁中央部は、第830号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.1m、短軸2.9mの隅丸方形を呈している。

主軸方向 N-10°-W

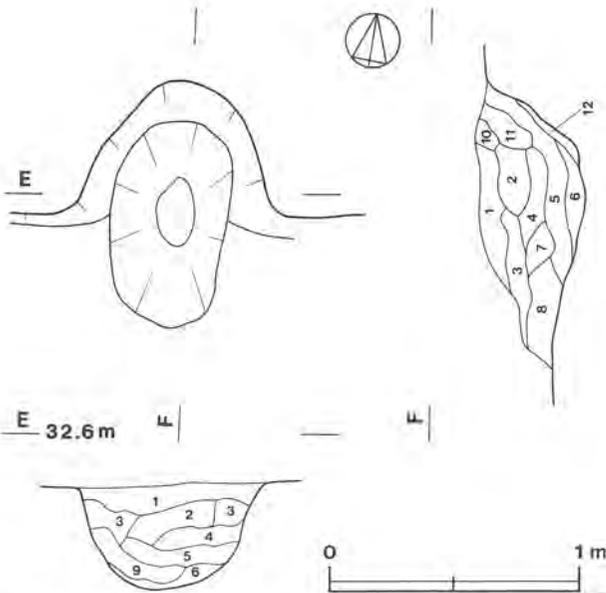
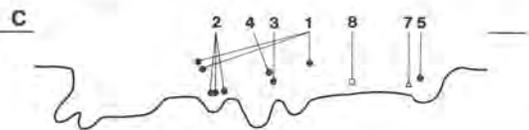
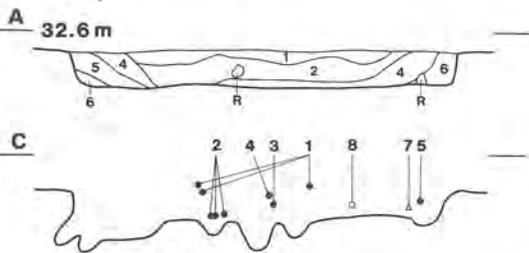
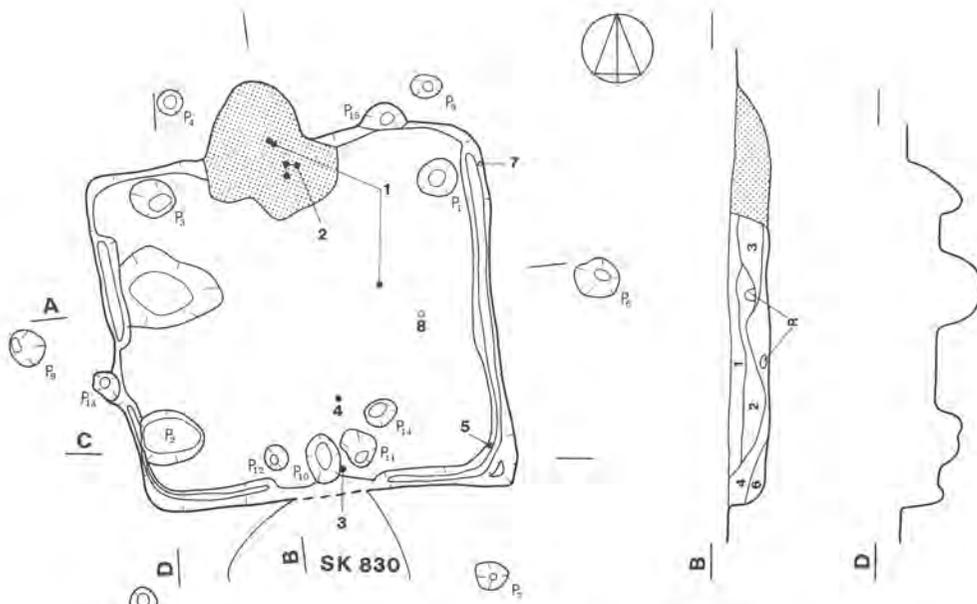
壁 壁高は20~35cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝 南・西壁下の中央部を除いた部分に検出されている。幅10~20cm、深さ6cmで、断面形は「└」状を呈している。

床 ほぼ平坦で、中央部や出入口付近が良く踏み固められて硬い。

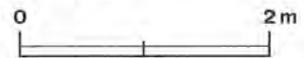
ピット 住居跡の内 (P₁~P₃, P₁₀~P₁₅)・外 (P₄~P₉) から合わせて15か所検出されている。P₁~P₃は径20~50cmの円形を呈し、深さ15~45cmで、支柱穴と考えられる。また、P₄~P₉はP₁~P₃と同じ規模を呈しており、壁外柱穴と考えられる。P₁₀~P₁₂は径20~40cmの円形を呈し、深さ10~22cmで出入口施設に伴うピットと考えられる。P₁₃~P₁₅は、性格不明である。

貯蔵穴 西壁の中央から北寄りに検出されている。長径83cm、短径50cmの楕円形を呈し、深さ35cmの皿状を呈している。



SI-6 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ロームブロック・焼土粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 山砂ブロック・焼土粒子少量
- 4 靑褐色 ローム粒子多量, ロームブロック少量
- 5 極暗褐色 ローム粒子中量
- 6 にぶい褐色 ローム粒子多量

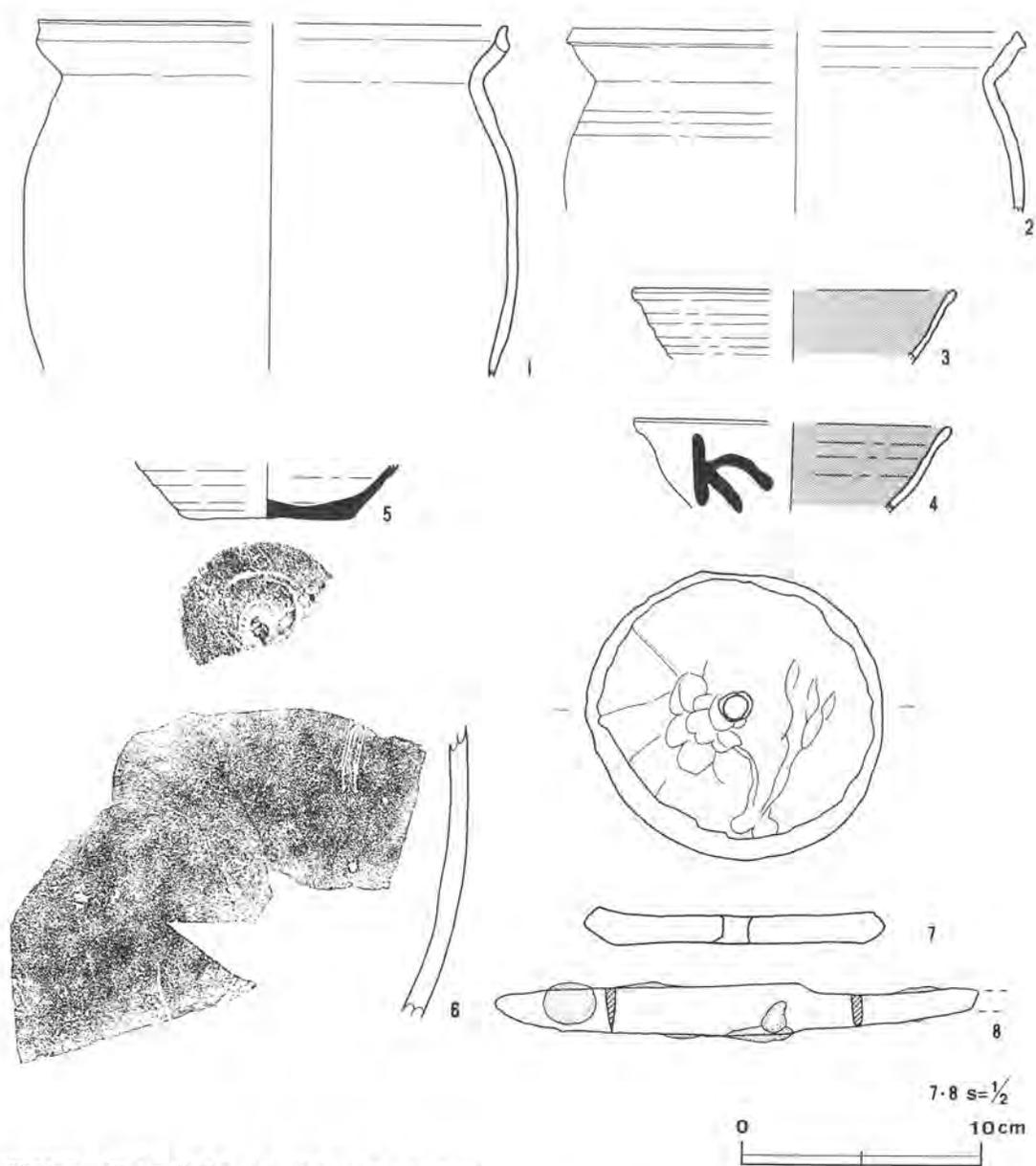


SI-6 竈土層解説

- 1 黒褐色 黒色粒子多量, ローム粒子中量, 粘土・砂・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 にぶい赤褐色 粘土中量, 黒色粒子・ローム粒子・砂・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗赤褐色 黒色粒子多量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量, 粘土・砂微量
- 4 極暗赤褐色 黒色粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 粘土・砂微量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗赤褐色 黒色粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子中量, 焼土ブロック少量, 砂微量
- 6 にぶい赤褐色 黒色粒子・焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量, 砂微量
- 7 極暗赤褐色 黒色粒子多量, 粘土・焼土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量, 砂微量
- 8 暗赤褐色 黒色粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 砂・粘土・ローム粒子・焼土ブロック微量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量, 粘土・砂微量
- 10 暗赤褐色 黒色粒子・焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量, 粘土・砂微量
- 11 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量, ローム粒子・砂微量
- 12 暗赤褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・焼土粒子少量, 砂微量



第32図 第6号住居跡・竈実測図



第33図 第6号住居跡出土遺物実測・拓影図

竈 北壁の中央部を壁外へ50cm程掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は長さ100cm、幅85cmである。竈の付近に竈に使用した粘土や焼土が検出され、遺存状況は悪い。火床は、長径84cm、短径44cm、深さ12cmで、浅く皿状に掘り窪められ、レンガ状に赤変硬化している。煙道は、火床から急な傾斜で立ち上がっている。

覆土 自然堆積。

遺物 住居跡の中央部、南壁中央付近、及び竈内からは土師器片（甕2、坏2、細片77点）を中心に須恵器片（坏1、細片13点）や鉄製品が出土している。4の土師器の内面黒色の坏は、南部

の覆土下層から出土したもので、「万」の墨書がある。7の土製品は、土師器の甕の底部を二次加工したもので、北東コーナーの壁に張り付いた状態で出土している。須恵器の甕の胴部片は、南壁際の床面直上や覆土下層から4片出土している。8の刀子は、東壁際の覆土下層から出土している。

所見 本跡は、重複関係から第830号土坑より古い。出土遺物や住居跡の形態から9世紀後半の住居跡と考えられる。

第6号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第33図 1	甕 土師器	A [19.6] B (14.9)	胴部，口縁部片。胴部は内彎しながら外傾して，口唇部はつまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。胴部外面ナデ。	長石・石英 橙色 普通	10% P32 二次焼成痕。 甕覆土。
2	甕 土師器	A [18.6] B (7.8)	口縁部片。口縁部は外反し，口唇部をわずかにつまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 にぶい褐色 良好	5% P33 甕覆土。
3	坏 土師器	A [13.8] B (3.1)	体部，口縁部片。体部の器肉は非常に薄い。口縁部上位は肉厚になり，わずかに外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ロクロ目を残す，内面丁寧なヘラ磨き。内面黒色処理。	長石・石英 (外)にぶい橙色 (内)黒色 良好	30% P34 南壁付近覆土。
4	坏 土師器	A [13.4] B (3.8)	体部，口縁部片。体部は内彎ぎみに外傾し，口縁部で器肉が厚くなり，わずかに外反する。	口縁部横ナデ。体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	スコリア・小石・ 長石・石英 (外)にぶい黄褐色 (内)黒色 普通	10% P35 体部に「万」の 墨書。 南部覆土。
5	坏 須恵器	B (2.4) C (7.2)	底部，体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部は回転ヘラ切り後一部ナデ調整。体部外面はロクロ目を残す。	砂粒 灰白色 普通	20% P36 南西コーナー付近覆土。

図版番号	器種	法量				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
7	不明	8.3	8.0	0.9	65.0	北東コーナー際床面直上	土師器の甕転用，二次加工痕，花の線刻，9c後，孔径0.7cm DP 1

図版番号	器種	法量				特徴	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
8	刀子	(13.3)	1.4	0.2	(11.6)	茎の端部を欠損	東壁寄り覆土	鉄製 M3

第7号住居跡 (第34図)

位置 調査区の南部，E6i₉区を中心に確認されている。

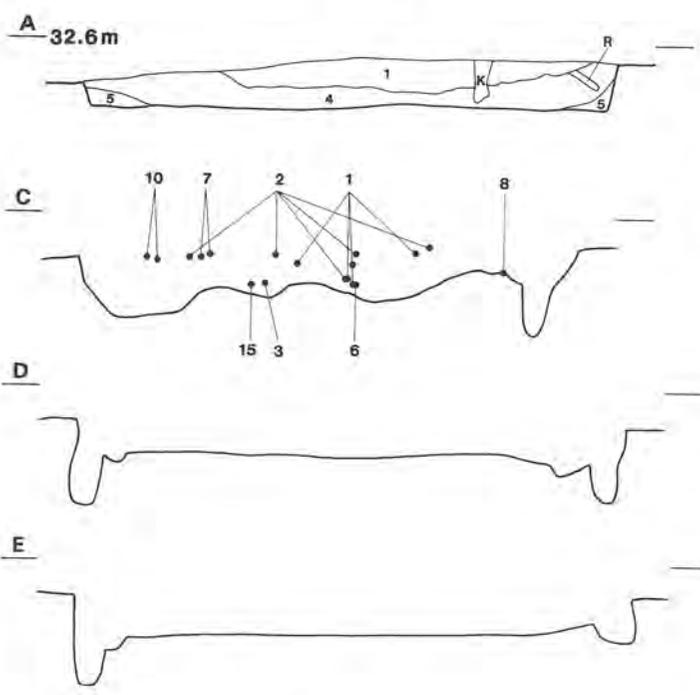
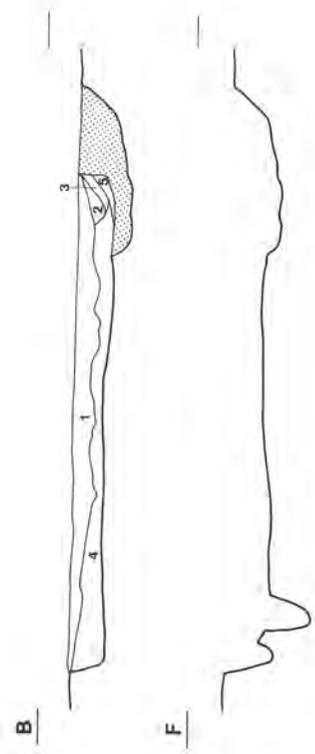
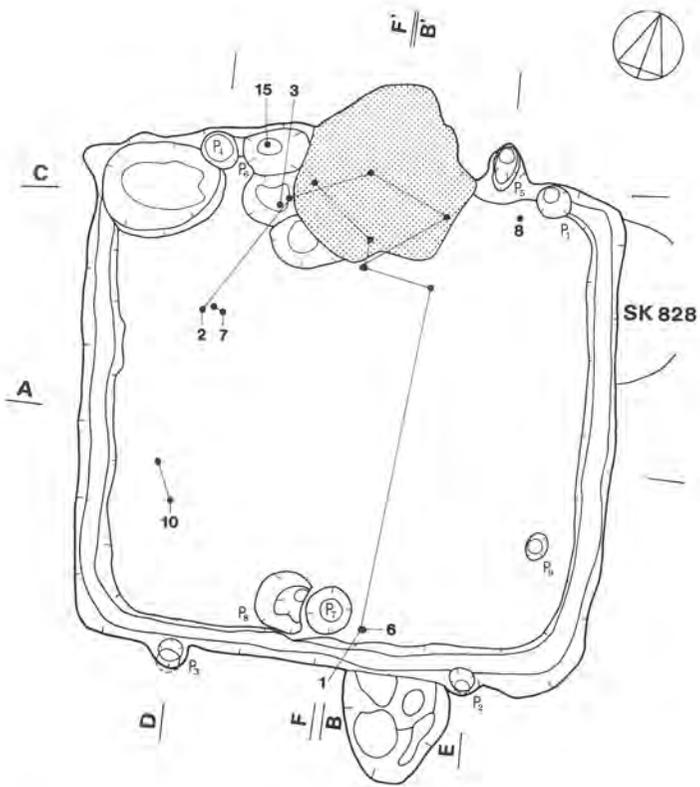
重複関係 本跡の北東コーナーは，第828号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸4.4m，短軸4.3mの隅丸方形を呈している。

主軸方向 N-14°-W

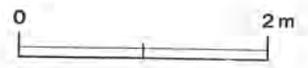
壁 壁高は20~28cmで，垂直に立ち上がっている。

壁溝 東・西・南壁下に検出されている。幅25cm，深さ12cmで，断面形は「U」字状を呈している。

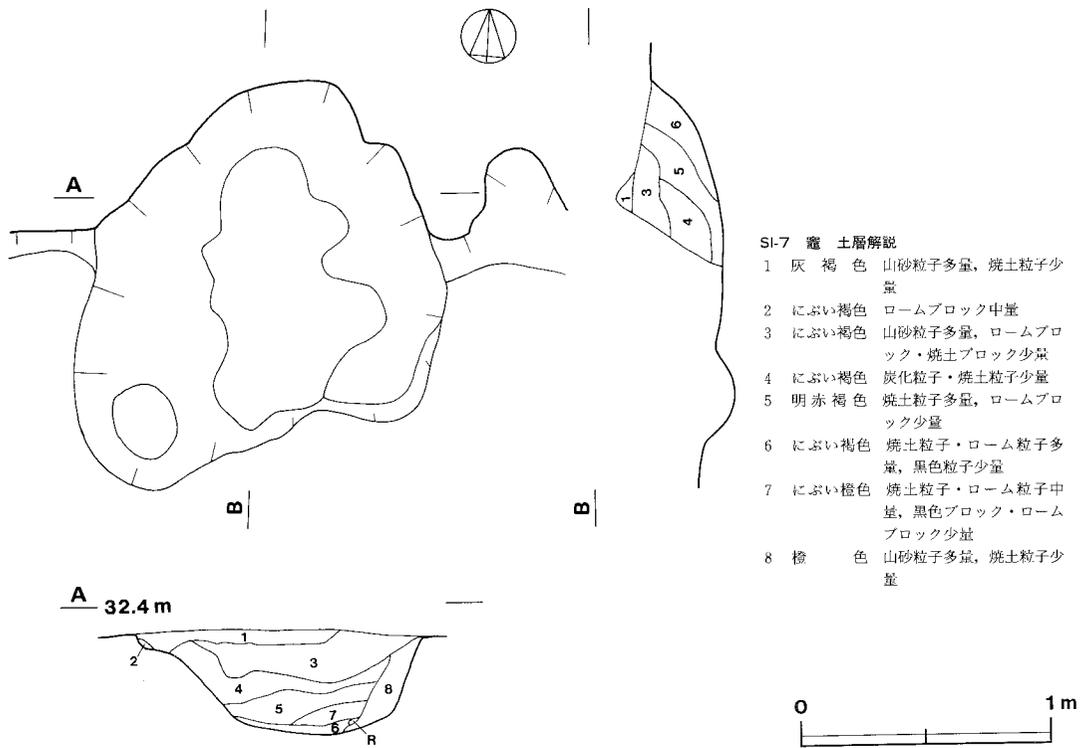


SI-7 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 におい褐色 焼土ブロック中量, 焼土粒子・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子多量
- 4 褐色 ローム粒子多量, 黒色粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子多量



第34図 第7号住居跡実測図



第35図 第7号住居跡竈実測図

床 平坦で、住居跡の中央部を中心に良く踏み固められて硬い。

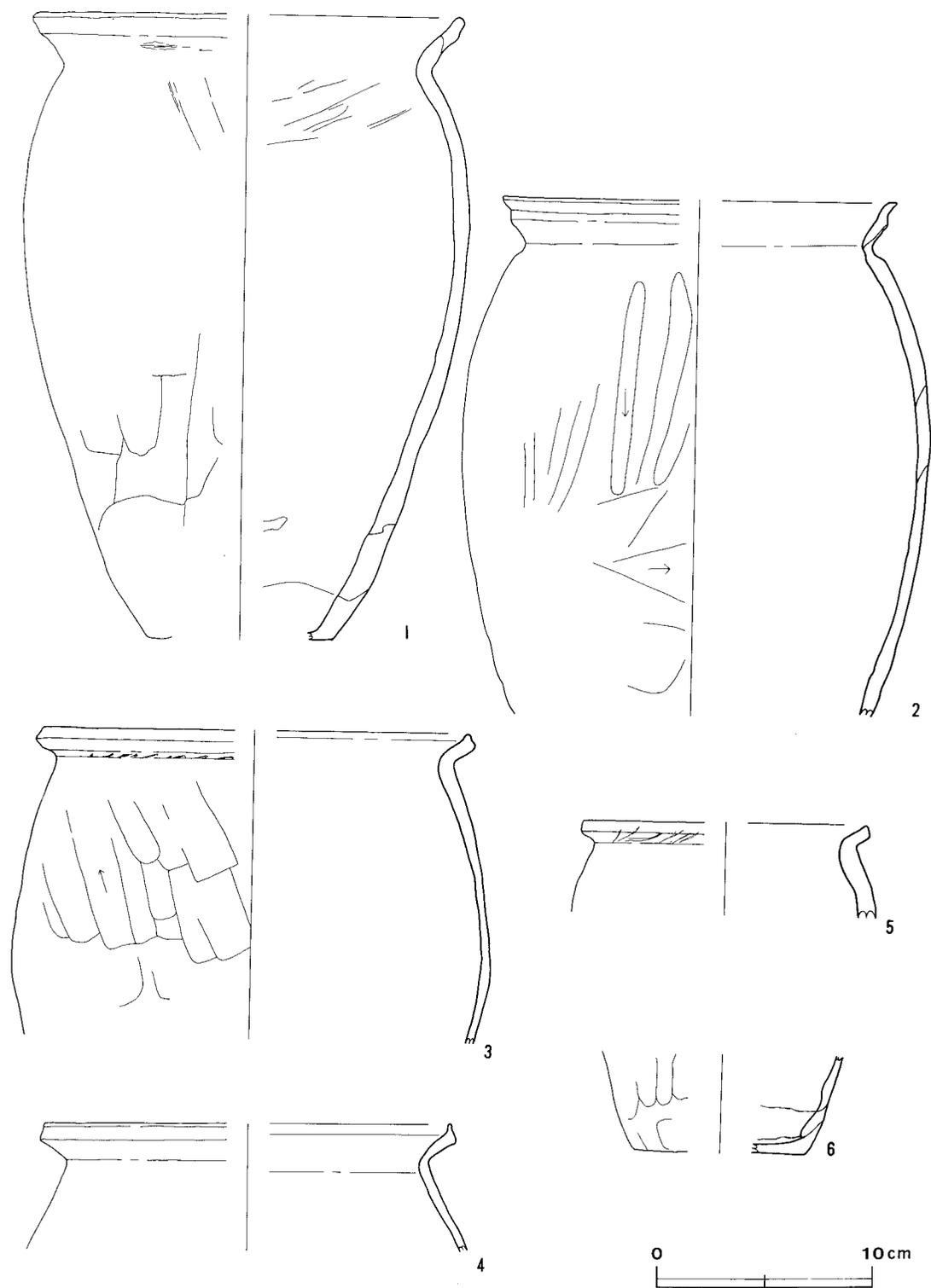
ピット 9か所 (P₁~P₉) 検出されている。P₁~P₆は径20~30cmの円形を呈し、深さ30~40cmで、ピットの上位が、住居跡の中央部に向かって傾斜している壁柱穴である。P₇は径40cmの円形を呈し、深さ36cm程で出入口施設に伴うピットと考えられる。P₈, P₉は、性格不明である。

竈 北壁のほぼ中央部を壁外へ60cm程掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は長さ150cm、幅160cmである。西側の袖部には、柱状の凝灰岩の切石を芯として使用している。竈は遺存状態が悪く、崩壊して住居内に流出している。竈の燃焼部からは、焼土が少量検出されている。火床は、不整形円形を呈し、浅く皿状に掘り窪められ、赤変硬化している。煙道は、火床から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

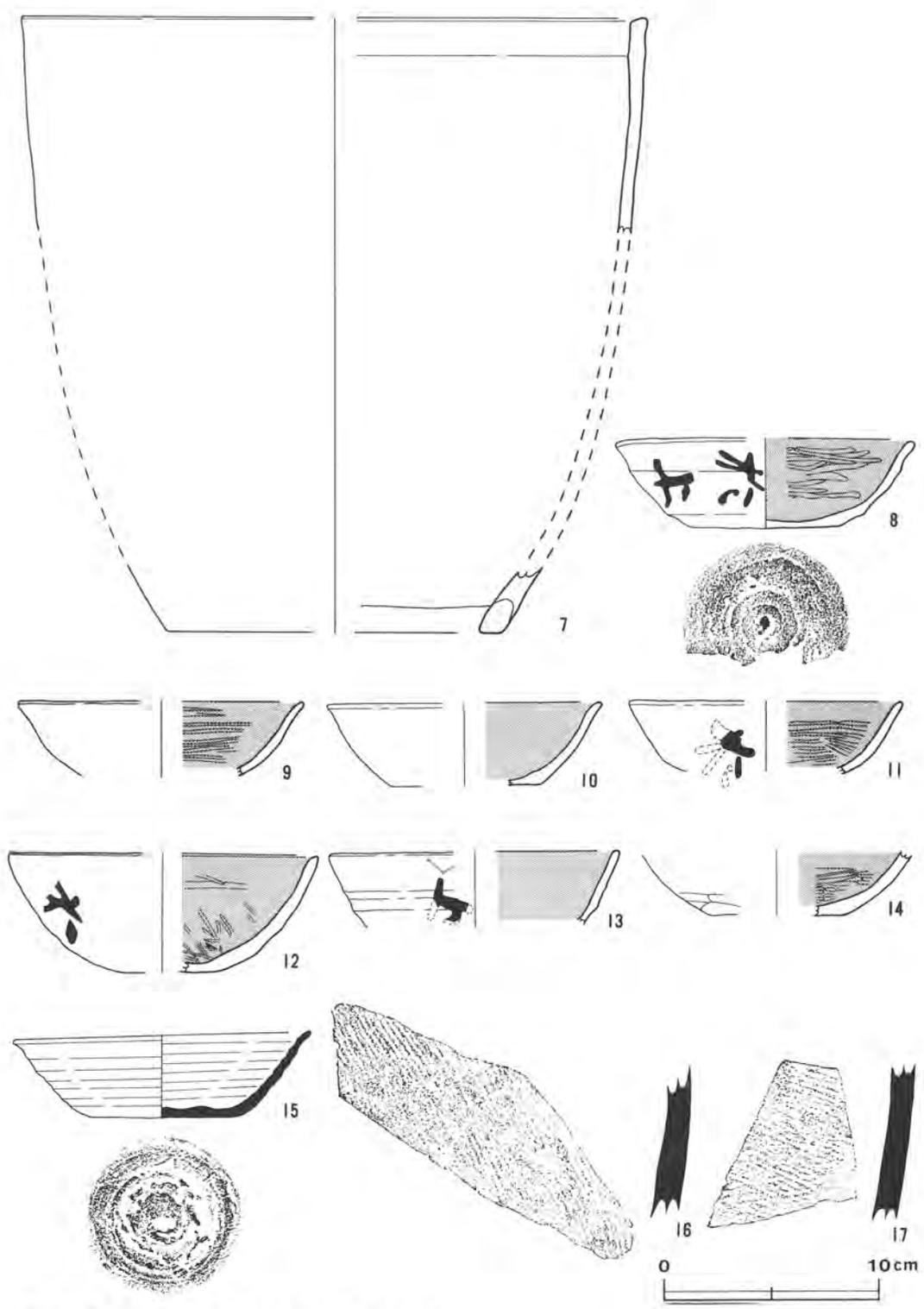
覆土 自然堆積。

遺物 住居跡西部からは、土師器片 (甕6, 甑1, 坏7, 細片266点) を中心に須恵器 (坏1, 細片9点) の細片や礫が多量に出土している。その他、流れ込みと思われる内耳鍋片は覆土上層から出土している。1や2の土師器の甕は、竈の覆土下層から出土している。3の土師器の甕は、竈付近の床面直上から出土している。8の土師器の内面黒色の坏は、墨書土器で、北壁際の床面直上から出土している。その他、須恵器の甕の細片は西壁寄りの覆土下層から出土している。

所見 本跡は、重複関係から第828号土坑より新しい。出土遺物や住居跡の形態から9世紀後半の住居跡と考えられる。



第36图 第7号住居迹出土遗物实测图(1)



第37図 第7号住居跡出土遺物実測・拓影図(2)

第7号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第36図 1	甕 土師器	A [19.6] B 29.7 C [8.6]	平底。肩は張らずに長胴を呈し、口縁部は外反し、上位でさらに外反している。	口縁部内・外面横ナデ。胴部外面下位は縦方向のヘラ削り、上位は横方向のヘラナデ。	小石・砂粒 にぶい橙色 普通	60% P37 甕覆土下層。
2	甕 土師器	A [18.2] B (24.6)	胴部、口縁部片。肩は張らずに長胴を呈す。口縁部は外反し、断面「S」字状を呈する。	口縁部横ナデ。胴部外面下位は横方向の粗いヘラ削り、上位は縦方向のナデ。内面ナデ。	長石・石英 にぶい赤褐色 良好	20% P38 甕覆土。
3	甕 土師器	A [19.8] B (14.7)	胴部、口縁部片。肩は張らない。口縁部は短く外反する。口唇部は上方につまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。胴部外面縦方向のヘラ削り、内面は剥離。	小石・長石・石英 にぶい橙色 普通	20% P39 甕付近床面直上。
4	甕 土師器	A [19.0] B (6.0)	口縁部片。口縁部は短く強く外反し、口唇部はわずかに上方につまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 橙色 良好	5% P41 二次焼成痕。 覆土。
5	小形甕 土師器	A [13.4] B (4.7)	口縁部片。口縁部は短く外反している。口唇部は上方につまみ上げている。	口縁部外面横ナデ後一部ヘラナデ、内面横ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	10% P43 甕覆土。
6	甕 土師器	B (4.7) C [8.0]	底部、胴部片。平底。胴部はやや内彎して外傾する。	胴部外面縦方向のヘラ削りで、最下位は横方向のヘラ削り。輪積み痕。	小石・長石・石英 灰黄褐色 普通	15% P44 南壁付近床面直上。
第37図 7	甕 土師器	A [29.0] B (13.2) C [15.6]	底部、口縁部片。無底式。口唇部には、わずかに凹線を有す。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 淡黄色 普通	10% P46 西部覆土。
8	坏 土師器	A [14.0] B 4.3 C [7.2]	平底。体部は内彎しながら緩やかに外傾し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部横ナデ。体部外面弱いロクロ目を残す、内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り。内面黒色処理。	長石・石英 (外)にぶい橙色 (内)黒色 普通	50% P47 墨書「於上」。 北壁際床面直上。
9	坏 土師器	A [13.3] B (3.5)	体部、口縁部片。体部は内彎しながら外傾し、口縁部でわずかに外反する。	口縁部横ナデ。体部外面横ナデ、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	小石・スコリア・ 長石・石英 (外)にぶい黄褐色 (内)黒色 普通	40% P49 甕覆土。
10	坏 土師器	A [12.6] B 3.9 C [7.0]	体部、口縁部片。底部と体部の稜は明瞭で、体部は外傾して立ち上がる。口縁部上位は外反する。	体部外面横ナデ、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒 (外)にぶい黄褐色 (内)黒色 普通	40% P50 西部覆土。
11	坏 土師器	A [12.8] B (3.4)	体部、口縁部片。器内は全体的に均一である。体部下位にわずかな稜を持つ。体部、口縁部は直線的に立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面横ナデ、内面丁寧なヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒 (外)橙色 (内)オリーブ黒色 良好	15% P51 墨書「於」。 北部覆土。
12	坏 土師器	A [14.4] B (5.6) C [5.0]	底部から口縁部片。小さな平底。体部は内彎ぎみに外傾し、口縁部は直線的に立ち上がる。	体部外面横ナデ、内面丁寧なヘラ磨き。内面黒色処理。	小石・スコリア (外)灰黄褐色 (内)黒褐色 普通	20% P52 墨書「於」。 南部覆土。
13	坏 土師器	A [13.6] B (3.5)	体部、口縁部片。体部、口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面にロクロ目を残す、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	長石 (外)灰黄褐色 (内)黒色 良好	5% P53 墨書「上」。 北部覆土。
14	坏 土師器	B (3.0) C [6.4]	底部、体部片。平底。体部は内彎しながら外傾する。	体部外面下位横方向のヘラ削り、中位横ナデ、内面ヘラ磨き。底部静止ヘラ切り。内面黒色処理。	長石 (外)にぶい橙色 (内)黒褐色 普通	15% P55 南部覆土。
15	坏 須恵器	A 13.7 B 4.0 C 6.5	平底。底部と体部の稜は不明瞭。体部は直線的に外傾し、口縁部上位は強く外反する。	体部外面強いロクロ目を残す。底部回転ヘラ切り。	長石・石英 にぶい黄褐色 不良	90% P57 ススが附着。 北壁際覆土下層。

第37図の16・17は、須恵器の甕片の拓影図で、外面に平行タタキ目が見られる。

第9号住居跡 (第38図)

位置 調査区の南東部, E9e,区を中心に確認されている。

規模と平面形 長軸3.0m, 短軸2.5m の隅丸長方形を呈している。

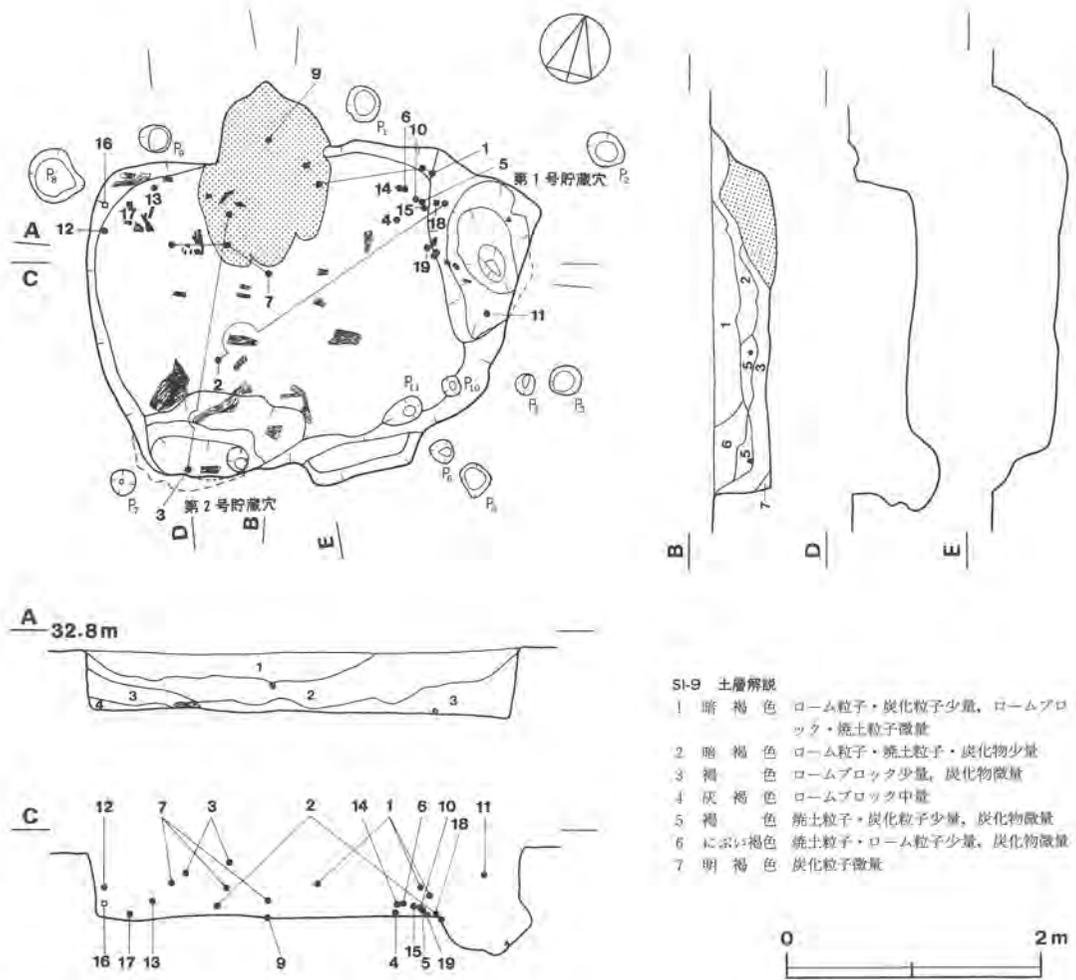
主軸方向 N-25°-W

出入口部 南東壁の中央部に幅1m, 長さ25cm程の張り出し部が検出されている。断面形は, 階段状を呈し, その面は人の出入りによって踏み固められ硬い。

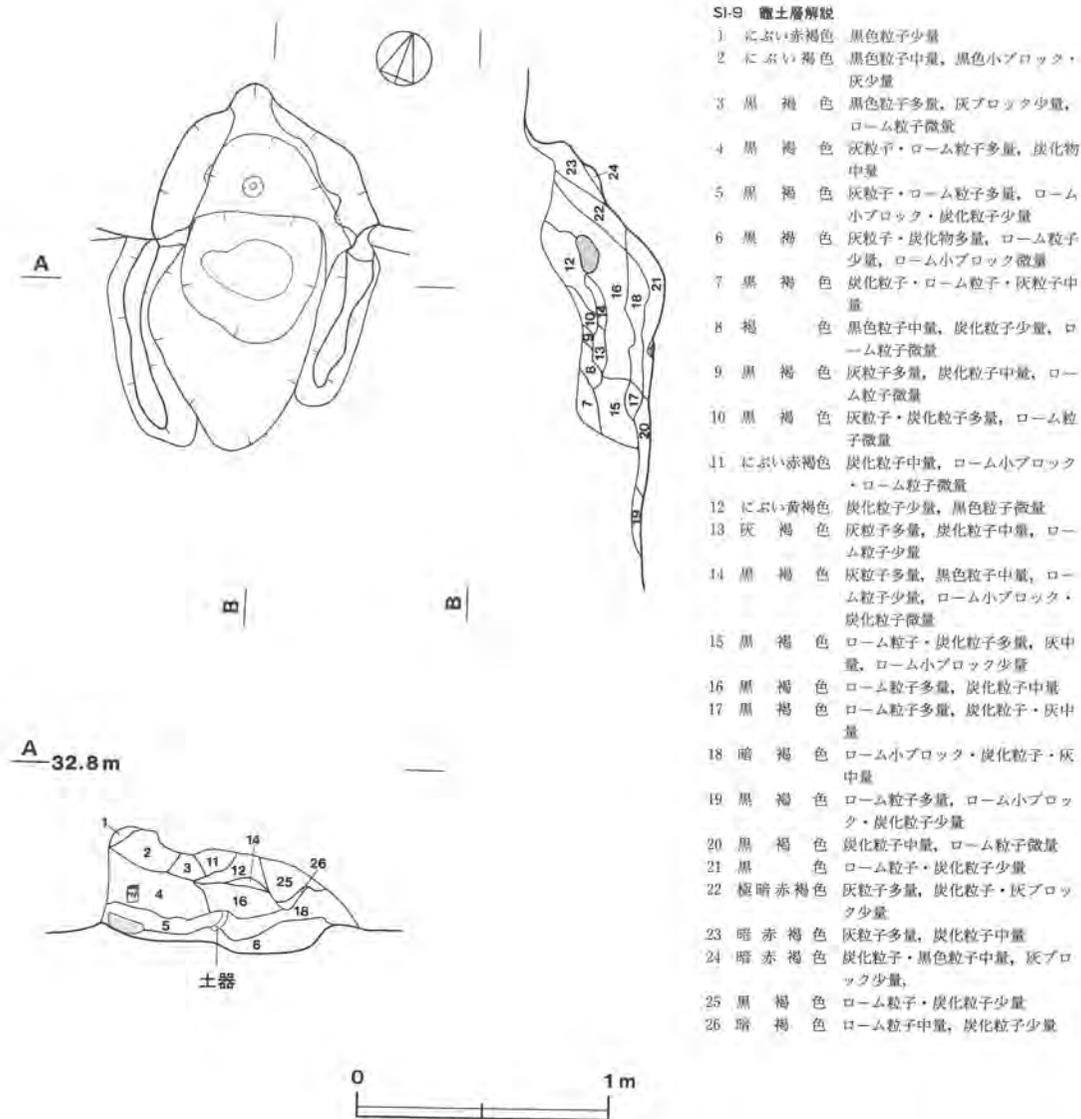
壁 壁高は50cmで, ほぼ垂直に立ち上がっている。

床 若干の窪みが見られるが, 全体的に硬い。

ピット 住居跡の外に11か所 (P₁~P₁₁) 検出されている。壁外から検出されたP₁, P₄~P₇, P₉は, 径18~30cmの円形を呈し, 深さ13~40cmの壁外柱穴と思われる。P₂, P₃, P₈, P₁₀, P₁₁は, 性格不明である。



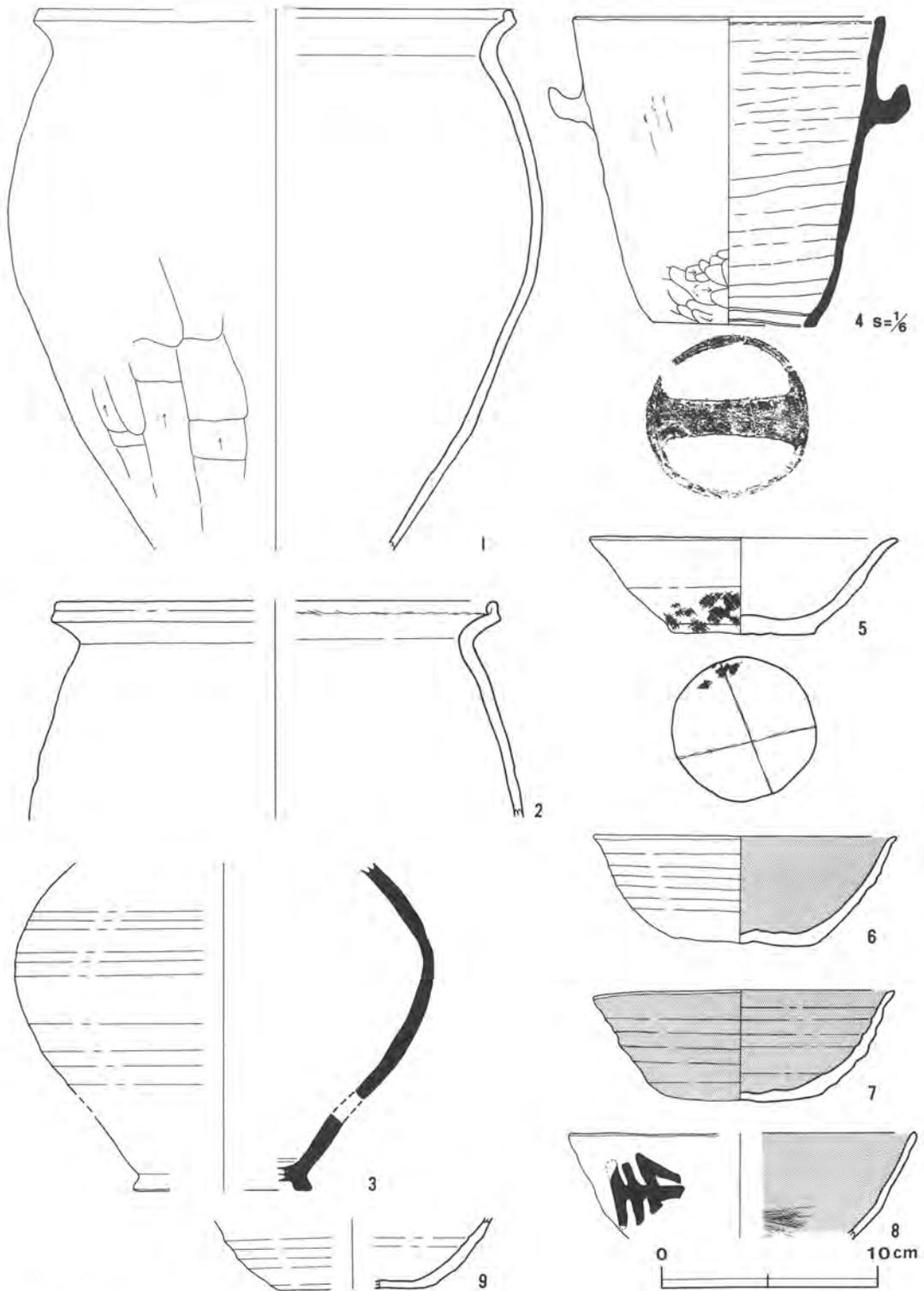
第38図 第9号住居跡実測図



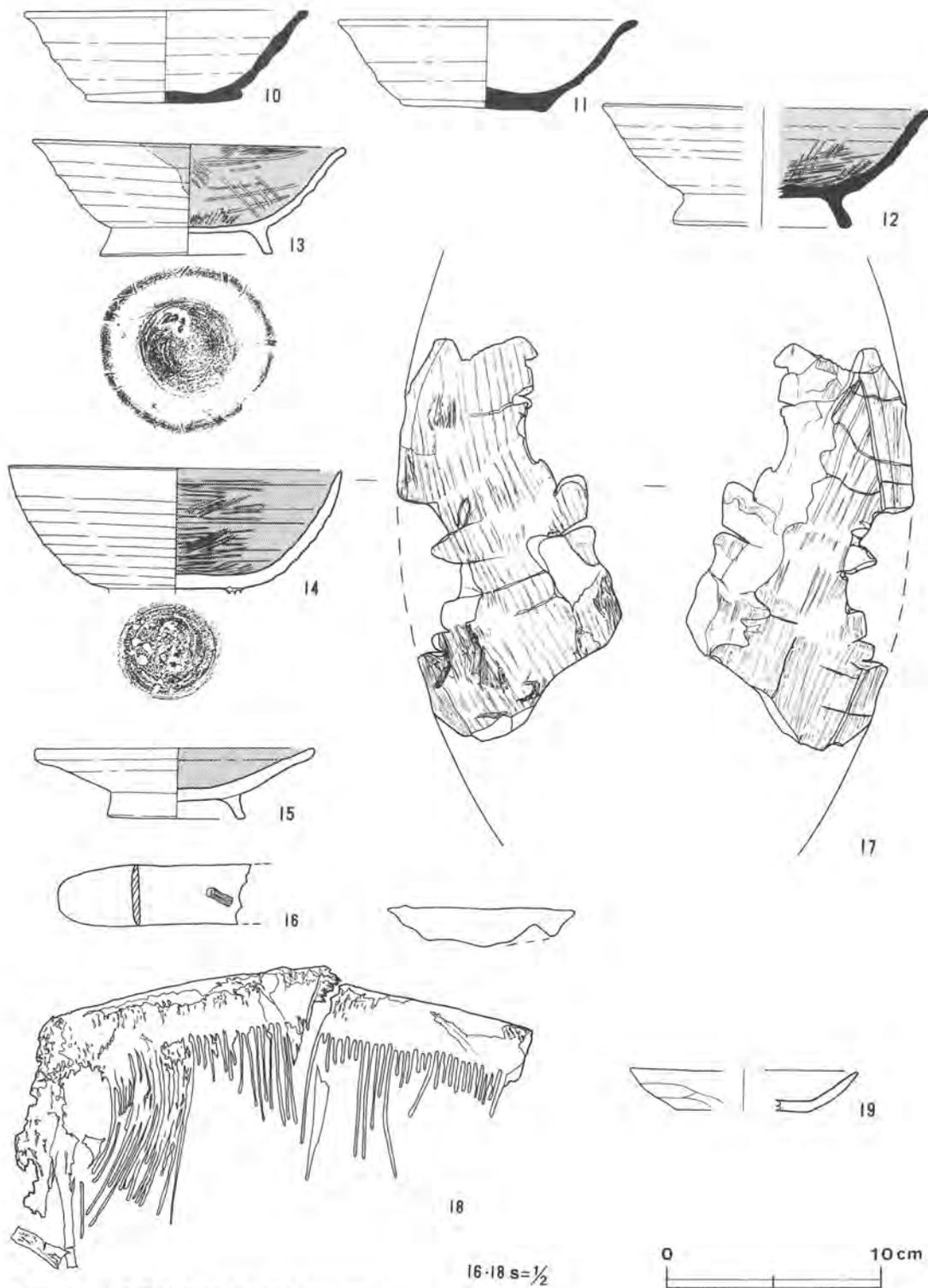
第39図 第9号住居跡竈実測図

貯蔵穴 第1号貯蔵穴は北東壁中央部際に、第2号貯蔵穴は南コーナーに検出されている。第1号貯蔵穴は、長径120cm、短径75cmの楕円形を呈し、深さ25cmである。第2号貯蔵穴は、長径130cm、短径70cmの不定形を呈し、深さ24cmである。

竈 北西壁の中央部を壁外へ60cm程掘り込んで、砂質粘土で構築されている。規模は長さ150cm、幅104cmである。袖部は、床のロームを掘り残して基部とし、その他、補強材として柱状の凝灰岩の切石が使用されている。竈の遺存状態は悪く、潰れて焼土等が流出している。火床は、皿状に浅く掘り窪められ、赤変硬化している。煙道は、火床から緩やかな傾斜で立ち上がっている。火床の奥まった部分に支脚を立てるためのものと思われる径9cmの円形の小ピットが検出されている。



第40图 第9号住居跡出土遺物実測図(1)



第41图 第9号住居跡出土遺物実測図(2)

覆土 自然堆積。

遺物 竈付近を中心に土師器(甕2, 坏8, 皿1, 細片62点)や須恵器(壺1, 坏2, 細片2点)が多数出土している。6と14の土師器の高台付坏は北コーナー付近から二枚重ねで逆位の状態で出土している。それらのすぐ東側からは、15の土師器の高台付皿と5, 10の坏が三枚重なって正位で出土している。いずれも火災の際の二次加熱痕が見られる。また、一番下位の坏の底部からは麻と思われる布痕が検出されている。13の土師器の内面黒色の高台付坏は、西コーナー付近の床面直上から出土している。4の須恵器の甗は、横位の状態で北コーナー付近の床面直上から出土している。その他、覆土中層から須恵器の長頸壺の胴部片も出土している。17の盆と思われる炭化した木製品は、西コーナー付近の床面直上から、18の炭化した櫛は北コーナー付近の床面直上からそれぞれ出土している。第1号貯蔵穴の底面からは、大角豆が多量に出土している。また、床面全域からは、焼土や炭化材が検出されており、焼失家屋であると考えられる。

所見 本跡は、出土遺物や住居跡の形態等から9世紀末の住居跡と考えられる。

第1号貯蔵穴は、東壁の中央部に位置しており、貯蔵穴ではなく住居と土坑の切り合いとも考えたが、土層からは重複関係が見られないことや貯蔵穴の覆土には住居内と同じ炭化材や焼土粒子が混入していること等から、本跡に付属する貯蔵穴とした。

第9号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第40図 1	甕 土師器	A [21.8] B (26.8)	胴部, 口縁部片。胴部上位に最大径を持つ。口縁部は外反し, 口唇部を外上方につまみ上げる。	口縁部横ナデ。胴部外面下位から中位にかけて縦方向のヘラ削り, 中位から上位にかけてナデ上げ。	長石・石英・小石 橙色 普通	30% P61 二次焼成痕。 北コーナー付近覆土。
2	甕 土師器	A [20.4] B (10.3)	胴部, 口縁部片。胴部は内彎ぎみに外傾し, 口縁部は短く強く外反し, 口唇部は上方につまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。胴部ナデ上げ。	長石・石英 橙色 良好	20% P62 二次焼成痕。漆が付着。北コーナー付近床面直上。
3	長頸壺 須恵器	B (14.7) C [8.4]	胴部, 頸部片。胴部中位に最大径。頸部は外彎ぎみに立ち上がる。	胴部内・外面横ナデ。	小石 黄灰色 良好	40% P76 甗覆土。
4	甗 須恵器	A 29.0 B 29.1 C 15.1	胴部はほぼ直線的に外傾し, 口縁部は直線的に立ち上がる。上位に小形の把手が付く。	胴部外面ヘラナデ後横ナデ, 下位ヘラ削り, 内面横ナデ。底部はヘラ削りによる面取り。	小石・砂粒 乳褐色 普通	100% P63 二次焼成痕。ススが付着。北部床面直上
5	坏 土師器	A 14.4 B 4.6 C 6.7	平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部でさらに外反する。	口縁部横ナデ。体部内・外面横ナデ。	砂粒 淡橙色 普通	100% P64 二次焼成痕。炭化布が付着。北コーナー床面直上。
6	坏 土師器	A 13.9 B 5.2 C 6.7	平底。体部は内彎しながら外傾し, 口縁部上位で強く外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ロクロ目を残す, 下位は最終的に横ナデ, 内面横ナデ。底部回転ヘラ切り後一部ナデ調整。内面黒色処理。	長石・石英 (外)にぶい黄橙色 (内)黒色 良好	100% P66 北コーナー付近覆土。
7	坏 土師器	A 13.9 B 5.3 C 7.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら外傾し, 口縁部上位はわずかに外反する。	口縁部横ナデ。体部外面強いロクロ目を残す, 内面横ナデ。底部回転ヘラ切り後一部ナデ調整。	スコリア・長石・石英 黒色 良好	97% P68 甗付近覆土。
8	坏 土師器	A [8.0] B (5.0)	体部, 口縁部片。器内は全体的に薄い。体部, 口縁部はほぼ直線的に立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面横ナデ, 内面ヘラ磨き後上位のみ横ナデ。内面黒色処理。	スコリア・石英 (外)にぶい黄橙色 (内)黒色。普通	20% P69 墨書「生」。 覆土。
9	坏 土師器	B (3.3) C [7.0]	体部片。体部は内彎ぎみに外上方に立ち上がる。	体部外面ロクロ目を残す。	小石・長石・石英 にぶい黄橙色 不良	20% P70 甗覆土。
第41図 10	坏 須恵器	A 13.0 B 4.6 C 6.9	平底。底部は突出ぎみ。体部は, 内彎ぎみに外上方に立ち上がり口縁部上位で外反する。	口縁部横ナデ。体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後一部ナデ調整。	砂粒 にぶい橙色 普通	100% P67 二次焼成痕。 北部覆土。

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第41図 11	須恵器 坏	A 13.7 B 4.5 C 6.7	口縁部一部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部で強く外反する。	口縁部横ナデ。体部内・外面横ナデ。底部ヘラ切り後一部ナデ調整。	小石・長石・石英 灰白色 普通	95% P72 北東部覆土。
12	土師器 坏	A [15.2] B 5.7 D [8.2] E 1.5	体部、口縁部片。体部は外傾して立ち上がる。口縁部上位はわずかに外反する。	口縁部横ナデ。体部外面横ナデ、内面横ナデ後ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り。内面黒色処理。	長石 (外)にぶい橙色 (内)黒色 普通	30% P74 西コーナー付近 覆土。
13	土師器 坏	A 14.8 B 5.5 D 8.1 E 1.3	体部は外傾しながら立ち上がり、口縁部上位はわずかに外反する。	体部外面強いロクロ目を残す、内面横ナデ後粗いヘラ磨き。底部回転ヘラ切り。内面黒色処理。	雲母・長石・石英 (外)黄褐色(内)黒 褐色 良好	99% P73 西コーナー付近 覆土。
14	土師器 坏	A 15.6 B (6.1)	平底。口唇部は器肉を減じながらわずかにつまみ上げられている。	体部外面ロクロ目を残す、内面丁寧なヘラ磨き。内面黒色処理。	長石・石英 (外)橙色(内)黒色 普通	98% P65 北コーナー付近 床面直上。
15	土師器 皿	A 12.8 B 3.4 D 6.2 E 1.3	体部で均一だった器肉が口唇部で肉厚になる。	口縁部横ナデ。体部外面横ナデ、内面ナデ後ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り。内面黒色処理。	長石・石英 (外)橙色(内)黒色 普通	95% P75 二次焼成痕。 北コーナー付近 覆土。

図版 番号	器種	法量				特 徴	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
16	手 鎌	(6.0)	2.0	0.2	(7.3)		西コーナー際覆土	木目の付着あり。鉄製M4

図版 番号	器種	法量				出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
17	盆	(18.3)	(11.5)	2.1	(80.4)	西コーナー際床面直上	炭化 W1
18	櫛	(3.8)	(7.7)	-	-	北コーナー際床面直上	炭化 W2
19	皿	[10.6]	1.9	[3.4]	-	北東壁床面直上	炭化 W3

第10号住居跡 (第42図)

位置 調査区の西部、D3g₂区を中心に確認されている。

規模と平面形 長軸3.6m、短軸3.0mの長方形を呈している。

主軸方向 N-55°-E

壁 壁高は6~12cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

床 攪乱が床まで達しているが、遺存している床面はやや硬い。

ピット 3か所(P₁~P₃)検出されている。P₂は径30cmの円形を呈し、深さ52cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。P₁、P₃は、性格不明である。

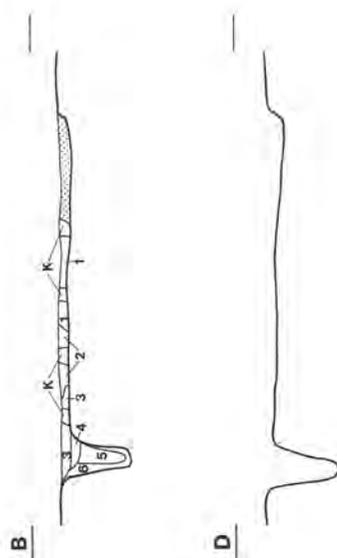
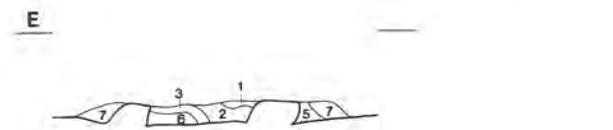
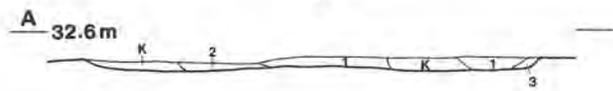
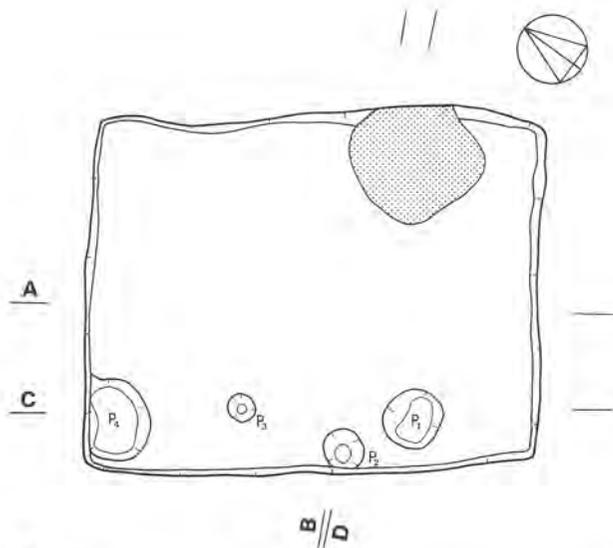
貯蔵穴 西コーナーに検出されている。長径68cm、短径50cmで楕円形を呈し、深さ10cmである。

竈 北東壁の中央から東コーナー寄りに砂質粘土で構築されている。規模は幅75cmで、長さは攪乱により不明である。袖部は、床のロームを掘り残して基部としている。火床は、床面をそのまま使用しており、若干の赤変硬化が見られる。煙道は、攪乱が激しく検出できなかった。

覆土 攪乱により、不明である。

遺物 土師器と須恵器の細片が住居跡中央部から少量出土している。

所見 出土遺物が非常に少なく、時期を限定することはできないが、住居跡の形態等から平安時代の住居跡と考えられる。



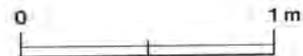
SI-10 土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子少量, 黒色粒子微量
- 2 褐色 黒色粒子中量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量, ロームブロック微量
- 6 におい橙色 黒色粒子中量



SI-10 竪 土層解説

- 1 灰褐色 焼土粒子多量, 黒色ブロック微量
- 2 灰褐色 焼土粒子中量, 黒色粒子微量
- 3 黒色 焼土粒子中量, 黒色粒子微量
- 4 黒褐色 黒色粒子少量, 焼土粒子微量
- 5 褐灰色 粘土粒子中量, ロームブロック・黒色粒子微量
- 6 灰褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量, 黒色粒子微量



第42図 第10号住居跡実測図

第3号住居跡〈Ⅱ区〉(第43図)

位置 調査区の西部, E3b₃区を中心に確認されている。

重複関係 本跡の東壁と第4号住居跡〈Ⅱ区〉の西壁が重複しているが, 新旧関係は, 攪乱が激しいために把握できなかった。

規模と平面形 長軸 [4.2]m, 短軸3.5mの隅丸方形を呈しているものと思われる。

主軸方向 N-0°

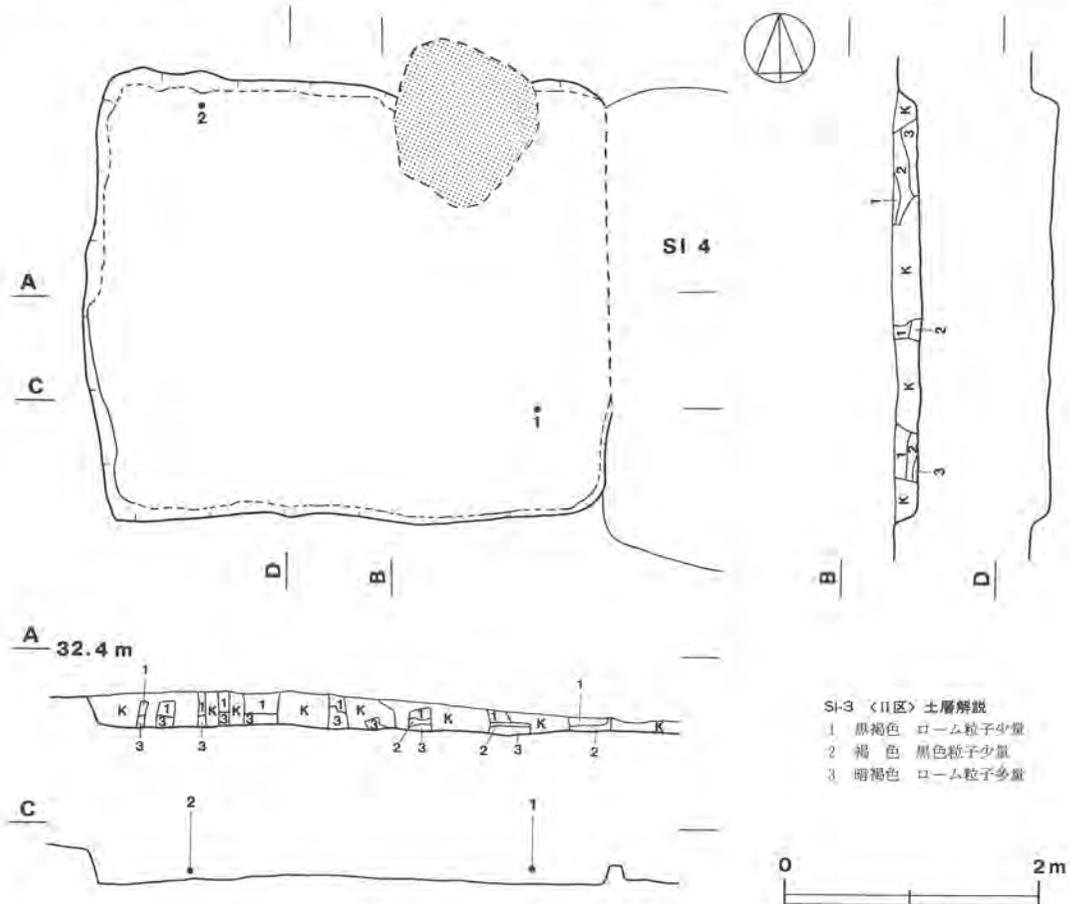
壁 攪乱を受けているが, 遺存している壁高は14~22cmで, 緩やかに外傾して立ち上がっている。

床 攪乱が床面まで達しているが, 遺存している床面は硬い。

竈 北壁の中央から東寄りの壁を30cm程壁外に掘り込み, 砂質粘土で構築されている。竈の3分の2程が攪乱を受けており, 遺存状態は悪い。西側の袖部は, 床のロームを掘り残して基部としている。火床は, 攪乱により不明である。

覆土 自然堆積。

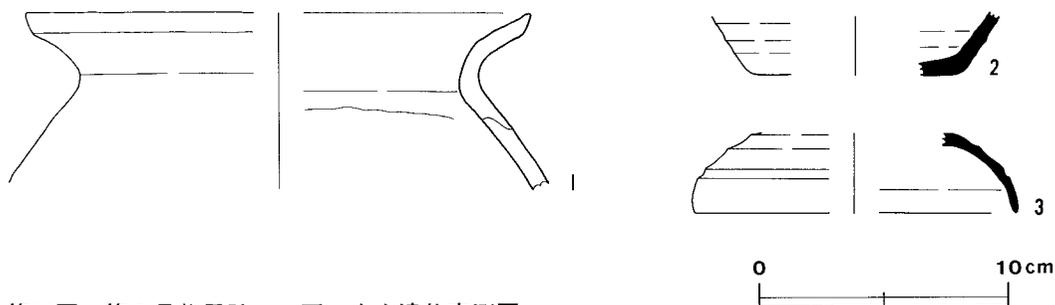
遺物 東壁付近から土師器片(甕1, 細片64点)や須恵器片(蓋1, 坏1, 細片5点)が少量出



第43図 第3号住居跡〈Ⅱ区〉実測図

土している。1の土師器の甕は、南東コーナー付近の床面直上から出土している。須恵器は、2の坏を含め7片で、北西コーナー際の床面直上から出土している。

所見 本跡は、出土遺物や住居跡の形態から9世紀初頭の住居跡と考えられる。



第44図 第3号住居跡〈II区〉出土遺物実測図

第3号住居跡〈II区〉出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第44図 1	甕 土師器	A [20.2] B (7.2)	口縁部片。口縁部は強く外反し、口唇部はつまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・スコリアにぶい褐色普通	10% P109 南東コーナー付近覆土。
2	坏 須恵器	B (2.6) C [8.6]	底部、体部片。平底。体部は直線的に外傾する。	体部にロクロ目を残す。底部回転ヘラ切り後一部ナデ調整。	砂粒 灰色 普通	10% P111 北西コーナー際覆土。
3	蓋 須恵器	A [13.0] B (3.3)	口縁部、天井部片。天井部は丸みを持ち、天井部と口縁部の境に1条の明瞭な沈線が巡る。	天井部外面にロクロ目を残す。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 灰色 良好	10% P110 覆土。

第4号住居跡〈II区〉(第45図)

位置 調査区の西部、E3b₄区を中心に確認されている。

重複関係 本跡の西壁と第3号住居跡〈II区〉の東壁とが重複している。

規模と平面形 長軸 [4.9]m、短軸3.7mの隅丸長方形を呈しているものと考えられる。

主軸方向 N-90°-E

壁 壁高は10cm程で、緩やかに外傾して立ち上がっている。

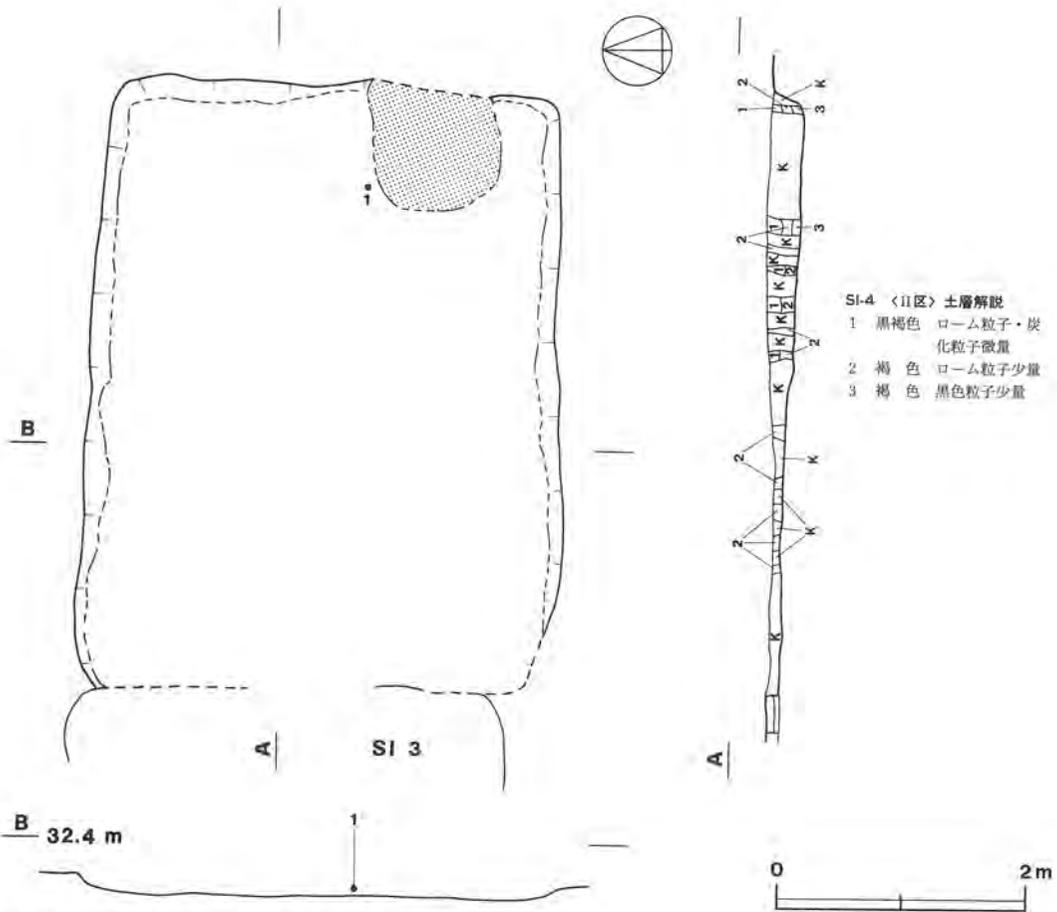
床 攪乱が床面まで達しているが、遺存している床面はやや硬い。

竈 東壁の中央から南寄りの壁際に焼土を検出したが、攪乱のために竈と確認することはできなかった。

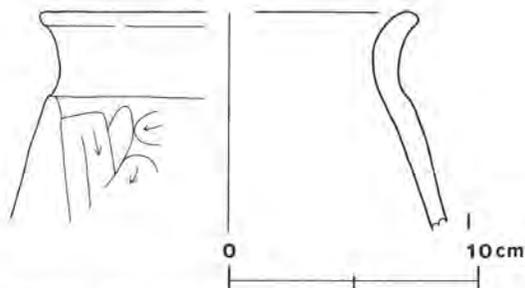
覆土 自然堆積と考えられる。

遺物 土師器(甕1, 細片64点)・須恵器の細片が住居跡中央部を中心に少量出土している。

所見 攪乱のために本跡と第3号住居跡〈II区〉の新旧関係は確認できなかった。また、土器が細片のため時期を確定することはできないが、住居跡形態等から8~10世紀頃の住居跡と思われる。



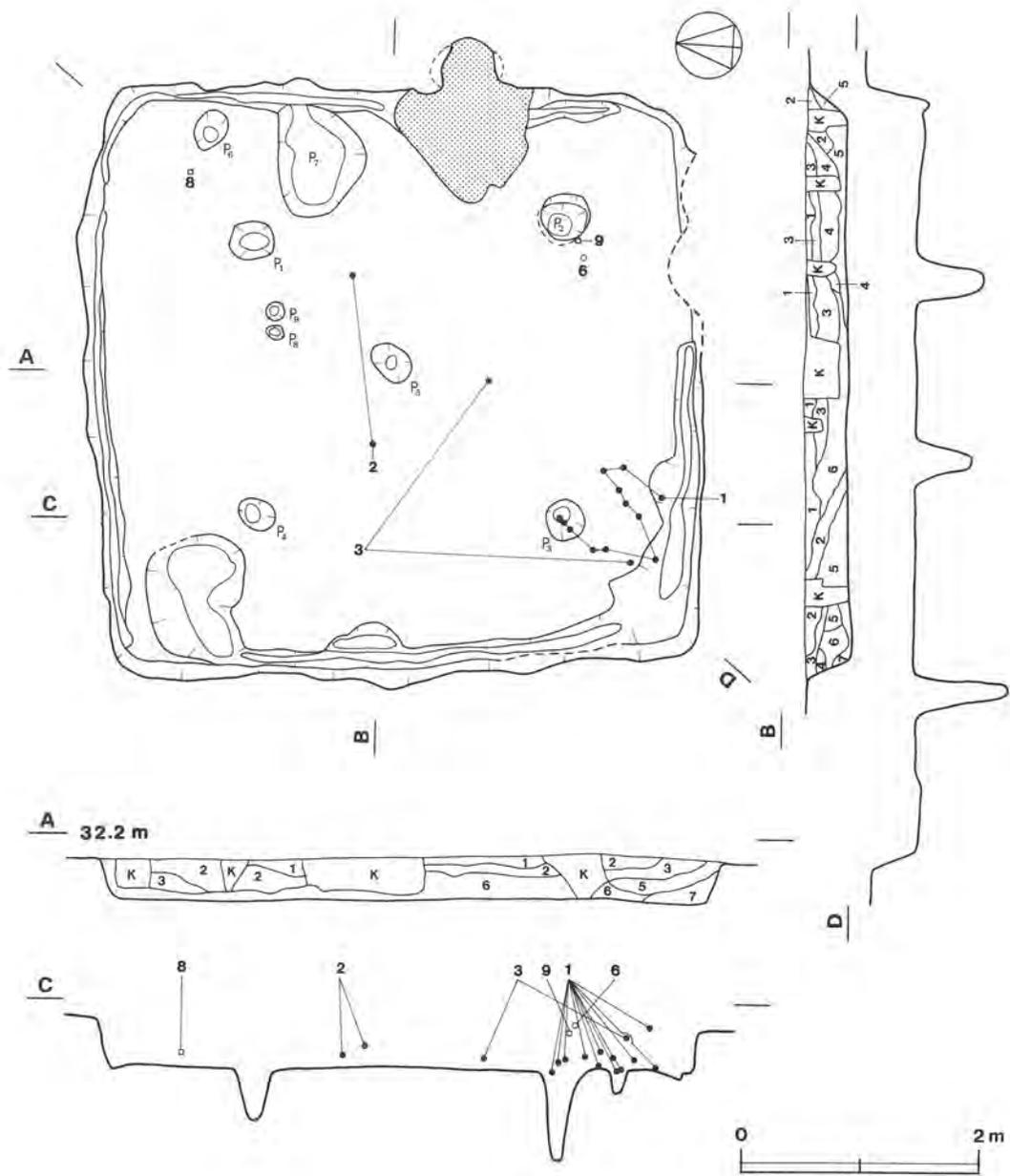
第45図 第4号住居跡 <II区> 実測図



第46図 第4号住居跡 <II区> 出土遺物実測図

第4号住居跡 <II区> 出土遺物観察表

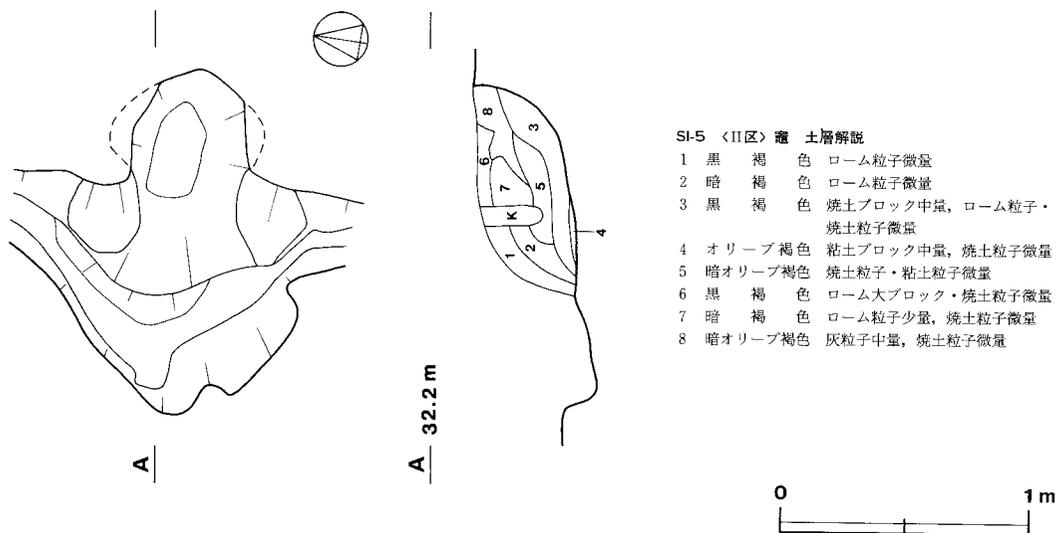
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第46図 1	甕 土師器	A [15.2] B (8.8)	胴部、口縁部片。胴部と口縁部の境に稜を持つ。口縁部上位はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。胴部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英 橙色 普通	10% P154 東部床面直上。



SI-5 <II区> 土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量
- 4 黒褐色 ローム大ブロック中量, ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック中量
- 6 黒褐色 ローム粒子多量
- 7 黄褐色 黒色粒子多量

第47図 第5号住居跡 <II区> 実測図



第48図 第5号住居跡<II区>竈実測図

第5号住居跡<II区>(第47図)

位置 調査区の西部, E4a₇区を中心に確認されている。

規模と平面形 長軸5.2m, 短軸5.0mの隅丸方形を呈している。

主軸方向 N-87°-E

壁 壁高は40cm前後で, ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝 南東コーナーを除いた壁下に検出されている。幅35cm, 深さ6cm程で, 断面形は「L」状を呈している。

床 ほぼ平坦で, 全体的に良く踏み固められて硬い。

ピット 9か所(P₁~P₉)検出されている。P₁~P₅は径25~40cmの円形を呈し, 深さ28~74cmで, 支柱穴と考えられる。P₆~P₉の性格は不明である。

貯蔵穴 北西コーナーに検出されている。平面形は長径110cm, 短径80cmの不定形を呈し, 深さ20cm程である。底面は皿状を呈している。

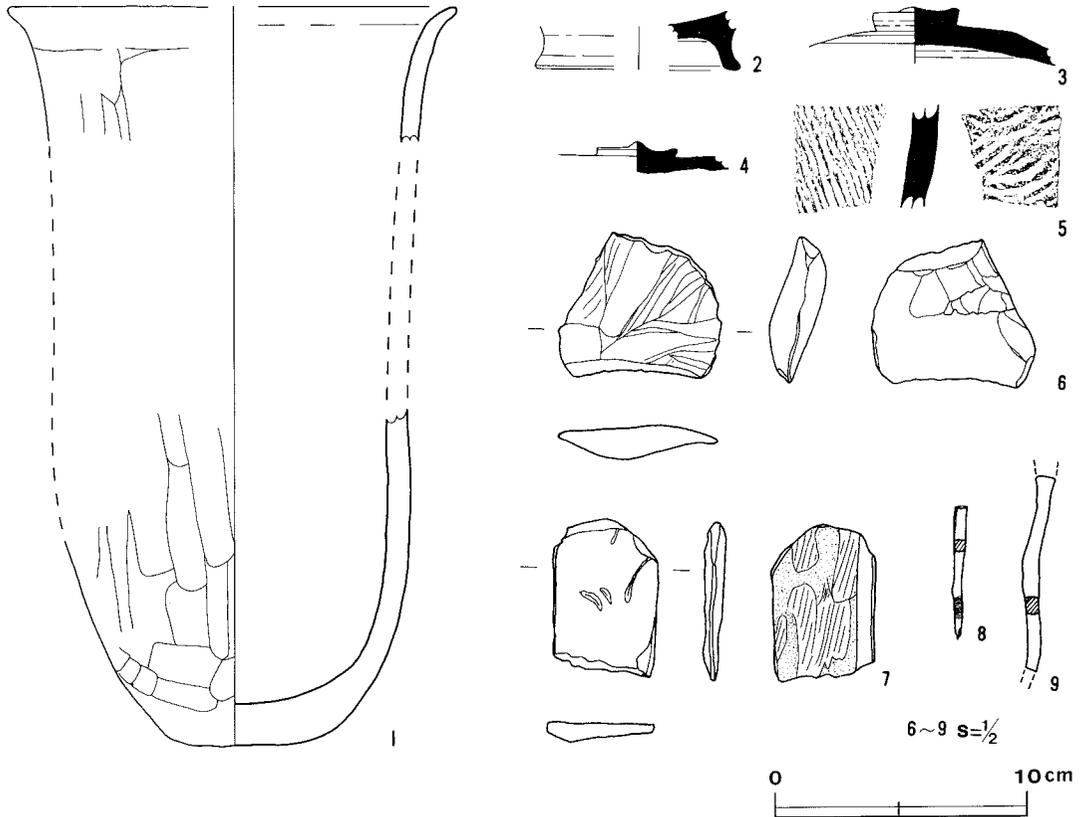
竈 東壁中央からやや南寄りを壁外へ細長く75cm程掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は長さ64cm, 幅96cmである。天井部は崩落している。火床は, 長径117cm, 短径46cmで, 楕円形を呈し, 皿状に掘り窪められており, 熱を受けて赤変硬化している。煙道は, 火床から急な傾斜で立ち上がっている。

覆土 自然堆積。

遺物 南壁付近の覆土から土師器片(甕1, 細片25点)と須恵器片(坏1, 蓋2, 細片2点)が出土している。その他, 鉄製品が数点出土している。南西コーナー付近の床面直上からは, 1の土師器の甕や3の須恵器の坏蓋が出土している。須恵器の坏蓋のつまみ部は, 他に2点出土して

おり、いずれも大ぶりでボタン状を呈している。その他、8や9の釘が北東コーナーや南東部付近床面直上から出土している。

所見 本跡は、出土遺物や住居跡の形態等から8世紀中頃の住居跡である。



第49図 第5号住居跡〈II区〉出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第49図 1	甕 土師器	A [18.0] B (19.2) C 5.5	胴部，口縁部片。碗弾形。胴部は直線的に立ち上がり，口縁部は頸部から短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。胴部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	長石・スコリアにぶい黄橙色 普通	40% P112 南西コーナー付近床面直上。
2	坏 須恵器	B (2.4) D [8.1] E 1.7	底部片。高台は「ハ」の字状に開く。	高台部横ナデ。	砂粒 褐灰色 普通	10% P113 中央部覆土。
3	蓋 須恵器	B (2.3) F 3.4 G 0.8	天井部片。天井部は丸みを持つ。偏平なつまみが付く。	天井部回転ヘラ削り調整。	小石 灰黄色 普通	20% P114 中央部覆土。
4	蓋 須恵器	F 3.2 G 0.7	つまみ片。天井部は平坦である。偏平で幅の狭いつまみが付く。	天井部ナデ。	砂粒 暗灰黄色 普通	5% P115 竈覆土。

図版 番号	器種	石質	法 量				出土地点	備 考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第49図 6	スクレーパー	チャート	3.9	4.2	1.5	16.3	南東部覆土	Q 6
7	不明	粘板岩	(4.2)	2.8	0.6	(7.3)	覆土	Q 7

図版 番号	器種	法 量				特 徴	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
8	鉄 鋏	(3.7)	0.3	0.3	(1.1)		北東コーナー寄り覆土	茎の端部に繊維の巻き付け痕あり。 M22
9	不明	(5.3)	0.5	0.5	(1.9)		南東部覆土	鉄製。 M23

第49図の5は須恵器の甕片の拓影図で、外面に平行タキ目、内面に青海波文が見られる。

第6号住居跡〈II区〉(第50図)

位置 調査区の西部，D5f₂区を中心に確認されている。

規模と平面形 長軸4.0m，短軸3.9mの隅丸方形を呈している。

主軸方向 N-19°-W

壁 壁高は20cm前後で，外傾して立ち上がっている。

壁溝 北東コーナーを除いた壁下に検出されている。幅15～38cm，深さ4～6cmで，断面形は「└┘」状を呈している。

床 ほぼ平坦で，全体的に良く踏み固められて硬い。

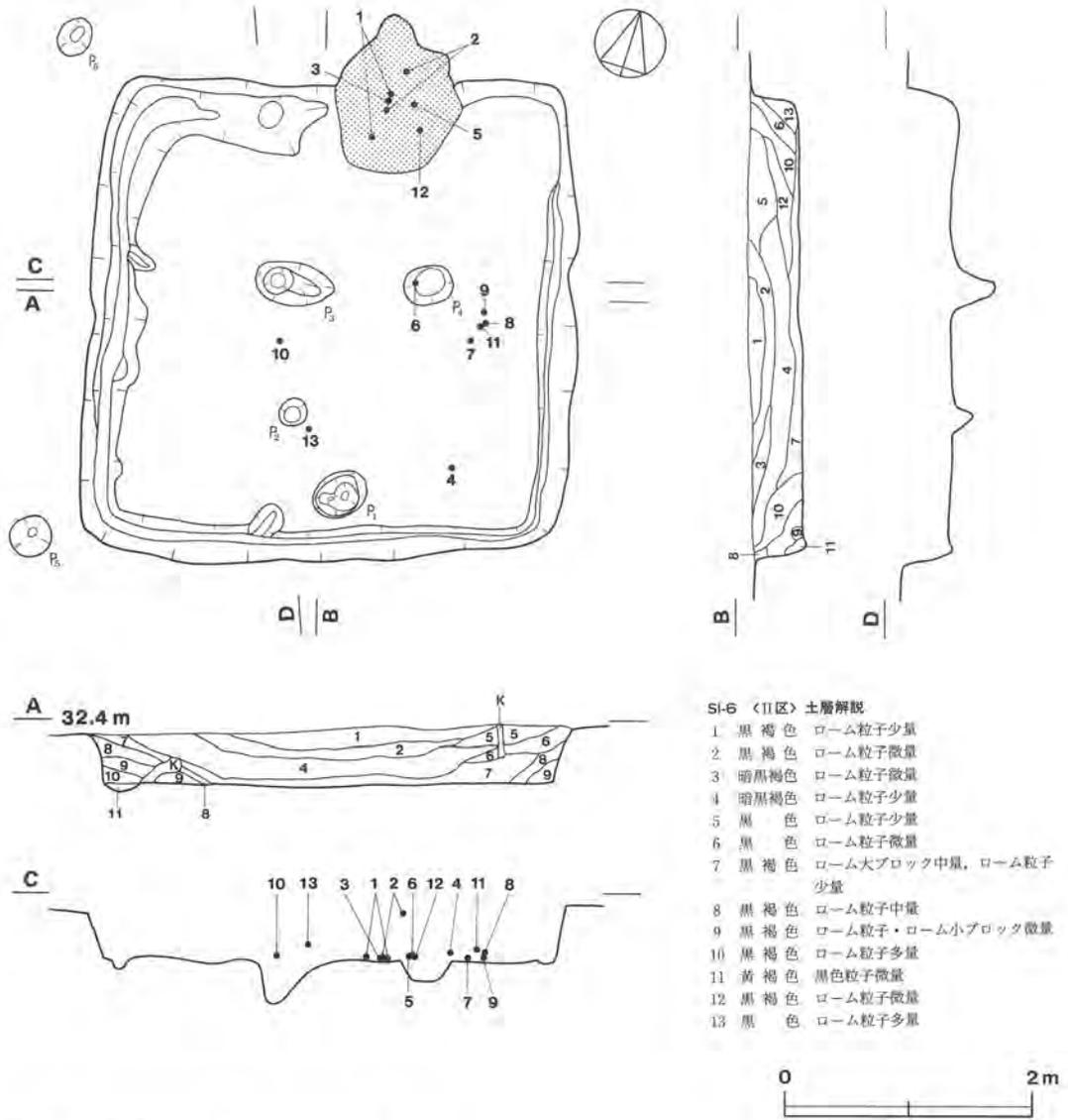
ピット 6か所(P₁～P₆)検出されているが，柱穴は検出できなかった。P₁は長径45cm，短径35cmの楕円形を呈し，深さ34cmで，出入口施設に伴うピットと考えられる。P₂～P₆は，性格不明である。

竈 北壁中央からやや東寄りを壁外へ60cm程掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は長さ129cm，幅105cmである。天井部は崩落しているが，袖部は良好に遺存している。火床は径80cm程の円形を呈し，床面を浅く掘り窪められており，レンガ状に赤変硬化している。煙道は，火床から急な傾斜で立ち上がっている。

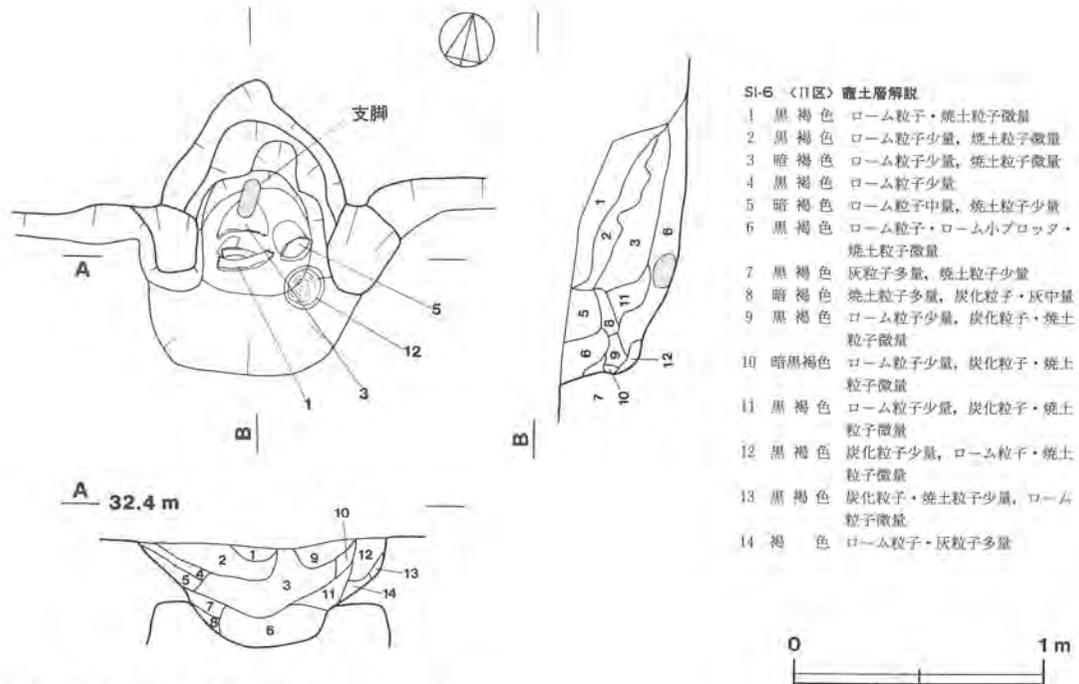
覆土 自然堆積

遺物 住居跡中央部の床面直上からは，土師器（甕4，甌1，細片66点）や須恵器片（坏4，蓋3）が多量に出土しており，覆土上層からは，土師器の細片が多量に出土している。東壁中央付近の床面直上からは，6の土師器の甌が横位で潰れた状態で出土している。須恵器の坏身（8，9）と坏蓋（11）が東壁際の床面直上から出土しており，8と9の須恵器の坏は逆位で，11の坏蓋は正位で，記載の順に重なって出土している。竈の火床からは，1，2の土師器の甕や石製支脚が横位で出土している。焚口付近からは12の須恵器の坏蓋が正位で出土している。その他，礫が10個程床面直上から出土している。

所見 本跡は、出土遺物や住居跡の形態から8世紀初頭の住居跡である。



第50図 第6号住居跡 <II区> 実測図



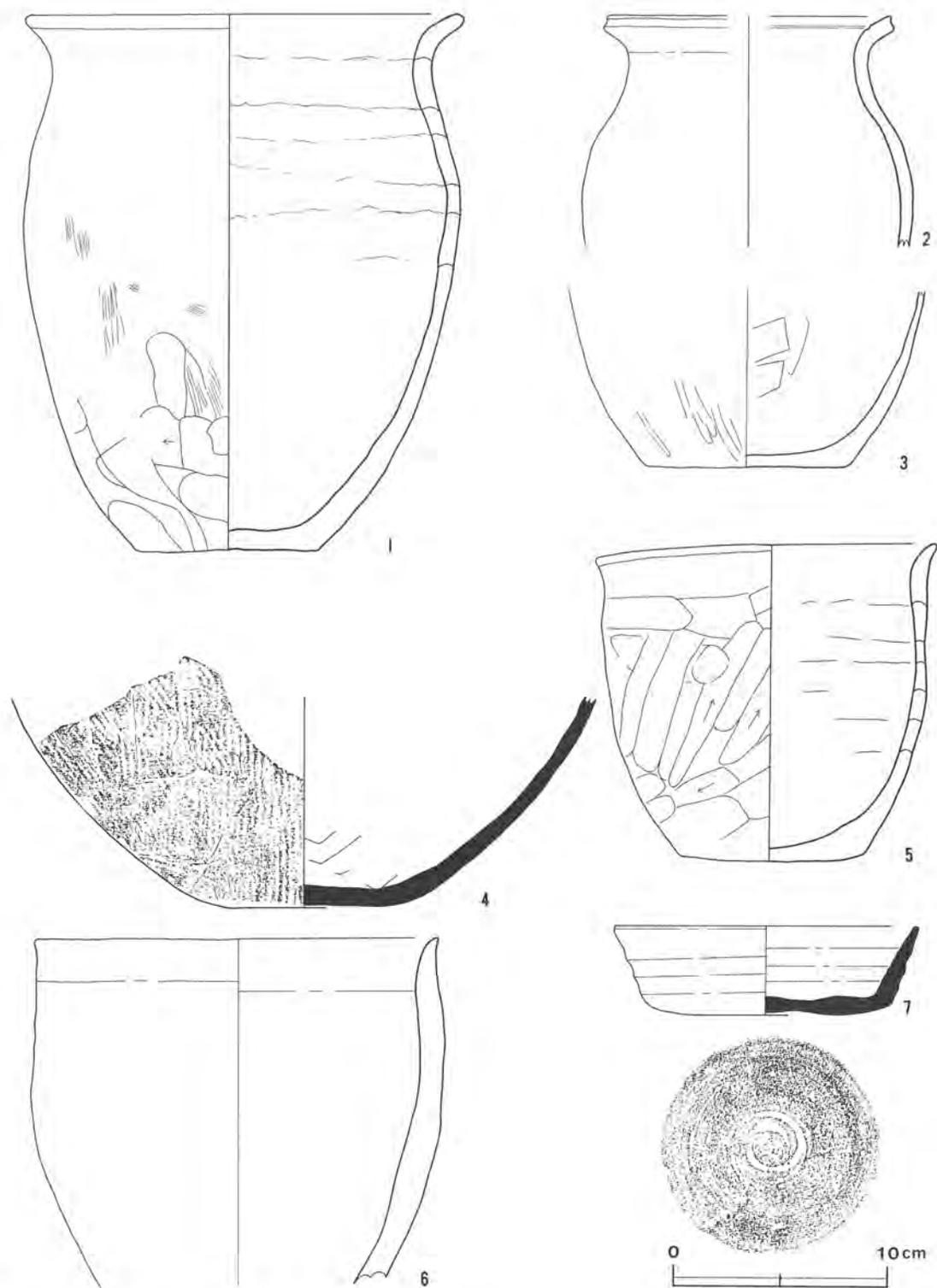
SI-6 <II区> 竈土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 6 黒褐色 ローム粒子・ローム小プロット・焼土粒子微量
- 7 黒褐色 灰粒子多量, 焼土粒子少量
- 8 暗褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子・灰中量
- 9 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 10 暗黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 11 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 12 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量
- 13 黒褐色 炭化粒子・焼土粒子少量, ローム粒子微量
- 14 褐色 ローム粒子・灰粒子多量

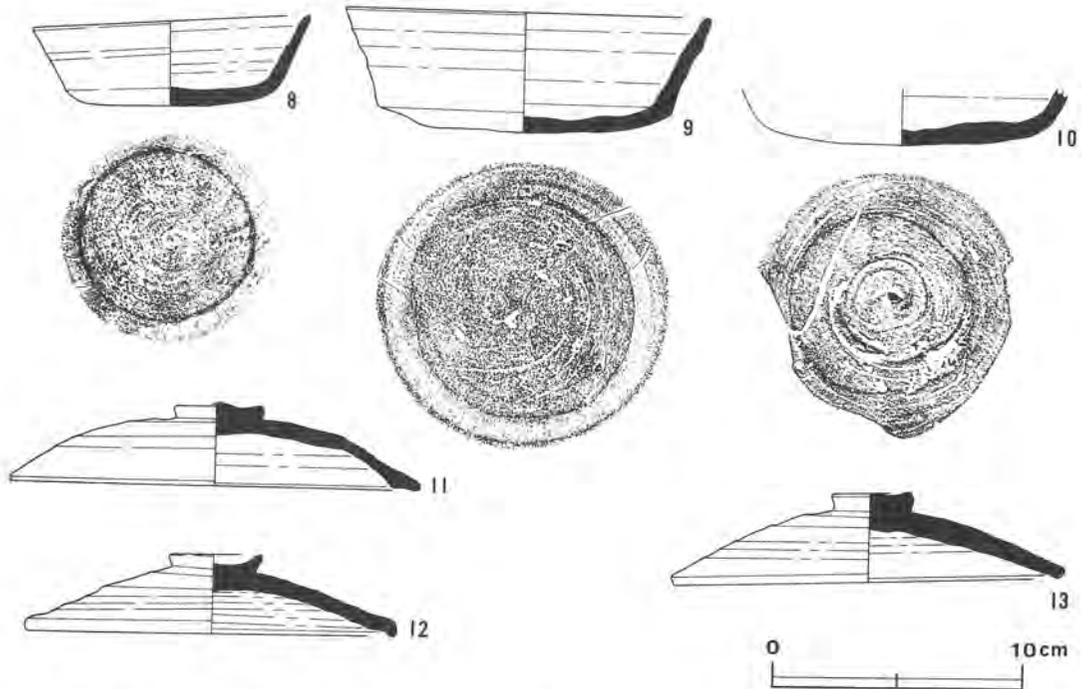
第51図 第6号住居跡<II区>竈実測図

第6号住居跡<II区>出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第52図 1	甕 土師器	A 20.5 B 25.6 C 8.4	平底。胴部上位に最大形。頸部はくびれ、口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。胴部外面下位へら削り、中位縦方向のへら磨き。体部に輪積み痕。	長石・石英 橙色 普通	95% P117 電覆土。
2	小形甕 土師器	A [13.2] B (11.0)	体部、口縁部片。体部は内彎しながら外傾し、口縁部は短く外反し、口唇部外面に浅い凹線が巡る。	剝離が激しく不明。	小石 浅黄橙色 不良	20% P118 二次焼成痕。 電覆土。
3	甕 土師器	B (8.4) C 9.4	底部、胴部片。平底。胴部は内彎ぎみに外傾する。	胴部外面下位へら削り後一部縦方向のへら磨き。	長石・石英 橙色 普通	10% P121 二次焼成痕。 電覆土。
4	甕 須恵器	B (9.7) C 6.8	底部、胴部片。平底。胴部は内彎しながら外上方に立ち上がる。	胴部外面平行タタキ。	長石 黄灰色 普通	20% P124 南東部覆土。
5	小形甕 土師器	A 16.0 B 15.1 C 8.7	平底。胴部は内彎ぎみに外上方に立ち上がり、口縁部上位はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。胴部外面へら削り、内面横ナデ。底部へら削り。	小石・長石・石英 橙色 普通	100% P122 電覆土。
6	甕 土師器	A 18.7 B (16.3)	底部欠損。胴部は内彎ぎみに外傾し、口縁部上位はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。胴部外面へら削り。	小石・長石 におい橙色 普通	80% P123 中央部覆土。
7	坏 須恵器	A 14.0 B 4.2 C 11.2	口縁部一部欠損。平底。底部と体部の境は不明瞭で、体部、口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。	胴部外面ロクロ目を残す、内面横ナデ。底部回転へら切り。	小石・長石 灰白色 普通	90% P125 東壁付近床面直上。
第53図 8	坏 須恵器	A 11.0 B 3.8 C 7.0	平底。底部と体部の境は不明瞭で、体部、口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部横ナデ。底部回転へら切り。	長石 灰色 普通	90% P126 東壁付近覆土。



第52図 第6号住居跡〈II区〉出土遺物実測図(1)



第53図 第6号住居跡〈Ⅱ区〉出土遺物実測図(2)

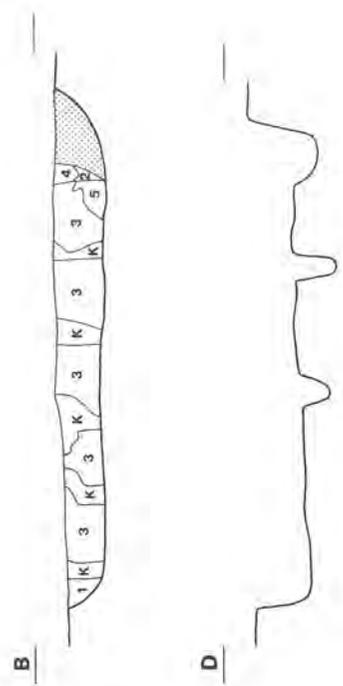
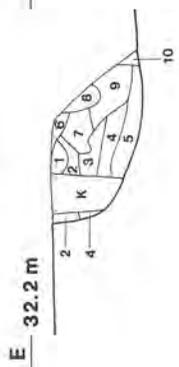
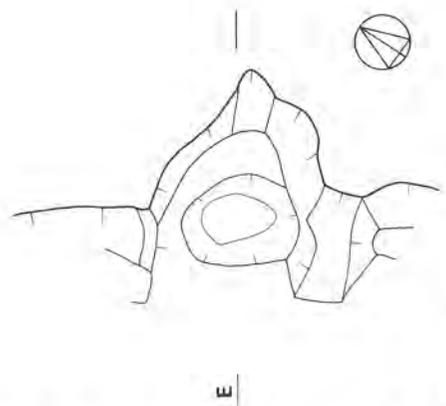
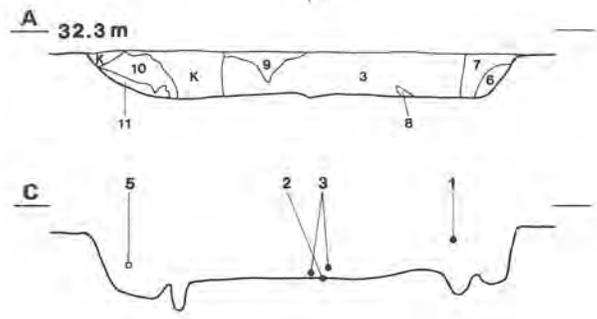
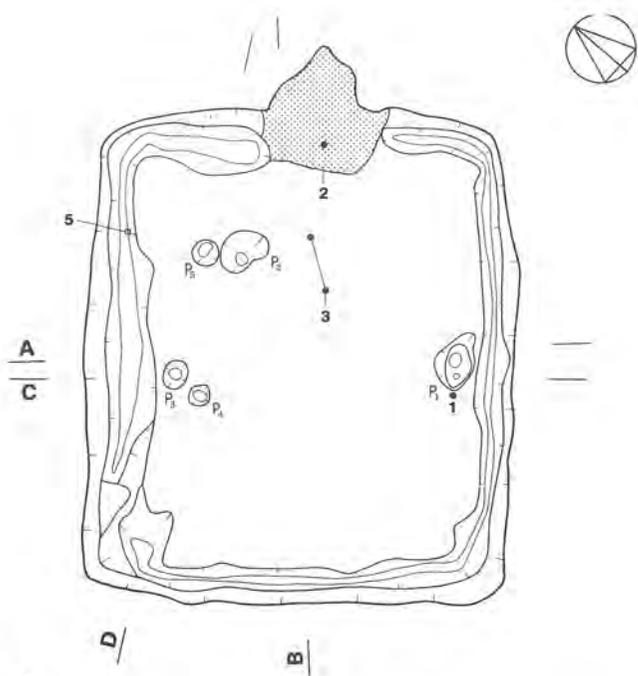
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第53図 9	坏 須恵器	A 14.6 B 4.9 C 11.6	平底。底部と体部の境は不明瞭。 体部、口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部横ナデ。底部回転ヘラ切り。	小石・砂粒 灰色 普通	95% P128 東壁付近床面直上。
10	坏 須恵器	B (2.5) C 10.3	底部、体部片。平底。底部と体部の境は不明瞭。	体部横ナデ。底部回転ヘラ切り。	雲母 灰白色 普通	20% P127 中央部床面直上。
11	蓋 須恵器	A 16.2 B 13.4 F 3.4 G 0.7	天井部は丸みを持ち、緩やかに口縁部に至る。口縁部内面にわずかなかえりを有する。偏平なつまみが付く。	天井部回転ヘラ削り調整。口縁部内・外面横ナデ。	雲母・長石 褐灰色 普通	98% P129 東壁付近覆土。
12	蓋 須恵器	A 14.5 B 3.2 F 3.4 G 0.7	天井部は直線的に口縁部に至る。口唇部は下方につまみ出されている。偏平なつまみが付く。	天井部回転ヘラ削り調整。口縁部横ナデ。	長石 黄灰色 普通	100% P130 竈覆土。
13	蓋 須恵器	A 15.4 B 3.6 F 3.2 G 0.8	天井部一部欠損。天井部は丸みを持つ。口唇部内面にわずかな沈線が巡る。偏平なつまみが付く。	天井部回転ヘラ削り調整。口縁部内・外面横ナデ。	長石 灰白色 普通	75% P131 南部覆土。

第7号住居跡〈Ⅱ区〉(第54図)

位置 調査区の南西部、E4a₉区を中心に確認されている。

規模と平面形 長軸4.0m、短軸3.4mの隅丸長方形を呈している。

主軸方向 N-52°-E



SI-7 <Ⅱ区> 土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 6 黒褐色 ローム粒子中量
- 7 黒色 ローム粒子微量
- 8 オリーブ褐色 黒色粒子少量
- 9 黒褐色 ローム粒子微量
- 10 黒色 ローム粒子少量
- 11 黒褐色 ローム粒子・ローム中ブロック多量



SI-7 <Ⅱ区> 竈 土層解説

- 1 黒色 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・粘土粒子少量
- 3 黒褐色 焼土粒子中量, 粘土粒子少量
- 4 暗赤褐色 粘土・灰中量, 焼土大ブロック微量
- 5 黒褐色 焼土粒子・焼土大ブロック微量
- 6 黒色 焼土粒子・ローム粒子微量
- 7 黒褐色 粘土粒子少量, 焼土粒子微量
- 8 黒色 焼土粒子・ローム粒子微量
- 9 黒褐色 焼土粒子少量
- 10 黒褐色 ローム粒子微量



第54図 第7号住居跡<Ⅱ区>・竈実測図

壁 壁高は30~45cmで、外傾して立ち上がっている。

壁溝 西コーナーを除いた壁下に検出されている。幅10~40cm、深さ10cmで、断面形は「U」字状を呈している。

床 凹凸が見られるが、全体的に良く踏み固められていて硬い。

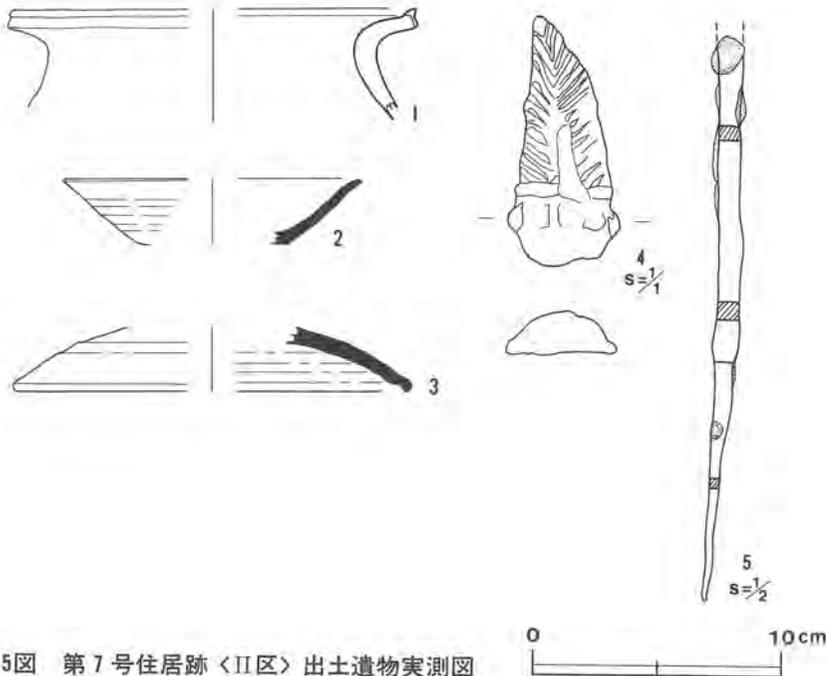
ピット 5か所 (P₁~P₅) 検出されている。P₁~P₅は径20~50cmの円形を呈し、深さ20~30cmであるが、配列に規則性がなく、性格は不明である。

竈 北東壁のほぼ中央部を壁外へ50cm程掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は長さ80cm、幅97cmである。北西袖部は、床のロームを掘り残して基部としている。竈の遺存状況は悪く、天井部は、崩落して流出している。火床は、長径45cm、短径37cmの楕円形を呈し、床面を浅く皿状に掘り窪めている。煙道は、火床から急な傾斜で立ち上がっている。

覆土 ロームブロックやローム粒子が含まれており、人為的堆積とした。

遺物 住居跡の覆土からは、土師器片 (甕1, 細片20点) や須恵器片 (坏1, 蓋1, 細片9点) などが出土している。その他、鉄製品や瓦の細片が出土している。2の土師器の甕は竈覆土から出土している。混入と思われる3の須恵器の坏蓋は、住居跡中央の覆土中層から出土している。

所見 本跡は、住居跡の形態や出土遺物等から8世紀中頃の住居跡である。



第55図 第7号住居跡<II区>出土遺物実測図

第7号住居跡〈II区〉出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第55図 1	甕 土師器	A [16.2] B (4.5)	口縁部片。口縁部は強く頸部から外反し、口唇部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 にぶい褐色 普通	5% P132 南東壁際覆土。
2	坏 須恵器	A [11.9] B (2.7) C [6.0]	体部、口縁部片。体部、口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面はロクロ目を残す、内面横ナデ。	砂粒 灰黄色 良好	10% P133 竈覆土。
3	蓋 須恵器	A [15.6] B (2.6)	口縁部片。口唇部は下方につまみ出されている。	天井部回転ヘラ削り調整。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 灰色 普通	20% P134 中央部覆土上。

図版番号	器種	法量				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	土面子	3.3	1.5	0.6	2.2	覆土上層	DP4

図版番号	器種	法量				特徴	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
5	鉄鏃	(15.1)	0.9	0.5	(8.8)	刺突部を欠損	北西壁際覆土	M24

第9号住居跡〈II区〉(第56図)

位置 調査区の南西部、F5c₆区を中心に確認されている。

規模と平面形 長軸4.9m、短軸4.5mの隅丸長方形を呈している。

主軸方向 N-35°-W

壁 壁高は30cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝 北東・南西壁下から検出されている。幅20cm、深さ4~8cmで、断面形は「U」字状を呈している。

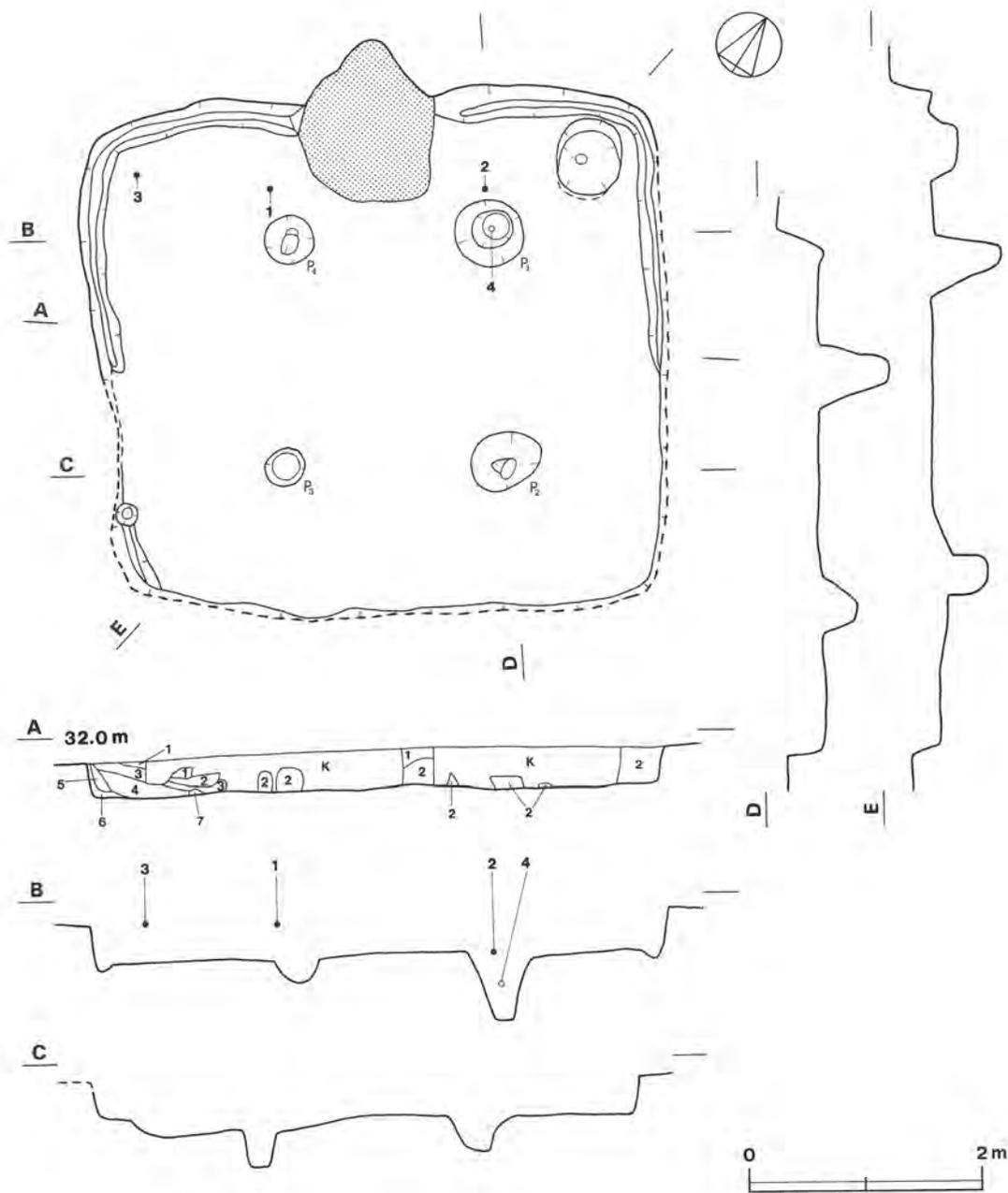
床 攪乱が床面まで達しているが、遺存している床面はやや硬い。

ピット 5か所(P₁~P₅)検出されている。P₁~P₄は径35~60cmの円形を呈し、深さ20~60cmで、支柱穴と考えられる。P₅は、性格不明である。

貯蔵穴 北コーナーに検出されている。長径65cm、短径55cmの楕円形を呈し、深さは24cmである。底面は、皿状を呈している。

竈 北西壁中央部を壁外へ60cm程掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は長さ125cm、幅128cmである。袖部は、床のロームを掘り残して基部としている。天井部は、崩落している。火床は、長径150cm、短径100cmで楕円形を呈し、浅い皿状に掘り窪められ、レンガ状に赤変硬化している。煙道は、火床から急な傾斜で立ち上がっている。煙道部は良く遺存しており、煙出し部はリング状に赤変硬化している。

覆土 攪乱を受けているが、自然堆積と思われる。



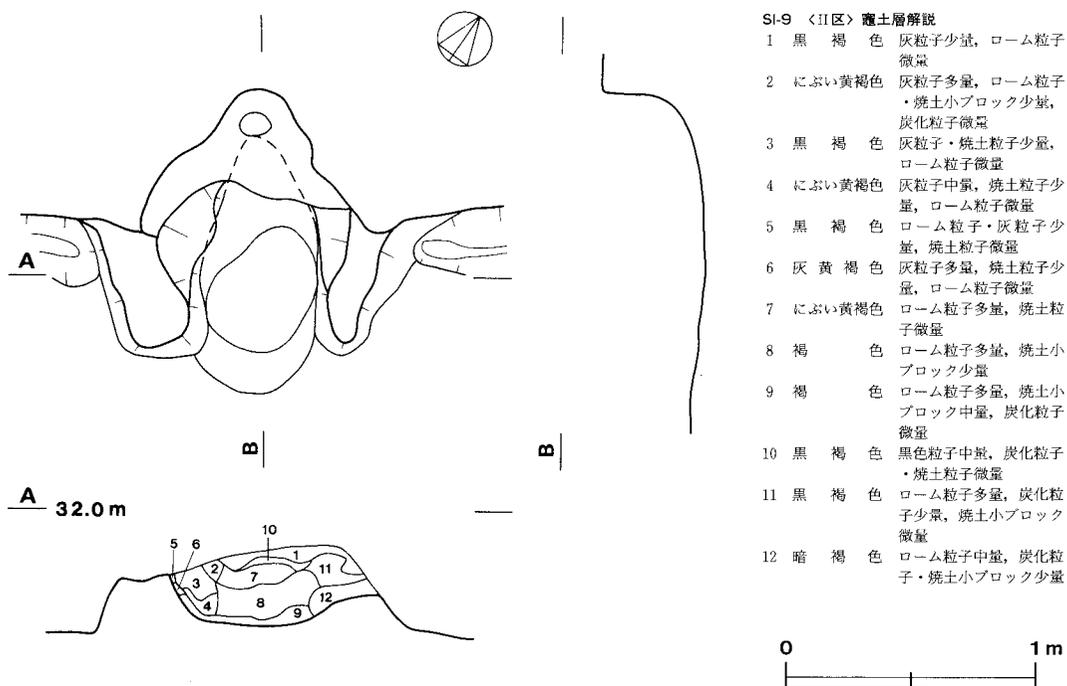
SI-9 <II区> 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック中量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量
- 4 黒色 ローム粒子中量
- 5 黒褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック中量
- 6 黒褐色 ローム粒子多量
- 7 オリーブ褐色 黒色粒子多量

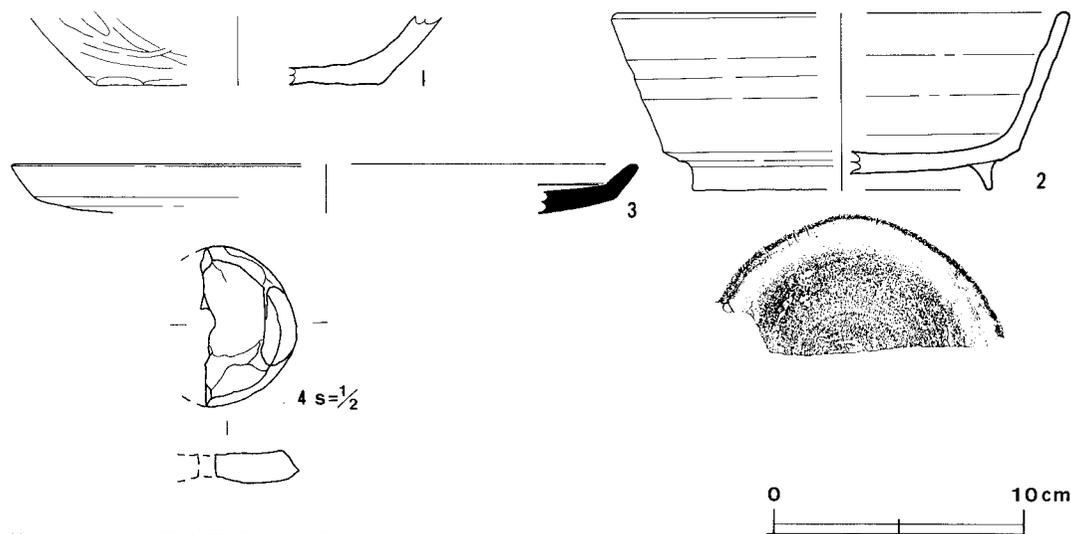
第56図 第9号住居跡 <II区> 実測図

遺物 住居跡中央部や竈付近の覆土からは、土師器片（甕1，細片45点）や須恵器片（坏1，盤1，細片4点）が出土している。須恵器の2の坏や4の紡錘車は、竈の北西側の床面直上及びP₁中層から出土している。

所見 本跡は、住居跡の形態や出土遺物から8世紀中葉の住居跡である。



第57図 第9号住居跡<II区>竈実測図



第58図 第9号住居跡<II区>出土遺物実測図

第9号住居跡〈II区〉出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第58図 1	甕 土師器	B (2.8) C [11.2]	底部，胴部片。平底。胴部は外傾する。	胴部外面へラ磨き。	長石 明赤褐色 不良	5% P138 北西部覆土。
2	坏 須恵器	A [18.4] B 7.2 D [1.2] E 1.1	底部から口縁部片。低い高台。体部，口縁部は底部から直線的に立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部内・外面横ナデ。底部回転へラ切り。	石英 黄灰色 良好	40% P142 北西部床面直上。
3	盤 須恵器	A [24.8] B (2.0)	体部，口縁部片。体部は直線的に外傾し，口縁部は短く直線的に斜上方に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部回転へラ削り。	砂粒 灰白色 普通	10% P143 西部覆土。

図版番号	器種	石質	法量				出土地点	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	紡錘車	粘板岩	(2.6)	4.3	1.2	(9.9)	P ₁ 内	Q8

第10号住居跡〈II区〉(第59図)

位置 調査区の南西部，F5e₄区を中心に確認されている。

規模と平面形 長軸3.6m，短軸3.1mの隅丸長方形を呈している。

主軸方向 N-72°-E

壁 壁高は10cm前後で，外傾して立ち上がっている。

床 攪乱が床面まで達しているが，遺存している床面はやや硬い。

ピット 1か所(P₁)検出されている。長径30cm，短径25cmの楕円形を呈しており，深さは10cmと浅い。性格は，不明である。

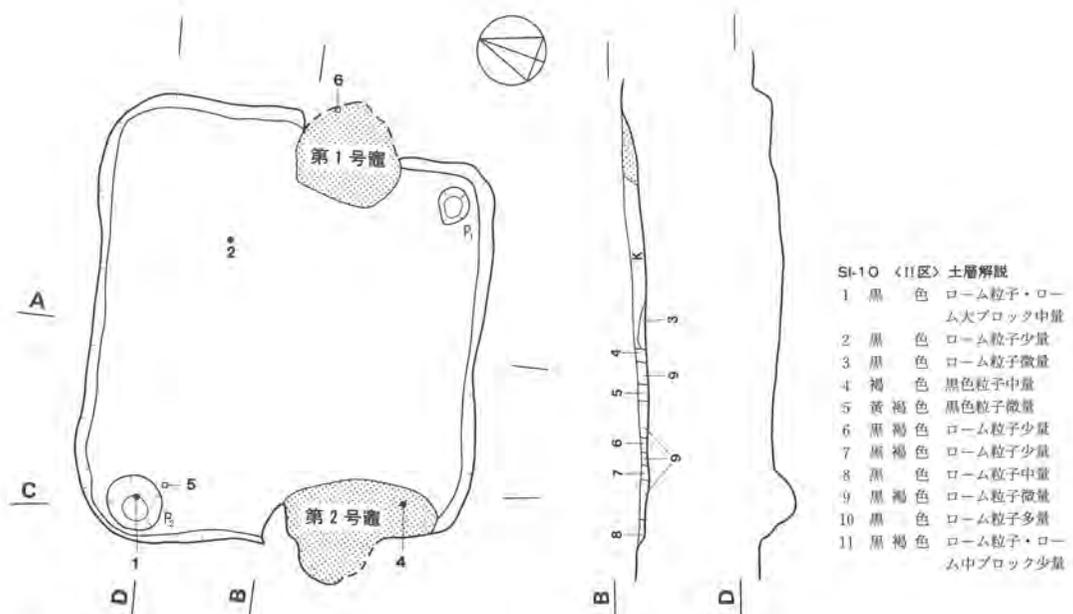
貯蔵穴 北西コーナーに検出されている。径45cmの円形を呈し，深さは20cmである。

竈 本跡からは，2ヶ所の竈が検出されている。第1号竈は，東壁の中央から南寄りを壁外へ40cm程掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は長さ97cm，幅90cmである。袖部は，床のロームを掘り残して基部としている。火床は，径40cmの円形を呈している。煙道は，火床から緩やかな傾斜で立ち上がっている。第2号竈は，西壁の中央から南寄りを壁外へ30cm程掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は長さ80cm，幅105cmである。袖部は，攪乱を受けているが，若干の床のロームを掘り残した基部が検出されている。火床は，床面をそのまま利用しており，多少赤変硬化している。煙道は，攪乱により不明である。

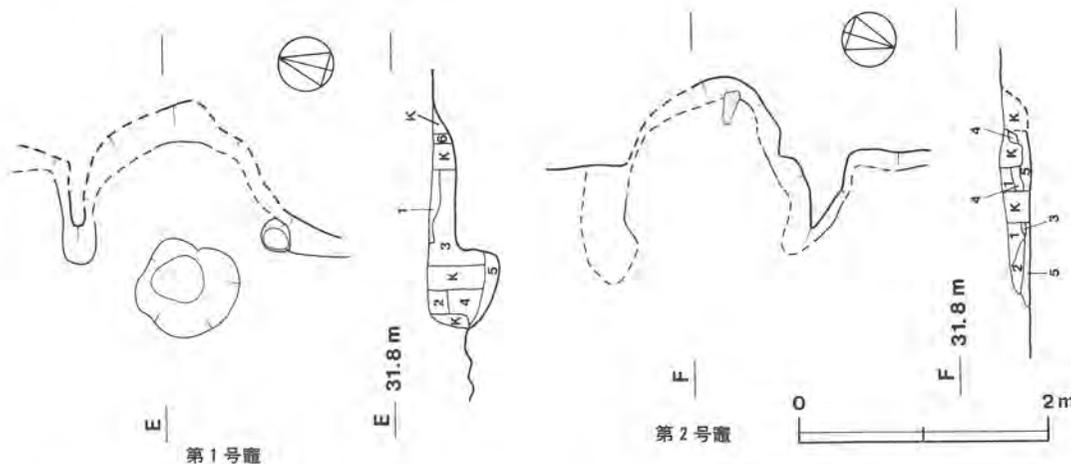
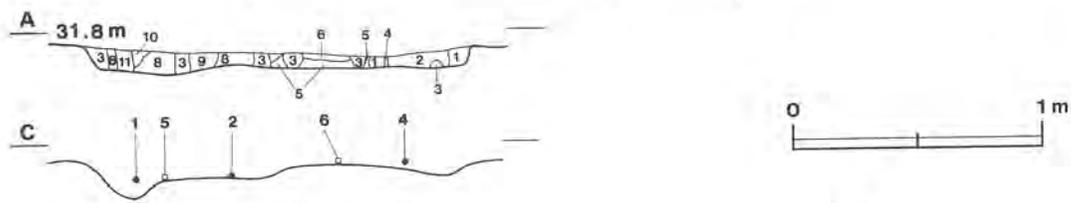
覆土 攪乱が激しいが，人為堆積と思われる。

遺物 住居跡壁際の床面直上から土師器片(甕1，坏3，細片48点)や鉄製品がかなり多く出土している。5の刀子は，北西コーナー際の床面直上から出土している。

所見 本跡は，出土遺物が少なく時期を限定できないが，住居跡の形態等から9世紀後半以降の住居跡と考えられる。



- SI-10 <II区> 土層解説
- 1 黒色 ローム粒子・ローム大ブロック中量
 - 2 黒色 ローム粒子少量
 - 3 黒色 ローム粒子微量
 - 4 褐色 黒色粒子中量
 - 5 黄褐色 黒色粒子微量
 - 6 黒褐色 ローム粒子少量
 - 7 黒褐色 ローム粒子少量
 - 8 黒色 ローム粒子中量
 - 9 黒褐色 ローム粒子微量
 - 10 黒色 ローム粒子多量
 - 11 黒褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量



- SI-10 <II区> 第1号竈 土層解説
- 1 黒褐色 焼土粒子多量, 焼土ブロック・灰粒子少量
 - 2 黒色 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
 - 3 黒褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 灰小ブロック・炭化粒子少量
 - 4 黒褐色 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
 - 5 褐色 灰粒子・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
 - 6 暗褐色 焼土粒子・灰粒子多量, 焼土中ブロック少量

- SI-10 <II区> 第2号竈 土層解説
- 1 黒褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・炭化物微量
 - 2 黒色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
 - 3 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量
 - 4 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・焼土小ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
 - 5 黒褐色 焼土粒子少量

第59図 第10号住居跡 <II区>・竈実測図



第60図 第10号住居跡〈Ⅱ区〉出土遺物実測図

第10号住居跡〈Ⅱ区〉出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第60図 1	壺 土師器	B (5.8) C [12.4]	底部、胴部片。平底。胴部は内彎ぎみに外傾する。	胴部横方向のへら削り。	長石・石英 灰白色 普通	5% P144 P ₂ 内覆土。
2	坏 土師器	A [11.4] B (3.6)	体部、口縁部片。体部は内彎ぎみに外上方に立ち上がり、口縁部は直線的に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。	雲母・長石 にぶい黄橙色 普通	10% P146 北部床面直上。
3	坏 土師器	A [12.4] B (3.1)	体部、口縁部片。体部は内彎ぎみに外上方に立ち上がり、口縁部は直線的に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。内面黒色処理。	スコリア・長石 (外)にぶい黄橙色 (内)黒色。普通	5% P147 第1号竈覆土。
4	坏 土師器	B (1.7) C [5.0]	底部、体部片。平底。体部は内彎しながら外上方に立ち上がる。	体部外面横ナデ。底部回転糸切り。内面黒色処理。	雲母 (外)褐灰色 (内)黒色。普通	10% P148 第2号竈覆土。

図版番号	器種	法量				特徴	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
5	刀子	(11.1)	1.7	0.7	(12.6)	茎部を欠損、刀身は研ぎ減っている	北西コーナー際床面直上	鉄製 M27
6	角釘	(5.9)	0.6	0.4	(2.8)	頭部を欠損	第1号竈底面	鉄製 M28

第11号住居跡〈Ⅱ区〉(第61図)

位置 調査区の南西部、E3e₃区を中心に確認されている。

規模と平面形 長軸4.8m、短軸2.9mの隅丸長方形を呈している。

主軸方向 N-75°-E

壁 壁高は20cm前後で、外傾して立ち上がっている。

床 攪乱が床面まで達しているが、遺存している床面は硬い。

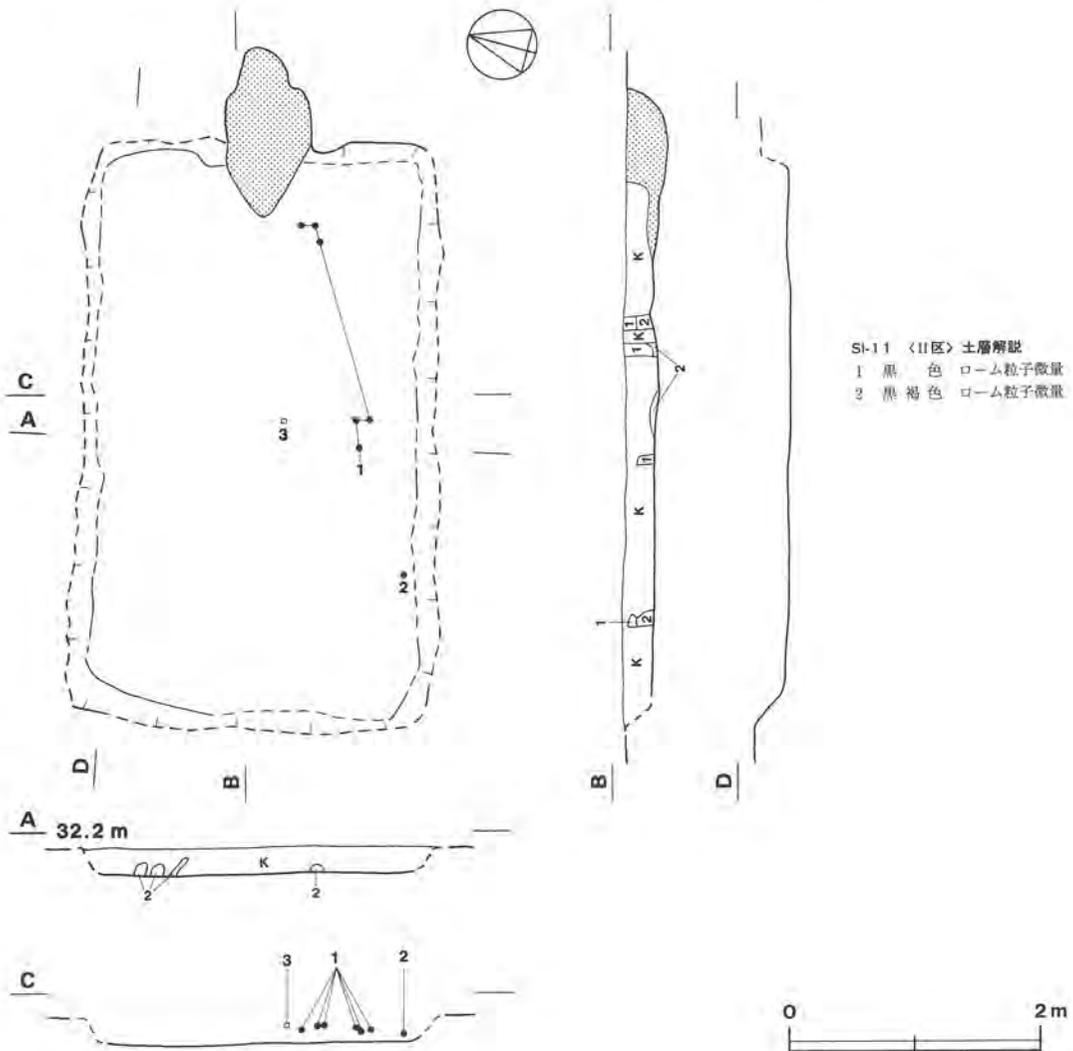
竈 東壁中央部を壁外へ90cm程掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は長さ100cm、幅68

cmである。攪乱により遺存状態は悪いが、火床は床面をそのまま利用しているものと考えられる。煙道は、火床から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

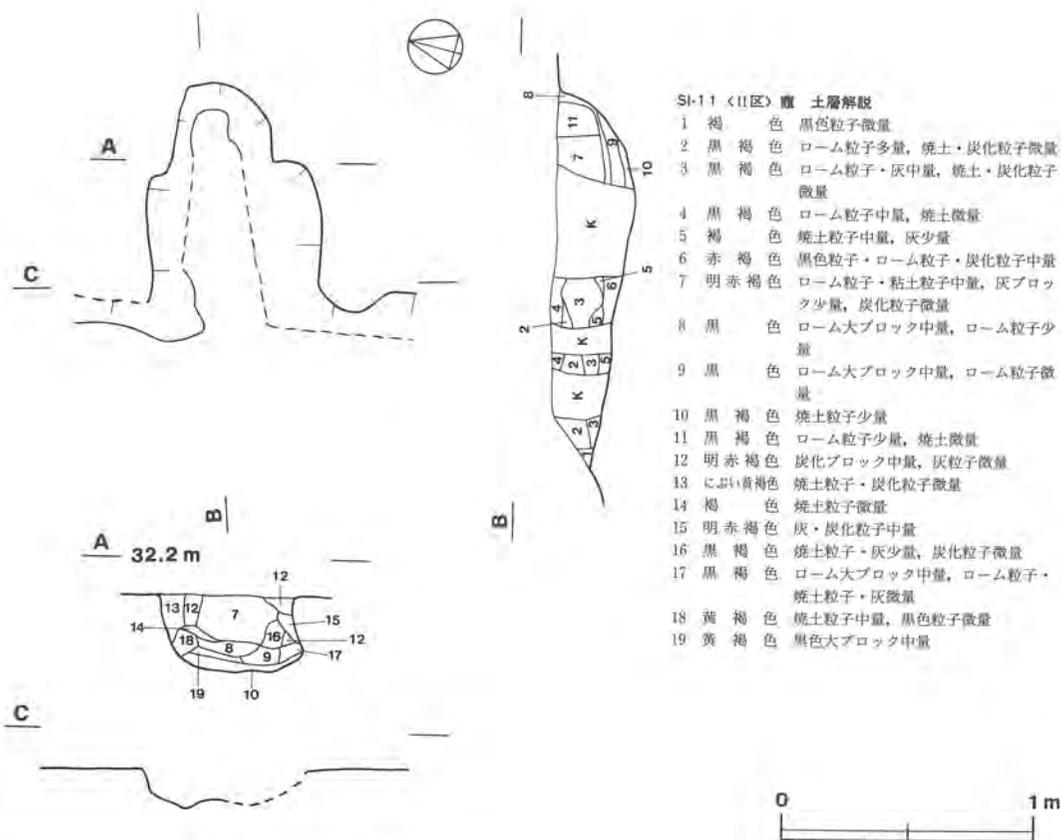
覆土 攪乱されており、不明である。

遺物 南壁付近から土師器片（甑1，坏1，細片60点）や須恵器細片が少量出土している。1の土師器の甑は、南壁の中央付近の覆土下層から出土している。3の銅芯耳環は、住居跡中央部の覆土から出土している。

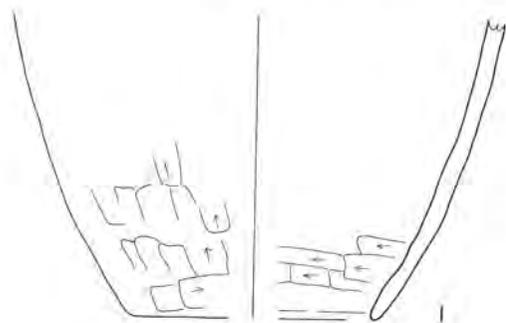
所見 本跡は、住居跡の形態や出土遺物から8世紀初頭の住居跡である。



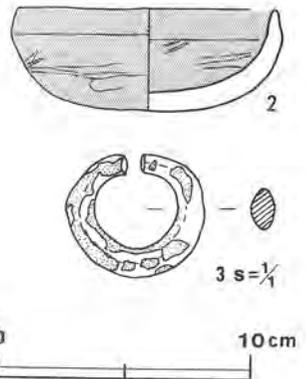
第61図 第11号住居跡 <II区> 実測図



第62図 第11号住居跡 <II区> 竈実測図



第63図 第11号住居跡 <II区> 出土遺物実測図



第11号住居跡〈II区〉出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第63図 1	甕 土師器	B (12.3) C [9.8]	底部、体部片。無底式。体部は外傾しながら立ち上がる。	体部外面縦方向のヘラ削り、内面下位は横方向のヘラ削りで、中位はナデ。	小石・長石 橙色 普通	15% P151 南壁付近覆土。
2	坏 土師器	A 10.4 B 4.2	丸底。体部と口縁部の境にわずかな稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面は丁寧なヘラ磨き。内面黒色処理。	長石・石英 (外)黒褐色 (内)黒色。普通	95% P152 南壁際覆土。

図版番号	器種	法量				特徴	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
3	耳環	(1.6)	1.8	0.6	3.1	銅芯金張	中央部覆土	銅製 M29

2 掘立柱建物跡

当調査区の北部から南部にかけて、奈良・平安時代の掘立柱建物跡が6棟検出されている。これらのうち4棟は、大形の建物跡である。

以下、それぞれの特徴や出土遺物について記載する。

第1号掘立柱建物跡 [SK-182~184・238~249・262・263・269・276・277・297・497・532] (第64図)

位置 調査区の北部、C7c₄区を中心に確認されている。

重複関係 本跡の北東部は、第5号堀と第273号土坑に掘り込まれている。

規模 東西3間、南北5間の建物で、柱間寸法は、桁行2.5m、梁行2.5mである。柱穴の掘方は平面形が、長径1.2~2.0m、短径0.7~1.0mの隅丸長方形を呈し、深さは0.5~1.1mである。柱痕跡はP₅で確認されており、柱の径は約30cmである。P₁₇~P₂₃は、束柱と考えられる。

長軸方向 N-67°-E

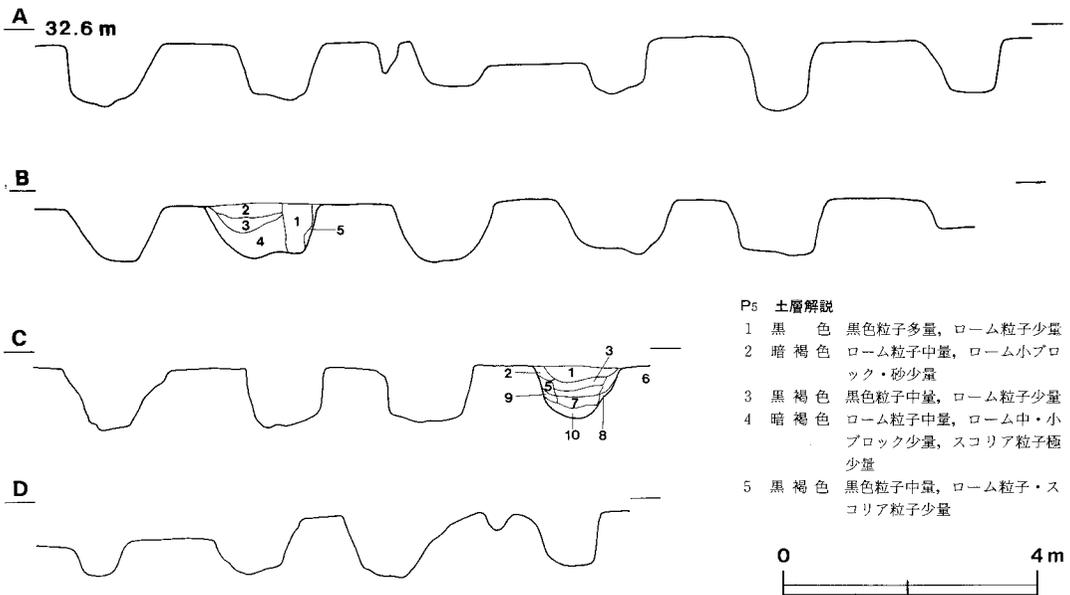
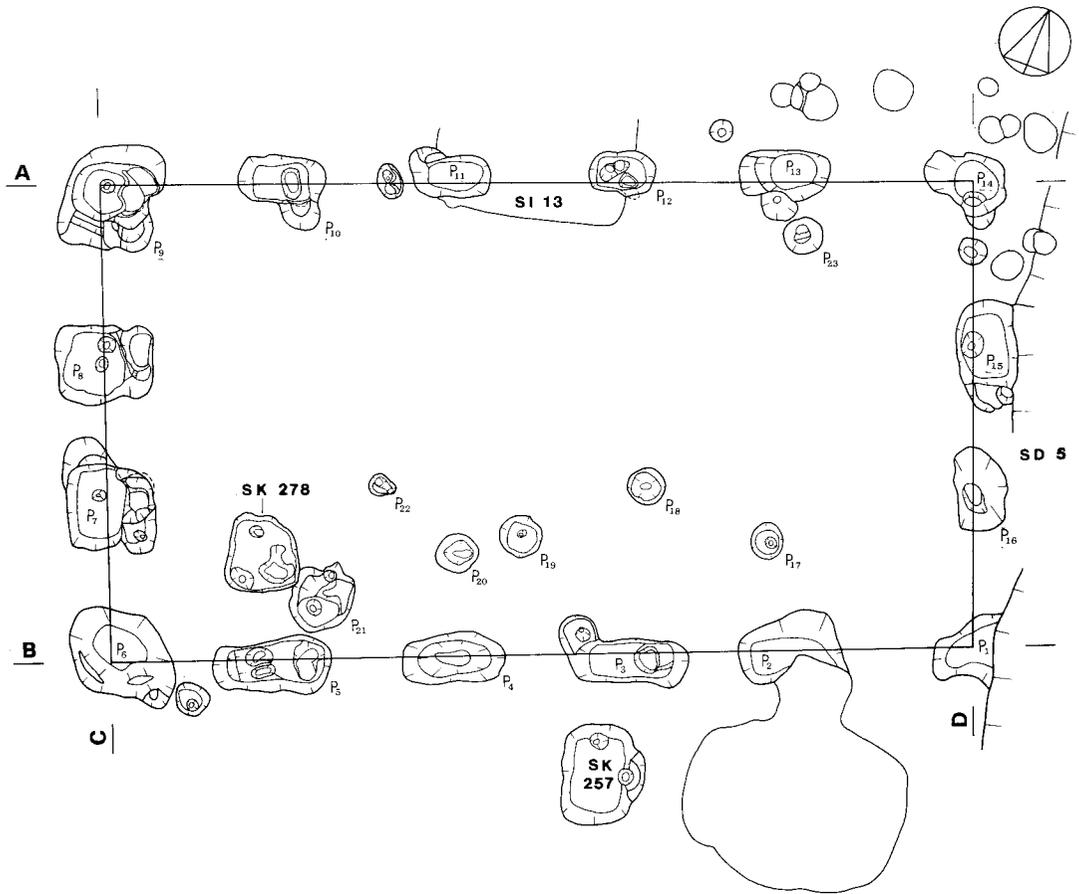
覆土 黒褐色土と褐色土(ローム土)を互層に版築されている。

遺物 柱掘方内の覆土から、土師器と須恵器の細片が少量出土している。

所見 本跡は、出土遺物や建物形態、規模等から平安時代の公的な建物と考えられる。また、第2・3号掘立柱建物跡と主軸方向や規模がほぼ同じであり、同時期に存在していたものと考えられる。

P₉ 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・黒色粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、スコリア小ブロック極少量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量、黒色粒子少量
- 4 にぶい褐色 ローム粒子中量、ローム大ブロック・黒色粒子少量、スコリア小ブロック極少量
- 5 暗褐色 黒色粒子中量、ローム粒子少量、ローム小ブロック・スコリア小ブロック極少量
- 6 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子少量、ローム中ブロック極少量
- 7 褐色 ローム粒子中量、ローム大ブロック・黒色粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 9 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック極少量
- 10 黒褐色 ローム粒子・黒色粒子・ローム中ブロック少量



第64図 第1号掘立柱建物跡実測図

第2号掘立柱建物跡 [SK-200・201・208・210・211・219・220・223・226・230・231・252・253・261・265・519
・558・559・668] (第65図)

位置 調査区の北部，C6f₈区を中心に確認されている。

重複関係 本跡の北・南部は，第7号堀と第17・18号溝，第226・332・337号土坑に掘り込まれている。

規模 東西3間，南北5間の建物で，柱間寸法は，桁行2.8m，梁行2.4～2.8mである。柱穴の掘方は平面形が，長径1.0～1.5m，短径0.7～1.0mの楕円形を呈し，深さは0.5～1.0mである。ピット間に幅40～70cm，深さ20cm前後の溝が掘られている部分が5か所検出されている。柱痕跡はP₅，P₆，P₈，P₁₁で確認されており，柱の径は約20cm前後である。P₁₆～P₁₉は，東柱と考えられる。

長軸方向 N-67°-E

覆土 黒褐色土と褐色土（ローム土）を互層に版築されている。

遺物 柱掘方内の覆土から，土師器，須恵器の細片が数片出土している。

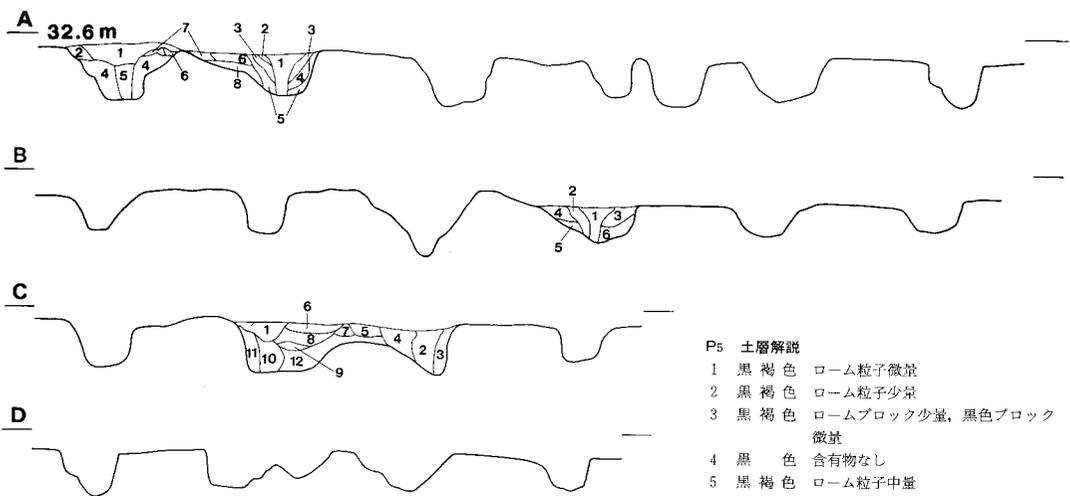
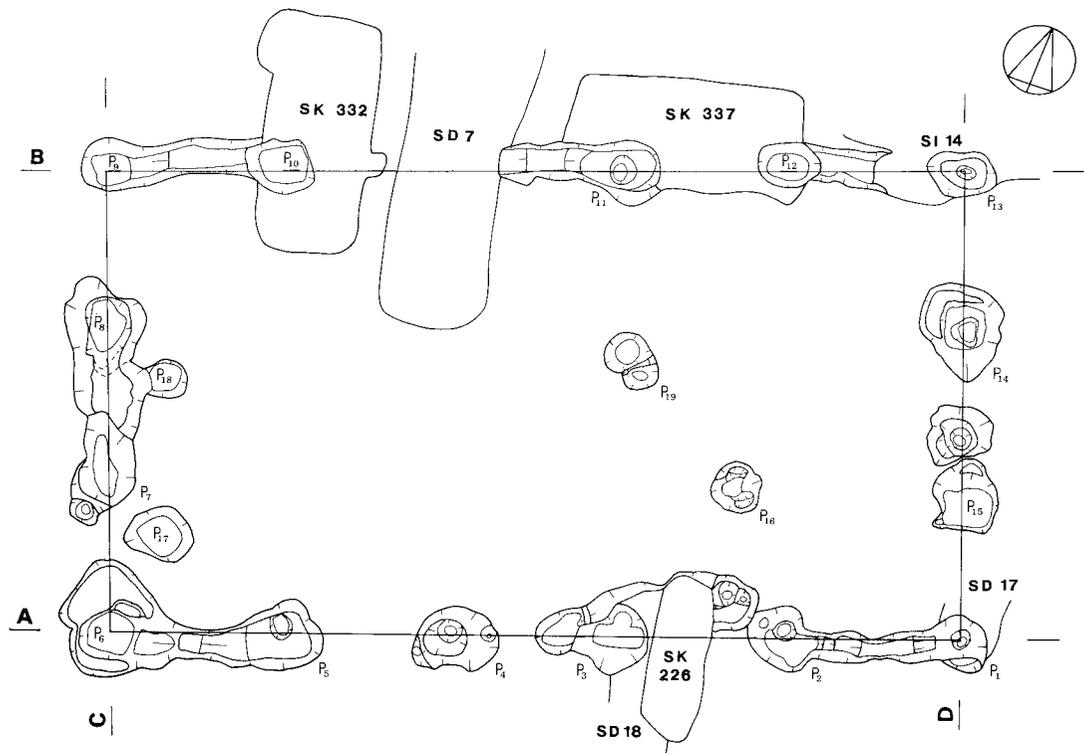
所見 本跡は，出土遺物や建物形態，規模等から平安時代の公的な建物と考えられる。また，第1・3号掘立柱建物跡と主軸方向や規模がほぼ同じであり，同時期に存在していたものと考えられる。

P7・8 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック極微量
- 2 黒色 ローム中ブロック中量，ローム粒子少量
- 3 黒色 ローム小ブロック多量，ローム粒子中量
- 4 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 5 黒色 ローム粒子中量，ローム小ブロック微量，
- 6 黒色 ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
- 7 褐色 黒色粒子中量
- 8 黒褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック極微量
- 9 褐色 黒色粒子少量
- 10 黒色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 11 黒色 ローム粒子・ローム小ブロック中量
- 12 黒色 ローム小ブロック中量，ローム粒子少量

P11 土層解説

- 1 黒色 黒色粒子多量，ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量，ローム中ブロック・スコリア小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，スコリア粒子・黒色粒子微量
- 4 明褐色 ローム粒子多量，黒色粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量，スコリア粒子・黒色粒子少量
- 6 黒褐色 ローム粒子・黒色粒子少量，ローム小ブロック・スコリア小ブロック微量



P6 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ロームブロック少量
- 4 黒色 ローム粒子微量
- 5 灰褐色 含有物なし
- 6 橙 色 黒色粒子微量

P5 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 黒色ブロック微量
- 4 黒 色 含有物なし
- 5 黒褐色 ローム粒子中量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子・ロームブロック少量
- 7 褐色 黒色粒子中量
- 8 暗褐色 黒色粒子中量, ロームブロック少量



第65図 第2号掘立柱建物跡実測図

第3号掘立柱建物跡 [SK-132・203・204・424～427・429・436・441・445～449・453・456・466] (第66図)

位置 調査区の北部，C6h₂区を中心に確認されている。

重複関係 本跡の東部は，第5号堀に掘り込まれている。

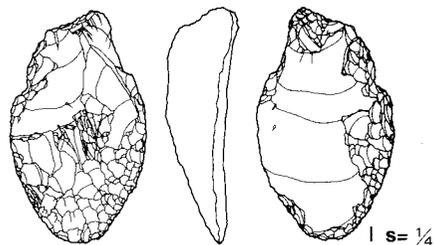
規模 東西3間，南北5間の建物で，柱間寸法は，桁行2.6～3.0m，梁行2.6m前後である。柱穴の掘方は平面形が，長径0.7～1.5m，短径0.9～1.1mの楕円形を呈し，深さは0.4～1.0mである。P₁～P₃，P₈～P₁₀，P₁₃～P₁₅の間に幅60～70cm，深さ10～20cmの溝が検出されている。柱痕跡はP₅，P₇，P₁₀，P₁₂で確認されており，柱寸法は径約20～30cmである。P₁₆～P₂₉は，束柱と考えられる。

長軸方向 N-68°-E

覆土 黒褐色土と褐色土（ローム土）を互層に版築されている。

遺物 P₁₃から，土師器の細片が少量出土している。

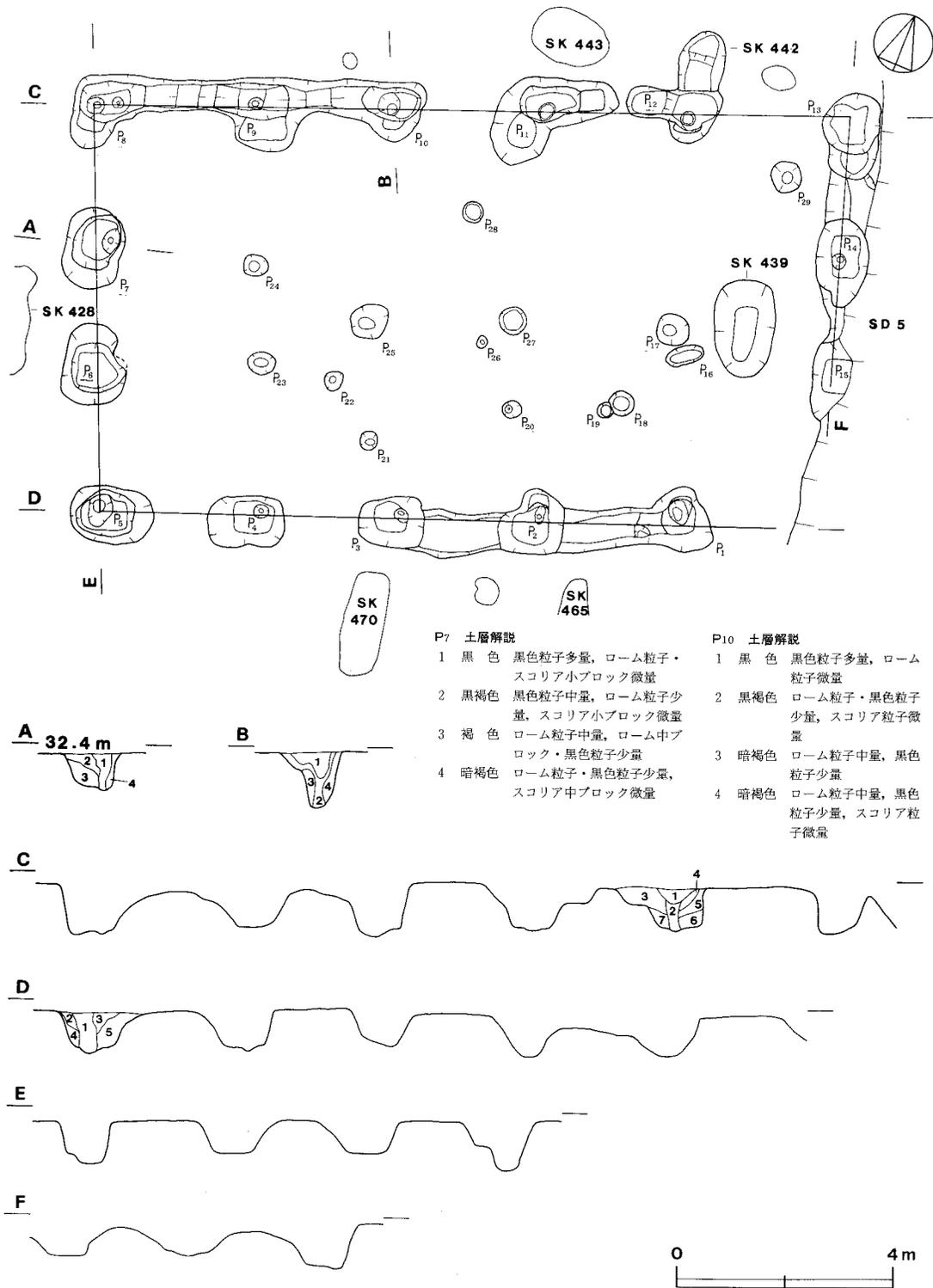
所見 本跡は，出土遺物や建物形態，規模等から平安時代の公的な建物と考えられる。また，第1・2号掘立柱建物跡と主軸方向や規模がほぼ同じであり，同時期に存在していたものと考えられる。



第66図 第3号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第3号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版 番号	器種	石質	法 量				出土地点	備 考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第67図 1	スクレーパー	瑪 瑠	12.4	7.2	4.1	238.2	P ₄ 内	Q43



第67図 第3号掘立柱建物跡実測図

P5 土層解説

- 1 黒色 黒色粒子多量, ローム粒子少量, スコリア小ブロック極微量
- 2 黒褐色 黒色粒子中量, ローム粒子微量, スコリア粒子極微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・黒色粒子少量, スコリア粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子・ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子・ローム大ブロック中量, スコリア小ブロック・黒色粒子少量

P12 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量
- 2 黒褐色 黒色粒子中量, ローム粒子極少量, ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 黒色粒子極少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量, 黒色粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子少量, ローム小ブロック極少量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量, スコリア粒子極少量
- 7 極暗褐色 ローム粒子・黒色粒子少量, スコリア粒子極少量

第1号掘立柱建物跡〈II区〉[SK-1~11] (第68図)

位置 調査区の南西部, E3b₉区を中心に確認されている。

規模 東西4間, 南北3間の建物で, 柱間寸法は桁行1.8~3.4m, 梁行1.2~2.0mである。柱穴の掘方は平面形が, 径25~45cmの円形を呈し, 深さは20~60cmである。柱痕跡は, P₁~P₃, P₅, P₁₀, P₁₁から確認されている。

長軸方向 N-89°-W

覆土 黒褐色土が主体で, 柱痕跡は黒色土である。

所見 本跡は, 倉庫跡と考えられる。出土遺物はないが, 配置や規模等から考え, 奈良・平安時代の範疇に含まれるものと思われる。

第2号掘立柱建物跡〈II区〉[SK-38~43] (第69図)

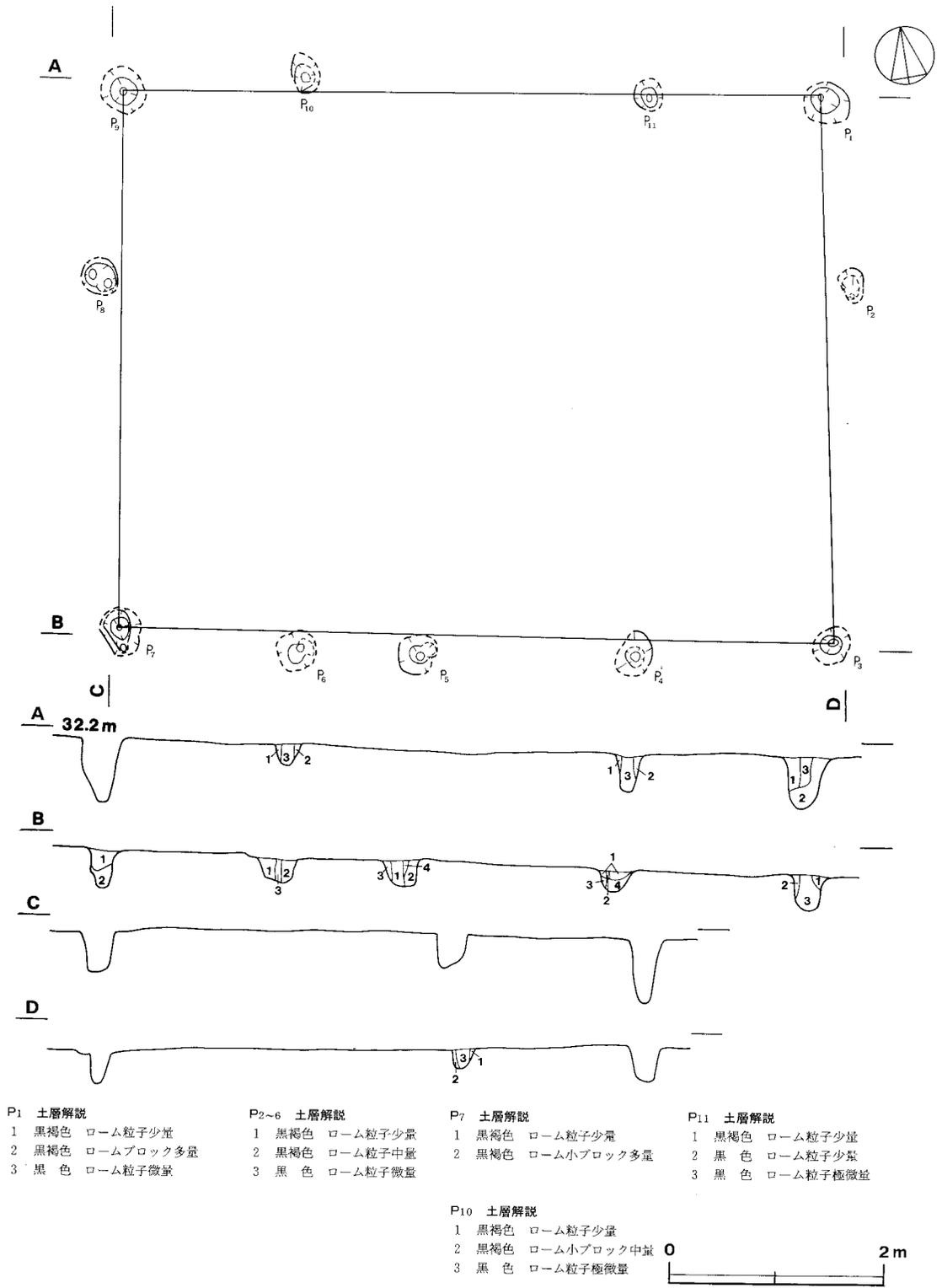
位置 調査区の西部中央寄り, D5c₃区を中心に確認されている。

規模 東西2間, 南北1間の建物で, 柱間寸法は桁行2.4~3.0m, 梁行3.3mである。柱穴の掘方は平面形が, 径30~45cmの円形を呈し, 深さは10~25cmである。柱痕跡は, 確認されなかった。

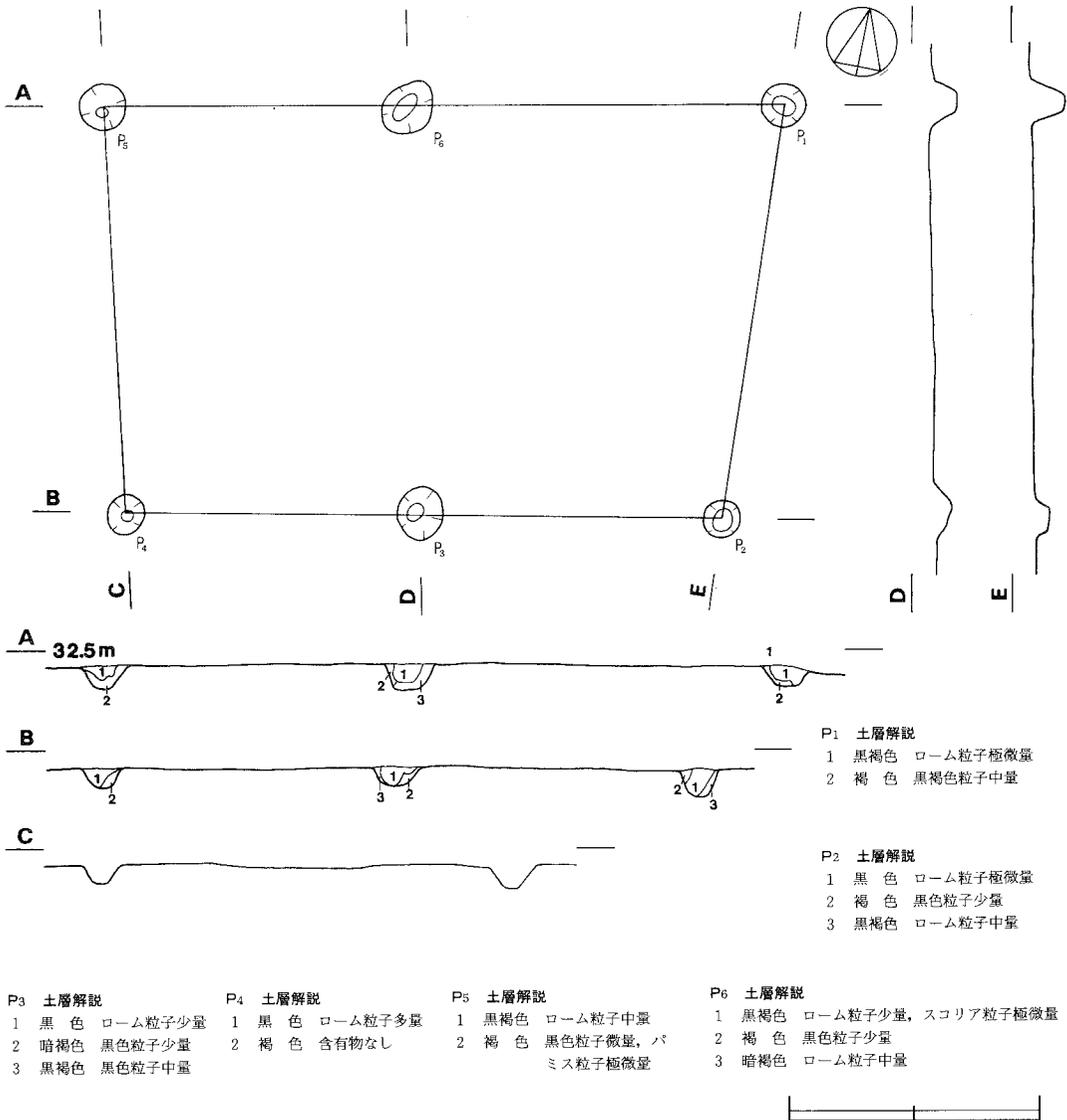
長軸方向 N-76°-E

覆土 黒褐色土の単一層で, 柱痕跡は確認できなかった。

所見 本跡は, 倉庫跡と考えられる。出土遺物はないが, 配置や規模等から考え, 奈良・平安時代のものと思われる。



第68図 第1号掘立柱建物跡 <II区> 実測図



第69図 第2号掘立柱建物跡〈II区〉実測図

第3号掘立柱建物跡〈II区〉[SA-1・2] (第70図)

位置 調査区の南西部, E3・F3・F4・G4区で確認されている。

重複関係 南端の柱穴2か所は, 第2号溝〈II区〉に掘り込まれている。

規模 第1号溝〈II区〉に並行して, 溝の内側に築かれている東西2間, 南北36間の大形の建物である。柱間寸法は, 桁行2.4~2.7m, 梁行2.2m, 全長約88mである。柱穴の掘方は平面形が, 径50cm前後の円形を呈し, 深さは20~90cmである。柱痕跡は3か所で確認されており, 柱の径は, 約20cmである。

長軸方向 N-35°-W

覆土 黒褐色土が主体で、柱痕跡は黒色土である。

所見 本跡は、第1号溝〈Ⅱ区〉と相伴するものであり、溝内から出土した須恵器の甕と坏や建物の形態から奈良時代の公的な建物と考えられる。

3 溝

当調査区からは、溝が4条検出されている。

以下、それぞれの溝の特徴と出土遺物について記載する。

第11号溝（付図2，第71図）

位置 調査区の中央部及び南東部，D8・D9・E6～8・F6・F7区で確認されている。

重複関係 本跡は、第5号住居跡を掘り込み、第2・3・5号堀に掘り込まれている。また、E8a₅区で第12号溝と、F6b₉区で第141号土坑と重複しているが、同時期に存在したものと思われる。

規模と形状 上幅1m前後，下幅0.4m前後，深さ35～45cm，全長166mで，断面形状は「U」字状を呈し，底面はほぼ平坦である。

方向 北から南（N-19°-W）へ46m程直線的に延び，F6b₉区で82°の角度で北東方向（N-61°-E）へ120m延び，第1号土塁下に入ってしまう。

覆土 自然堆積。

遺物 覆土から1の内耳鍋片が出土している。

所見 本跡は、10世紀の住居跡を掘り込み，館跡に伴う第5号堀に掘り込まれていることから10世紀以降14世紀後半以前のもので，館跡が成立する前の溝と思われる。

第11号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第71図 1	内耳鍋 土師質土器	A [30.2] B (6.2)	体部，口縁部片。体部と口縁部内面の境に稜を持つ。	口縁部，体部内・外面横ナデ。	砂粒 灰黄橙色 普通	5% P278 ススが付着。 覆土。

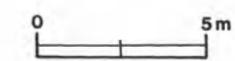
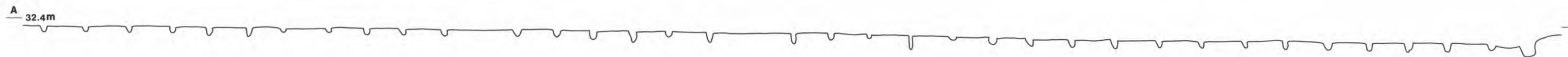
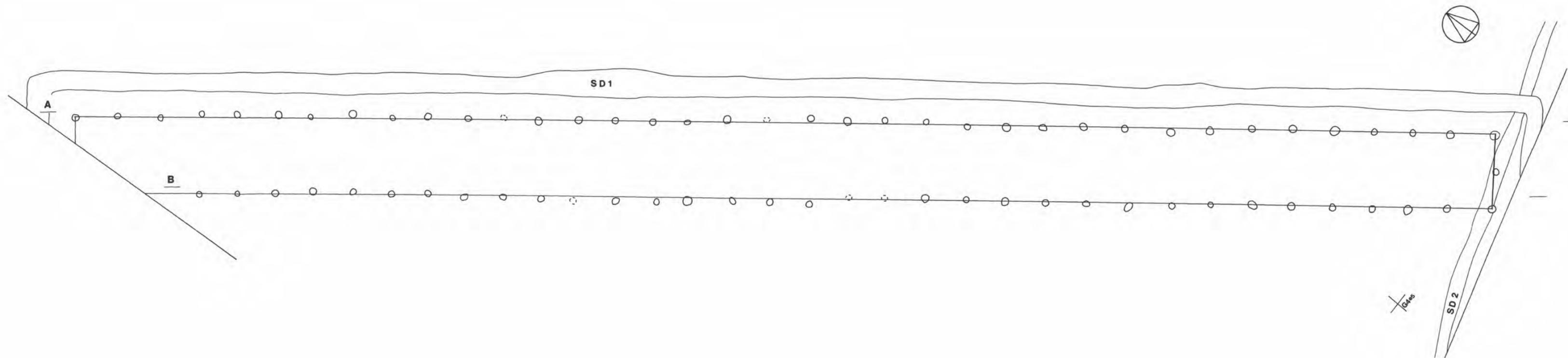
第12号溝（付図2，第72図）

位置 調査区の南東部，D8，E8区で確認されている。

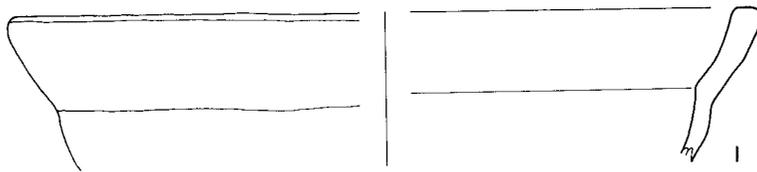
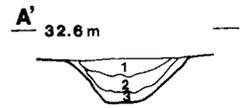
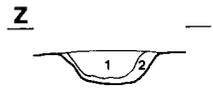
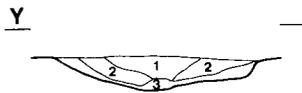
重複関係 本跡を第3号堀が掘り込んでいる。また，E8a₅区で第11号溝と重複しているが，同時期に存在したものと思われる。

規模と形状 上幅1.2m，下幅0.6m，深さ9cm，全長37mで，断面形状は浅い「U」字状を呈し，底面はほぼ平坦である。

方向 北から南（N-13°-W）へ37m程直線的に延び，第1号土塁下に入ってしまう。



第70图 第3号掘立柱建物跡〈Ⅱ区〉実測図



SD-11 土層解説

X

- 1 黒色 黒色粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, スコリア粒子少量
- 4 明褐色 ローム粒子多量, スコリア粒子少量

Y

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, スコリア粒子微量
- 3 褐色 黒色粒子中量

Z

- 1 黒色 ローム粒子極少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・黒色粒子中量, 炭化物極少量

A'

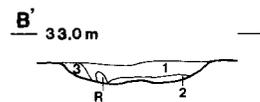
- 1 黒色 ローム粒子極少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, スコリア粒子極少量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第71図 第11号溝断面・出土遺物実測図

覆土 自然堆積。

遺物 覆土から1の内耳鍋片が出土している。

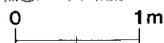
所見 本跡は、第11号溝と同様に、館跡が成立する前の溝である。



SD-12 土層解説

B'

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 灰褐色 ローム粒子中量
- 3 明褐色 黒色ブロック微量



第72図 第12号溝断面・出土遺物実測図

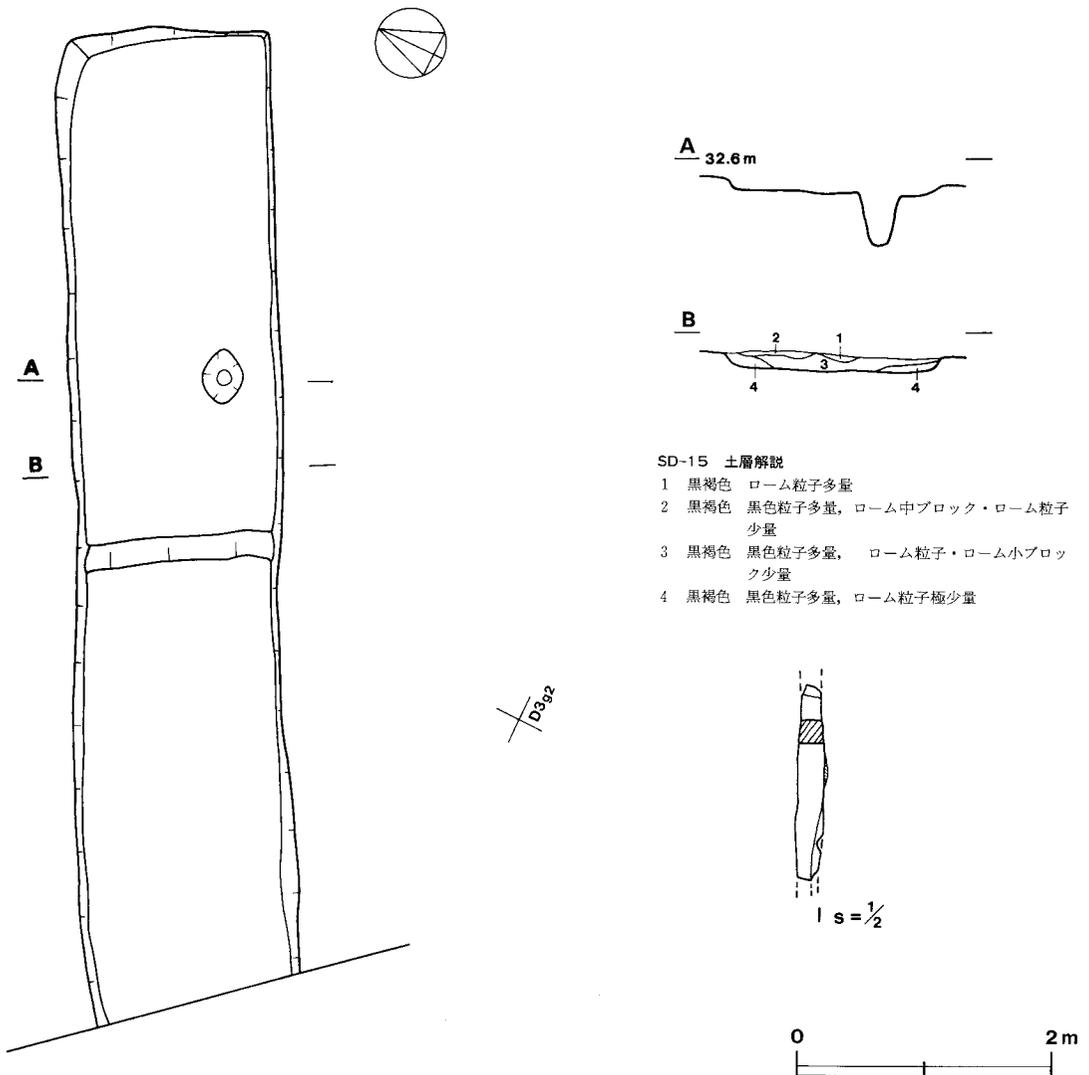
第12号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第72図 1	内耳鍋 土師質土器	A [27.0] B (5.7)	口縁部片。口縁部は頸部から内 彎ぎみに立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	5% P279 ススが付着。 覆土。

第15号溝 (第73図)

位置 調査区の西部, D3f₁区を中心に確認されている。

規模と形状 検出された長さは約6.9mであり, 上幅1.7m, 下幅1.5m, 深さ10cmで, 断面形は「U」状を呈し, 底面は若干の凹凸が見られる。



第73図 第15号溝・出土遺物実測図

方向 D3c₂区から西南方向（N-60°-E）へ直線的に延びており、さらに調査区外へ延びるものと思われる。

覆土 自然堆積

遺物 覆土から土師器、須恵器の細片が出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から平安時代のものと考えられるが、性格は不明である。

第15号溝出土遺物観察表

図版 番号	器種	法 量				特 徴	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第73図 1	角 釘	(5.2)	0.9	0.6	(5.2)		覆土	鉄製 M62

第1号溝〈II区〉(第70・74図)

位置 調査区の南西部，E3・F3・F4・G4区で確認されている。

重複関係 G4d₈区で第2号溝〈II区〉に掘り込まれている。

規模と形状 E3f₅、G4d₈区でコーナーが検出されているが、それより南西部の調査区外に延びるものと思われ、一辺97mの方形の溝になると推定される。上幅1.2m，下幅0.6～0.7m，深さ60～100cm，全長103mで，断面形状は「U」字状や「└」状を呈している。

方向 E3f₅区からG4d₈区の間を北西方向（N-37°-W）へ直線的に延びている。E3f₅区とG4d₈区では，溝が直角に曲がって，南西方向に延びるものと思われる。

覆土 自然堆積。

遺物 覆土上・中層から土師器の細片や須恵器片（甕1，細片11点）が少量出土している。その他，流れ込みと思われる縄文式土器片や石鏃，鉄製品が出土している。須恵器の1の大甕胴部片や須恵器の坏片は覆土下層から出土している。

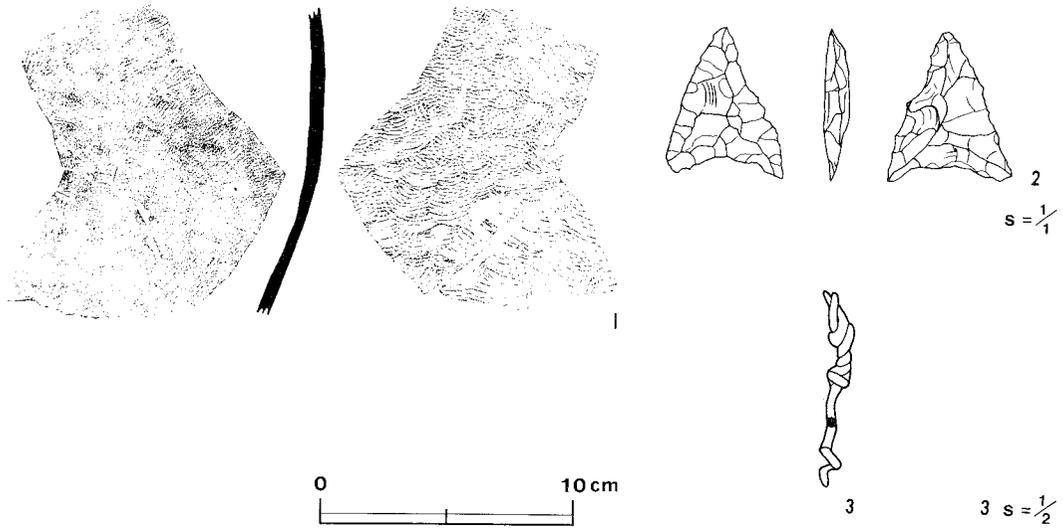
所見 出土遺物等から8世紀前半に構築されたものと考えられ，第3号掘立柱建物跡〈II区〉を囲む溝と思われる。

第1号溝〈II区〉出土遺物観察表

図版 番号	器種	石 質	法 量				出 土 地 点	備 考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第74図 2	石 鏃	チャート	2.0	1.6	0.4	0.7	覆土	Q36

図版 番号	器種	法 量				特 徴	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
3	不 明	(5.3)	1.0	0.2	(3.6)		覆土	錐か，鉄製 M68

第74図の1は8世紀前半の須恵器の大甕片の拓影図で，外面に平行タキ目，内面に青海波文が見られる。



第74図 第1号溝〈II区〉出土遺物実測・拓影図

4 基壇

第1号基壇 [S X-3] (第75図)

位置 調査区の北東部, C8e₇区を中心に確認されている。

重複関係 本跡の北部は, 第2号堀に掘り込まれている。また, 堀が埋没した後に第2号積石状塚が築かれており, 3つの遺構が重複している。

規模と平面形 1辺11mの方形を呈するものと推定される。

主軸方向 N-84°-E

ピット 基壇上に11ヶ所 (P₁~P₁₁) 検出されている。P₁~P₆, P₉は径50~100cmの円形を呈し, 深さ20~50cmで規則性のある配列をしているが, 第2号堀との重複により全容は不明である。規模は東西3間, 南北2間の建物が建っていたと思われる。

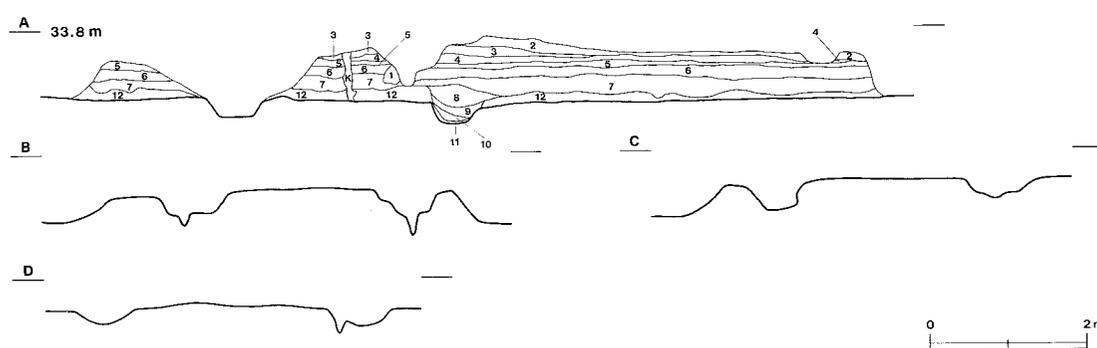
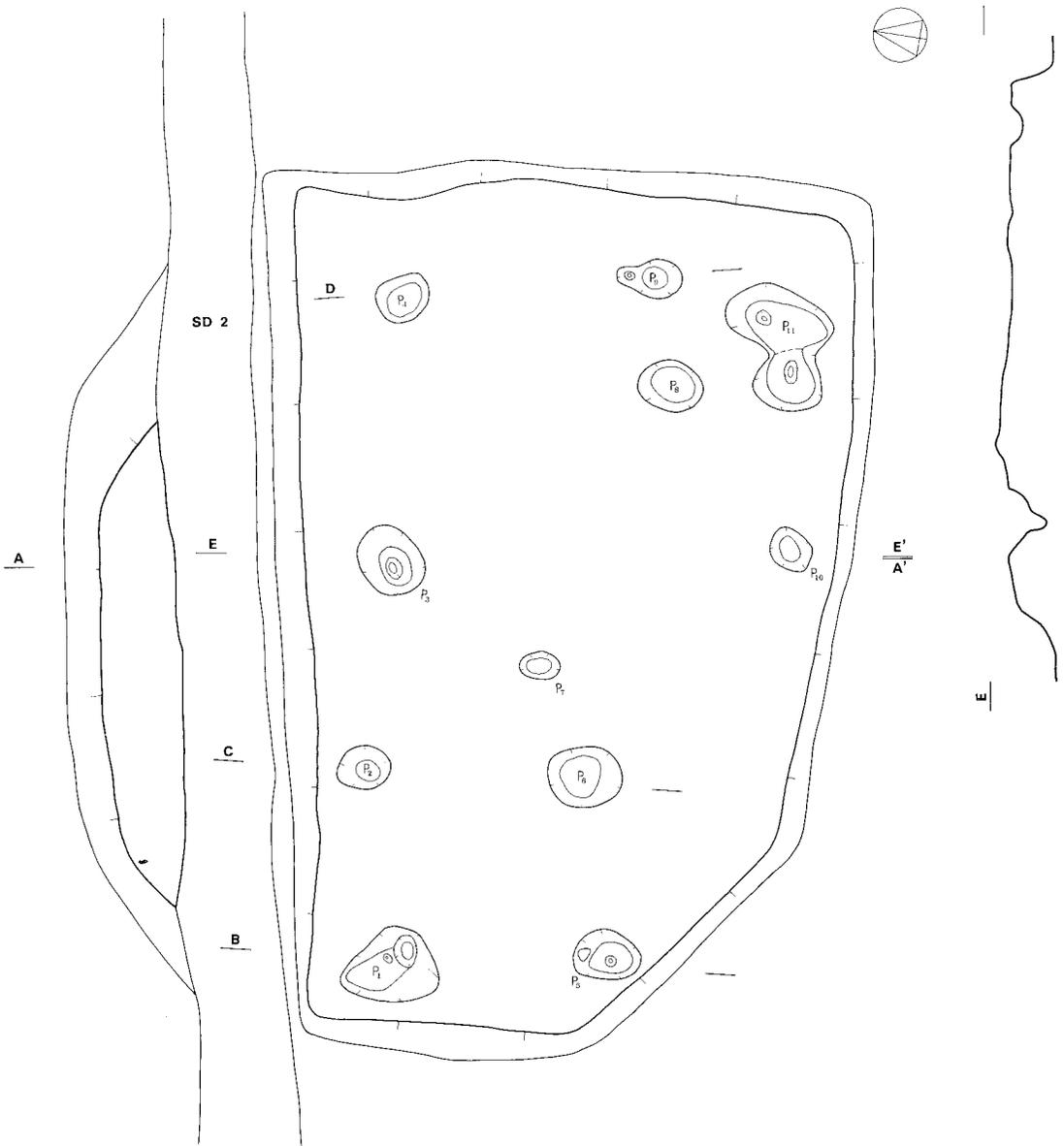
覆土 黒色の旧表土上に, 褐色粘土と黒褐色土を版築(5層を形成)している。

遺物 1の須恵器の台付甕が基壇上から出土している。

所見 第2号堀を構築する際に基壇を掘り込んでおり, 堀内からは基壇上にあつたと思われる布目瓦や土師器の内面黒色の坏が出土している。出土遺物や遺構の形態等から9世紀の公的建物と思われる。

第1号基壇出土遺物観察表

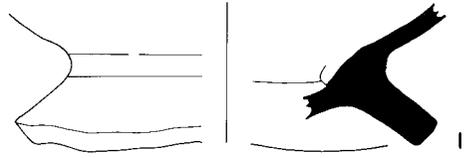
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第76図 1	台付甕 須恵器	B (6.0) D [15.4] E 2.8	底部片。台部は短く, 「ハ」の字状に開く。	台部内・外面横ナデ。台部と胴部の接合痕。	砂粒 黄灰色 良好	15% 上面。 P 301



第75图 第1号基壇实测图

第1号基壇 土層解説

- 1 黒褐色 黒色粒子小ブロック少量、ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム中・小ブロック・小礫多量
- 3 褐色 黒色粒子少量、小礫微量
- 4 褐色 黒色粒子小ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量
- 6 黒色 ローム粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子微量
- 8 黒褐色 ローム粒子少量
- 9 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 10 褐色 黒色粒子少量
- 11 褐色 黒色粒子微量
- 12 暗褐色 スコリア粒子微量



第76図 第1号基壇出土遺物実測図

5 土 坑

当調査区からは奈良・平安時代の土坑が、12基検出されている。その中で形状や規模、出土遺物に特徴がある2基の土坑については文章で記述し、その他のものは一覧表に記載する。

第480号土坑 (第77図)

位置 調査区の北東部、C7h₃区に確認されている。

重複関係 本跡の西部は第460号土坑に、北部は第7号井戸に掘り込まれている。

規模と平面形 長径2.5m、短径1.6mの楕円形を呈し、深さは80cmである。

長径方向 N-15°-E

壁面 北壁はほぼ垂直に立ち上がっているのに対し、他の壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

底面 皿状。

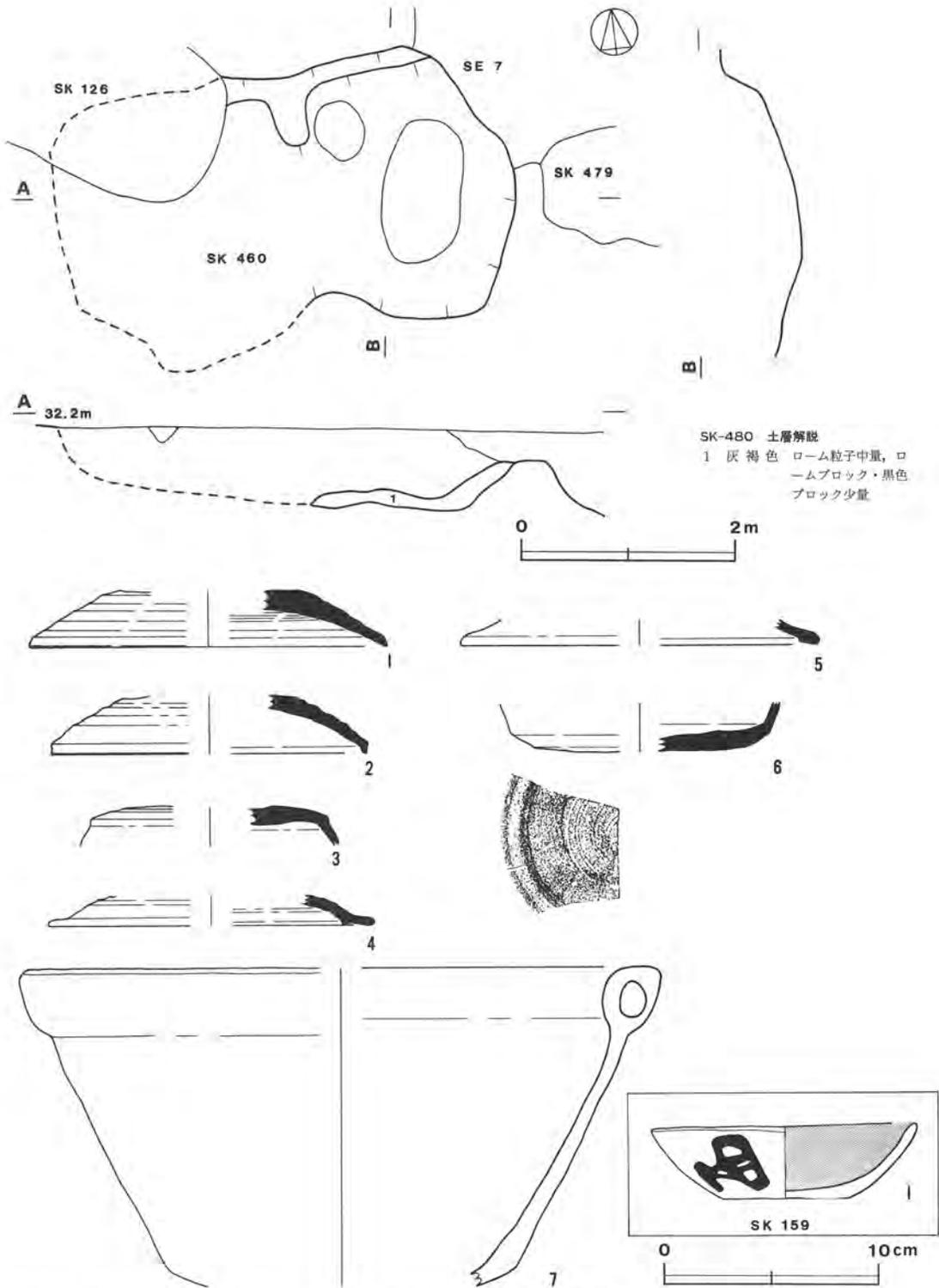
覆土 自然堆積。

遺物 覆土下層からは、1や2、3の須恵器の坏蓋片、6の坏身片をはじめ、土師器の甕の細片や坏の細片が多量に出土している。その他、覆土上層から流れ込みと思われる内耳鍋片が出土している。

所見 中世の遺構である第7号井戸より古く、出土遺物等から8世紀前半の土坑と思われる。

第480号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第77図 1	蓋 須恵器	A [16.6] B (2.6)	天井部片。平坦な天井部から緩やかに傾斜して口縁部に至る。	天井部回転ヘラ削り調整。口縁部横ナデ。	長石 灰色 普通	20% 覆土。 P192
2	蓋 須恵器	A [14.1] B (2.7)	天井部、口縁部片。口唇部は下方に屈曲する。	天井部回転ヘラ削り調整。口縁部横ナデ。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	15% 覆土。 P193



第77図 第159号出土遺物実測図, 第480号土坑・出土遺物実測図

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第77図 3	蓋 須恵器	B (1.9)	天井部, 口縁部片。天井部と口縁部に明瞭な稜を持ち, 口縁部は斜下方に伸びる。	天井部回転ヘラ削り調整。口縁部横ナデ。	砂粒 灰色 普通	5% 覆土。 P194
4	蓋 須恵器	A [15.2] B (1.4)	口縁部片。口縁部内面にわずかなかえりを持つ。	口縁部横ナデ。	砂粒 灰色 普通	5% 覆土。 P195
5	蓋 須恵器	A [15.4] B (1.2)	口縁部片。口縁部内面は折り返して, かえりにしている。	口縁部横ナデ。	小石・長石 灰色 普通	5% 覆土。 P196
6	坏 須恵器	B (2.3) C [12.3]	底部, 体部片。底部と体部の境は不明瞭。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒 灰白色 普通	5% 覆土。 P225
7	内耳鍋 土師質土器	A [29.8] B (15.0)	体部, 口縁部片。体部は直線的に外傾し, 口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦方向のナデ, 内面横ナデ。	砂粒 黒褐色 普通	25% ススが付着。 覆土。 P191

第159号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第77図 1	坏 土師器	A 12.4 B 4.5 C 6.0	平底。体部, 口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面横ナデ。内面黒色処理。	長石 (外)明黄褐色 (内)黒色。普通	100% 南東コーナー付近。底面。 P168

第828号土坑 (第78図)

位置 調査区の南部, E6h₉区を中心に確認されている。

重複関係 本跡は, 第7号住居跡の北東コーナー部に掘り込まれている。

規模と平面形 長径1.9m, 短径1.5mの不整楕円形を呈し, 深さは約100cmである。

長径方向 N-58°-E

壁面 外傾して, 立ち上がっている。

底面 皿状の底面にさらに径50cm, 深さ20cm程の窪みがある。

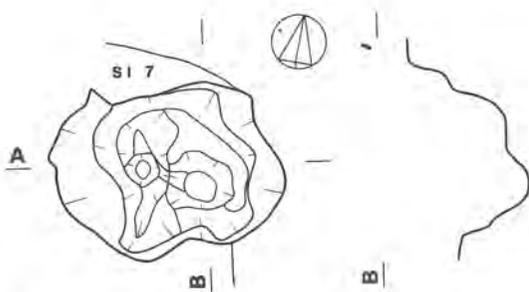
覆土 ロームブロックを含んでおり, 人為堆積とした。

遺物 覆土から土師器の細片が出土している。

所見 第7号住居跡との重複関係から, 9世紀後半以前の土坑と思われる。

第828号土坑出土遺物観察表

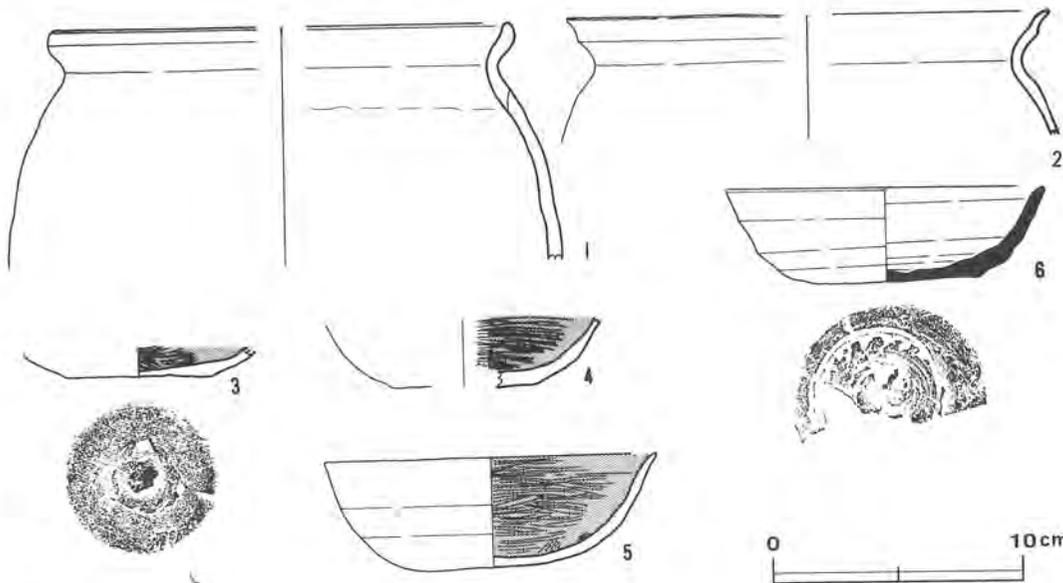
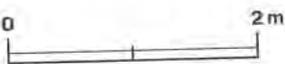
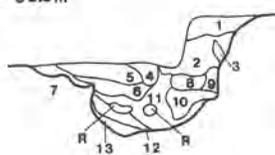
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第78図 1	甕 土師器	A [18.4] B (9.6)	胴部, 口縁部片。口縁部は短く, 口唇部で上方につまみ上げる。	口縁部, 胴部内・外面横ナデ。	雲母・長石 にぶい橙色 普通	10% 覆土。 P40
2	甕 土師器	A [19.2] B (5.0)	口縁部片。口縁部は外反し, さらに口唇部で外反する。外面の凹部は幅広く浅い。	口縁部外面横ナデ。	長石・石英 橙色 普通	5% 覆土。 P42
3	坏 土師器	B (1.2) C 6.0	底部, 体部片。平底。体部は内彎ぎみに外傾する。	体部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り。内面黒色処理。	スコリア・長石・石英 (外)にぶい橙色 (内)黒色。普通	20% 覆土。 P56



SK-82B 土層解説

- 1 黒褐色 黒色粒子少量, ローム粒子極少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, バミス粒子極少量
- 3 明褐色 ローム粒子多量
- 4 黒褐色 黒色粒子少量, ローム粒子極少量
- 5 黒褐色 黒色粒子中量, 砂少量, ローム粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子微量
- 7 明褐色 ローム粒子多量
- 8 褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子極少量
- 9 明褐色 ローム粒子中量, スコリア粒子微量
- 10 褐色 ローム粒子少量, 黒色粒子極少量, 礫極微量
- 11 明褐色 ローム粒子多量, 黒色粒子極少量
- 12 明褐色 ローム粒子多量
- 13 明褐色 ローム粒子多量, 黒色粒子微量

A 32.5m



第78図 第828号土坑・出土遺物実測図

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第78図 4	坏 土師器	A [10.8] B (2.7) C [5.8]	体部, 口縁部片。体部, 口縁部は内彎しながら外傾して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面横ナデ, 内面丁寧なヘラ磨き。内面黒色処理。	スコリア・長石・石英(外)にぶい黄褐色(内)緑黒色。普通	15% 覆土。 P 54
5	坏 土師器	A 13.4 B 4.6	底部欠損。底部と体部の境は不明瞭。口唇部はわずかに外反する。	体部外面横ナデ, 内面丁寧なヘラ磨き。底部回転ヘラ切り。	蟹母・長石にぶい橙色普通	70% 二次焼成痕。 覆土。 P 227
6	坏 須恵器	A 12.6 B 3.8 C 7.2	体部は内彎しながら外傾し, 口縁部で直線的に立ち上がる。	体部はわずかにロクロ目を残す。底部回転ヘラ切り。	スコリア・長石褐色不良	60% 二次焼成痕。 覆土。 P 48

表2 奈良・平安時代の土坑一覽表

土坑 番号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平 面 形	規 模			壁 面	底 面	覆 土	出 土 遺 物	備 考 古-新	図 版 番 号
				長径(m)	短径(m)	深さ(cm)						
66	C8b ₅	N-20'-E	楕円形	1.0	0.9	25	緩傾	皿状	自然	土師3片, 縄文 1片		
80	C8f ₀	N-35'-E	隅丸長方形	1.4	1.0	15	外傾	平坦	自然	須恵1片		
146	D3e ₉	N-8'-E	楕円形	1.9	1.0	25	垂直	皿状	人為	土師2片, 須恵 2片		
154	C4d ₆	N-60'-E	隅丸長方形	1.1	0.6	15	垂直	平坦	自然	土師1片		
159	C5d ₅	N-10'-W	隅丸長方形	[1.0]	[0.4]	40	垂直	平坦	-		本跡→SD-1 住居跡か, 9c	
480	C7h ₃	N-15'-E	隅丸長方形	[2.5]	[1.6]	80	垂直	皿状	自然	土師208片, 須恵 49片	本跡→SE-7, SK→460, 8c前	
527	C6b ₈	N-70'-E	隅丸長方形	[3.5]	[2.7]	40	緩傾	皿状	人為		本跡→SD-8	
555	D7g ₈	N-72'-E	楕円形	1.2	0.9	20	緩傾	皿状	自然	内耳1片, 土師 2片		
646	C6j ₇	N-6'-E	隅丸長方形	[2.7]	1.3	30	垂直	皿状	人為	須恵1片	本跡→SK- 213	
828	E6h ₉	N-58'-E	不整楕円形	1.9	1.5	100	外傾	皿状	人為	内耳2片, 須恵 1片, 土師10片	本跡→SI-7	
829	E7g ₁	N-30'-W	楕円形	1.9	[1.2]	20	外傾	皿状	自然		SK-830不明	
830	E7g ₁	N-62'-E	楕円形	1.6	1.3	20	外傾	平坦	自然	土師2片, 須恵 1片	SI-6→本跡, SK-829不 明, 9c末	

第5節 中 世

1 館 跡

本館跡は、北側から延びる舌状台地縁辺部に所在し、この館の西側は地続きで、北側は西から東へ砂川が流れ、さらに北東端部で北から南へと流れを変えている。南側は、那珂川流域の沖積低地が開けている。西側を除き、東・南・北の三方は自然の要害をなしており、その中央部に本館は構築されている。

当調査区からは、中世館跡に伴う堀10条、溝17条、土塁1か所、土橋8か所、木橋1か所、柵列1か所、掘立柱建物跡8棟、竪穴式住居跡1軒、井戸15基、方形竪穴状遺構5基、地下式壇30基、小竪穴状遺構52基、土坑66基が検出されている。これらの遺構は、有機的に機能していたものと考えられる。そこで、遺構の配置や重複関係、出土遺物をもとに4期に分けて、それぞれの時期ごとの遺構や出土遺物について記載する。

本館跡のⅠ期は、溝によって区画されているが、その後、Ⅱ期、Ⅲ期、Ⅳ期と時期を追うごとに堀が何重にも巡らされ、内郭部も複雑になり堅固な館跡になっている。

(1) Ⅰ期の遺構と遺物

本期は4条の溝によって区画された「匚」形状の館跡で、溝の長さは東西77m、南北[80]mである。中心部は郭内の北側の部分に、出入口は南側の溝の中央から東寄りに所在したものと思われる。北部中程の北寄りに掘立柱建物跡1棟が検出されている。また、南東部からは墓域が検出されている。

①溝

第8号溝（付図2，第79図）

位置 館北側中程の溝で、C6a₈～₁₀・C6b₆～₈・C6c₆・C6c₇・C6d₇・C6e₇・C6f₇・C6g₇・C6h₇区に確認されている。本跡は、C6b₆区で第9号溝と交差している。

重複関係 本跡は、第180号土坑を掘り込み、第8・18号地下式壇、第5号堀に掘り込まれている。第527号土坑との新旧関係は、不明である。また、第9号溝とは同時期のものである。

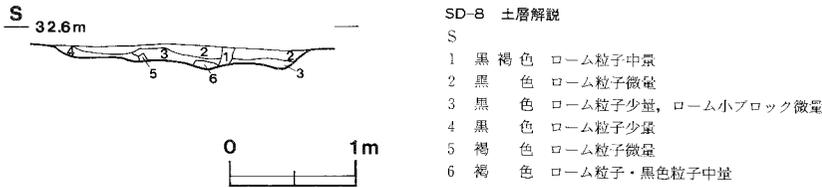
規模と形状 全長39mで、「匚」状を呈している。上幅1.0m、下幅0.8m、深さ20～30cm、断面形は「┌」状を呈し、底面は平坦である。

方向 東から西（N-63°-E）へ15m程直線的に延び、C6b₆区でほぼ直角に曲がり、北から南（N-11°-W）へ24m程直線的に延びている。

覆土 自然堆積。

遺物 覆土上層から流れ込みと思われる内耳鍋の細片1片が出土している。

所見 本跡は、I期の館跡の北側を区画する溝と思われる。



第79図 第8号溝断面図

第9号溝 (付図2, 第80図)

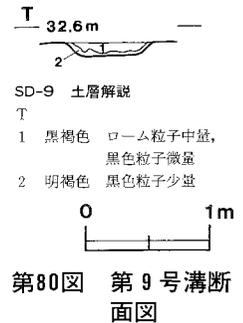
位置 館北側中程の溝で、B6a₆・C6a₆・C6b₆区に確認されている。本跡は、C6b₆区で第8号溝と、C6e₇区で第10号溝と交差している。

規模と形状 全長9.5mの直線的な溝で、上幅0.7~1.0m, 下幅0.3~0.6m, 深さ10cmで断面形は「┌」状を呈し、底面は平坦である。

方向 第8号溝のコーナー部から北 (N-11°-W) へ9.5mで、直線的に延びている。

覆土 自然堆積

所見 本跡は、I期の館跡の北西部を区画する溝と思われる。



第80図 第9号溝断面図

第10号溝 (付図2, 第81図)

位置 館西側の溝で、C5・C6・D6・E6区に確認されている。本跡は、C6e₇区で第9号溝と交差している。

重複関係 本跡は、第5号堀に掘り込まれている。

規模と形状 全長90mの直線的な溝で、「┐」状を呈している。規模は、上幅1.2m, 下幅0.6m, 深さ55~60cmで断面形は「U」字状を呈し、底面は皿状である。

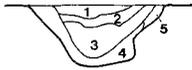
方向 東から西 (N-67°-E) へ19m直線的に延び、C5f₀区で南へほぼ直角に曲がり、北から南 (N-11°-W) へ63m延び、E6a₃区で東へほぼ直角に曲がり、西から東 (N-79°-E) へ8m程延びて、第5号堀に続いている。

覆土 ローム粒子を多量含んでおり、人為堆積。

遺物 覆土から1の内耳鍋片をはじめ、混入と思われる陶磁器の細片や須恵器の細片が出土している。

所見 本跡は、第4号堀や第8・9号溝と共伴し、I期の館跡の西側を区画する溝と思われる。

U 32.6m

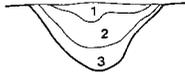


SD-10 土層解説

U

- 1 灰褐色 含有物なし
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量, ロームブロック少量
- 5 明褐色 黒色ブロック・黒色粒子少量

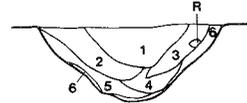
V 32.4m



V

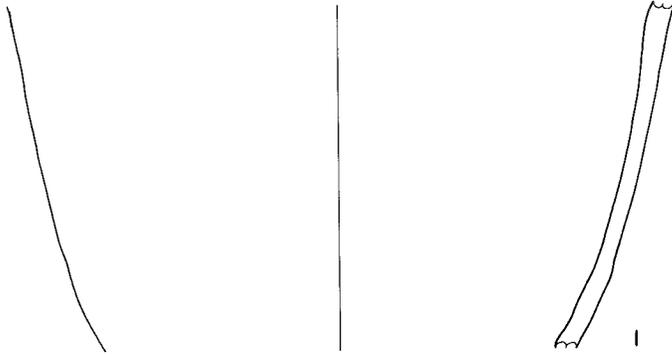
- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量

W 32.4m



W

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 灰褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子多量, 黒色粒子少量
- 5 にぶい褐色 ローム粒子多量, 黒色粒子微量
- 6 明褐色 黒色粒子少量



第81図 第10号溝断面・出土遺物実測図

第10号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第81図 1	内耳鍋 土師質土器	B (9.0)	体部片。体部は内彎ぎみに外傾する。	体部内・外面ナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	10% P276 ススが付着。 覆土。

第4号堀

本跡は、第III期に掘り返しが行われ深い堀となっている。しかし、本期においては第8～10号溝と同規模の溝であったと思われるが、その痕跡は検出できなかった。

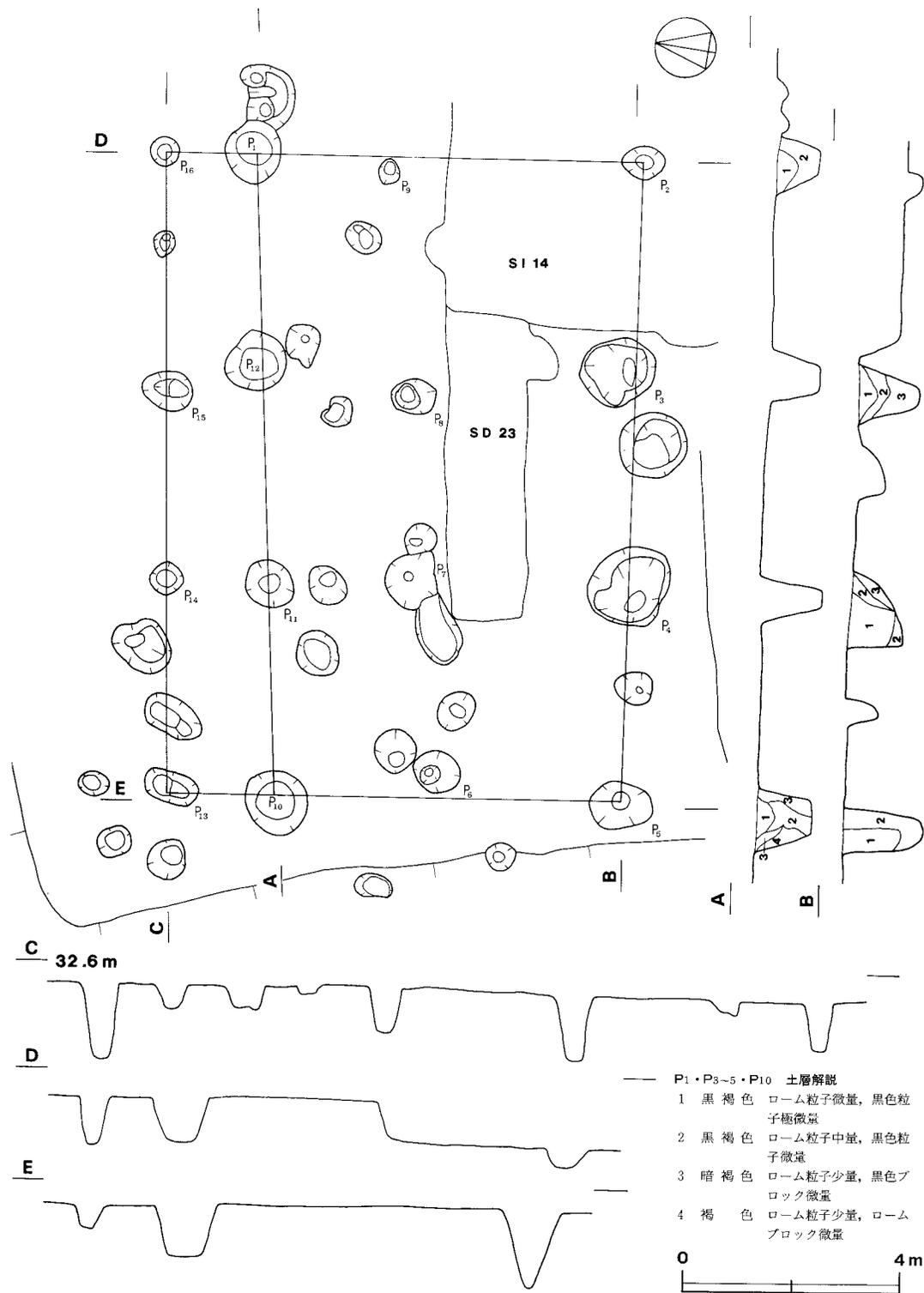
②建物跡

第4号掘立柱建物跡 [SK-303・305・307・309・312・316・322・324・326～328・336・339・472] (第82図)

位置 館の北部中程の北寄りのC6c₀区を中心に確認され、第8号溝等に東・西・北側を囲まれた郭内の中心部に位置している。

重複関係 本跡は、第3号方形竪穴状遺構に掘り込まれている。

規模 北側に幅90cmの底を持っている東西3間、南北2間の建物で、柱間寸法は、桁行1.3～2.0m、梁行2.0mである。柱穴の掘方は平面形が、長径0.3～0.9m、短径0.3～0.7mの円形を呈し、



第82図 第4号掘立柱建物跡実測図

深さは20～75cmである。柱痕跡はP₅、P₁₀で確認されており、柱の寸法は径18cmと推定される。

長軸方向 N-77°-E

覆土 黒褐色土の人為堆積。

遺物 P₃から土師質土器の細片、P₄から陶磁器の細片が出土している。

所見 本跡は、建物の形態や長軸方向、出土遺物等からI期の館跡の中心部に位置する建物跡と思われる。

(2) II期の遺構と遺物

本期は、1条の堀と1条の溝によって区画されており、堀は南側に向かって末広がり呈する「」形状の館跡である。堀の長さは、東西65m、南北[80]m程である。中心部は郭内の北側の部分に、出入口は、南側の溝の中央から東寄りに所在していたと思われる。本期の遺構は、井戸が館の南東端から2基、地下式墳が北側の堀内に1基と南東端と南西端に2基、北西寄りに1基、南東部と中央部から墓域が検出されている。また、館外北東部から小竪穴状遺構が1基検出されている。

①堀、溝

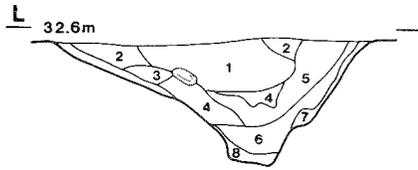
第5号堀（付図2，第83図）

位置 館の西、北側と東、南側の一部を区画する堀で、B6～E6・B7・C7区で確認されている。D6j₉区で第24号堀に続いている。

重複関係 本跡の東側は、第6号堀に、D7a₀区で第20号地下式墳、C7h₈区で第19・29号地下式墳に掘り込まれている。また、第1号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。北側は、C6b₉区で第7号地下式墳に、C6a₀区で第18・30号地下式墳に掘り込まれている。また、第8・10号溝を掘り込んでいるが、第7号堀には掘り込まれている。西側は、第3号掘立柱建物跡を掘り込み、第5号地下式墳に掘り込まれている。また、第10号堀を2か所で掘り込んでいる。南側は、第4号井戸に掘り込まれている。

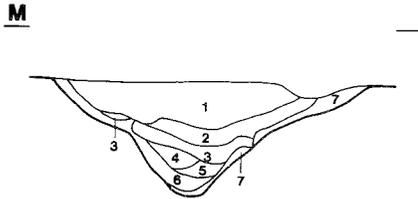
規模と形状 D7a₀区以南で土坑群に掘り込まれているが、全長は[225.0]m程と推定され、「」状に構築されていたものと思われる。現存している堀の規模は、東側が長さ47.0m、上幅2.4m、下幅0.5m、深さ95cmで、断面形は「U」字状を呈している。北側は長さ54.0m、上幅2.5m前後、下幅0.3m、深さ110～120cmで、断面形は「V」字状や「」状を呈しており、堀の掘り返しの痕跡が北側にうかがえる。西側は長さ65.0m、上幅1.3～2.3m、下幅0.5m、深さ70～115cmで、断面形は「」状を呈している。南側は長さ20.0m、上幅2.5m、下幅0.3m、深さ90cmで、断面形は「」状を呈している。

方向 東側は、南から北(N-9°-W)へ27m延び、さらに、北側に至って東から西(N-9°

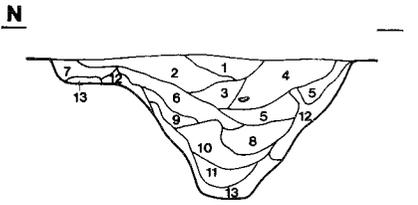


SD-5 土層解説

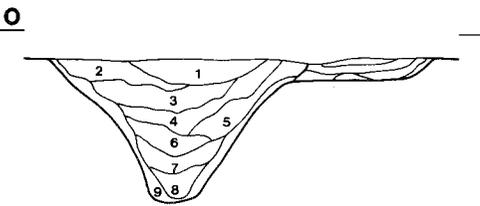
- L
- 1 橙 色 黒色粒子少量
 - 2 にぶい褐色 ローム粒子多量
 - 3 褐色 黒色粒子・ローム粒子中量
 - 4 褐色 ロームブロック・ローム粒子中量
 - 5 黒褐色 ローム粒子少量
 - 6 暗褐色 ローム粒子中量, 黒色ブロック・ロームブロック少量
 - 7 にぶい褐色 ロームブロック中量, 黒色粒子少量
 - 8 褐色 ローム粒子多量, 黒色粒子少量



- M
- 1 黒褐色 ローム粒子微量
 - 2 にぶい褐色 ローム粒子多量
 - 3 黒褐色 ローム粒子微量
 - 4 褐色 灰色 ローム粒子微量
 - 5 灰褐色 ローム粒子中量
 - 6 褐色 ローム粒子多量
 - 7 明褐色 黒色粒子少量



- N
- 1 灰褐色 ローム粒子少量
 - 2 黒褐色 ローム粒子少量
 - 3 暗褐色 ローム粒子微量
 - 4 褐色 ローム粒子中量, 黒色ブロック少量
 - 5 褐色 黒色粒子・ローム粒子中量
 - 6 黒褐色 ローム粒子微量
 - 7 黒褐色 ローム粒子中量, ロームブロック微量
 - 8 褐色 ローム粒子多量
 - 9 黒褐色 ローム粒子多量
 - 10 黒褐色 ローム粒子・ロームブロック微量
 - 11 灰褐色 ローム粒子多量, 黒色ブロック微量
 - 12 明褐色 黒色粒子微量
 - 13 褐色 黒色ブロック微量



- O
- 1 にぶい褐色 ローム粒子中量, ロームブロック少量
 - 2 黒褐色 ローム粒子少量
 - 3 黒褐色 ローム粒子少量, 黒色ブロック微量
 - 4 暗褐色 ローム粒子少量, 黒色粒子微量
 - 5 極暗褐色 ローム粒子少量
 - 6 黒褐色 ローム粒子少量
 - 7 黒褐色 ローム粒子微量
 - 8 暗褐色 ローム粒子中量
 - 9 褐色 ローム粒子多量



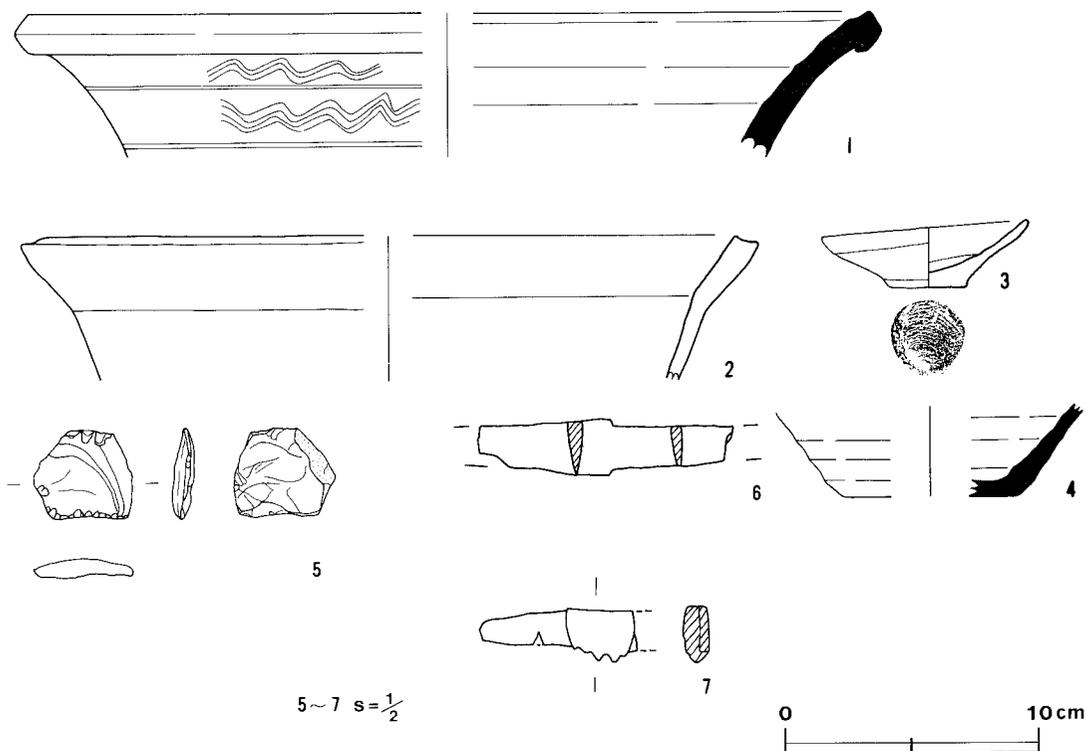
第83図 第5号堀断面図

— E)へ全長26mで直線的に延び、C6b₉区以西では曲線を呈している。西側は、北から南(N-12°-E)へ蛇行しながら33m延び、南側は、西から東(N-82°-W)へ約20m延びている。

覆土 人為堆積。E6a₈区付近は、礫や粘土によって埋め戻されている。

遺物 北側の堀の覆土中層から2の内耳鍋片や3の土師質土器片、瀬戸産の陶器の細片が出土している。その他、流れ込みと思われる須恵器片が出土している。

所見 本跡は、長期にわたって存在したものと思われ、出土遺物等から14世紀後半から15世紀前半に構築され、15世紀後半に堀の再構築が行われたと思われる。



第84図 第5号掘出土遺物実測図

第5号掘出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第84図 1	甕 須恵器	A [33.6] B (5.9)	口縁部片。口縁部中に4本単位の櫛目波状文が2条見られる。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 暗灰色 良好	5% P274 覆土。
2	内耳鍋 土師質土器	A [29.4] B (5.9)	口縁部片。口縁部は頸部から外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 黒褐色 普通	5% P272 ススが付着。 覆土。
3	小皿 土師質土器	A 8.2 B 2.7 C 3.0	体部一部欠損。底部は平底で突出きみ。体部、口縁部はやや内彎して立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒 黄灰色 普通	60% P273 覆土。
4	坏 須恵器	B (3.6) C [6.8]	底部、体部片。平底。体部は直線的に外傾する。	体部外面にロクロ目を残す。底部回転ヘラ切り。	小石 オリーブ色 普通	15% P275 D8f区覆土。

図版番号	器種	石質	法量				出土地点	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
5	スクレーパー	チャート	2.4	2.7	0.6	4.1	覆土	Q32

図版番号	器種	法量				特徴	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
6	刀子	(6.8)	1.6	0.4	(7.7)	刀身と茎の一部の欠損	覆土	鉄製 M61
7	刀子	(4.2)	1.5	0.8	(3.3)	茎の端部のみ遺存	覆土	鉄製 M15

第16号溝 (第85図)

位置 館北西部の溝で、C6g₈・C6h₈区で確認されている。

重複関係 本跡は、南部を第514号土坑に掘り込まれている。

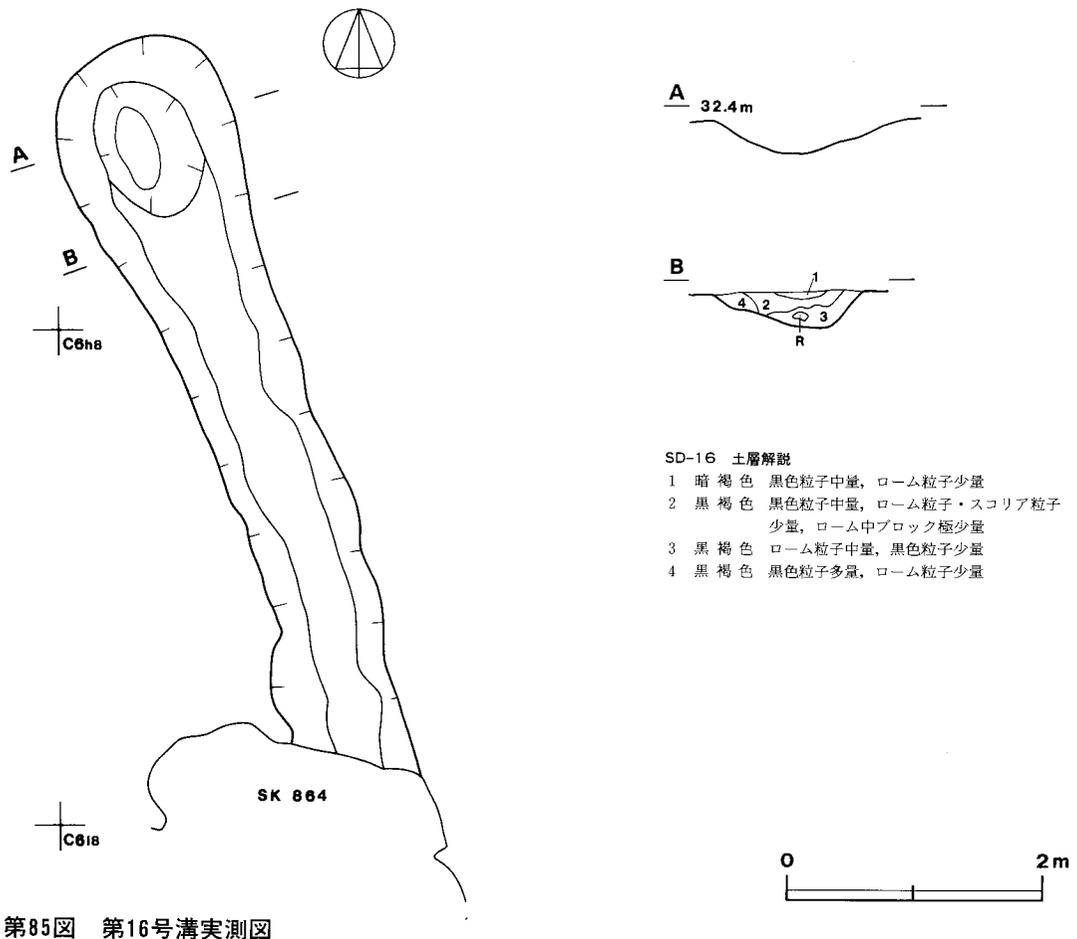
規模と形状 北から南へ全長9m、上幅0.8~1.4m、下幅0.4~0.8m、深さ30cmで、断面形は「U」状を呈している。

方向 N-17°-W

覆土 自然堆積。

遺物 覆土中層から流れ込みと思われる土師器の甕の細片が出土している。

所見 本跡は、主軸方向や規模、形状等から第18号溝と対になるものと思われる。



第85図 第16号溝実測図

第18号溝 (第86図)

位置 館北西部の溝で、C6f₀・C6g₁・C7g₁・C7e₁区で確認されている。

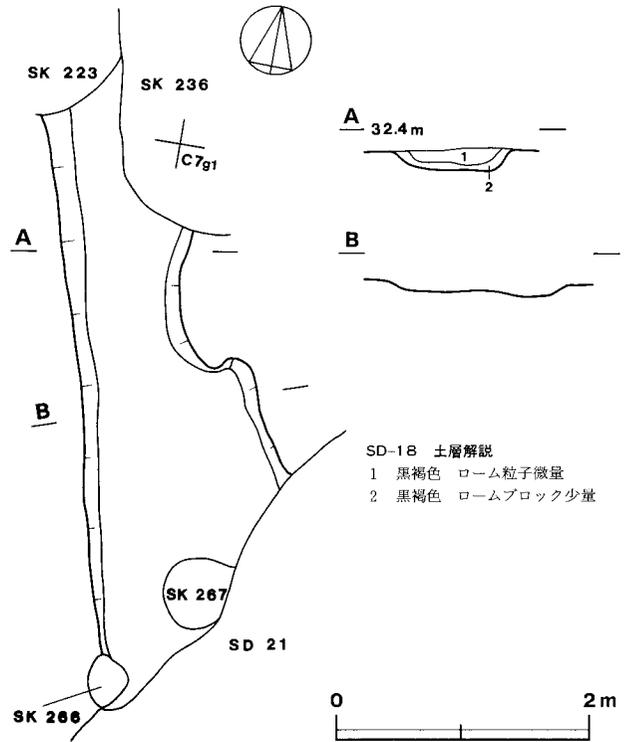
重複関係 本跡は、第2号掘立柱建物跡を掘り込み、第21号堀に掘り込まれている。

規模と形状 北から南へ全長9.3m、上幅1.0~1.7m、下幅0.6~0.9m、深さ10cmで、断面形は「U」状を呈している。

方向 N-17°-W

覆土 自然堆積。

所見 本跡は、主軸方向や規模、形状等から第16号溝と対になるものと思われる。



第24号溝 (第87図)

位置 館南側中程の溝で、D7j₂~₄・E7a₁~₃区で確認されている。D6j₉区で第5号堀に続いている。

重複関係 本跡は、第4号井戸や第495・503~510号土坑に掘り込まれている。

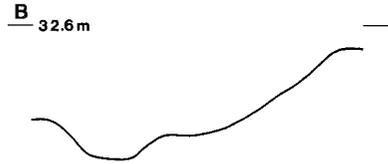
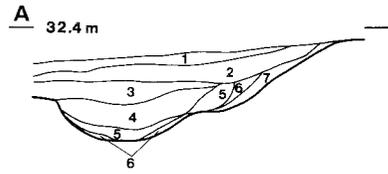
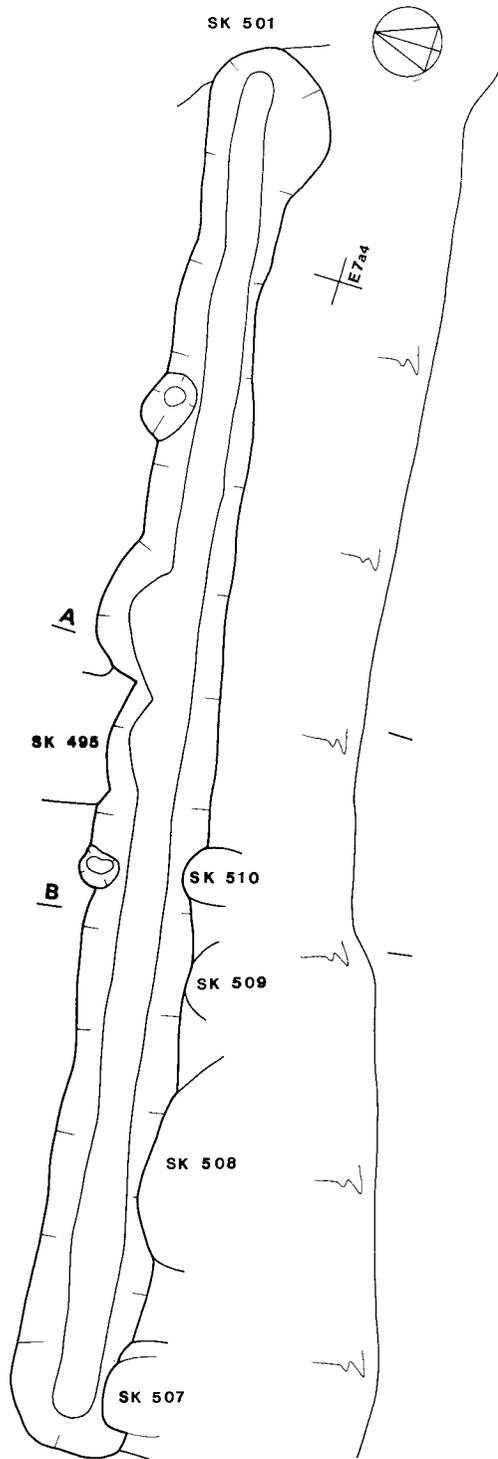
規模と形状 西から東へ16m程直線的に延びている。上幅0.7~0.9m、下幅0.3~0.4m、深さ30cmで、断面形は「U」状を呈している。

方向 N-80°-E

覆土 自然堆積。

遺物 覆土から瀬戸産の陶器、内耳鍋、土師質土器の細片が少量出土している。

所見 本跡の内側の壁面は、最終期の方形館跡を作る際に、鹿沼層近くまで土取りがなされ（郭内と郭外の比高60cm）、堀の底面近くだけが遺存したものと思われ、第5号堀の続きであった可能性がある。本跡は、出土遺物等から14世紀後半から15世紀前半に機能していたものと思われる。



SD-24 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子極微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, ロームブロック極微量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量, ロームブロック極微量
- 5 極暗褐色 ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子少量, ロームブロック微量
- 7 褐色 ローム粒子多量, ロームブロック・黒色粒子微量



第87図 第24号溝突測図

②井戸

第1号井戸（第88図）

位置 館南東端のD8f₁区を中心に確認されている。

規模と形状 掘り方は、上面が長径3.4m、短径3.3mの円形を呈し、確認面から1.6mの深さまで急傾斜を呈する。

覆土 礫やローム土で埋め戻されている。

遺物 覆土から1の内耳鍋片や2の天目茶碗片をはじめ、混入と思われる布目瓦や須恵器の細片が出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から15世紀の素掘りの井戸である。

第1号井戸出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第88図 1	内耳鍋 土師質土器	A [35.6] B (6.4)	口縁部片。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 灰褐色 普通	10% P228 ススが付着。 覆土。
2	天目茶碗 陶器	A [12.6] B (3.6)	口縁部片。口縁部はわずかにくびれを持つ。	水挽き成形。	灰白色 (釉)黒色 普通	10% P229 瀬戸産。 覆土。

第6号井戸（第89図）

位置 館中央部南寄りのD7d₆区を中心に確認されている。

規模と形状 掘り方は、上面が長径2.9m、短径2.7mの円形を呈し、確認面から1.3mの深さまでの断面形は「ㄱ」状を呈し、そこから下は深さ0.6mまで円筒形を呈している。

覆土 礫やロームブロックが多量に含まれており、人為堆積である。

遺物 井戸を埋める時に多量の遺物が投棄されている。17の石臼片や7、8の瀬戸、常滑産の陶器片や土師質皿の細片が礫と一緒に出土している。その他、馬の骨や歯、混入と思われる須恵器片が出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から14世紀から16世紀に存在したものと思われる。

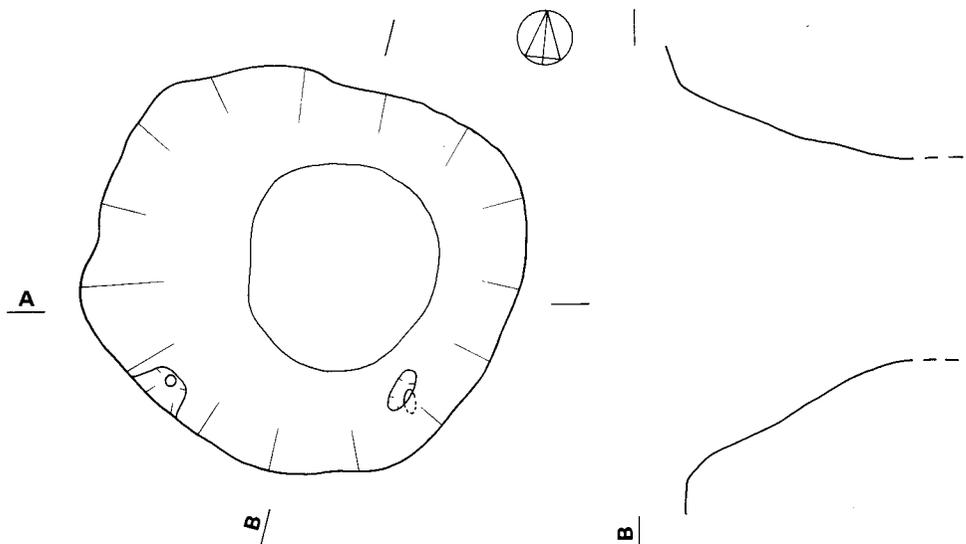
第6号井戸出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第89図 1	内耳鍋 土師質土器	A [28.2] B (16.0)	体部、口縁部片。体部、口縁部は直線的に外傾する。	体部、口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 黒褐色 普通	10% P232 ススが付着。 覆土。
2	内耳鍋 土師質土器	B (1.9) C 23.8	底部片。平底。	底部ナデ。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	20% P233 覆土。
3	皿 土師質土器	A [11.4] B 3.6 C 4.6	口縁部一部欠損。平底。体部、口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。	水挽き成形。底部静止糸切り。	長石 橙色 普通	60% P234 内面タールが付着 覆土。

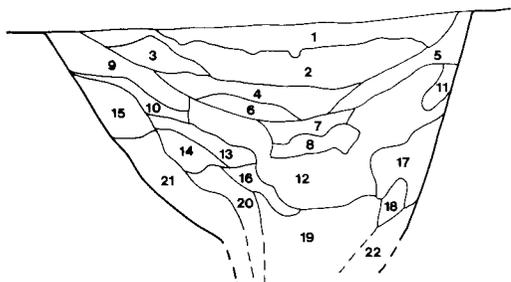
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	皿 土師質土器	A 11.7 B 3.5 C 4.9	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し、口唇部はつまみ上げている。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒 浅黄橙色 普通	70% 覆土。 P235
5	小壺 陶器	A [3.4] B 6.0 C [5.0]	底部から口縁部片。平底。胴部は内彎し、さらに口縁部は内彎する。	水挽き成形。	長石・石英 灰色 良好	20% 内面に鉄粉の付着 御嶽黒壺か。覆土。 P237
6	皿 陶器	A 10.7 B 2.3 C 6.0	底部から口縁部片。高台部は低く、断面は「U」字状を呈する。体部は内彎しながら外傾し、口縁部に至る。	水挽き成形。	灰白色 (釉)灰オリーブ色 普通	25% 瀬戸産。 覆土。 P240
第90図 7	卸し皿 陶器	A [16.5] B 3.5 C [9.4]	底部から口縁部片。平底。体部、口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。片口。	水挽き成形。口縁部のみ施釉。底部回転糸切り。	淡黄色 (釉)オリーブ黄色 普通	20% 瀬戸産。 覆土。 P241
8	鉢 陶器	B (5.9) C [14.4]	底部、体部片。平底。体部は直線的に外傾する。	体部外面ヘラナデ。	砂粒 ぶい赤褐色 普通	5% 常滑産。 覆土。 P243
9	壺 瓦質土器	B (7.5)	胴部片。胴部は内彎している。	胴部内・外面横ナデ。	砂粒 褐灰色 普通	5% 覆土。 P359
10	鉢 瓦質土器	B (4.8) C [15.6]	底部、体部片。平底。体部は直線的に外傾する。	剝離が激しく不明。	砂粒 褐灰色 普通	15% 覆土。 P242
11	壺 須恵器	A [31.8] B (5.2)	口縁部片。口縁部は外反し、口唇部はつまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 暗オリーブ灰色 良好	10% 覆土。 P239
12	短頸壺 須恵器	B (5.3) D [17.0] E 1.1	底部、胴部片。低い高台。胴部は内彎ぎみに外上方に立ち上がる。器肉は全体的に厚い。	体部内・外面横ナデ。付高台。	雲母 灰白色 普通	10% 覆土。 P244
13	坏 須恵器	B (2.9) C [7.0]	底部、体部片。平底。体部は直線的に外傾する。	体部外面弱いロクロ目を残す。底部回転ヘラ切り後一部ナデ調整。	長石 褐灰色 普通	30% 覆土。 P238

図版番号	器種	法量				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
14	平瓦	(11.4)	(12.9)	1.6	(311.0)	覆土	一枚作り、凹面に布当痕。 9c DP7

図版番号	器種	石質	法量				出土地点	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第91図 15	砥石	凝灰岩	9.7	3.4	2.9	141.2	覆土	Q21
16	砥石	緑色凝灰岩	10.5	5.1	2.7	129.8	覆土	Q22
17	石白	花崗岩	(16.3)	(10.6)	9.8	(1323.5)	覆土	Q23
18	石白	凝灰岩	(15.2)	(11.8)	7.5	(1260.7)	覆土	Q26
19	石白	花崗岩	(17.4)	(13.5)	12.7	(2284.0)	覆土	Q25
20	石白	花崗岩	(13.9)	(7.7)	(10.5)	(988.5)	覆土	Q28
21	石白	安山岩	(16.3)	(16.1)	10.8	(1909.7)	覆土	Q27
22	不明	砂岩	(8.9)	9.6	4.8	(415.5)	覆土	Q24

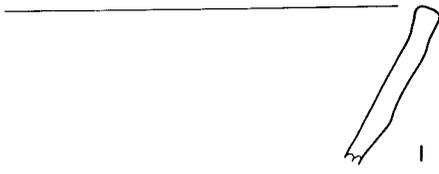
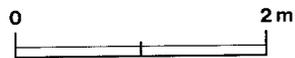


A 32.4 m

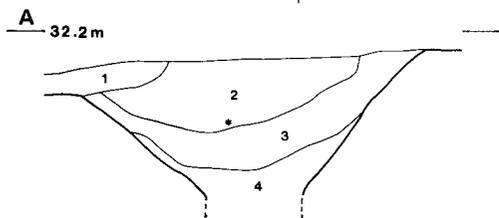
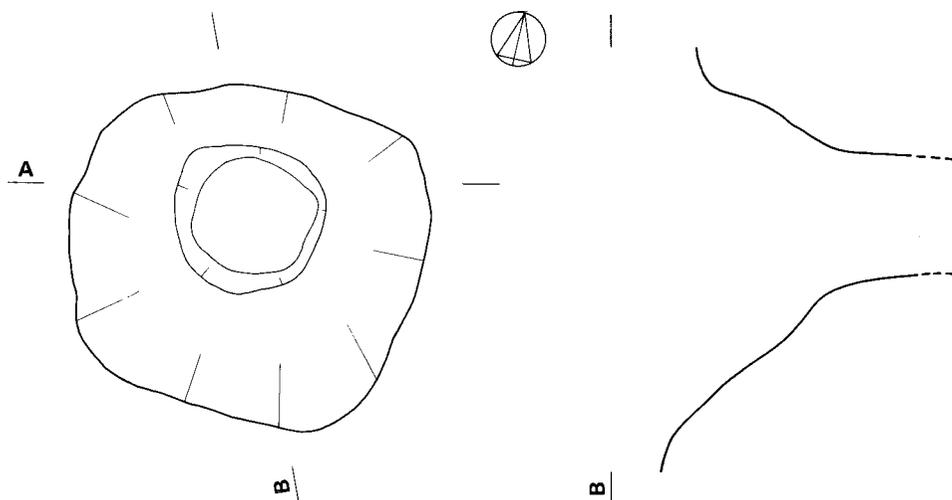


SE-1 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・礫少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・礫中量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 礫・鹿沼バミス少量
- 4 黒褐色 礫多量, ローム粒子中量
- 5 褐色 ローム粒子多量
- 6 褐色 ローム粒子多量
- 7 黒褐色 礫中量, ローム粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子多量, ロームブロック少量
- 9 褐色 ローム粒子多量, ロームブロック・礫少量
- 10 暗褐色 ローム粒子中量, 礫少量, 炭化物微量
- 11 暗褐色 ローム粒子多量, ロームブロック少量
- 12 黒褐色 ローム粒子・礫中量, ロームブロック少量
- 13 褐色 ローム粒子中量, ロームブロック・炭化物少量
- 14 黒褐色 礫多量, ローム粒子中量
- 15 褐色 ローム粒子・ロームブロック多量
- 16 黒褐色 ローム粒子中量, ロームブロック・礫少量
- 17 褐色 ローム粒子多量, 礫中量
- 18 黒褐色 ローム粒子多量
- 19 褐色 ローム粒子多量, ロームブロック・礫少量
- 20 黒褐色 ローム粒子中量, ロームブロック・礫少量
- 21 褐色 ローム粒子多量, 礫少量
- 22 褐色 ローム粒子多量

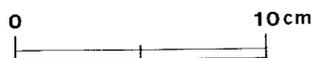
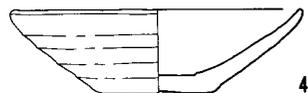
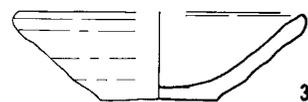
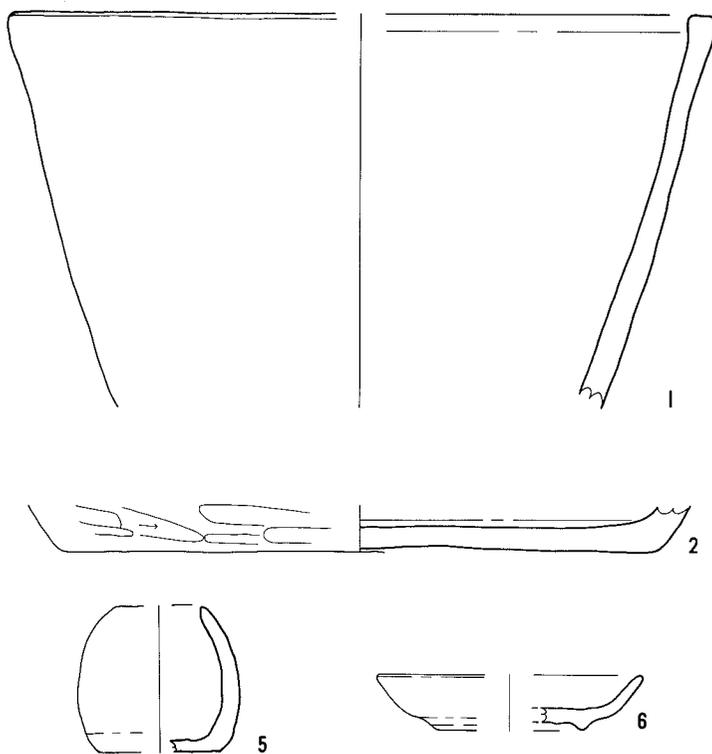


第88図 第1号井戸・出土遺物実測図

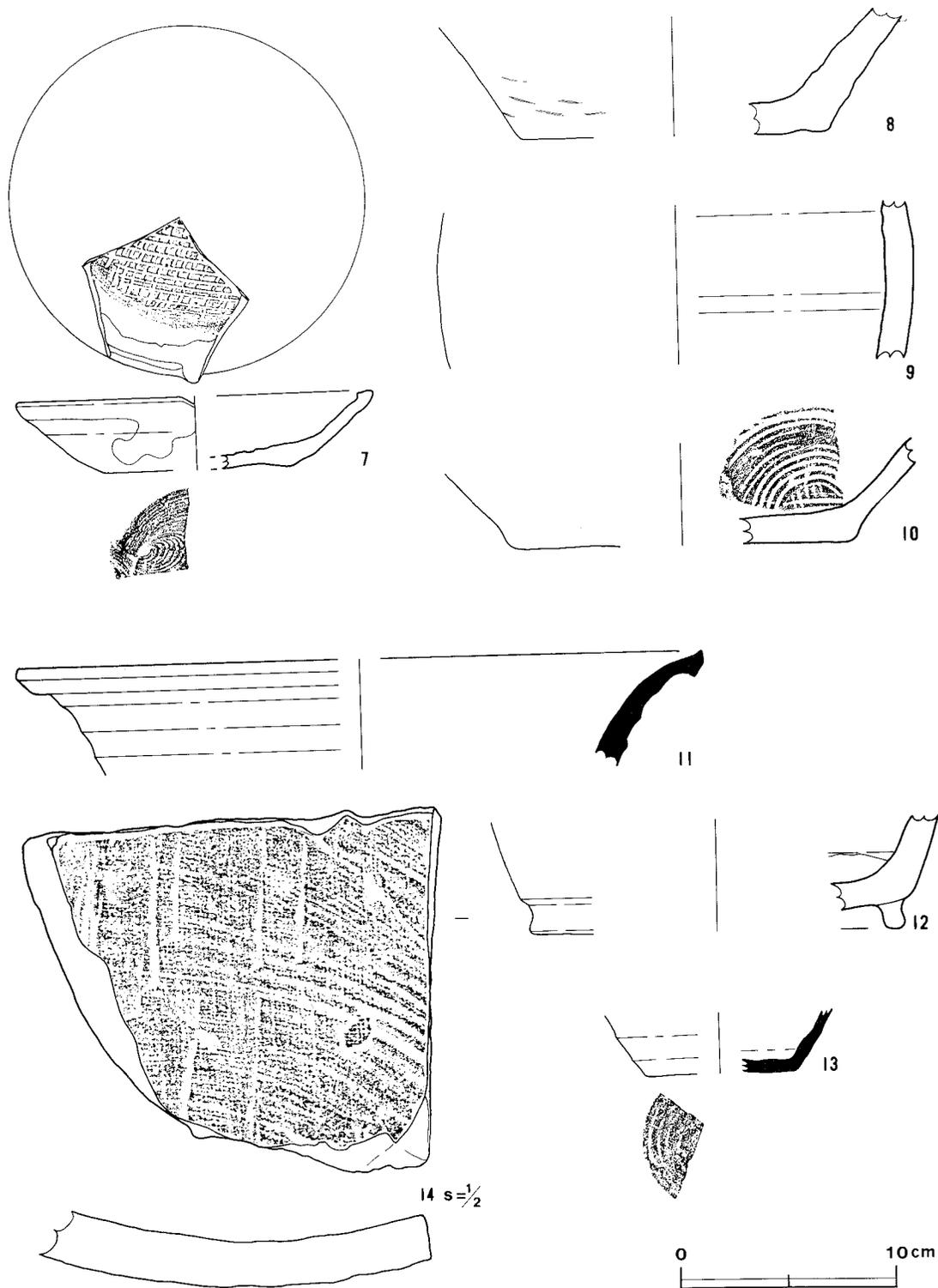


SE-6 土層解説

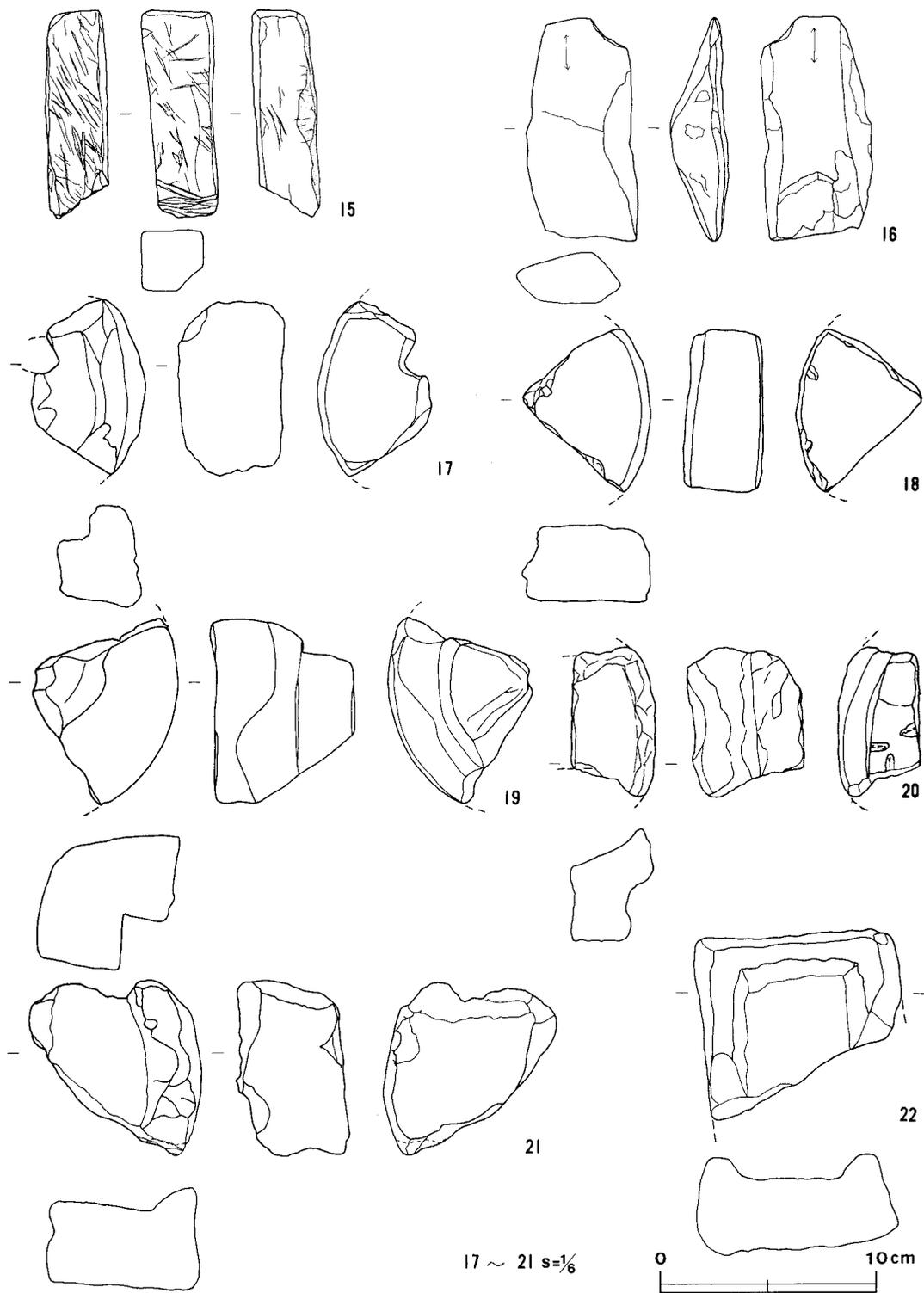
- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 大礫多量, ローム粒子微量
- 3 暗褐色 小礫・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 小礫少量



第89図 第6号井戸・出土遺物実測図(1)

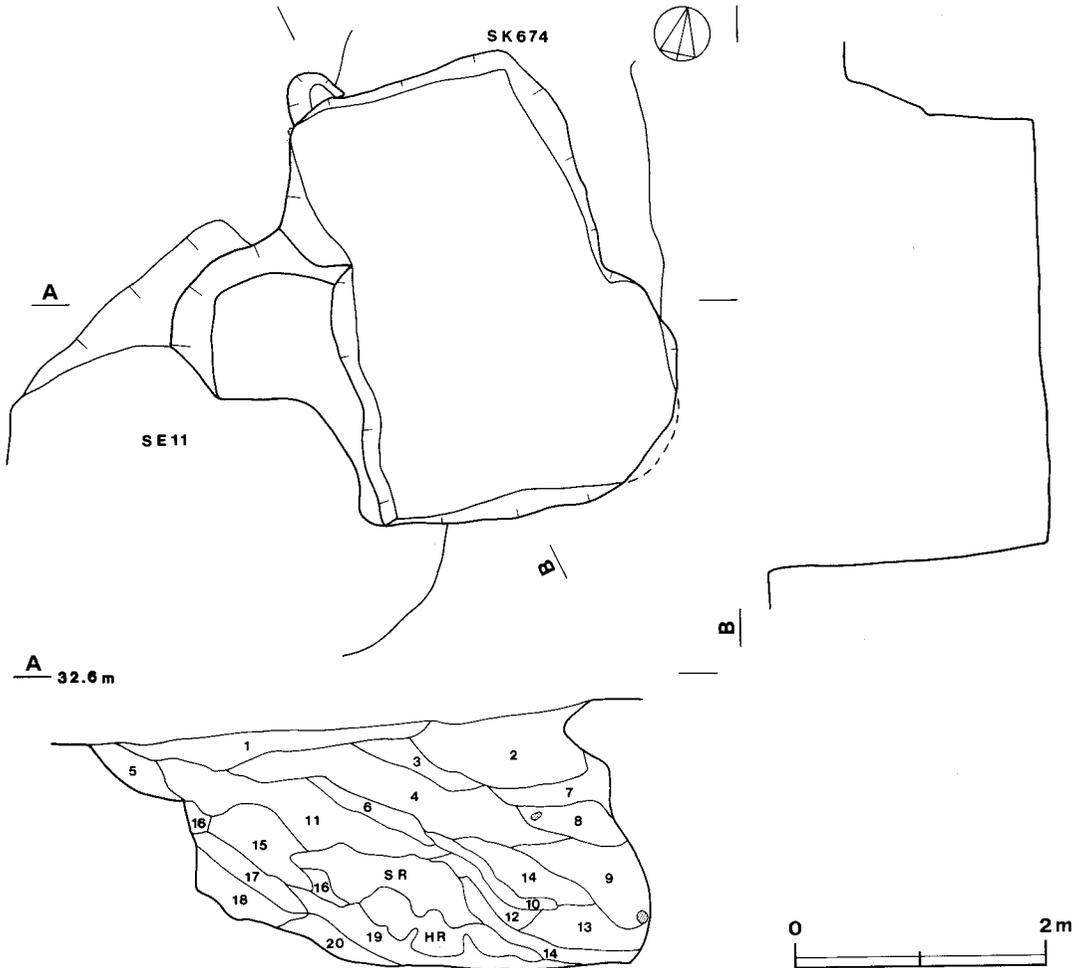


第90図 第6号井戸出土遺物実測図(2)



第91図 第6号井戸出土遺物実測図(3)

③地下式墳



第4号地下式墳 土層解説

- | | | |
|----|-------|-------------------------------------|
| 1 | 灰褐色 | ローム粒子少量, 小石・黒色ブロック微量 |
| 2 | にぶい褐色 | パミス粒子多量, パミスブロック少量, ロームブロック・黒色粒子微量 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子中量, パミス粒子少量, 小石・黒色粒子極微量 |
| 4 | 褐色 | ローム粒子中量, 小石・黒色粒子・ロームブロック少量, パミス粒子微量 |
| 5 | 褐色 | ローム粒子少量, 黒色粒子微量, 小石極微量 |
| 6 | 褐色 | ロームブロック中量, 黒色ブロック少量, 小石微量 |
| 7 | 褐色 | 黒色粒子少量 |
| 8 | 暗褐色 | 黒色粒子少量 |
| 9 | 黒褐色 | 黒色粒子多量, ローム粒子中量, 小石少量 |
| 10 | 黒色 | ローム粒子少量, ロームブロック微量 |
| 11 | 黒褐色 | 小石・礫中量, ロームブロック・ローム粒子少量 |
| 12 | 褐色 | ローム粒子多量, 黒色粒子少量 |
| 13 | 褐色 | パミスブロック少量, パミス粒子微量 |
| 14 | 褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子少量, 小石微量, ロームブロック極微量 |
| 15 | 灰褐色 | ローム粒子中量, 小石少量, 黒色粒子・ロームブロック微量 |
| 16 | 灰褐色 | ローム粒子中量, ロームブロック少量, 黒色粒子微量 |
| 17 | 褐色 | ローム粒子多量, パミス粒子・黒色粒子極微量 |
| 18 | 褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子少量, ロームブロック微量 |
| 19 | 灰褐色 | ローム粒子中量, 小石微量, 黒色粒子極微量 |
| 20 | 褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子少量 |

第92図 第4号地下式墳実測図

第4号地下式墳 [SK-133] (第92図)

位置 館南東端のD8g₂区を中心に確認されている。

重複関係 本跡の竪坑の南部は、第11号井戸に掘り込まれている。また、北コーナー部は第674号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

主軸方向 N-60°-E

竪坑 上面は、長径(2.5)m、短径(1.5)mの半楕円形を呈するものと思われる。深さは、1.5mである。底面は、長軸(2.4)m、短軸1.3mの隅丸長方形を呈している。長径方向はN-35°-Wを指している。

主室 底面は、長軸3.4m、短軸2.0mの不整長方形を呈し、平坦である。確認面から主室底面までの深さは、2.3mである。長軸方向はN-27°-Wを指している。

壁 竪坑、主室共にほぼ垂直に立ち上がっている。主室の東コーナー部でオーバーハングが見られる。

覆土 ロームブロックの堆積が見られ、竪坑側から人為的に土砂を投げ入れたものと思われる。

遺物 覆土から1や2の内耳鍋片や3の土師質皿片、4の天目茶碗片が多量に出土している。第243図の1の古銭や馬骨は底面から出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から15世紀前半のものと思われる。

第4号地下式墳出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第93図 1	内耳鍋 土師質土器	A [35.2] B (14.5)	体部、口縁部片。体部は内彎ぎみに外上方に立ち上がり、口縁部は内彎して立ち上がる。	体部、口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 黒褐色 普通	15% P164 ススが付着。 覆土。
2	内耳鍋 土師質土器	A [31.0] B (14.8)	体部、口縁部片。体部は直線的に外傾し、口縁部はわずかな膨らみを持って立ち上がる。	口縁部、体部内・外面横ナデ。	石英 にぶい橙色 普通	15% P165 ススが付着。 覆土。
3	皿 土師質土器	A 13.3 B 4.2 C 4.0	口縁部一部欠損。底部は平底でやや突出する。体部、口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒 橙色 普通	70% P166 覆土。
4	天目茶碗 陶器	A [13.8] B (2.3)	口縁部片。口唇部は内彎ぎみに作られており、明瞭な段をなしている。	釉は黒色を呈し、光沢がある。	褐色 (釉)黒色 良好	5% P353 瀬戸産。 覆土。

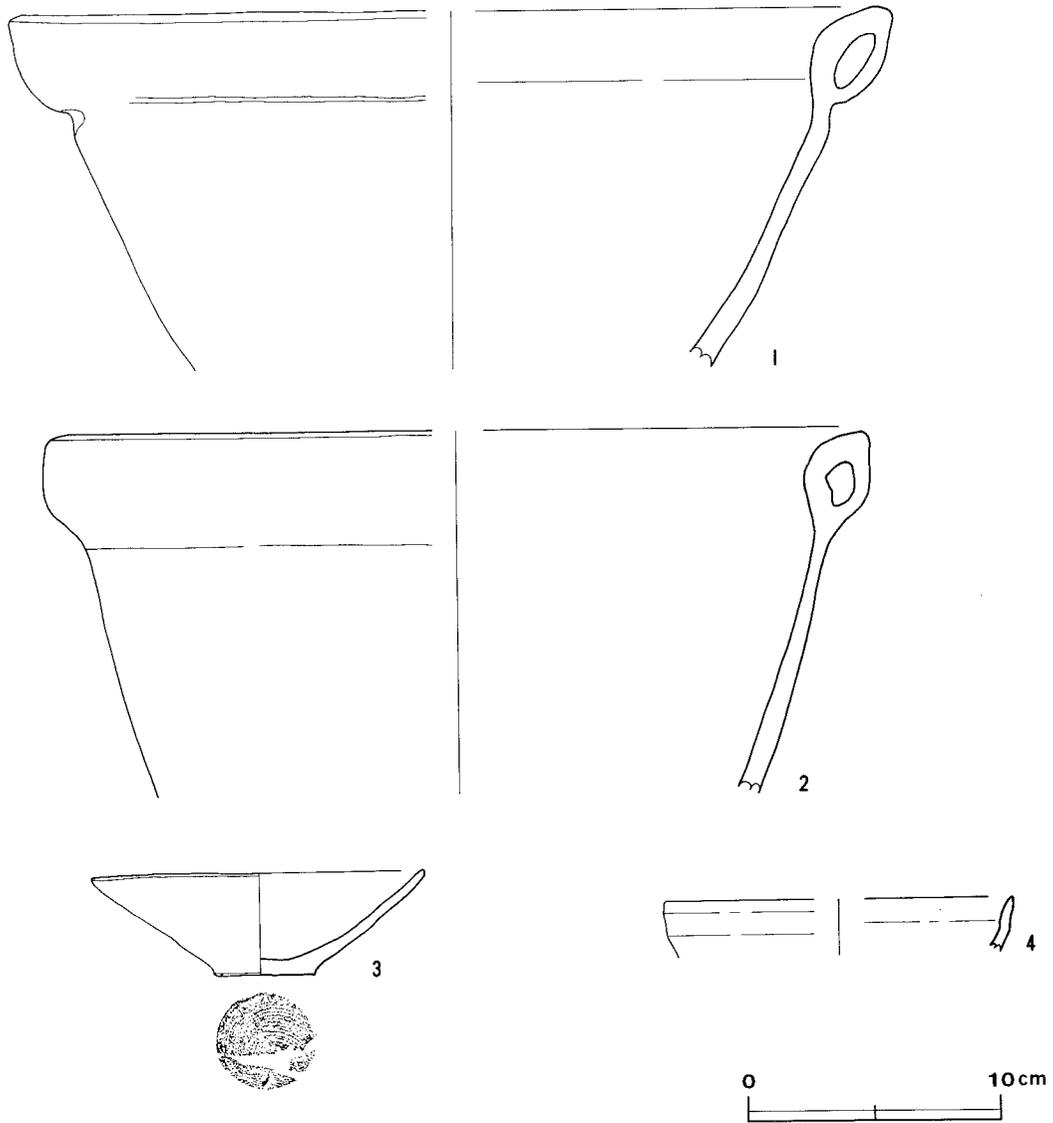
第7号地下式墳 [SK-185] (第94図)

位置 館北端のC6b₉区を中心に確認されている。本跡の竪坑は、第5号堀内に位置している。

主軸方向 N-45°-W

竪坑 上面は、長軸1.3m、短軸1.0mの長方形を呈し、深さは、2.5mである。底面は長軸1.2m、短軸0.9mの方形を呈している。長軸方向はN-60°-Eを指している。

主室 底面は、長軸3.6m、短軸2.0mの長方形を呈し、平坦である。確認面から主室底面までの



第93図 第4号地下式墳出土遺物実測図

深さは、3.1mである。長軸方向はN-43°-Eを指している。

壁 竪坑は、北西部から主室に向かって階段状を呈している。主室は、胴張りを呈している。

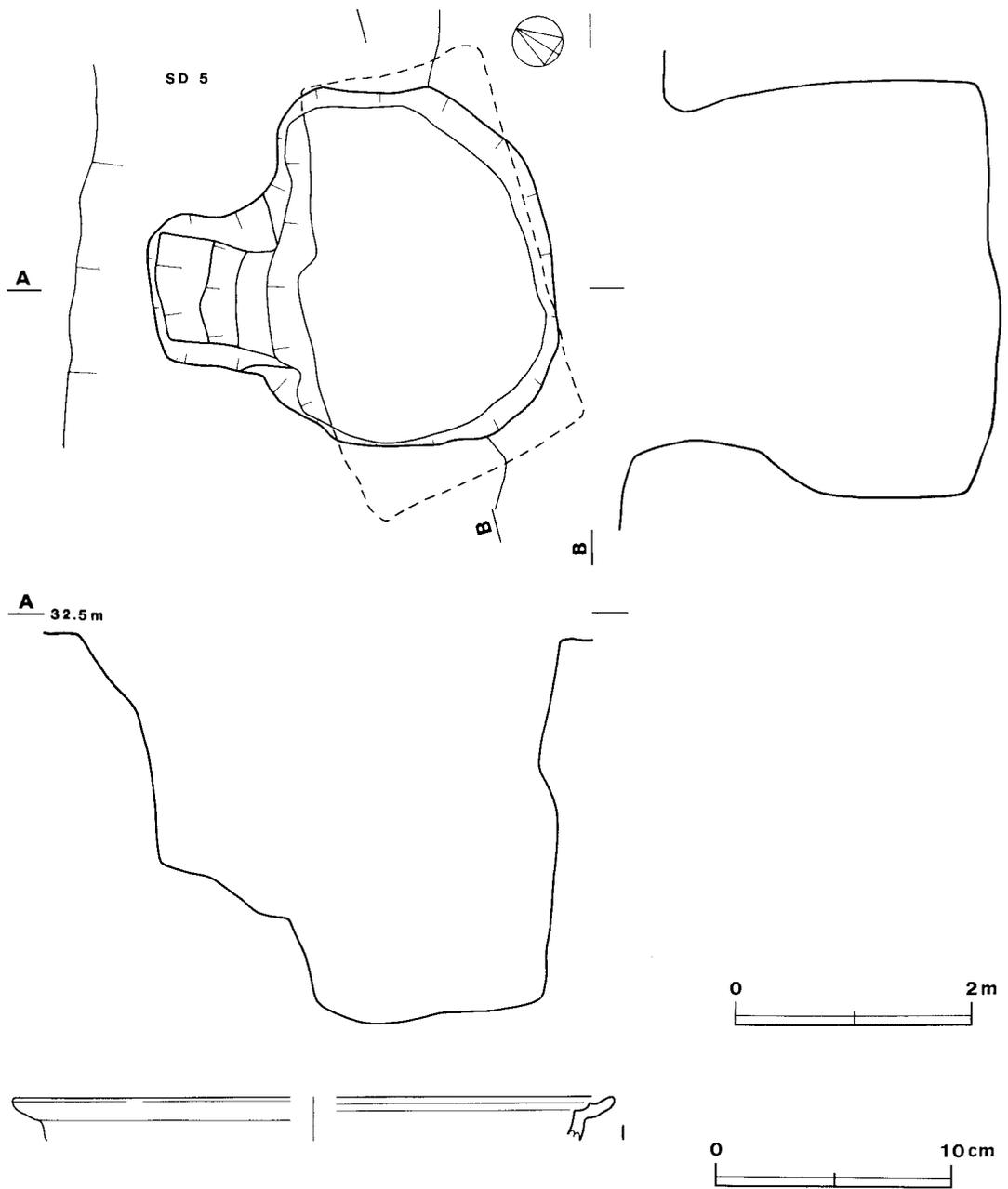
覆土 断面が崩落してしまい不明である。

遺物 覆土から第243図の2の古銭や第94図の1の瀬戸産の陶器片が出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から15世紀前半のものと思われる。

第7号地下式墳出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第94図 1	盤 陶器	A [26.0] B (1.9)	口縁部片。口縁部は強く外反し、 内面に1条の凸線が巡る。	水挽き成形。	灰白色 (釉)浅黄色 普通	5% P174 瀬戸産。 覆土。



第94図 第7号地下式墳・出土遺物実測図

第11号地下式墳 [SK-234] (第95図)

位置 館中央部北西寄りのC6h₀区を中心に確認されている。

重複関係 本跡の北東コーナー部は、第21号堀に掘り込まれている。また、第256・283号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

主軸方向 N-82°-W

竪坑 上面は、長径(1.3)m、短径1.2mの半楕円形を呈し、深さは、1.2mである。底面は長軸0.9m、短軸0.5mの長方形を呈している。長軸方向はN-10°-Eを指している。

主室 底面は、長軸2.7m、短軸2.0mの不整長方形を呈し、平坦である。確認面から主室底面までの深さは、1.8mである。長軸方向はN-10°-Eを指している。

壁 竪坑は確認面から深さ1.1mの地点まで傾斜し、そこで平場を形成し、さらに傾斜して主室底面に至る。主室は、外傾して立ち上がっている。

覆土 ローム土やロームブロックが含まれており、人為堆積である。

遺物 覆土から瀬戸産の陶器の細片や内耳鍋の細片、1の鉄製品、礫が出土している。

所見 本跡は、重複関係や出土遺物等から15世紀前半の遺構である。

第11号地下式墳出土遺物観察表

図版番号	器種	法量				特徴	出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
第95図 1	短刀	(5.4)	1.4	0.4	(5.1)	刀身の先端のみ遺存	覆土	鉄製	M42

第17号地下式墳 [SK-494] (第96図)

位置 館南西端のD6h₆区を中心に確認されている。

重複関係 本跡は、第18号小竪穴状遺構に掘り込まれている。第17号小竪穴状遺構との新旧関係は、不明である。

主軸方向 N-87°-W

竪坑 上面は、長軸1.4m、短軸1.2mの隅丸長方形を呈し、深さは、1.2mである。底面は長径0.9m、短径0.8mの半楕円形を呈している。長軸方向はN-2°-Eを指している。

主室 底面は、長軸3.0m、短軸1.5mの隅丸長方形を呈し、平坦である。南壁下に深さ10cmの落ち込みがある。確認面から主室底面までの深さは、2.0mである。長軸方向はN-2°-Eを指している。

壁 竪坑は、外傾して立ち上がっている。主室は、ほぼ垂直に立ち上がっている。

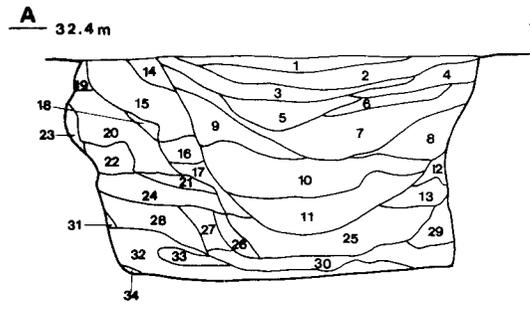
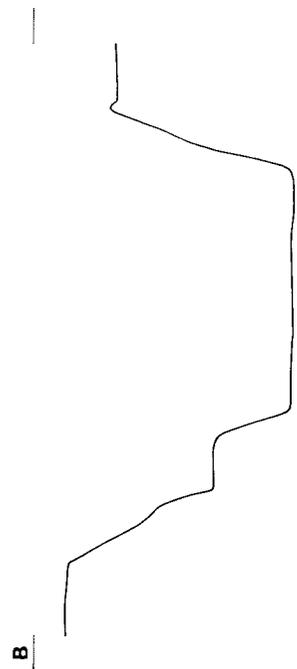
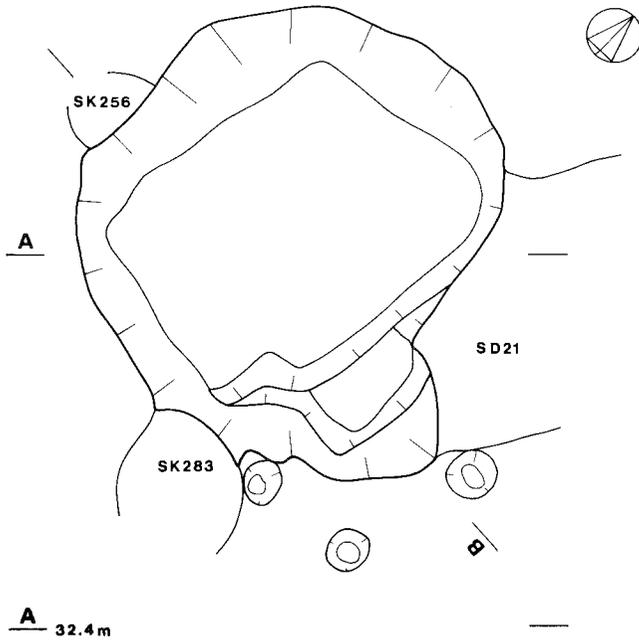
覆土 覆土下層は、天井部のロームブロックが崩落して堆積したものと思われる。その上は、ブロック状の堆積を示していることから人為堆積である。

遺物 覆土から混入と思われる1の須恵器の盤片や坏蓋片が出土している。

所見 本跡は、位置等から15世紀前半のものと思われる。

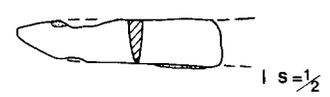
第17号地下式墳出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第96図 1	盤 須恵器	B (1.2) D [7.8] E (0.4)	底部・体部片。体部は直線的に外形する。	体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後高台部貼り付け。	小石 灰色 良好	15% 覆土。 P199

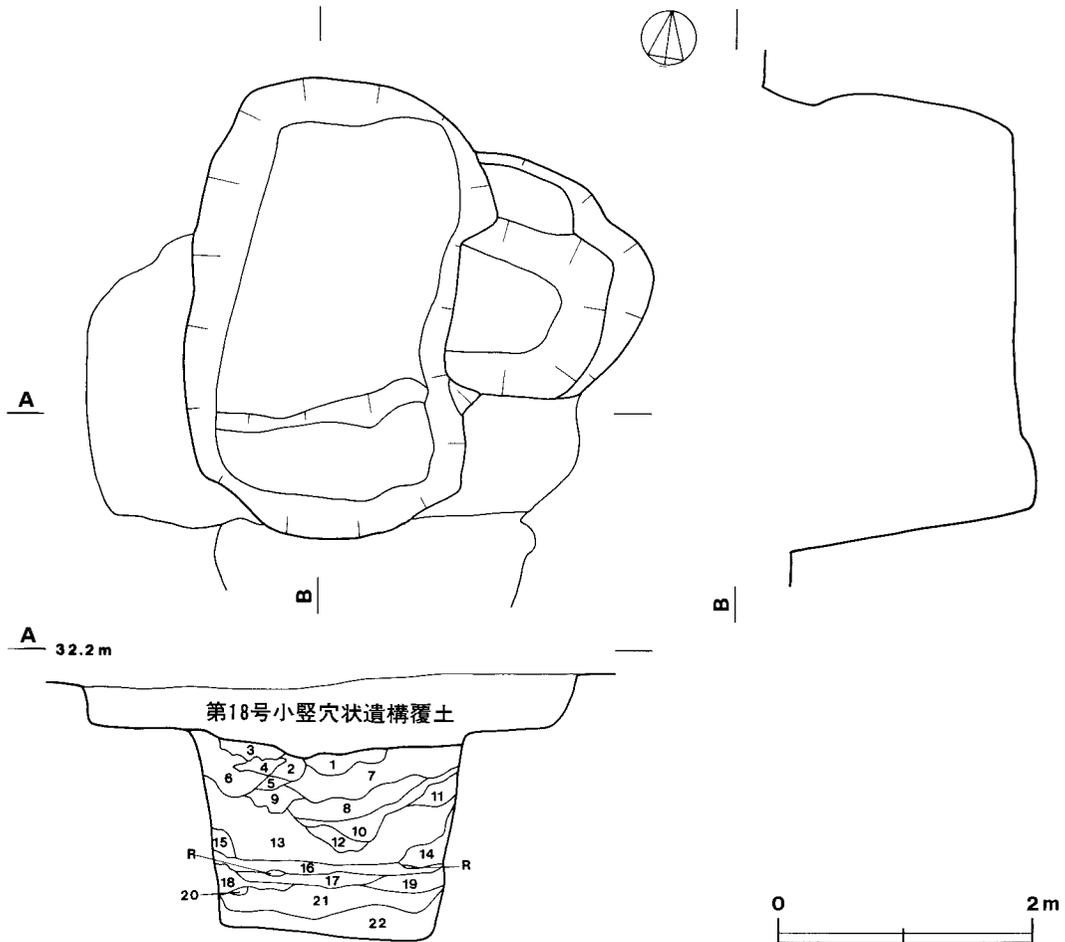


第11号地下式墳 土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------------|--------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 22 褐色 | ソフトローム含有 |
| 2 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, パミス粒子少量 | 23 褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, パミス粒子微量 | 24 褐色 | 黒色粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量 | 25 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム漸移層の中ブロック・礫微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・礫微量, 黒色ブロック含有 | 26 黒褐色 | 含有物なし |
| 6 黒褐色 | ローム粒子微量 | 27 褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子少量 | 28 褐色 | 黒色小ブロック微量, ソフトローム含有 |
| 8 黒褐色 | ローム粒子少量, 礫微量 | 29 黄褐色 | パミス粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 9 暗褐色 | ローム粒子中量 | 30 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック微量 |
| 10 褐色 | ローム粒子・パミス粒子少量, 黒色粒子・ローム小ブロック・礫微量 | 31 黄褐色 | パミス粒子中量 |
| 11 黒褐色 | ローム粒子中量, パミス粒子少量, ローム小ブロック微量 | 32 褐色 | ローム粒子多量 |
| 12 褐色 | ローム粒子・黒色粒子少量 | 33 暗褐色 | 黒色粒子・ロームブロック少量 |
| 13 褐色 | 黒色粒子少量, ソフトローム含有 | 34 黄褐色 | パミス粒子微量 |
| 14 黒褐色 | ローム粒子少量 | | |
| 15 黒褐色 | ローム粒子少量 | | |
| 16 暗褐色 | ローム粒子中量 | | |
| 17 黒褐色 | ローム粒子多量 | | |
| 18 暗褐色 | ローム粒子多量 | | |
| 19 暗褐色 | ローム粒子多量 | | |
| 20 褐色 | 黒色粒子少量, スコリア小ブロック微量 | | |
| 21 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量 | | |



第95図 第11号地下式墳・出土遺物実測図



第17号地下式墳 土層解説

- | | | | |
|--------|--|--------|---|
| 1 暗褐色 | ローム中ブロック中量, ローム粒子少量, 黒色粒子微量 | 16 黒褐色 | 黒色粒子中量, ローム粒子少量, パミス粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック極少量, 黒色粒子微量, パミス粒子極微量 | 17 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・黒色粒子少量 |
| 3 明褐色 | ローム粒子多量, 黒色粒子微量 | 18 黒褐色 | 黒色粒子中量, ローム小ブロック・パミス粒子極少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量, 黒色粒子微量 | 19 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・黒色粒子少量, パミス粒子極微量 |
| 5 褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子極少量, ローム小ブロック微量 | 20 明褐色 | ローム粒子多量, パミス粒子中量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子・黒色粒子少量, ローム小ブロック・パミス粒子極微量 | 21 明褐色 | ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量, パミス粒子極微量 |
| 7 明褐色 | ローム粒子多量, ローム中ブロック少量 | 22 明褐色 | ローム粒子多量, ローム中ブロック少量, ローム小ブロック極少量, 黒色粒子微量 |
| 8 明褐色 | ローム中ブロック中量, パミス粒子少量 | | |
| 9 明褐色 | ローム中ブロック多量, ローム粒子中量, パミス粒子少量 | | |
| 10 暗褐色 | ローム粒子・黒色粒子少量, スコリア粒子極少量 | | |
| 11 褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子極少量 | | |
| 12 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・スコリア粒子極少量, 黒色粒子微量 | | |
| 13 明褐色 | ローム粒子多量, 黒色粒子極少量, パミス粒子微量 | | |
| 14 褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子極少量, パミス粒子極微量 | | |
| 15 橙色 | パミス粒子多量, 黒色粒子極少量, ローム粒子微量 | | |

第96図 第17号地下式墳・出土遺物実測図

④小竪穴状遺構

第2号小竪穴状遺構 [SK-121・A] (第97図)

位置 館外北東部の B8h₄区を中心に確認されている。

重複関係 本跡の南部は、第121・B号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 長軸2.5m、短軸1.5mの隅丸長方形を呈している。

主軸方向 N-13°-W

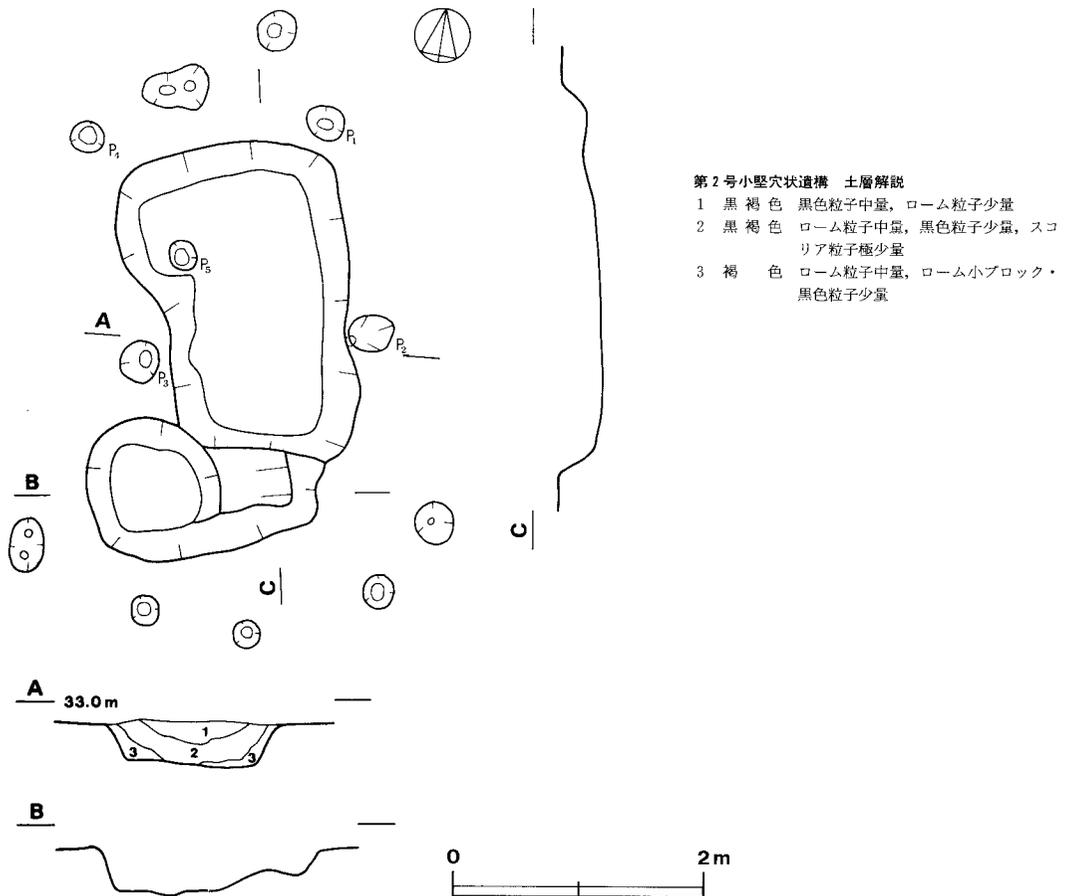
出入口部 北西コーナー寄りの壁外に張り出している。平面形は楕円形を呈しており、規模は長径1.0m、短径0.5mである。

壁 壁高は34cmで、外傾して立ち上がっている。

床 皿状。

ピット 壁外に4か所 (P₁~P₄) と遺構内に1か所 (P₅) 検出されている。P₁~P₅は、全て30cm前後の円形を呈し、深さ8~38cmである。

覆土 自然堆積。



第97図 第2号小竪穴状遺構実測図

遺物 覆土から瀬戸産の陶器の細片が出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から14世紀後半から15世紀前半のものと思われる。

⑤土坑

第151号土坑（第98図）

位置 館外北西部のC4e₃区を中心に確認されている。

規模と平面形 長径2.0m，短径0.9mの不整楕円形を呈し，深さは12cmである。

長径方向 N-61°-E

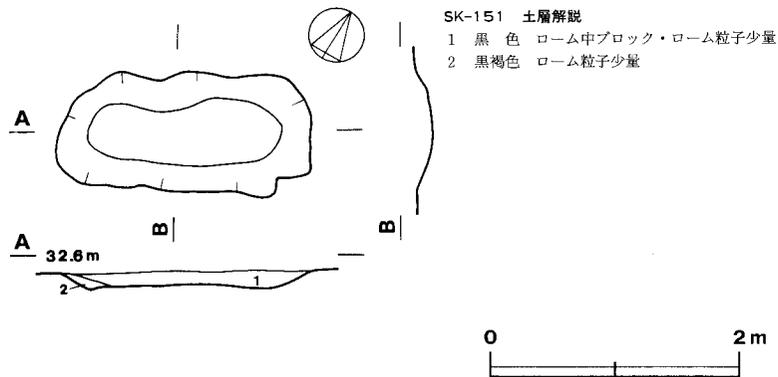
壁面 緩やかに外傾している。

底面 皿状。

覆土 自然堆積。

遺物 覆土から瀬戸産の陶器の細片が出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から15世紀前半のものと思われる。



第98図 第151号土坑実測図

(3) III期の遺構と遺物

本期は、一辺103mの方形の堀に区画された「□」形状の複郭方形館跡で、東側には張り出した小さな副郭を有しており、その郭内には掘立柱建物跡や井戸等の遺構が検出されている。堀の長さは、東側103m，西側101m，南側104m，北側103m程である。中心部は郭内の北側の部分に、出入口は、南側の堀の中央から東寄りに所在している。第5号堀に区画された郭内の西部には、竪穴式住居跡1軒，北部に方形竪穴状遺構2基と掘立柱建物跡2棟，南西端に井戸1基，中央部に井戸2基，東部に方形竪穴状遺構1基と北部に2基，中央部に墓域が検出されている。その他，地下式墳6基，小竪穴状遺構3基が検出されている。第2号堀に区画された副郭内には、掘立柱建物跡5棟，井戸2基が検出されている。

①堀

第2号堀（付図2，第99図）

位置 館の東側に張り出した堀で，C8・C9・D8・D9区で確認されている。C8f₃区で第3号堀に合流する。

重複関係 本跡は，第1号基壇と第11号溝を掘り込んでいる。

規模と形状 堀は，全長93.5mで「コ」状に構築されている。上幅1.0～2.0m，下幅0.3～0.4m，深さ30～40cmで，断面形は「U」字状や「┌」状を呈している。

方向 C8f₃区から東（N-75°-E）へ33m程直線的に延び，C9d₁区でほぼ垂直に曲がり，南（N-12°-W）へ41.5m延び，D9d₃区でさらに曲がり，西（N-75°-E）へ19m程延びている。

覆土 自然堆積。

遺物 東側の堀の覆土下層から2の内耳鍋片や4，5の瀬戸産の陶器片が出土している。覆土上・中層からは，第1号基壇に伴うと思われる6の布目瓦片をはじめ，3の短頸壺片や須恵器の甕，坏の細片が出土している。

所見 本跡は，重複関係や出土遺物等から15世紀中葉から後葉に構築されたものと思われる。この堀は，東側に張り出した副郭を区画するものと思われる。

第2号堀出土遺物観察表

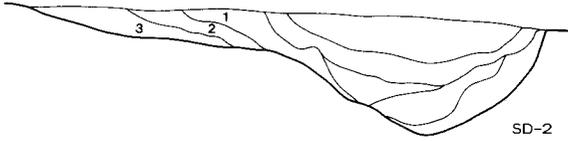
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第99図 1	甕 陶器	B (8.4)	胴部片。胴部は内彎しながら外上方に立ち上がる。	胴部外面平行タタキ目，内面横ナデ。	雲母・砂粒 にふい黄色 不良	10% P360 在地産。 覆土。
2	内耳鍋 土師質土器	A [35.4] B (9.1)	口縁部片。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 にふい橙色 普通	10% P252 ススが付着。 覆土。
3	短頸壺 須恵器	B (6.4)	体部，口縁部片。肩部は丸みを持ち，口縁部は短く直立し，上位でわずかに外傾する。	頸部，体部内・外面横ナデ。	砂粒 灰黄色 普通	20% P255 覆土。
4	瓶子 陶器	B (6.7) C 9.6	底部，胴部片。平底。胴部は外傾する。	ロクロ成形。灰釉は胴部下位でわずかに流れが見られる。	灰黄色 (釉)灰オリーブ色 普通	20% P254 瀬戸産。 覆土。
第100図 5	盤 陶器	A [22.6] B (3.2)	口縁部片。口縁部は頸部から直線的に立ち上がり，2条の浅い凹線が巡る。	水挽き成形。	灰白色 (釉)灰オリーブ色 普通	5% P253 瀬戸産。 覆土。

図版番号	器種	法量				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
6	平瓦	(5.9)	16.5	1.6	(76.9)	覆土	凹面に布当痕、凸面に縄目の 庄痕，9c DP9

図版番号	器種	石質	法量				出土地点	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
7	砥石	凝灰岩	6.3	2.8	1.7	39.5	覆土	Q30

G 33.0m

SD 3

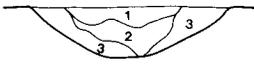


SD-2 土層解説

G

- 1 暗褐色 ローム粒子・礫少量
- 2 黒褐色 黒色粒子・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 黒褐色 黒色粒子多量, ローム粒子少量

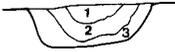
E



E

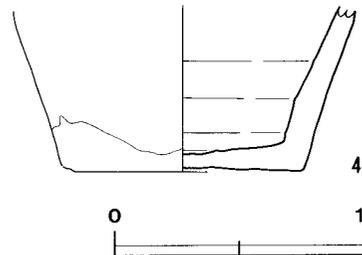
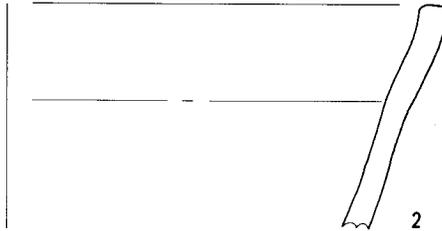
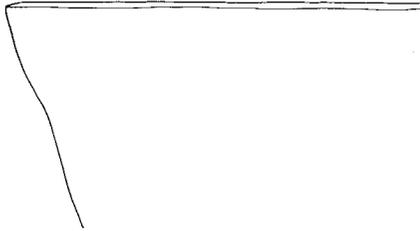
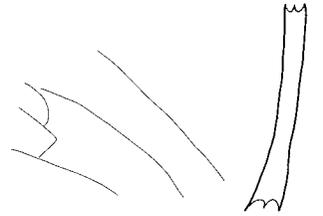
- 1 黒褐色 黒色粒子中量, ローム粒子少量
- 2 黒褐色 黒色粒子多量, ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量

F

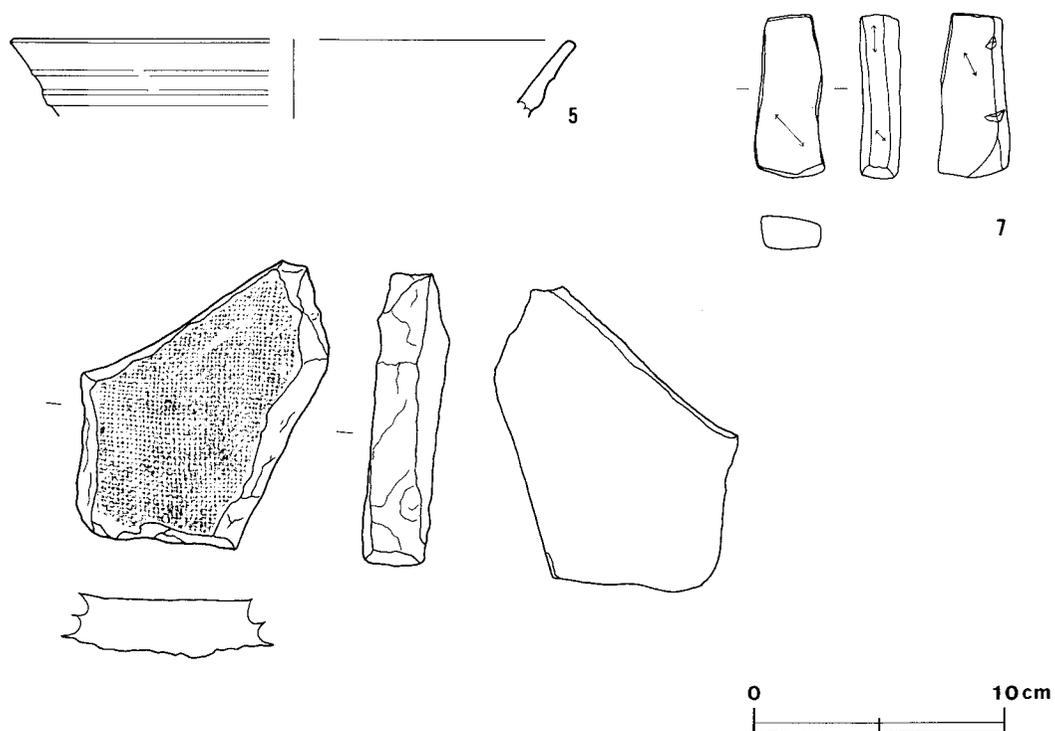


F

- 1 黒色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・黒色粒子少量, 砂極少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, 黒色粒子・スコリア粒子少量



第99図 第2号堀断面・出土遺物実測図(1)



第100図 第2号堀出土遺物実測図(2)

第3号堀 (付図2, 第101図)

位置 館の東, 西, 南, 北側に位置する堀で, B5~8・C5・C8・D5・D8・E5~8区で確認されている。C8f₃区で第2号堀に合流する。

重複関係 本跡は, E6d₆区で第11号溝を, また, D8e₅区で第12号溝を掘り込んでいる。

規模と形状 一辺の長さは103m程で, 方形に構築されている。上幅2.0~4.0m, 下幅0.5~2.5m, 深さ65~130cmで, 断面形は「U」字状や「V」字状を呈している。壁は, 40°~50°の傾斜で立ち上がっている。

方向 東・西側N-9°-W, 南側N-78°-E, 北側N-86°-E

覆土 自然堆積。

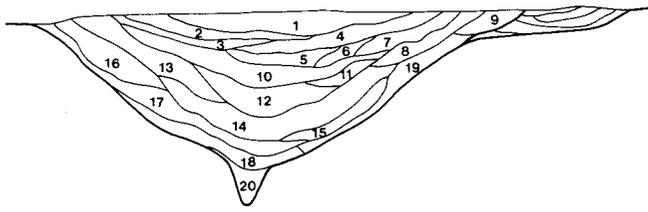
遺物 南側の堀のE7a₈区からE8a₁区にかけて, 遺物が集中して出土している。1の内耳鍋片や3の常滑産の陶器片, 2の瀬戸産の陶器片は覆土中層から出土している。その他, 拳大の礫も数点出土している。その他, 流れ込みと思われる須恵器片が出土している。

所見 本跡は, 複郭方形館跡の外堀で, 15世紀中葉から後葉に構築されたものと思われる。また, 西側の第1号木橋付近を中心に, 堀の底面や壁面に径20cm前後, 深さ20~30cmのピット群が検出されているが, これらはⅣ期に作られた逆茂木の痕と思われる。南側の堀の中央から東寄りに第

3号土橋がある。また、Ⅳ期には中央に第4号土橋が構築される。

H 33.0m

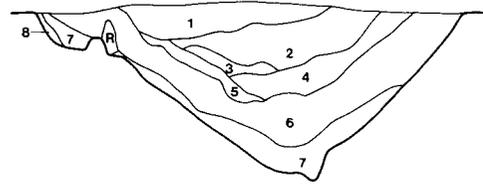
SD 12



SD-3 土層解説

- H
- 1 黒褐色 ローム粒子少量
 - 2 黒褐色 ローム粒子微量
 - 3 黒褐色 ローム粒子中量
 - 4 黒褐色 小石・ローム粒子微量
 - 5 黒色 ローム粒子微量
 - 6 暗褐色 ローム粒子微量
 - 7 黒褐色 ローム粒子微量
 - 8 暗褐色 ローム粒子中量
 - 9 黒褐色 ローム粒子少量
 - 10 暗褐色 ローム粒子中量, ロームブロック微量
 - 11 褐色 ローム粒子多量, 黒色粒子少量
 - 12 黒褐色 ローム粒子少量, 黒色粒子微量
 - 13 暗褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子少量
 - 14 暗褐色 ローム粒子中量, ロームブロック微量
 - 15 暗褐色 ローム粒子中量, 黒色ブロック微量
 - 16 黒色 ローム粒子・黒色ブロック少量
 - 17 黒褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子少量
 - 18 黒褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子少量
 - 19 褐色 黒色ブロック中量
 - 20 におい褐色 黒色ブロック少量, バミスブロック微量

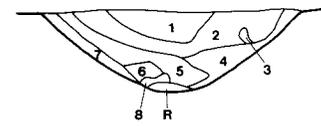
I 32.9m



I

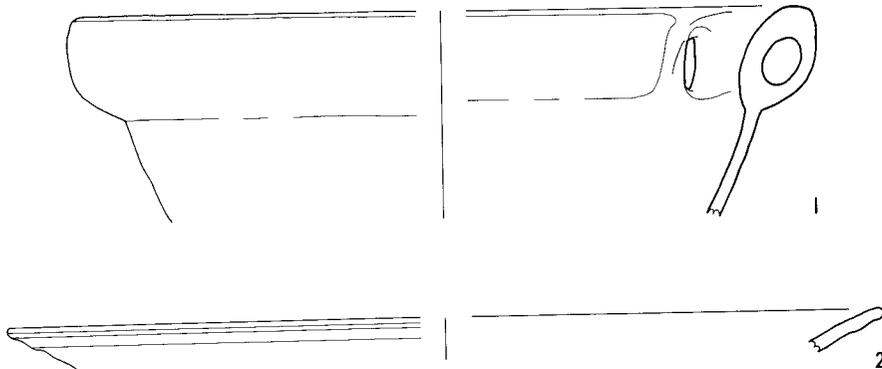
- 1 黒褐色 ローム粒子中量, スコリア粒子・黒色粒子少量
- 2 灰褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子・黒色粒子少量
- 4 黒褐色 ロームブロック・黒色粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量
- 6 黒色 ロームブロック・黒色ブロック・ローム粒子少量
- 7 におい褐色 ロームブロック・黒色ブロック少量
- 8 におい褐色 ロームブロック・スコリア粒子・黒色粒子少量

J 32.8m

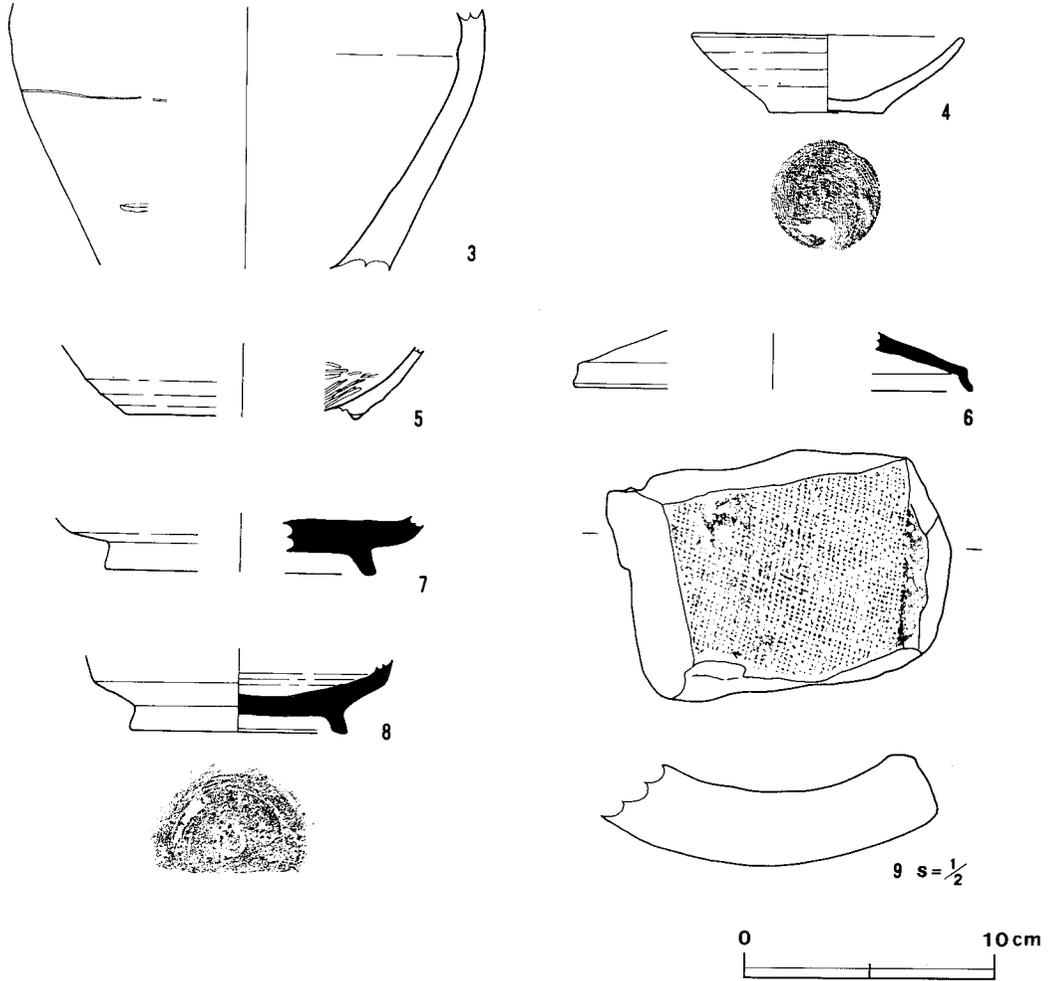


J

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量
- 4 褐色 ローム粒子多量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 7 褐色 ローム粒子多量
- 8 黒褐色 ローム粒子中量



第101図 第3号堀断面・出土遺物実測図(1)



第102図 第3号堀出土遺物実測図(2)

第3号堀出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第101図 1	内耳鍋 土師質土器	A [29.4] B (8.4)	口縁部片。口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 におい黄橙色 普通	5% P257 ススが附着。 D8b ₁ 区覆土。
2	盤 陶器	A [35.0] B (1.7)	口縁部片。口縁部外面に幅広で浅い凹線が巡る。	水挽き成形。	灰白色 (釉)におい黄色 普通	5% P260 瀬戸産。 覆土。
第102図 3	壺 陶器	B (10.6)	胴部片。胴部は内彎しながら外上方に立ち上がる。	胴部横ナデ。	砂粒 赤褐色 普通	15% P262 常滑産。 覆土。
4	皿 土師質土器	A 10.8 B 3.1 C 4.6	底部は平底で突出ぎみ。体部、口縁部はやや内彎して立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒 橙色 普通	100% P258 E7b ₈ 区底面。
5	坏 土師器	B (2.4) C [9.0]	底部、体部片。上げ底。体部は内彎ぎみに外上方に立ち上がる。	水挽き成形。体部内面ヘラ磨き。	砂粒 橙色 良好	10% P259 覆土。

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第102図 6	蓋 須恵器	A [16.0] B (2.3)	口縁部片。口唇部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 灰色 普通	5% 覆土。 P265
7	坏 須恵器	B (2.4) D [10.8] E 0.9	底部，体部片。低い高台部。体部は外傾する。	体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り。付高台。	長石 灰色 普通	10% 覆土。 P264
8	坏 須恵器	B (3.0) D 8.6 E 1.0	底部，体部片。低い高台部。体部は下位に稜を持ち，外傾する。	体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り。付高台。	長石・雲母 灰色 普通	20% 覆土。 P263

図版番号	器種	法量				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
9	丸瓦	(6.9)	(9.1)	2.2	(150.4)	覆土	凹面に布当痕，9c DP10

第4号堀（付図2，第103図）

位置 館の東側の堀で，B7・C7・C8・D8区で確認されている。B6i区で第5号堀に合流する。

重複関係 本跡はD8a1区で第128号土坑に，また，D8a2区で第129号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 全長55mで，「 Γ 」状に構築されている。上幅2.2～2.6m，下幅0.4～0.7m，深さ50～110cmで，断面形は「 \cup 」状や「U」字状を呈している。壁は，40°～52°の傾斜で立ち上がっている。堀の北東端（B7j8区）に第7号土橋が，また，東部（D8a1区）に8号土橋がある。

方向 第5号堀のB7j7区から東（N-72°-E）へ3m程延び，第25号地下式墳にぶつかり，南（N-12°-W）へ52m程直線的に延びる。

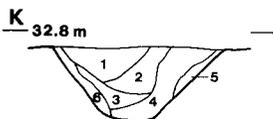
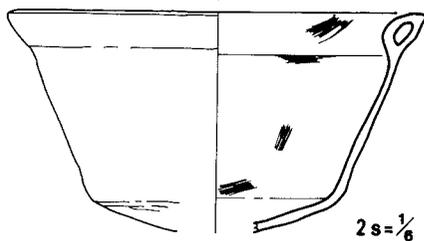
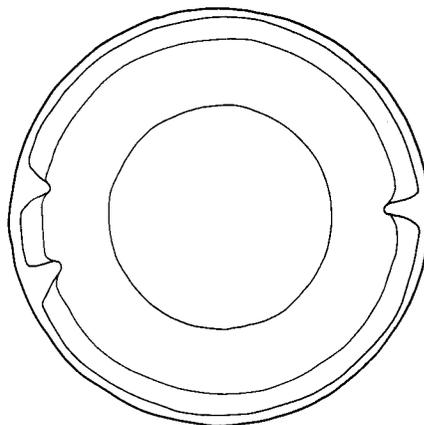
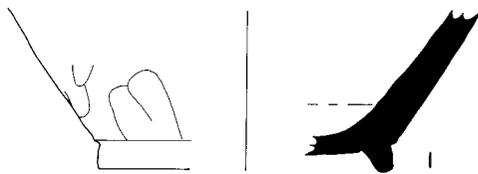
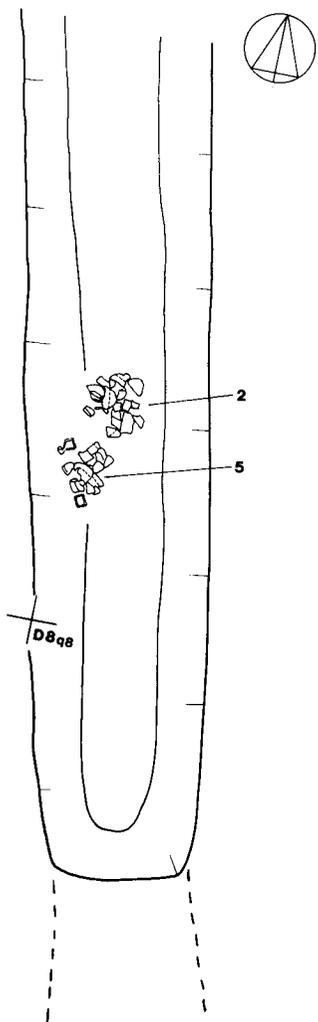
覆土 人為堆積。

遺物 覆土下層から2や5の内耳鍋をはじめ，3の土師質土器片や瀬戸産，常滑産の陶器の細片が多く出土している。

所見 本跡は，D8a1区以南で第128号土坑等，墓壇と思われる土壌群と重複しており，全容は確認できなかったが，形状からみて，第26号堀付近まで延びていたものと思われる。本跡は出土遺物等から15世紀中葉のものと思われる。

第4号堀出土遺物観察表

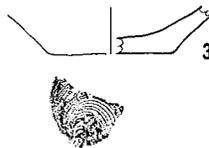
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第103図 1	長頸壺 須恵器	B (7.5) D [11.7] E 1.0	底部，胴部片。低い高台部。胴部は直線的に外傾する。	胴部外面下位ヘラナデ。	長石 灰色 普通	15% 覆土。 P270
2	内耳鍋 土師質土器	A 33.5 B (17.7) C [19.4]	口縁部一部欠損。底部は丸底ぎみ。体部，口縁部は直線的に立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ナデ。底部上位ヘラ削り。	砂粒 浅黄橙色 普通	75% ススが付着。 C8j1区底面。 P266
3	皿 土師質土器	B (1.9) C [5.0]	底部，体部片。平底。体部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒 橙色 普通	20% 覆土。 P269



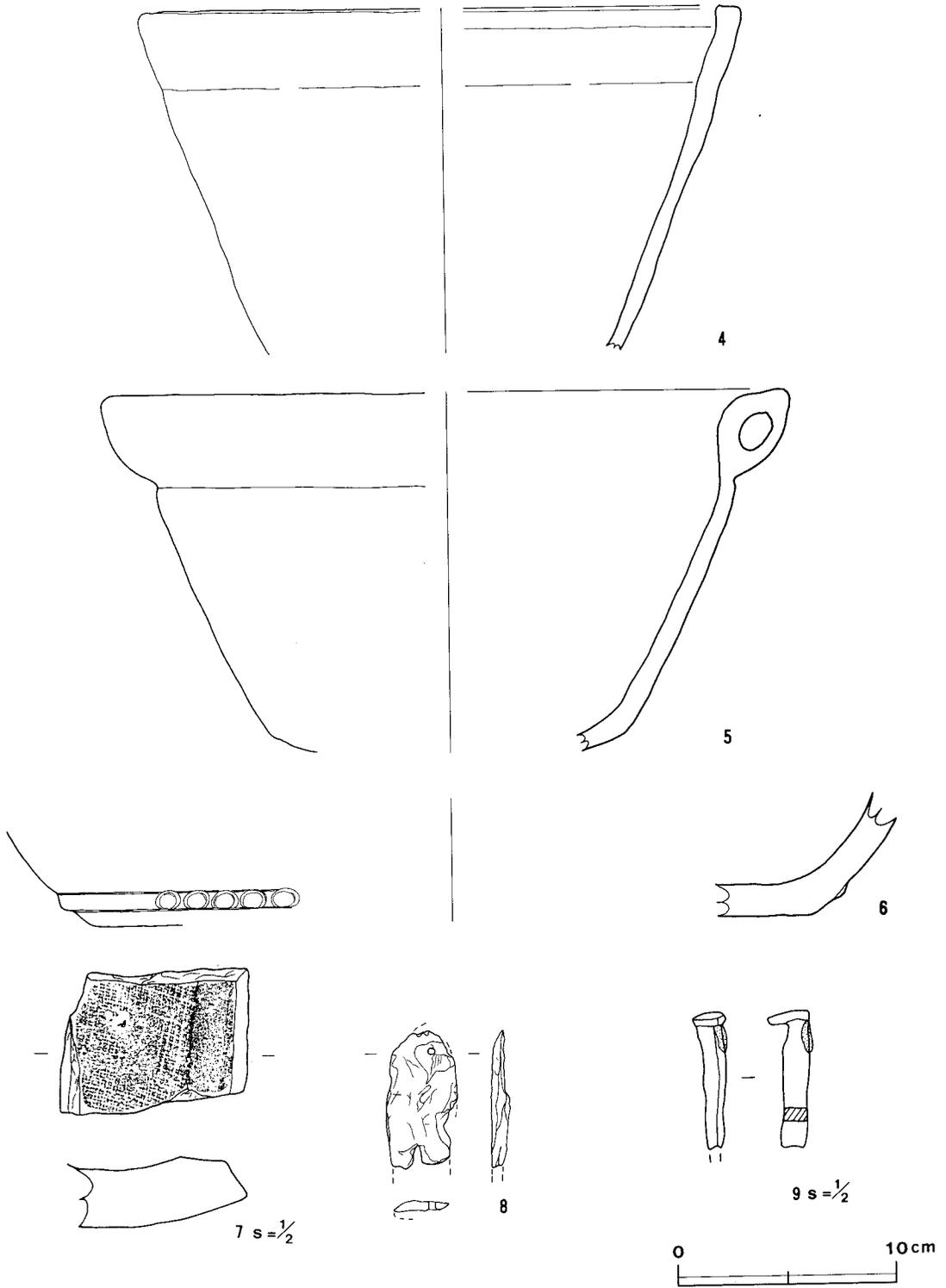
SD-4 土層解説

K

- 1 暗褐色 ローム粒子・砂極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、礫極少量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量、礫少量
- 4 黒褐色 ローム粒子・砂少量
- 5 黒褐色 ローム粒子多量、礫極少量
- 6 黒褐色 ローム粒子多量、礫少量



第103図 第4号堀・出土遺物実測図(1)



第104图 第4号堀出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第104図 4	内耳鍋 土師質土器	A [28.0] B (16.3)	体部, 口縁部片。体部は直線的に外傾し, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面横ナデ。	砂粒 におい 橙色 普通	15% P268 ススが付着。 覆土。
5	内耳鍋 土師質土器	A [31.8] B (16.9)	底部から口縁部片。体部は内彎ぎみに外上方に立ち上がり, 口縁部頸部からは内彎しながら立ち上がる。底部は丸底ぎみ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。底部上位ヘラ削り。	砂粒 黒褐色 普通	45% P267 ススが付着。 C8j ₁ 区底面。
6	火鉢 瓦質土器	B (5.7) C [33.2]	底部, 体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。体部下位に平行な凹線を施し, その上に円形の粘土を貼り付け, さらに円形の竹管を刺突。	小石 黒褐色 普通	5% P271 覆土。

図版番号	器種	法量				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
7	平瓦	(4.6)	(5.8)	1.9	(68.6)	覆土	凹面に布当痕, 9c DP11

図版番号	器種	石質	法量				出土地点	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
8	不明	粘板岩	(6.4)	3.3	0.8	(19.5)	覆土	全面に擦痕あり, 石砲丁か Q31

図版番号	器種	法量				特徴	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
9	角釘	(4.3)	1.4	0.5	(5.9)	頭部を直角に折り曲げている	覆土	鉄製 M60

第5号堀

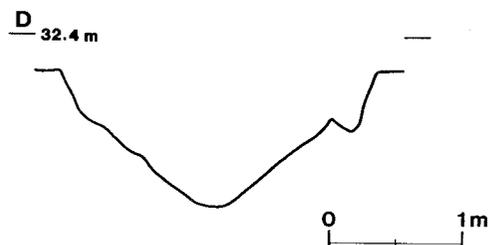
II期に引き続き機能しているものと思われる。

第21号堀 (付図2, 第105図)

位置 館中央から北西寄りの堀で, C7f₂・C7g₁・C7g₂・C7h₁区で確認されている。

重複関係 本跡は, 第18号溝と第11号地下式墳を掘り込んでいる。第3号井戸とは, 同時期のものである。

規模と形状 北東から南西へ10m程延びている。



第105図 第21号堀断面図

上幅2.3m, 下幅0.3m, 深さ100cmで, 断面形は「U」状を呈している。

方向 N-38°-E

覆土 覆土の内容物をみるとローム粒子やロームブロックが多く人為堆積である。

遺物 覆土から内耳鍋の細片や土師質土器の坏の細片が少量出土している。

所見 第3号井戸に洗い場と思われる遺構がみられることから本跡は, その水の排水と防備面を

兼ね備えた堀と思われる。堀の曲がる角度が第5号堀と合っており、15世紀中葉から後葉に掘られたものと思われる。

第24号溝

II期に引き続き機能しているものと思われる。

②建物跡

第5号掘立柱建物跡 [SK-258・371・391・392・408・413・422・532] (第106図)

位置 館北東部中央寄りのC7a₆区を中心に確認されている。

規模 東西1間、南北3間の建物で、柱間寸法は桁行3.3m、梁行2.1mである。柱穴の掘方は平面形が、長径0.5～0.8m、短径0.5～0.6mの楕円形を呈し、深さは40～70cmである。柱痕跡は、確認できなかった。

長軸方向 N-8°-W

覆土 柱を抜き取った跡に、土砂が自然堆積している。

遺物 P₄の覆土から内耳鍋の細片が出土している。

所見 本跡は、出土遺物や長軸方向が東側の第5号堀と合っている等から14世紀後半から15世紀前半の方形館跡の中心部に位置する建物跡と思われる。

第6号掘立柱建物跡 [SK-89～96・99・100・691～695・698・708・709・711] (第107図)

位置 館東部のC8j₈区を中心に確認されている。第2号堀に囲まれた郭内中央部に位置している。

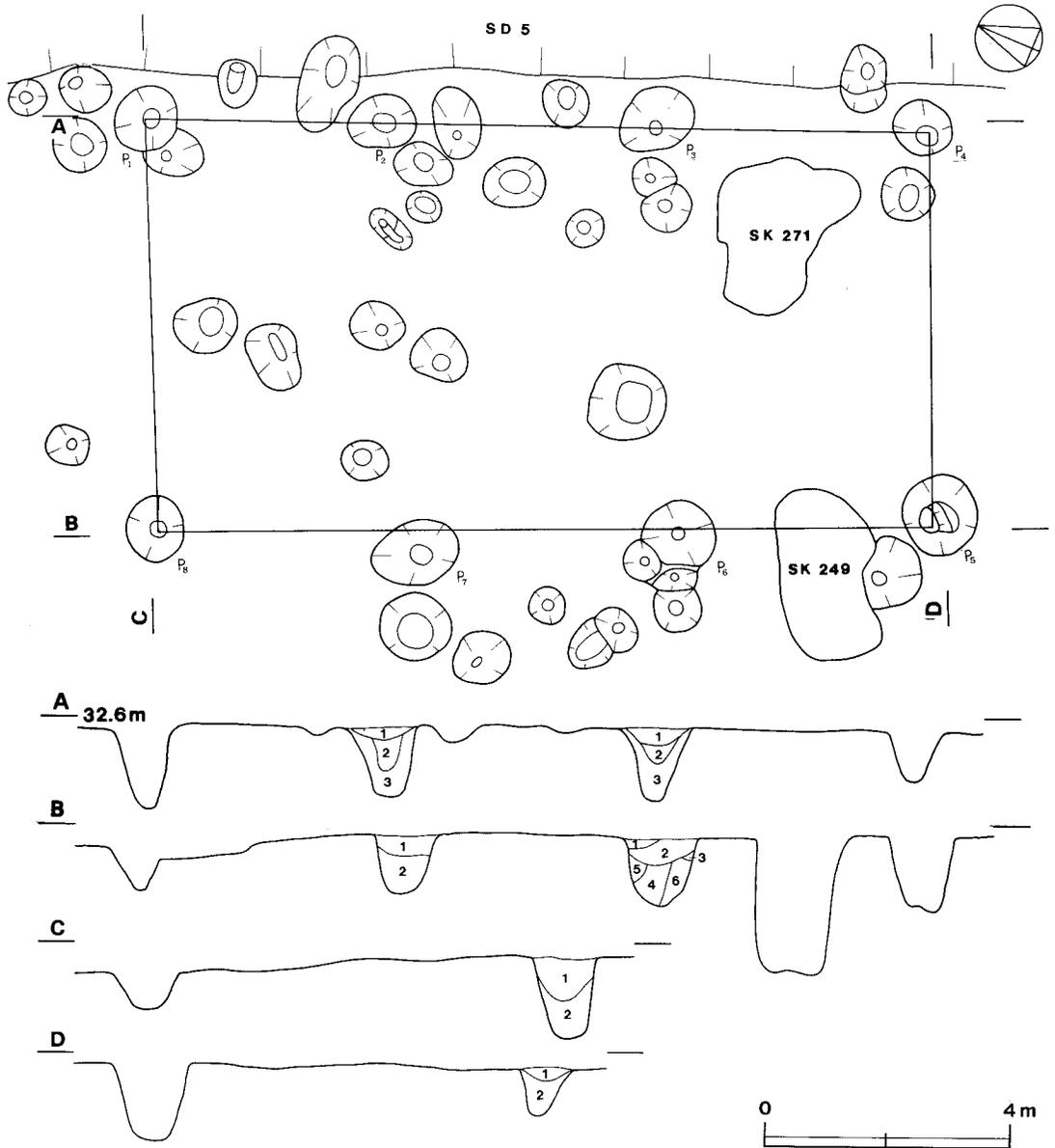
規模 東側及び北側に幅1.1～1.5mの庇を持っている東西3間、南北2間の建物で、柱間寸法は桁行2.3～3.8m、梁行2.1～2.5mである。柱穴の掘方は平面形が、径0.2～0.5mの円形を呈し、深さは20～70cmである。柱痕跡は、P₄、P₇、P₁₀、P₁₂、P₁₅、P₁₈で確認されており、柱の寸法は径15cmと推定される。

長軸方向 N-12°-W

覆土 人為堆積。

遺物 P₉の覆土中層からは、1の瀬戸産の陶器片が出土している。また、P₂からは土師質土器の細片が出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から15世紀中葉の第2号堀内の中心になる総柱の建物跡と思われる。



SB-5 土層解説

P1

- 1 黒褐色 ローム粒子多量, ロームブロック・黒色粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック多量

P2

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 黒色粒子微量
- 2 灰褐色 ローム粒子中量, ロームブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子・ロームブロック中量, 黒色粒子少量

P3

- 1 黒褐色 黒色粒子・ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 黒色粒子少量

P4

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子極微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量, ロームブロック・黒色粒子微量

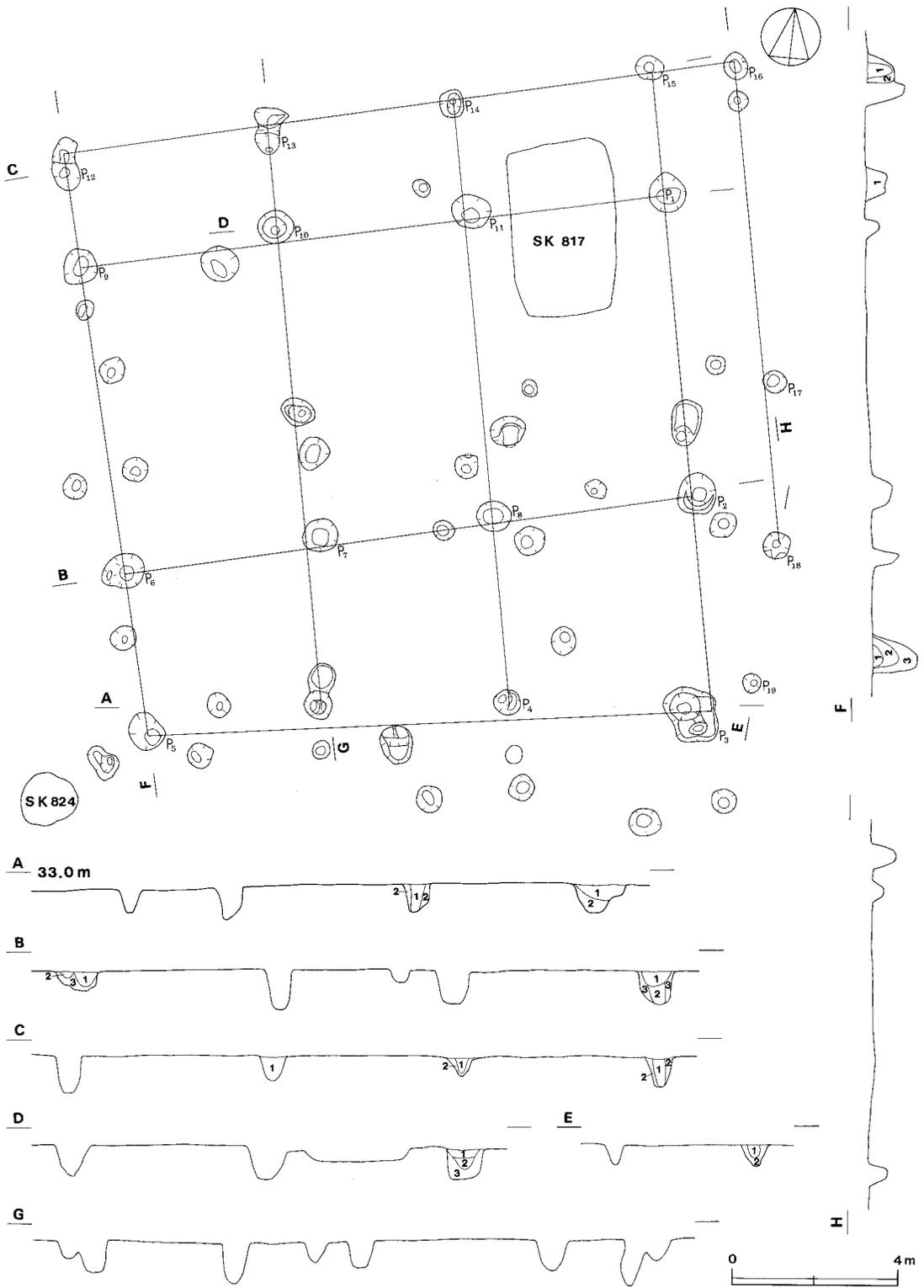
P6

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 黒色 黒色粒子多量, ローム粒子少量, スコリア小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, スコリア粒子極微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・黒色粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量, スコリア粒子極微量

P7

- 1 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・黒色粒子少量, ローム小ブロック微量

第106図 第5号掘立柱建物跡実測図



第107图 第6号掘立柱建物跡実測图

SB-6 土層解説

P1

- 1 黒褐色 黒色粒子中量, ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子少量
- 3 黒褐色 黒色粒子少量, ローム粒子極少量

P2

- 1 黒色 黒色粒子多量, ローム粒子微量
- 2 黒褐色 黒色粒子中量, ローム粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量, スコリア粒子微量

P3

- 1 黒褐色 黒色粒子多量, ローム粒子微量, スコリア粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子極少量

P4

- 1 黒褐色 黒色粒子中量, ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子少量, ローム小ブロック極少量

P5

- 1 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 黒色粒子中量, ローム粒子極少量, ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子少量, ローム小ブロック極少量

P6

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

P9

- 1 黒褐色 黒色粒子少量, ローム粒子・ローム小ブロック微量, スコリア小ブロック極微量

P12

- 1 黒褐色 黒色粒子中量, ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子少量, スコリア粒子極少量

P13

- 1 黒褐色 黒色粒子中量, ローム粒子少量

P14

- 1 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子少量, スコリア粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子極少量, スコリア粒子微量

P15

- 1 黒色 黒色粒子多量, ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子少量

P18

- 1 黒色 黒色粒子多量, ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック微量, スコリア粒子極微量



第108図 第6号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第6号掘立柱建物跡出土遺物観察表

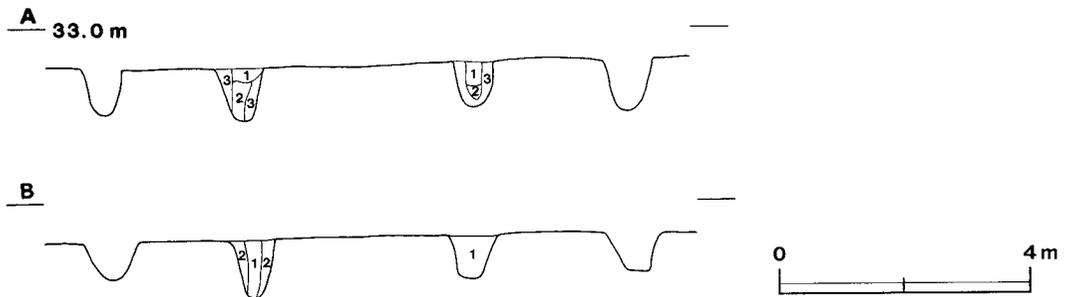
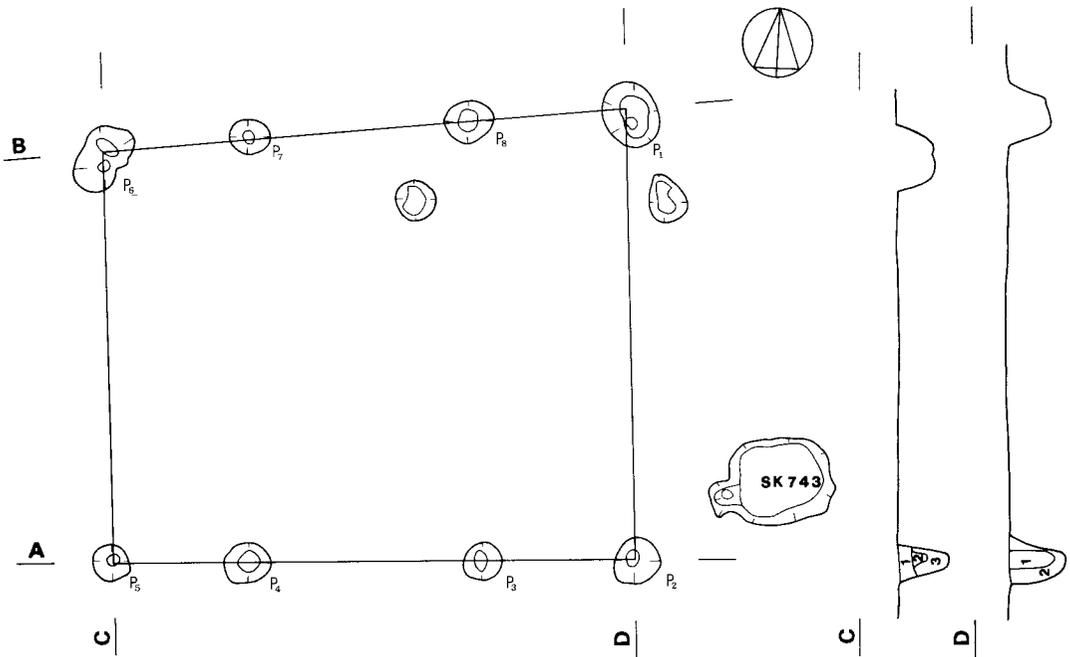
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第108図 1	盤 陶器	A [29.8] B (3.1)	口縁部片。口縁部上位は強く外反する。	水挽き成形。口縁部内・外面横ナデ。	灰白色 (釉)オリーブ黄色 普通	5% P226 瀬戸産。 覆土。

第7号掘立柱建物跡 [SK-113・744~749・751] (第109図)

位置 館東部のD8c₅区を中心に確認されている。第2号堀に囲まれた郭内南西端に位置している。

規模 東西3間, 南北1間の建物跡で, 柱間寸法は桁行3.3~3.5m, 梁行1.1~1.9mである。柱穴の掘方は平面形が, 径0.3~0.4mの円形を呈し, 深さは30~50cmである。柱痕跡は, P₂~P₄, P₇で確認されており, 柱の寸法は径15cmと推定される。

長軸方向 N-87°-E



SB-7 土層解説

P2

- 1 黒褐色 黒色粒子中量, ローム粒子少量
- 2 暗褐色 黒色粒子中量, ローム粒子少量

P3

- 1 黒褐色 黒色粒子中量, ローム粒子少量
- 2 暗褐色 黒色粒子中量, ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子微量

P4

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

P5

- 1 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子少量, スコリア粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子・黒色粒子極少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・黒色粒子極少量, ローム小ブロック微量

P7

- 1 黒褐色 黒色粒子少量, ローム粒子極少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子極少量

P8

- 1 黒色 黒色粒子多量, ローム粒子微量

第109図 第7号掘立柱建物跡実測図

覆土 人為堆積。

所見 本跡は、第2号堀の内側に位置していることや主軸方向が第2号堀と合っている等から15世紀中葉の方形館跡に伴う建物跡と思われる。

第8号掘立柱建物跡 [SK-109・734・735・752・757・761・780] (第110図)

位置 館東部のD8a₅区を中心に確認されている。第2号堀に囲まれた郭内西端に位置している。

規模 東西1間、南北4間の建物で、柱間寸法は桁行4.1m、梁行2.0mである。柱穴の掘方は平面形が、径0.2～0.5mのほぼ円形を呈し、深さは15～65cmで、全体的に東側のピット列が深く掘られている。柱痕跡は、P₁、P₃～P₅で確認されており、柱の寸法は径15cmである。

長軸方向 N-9°-W

覆土 人為堆積。

所見 本跡は、第2号堀の内側に位置していることや主軸方向が第2号堀と合っている等から15世紀中葉の方形館跡に伴う建物跡と考えられる。

第9号掘立柱建物跡 [SK-700・724・729・730・782・783・787] (第111図)

位置 館東部のC8j₆区を中心に確認されている。第6号掘立柱建物跡の西部に位置している。

規模 東西1間、南北2間の建物で、西側の南北は3間あり、P₅とP₆の間は出入口部であると思われる。柱間寸法は、桁行2.2m、梁行1.4mである。柱穴の掘方は平面形が、長径0.3～0.8m、短径0.3～0.5mの楕円形を呈し、深さは15～40cmである。柱痕跡は、P₇で確認されており、柱の寸法は径15cmと推定される。

長軸方向 N-22°-W

覆土 人為堆積。

所見 本跡は、第2号堀の内側に位置していること等から15世紀中葉の方形館跡に伴う建物跡と思われる。

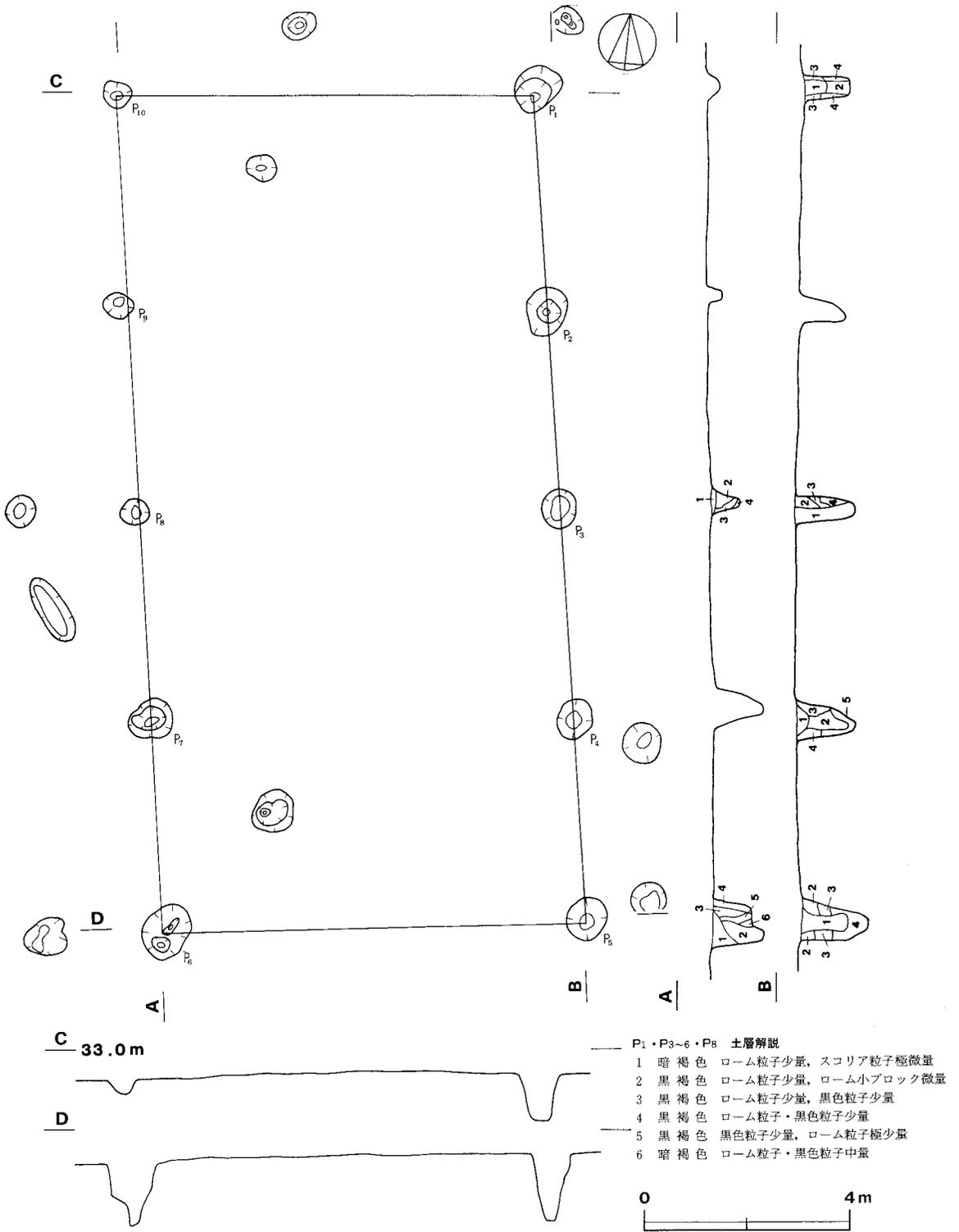
第10号掘立柱建物跡 [SK-756・759・770・775・776・778] (第112図)

位置 館東部のC8h₆区を中心に確認されている。第2号堀に囲まれた郭内北西部に位置している。

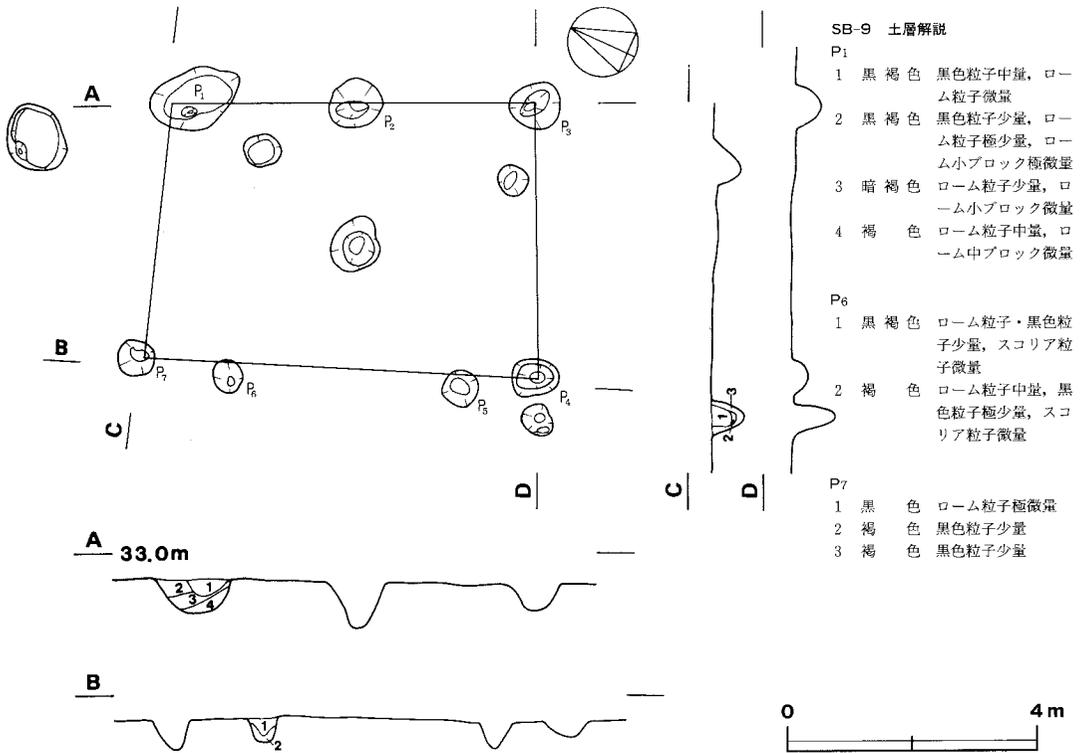
規模 東西1間、南北3間の建物で、柱間寸法は桁行2.9～3.6m、梁行2.9～3.6mである。柱穴の掘方は平面形が、径0.3m前後の円形を呈し、深さは20～65cmである。柱痕跡は、確認できなかった。

長軸方向 N-11°-W

覆土 人為堆積。



第110図 第8号掘立柱建物跡実測図



第111図 第9号掘立柱建物跡実測図

所見 本跡は、第2号堀の内側に位置していることや主軸方向が第2号堀と合っている等から15世紀中葉の方形館跡に伴う建物跡と思われる。

第11号掘立柱建物跡 (第113図)

位置 館北東部中央寄りの第4号堀と第5号堀に挟まれたC7d₉区を中心に確認されている。

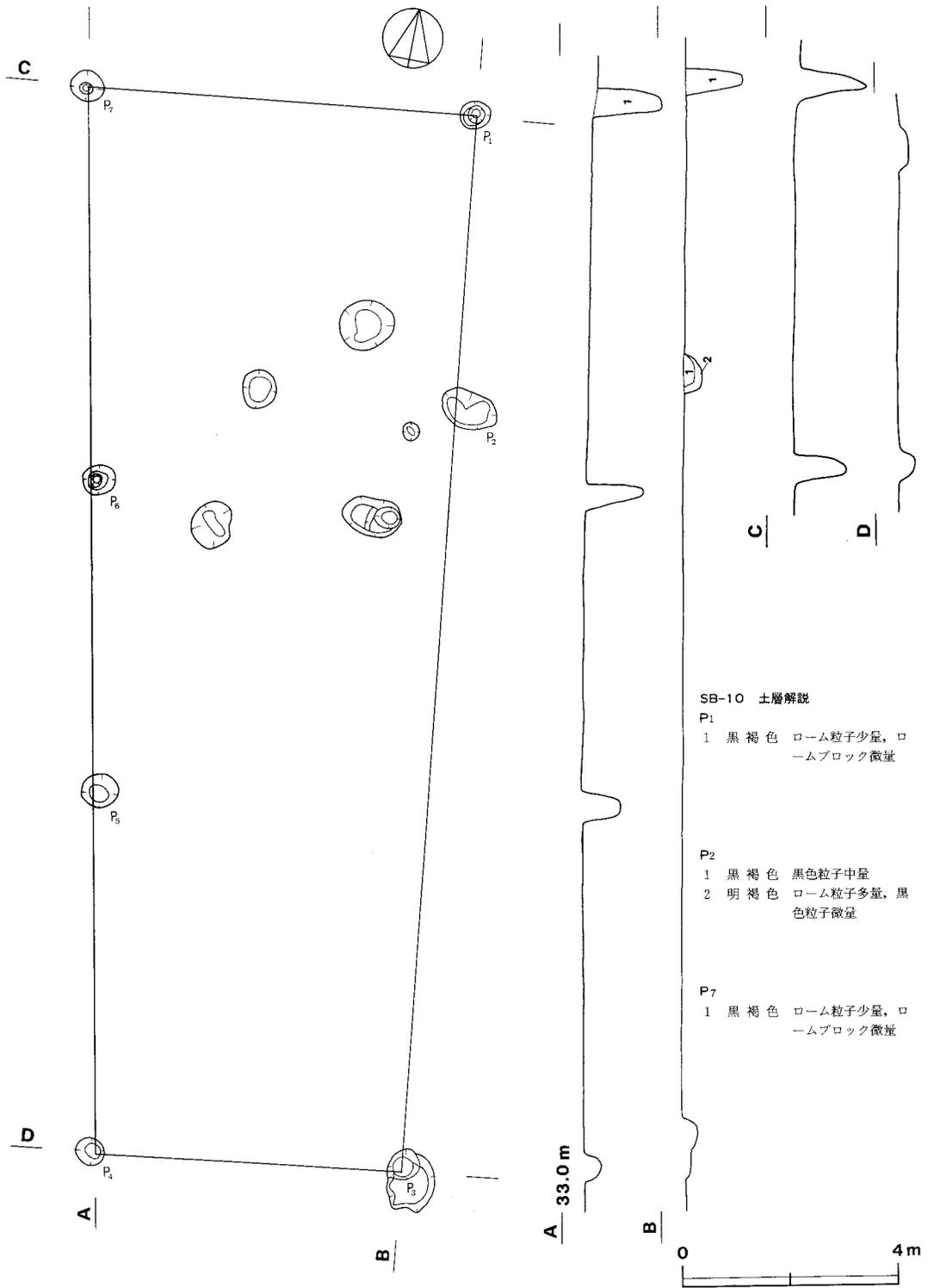
重複関係 本跡が取り壊された後に第1号柵列が築かれている。

規模 東西1間、南北3間の建物で、柱間寸法は桁行3.4m、梁行1.4~2.0mである。柱穴の掘方は平面形が、径0.3~0.8mの円形を呈し、深さは20~30cmである。P₄の覆土から柱の周りに詰めたとと思われる拳大の石が数個出土している。

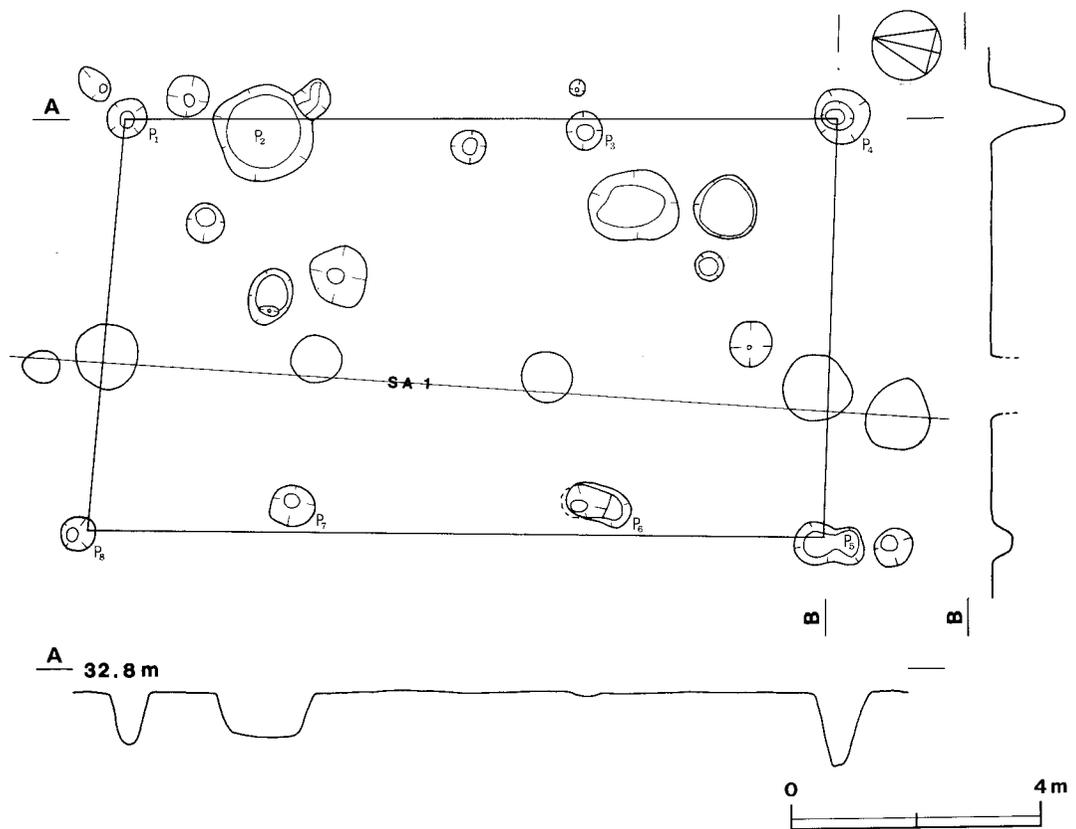
長軸方向 N-13°-W

覆土 人為堆積。

所見 本跡は、第4・5号堀にはさまれた位置にあることや主軸方向が第4号堀と東側の第5号堀と合っている等から15世紀中葉に築かれ、15世紀後半から16世紀前半には取り壊されていたものと思われる。



第112図 第10号掘立柱建物跡実測図



第113図 第11号掘立柱建物跡実測図

第18号住居跡 (第114図)

位置 館南部のD7h₄区を中心に確認されている。

規模と平面形 長軸[4.6]m, 短軸[4.2]mの方形を呈している。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は4~6cmで, 東・南・北壁の一部のみ遺存している。

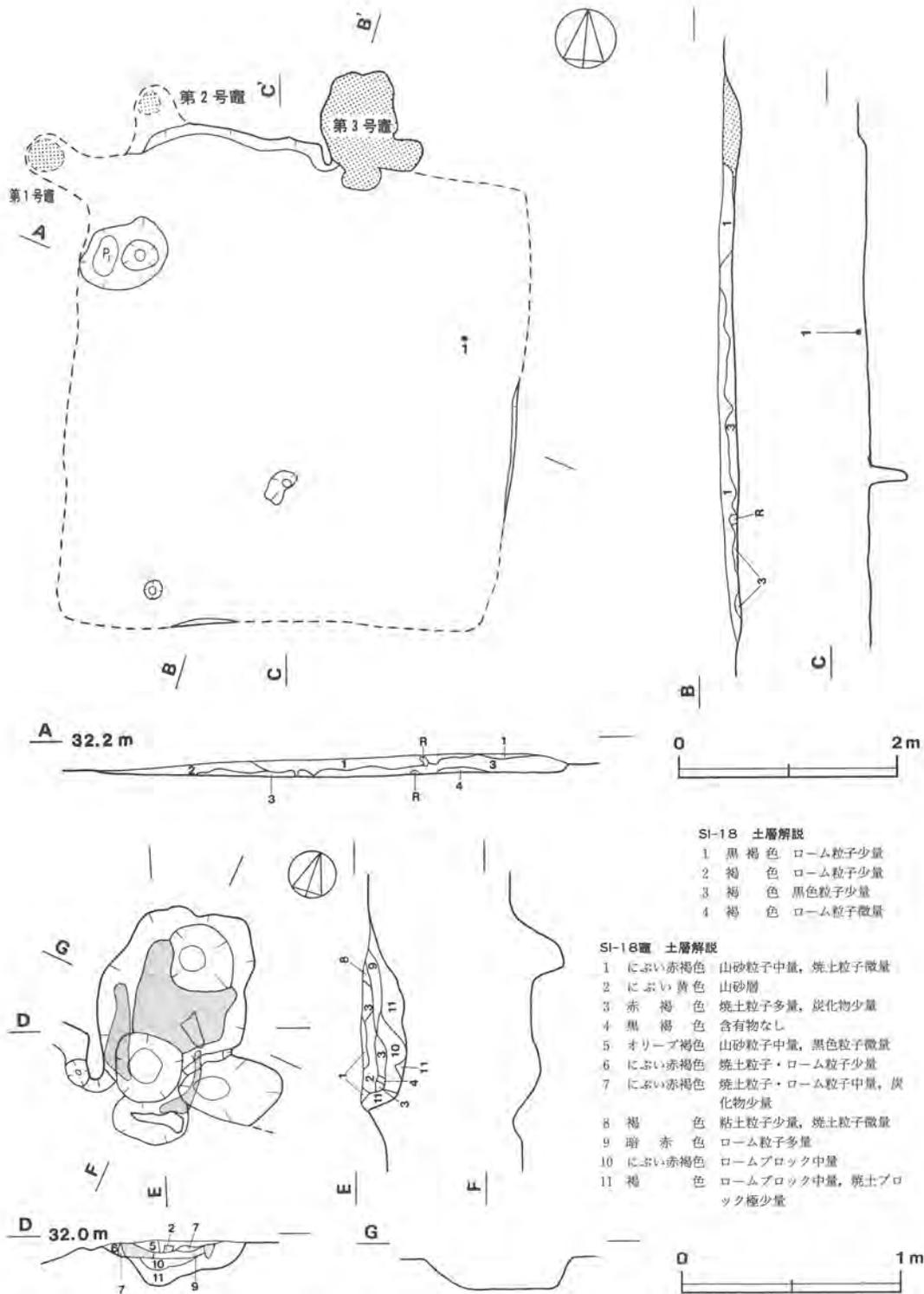
床 全体的に軟らかい。

ピット 3か所 (P₁~P₃) 検出されているが, 性格は不明である。

竈 第1・2号竈は北西コーナーに構築されているが, 削平により赤変硬化した火床だけが検出されている。第3号竈は北壁中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部は, しっかり遺存しておりロームの掘り残しを芯とし, 砂質粘土と凝灰岩の切石で構築されている。火床は, 灰, 煤, 砂質粘土を混ぜ合わせたものが薄くしかれている。煙道は確認できなかった。

覆土 IV期の館を構築する際, 削平されほとんど残っていないが, 人為堆積と思われる。

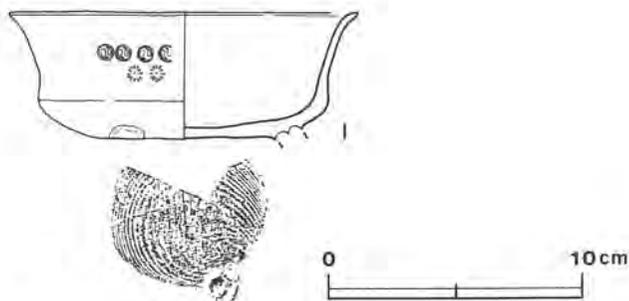
遺物 東部の床面直上から1の土師質土器の香炉片や内耳鍋の細片が出土している。第3号竈か



第114図 第18号住居跡・竈実測図

らは、古銭が1枚出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から15世紀中葉のものと思われる。



第115図 第18号住居跡出土遺物実測図

第18号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第115図 1	香炉 土師質土器	A [14.0] B 5.2	底部、体部一部欠損。体部下位で膨らみを持ち、中位から上位にかけて直線的に立ち上がる。口縁部上位は横方向に強く外反する。獣足が3個付くか。	口縁部、体部内・外面横ナデ。体部中位に菊花と巴の押印文。底部回転糸切り。	小石 黒褐色 不良	70% P84 東部床面直上。

③方形竪穴状遺構

第2号方形竪穴状遺構 [SI-13] (第116図)

位置 館北部のC7b₅区を中心に確認されている。

重複関係 本跡は、第1号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.7m、短軸3.1mの隅丸長方形を呈している。

長軸方向 N-15°-W

壁 壁高は約30~40cmで、西壁が垂直に立ち上がるのに対し、他の壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、全体的に軟らかい。

ピット 北壁の外に12か所(P₁~P₁₂)検出されている。P₁~P₁₂は径25~45cmの円形を呈し、深さ8~44cmで、性格は不明である。

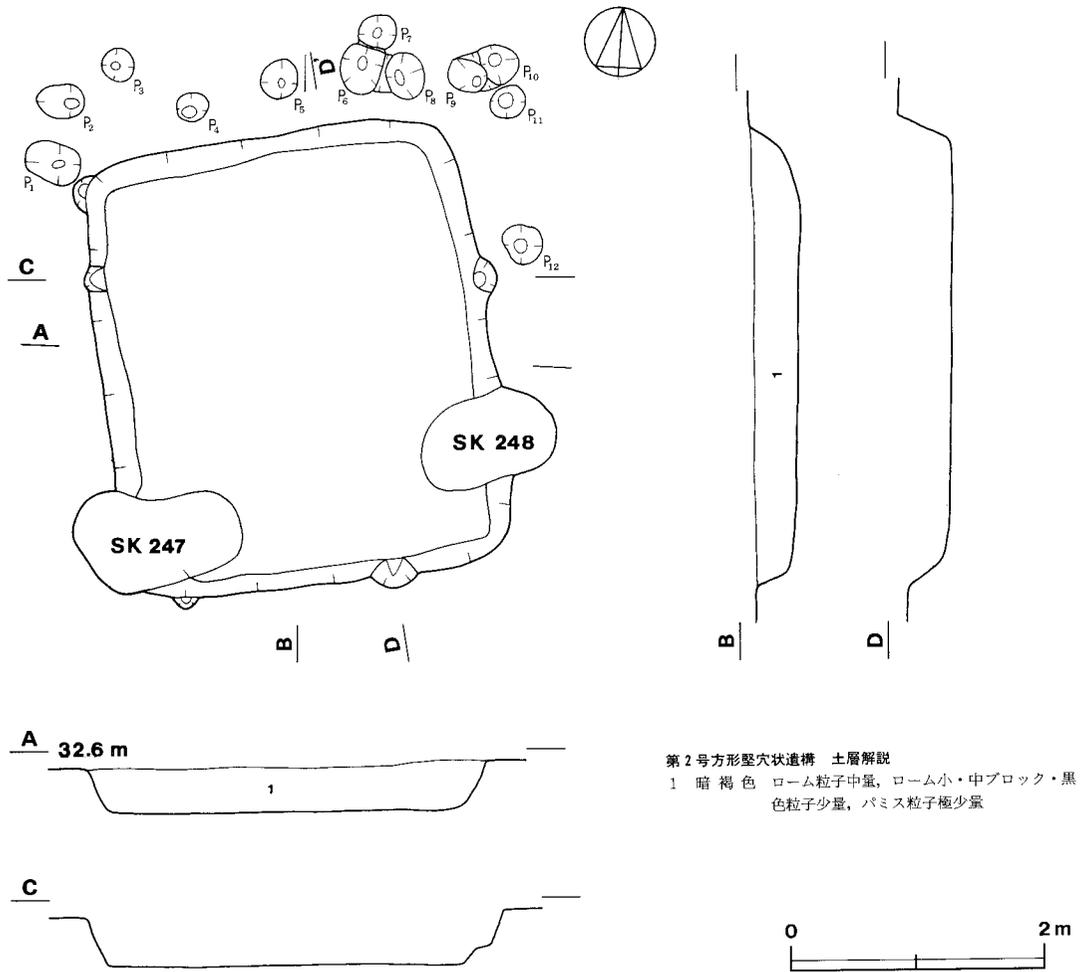
覆土 ロームブロックやローム粒子を含む単層からなっており、人為堆積である。

遺物 混入したと思われる縄文式土器の細片や須恵器の甕の細片、1の灰釉陶器片(百代寺段階)が出土している。

所見 本跡は、遺構の形態や館内郭部に位置していること等から15世紀中葉の館跡に伴う土倉的性格の遺構と考えられる。

第4号方形竪穴状遺構 [SI-15] (第118図)

位置 館北部のC7c₂区を中心に確認されている。



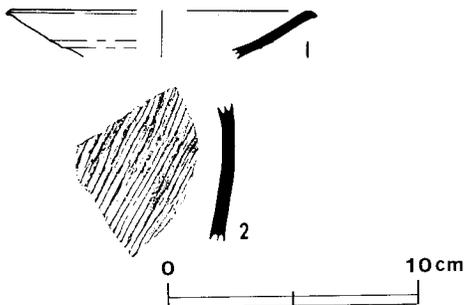
第2号方形堅穴状遺構 土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小・中ブロック・黒色粒子少量, パミス粒子極少量

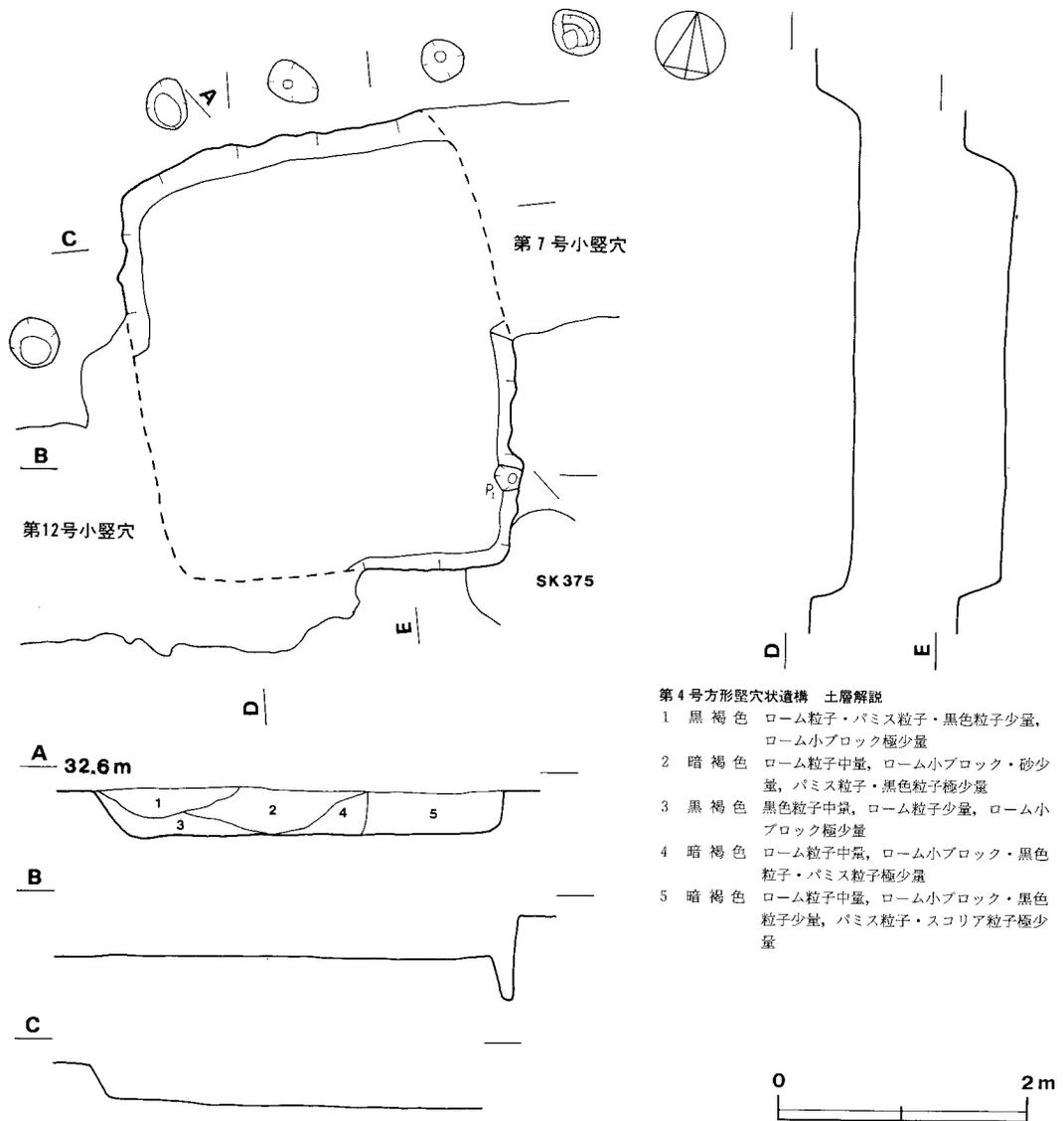
第116図 第2号方形堅穴状遺構実測図

第2号方形堅穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第117図 1	碗 陶器	A [12.0] B (1.9)	体部, 口縁部片。体部は直線的に外傾する。口唇部は横方向につまみ出している。	口縁部, 体部内・外面横ナデ。	砂粒 灰白色 良好	10% P78 百代寺窯段階。 中央部覆土。



第117図 第2号方形堅穴状遺構出土遺物実測図



第118図 第4号方形竪穴状遺構実測図

重複関係 本跡は、第375号土坑を掘り込み、その後、第7号小竪穴状遺構に掘り込まれている。第328・349号土坑との新旧関係は、確認できなかった。

規模と平面形 長軸3.7m、短軸(3.0)mの隅丸長方形を呈しているものと推測される。

長軸方向 N-20°-W

壁 壁高は約30cm前後で、北壁は外傾して立ち上がっている。他の壁の半分は、他の遺構に切られているが、遺存壁はほぼ垂直に立ち上がっている。

床 平坦で、軟らかい。

ピット 北壁上に1か所(P₁)検出されている。P₁は、径20cmの円形を呈し、深さ40cmで、本

跡に伴うものと考えられるが、性格は不明である。

覆土 単層の堆積であり、人為堆積である。

所見 本跡は、遺構の形態や館内郭部に位置していることから15世紀中葉の土倉的なものと考えられる。

第5号方形竪穴状遺構 [SI-16] (第119図)

位置 館東部中央寄りのC7h₉区を中心に確認されている。

重複関係 本跡は、第29号地下式塙に掘り込まれている。

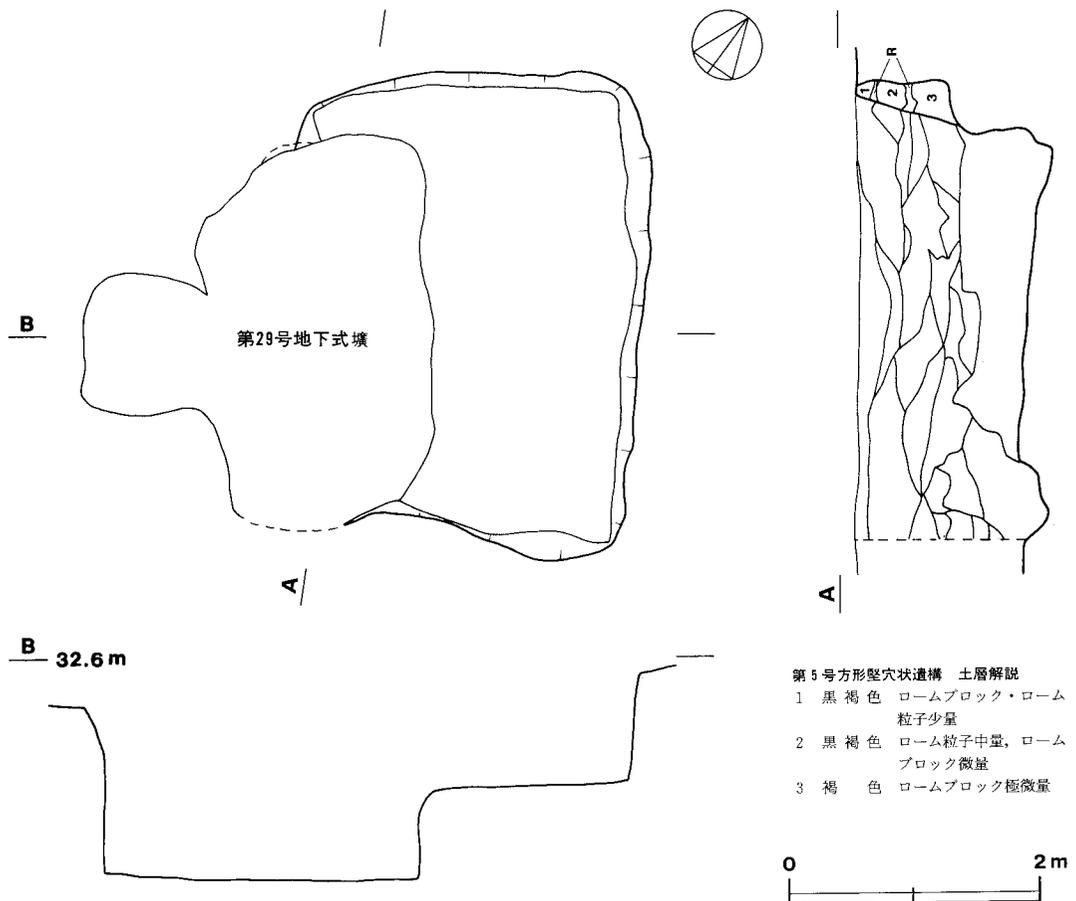
規模と平面形 長軸3.8m、短軸[2.8]mの隅丸長方形を呈するものと推測される。

主軸方向 N-32°-W

壁 壁高は100cmで、垂直に立ち上がっている。

床 平坦で、軟らかい。

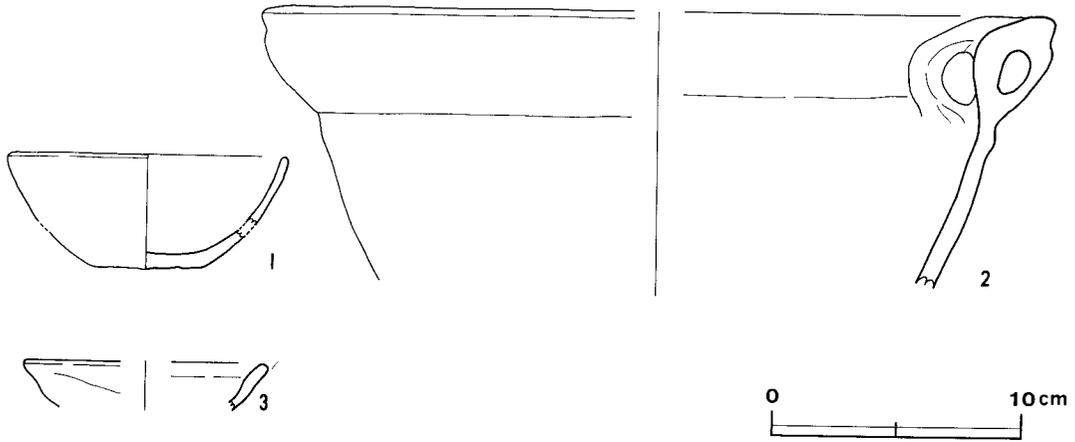
覆土 ロームブロックを含んでおり人為堆積である。



第119図 第5号方形竪穴状遺構実測図

遺物 覆土から2の内耳鍋片を中心に土師質土器や3の瀬戸産の陶器片が出土している。

所見 本跡は、遺構の形態や出土遺物から15世紀の遺構と考えられる。



第120図 第5号方形竪穴状遺構出土遺物実測図

第5号方形竪穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第120図 1	坏 土師質土器	A [10.8] B (4.5) C 4.5	底部，体部片。平底。体部は内彎しながら外上方に立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	スコリア 浅黄橙色 普通	20% P79 板目状圧痕。 覆土。
2	内耳鍋 土師質土器	A [30.5] B (11.1)	体部，口縁部片。平底。体部は，内彎し口縁部は膨らみを持って内彎する。	口縁部，体部内・外面横ナデ。	長石・石英 (外)黒褐色(内)橙色。普通	10% P81 ススが付着。 覆土。
3	小皿 陶器	A [9.8] B (2.0)	体部，口縁部片。体部，口縁部は直線的に立ち上がる。	口縁部外面横ナデ。口縁部内・外面，体部内面に施釉。	灰色 (釉)灰オリーブ色 良好	5% P352 瀬戸産。 覆土。

④土橋

第3号土橋（付図2）

位置 第3号堀の南側中央から東寄りのE7b₇区を中心に確認されている。

規模 長さ2.5m，幅3.0mでロームを掘り残して築いている。

方向 N-13°-W

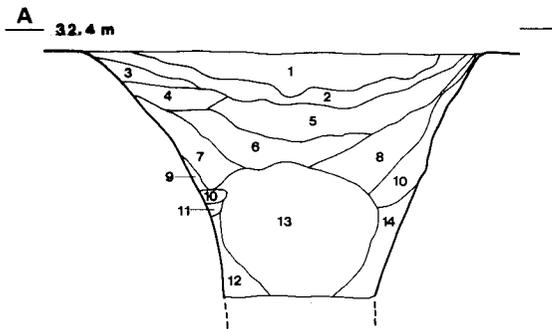
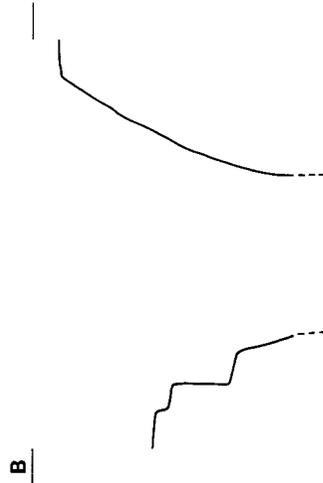
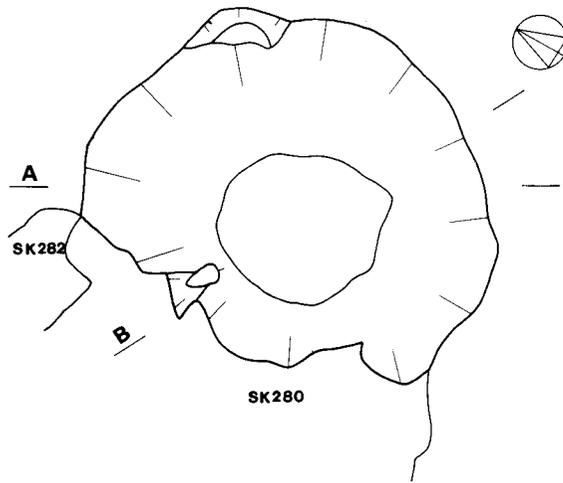
所見 本跡は，外堀正面の土橋であるが，それに付随する施設は検出できなかった。

⑤井戸

第3号井戸（第121図）

位置 館中央からやや北寄りのC7f₂区を中心に確認されている。

規模と形状 掘り方は，上面が長径3.4m，幅2.9mの楕円形を呈し，確認面から2.0mの深さまで急傾斜を呈する。



SE-3 土層解説

- 1 褐灰色 ローム粒子少量, 小礫微量, 黒色粒子極微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 小礫・炭化物極微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 小石微量
- 4 褐色 ローム粒子少量, 中礫微量, 炭化物極微量
- 5 褐色 ローム粒子・小石少量, 大礫・炭化物極微量
- 6 褐色 ローム粒子多量, 小石少量, 炭化物極微量
- 7 褐色 ローム粒子少量, 小石・中礫微量
- 8 暗褐色 小礫多量, 黒色粒子微量
- 9 褐色 ローム粒子少量, 小礫極微量
- 10 褐色 黒色粒子少量, 小礫微量
- 11 褐色 小石極微量
- 12 褐色 小礫微量, 炭化物極微量
- 13 灰褐色 中礫・大礫中量, 小礫少量, ロームブロック・黒色ブロック極微量
- 14 黒褐色 ローム粒子少量, 黒色粒子極微量



第121図 第3号井戸・出土遺物実測図

覆土 覆土中層は、礫やローム土による埋め戻しがみられる。上層は、埋め戻した土が沈んだ後に自然堆積したものと思われる。

遺物 覆土から1の瀬戸産の陶器片や内耳鍋の細片が出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から15世紀中葉から後葉の素掘りの井戸である。また、本跡は16世紀前半には埋め戻されたものと思われる。第280, 282号土坑は、階段状を呈しており、井戸に伴う

洗い場と思われる。

第3号井戸出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第121図 1	盤 陶器	A [33.2] B (5.2)	体部、口縁部片。体部、口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。	水挽き成形。腰部以下は無釉。	灰白色 (釉)オリープ灰色 普通	10% P230 瀬戸産。 覆土。

第1, 6号井戸

出土遺物等からII期に引き続き使用されていたものと思われる。

第10号井戸 (第122図)

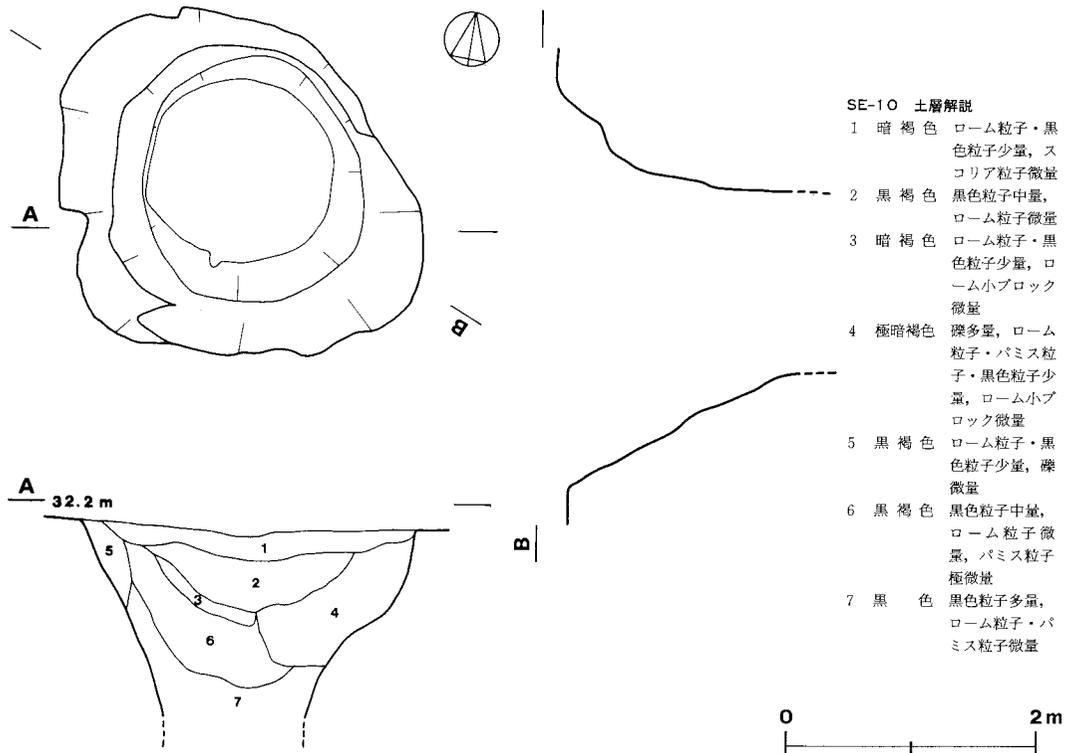
位置 館中央のD6a₉区を中心に確認されている。

規模と形状 掘り方は、上面が長径3.3m、短径2.7mの楕円形を呈し、確認面から1.4~1.9mの深さまで急傾斜を呈する。

覆土 覆土上層は、埋め戻した礫が沈んだ後に自然堆積したものと思われる。

遺物 覆土から内耳鍋の細片が少量出土している。

所見 本跡は、出土遺物や位置等から15世紀中葉のものと思われる。



第122図 第10号井戸実測図

第11号井戸（第123図）

位置 館南東端のD8h₂区を中心に確認されている。

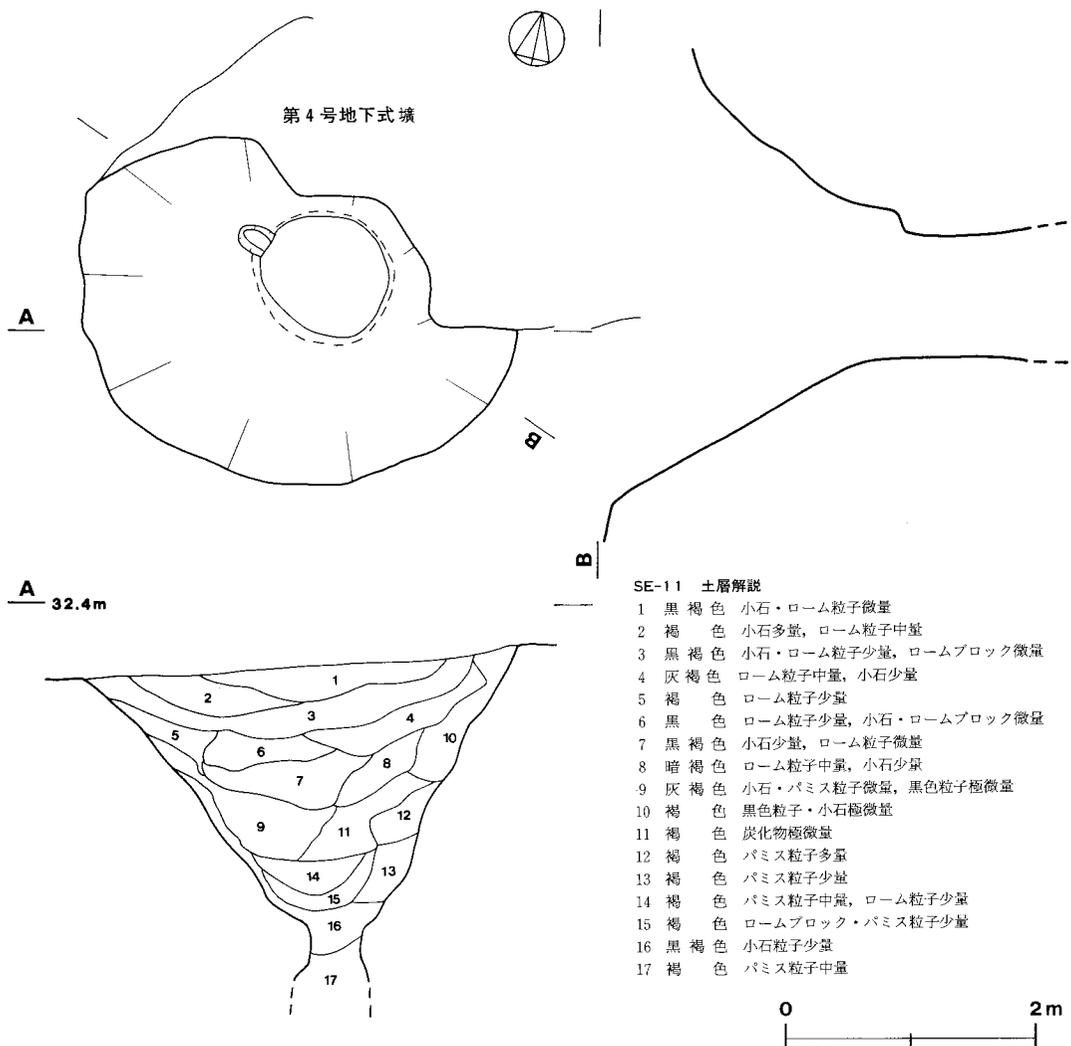
重複関係 本跡は、第4号地下式塙を掘り込んでいる。また、第673号土坑との新旧関係は、不明である。

規模と形状 掘り方は、上面が径3.6mの円形を呈し、確認面から2.0mの深さまで急傾斜を持ち、そこから下は深さ0.6m程まで円筒形を呈している。

覆土 ロームブロックや礫が含まれており、人為堆積である。

遺物 覆土から内耳鍋の細片が少量出土している。

所見 本跡は、出土遺物や位置等から15世紀中葉のものと思われる。



第123図 第11号井戸実測図

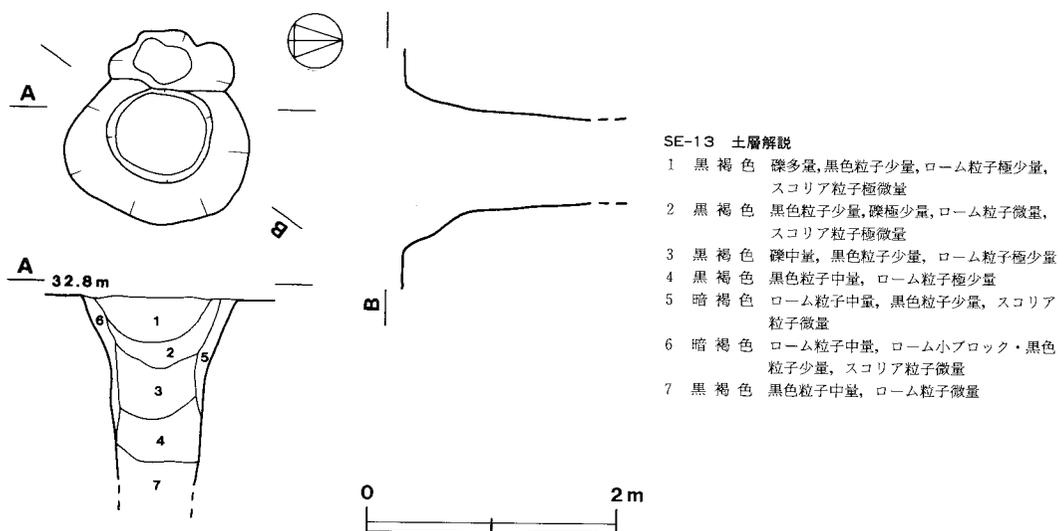
第13号井戸 (第124図)

位置 第2号堀の郭内南東部の D9c₁ 区に確認されている。

規模と形状 掘り方は、上面が径1.4mの円形を呈し、確認面から0.6mの深さまで急傾斜を持ち、そこから下は深さ1.0mまで円筒形を呈している。

覆土 礫を多量に含んでおり、人為堆積である。

所見 本跡は、位置等から15世紀中葉から16世紀前半のものと思われる。



第124図 第13号井戸実測図

第15号井戸 (第125図)

位置 第2号堀の郭内南西部の D8d₇ 区を中心に確認されている。

規模と形状 掘り方は、上面が長径2.6m, 短径2.3mの楕円形を呈し、確認面から1.5mの深さまで急傾斜を呈する。

覆土 ロームブロックを含んでおり、人為堆積である。

所見 本跡は、位置等から15世紀中葉から16世紀前半のものと思われる。

⑥地下式塋

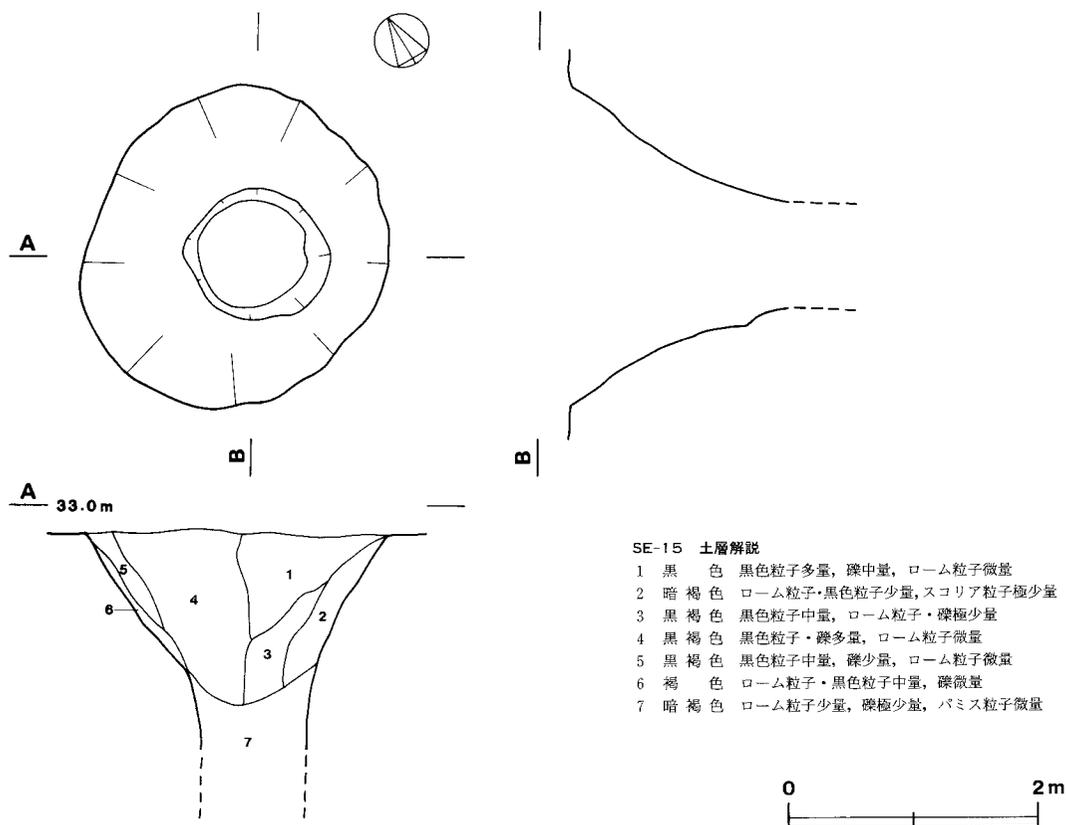
第2号地下式塋 [SK-129] (第126図)

位置 館中央から南東寄りの D8c₁ 区を中心に確認されている。

重複関係 本跡は、第129号土坑を掘り込んでいる。第3号地下式塋との新旧関係は不明である。

主軸方向 N-65°-E

竪坑 上面は、長径1.5m, 短径1.4mの半楕円形を呈し、深さは、0.8mである。底面は長径0.9



第125図 第15号井戸実測図

m，短径0.7mの楕円形を呈している。長径方向はN-71°-Eを指している。

主室 底面は，長軸1.6m，短軸1.4mの長方形を呈し，平坦である。東壁部の天井は遺存している。確認面から主室底面までの深さは，1.3mである。長軸方向はN-27°-Wを指している。

壁 竪坑は，西部から緩やかに傾斜して，主室底面に至る。主室は，ほぼ垂直に立ち上がっている。

覆土 竪坑側から人為的に土砂を投げ入れたものと思われる。

遺物 主室の覆土下層から瀬戸産の陶器の細片や内耳鍋の細片が出土している。

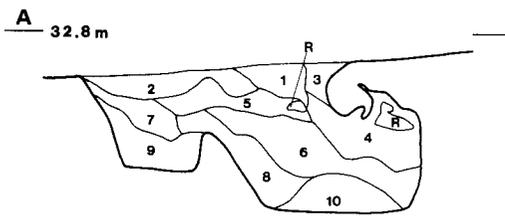
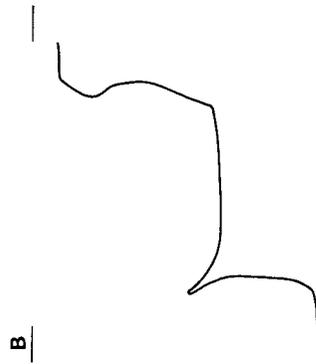
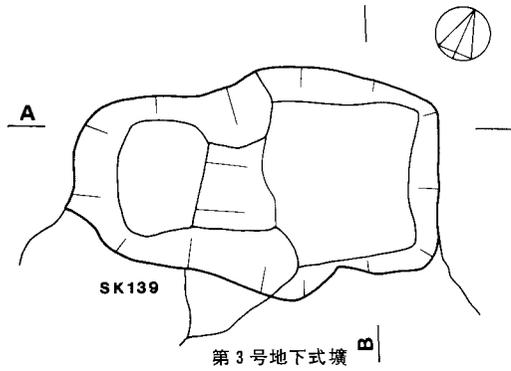
所見 本跡は，出土遺物等から15世紀のものと思われる。

第6号地下式塙 [SK-172] (第127図)

位置 館中央から南東寄りのD7b。区を中心に確認されている。

重複関係 本跡の竪坑の西部は，第590号土坑を掘り込んでいる。また，北西壁は第20号地下式塙と重複しているが，新旧関係は不明である。

主軸方向 N-25°-W



第2号地下式墳 土層解説

- | | | |
|----|-------|------------------------------|
| 1 | 黒褐色 | スコリア粒子・黒色ブロック・ロームブロック微量 |
| 2 | 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子中量, 黒色ブロック微量 |
| 4 | 褐色 | 黒色ブロック・ロームブロック少量 |
| 5 | 褐色 | 黒色ブロック少量, ロームブロック・スコリア粒子微量 |
| 6 | 褐色 | ロームブロック少量, 黒色ブロック微量 |
| 7 | 褐色 | ロームブロック・黒色ブロック微量 |
| 8 | 褐色 | ローム粒子中量, ロームブロック少量, 黒色ブロック微量 |
| 9 | 明褐色 | ロームブロック中量 |
| 10 | にぶい褐色 | ロームブロック・黒色ブロック少量, 炭化材微量 |



第126図 第2号地下式墳実測図

竪坑 上面は、長軸1.7m、短軸1.6mの台形状を呈している。階段状に掘られており、深さは1.8mである。長軸方向はN-25°-Wを指している。

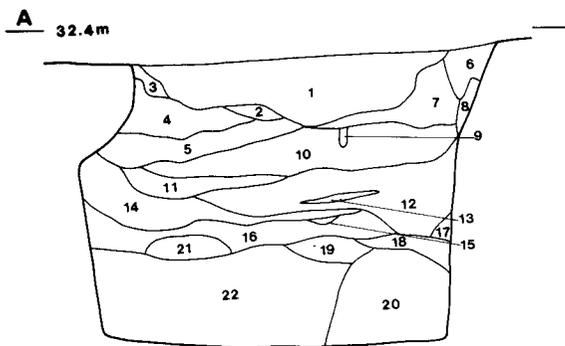
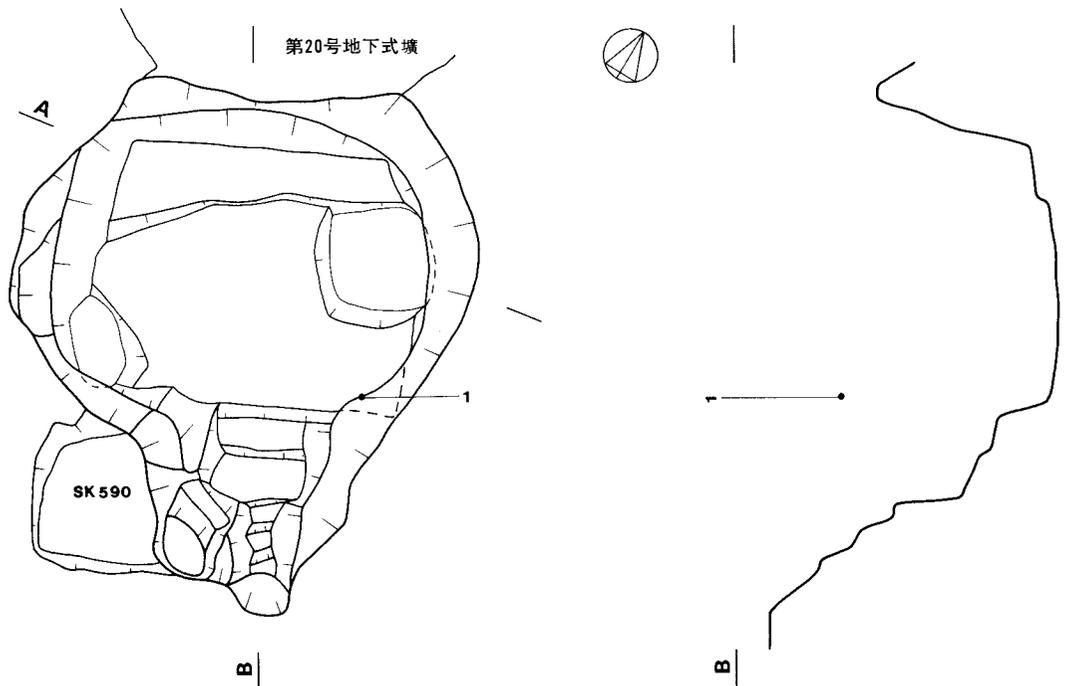
主室 底面は、長軸2.6m、短軸2.1mの長方形を呈している。北西壁に底面より10cm程高い長方形の高まり部と南コーナー部に16cm程の高まり部が検出されている。また、北東壁中央には1辺約1mで、深さ20cm程の正方形を呈する土坑状の落ち込みが検出されている。確認面から主室底面までの深さは、2.4mである。長軸方向はN-65°-Eを指している。

壁 主室はほぼ垂直に立ち上がっているが、東・西・南コーナー部の中位でオーバーハングが見られる。

覆土 ロームブロックを含む褐色土が主層をなしており、人為堆積である。

遺物 主室の覆土から1や2の内耳鍋片や3, 4の陶器片が多量に出土している。その他、混入と思われる5の灰釉陶器の長頸壺片（黒笹90号窯期）が出土している。

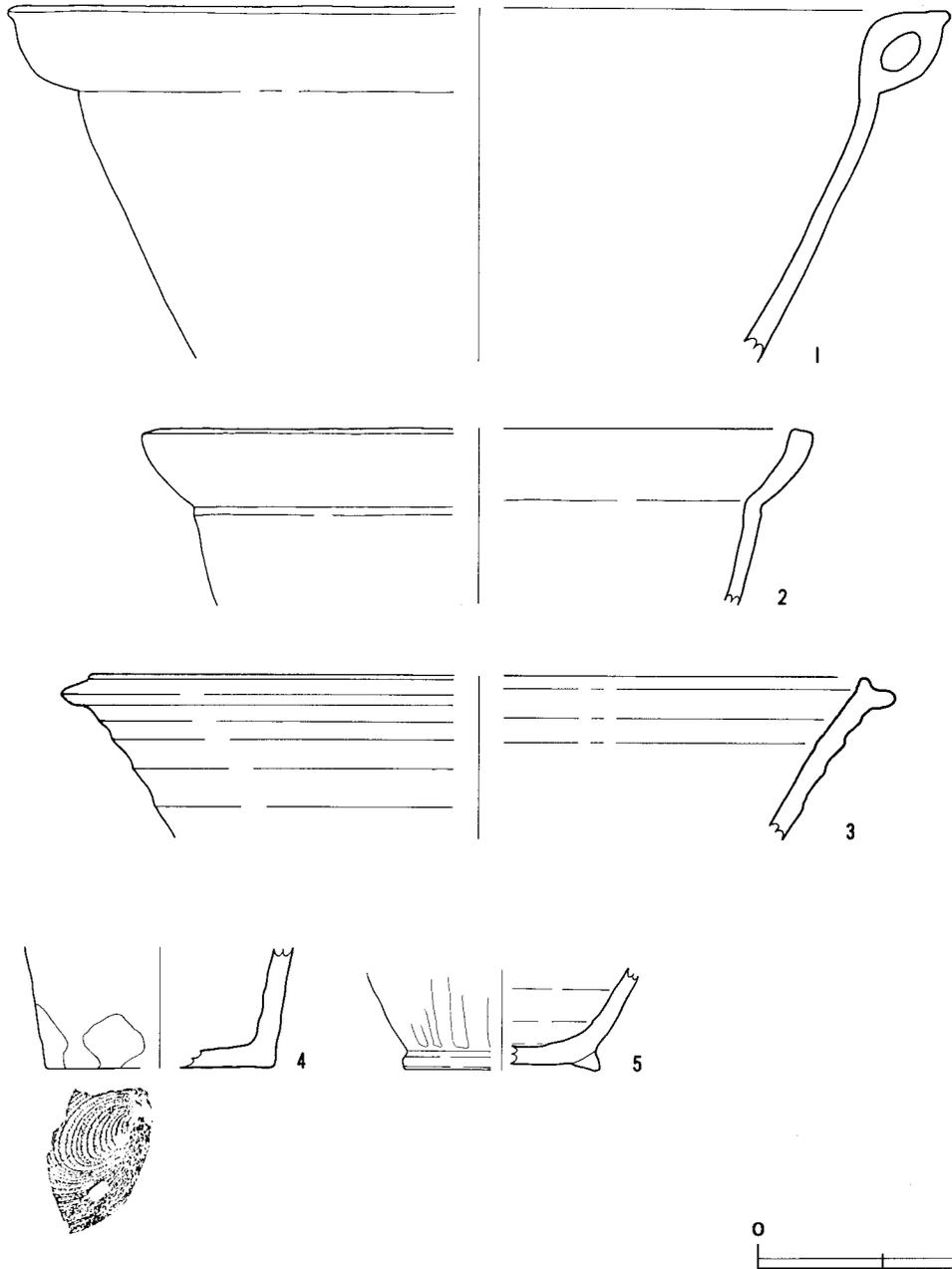
所見 本跡は、出土遺物等から15世紀中葉のものと思われる。また、本跡は従来考えられていた墓墳としての地下式墳よりも、遺物が多いことや土坑状の掘り込みがあることから地下倉庫のようなものに使われていたことも考えられる。



第6号地下式場 土層解説

- | | | | |
|--------|--|---------|---|
| 1 黒色 | 黒色粒子多量, ローム粒子少量, ローム小ブロック・スコリア粒子微量 | 11 褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子極少量, パミス粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 黒色粒子・ローム粒子少量, パミス中ブロック極少量 | 12 明褐色 | ローム粒子多量, 黒色粒子少量, パミス粒子極少量 |
| 3 暗褐色 | スコリア粒子・黒色粒子・ローム粒子少量 | 13 暗褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子少量 |
| 4 明褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 黒色粒子少量, パミス粒子微量 | 14 褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子少量, パミス粒子極微量 |
| 5 黒褐色 | 黒色粒子中量, ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量, パミス粒子微量 | 15 褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子少量, ローム中ブロック極微量 |
| 6 褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子少量, スコリア粒子微量 | 16 明褐色 | ローム粒子多量, ローム中ブロック少量, スコリア大ブロック極少量, 黒色粒子微量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子・黒色粒子少量, ローム小ブロック極少量, スコリア大ブロック微量, パミス粒子極微量 | 17 褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子少量, パミス粒子微量 |
| 8 褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子・パミス粒子微量 | 18 暗褐色 | 黒色粒子少量, パミス粒子極少量, ローム粒子・スコリア粒子微量 |
| 9 黒褐色 | ローム粒子・黒色粒子中量 | 19 黒褐色 | 黒色粒子・スコリア粒子少量, ローム粒子微量 |
| 10 明褐色 | ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, パミス中ブロック少量, パミス粒子極微量 | 20 極暗褐色 | ローム粒子・黒色粒子・スコリア粒子微量 |
| | | 21 明褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック中量, パミス小ブロック少量 |
| | | 22 黒褐色 | ローム粒子微量, ローム小ブロック・パミス粒子極微量 |

第127図 第6号地下式場実測図



第128図 第6号地下式墳出土遺物実測図

第6号地下式墳出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第128図 1	内耳鍋 土師質土器	A [37.6] B (14.4)	体部, 口縁部片。体部は内彎ぎみに外上方に立ち上がる。口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。	雲母 橙色 普通	15% P169 南東コーナー付 近覆土。

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第128図 2	内耳鍋 土師質土器	A [25.6] B (7.2)	体部, 口縁部片。体部と口縁部の境に1条の幅広い沈線が巡る。口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面横ナデ。	石英 におい橙色 普通	5% P170 ススが付着。 覆土。
3	鉢 陶器	A [33.6] B (6.6)	口縁部片。口縁部は強く外反し, 内面に明瞭な凸帯が巡る。	水挽き成形。	小石・長石 暗灰黄色 普通	5% P171 常滑産。 覆土。
4	瓶子 陶器	B (4.9) C [9.2]	底部, 胴部片。平底。胴部は直線的にやや外傾する。	底部と胴部は別々に作り, 接合している。水挽きロクロ成形。胴部下位に釉流れが見られる。	灰白色 (釉)浅黄色 普通	5% P172 瀬戸産。 覆土。
5	長頸壺 陶器	B (4.2) C [7.8]	底部, 胴部片。高台は低く, 斜下方につまみ出されている。胴部は内彎しながら外上方に立ち上がる。	底部回転系切り。胴部内・外面横ナデ。	砂粒 灰白色 良好	10% P173 黒笹90号窯期。 覆土。

第12号地下式墳 [SK-273] (第129図)

位置 館北東部のC7d₇区を中心に確認されている。

重複関係 本跡の竪坑は, 第1号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

主軸方向 N-8°-W

竪坑 上面は, 長軸1.2m, 短軸1.0mの長方形を呈し, 深さは, 2.0mである。底面は一辺0.9mの方形を呈している。長軸方向はN-8°-Wを指している。

主室 底面は, 長軸3.9m, 短軸2.8mの隅丸長方形を呈し, 東西面は平坦であるが, 南北面は緩やかに傾斜している。確認面から主室底面までの深さは, 2.6mである。長軸方向はN-76°-Eを指している。

壁 竪坑は, 垂直に立ち上がっている。主室は, 胴張りを呈している。

覆土 覆土最下層は, 天井部の崩落土と思われる。その上には, 不自然な堆積土が見られ, 人為堆積である。

遺物 主室の覆土から1の砥石や土師質土器の細片が出土している。その他, 混入と思われる須恵器の坏片が出土している。

所見 本跡は, 出土遺物等から15世紀中葉のものと思われる。

第12号地下式墳出土遺物観察表

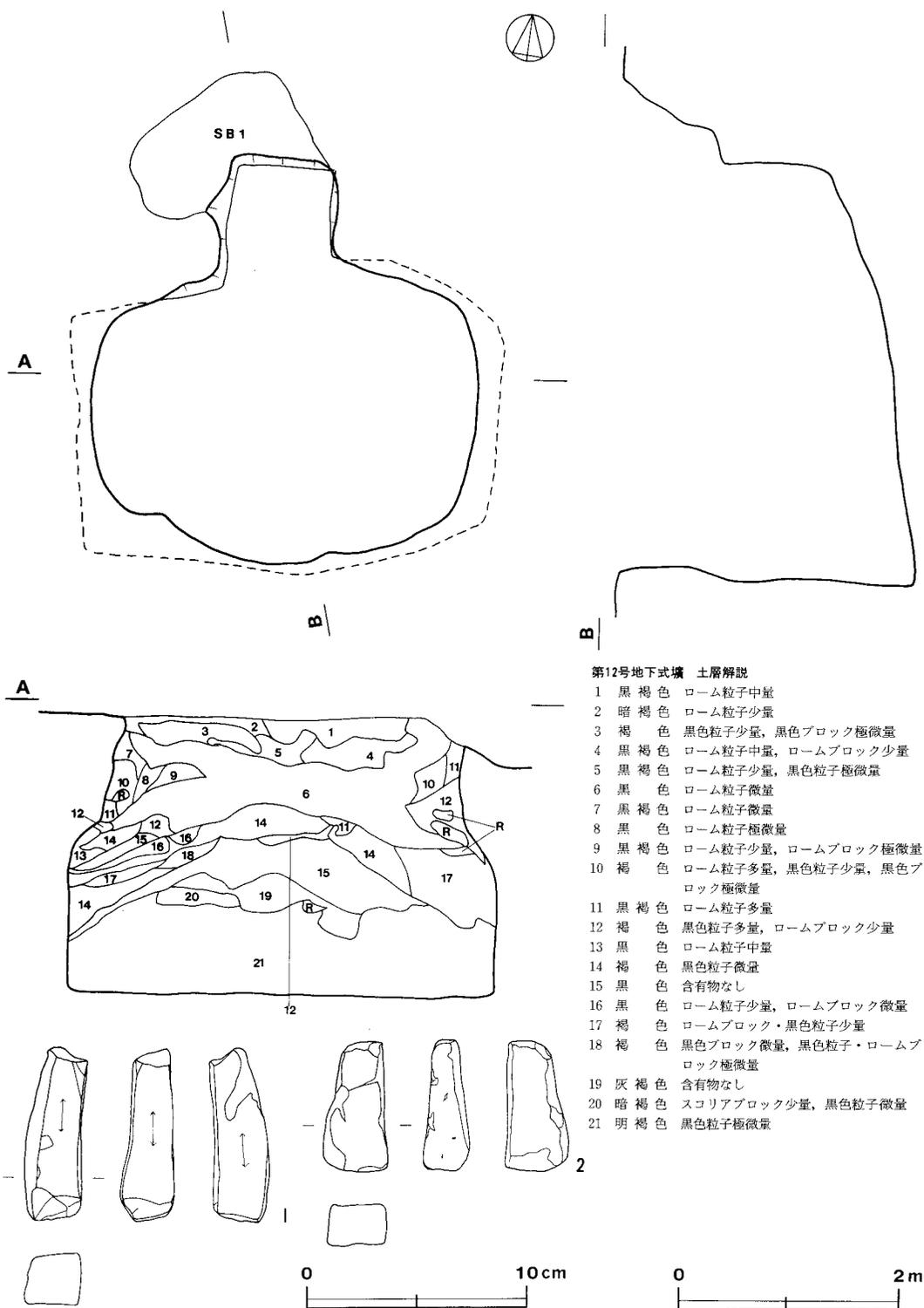
図版番号	器種	石質	法量				出土地点	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第129図 1	砥石	頁岩	8.0	2.8	2.4	70.4	覆土	Q11
2	砥石	頁岩	6.0	2.9	2.1	43.8	覆土	Q10

第13号地下式墳 [SK-3, 77] (第130図)

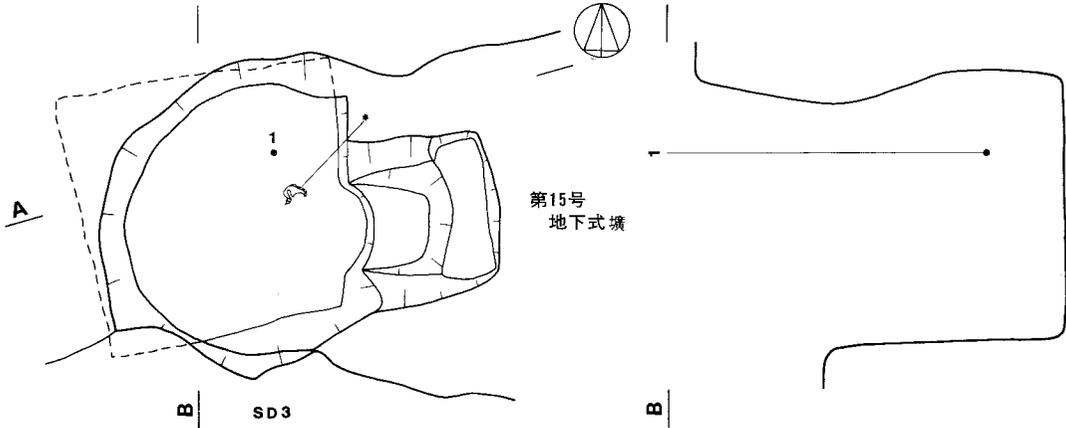
位置 館南端中央部のE6c₀区を中心に確認されている。

重複関係 本跡の竪坑は, 第15号地下式墳に掘り込まれている。また, 南壁は第3号堀と重複し

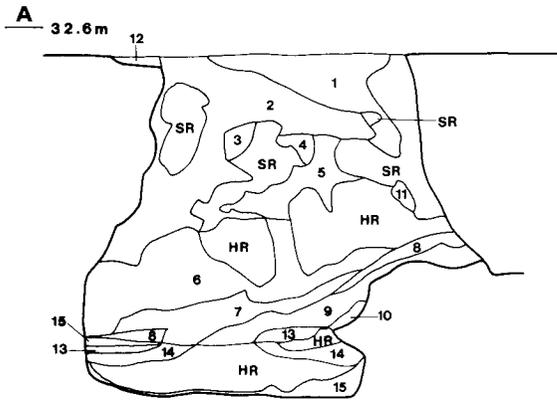
ているが、新旧関係は不明である。



第129図 第12号地下式墳・出土遺物実測図

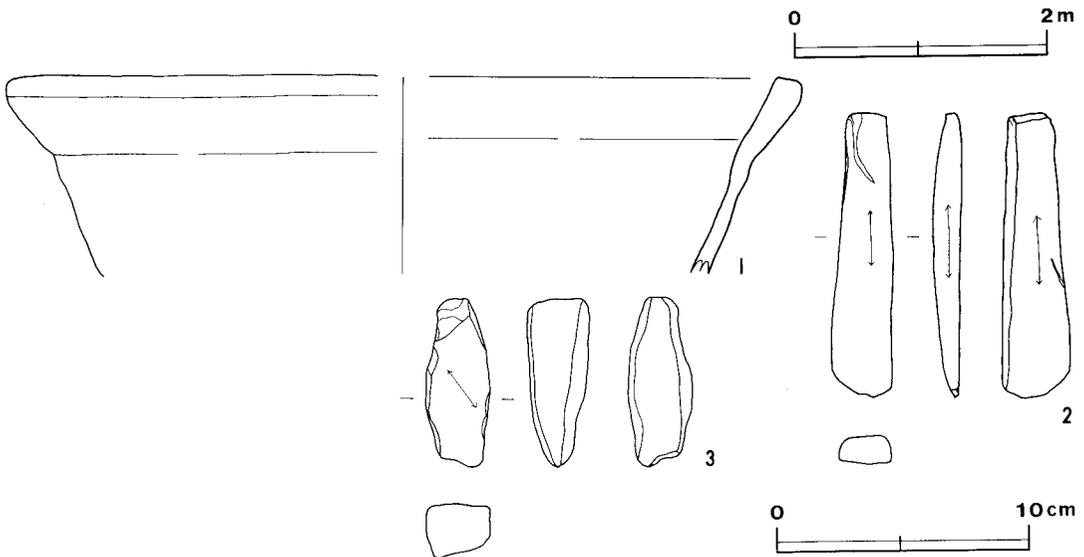


第15号
地下式墳



第13号地下式墳 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, ローム大ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム漸移層のブロック
- 4 黒褐色 ローム粒子・ローム中ブロック多量
- 5 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム大ブロック微量
- 6 褐色 ハードローム大ブロック多量, 黒色粒子・黒色土小ブロック少量
- 7 褐色 ハードロームブロック層, パミス粒子少量
- 8 黄橙色 鹿沼パミス層
- 9 黒色 ローム粒子少量, ローム小・中・大ブロック微量
- 10 黄橙色 鹿沼パミスブロック
- 11 褐色 ハードローム中ブロック中量, 黒色粒子少量
- 12 暗褐色 ローム漸移層
- 13 にぶい褐色 鹿沼パミス粒子多量
- 14 にぶい褐色 黒色ブロック・パミスブロック・黒色粒子少量
- 15 褐色 ロームブロック・スコリア粒子少量



第130図 第13号地下式墳・出土遺物実測図

主軸方向 N-88°-E

竪坑 上面は、長軸1.4m、短軸1.1mの長方形を呈し、深さは、2.8mである。長軸方向はN-7°-Wを指している。

主室 底面の平面形は一辺が2.2mの方形を呈し、平坦である。確認面から主室底面までの深さは、3.0mである。長軸方向はN-88°-Eを指している。

壁 竪坑は、東部から主室底面に向かって階段状に掘られている。主室は、胴張りを呈している。

覆土 多量のロームブロックが不自然に堆積しており、人為堆積である。

遺物 主室の底面から1の内耳鍋片や砥石、人の頭蓋骨が出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から15世紀中葉のものと思われる。

第13号地下式墳出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第130図 1	内耳鍋 土師質土器	A [31.6] B (8.0)	体部、口縁部片。体部は直線的に外傾し、口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。	口縁部、体部内・外面横ナズ。	砂粒 暗灰褐色 普通	5% P187 ススが付着。 北部覆土。

図版番号	器種	石質	法量				出土地点	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
2	砥石	凝灰岩	11.5	2.5	1.1	38.4	覆土	Q12
3	砥石	凝灰質泥岩	6.8	2.6	2.5	46.3	覆土	Q13

第21号地下式墳 [SK-533] (第131図)

位置 館南西部のD6h_s区を中心に確認されている。

主軸方向 N-0°

竪坑 上面は、長径2.3m、短径1.3mの半楕円形を呈し、深さは、1.3mである。底面は長径1.4m、短径0.9mの半楕円形を呈している。長径方向はN-90°-Eを指している。

主室 底面は、長軸2.4m、短軸1.8mの隅丸長方形を呈し、平坦である。確認面から主室底面までの深さは、1.8mである。長軸方向はN-90°-Eを指している。

壁 竪坑は、南部から主室底面に向かって階段状を呈している。主室は、ほぼ垂直に立ち上がっている。

覆土 竪坑側から流入している自然堆積と思われる。1～5層は人為堆積。

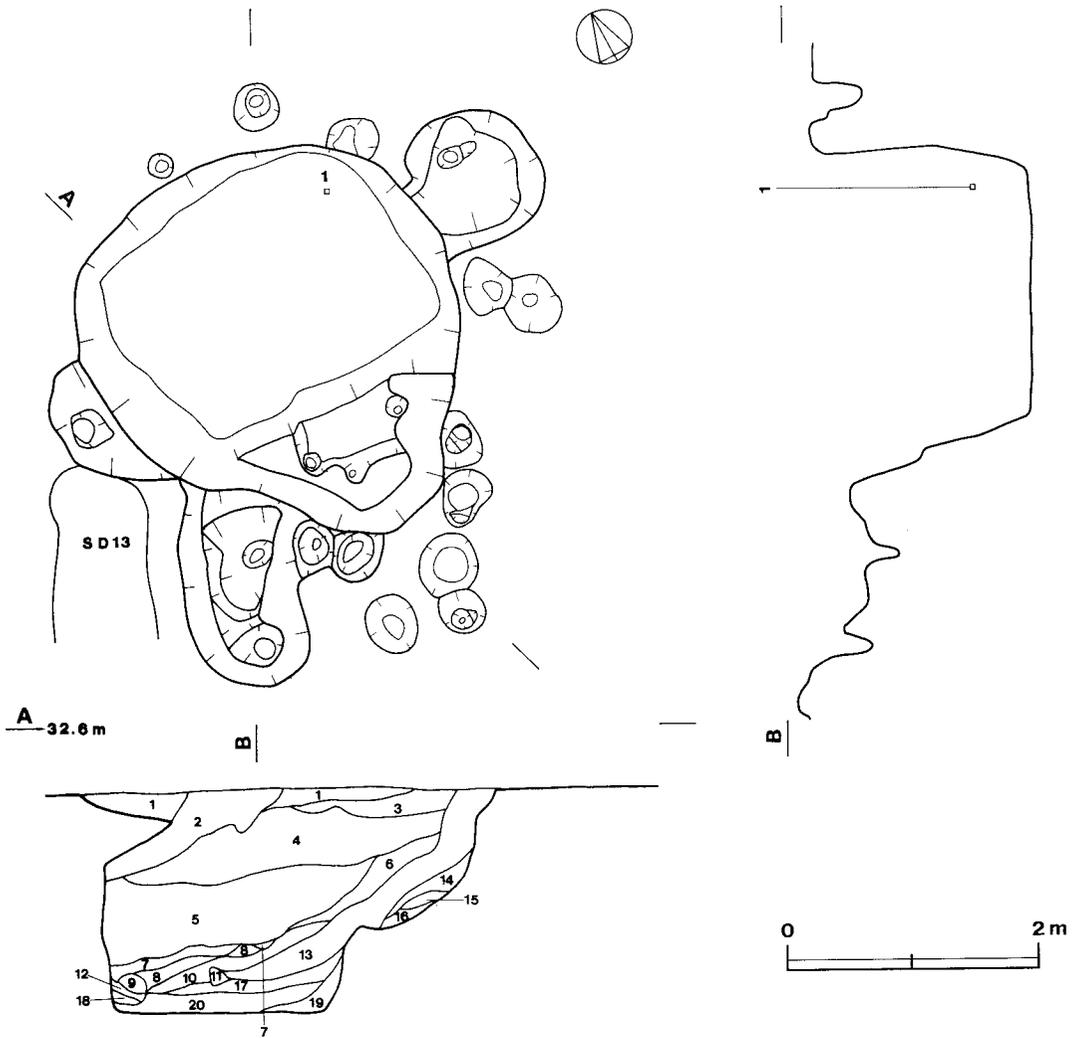
遺物 主室の覆土から内耳鍋の細片が少量出土している。また、底面から1の不明鉄製品が出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から15世紀中葉のものと思われる。遺構の周辺で検出されたピットは、

第21号地下式墳出土遺物観察表

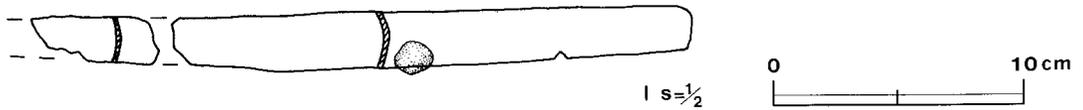
図版番号	器種	法量				特徴	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第131図1	不明	(17.5)	1.3	0.2	(12.0)		底面	鉄製 M45

屋根のようなものを建てた可能性も考えられる。



第21号地下式墳 土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------------|---------|-----------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・黒色粒子少量 | 11 明赤褐色 | パミス粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・ロームブロック少量 | 12 褐色 | 黒色粒子・パミス粒子少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量, 黒色粒子少量 | 13 黒色 | ロームブロック極微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子中量, 鹿沼パミスブロック・パミス粒子少量, 黒色粒子微量 | 14 黒褐色 | ローム粒子少量, 黒色粒子微量, ロームブロック極微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量, パミスブロック・パミス粒子少量, 黒色粒子微量 | 15 明褐色 | ハードローム |
| 6 褐色 | ロームブロック・パミス粒子少量, 黒色ブロック極微量 | 16 黒色 | ローム粒子微量 |
| 7 黒色 | ロームブロック・ローム粒子少量 | 17 暗赤褐色 | ローム粒子少量 |
| 8 褐色 | ロームブロック・黒色粒子微量 | 18 明褐色 | パミス粒子多量 |
| 9 灰褐色 | 含有物なし | 19 褐色 | ローム粒子多量, 黒色粒子中量 |
| 10 褐色 | 黒色粒子微量, 黒色ブロック極微量 | 20 褐色 | ハードロームブロック中量, 黒色粒子極微量 |



第131図 第21号地下式墳・出土遺物実測図

第24号地下式墳 [SK-589] (第132図)

位置 館中央部南東寄りのD7c₉区を中心に確認されている。

主軸方向 N-34°-W

竪坑 上面は、長径1.4m、短径1.2mの半楕円形を呈している。深さは、1.1mである。長径方向はN-56°-Eを指している。

主室 底面は、径1.3mの円形を呈し、平坦である。確認面から主室底面までの深さは、2.1mである。長径方向はN-56°-Eを指している。

壁 竪坑は、南東部から主室底面に向かって階段状に掘られている。主室は、北東壁がオーバーハングを呈しているが、他の壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 ロームブロックを含んでおり、人為堆積である。

遺物 主室の覆土から1の土師質土器片をはじめ、2の瀬戸産の陶器片や内耳鍋の細片や礫が出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から15世紀のものと思われる。

第24号地下式墳出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第132図 1	皿 土師質土器	B (2.3) C 4.5	底部片。平底。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒に ぶい 橙色 普通	15% 覆土。 P216
2	瓶子 陶器	B (5.7) C [9.6]	胴部片。胴部は直線的に外傾する。	輪積ロクロ成形。胴部下位は無釉。	灰白色 (釉)オリブ黄色 普通	10% 瀬戸産。 覆土。 P217

⑦小竪穴状遺構

ここでは、形状が特徴的で、遺存状態の良い第4・9・24号小竪穴状遺構を文章で記述し、第10・18号小竪穴状遺構については、一覧表に記載する。

第4号小竪穴状遺構 [SK-222] (第133図)

位置 館中央のC7h₂区を中心に確認されている。

規模と平面形 長軸3.7m、短軸1.8mの隅丸長方形を呈している。

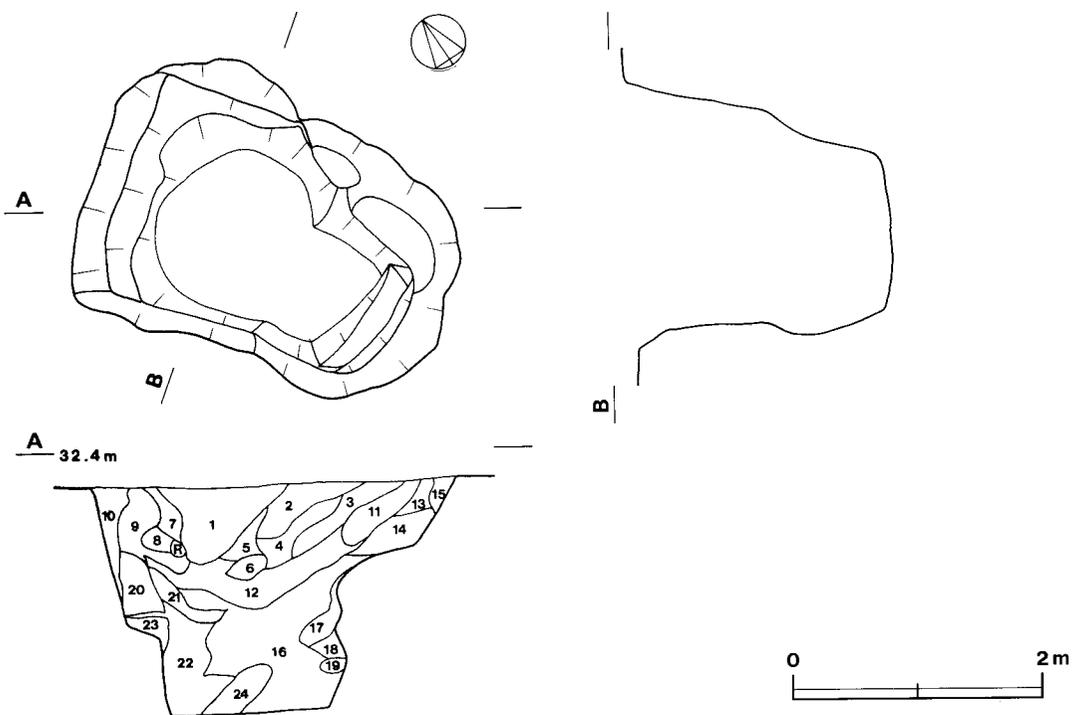
主軸方向 N-6°-W

出入口部 西壁の中央から北西コーナー寄りの壁外に張り出している。平面形は半楕円形を呈しており、規模は長径0.9m、短径0.3mで、深さはほぼ垂直に約50cm掘り込まれている。

壁 壁高は70cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

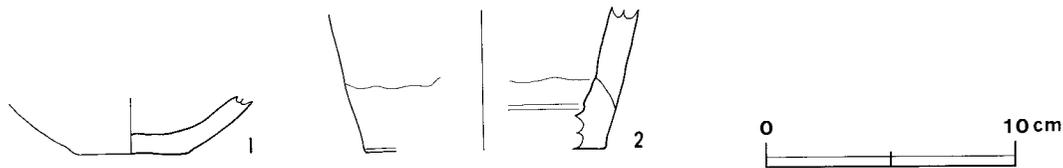
床 わずかに凹凸が見られる。

覆土 自然堆積。



第24号地下式墳 土層解説

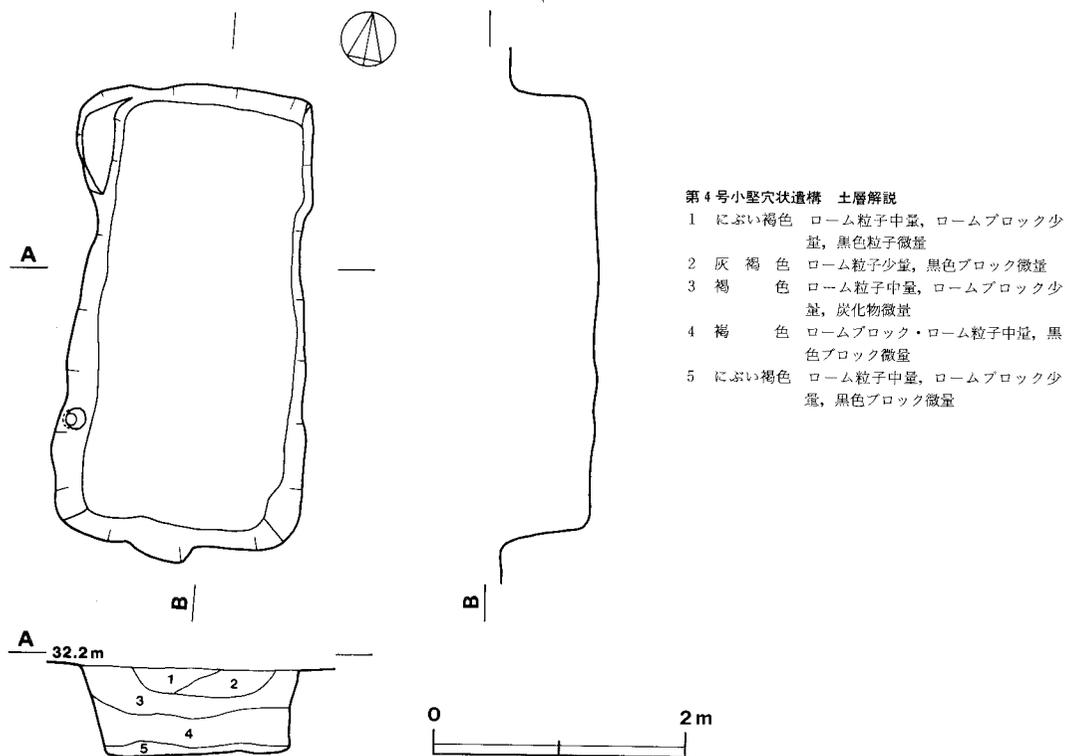
- | | | | |
|--------|-------------------------------------|--------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, スコリア粒子微量 | 13 褐色 | ローム粒子少量, スコリア粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・礫少量 | 14 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量, 礫微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量, スコリア粒子少量, 礫微量 | 15 明褐色 | ハードローム状 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量, スコリア小ブロック・スコリア粒子微量 | 16 黒褐色 | ローム中ブロック・スコリア粒子・黒色粒子・礫少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | 17 橙褐色 | パミス粒子多量, 黒色粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム大ブロック中量, ローム粒子・スコリア粒子少量 | 18 明褐色 | ソフトローム状 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子・スコリア粒子少量, スコリア小ブロック極微量 | 19 褐色 | ソフトローム中量, パミス粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子少量, スコリア粒子極微量 | 20 明褐色 | ローム粒子・ローム大ブロック中量 |
| 9 褐色 | ローム粒子中量, スコリア粒子少量, 礫微量 | 21 暗褐色 | ローム小ブロック・スコリア粒子・黒色粒子少量 |
| 10 明褐色 | ハードローム状 | 22 褐色 | ソフトローム中量, スコリア粒子・黒色粒子・礫少量 |
| 11 褐色 | ローム粒子微量 | 23 明褐色 | ハードローム |
| 12 黒褐色 | 黒色粒子中量, ローム粒子微量, ローム小ブロック・スコリア粒子極微量 | 24 暗褐色 | 礫中量, スコリア粒子少量 |



第132図 第24号地下式墳出土遺物実測図

遺物 覆土から内耳鍋の細片や土師質土器の細片が出土している。

所見 本跡は, 出土遺物や遺構の形態等から中世のものと思われる。



第133図 第4号小竪穴状遺構実測図

第9号小竪穴状遺構 [SK-301] (第134図)

位置 館中央のD6b₇区を中心に確認されている。

重複関係 本跡の東壁の一部は、第1号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸2.7m, 短軸2.2mの隅丸長方形を呈している。

主軸方向 N-7°-E

出入口部 北壁の中央部の壁外に張り出している。平面形は半楕円形を呈し、床面に向かって、緩やかに傾斜している。規模は長径0.6m, 短径0.3mである。

壁 壁高は100cmで、外傾して立ち上がっている。

床 わずかに皿状を呈している。

ピット 4か所 (P₁~P₄) 検出されている。P₁, P₃は径30cmの円形を呈し、深さ約40cmである。P₂, P₄は径18~25cmの円形を呈し、深さ約15cmである。

覆土 自然堆積。

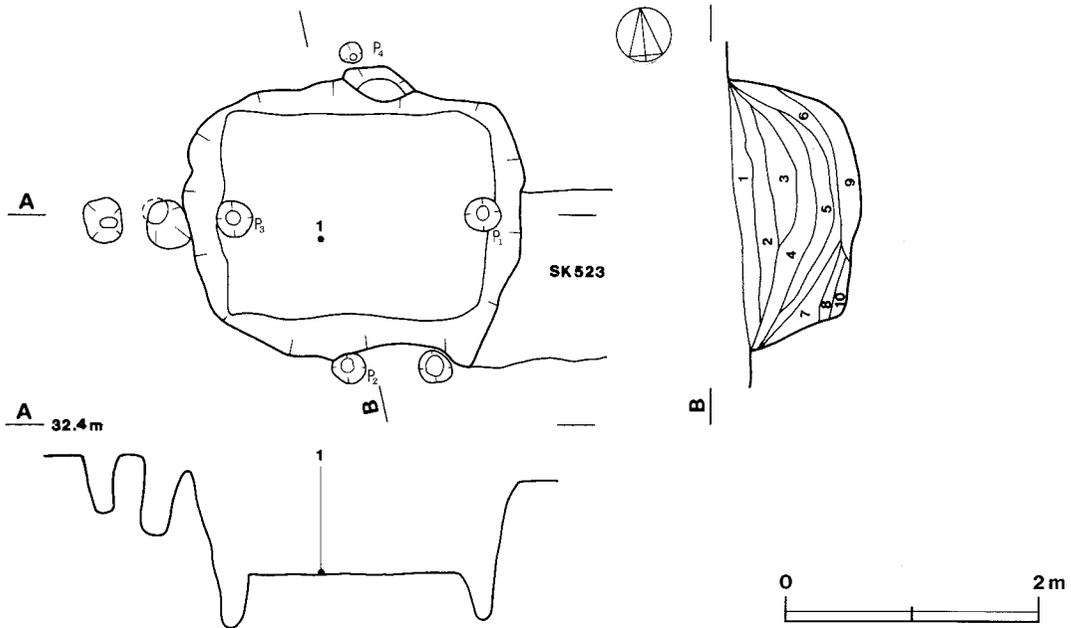
遺物 床面直上から1の土師質土器をはじめ、内耳鍋の細片が出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から15世紀のものと思われる。また、ピットは、本跡の上に屋根状の

上屋を建てるためのものと思われる、土倉的性格の遺構と考えられる。

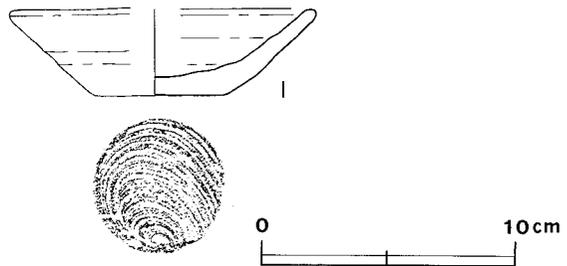
第9号小竪穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第134図 1	皿 土師質土器	A [12.4] B 3.5 C 5.4	口縁部一部欠損。器内は全体的に厚い。	水挽き成形。底部回転系切り。	スコリア・雲母 におい橙色 普通	80% P186 中央部床面。



第9号小竪穴状遺構 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 黒色粒子極微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極微量
- 4 褐色 ローム粒子少量, 黒色粒子極微量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子微量,
ロームブロック・黒色ブロック極微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子極少量, 炭化粒子極微量
- 8 褐色 ローム粒子多量, 黒色粒子極微量
- 9 黒色 ローム粒子少量, ロームブロック微量
- 10 褐色 黒色粒子少量, 黒色ブロック微量



第134図 第9号小竪穴状遺構・出土遺物実測図

第24号小竪穴状遺構 [SK-577] (第135図)

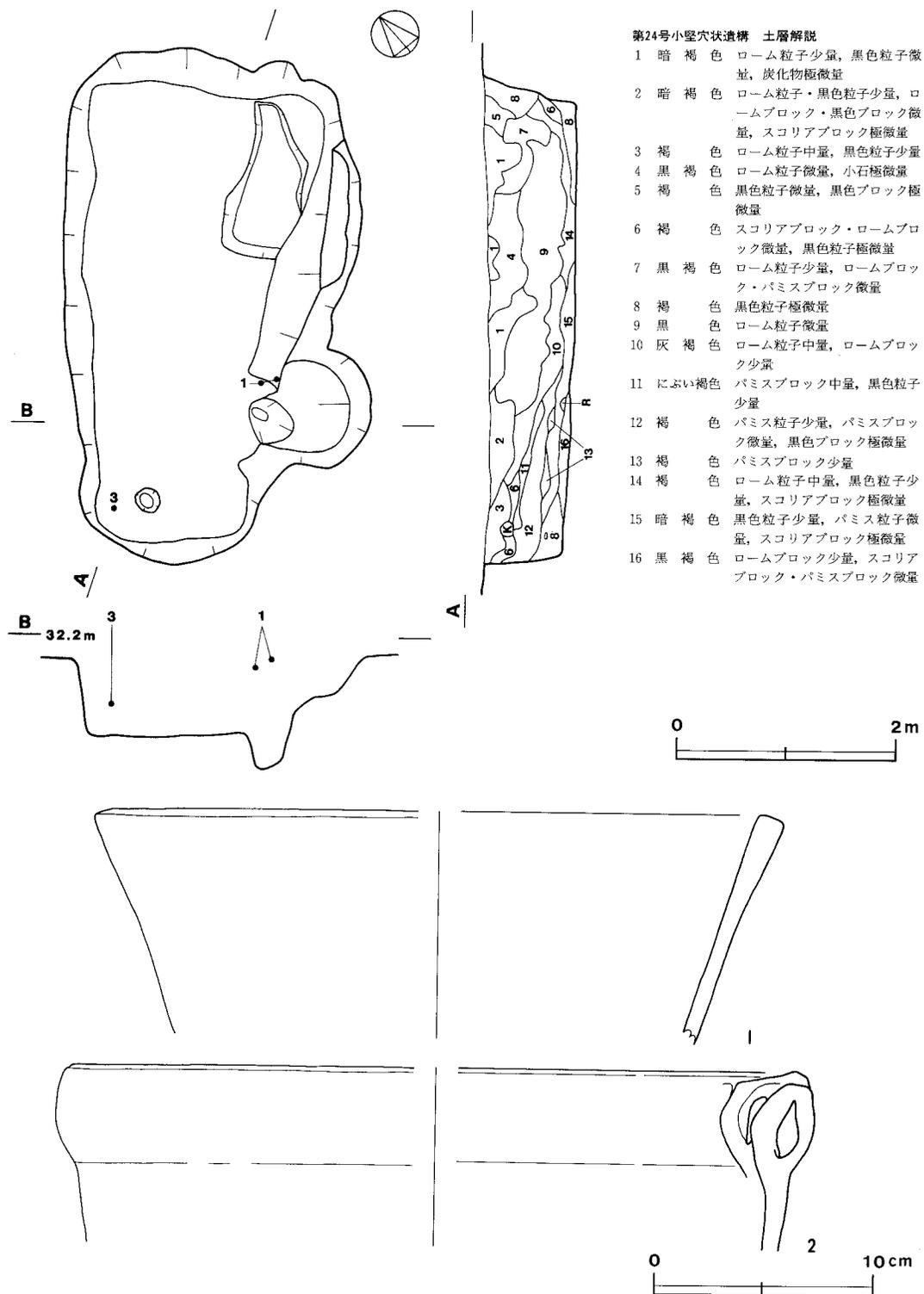
位置 館南東部のD7C8区を中心に確認されている。

規模と平面形 長軸4.9m, 短軸2.5mの隅丸長方形を呈している。

主軸方向 N-41°-W

出入口部 南東壁の中央から南コーナー寄りの壁外に張り出している。平面形は半円形を呈して

おり、床面に向かって緩やかに傾斜している。規模は径1.1mである。



第135図 第24号小壁穴状遺構・出土遺物実測図(1)

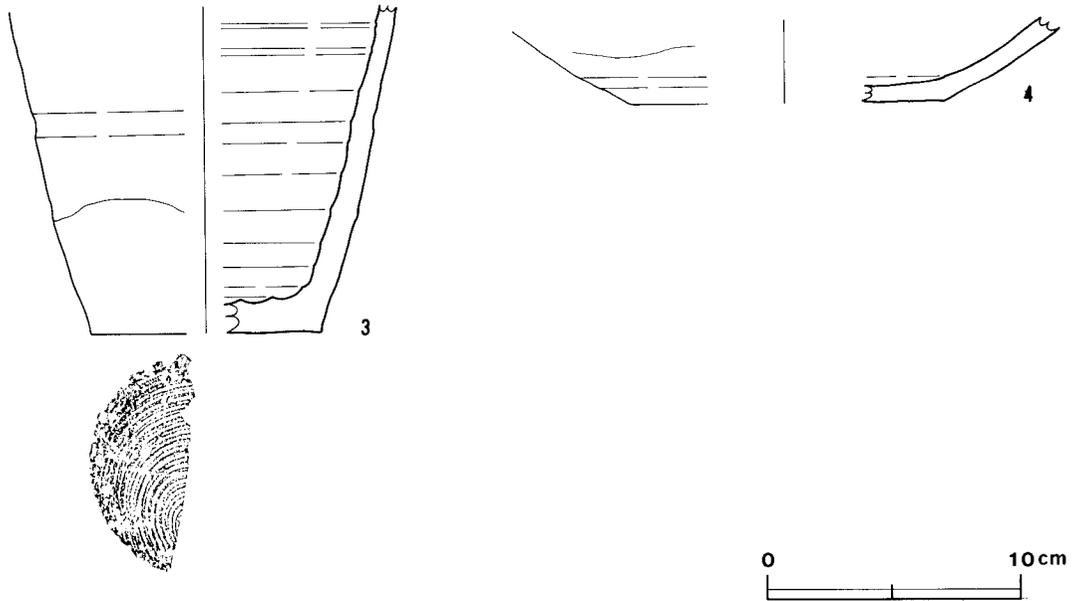
壁 壁高は80cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦。

覆土 ブロック状の堆積をしており、人為堆積である。

遺物 南東壁近くの覆土から1や2の内耳鍋片が出土している。また、西コーナーの床面からは3の瀬戸産の陶器片が出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から15世紀中葉から16世紀前半のものと思われる。



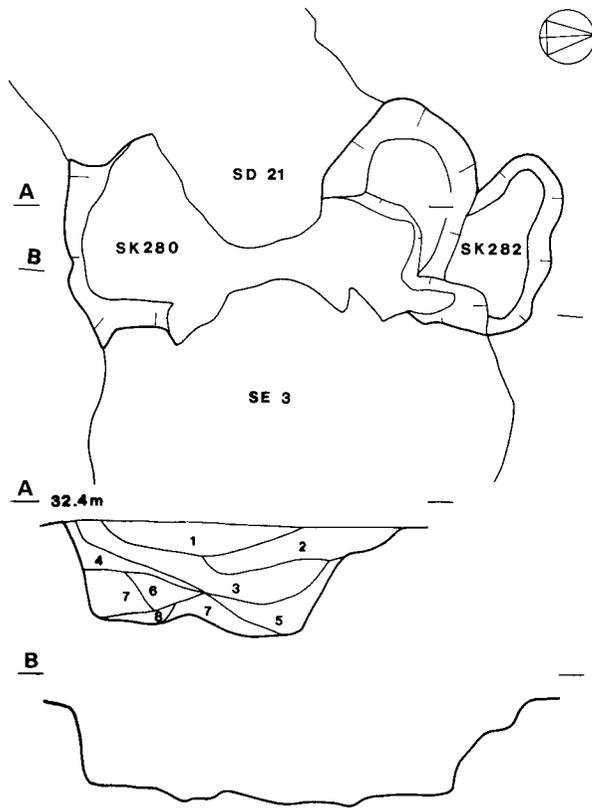
第136図 第24号小竪穴状遺構出土遺物実測図(2)

第24号小竪穴状遺構出土遺物観察表

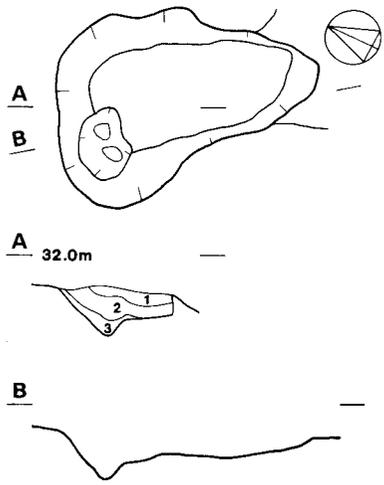
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第135図 1	内耳鍋 土師質土器	A [32.0] B (10.1)	体部、口縁部片。体部、口縁部は直線的に外傾する。	口縁部、体部内・外面横ナデ。	砂粒 黒褐色 良好	10% P209 ススが付着。 出入口部床面。
2	内耳鍋 土師質土器	A [34.4] B (8.4)	口縁部片。口縁部は内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 にふい橙色 普通	5% P210 ススが付着。 覆土。
第136図 3	瓶子 陶器	B (13.2) C [9.4]	底部、胴部片。底部は平底。胴部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転系切り。底部と胴部下位は無釉。	灰白色 (釉)淡黄色 普通	20% P211 瀬戸産。 西コーナー床面。
4	盤 陶器	B (3.4) C [12.6]	底部、体部片。平底。体部はやや内彎して外上方に立ち上がる。	水挽き成形後底部ヘラ削り調整。灰釉は底部外面と腰の部分を残して施されている。	灰白色 (釉)灰オリーブ色 普通	5% P212 瀬戸産。 覆土。

⑧土坑

第280・282・501・508号土坑は、本期に構築されたものと考えられるが、紙面の関係で一覽表に記載する。



SK 280・282



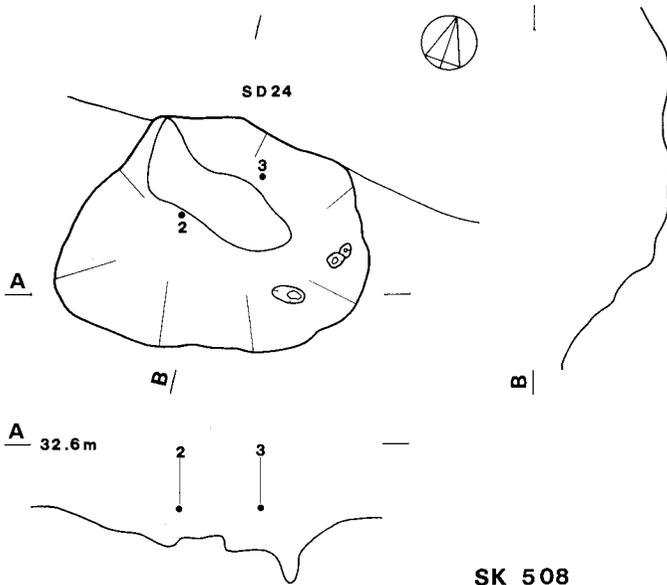
SK 501

SK-501 土層解説

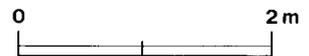
- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 黒色粒子少量

SK-280・282土層解説

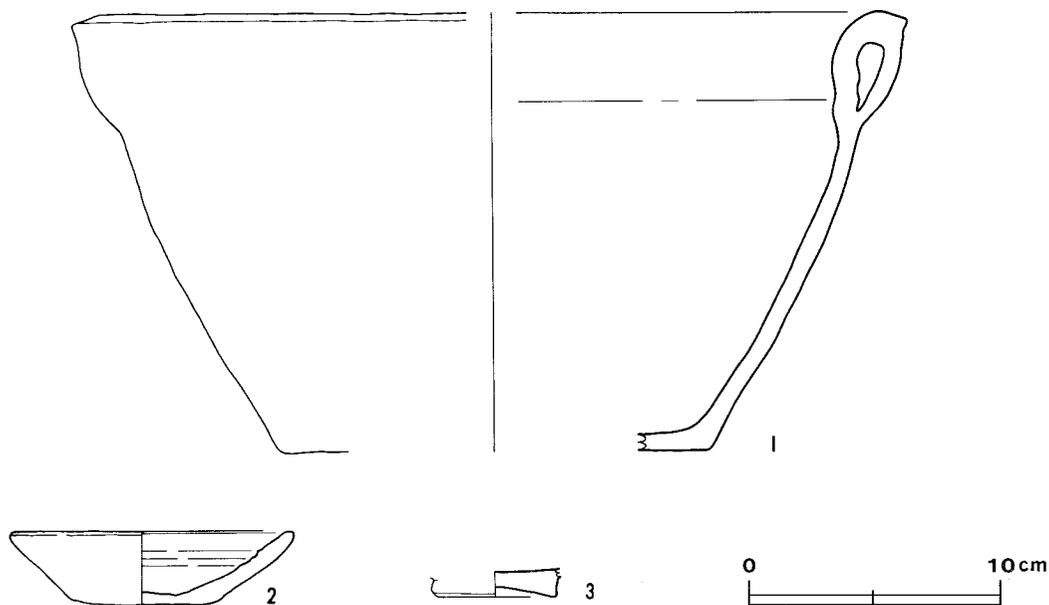
- 1 灰褐色 ローム粒子少量, 小石極微量
- 2 褐色 小石少量, ローム粒子微量, 礫極微量
- 3 暗褐色 小石・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 小石中量, ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 小石微量
- 6 褐色 ローム粒子少量, 小石極微量
- 7 にぶい褐色 黒色粒子極微量
- 8 灰褐色 ローム粒子極微量



SK 508



第137図 土坑実測図



第138図 土坑出土遺物実測図

第282号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第138図 1	内耳鍋 土師質土器	A [33.4] B (17.8) C [17.4]	体部、口縁部片。体部は内彎ぎみに外傾し、口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。	口縁部、体部内・外面横ナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	20% P184 ススが付着。 覆土。

第508号土坑出土遺物観察表

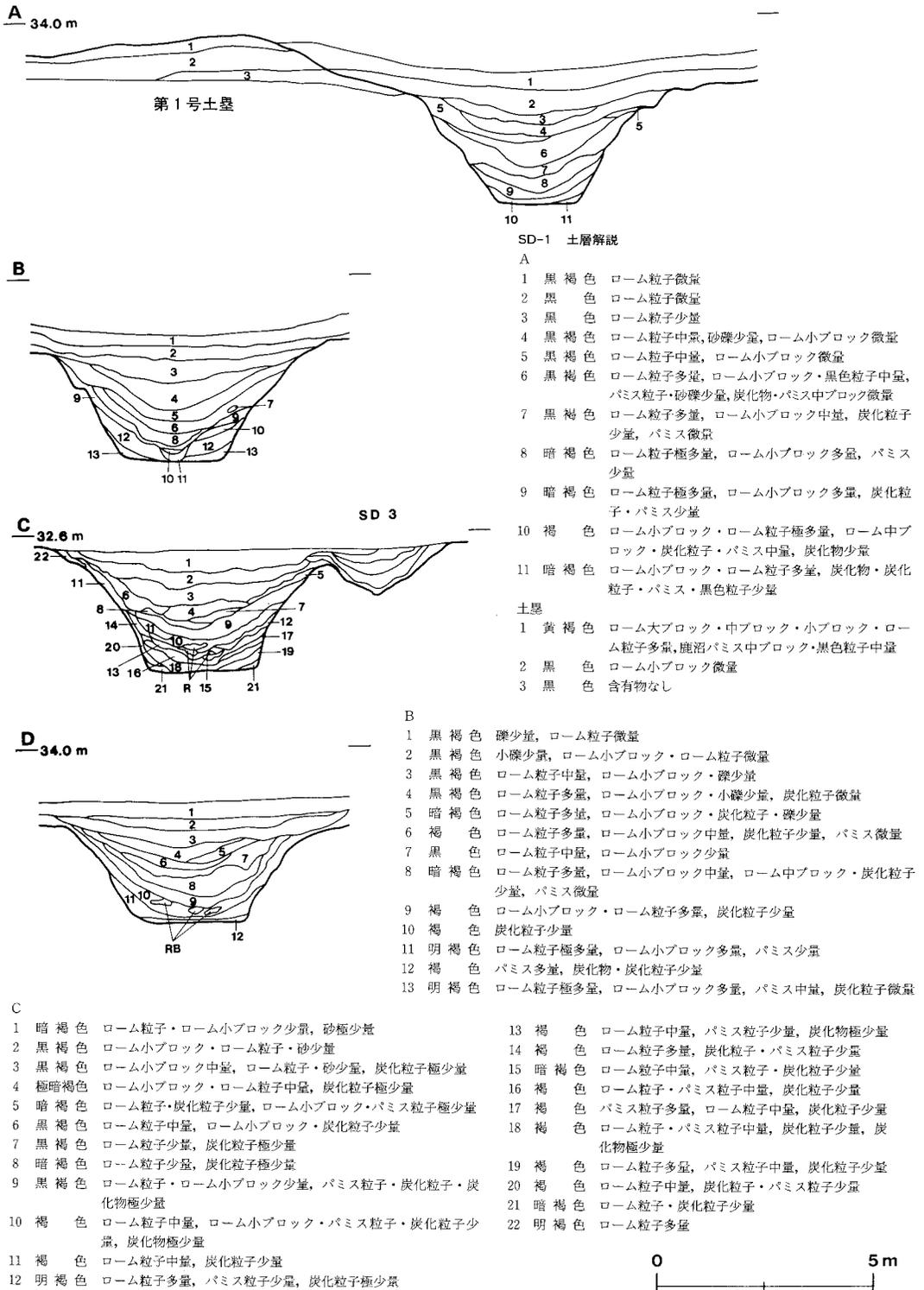
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
2	皿 土師質土器	A 11.4 B 3.0 C 5.7	口縁部一部欠損。平底。体部、口縁部は直線的に外形して立ち上がる。立ち上がる。	水挽き成形。底部切り離し後ナデ調整。	砂粒 灰白色 普通	60% P200 二次焼成痕。 覆土。
3	天目茶碗 陶器	B (1.2) C 4.8	底部片。底部はは露胎のままである。	削り出し高台。	にぶい橙色 (釉)黒色 普通	10% P201 瀬戸産。 覆土。

(4) IV期の遺構と遺物

本期は、一辺165mの大形の堀が「口」形状に、III期の館跡外を囲んでいる複郭館跡である。郭内は複雑で、三重の堀によって区画されているが、さらに、郭内北部の主郭には2条の堀を設けている。その付近からは、礎石が1個出土しており、館主の居宅があったものと思われる。出入口は、第1号堀の南や西側の堀の中央部に所在している。また、郭内中央を中心に多くの地下式墳や墓壇、土坑等が検出されている。

①堀

第1号堀 (付図2, 第139図)



第139図 第1号堀断面図

位置 館の東・西・南・北側を囲む堀で、A9・B5～9・C5・C9・D5・D9・E5・E6・E9・F5・F6・F8・F9区で確認されている。

規模と形状 一辺の長さは165mで、方形に構築されている。上幅5.0～7.0m、下幅2.0m程、深さ2.6～3.0mで、断面形は「**┌**」状を呈している。郭内側の壁は、55°～65°の急な角度で立ち上がっているのに対し、郭外側の壁は底面から中位まで60°で、中位から上位に向かって30°で緩やかに立ち上がっている。

方向 東・西側N-11°-E、南・北側N-65°-W

覆土 下層は、ロームブロックを含む粘土層が大部分で、土塁が崩れて流入したものと思われる。中層は、砂礫がかなり含まれている。上層は黒色土が主体である。自然堆積。

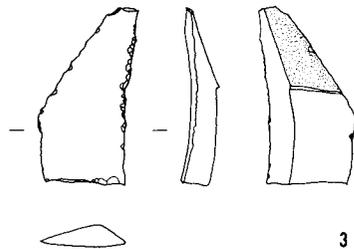
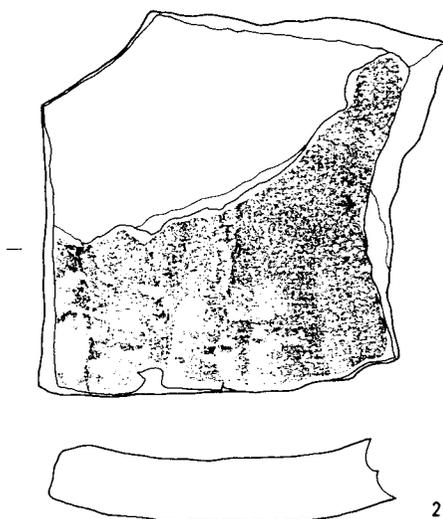
遺物 北側の堀の覆土下層から古銭1枚や覆土中層から1の常滑産の陶器片が出土している。その他、流入と思われる2の布目瓦や土師器片、須恵器の細片、縄文式土器片が少量出土している。

所見 本跡は、規模や形状、出土遺物等からみて、15世紀後半から16世紀前半に存在していたものと思われる。また、本跡の南と西側の中央部には、土橋が所在している。

SD-1 土層解説

D

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、炭化物・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、砂礫微量
- 4 黒色 ローム粒子中量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
- 6 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 7 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子・砂礫微量
- 8 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化粒子微量
- 9 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、炭化粒子微量
- 10 褐色 ローム粒子極多量、ローム小ブロック多量、ローム大ブロック・炭化粒子・パミス微量
- 11 褐色 ローム粒子極多量、ローム小ブロック多量、パミス中量、炭化粒子少量、ローム中ブロック微量
- 12 明褐色 ローム粒子極多量、ローム小ブロック多量、ローム中ブロック・黒色粒子少量



$2.3 s = \frac{1}{2}$

$4 s = \frac{1}{1}$

第140図 第1号堀出土遺物実測図

第1号堀出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第140図 1	小壺 陶器	A [10.0] B (4.2)	胴部、口縁部片。胴部、口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。折り返し縁帯。	水挽き成形。	砂粒(釉)オリープ灰色普通	10% P250 常滑産。 南側覆土。

図版番号	器種	法量				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
2	平瓦	(10.3)	(11.0)	1.7	(218.7)	覆土	凹面に布当痕, 9c DP8

図版番号	器種	石質	法量				出土地点	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
3	剥片石器	頁岩	4.7	2.7	1.1	6.1	覆土	Q29

図版番号	器種	法量				特徴	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
4	鉄砲玉	1.3	1.3	—	11.7		覆土	鉛製 M88

第2～5号堀

III期に引き続き機能しているものと思われる。

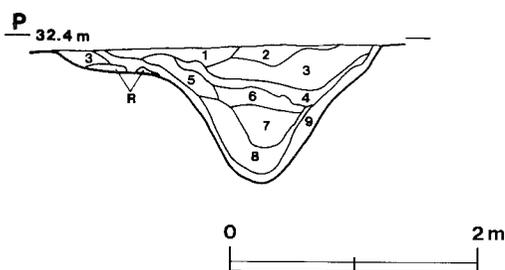
第6号堀 (付図2, 第141図)

位置 館中央から北寄りの堀で, C7f₄~₈・C7g₃・C7g₄区に確認されている。C7e₇区で第4号堀に合流している。

重複関係 本跡は, 第5号堀, 第179, 181号土坑を掘り込んでいる。また, C7f₇区で第23号地下式墳に掘り込まれている。第177号土坑との新旧関係は, 不明である。

規模と形状 全長20m程で直線的に構築されている。上幅2.0m, 下幅0.2~0.5m, 深さ110cmで, 断面形は「┌」状や「└」状を呈している。壁は, 50°~55°とかなり急な傾斜で立ち上がっている。

方向 N-78°-E



SD-6 土層解説

- 1 におい褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化物・小石・黒色粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子多量, 黒色粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子多量, 黒色粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子多量, ロームブロック少量, 黒色粒子微量
- 9 明褐色 ロームブロック多量, 黒色粒子微量

第141図 第6号堀断面図

覆土 自然堆積。

遺物 堀の中央部の覆土下層から内耳鍋の細片や常滑産の陶器の細片が少量出土している。

所見 本跡は、15世紀後半から16世紀前半ごろに第5号堀に付け足されたもので、郭内の中心部を囲む堀である。

第7号堀（付図2，第142図）

位置 館中央から北寄りの堀で、C6c₈・C6c₉・C6d₉・C6e₉区で確認されている。C6c₈区で第4号堀と合流している。

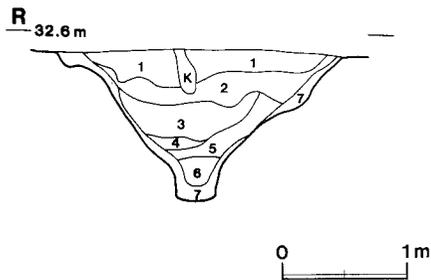
重複関係 本跡は、第2号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南から北へ11m程直線的に延びて、第5号堀につながる堀である。上幅1.8～2.3m、下幅0.7～0.9m、深さ122cmで、断面形は「V」状を呈している。壁は、42°の傾斜で立ち上がっている。第5号堀との合流部（C6c₈区）に第8号土橋が検出されている。

方向 N-14°-W

覆土 自然堆積。

所見 本跡は、第6号堀と同様に第5号堀につながる堀で、15世紀後半から16世紀前半に存在していた郭内の中心部を囲む堀である。



SD-7 土層解説

- | | | |
|---|--------|-----------------------------|
| 1 | 黒色 | ローム粒子少量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子多量，ロームブロック少量 |
| 3 | 黒色 | ローム粒子・ロームブロック少量 |
| 4 | 褐色 | ローム粒子多量，ロームブロック・黒色ブロック少量 |
| 5 | 黒褐色 | ロームブロック・黒色粒子少量 |
| 6 | にぶい褐色 | ロームブロック中量，スコリアブロック・黒色ブロック少量 |
| 7 | にぶい黄褐色 | 黒色粒子中量，ロームブロック少量 |

第142図 第7号堀断面図

第25号堀（付図2，第143図）

位置 館南部から中央寄りの内郭出入口部に伴う堀で、D7h₆～j₆区で確認されている。

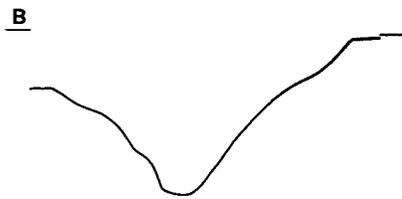
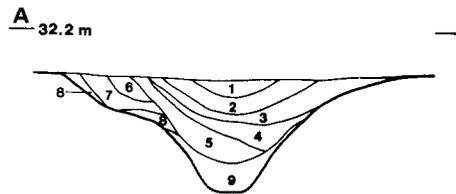
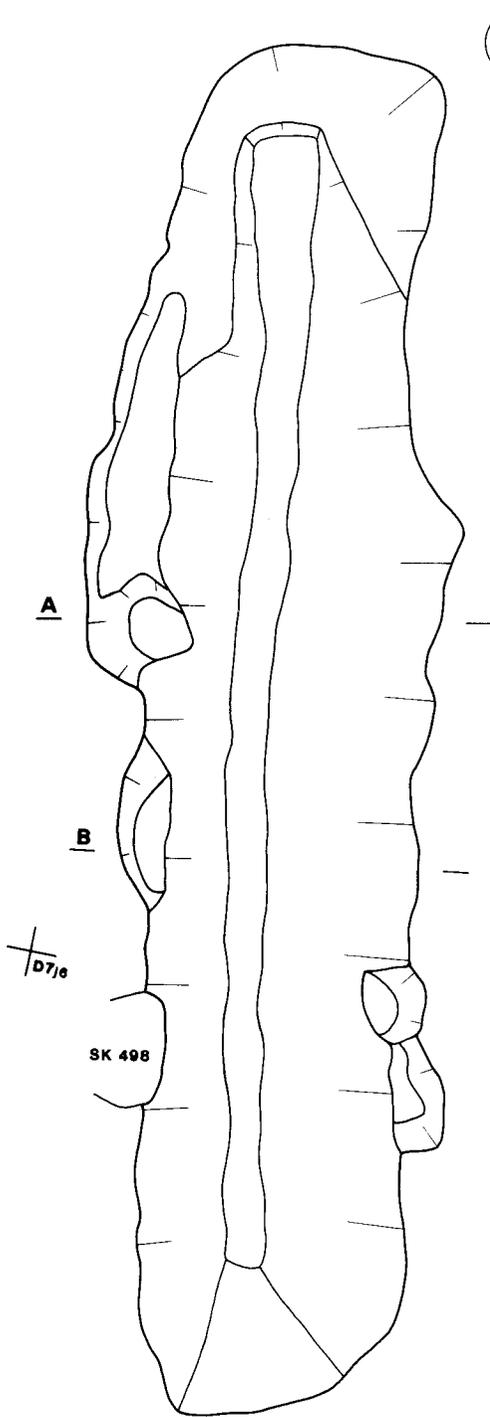
重複関係 本跡は、第498号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南から北へ11m程直線的に延びており、上幅2.3m、下幅0.3m、深さ120cmで、断面形は「V」状を呈している。

方向 N-7°-W

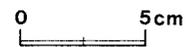
覆土 自然堆積。

遺物 覆土中層から1の土師質土器をはじめ、内耳鍋の細片や流入と思われる須恵器が出土して



SD-25 土層解説

- 1 灰褐色 パミス粒子少量
- 2 褐色 パミス粒子少量, パミスブロック極微量
- 3 褐色 パミス粒子微量, 炭化物極微量
- 4 褐色 ローム粒子少量, パミス粒子・炭化物極微量
- 5 灰褐色 ローム粒子少量, 炭化物・パミス粒子極微量
- 6 黒褐色 黒色粒子・ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子少量
- 8 におい褐色 黒色粒子少量
- 9 褐色 ローム粒子少量, 炭化物・パミス粒子極微量



第143図 第25号堀・出土遺物実測図

いる。

所見 本跡は、内郭の出入口部に第26号堀と並行して掘られている。出土遺物等から15世紀後半から16世紀前半に存在していたものと思われる。

第25号堀出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第143図 1	小皿 土師質土器	A 5.2	底部は平底で突出ぎみ。体部、口縁部はわずかに内彎して立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒 橙色 普通	100% 覆土。 P282
		B 1.9				
		C 3.1				

第26号堀 (付図2, 第144図)

位置 館南部から中央寄りの内郭出入口部に伴う堀で、D7f₇~j₇・D7g₈~j₈区で確認されている。
規模と形状 南から北へ16.5m延びている。上幅1.7m, 下幅0.3m, 深さ100cmで、断面形は「ㄣ」状を呈している。また、南から北へ向かって、わずかに傾斜している。

方向 N-80°-E

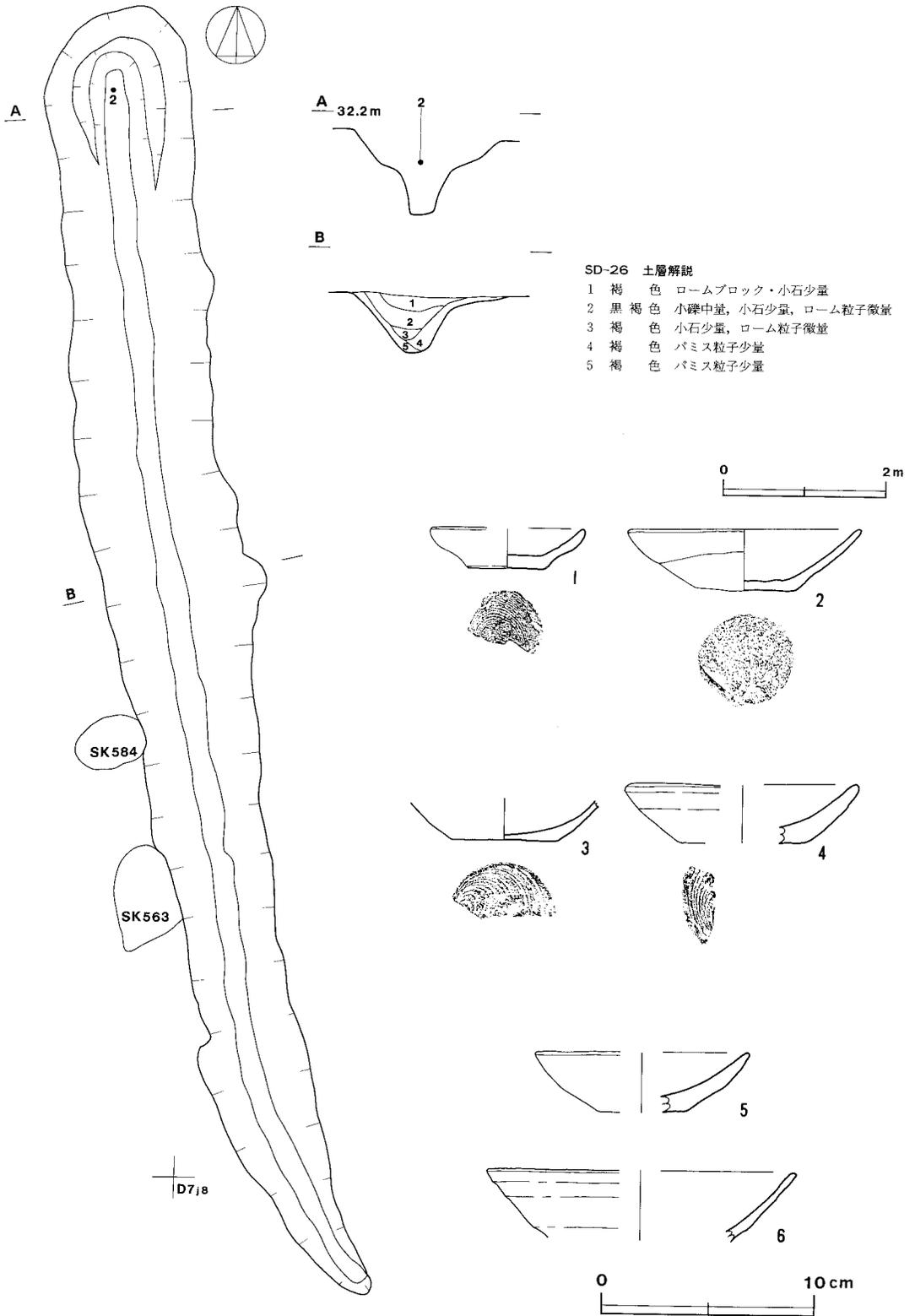
覆土 自然堆積。

遺物 堀の北部の覆土中、下層から1~6の土師質土器や7や8の内耳鍋片をはじめ、10の砥石や9の石塔が多量に出土している。

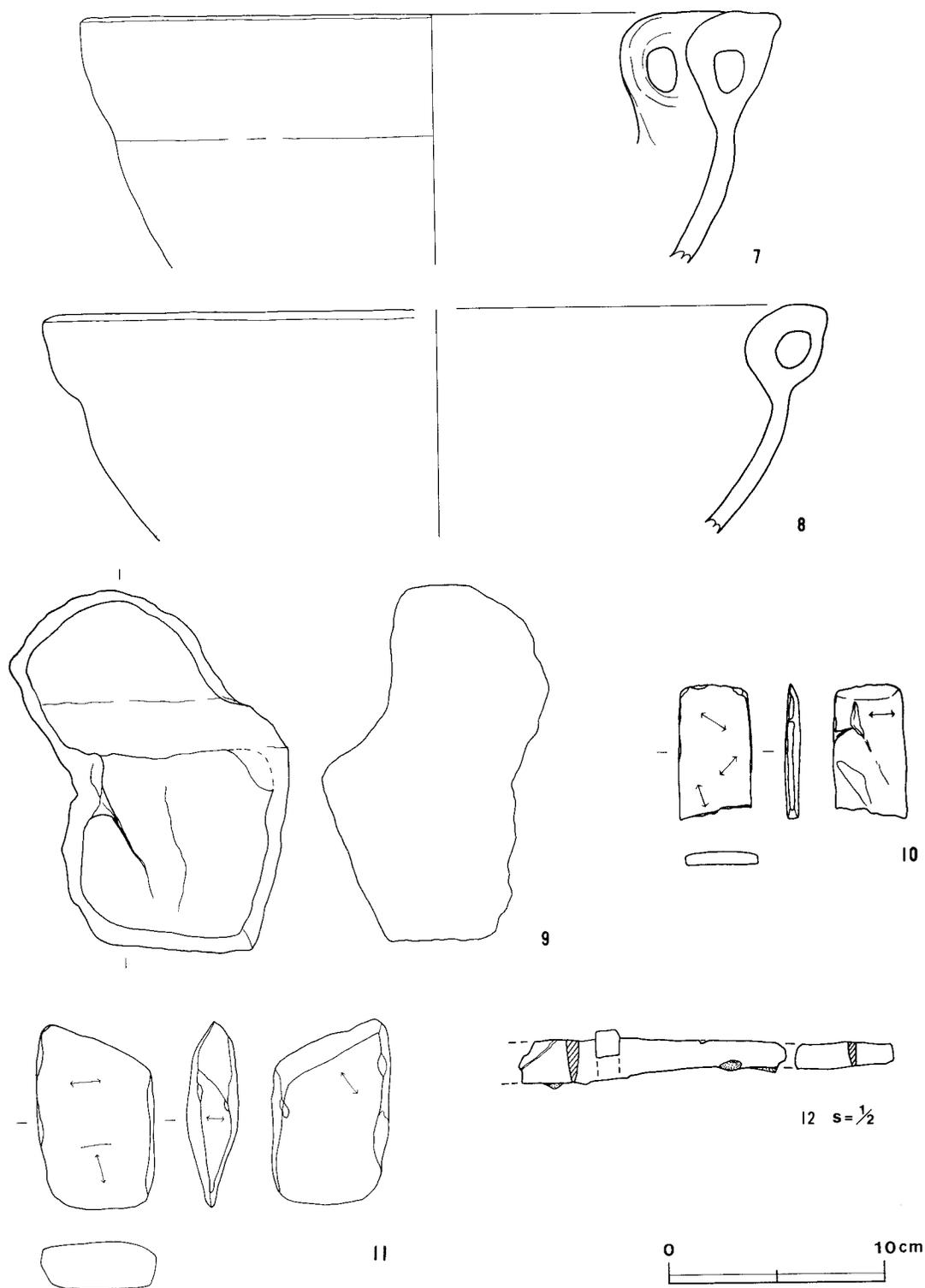
所見 本跡は、内郭の出入口部に第25号堀と並行して掘られており、15世紀後半から16世紀前半に存在していたものと思われる。また、第5号井戸に近接しており、排水施設としても使用していた可能性がある。

第26号堀出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第144図 1	小皿 土師質土器	A [7.4]	底部から口縁部片。底部は平底でやや突出する。体部は外彎し、口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	40% 覆土。 P290
		B 1.9				
		C 3.6				
2	皿 土師質土器	A 11.0	平底。体部、口縁部は外傾して立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	長石・石英 にぶい橙色 普通	100% 板目状圧痕。 中央部底面。 P285
		B 3.0				
		C 4.5				
3	皿 土師質土器	B (2.0)	底部片。平底。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒 にぶい橙色 普通	20% 覆土。 P291
		C [5.2]				
4	皿 土師質土器	A [11.0]	底部から口縁部片。平底。体部、口縁部はほぼ直線的に立ち上がる。器肉は厚い。	水挽き成形。底部回転糸切り。	雲母・長石 にぶい橙色 普通	15% 覆土。 P288
		B 2.8				
		C [6.0]				
5	皿 土師質土器	A [10.1]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎ぎみに外上方に立ち上がり、口縁部は直線的に立ち上がる。	水挽き成形。	砂粒 にぶい橙色 普通	15% 覆土。 P286
		B (2.9)				
		C [4.4]				



第144図 第26号堀・出土遺物実測図(1)



第145图 第26号掘出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第144図 6	皿 土師質土器	A [14.6] B (3.4)	体部、口縁部片。体部、口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。	水挽き成形。	砂粒 におい橙色 普通	10% P287 覆土。
第145図 7	内耳鍋 土師質土器	A 32.4 B (11.9)	底部欠損。体部は内彎ぎみに外上方に立ち上がる。口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。	口縁部、体部内・外面横ナデ。	砂粒 灰黄褐色 普通	50% P284 ススが付着。 覆土。
8	内耳鍋 土師質土器	A [36.8] B (10.8)	体部、口縁部片。体部、口縁部は内彎ぎみに外上方に立ち上がる。	口縁部、体部内・外面横ナデ。	砂粒 黄灰色 普通	20% P292 覆土。

図版 番号	器種	石質	法量				出土地点	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
9	石塔	花崗岩	17.2	12.9	7.9	2419.5	覆土下層	Q35
10	砥石	凝灰岩	6.4	3.4	0.7	22.2	D7g7区覆土	Q34
11	砥石	凝灰岩	8.8	5.5	2.4	122.6	覆土	Q33

図版 番号	器種	法量				特徴	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
12	刀子	(11.4)	1.7	0.4	(9.1)	刀身を欠損、鉄製細が遺存	覆土	鉄製 M64

②土塁

第1号土塁 (付図2, 第139図)

位置 館の南端から北東端のC9・E9・F7区で確認されている。

規模と形状 第1号堀の内側の土塁で、「└」状を呈している。基底部は、現況で最大幅は8.0m、頂上部での最大幅は2.0mである。土塁高は1.1mで、斜度は23°とかなり崩れている。

方向 南側土塁N-70°-E, 東側土塁N-11°-W

構築状況 黒色土を基底部とし、第1号堀を掘った時の土(黄褐色土と黒色土)を盛り土して構築している。

遺物 覆土からは、混入した縄文式土器の細片が出土している。

所見 本跡は、15世紀後半から16世紀前半に構築されたものと思われるが、第3号堀との関係から第1号堀の内側全域に土塁が廻っていたものと思われ、全体には「□」状を呈していたものと思われる。南側の第1号堀の中央部には、第1号土橋がある。第1号堀と第1号土塁の間には、幅2m程の空間がある。館内には、第1号土橋を渡り、堀と土塁の間を左側に曲がって、郭内に入ったものと思われる。

③建物跡

第5～10号掘立柱建物跡

Ⅲ期に引き続き機能しているものと思われる。

④方形竪穴状遺構

第1号方形竪穴状遺構 [SI-12] (第146図)

位置 館北部のC7b₁区を中心に確認されている。

重複関係 本跡は、第361号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸4.6m、短軸4.3mの隅丸方形を呈している。

長軸方向 N-79°-E

壁 壁高は約20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、軟らかい。

ピット 15か所 (P₁~P₁₅) 検出されている。P₁~P₄は壁上に、P₅~P₁₂は壁外にほぼ一線上に並んでいる。P₁~P₄は径20~53cmの円形を呈し、深さ30~55cmである。P₅~P₁₂は径20~30cmの円形を呈し、深さ10~90cmである。これらのピットは、本跡に伴う柱穴と考えられる。P₁₃~P₁₅は、性格不明である。

覆土 ロームブロックや黒色ブロックを多量に含む単層からなっており、人為堆積である。

所見 本跡は、主郭部に所在していることや第3号方形竪穴状遺構と長軸方向や配置が合っていること等から15世紀後半から16世紀前半の土倉的性格の遺構と考えられる。

第3号方形竪穴状遺構 [SI-14] (第147図)

位置 館北部のC7d₁区を中心に確認されている。

重複関係 本跡は、第1号掘立柱建物跡と第4号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。第23号溝との新旧関係は、確認できなかった。

規模と平面形 長軸3.9m、短軸3.1mの隅丸長方形を呈している。

長軸方向 N-81°-E

壁 壁高は約20~40cmで、外傾して立ち上がっている。

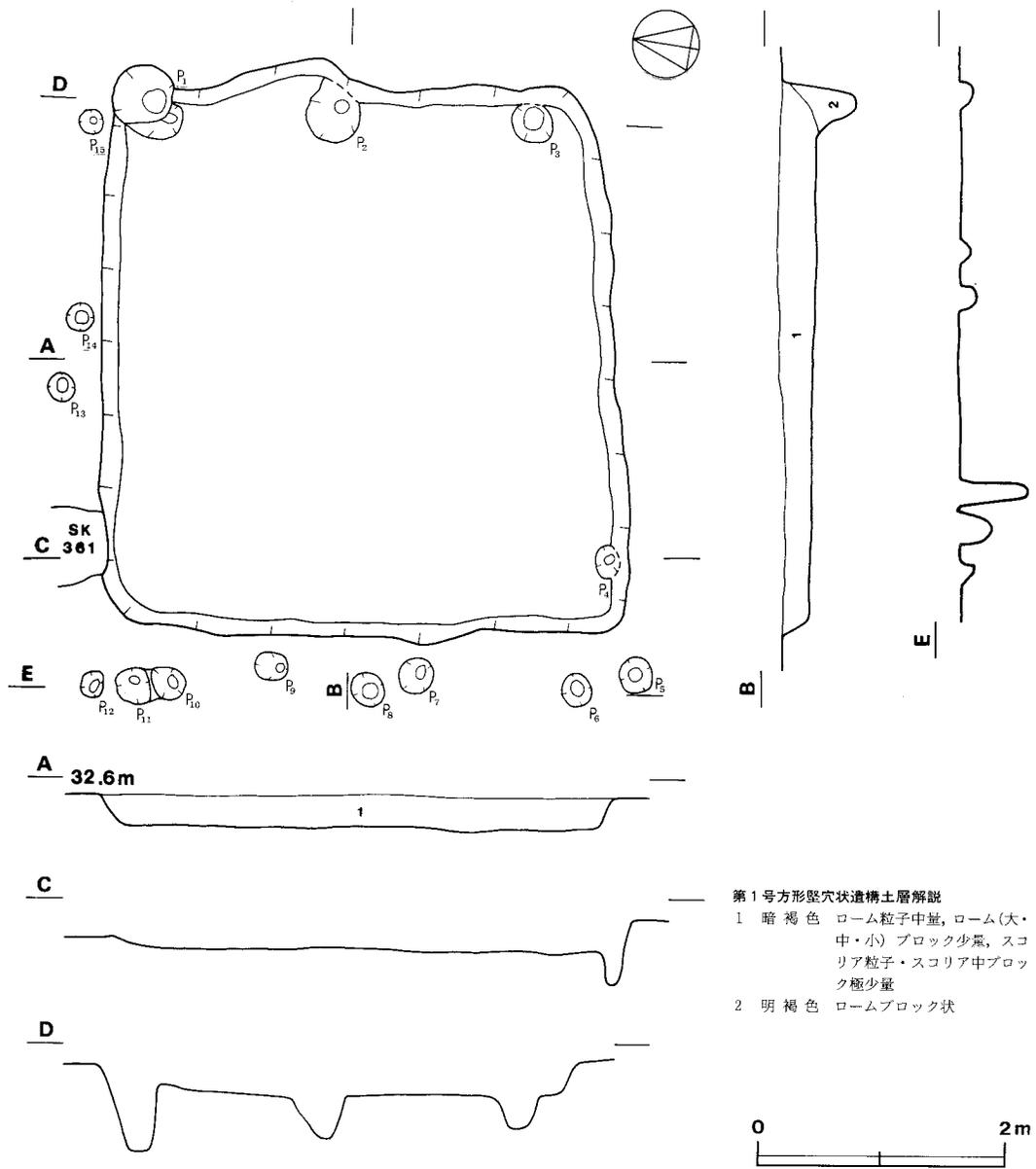
床 ほぼ平坦で、軟らかい。

ピット 東・北壁上に2か所 (P₁, P₂) が検出されている。P₁は長径5.4cm、短径3.5cmの半円形を呈し、P₂は長径4.0cm、短径3.5cmの半円形を呈している。これらのピットは、本跡に伴うものと考えられるが、性格は不明である。

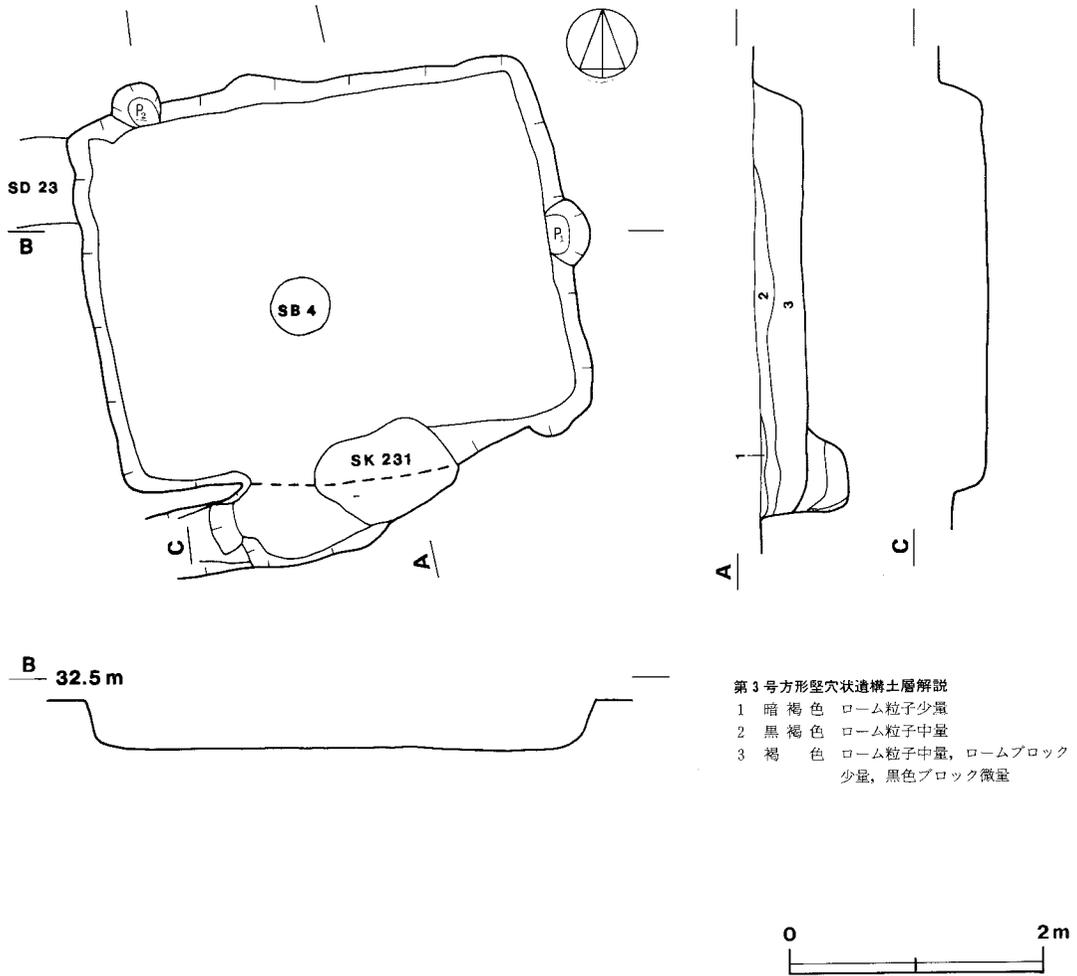
覆土 ロームブロックやローム粒子等を含んでおり人為堆積である。

遺物 覆土中層から土師器の細片や常滑産の陶器の細片が少量出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から15世紀後半から16世紀前半の土倉的性格の遺構と考えられる。



第146図 第1号方形竖穴状遺構実測図



第147図 第3号方形堅穴状遺構実測図

⑤土橋

第1号土橋 (付図2)

位置 南側の第1号堀中央部のF8c₁区を中心に確認されている。

規模 長さ6.0m, 幅5.5mでロームを掘り残して築いている。

方向 N-12°-W

所見 本跡は, 15世紀後半から16世紀前半の方形館跡の外堀正面の土橋である。本跡に付随すると思われる第1号門が土橋を渡って, すぐの所に検出されている。その門は, 4本のピット (P₁~P₄) からなっており, 柱間の寸法は東西 (P₁~P₂) 4.4m, 南北 (P₂~P₃) 1.2mである。柱穴の掘り方は径30cm程の円形を呈し, 深さは30~40cmである。

第2号土橋（付図2）

位置 西側の第1号堀中央部のD5h₈区を中心に確認されている。

規模 長さ5.5m，幅4.0mでロームを掘り残して築いている。

方向 N-78°-E

所見 本跡は、15世紀後半から16世紀前半の方形館跡の外堀の西側の土橋である。それに付随する施設は、検出できなかった。

第3号土橋

III期に引き続き機能しているものと思われる。

第4号土橋（付図2）

位置 南側の第3号堀中央からやや東寄りのE7b₅区を中心に確認されている。

規模 長さ3.0m，幅1.0mで第3号堀の一部を埋め戻して築いている。

方向 N-13°-W

覆土 覆土はロームブロックが多く含まれており、人為的に埋められた土である。

所見 本跡は、構築状況等から15世紀後半から16世紀前半に構築されたものと思われる。7.5m東に第3号土橋がある。土橋に付随する施設は、検出できなかった。

第5号土橋（付図2）

位置 北側の第5号堀東端のB7i₇区を中心に確認されている。

規模 長さ2.0m，幅2.7mで、第4号堀の一部を埋め戻して築いている。

方向 N-18°-W

覆土 ローム土と黒褐色土を互層に版築している。

所見 本跡は、構築状況等から15世紀後半から16世紀前半のものと思われる。また、それに付随する施設は、検出できなかった。

第6号土橋（付図2）

位置 第4号堀の北端のB7j₈区を中心に確認されている。

規模 長さ1.5m，幅4.0mで、第4号堀の一部を埋め戻して築いている。

方向 N-15°-W

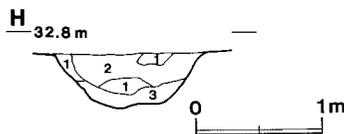
覆土 ローム土と黒褐色土を互層に版築している。

所見 本跡は、構築状況等から第5号土橋と共に15世紀後半から16世紀前半に築かれたものと思

われる。それに付随する施設は、検出できなかった。

第7号土橋（付図2，第148図）

位置 第4号堀の南端のD8a₁区で確認されている。



第7号土橋土層解説	
1 暗褐色	ローム粒子中量，ロームブロック少量
2 明褐色	ロームブロック多量，黒色粒子少量，スコリアブロック微量
3 極暗褐色	ローム粒子多量，黒色粒子中量

規模 長さ1.1m，幅1.2mで，第4号堀の一部を埋め戻して築いている。

第148図 第7号土橋断面図

方向 N-77°-E

覆土 ローム土を埋め戻している。人為堆積。

所見 本跡は，遺構の位置や構築状況等から15世紀後半から16世紀前半に構築されたものと思われる。それに付随する施設は，検出できなかった。

第8号土橋（付図2，第149図）

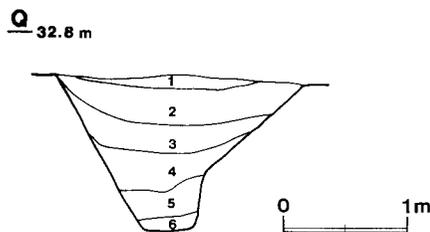
位置 第7号堀の北端C6c₈区を中心に確認されている。

規模 長さ1.9m，幅0.8mで，第7号堀の一部を埋め戻して築いている。

方向 N-60°-E

覆土 黒色土とローム土を互層に版築して，一番上に小石を敷いている。

所見 本跡は，第7号堀との関係を見ると15世紀後半から16世紀前半に構築されたものとおもわれる。それに付随する施設は，検出できなかった。



第8号土橋 土層解説	
1 褐色	小石多量，砂少量
2 黒色	黒色粒子多量，ローム粒子少量，スコリア粒子・パミス粒子極少量
3 におい褐色	ローム粒子多量，パミス粒子中量
4 黒褐色	黒色粒子中量，ローム粒子・ロームブロック極少量
5 暗褐色	ローム粒子中量，ローム大ブロック・スコリア粒子極少量
6 黒褐色	黒色粒子少量，ローム粒子極少量

第149図 第8号土橋断面図

⑥木橋

第1号木橋（付図2）

位置 西側の第3号堀中央から南寄りのD5h₉区を中心に確認されている。

規模 堀内に，4か所のピット（P₁～P₄）が検出されており，柱間の寸法は，東西（P₁，P₂）1.0

m, 南北 (P₂, P₃) 4.5m である。柱穴の掘り方は平面形が、径40～50cmの円形を呈し、深さ20～30cmである。

方向 N-78°-E

所見 本跡の西側すぐそばには、第1号堀に付けられた第2号土橋があり、それらの位置関係等から見て、本跡は、15世紀後半から16世紀前半に築かれたものと思われる。また、戦闘時には、この木橋を取り払い、敵の侵入を防いだものと思われる。

⑦柵列

第1号柵列 (第150図)

位置 館北東部の第4・5号堀に沿って、C7c₈区を中心に確認されている。

重複関係 本跡は、第11号掘立柱建物跡を壊した後に作られている。

規模 直線上に10か所のピット (P₁～P₁₀) が検出されており、柱間の寸法は1.8～2.5mで、北から南へ16m程延びている。ピットは、径40～60cmの円形を呈し、深さ20～70cmである。

方向 N-11°-W

覆土 不明。

所見 本跡は、重複関係等から15世紀後半から16世紀前半に機能していたものと思われる。

⑧井戸

第4号井戸 (第151図)

位置 館南西部の第5号堀内E6a₉区を中心に確認されている。

重複関係 本跡は、第5号堀と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 掘り方は、上面が長径4.1m、短径3.9mの円形を呈し、確認面から1.7mの深さまで急傾斜を呈する。

覆土 土層断面が崩れてしまい不明である。

遺物 覆土から内耳鍋や常滑産の陶器の細片が少量出土している。

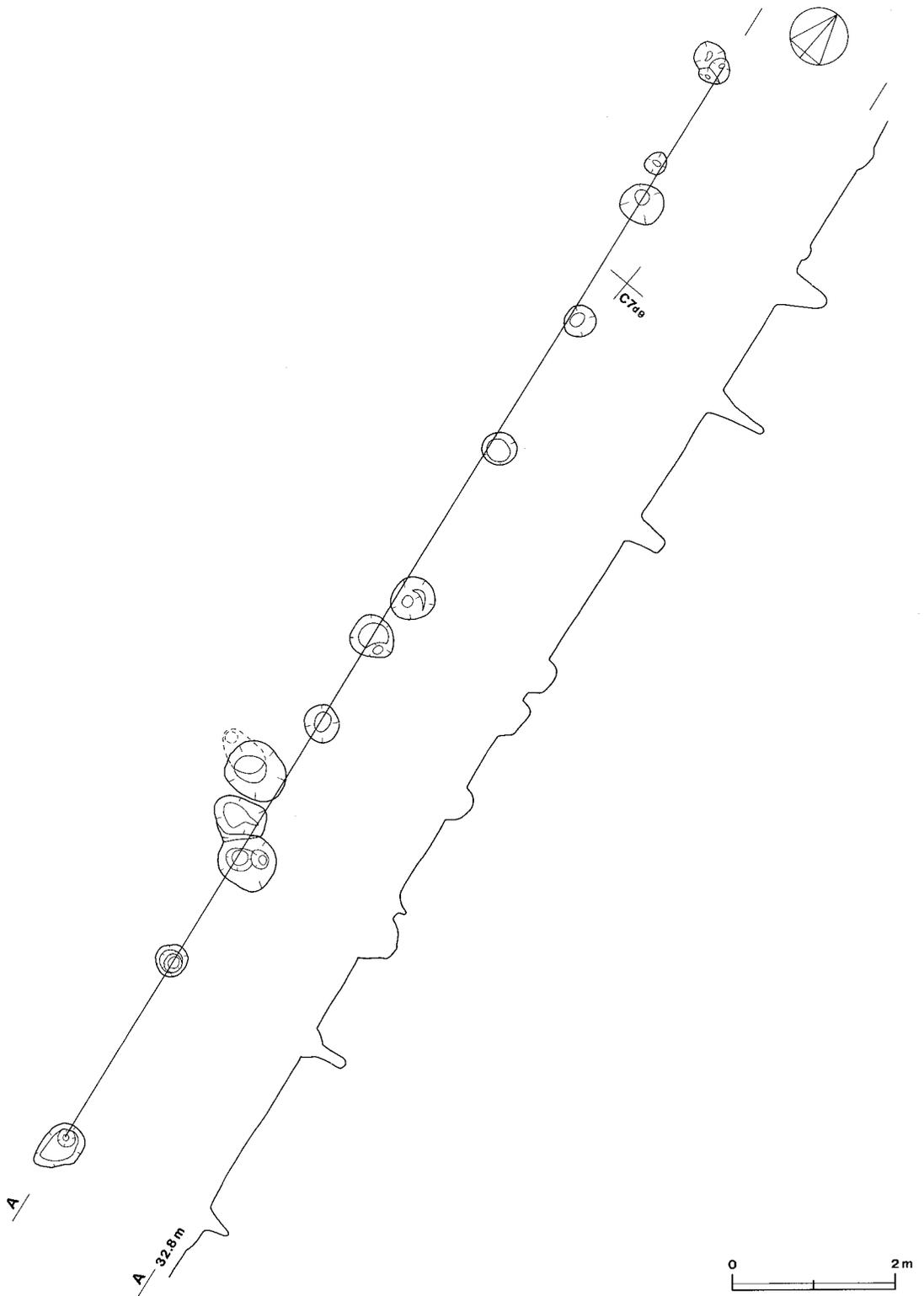
所見 本跡は、出土遺物や位置等から15世紀から16世紀のものと思われる。

第5号井戸 (第152図)

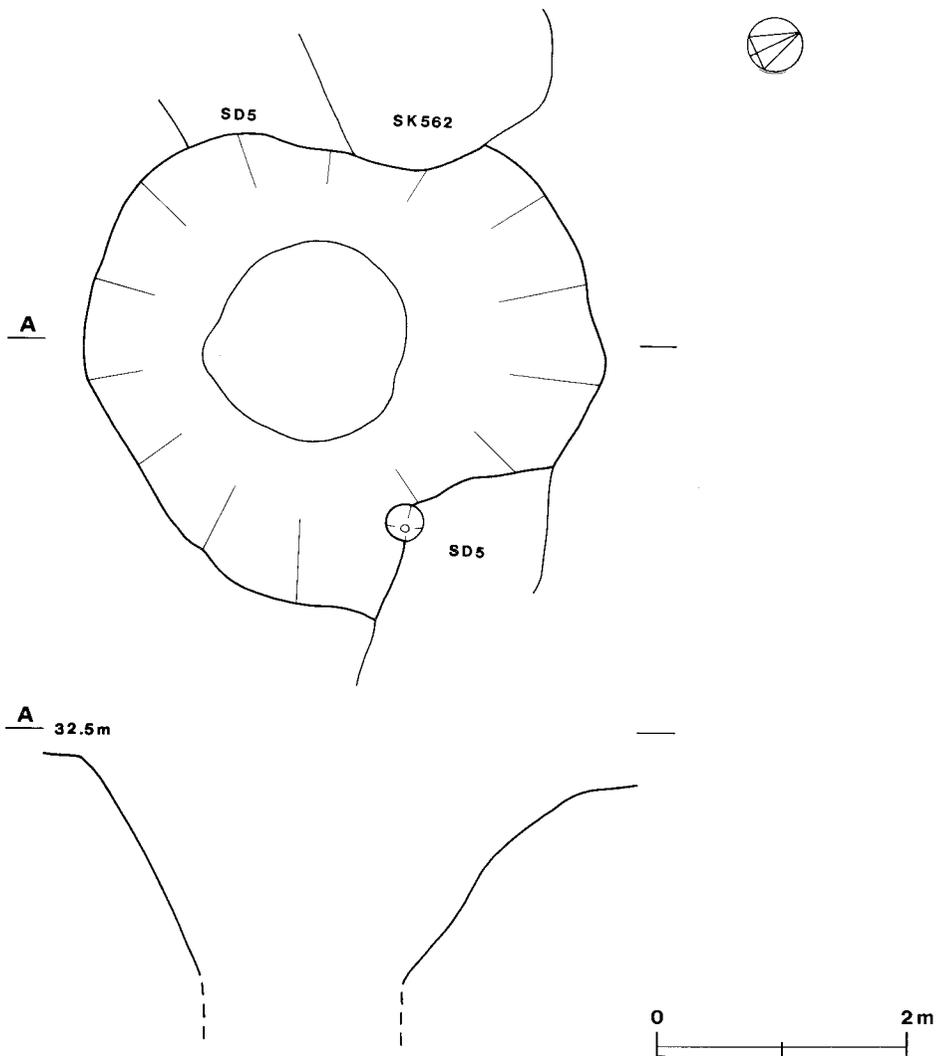
位置 館南部のD7j₈区を中心に確認されている。

規模と形状 掘り方は、上面が長径2.3m、短径2.0mの楕円形を呈し、確認面から1.2mの深さまで急傾斜を呈する。

覆土 ロームブロックや礫が多量に含まれており、人為堆積である。



第150图 第1号栅列实测图



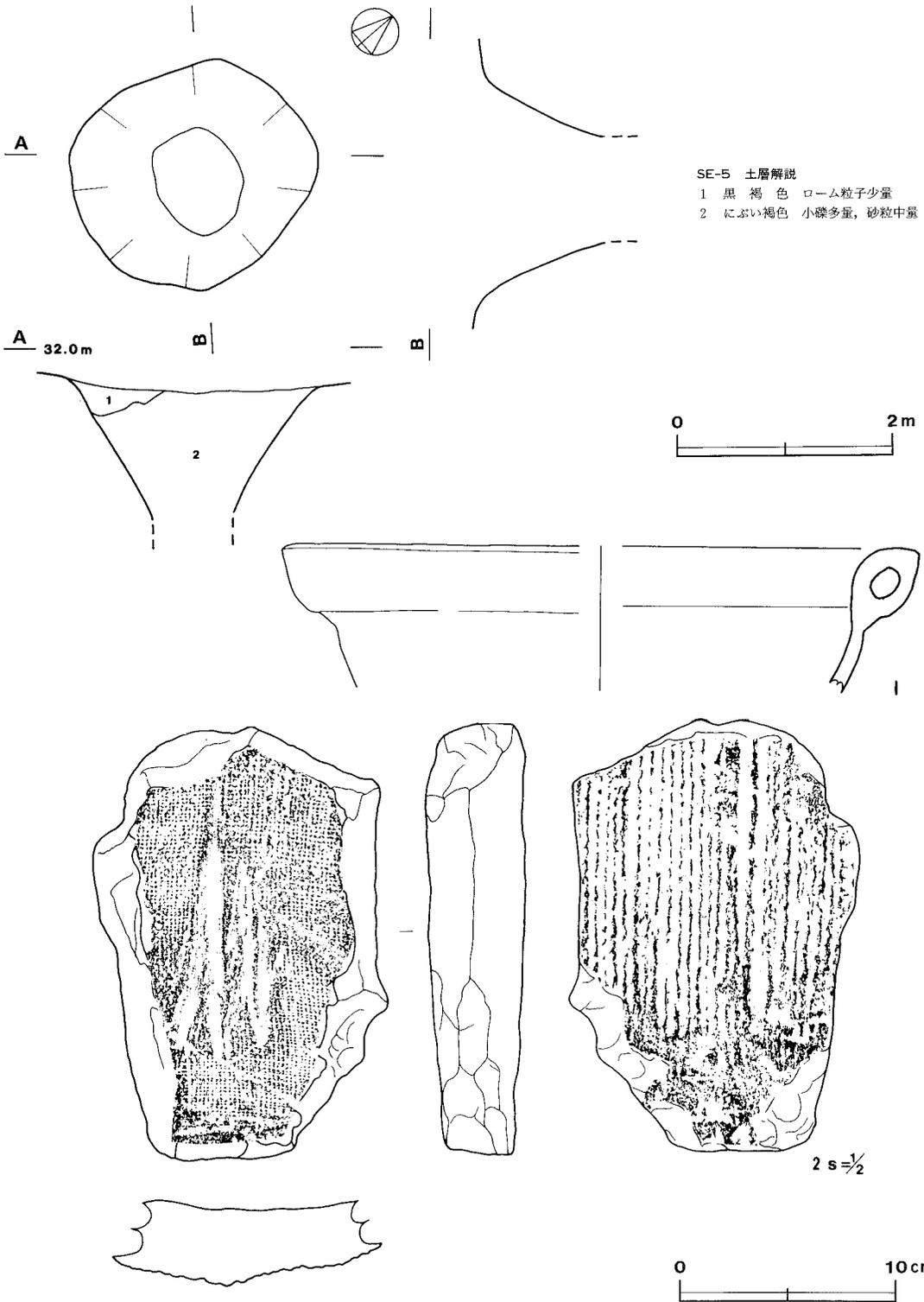
第151図 第4号井戸実測図

遺物 覆土から1の内耳鍋片や流れ込みと思われる布目瓦片が出土している。

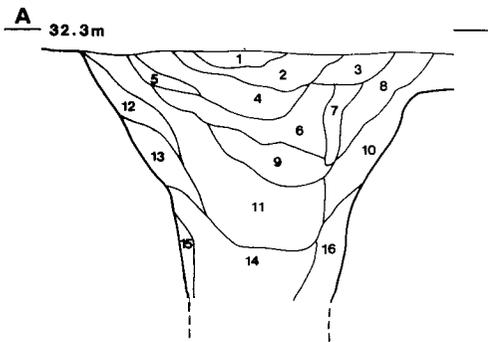
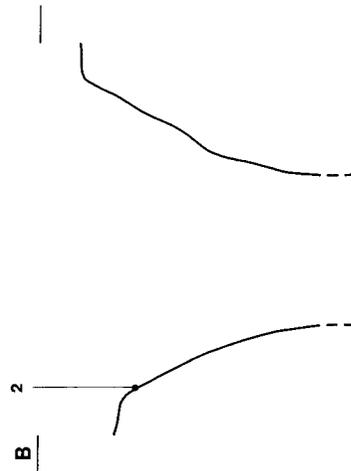
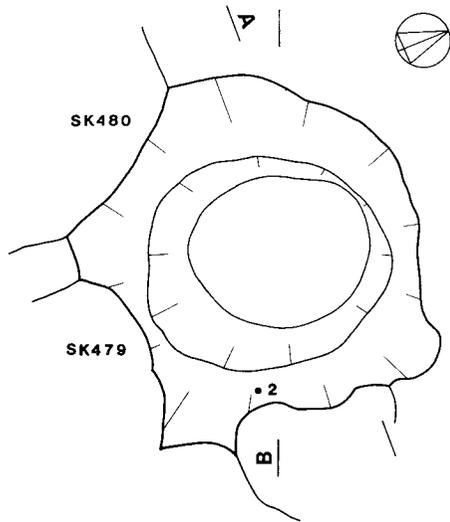
所見 本跡は、第26号堀との共伴関係から15世紀後半から16世紀前半のものと思われる。

第5号井戸出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
第152図 1	内耳鍋 土師質土器	A [29.6] B (6.8)	口縁部片。体部と口縁部の境に幅広い浅い凹線が巡る。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 褐灰色 普通	10% P231 ススが付着。 覆土。	
図版 番号	器種	法量				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
2	平瓦	(12.4)	(9.0)	2.4	(283.5)	覆土	凹面に布当痕, 凸面に縄目の 圧痕, 9c DP 6

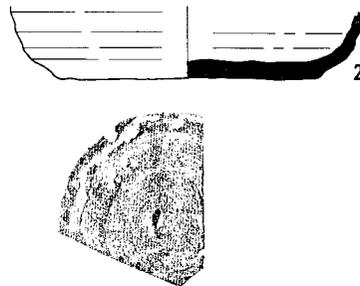
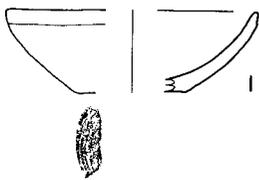


第152図 第5号井戸・出土遺物実測図



SE-7 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 礫微量, 炭化粒子極微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 礫微量, 炭化粒子極微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 礫微量, 砂質粘土極微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・礫少量, スコリア粒子極微量
- 5 暗褐色 黒色粒子・礫少量, ローム粒子微量
- 6 暗褐色 礫中量, ローム粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック・礫少量, 黒色粒子微量
- 8 暗褐色 礫多量, ローム粒子微量, スコリア粒子極微量
- 9 暗褐色 礫中量, ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 10 暗褐色 礫中量, ローム粒子・ローム小ブロック・バミス粒子微量
- 11 極暗褐色 礫中量, ローム粒子少量, スコリア粒子・黒色粒子微量, バミス粒子極微量
- 12 暗褐色 礫少量, ローム粒子微量
- 13 暗褐色 礫少量, ローム粒子・バミス粒子微量, 炭化材極微量
- 14 黒褐色 礫中量, ローム小ブロック・バミス粒子微量
- 15 黒褐色 ローム中ブロック・礫少量, 炭化粒子微量
- 16 黒褐色 礫少量, ローム中ブロック微量, バミス粒子極微量



第153図 第7号井戸・出土遺物実測図

第7号井戸（第153図）

位置 館中央部のC7h₃区を中心に確認されている。

重複関係 本跡は、第480号土坑を掘り込んでいる。また、第479号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 掘り方は、上面が長径3.0m、短径2.8mのほぼ円形を呈し、確認面から1.1mの深さまで急傾斜を持ち、そこから下は深さ1.0mまで円筒形を呈している。

覆土 礫がかなり多く含まれており、人為堆積である。

遺物 覆土から1の土師質皿片や内耳鍋細片が出土している。その他、2の奈良時代の須恵器の坏片が出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から15世紀後半から16世紀前半のものと思われる。

第7号井戸出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第153図 1	皿 土師質土器	A [10.0] B 3.3 C [4.4]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎ぎみに外上方に立ち上がり、体部と口縁部の境にわずかな稜を持つ。口縁部は直立ぎみに立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	スコリア 浅黄橙色 普通	25% P245 覆土。
2	坏 須恵器	B (3.0) C [10.2]	底部、体部片。平底。体部は内彎ぎみに外上方に立ち上がる。	体部外面ロクロ目を残す。底部回転ヘラ切り。	小石・雲母 灰白色 不良	30% P246 覆土。

第8号井戸（第154図）

位置 館南西部のD6g₈区を中心に確認されている。

規模と形状 掘り方は、上面が径1.6mの円形を呈し、確認面から0.5mの深さまで急傾斜を持ち、そこから下は深さ1.6mまで円筒形を呈している。

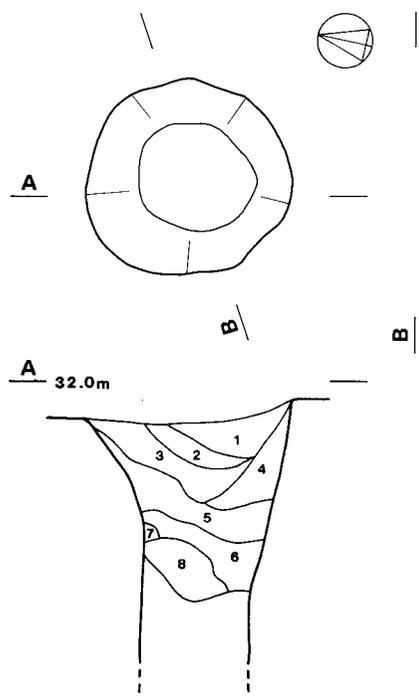
覆土 覆土に礫が多量に含まれており、人為堆積である。

遺物 覆土から1の内耳鍋片や2の常滑産の陶器片が出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から15世紀後半から16世紀前半のものと思われる。

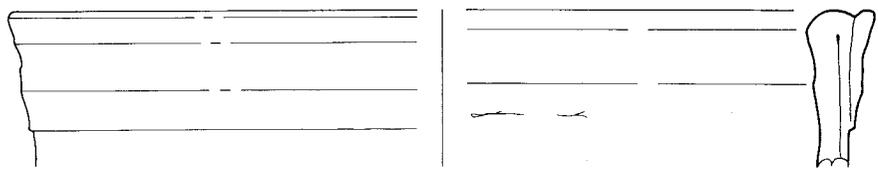
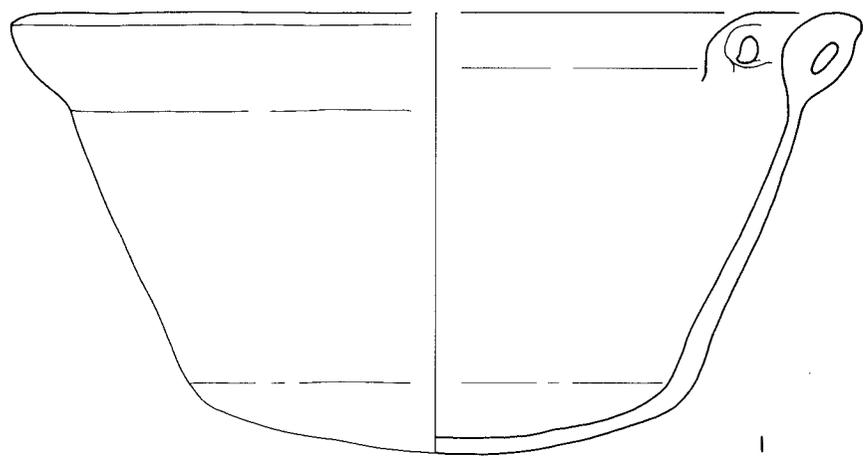
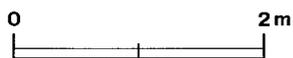
第8号井戸出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第154図 1	内耳鍋 土師質土器	A [34.0] B (17.9) C [19.0]	底部、体部片。底部は丸底ぎみ。口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。	砂粒 黒褐色 普通	30% P247 ススが付着。 覆土。
2	甕 陶器	A [37.8] B (4.8)	口縁部片。口縁部は「N」字状に折り返して、幅広の縁帯を作っている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 におい黄橙色 普通	10% P248 常滑産。 覆土。



SE-8 土層解説

- 1 暗褐色 礫極少量, ローム粒子微量, スコリア粒子・炭化粒子極微量
- 2 暗褐色 礫少量, ローム粒子・パミス粒子・炭化粒子極微量
- 3 黒褐色 礫多量, ローム粒子・スコリア粒子微量, 炭化粒子極微量
- 4 褐色 礫多量, ローム粒子中量, 黒色粒子極少量, 炭化粒子微量
- 5 極暗褐色 黒色粒子少量, ローム粒子微量
- 6 極暗褐色 礫多量, ローム粒子・黒色粒子少量, パミス粒子極少量
- 7 暗褐色 礫中量, ローム粒子少量, 炭化粒子極微量
- 8 褐色 ローム粒子中量, パミス粒子・黒色粒子極少量, 炭化粒子極微量
- 9 黒褐色 礫中量, 黒色粒子少量, ローム粒子極少量, 炭化粒子微量



第154図 第8号井戸・出土遺物実測図

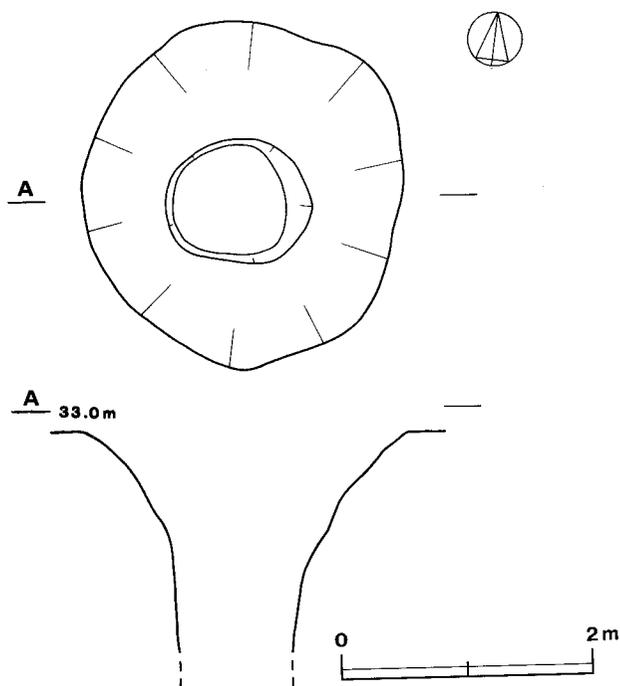
第12号井戸（第155図）

位置 館北東部の D9c₁ 区で確認されている。

規模と形状 掘り方は、上面が径1.5mの円形を呈し、確認面から0.5mの深さまで急傾斜を持ち、そこから下は深さ1.0mまで円筒形を呈している。

覆土 ロームブロックが含まれており、人為堆積である。

所見 本跡は、位置等から15世紀後半から16世紀前半のものと思われる。



第155図 第12号井戸実測図

第16号井戸（第156図）

位置 館南西部の E6e₉ 区を中心に確認されている。

重複関係 本跡は、第46号小竪穴状遺構と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 掘り方は、上面が長径2.6m、短径2.2mの楕円形を呈し、確認面から1.2mの深さまで急傾斜を持ち、そこから下は深さ0.9mまで円筒形を呈している。

覆土 覆土上層にかなり多量の礫が含まれており、人為的に埋め戻されたものと思われる。

所見 本跡は、位置等から15世紀後半から16世紀前半のものと思われる。

第17号井戸（第157図）

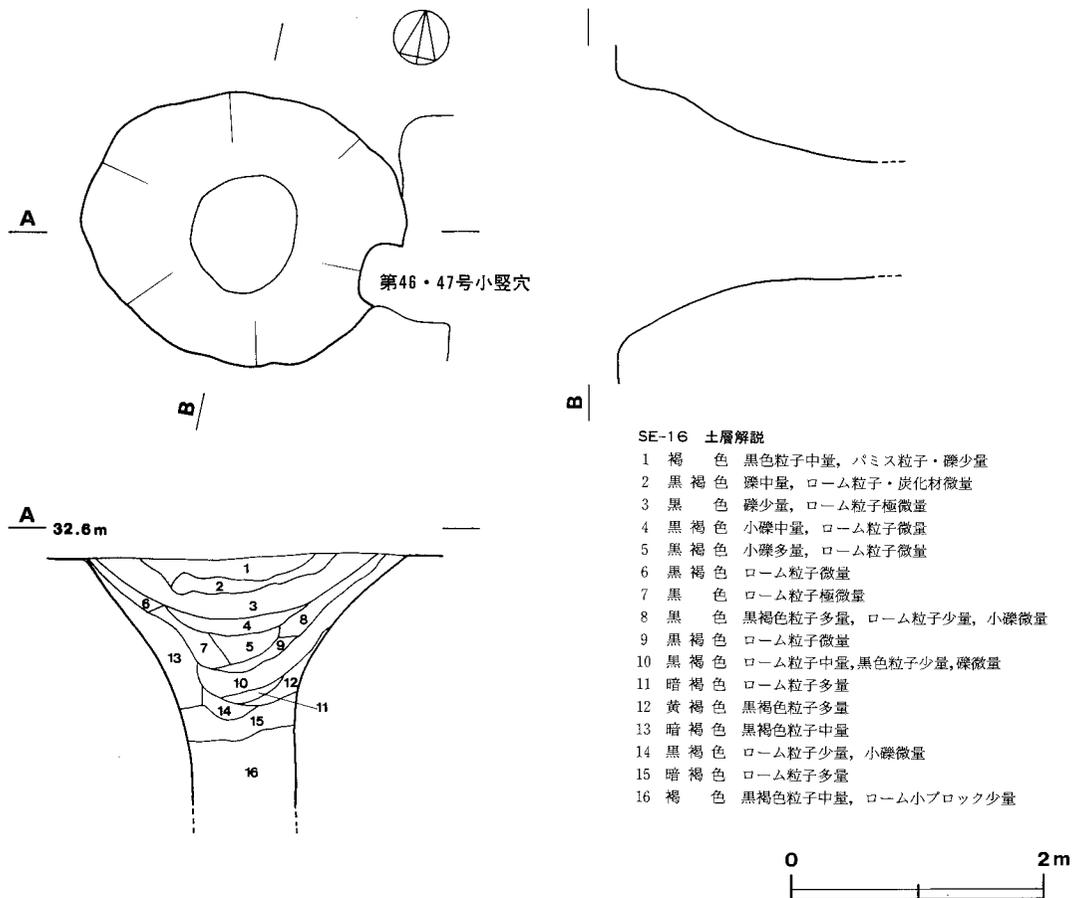
位置 館南部の E7f₆ 区を中心に確認されている。

規模と形状 平面形は、長径3.1m、短径2.7mの楕円形を呈し、北部に東西1.5m、南北2.7m、深さ50cmの平場がある。断面形は、ラップ状を呈している。

覆土 覆土上層に多量の礫が含まれており、人為堆積である。

遺物 覆土から1の内耳鍋片をはじめ、陶磁器や須恵器の細片が出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から15世紀後半から16世紀前半のものと思われる。



第156図 第16号井戸実測図

第17号井戸出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第157図 1	内耳鍋 土師質土器	A [34.0] B (6.2)	口縁部片。体部と口縁部の境に2条の沈線が巡る。口縁部は直線的に外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 灰褐色 普通	5% P249 ススが付着。 覆土。

第1, 6, 13, 15号井戸

Ⅲ期に引き続き機能していたものと思われる。

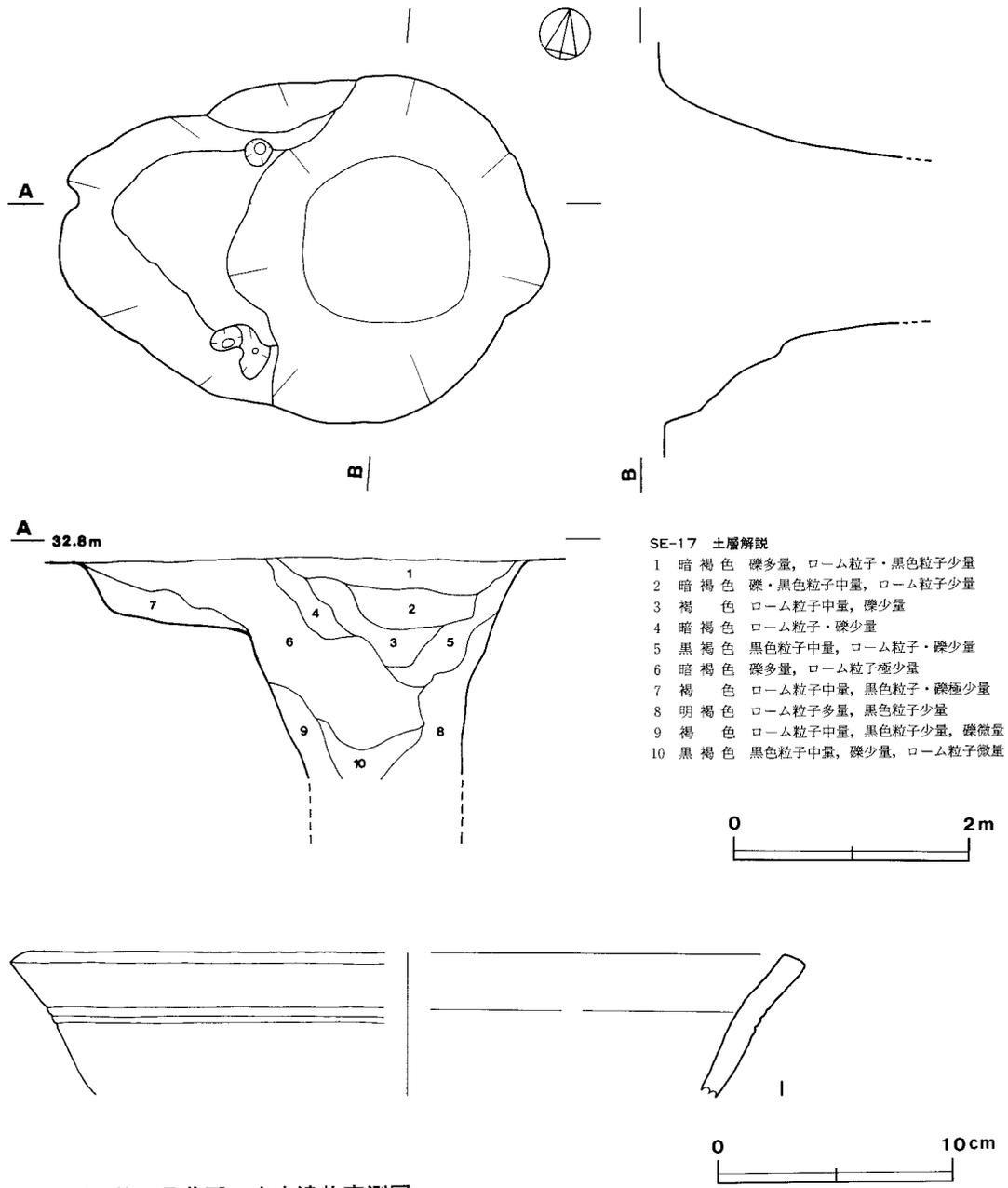
⑩地下式墳

第1号地下式墳 [SK-128] (第158図)

位置 館中央部のD8b₁区を中心に確認されている。

重複関係 本跡は、第4号堀を掘り込んでいる。

主軸方向 N-71°-E

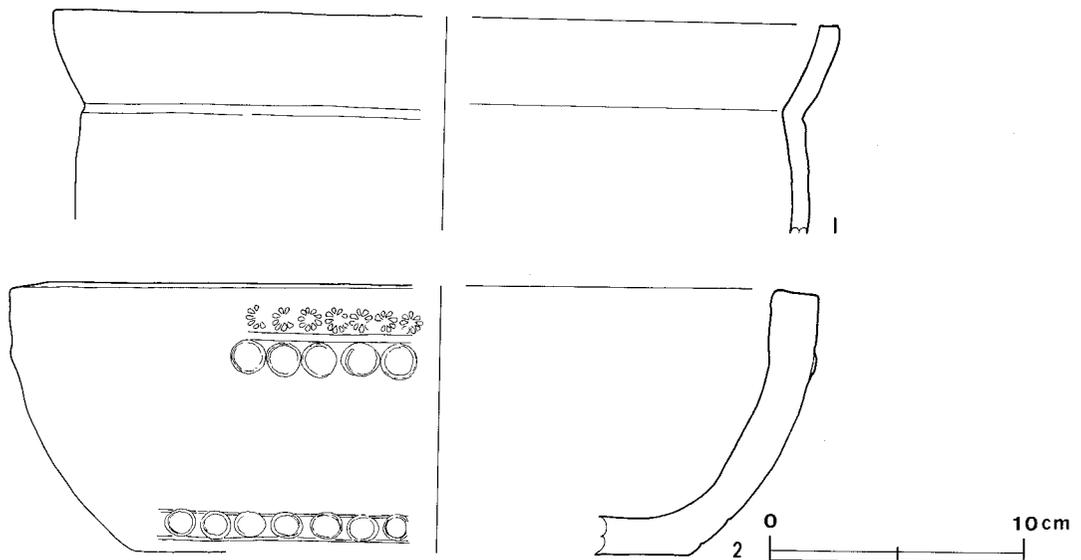
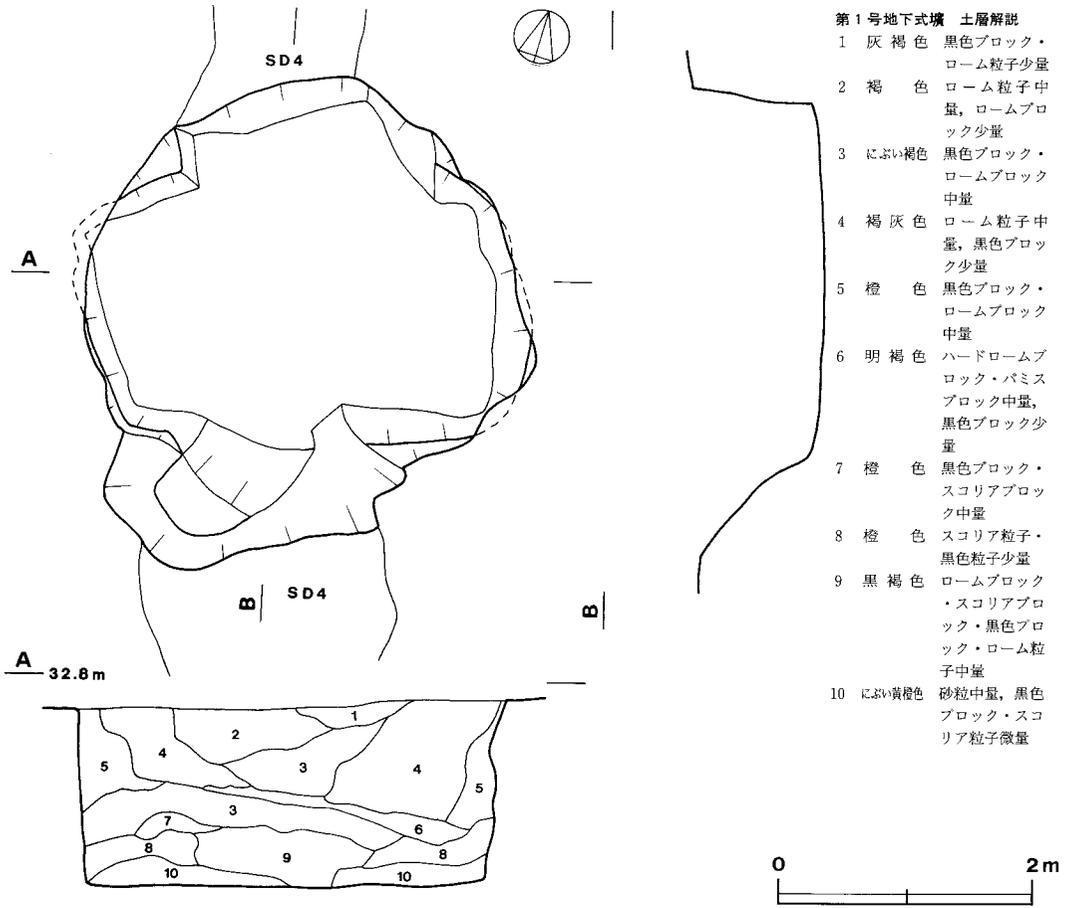


第157図 第17号井戸・出土遺物実測図

竪坑 上面は、長軸1.3m、短軸1.2mの隅丸長方形を呈し、深さは、0.4mである。底面は長軸0.7m、短軸0.4mの隅丸方形を呈している。長軸方向はN-57°-Eを指している。

主室 底面は、長軸3.0m、短軸2.3mの「凸」状を呈し、ほぼ平坦である。確認面から主室底面までの深さは、1.5mである。長軸方向はN-71°-Eを指している。

壁 竪坑は、南西部から緩やかに傾斜して、主室底面に至る。主室の南東・南西壁は、胴張りを呈している。



第158図 第1号地下式墳・出土遺物実測図

覆土 覆土にロームブロックや鹿沼土が含まれていることから人為堆積である。

遺物 覆土下，上層から1の内耳鍋片や2の瓦質土器片が出土している。

所見 本跡は，出土遺物等から15世紀後半から16世紀前半のものと思われる。

第1号地下式塙出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第158図 1	内耳鍋 土師質土器	A [31.4] B (8.6)	体部，口縁部片。体部は内彎ぎみに外上方に立ち上がり，口縁部との境に沈線が巡る。口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。	口縁部，体部内・外面横ナデ。	雲母・石英 浅灰色 普通	10% P160 ススが付着。 覆土。
2	火鉢 瓦質土器	A [32.4] B 10.8 C [22.2]	底部，体部片。平底。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面横ナデ。底部ヘラ削り調整。口縁部に菊花の押印文。体部上・下位に円形の粘土を貼付し，その上に円形の竹管文を施す。	スコリア・小石 暗オリーブ色 普通	20% P161 覆土。

第3号地下式塙 [SK-130] (第159図)

位置 館中央部のD8c₂区を中心に確認されている。

重複関係 本跡は，第2号地下式塙，第139号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

主軸方向 N-65°-E

堅坑 上面は，長軸2.2m，短軸1.7mの不定形を呈し，深さは，1.3mである。長軸方向はN-26°-Wを指している。

主室 底面は，長軸2.2m，短軸1.6mの長方形を呈し，平坦である。確認面から主室底面までの深さは，2.1mである。長軸方向はN-18°-Wを指している。

壁 堅坑は，南西部から主室に向かって階段状に掘り込まれている。主室は，北東コーナー部でオーバーハングが見られる以外は，ほぼ垂直に立ち上がっている。

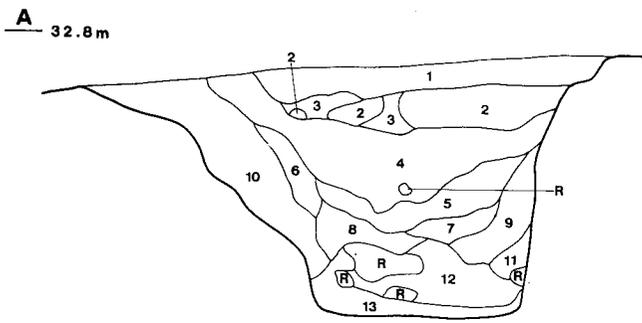
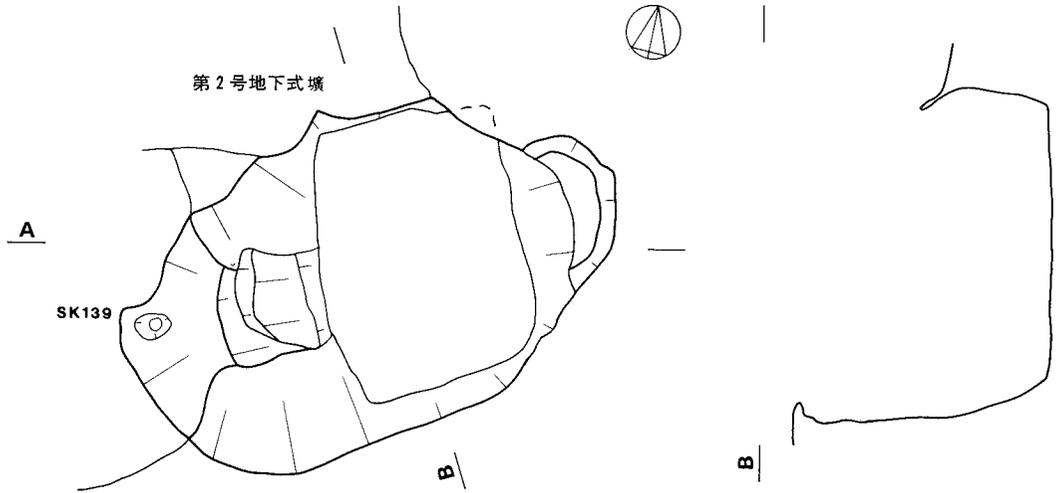
覆土 覆土下層から天井部が崩落したと思われるロームブロックの堆積が見られる。覆土はほとんどが褐色土の堆積であり，不自然な堆積状態を示していることから人為堆積である。

遺物 覆土から2の常滑産の陶器片や1の内耳鍋片が多量に出土している。その他，焼礫が数個出土している。

所見 本跡は，出土遺物等から15世紀後半から16世紀前半のものと思われる。

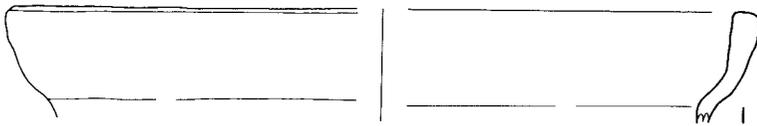
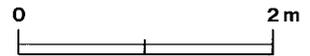
第3号地下式塙出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第159図 1	内耳鍋 土師質土器	A [30.0] B (4.5)	口縁部片。口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。	雲母・長石 黄灰色 普通	5% P162 ススが付着。 覆土。
2	甕 陶器	B (5.8) C [19.2]	胴部片。胴部下位は外彎ぎみに外上方に立ち上がる。	紐土巻き上げ。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	5% P163 常滑産。 覆土。

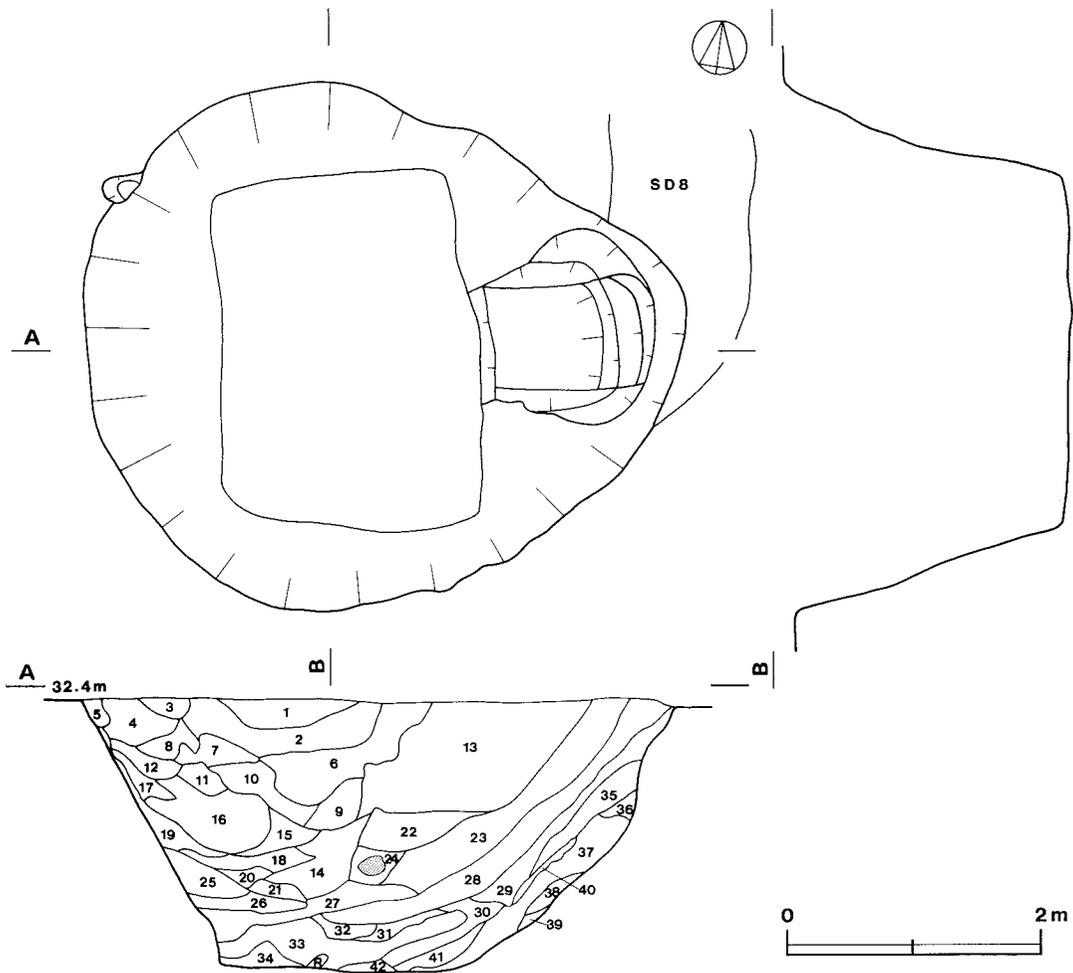


第3号地下式墳土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・ローム粒子少量
- 2 橙褐色 黒色粒子・ロームブロック中量
- 3 にぶい褐色 ローム粒子多量, ロームブロック少量
- 4 灰褐色 ローム粒子少量, ロームブロック・黒色粒子微量
- 5 にぶい褐色 ロームブロック・ローム粒子中量
- 6 褐色 ローム粒子中量
- 7 にぶい褐色 黒色ブロック少量
- 8 明褐色 ロームブロック微量
- 9 明褐色 ロームブロック中量
- 10 にぶい褐色 黒色粒子中量, ロームブロック微量
- 11 黄橙色 鹿沼バミス少量
- 12 黄橙色 ローム粒子多量
- 13 にぶい褐色 黒色粒子中量



第159図 第3号地下式墳・出土遺物実測図



第8号地下式墳 土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------------|--------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・礫少量 | 23 黒褐色 | 黒色粒子多量, ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 礫少量 | 24 灰褐色 | 砂質粘土中量, ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・黒色粒子中量 | 25 明褐色 | ローム粒子多量, ローム大ブロック・パミス粒子少量 |
| 4 黒色 | 黒色粒子多量, ローム粒子少量 | 26 黒褐色 | 黒色粒子中量, ローム粒子少量, ローム中ブロック・パミス粒子極少量, |
| 5 黒褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子少量 | 27 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム大・中ブロック・黒色粒子少量, パミス粒子極少量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子少量, 黒色粒子・パミス粒子極少量 | 28 黒褐色 | 黒色粒子中量, パミス粒子極少量, ローム粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子中量, スコリア粒子・黒色粒子極少量 | 29 黒褐色 | 黒色粒子中量, パミス粒子極少量 |
| 8 黒褐色 | ローム粒子中量, スコリア粒子少量 | 30 黒褐色 | 黒色粒子中量, ローム粒子少量, パミス粒子極少量 |
| 9 褐色 | ローム粒子多量, 黒色粒子少量, パミス粒子極少量 | 31 黒褐色 | 黒色粒子中量, ローム粒子少量, パミス粒子極少量 |
| 10 暗褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子少量, ローム小ブロック極少量 | 32 黒褐色 | 黒色粒子中量, ローム粒子極少量 |
| 11 黒褐色 | ローム粒子・黒色粒子中量, スコリア粒子極少量 | 33 黒色 | 黒色粒子多量, ローム粒子極少量 |
| 12 黒褐色 | ローム粒子・黒色粒子中量, ローム小ブロック少量, パミス粒子極少量 | 34 褐色 | ローム粒子多量, 黒色粒子少量 |
| 13 明褐色 | ローム粒子多量, ローム大ブロック中量, パミス粒子極少量 | 35 暗褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子少量, ローム小ブロック・パミス粒子極少量 |
| 14 明褐色 | ローム粒子多量, 黒色粒子少量 | 36 明褐色 | ローム粒子多量, 黒色粒子極少量 |
| 15 暗褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子少量 | 37 黒褐色 | 黒色粒子中量, ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量 |
| 16 黒色 | 黒色粒子多量, ローム粒子少量 | 38 黒褐色 | 黒色粒子中量, ローム粒子極少量 |
| 17 褐色 | ローム粒子多量, 黒色粒子少量, スコリア粒子極少量 | 39 黒褐色 | ローム粒子・黒色粒子少量, パミス粒子極少量 |
| 18 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・黒色粒子少量, スコリア粒子極少量 | 40 黒褐色 | ローム大ブロック少量, ローム粒子極少量 |
| 19 明褐色 | ローム粒子多量, ローム中ブロック・黒色粒子少量 | 41 褐色 | ローム粒子多量, 黒色粒子少量 |
| 20 黒褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック・黒色粒子中量 | 42 黒褐色 | ローム粒子・黒色粒子少量, 粘土極少量 |
| 21 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・黒色粒子少量 | | |
| 22 黒褐色 | 黒色粒子多量, ローム粒子・パミス粒子極少量 | | |

第160図 第8号地下式墳実測図

第 8 号地下式墳 [SK-212] (第160図)

位置 館北西部の C6h₇区を中心に確認されている。

重複関係 本跡の竪坑は、第 8 号溝を掘り込んでいる。

主軸方向 N-80°-E

竪坑 上面は、長径1.6m、短径1.4m の楕円形を呈し、深さは、2.3m である。長径方向はN-13°-Wを指している。

主室 底面は、長軸2.9m、短軸2.1m の長方形を呈し、平坦である。確認面から主室底面までの深さは、2.3m である。長軸方向はN-80°-Eを指している。

壁 竪坑と主室は、外傾して立ち上がっている。

覆土 覆土下層は、竪坑側からの自然堆積であるが、中・上層はブロック状の堆積をしており、人為堆積である。

遺物 覆土中層から混入と思われる須恵器の坏蓋片が出土している。

所見 本跡は遺構の形態や位置等から15世紀後半のものと思われる。地下式墳として取り扱ったが、覆土中に天井部（ローム）の堆積が見られないことから簡単な屋根を付けた土倉的な遺構とも考えられる。

第 9 号地下式墳 [SK-213] (第161図)

位置 館北西部の C6i₇区を中心に確認されている。

重複関係 本跡の南コーナー部は、第646号土坑を掘り込んでいる。

主軸方向 N-45°-E

竪坑 上面は、長径1.8m、短径1.0m の半円形を呈し、深さは、1.1m である。長径方向はN-47°-Wを指している。

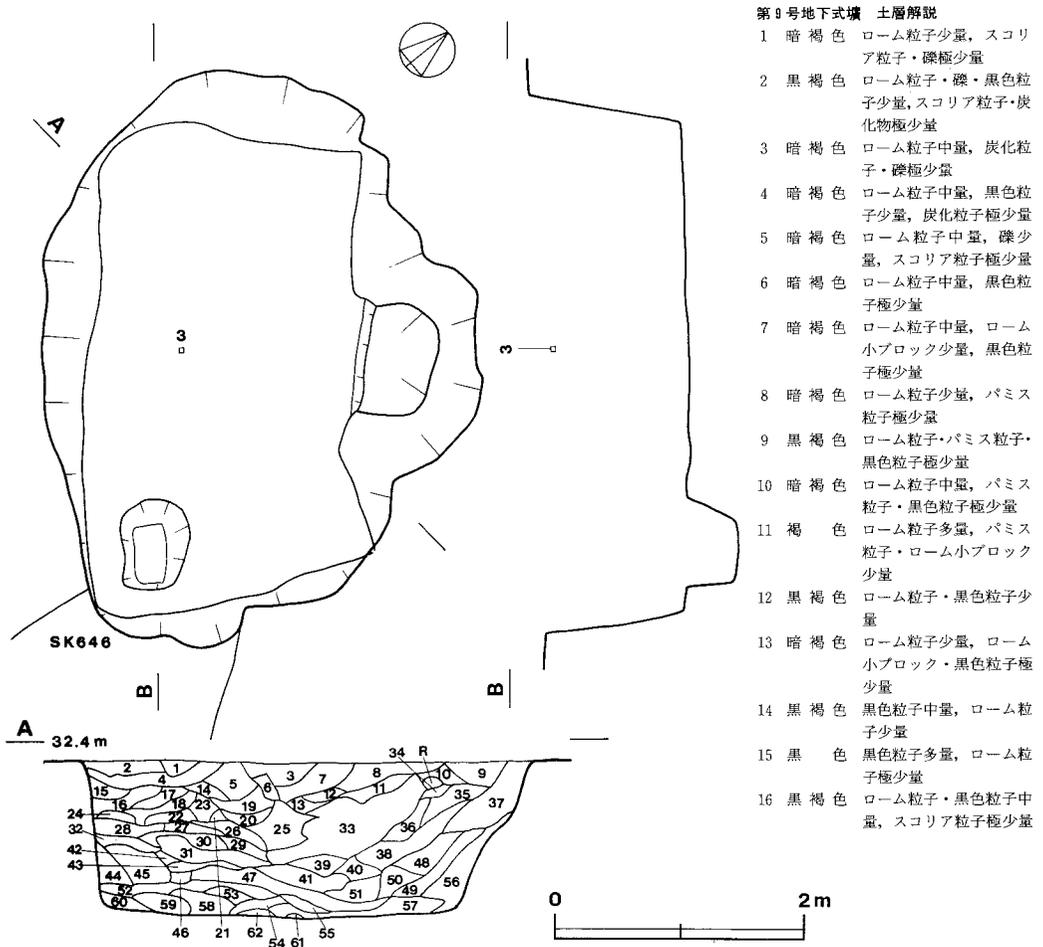
主室 底面は、長軸4.3m、短軸2.8m の隅丸長方形を呈し、平坦である。確認面から主室底面までの深さは、1.3m である。長軸方向はN-47°-Wを指している。南コーナー付近に楕円形の落ち込みが検出されている。

壁 竪坑は主室底面に向かって、緩やかに傾斜している。主室は、ほぼ垂直に立ち上がっている。

覆土 各層がブロック状の堆積をしており、人為堆積である。

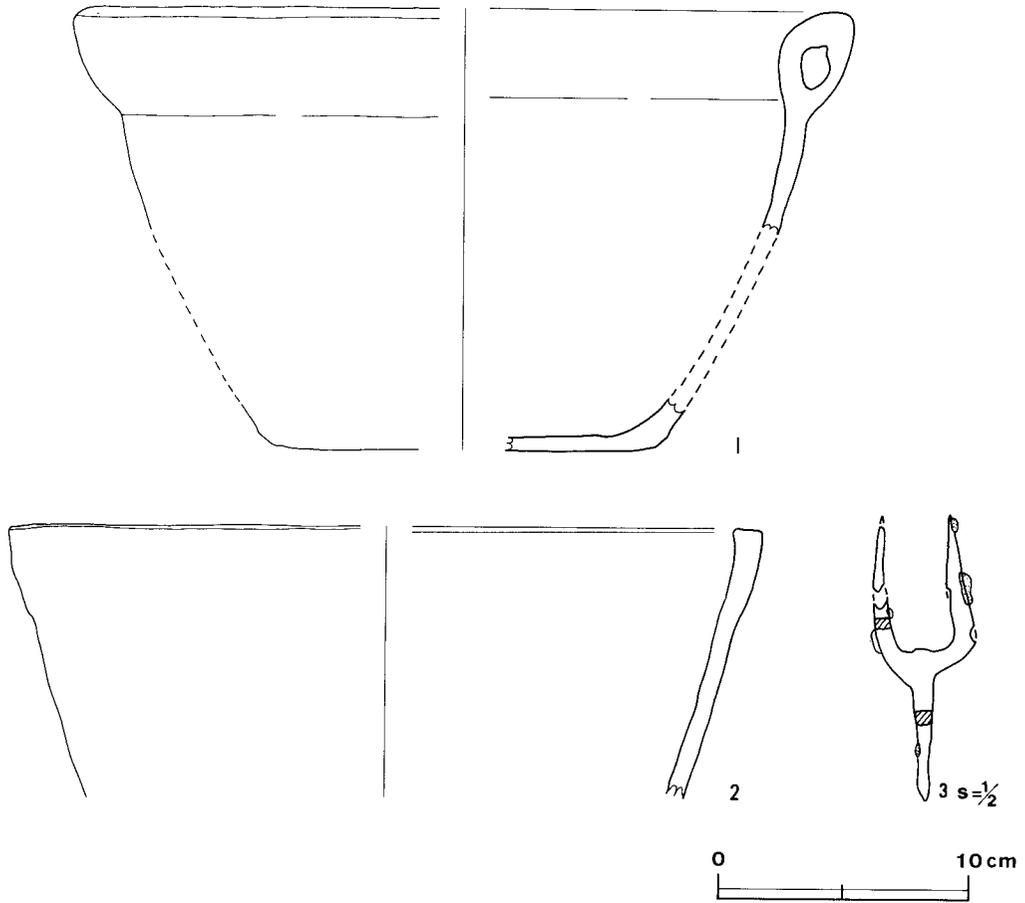
遺物 覆土から 1 や 2 の内耳鍋片が多量出土している。底面からは 3 の鉄製品が出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から15世紀後半のものと思われる。



- | | | | | | |
|----|---------------------------|------------------------------|-----|------------------|--|
| 17 | 黒褐色 | 黒色粒子多量, ローム粒子少量 | 43 | 黒褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子少量, スコリア粒子・バミス粒子極少量 |
| 18 | 黒褐色 | ローム粒子・黒色粒子中量, ローム小ブロック極少量 | 44 | 明褐色 | ローム粒子多量 |
| 19 | 暗褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子少量, ローム小ブロック極少量 | 45 | 明褐色 | ローム粒子多量, スコリア粒子・黒色粒子少量 |
| 20 | 黒褐色 | ローム粒子・黒色粒子少量, スコリア粒子極少量 | 46 | 褐色 | ローム粒子中量 |
| 21 | 黒褐色 | 黒色粒子中量, ローム粒子・ローム小ブロック極少量 | 47 | 黒色 | 黒色粒子多量, ローム粒子少量 |
| 22 | 黒褐色 | 黒色粒子中量, ローム粒子少量 | 48 | 黒褐色 | ローム粒子・黒色粒子少量, バミス粒子極少量 |
| 23 | 黒褐色 | ローム粒子・黒色粒子少量, スコリア粒子極少量 | 49 | 黒褐色 | ローム粒子・黒色粒子少量, ローム小ブロック・バミス粒子・スコリア粒子極少量 |
| 24 | 黒褐色 | 黒色粒子中量, ローム粒子少量, スコリア粒子極少量 | 50 | 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・黒色粒子少量, バミス粒子極少量 |
| 25 | 黒褐色 | 黒色粒子中量, ローム粒子・2~3cm大の石少量 | 51 | 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・バミス粒子・黒色粒子極少量 |
| 26 | 黒褐色 | ローム粒子・黒色粒子少量, バミス粒子極少量 | 52 | 暗褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子少量, ローム大・小ブロック・粘土極少量 |
| 27 | 黒色 | 黒色粒子多量, ローム粒子極少量 | 53 | 褐色 | ローム粒子多量, スコリア粒子・黒色粒子少量 |
| 28 | 褐色 | ローム粒子中量, スコリア粒子少量, 黒色粒子極少量 | 54 | 黒褐色 | ローム粒子・スコリア粒子・黒色粒子少量 |
| 29 | 黒褐色 | 黒色粒子中量, ローム粒子・ローム小ブロック極少量 | 55 | 褐色 | ローム粒子多量, 黒色粒子少量, スコリア粒子極少量 |
| 30 | 黒褐色 | ローム粒子・黒色粒子少量, バミス粒子極少量 | 56 | 暗褐色 | ローム粒子中量, スコリア粒子・黒色粒子少量, バミス粒子極少量 |
| 31 | 黒褐色 | 黒色粒子中量, ローム粒子少量, スコリア粒子極少量 | 57 | 黒褐色 | ローム粒子・バミス粒子極少量 |
| 32 | 褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子少量, スコリア粒子極少量 | 58 | 黒褐色 | 黒色粒子中量, ローム粒子少量 |
| 33 | ローム粒子多量, バミス粒子少量, 黒色粒子極少量 | 59 | 明褐色 | ローム粒子多量, 黒色粒子極少量 | |
| 34 | 暗褐色 | ローム粒子中量, 礫・ローム小ブロック極少量 | 60 | 明褐色 | ローム粒子多量, バミス粒子少量 |
| 35 | 暗褐色 | ローム粒子・礫・バミス粒子極少量 | 61 | 褐色 | ローム粒子・スコリア粒子中量 |
| 36 | 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子極少量 | 62 | 明褐色 | ローム粒子多量 |
| 37 | 黒褐色 | ローム粒子少量, スコリア粒子・礫極少量 | | | |
| 38 | 黒褐色 | ローム粒子・黒色粒子少量, 炭化粒子極少量 | | | |
| 39 | 黒褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子少量, バミス粒子極少量 | | | |
| 40 | 黒褐色 | ローム粒子・黒色粒子少量, バミス粒子極少量 | | | |
| 41 | 黒褐色 | 黒色粒子中量, 3cm大の小石少量, ローム粒子極少量 | | | |
| 42 | 褐色 | ローム粒子多量, スコリア粒子少量, 黒色粒子極少量 | | | |

第161図 第9号地下式墳実測図



第162図 第9号地下式墳出土遺物実測図

第9号地下式墳出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第162図 1	内耳鍋 土師質土器	A [31.2] B (11.3) C [15.0]	底部，口縁部片。平底。口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り，上位ナデ。底部ナデ調整。	雲母・石英にふい橙色普通	25% P175 ススが附着。 覆土。
2	内耳鍋 土師質土器	A [30.0] B (11.0)	体部，口縁部片。体部は直線的に外傾し，口縁部は頸部から内彎ぎみに立ち上がる。	口縁部，体部内・外面横ナデ。	雲母・砂粒にふい黄橙色普通	5% P176 ススが附着。 覆土。

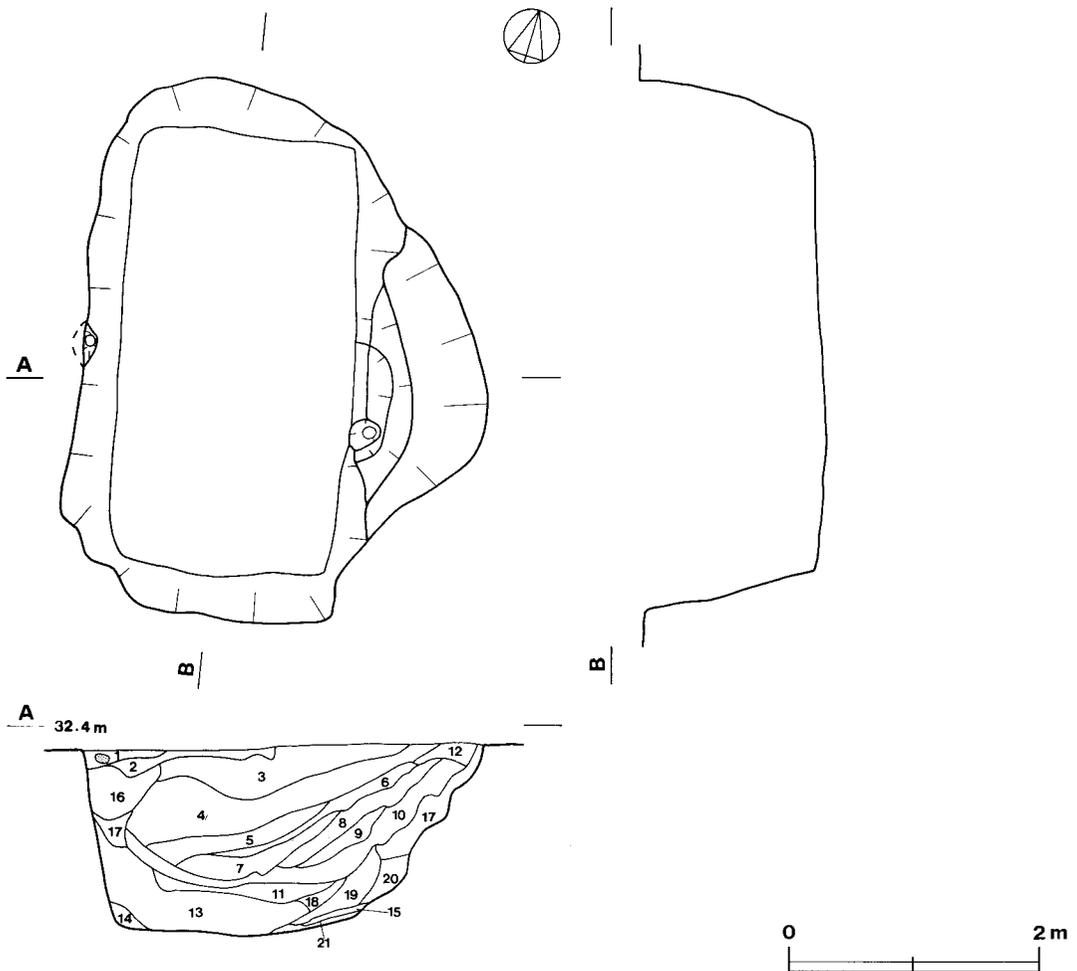
図版 番号	器種	法量				特徴	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
3	鉄鍬	(7.7)	2.8	0.4	(5.5)		底面	雁股 M34

第10号地下式墳 [SK-214] (第163図)

位置 館北西部のC6i₀区を中心に確認されている。

主軸方向 N-76°-E

竪坑 上面は，長径2.5m，短径0.8mの半楕円形を呈し，深さは，1.0mである。長径方向はN



第10号地下式墳 土層解説

- 1 明褐色 バミス粒子少量, バミスブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 橙褐色 バミス粒子少量, バミスブロック・黒色粒子微量
- 4 明褐色 バミス粒子中量, バミスブロック少量
- 5 明褐色 黒色ブロック・バミス粒子微量
- 6 褐色 黒色粒子少量
- 7 にぶい褐色 黒色ブロック少量, スコリアブロック微量
- 8 黒褐色 ローム粒子少量, ロームブロック・黒色ブロック微量
- 9 褐色 ローム粒子多量, 黒色粒子少量
- 10 暗褐色 ローム粒子多量, 黒色ブロック・ロームブロック微量
- 11 褐色 黒色粒子少量, 黒色ブロック・バミスブロック・スコリアブロック微量
- 12 にぶい褐色 バミス粒子少量, 黒色粒子微量
- 13 黒褐色 ローム粒子少量
- 14 明褐色 黒色粒子・バミス粒子少量
- 15 暗褐色 黒色ブロック少量
- 16 にぶい褐色 バミス粒子少量, バミスブロック・黒色粒子微量
- 17 褐色 ローム粒子中量, ロームブロック・黒色ブロック微量
- 18 褐色 黒色粒子少量
- 19 褐色 ローム粒子多量, ロームブロック・黒色ブロック微量
- 20 にぶい褐色 ロームブロック少量, スコリアブロック微量
- 21 暗褐色 黒色粒子少量, バミスブロック微量

第163図 第10号地下式墳実測図

-15°-Wを指している。

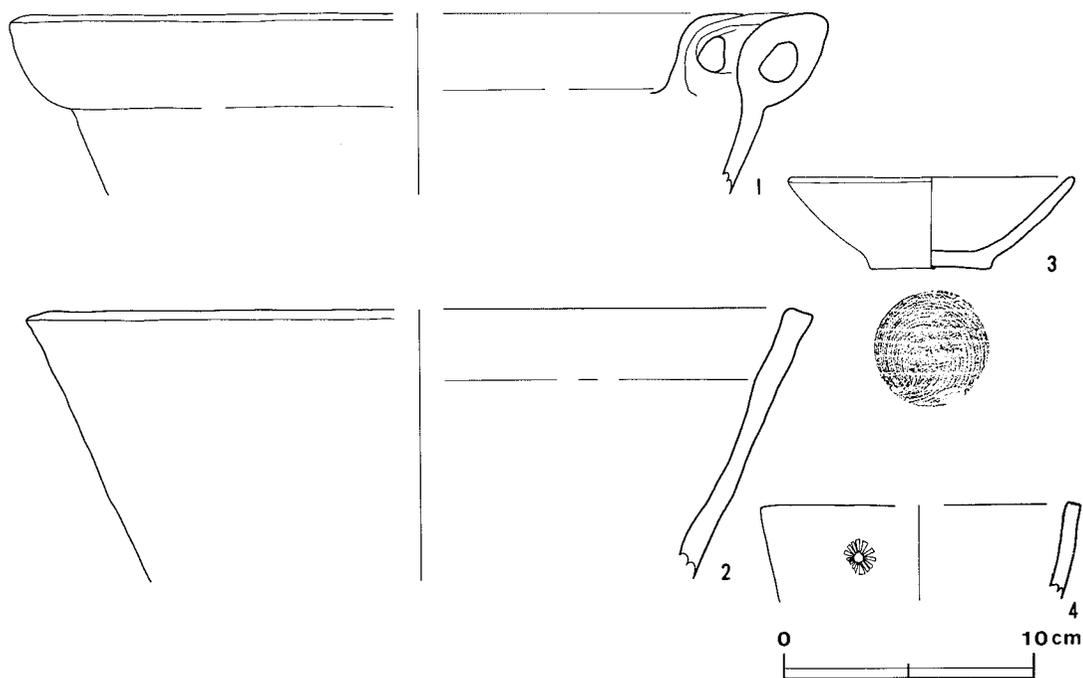
主室 底面は、長軸4.4m、短軸2.5mの長方形を呈し、ほぼ平坦である。確認面から主室底面までの深さは、1.4mである。長軸方向はN-15°-Wを指している。

壁 竪坑は主室底面に向かって、緩やかに階段状に掘られている。主室は外傾して立ち上がっている。

覆土 ローム粒子が多量に含まれており、人為堆積である。

遺物 覆土下層から1や2の内耳鍋片、3の土師質坏片が出土している。その他、混入と思われる縄文式土器や土師器、須恵器の細片が少量出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から15世紀後半から16世紀初頭のものと思われる。



第164図 第10号地下式墳出土遺物実測図

第10号地下式墳出土遺物観察表

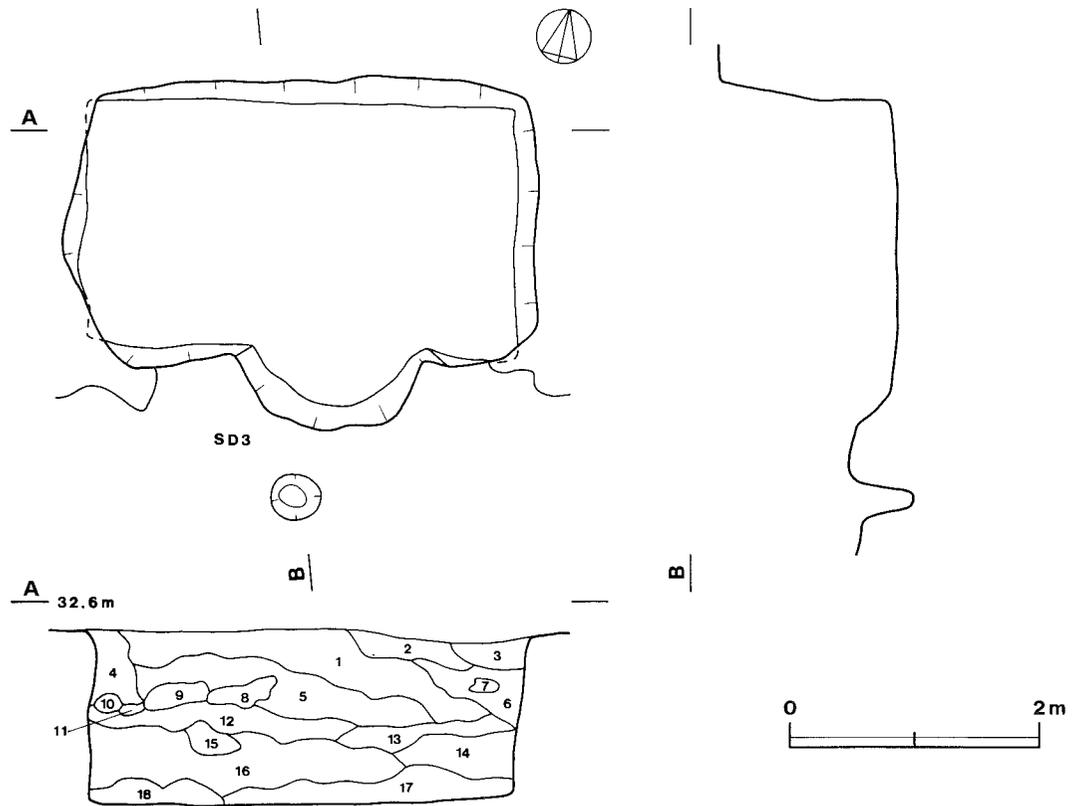
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第164図 1	内耳鍋 土師質土器	A [32.6] B (7.4)	口縁部片。口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 黒褐色 普通	10% P177 ススが付着。 覆土。
2	内耳鍋 土師質土器	A [31.4] B (11.0)	体部、口縁部片。体部、口縁部はほぼ直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部横ナデ。	雲母・砂粒 暗赤褐色 普通	10% P178 ススが付着。 覆土。
3	皿 土師質土器	A 11.5 B 3.8 C 5.9	底部はわずかに突出する。体部、口縁部はほぼ直線的に外傾して立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒 にぶい黄褐色 良好	95% P179 板目状圧痕。 覆土。

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第164図 4	香炉 瓦質土器	A [12.8] B (3.9)	体部, 口縁部片。体部, 口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面横ナデ。体部上位に菊花の押印文。	砂粒 褐灰色 良好	5% 覆土。 P 180

第14号地下式墳 [SK-378] (第165図)

位置 館南部のE7b₄区を中心に確認されている。

主軸方向 N-13°-W



第14号地下式墳 土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------------|--------|---|
| 1 黒褐色 | 黒色粒子多量, ローム粒子・ロームブロック少量, 砂微量 | 12 黒色 | 黒色粒子多量, ローム粒子・砂微量 |
| 2 暗褐色 | 黒色粒子・ローム粒子中量, ロームブロック少量, 砂・礫微量 | 13 黒褐色 | 黒色粒子多量, ローム粒子・ローム中ブロック少量, 砂・スコリア粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量, 黒色粒子・ロームブロック少量, 砂微量 | 14 明褐色 | ソフトローム多量 |
| 4 褐色 | ローム粒子多量, ロームブロック中量, 黒色粒子少量, 砂微量 | 15 暗褐色 | ローム粒子多量, 黒色粒子中量, スコリア・ローム小ブロック少量, 砂微量 |
| 5 黒色 | 黒色粒子多量, ローム粒子・ローム小ブロック・砂微量 | 16 褐色 | ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, 黒色粒子少量, パミス粒子・スコリアブロック・砂微量 |
| 6 黒褐色 | 黒色粒子多量, ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 砂微量 | 17 暗褐色 | ローム粒子多量, 黒色粒子・ローム中ブロック中量, パミス粒子・砂・スコリア微量 |
| 7 明褐色 | ハードローム多量 | 18 黒色 | 黒色粒子多量, ローム粒子少量, スコリア・砂微量 |
| 8 褐色 | ローム粒子・黒色粒子中量, 砂・礫・スコリア粒子微量 | | |
| 9 褐色 | ローム粒子多量, スコリア粒子・砂微量 | | |
| 10 明褐色 | ハードローム | | |
| 11 暗褐色 | ローム粒子多量, 黒色粒子少量, 砂・スコリア粒子微量 | | |

第165図 第14号地下式墳実測図

竪坑 上面は、長径1.5m、短径0.7mの半楕円形を呈し、深さは、1.4mである。底面は長径1.6m、短径1.4mの半楕円形を呈している。長径方向はN-75°-Eを指している。

主室 底面は、長軸4.3m、短軸2.5mの長方形を呈し、平坦である。確認面から主室底面までの深さは、1.4mである。長軸方向はN-75°-Eを指している。

壁 竪坑は、主室底面に向かって緩やかに傾斜している。主室は、ほぼ垂直に立ち上がっている。

覆土 ローム粒子やロームブロックを多く含んでおり、人為堆積である。

所見 本跡は、遺構の形態や位置等から15世紀後半のものと思われる。

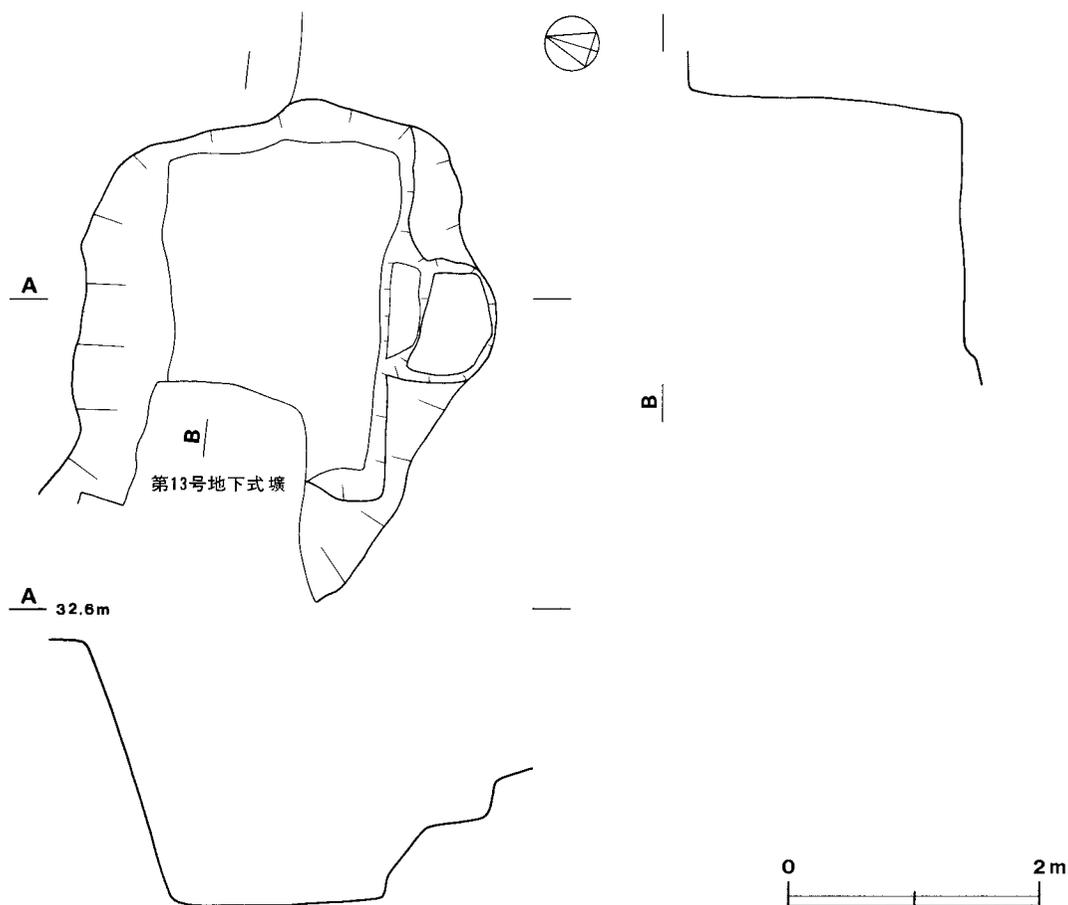
第15号地下式壙 [SK-380] (第166図)

位置 館南部のE7c₁区を中心に確認されている。

重複関係 本跡の西壁は、第13号地下式壙を掘り込んでいる。

主軸方向 N-10°-W

竪坑 上面は、長軸1.0m、短軸0.9mの不整長方形を呈し、深さは、2.2mである。長軸方向は



第166図 第15号地下式壙実測図

N-73°-Eを指している。

主室 底面は、長軸2.6m、短軸1.9mの長方形を呈し、平坦である。確認面から主室底面までの深さは、2.2mである。長軸方向はN-75°-Eを指している。

壁 竪坑は南部から主室底面に向かって、階段状に掘られている。主室の東壁は、ほぼ垂直に立ち上がっているのに対し、北壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 断面が崩落してしまい不明である。

遺物 覆土から内耳鍋の細片が出土している。また、底面から馬の歯が出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から15世紀後半のものと思われる。

第16号地下式墳 [SK-489] (第167図)

位置 館南西部のD6g₆区を中心に確認されている。

主軸方向 N-61°-E

竪坑 上面は、長径1.6m、短径1.2mの半楕円形を呈し、深さは、1.0mである。底面は長径0.8m、短径0.5mの半楕円形を呈している。長径方向はN-32°-Wを指している。

主室 底面は、長軸2.4m、短軸1.9mの長方形を呈し、平坦である。確認面から主室底面までの深さは、1.1mである。長軸方向はN-32°-Wを指している。

壁 竪坑は、外傾している。主室は、中位まで緩やかに外傾し、それより上はほぼ垂直に立ち上がっている。

覆土 覆土中層までは、竪坑側からの自然堆積である。上層はブロック状の堆積をしており、人為堆積である。

遺物 覆土上層から1の内耳鍋が出土している。また、底面からは礫が出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から15世紀後半のものと思われる。

第16号地下式墳出土遺物観察表

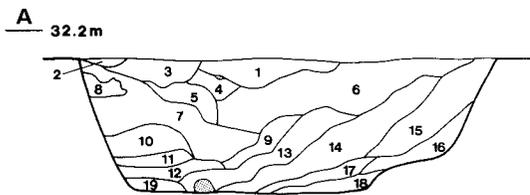
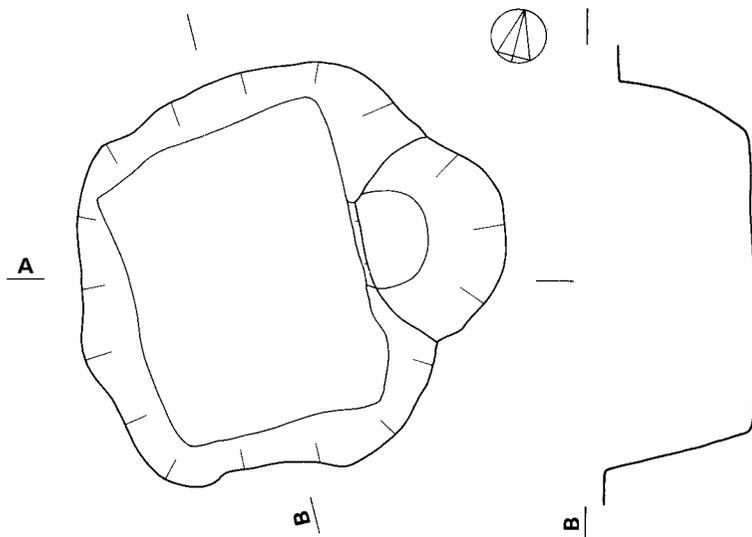
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第167図 1	内耳鍋 土師質土器	A [38.2] B (14.4)	体部、口縁部片。体部は内彎しながら外上方に立ち上がる。口縁部は頸部から内彎ぎみに立ち上がる。	口縁部、体部内・外面横ナデ。	砂粒 橙色 普通	5% P197 ススが付着。 覆土。

第18号地下式墳 [SK-521] (第168図)

位置 館北部のC6a₀区を中心に確認されている。

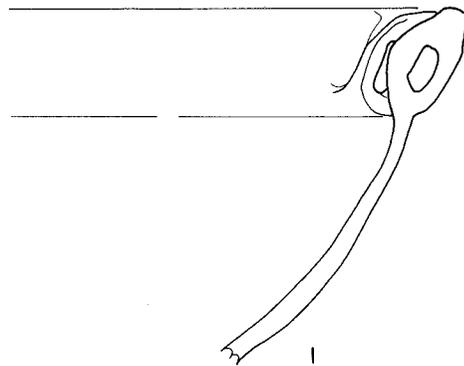
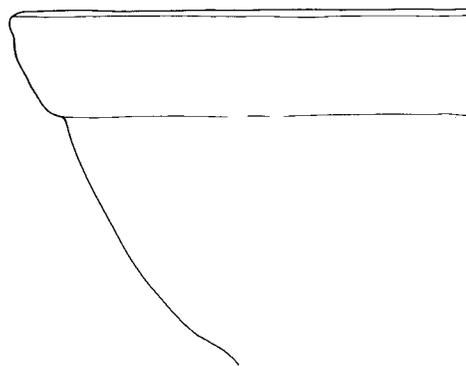
重複関係 本跡の南西壁は、第9号溝を掘り込んでいる。本跡の竪坑は第30号地下式墳の竪坑としても使用されており、同時期に存在したものと思われる。

主軸方向 N-26°-W

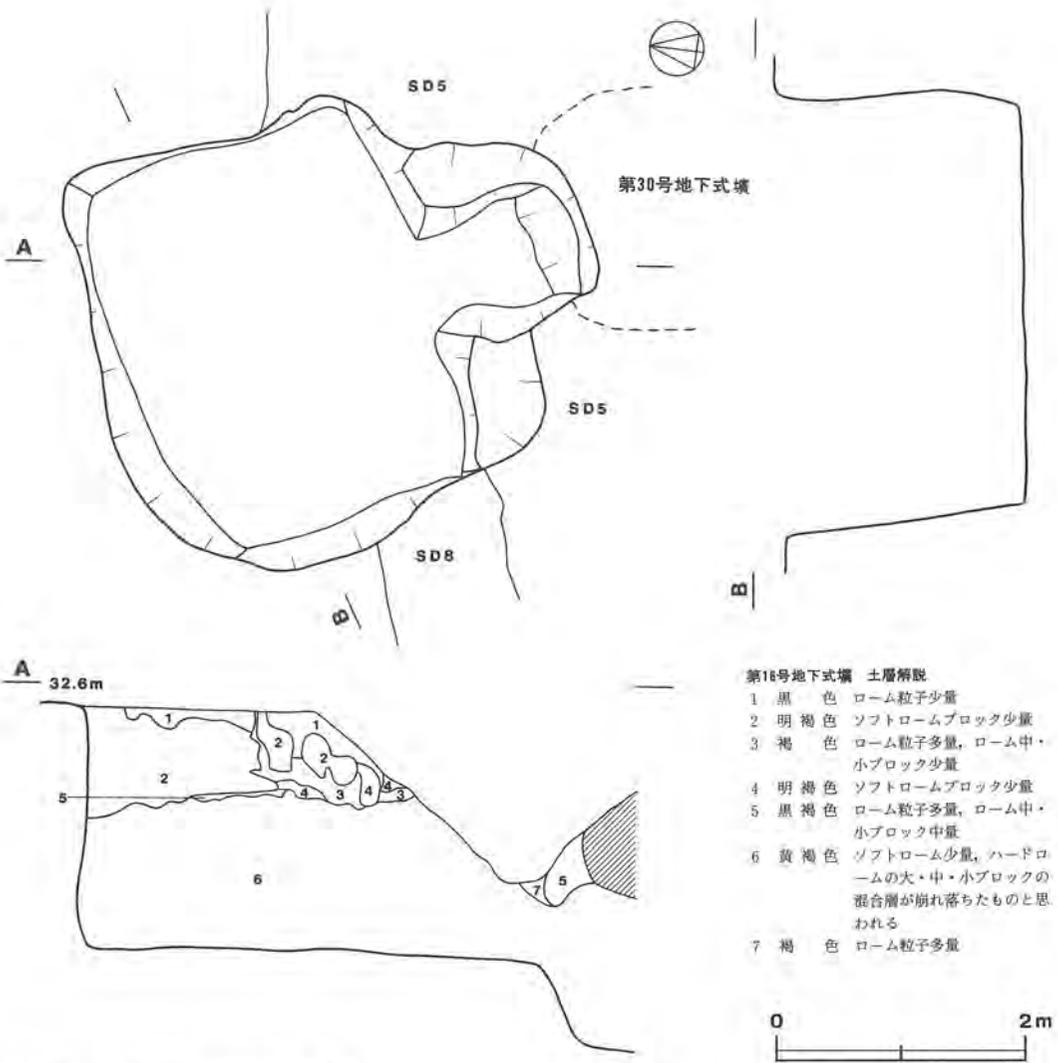


第16号地下式墳 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・黒色粒子少量，礫微量，スコリア粒子・パミス粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・スコリア粒子少量
- 3 黒褐色 黒色粒子少量，ローム粒子極少量
- 4 極暗褐色 ローム粒子極少量，スコリア粒子極微量
- 5 暗褐色 ローム粒子・スコリア粒子極少量，パミス粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子中量，スコリア粒子・礫微量，パミス粒子極微量
- 7 黒色 黒色粒子多量，パミス粒子極少量
- 8 褐色 ローム粒子・スコリア粒子少量，黒色粒子極少量
- 9 黒褐色 ローム粒子・黒色粒子少量
- 10 明褐色 ローム粒子・スコリア粒子少量，黒色粒子極少量，パミス粒子微量
- 11 黒褐色 黒色粒子中量，ローム粒子少量
- 12 暗褐色 ローム粒子・スコリア粒子・黒色粒子少量
- 13 黒褐色 黒色粒子中量，ローム粒子少量，パミス粒子微量
- 14 褐色 ローム粒子中量，黒色粒子少量，スコリア粒子・パミス粒子微量
- 15 暗褐色 ローム粒子・スコリア粒子・黒色粒子少量，パミス粒子極微量
- 16 暗褐色 ローム粒子少量，パミス粒子極微量
- 17 黒褐色 黒色粒子中量，ローム粒子少量，スコリア粒子極少量
- 18 暗褐色 ローム粒子少量，パミス粒子極少量
- 19 褐色 ローム粒子・パミス粒子中量，黒色粒子極少量



第167図 第16号地下式墳・出土遺物実測図



第168図 第18号地下式墳実測図

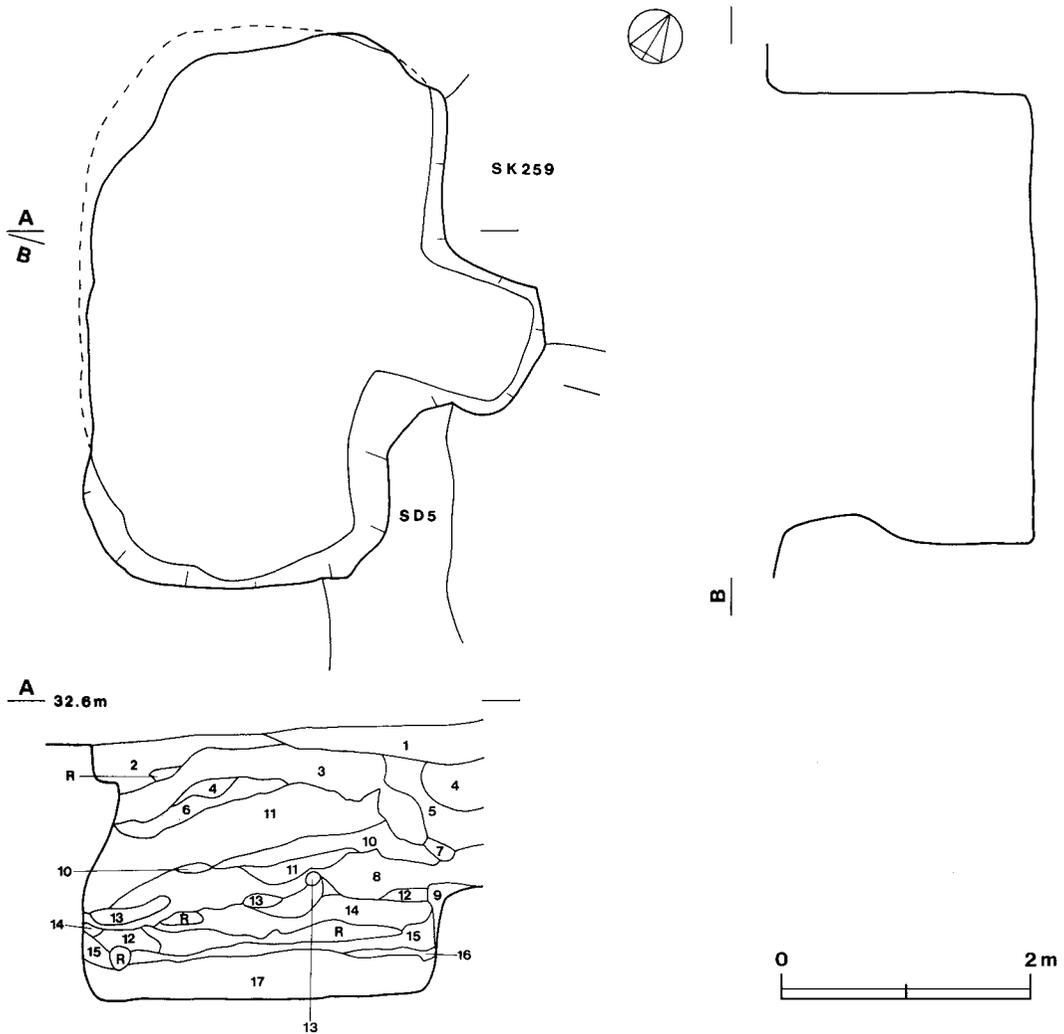
竪坑 上面は、長軸1.7m、短軸1.4mの不定形を呈し、深さは、2.0mである。底面は長軸1.3m、短軸0.8mの不定形を呈している。長軸方向はN-26°-Wを指している。

主室 底面は、長軸3.2m、短軸2.4mの長方形を呈し、平坦である。確認面から主室底面までの深さは、2.0mである。長軸方向はN-61°-Wを指している。

壁 竪坑は南東部から主室に向かって、傾斜している。主室は、ほぼ垂直に立ち上がっている。

覆土 覆土の最下層は、厚さ1.2mのロームブロックを多量に含む層で、竪坑側からいっきに埋め戻されたものと思われる。

所見 本跡は、遺構の形態等から15世紀後半のものと思われる。



第19号地下式墳 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 灰褐色 ローム粒子少量, 黒色粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, ロームブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, パミス粒子少量, 黒色粒子微量
- 5 灰褐色 ローム粒子中量, ロームブロック・パミス粒子少量, 黒色粒子微量
- 6 黒色 ローム粒子少量
- 7 黒褐色 ローム粒子・ロームブロック少量
- 8 黒褐色 ローム粒子少量, ロームブロック・黒色ブロック微量
- 9 にぶい褐色 黒色粒子極少量
- 10 にぶい褐色 黒色ブロック中量, パミス粒子少量
- 11 にぶい褐色 ロームブロック多量, パミス粒子少量, パミスブロック微量, 黒色ブロック極微量
- 12 褐色 ローム粒子少量, 黒色ブロック極微量
- 13 赤褐色 スコリア粒子多量, 黒色ブロック極微量
- 14 褐色 黒色粒子中量, 黒色ブロック少量, パミスブロック・スコリア粒子微量
- 15 褐色 黒色粒子多量, ローム粒子少量
- 16 灰褐色 黒色粒子中量, ローム粒子少量
- 17 褐色 含有物なし

第169図 第19号地下式墳実測図

第19号地下式塙 [SK-529] (第169図)

位置 館中央部のC7i₈区を中心に確認されている。

重複関係 本跡の竪坑は、第259号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。また、主室の北コーナー部は第5号堀を掘り込んでいる。

主軸方向 N-58°-E

竪坑 上面は、長軸1.3m、短軸1.1mの隅丸長方形を呈し、深さは、2.1mである。底面は長軸1.1m、短軸0.9mの隅丸長方形を呈している。長軸方向はN-75°-Eを指している。

主室 底面は、長軸4.5m、短軸2.8mの隅丸長方形を呈し、ほぼ平坦である。確認面から主室底面までの深さは、2.1mである。長軸方向はN-30°-Wを指している。

壁 竪坑は、垂直に立ち上がっている。主室は、胴張りを呈している。

覆土 覆土下層は、天井部のロームが崩落して堆積したものと思われる。それより上層は、ブロック状の堆積をしており人為堆積である。

遺物 覆土から多量の内耳鍋の細片が出土しているが、ほとんど接合できない。

所見 本跡は、出土遺物等から15世紀後半から16世紀前半のものと思われる。また、本跡は使用していた時には空洞であったと思われ、土倉的性格の遺構と思われる。

第20号地下式塙 [SK-531] (第170図)

位置 館中央部のD7a₆区を中心に確認されている。

重複関係 本跡の竪坑は、第5号堀を掘り込んでいる。また、南コーナー部は第6号地下式塙と重複しているが、新旧関係は不明である。

主軸方向 N-46°-W

竪坑 上面は、長軸3.0m、短軸1.9mの不定形を呈し、深さは、1.8mである。長軸方向はN-41°-Eを指している。

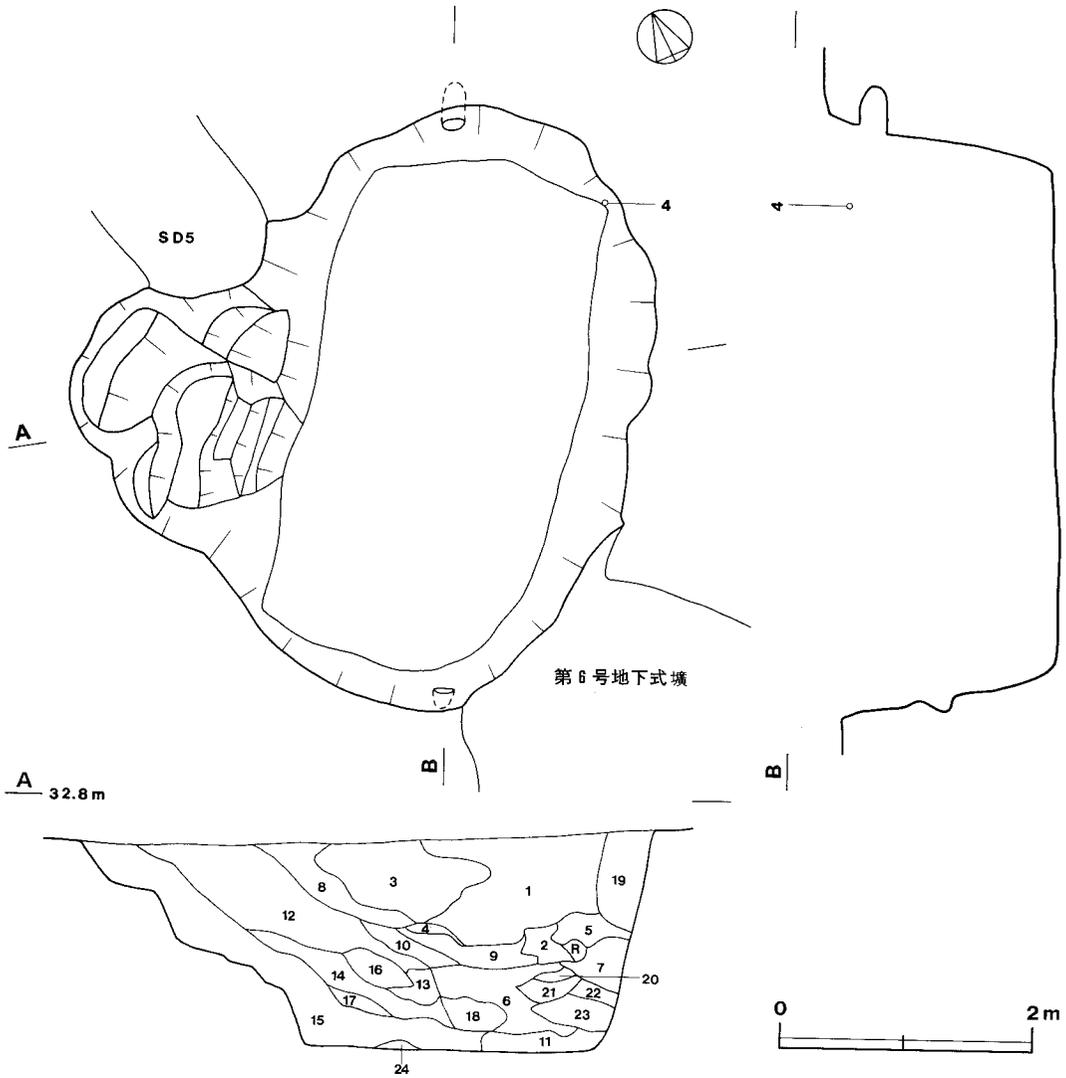
主室 底面は、長軸4.2m、短軸2.1mの隅丸長方形を呈し、平坦である。確認面から主室底面までの深さは、1.8mである。長軸方向はN-41°-Eを指している。

壁 竪坑は、北西部から主室底面に向かって、階段状に掘られている。主室は、南西壁がオーバーハングしているのに対し、他の壁はほぼ垂直に立ち上がっている。

覆土 ローム土がかなり多く含まれており、不自然な堆積をしていることから人為堆積である。

遺物 覆土中、下層から1の内耳鍋片や2、3の常滑産の陶器片、瀬戸産の陶器の細片が多量に出土している。また、4の尖頭器は東コーナー壁の上位の部分に突き刺さった状態で出土している。

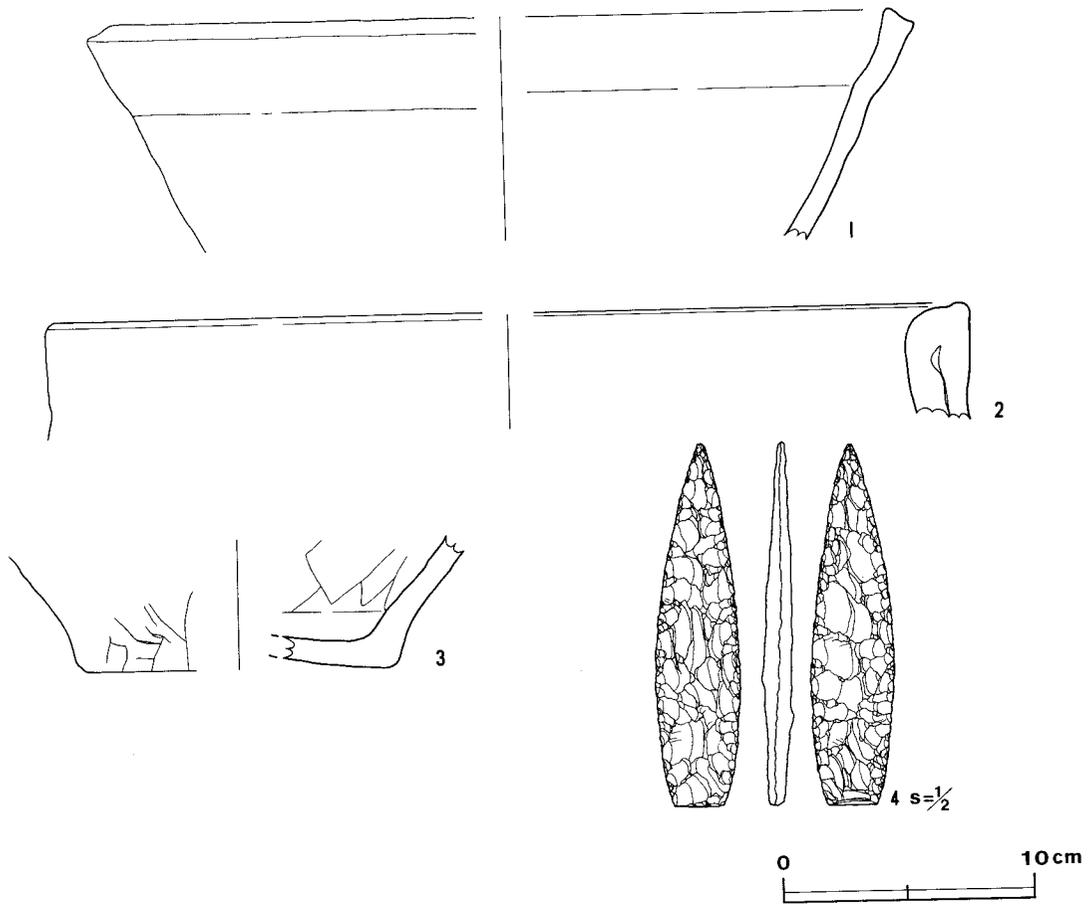
所見 本跡は、重複関係や出土遺物、遺構の形態等から15世紀後半から16世紀前半のものと思われる。



第20号地下式墳 土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------------|--------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, パミス粒子極微量 | 13 黒褐色 | 黒色粒子多量, ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・黒色粒子少量, ローム小ブロック微量 | 14 暗褐色 | ローム粒子・黒色粒子少量, スコリア粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量, パミス粒子少量, パミス中ブロック微量 | 15 褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・黒色粒子少量, パミス粒子微量, 炭化粒子極微量 | 16 褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子少量, スコリア粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・黒色粒子微量 | 17 黒褐色 | ローム粒子少量, スコリア粒子微量 |
| 6 黒色 | 黒色粒子多量, ローム粒子少量 | 18 黒褐色 | 黒色粒子中量, 粘土少量, ローム小ブロック微量 |
| 7 明褐色 | ロームブロック多量, 黒色粒子少量 | 19 明褐色 | ローム粒子多量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子・パミス粒子・黒色粒子少量 | 20 灰褐色 | 黒色粒子・粘土少量, ローム粒子極少量 |
| 9 黒褐色 | 黒色粒子中量, ローム粒子微量, ローム小ブロック・パミス粒子極微量 | 21 褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・黒色粒子少量, 粘土極少量 |
| 10 黒褐色 | 黒色粒子多量, ローム粒子微量 | 22 黒褐色 | 黒色粒子中量, ローム粒子・粘土微量 |
| 11 明褐色 | ローム粒子多量, スコリア粒子少量 | 23 明褐色 | ローム中ブロック少量(ソフトローム), 黒色粒子極少量 |
| 12 暗褐色 | ローム粒子・スコリア粒子・黒色粒子少量, パミス粒子極微量 | 24 暗褐色 | ローム粒子・黒色粒子少量 |

第170図 第20号地下式墳実測図



第171図 第20号地下式墳出土遺物実測図

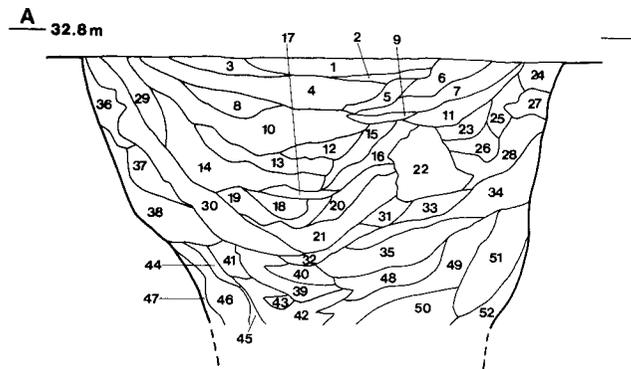
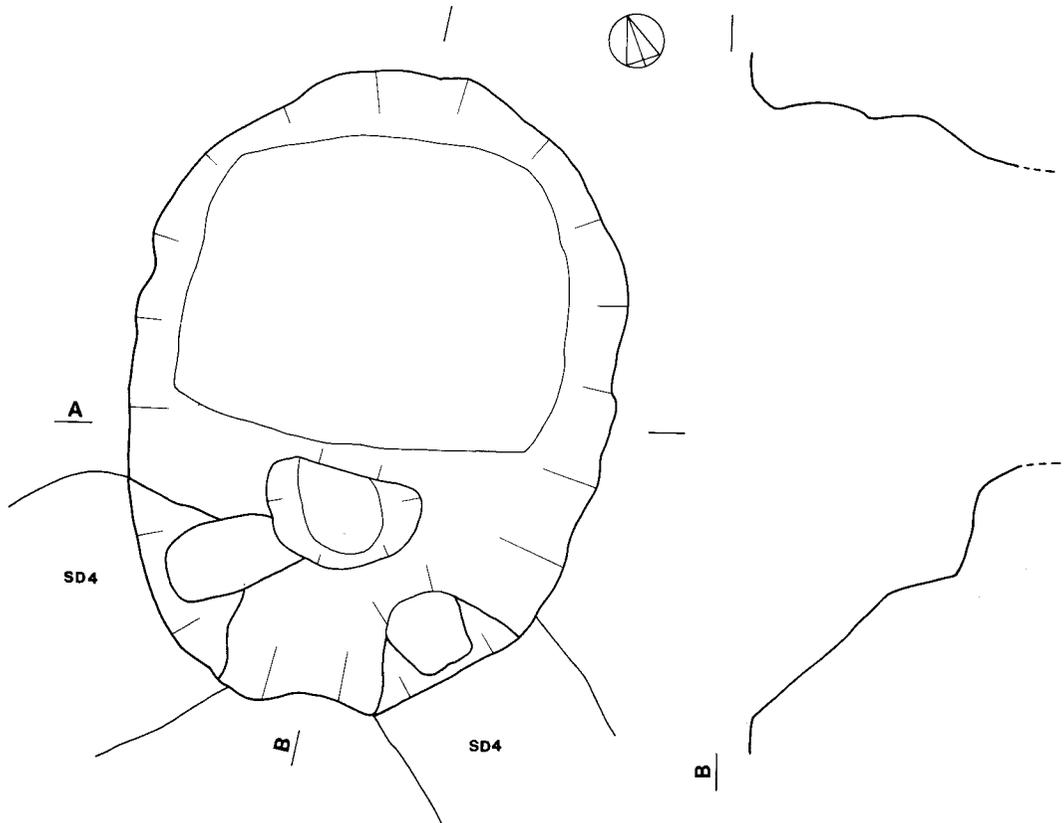
第20号地下式墳出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第171図 1	内耳鍋 土師質土器	A [30.6] B (9.3)	体部, 口縁部片。体部と口縁部 内面の境に稜を持ち, 口縁部で 内彎ぎみに立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面横ナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	10% P204 ススが付着。 覆土。
2	甕 陶器	A [36.0] B (4.8)	口縁部片。縁帯は幅広で, 断面 「N」字状の折り返し。	紐土巻き上げ成形。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	5% P205 常滑産。 覆土。
3	甕 陶器	B (5.3) C 12.6	底部, 脛部片。平底。底部から 脛部に向かって直線的に外傾す る。	紐土巻き上げ成形。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	20% P206 常滑産。15c 後 ~16c 前。覆土。

図版 番号	器種	石質	法量				出土地点	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	尖頭器	頁岩	9.7	2.3	0.9	15.1	東コーナー壁上位	Q44

第25号地下式墳 [SK-595] (第172図)

位置 館北部の B7i区を中心に確認されている。



第25号地下式墳 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量
- 7 暗黒褐色 ローム粒子少量
- 8 黒褐色 ローム粒子中量
- 9 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 10 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック極微量
- 11 黒褐色 ローム粒子少量
- 12 黒褐色 ローム粒子少量, 黒色粒子極微量
- 13 黒褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子少量
- 14 黒褐色 ローム粒子中量
- 15 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック極微量
- 16 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子極微量
- 17 黒褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子極微量
- 18 黒褐色 ローム粒子中量



第172図 第25号地下式墳実測図

19	黒褐色	ローム粒子少量, 黒色粒子極微量	37	暗褐色	黒色粒子少量
20	黒褐色	ローム粒子少量	38	褐色	黒色粒子極微量
21	黒褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック極微量	39	黒褐色	ローム粒子中量
22	黒色	ローム粒子微量	40	黒褐色	ローム粒子少量
23	黒褐色	ローム粒子少量	41	暗褐色	黒色粒子中量
24	黒褐色	ローム粒子中量	42	黒褐色	ローム粒子中量
25	黒色	ローム粒子微量	43	暗褐色	黒色粒子中量, パミス粒子少量
26	黒褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 黒色粒子微量	44	褐色	黒色粒子少量
27	黒褐色	ローム漸移層	45	暗褐色	ローム粒子中量
28	黒褐色	ローム粒子中量, ローム漸移層中ブロック極微量	46	暗褐色	黒色粒子少量, パミス粒子極微量
29	黒褐色	ローム粒子少量	47	褐色	パミス粒子少量, 黒色粒子微量
30	黒褐色	ローム粒子中量	48	褐色	黒色粒子中量
31	黒褐色	ローム粒子少量	49	褐色	黒色粒子・ローム小ブロック少量
32	黒褐色	ローム粒子少量, スコリア粒子微量	50	褐色	黒色粒子微量
33	黒褐色	黒色粒子多量	51	褐色	ローム中ブロック中量, パミス小ブロック微量, 黒色粒子・黒色小ブロック極微量
34	暗褐色	黒色粒子中量, 黒色小ブロック微量	52	褐色	パミス粒子少量
35	暗褐色	黒色粒子多量, 黒色小ブロック少量			
36	暗褐色	黒色粒子多量, 黒色小ブロック微量			

主軸方向 N-23°-E

竪坑 上面は、長径3.6m、短径2.1mの半楕円形を呈し、深さは、1.8mである。底面は長径0.7m、短径0.6mの半楕円形を呈している。長径方向はN-68°-Wを指している。

主室 確認面から2.5mまで掘り下げたが、それ以下は、調査できなかった。

壁 竪坑は緩やかに傾斜している。主室は、ほぼ垂直に立ち上がるものと思われる。

覆土 黒褐色土が主層である自然堆積と思われる。

遺物 覆土から陶磁器の細片が少量出土している。また、流入したと思われる土師器の甕片が出土している。

所見 本跡は、出土遺物等からI区第4・5号堀と同時期に存在したと思われる、15世紀後半から16世紀前半のものと思われる。

第26号地下式壙 [SK-638] (第173図)

位置 館の西中央寄りのD7d₁区を中心に確認されている。

重複関係 本跡は、第636・637・642・681号土坑を掘り込んでいる。北東コーナー部は、第27号地下式壙と重複しているが、新旧関係は不明である。

主軸方向 N-13°-W

竪坑 上面は、長軸1.3m、短軸1.1mの長方形を呈し、深さは、1.8mである。底面は長径1.3m、短径0.4mの半楕円形を呈している。長軸方向はN-73°-Eを指している。

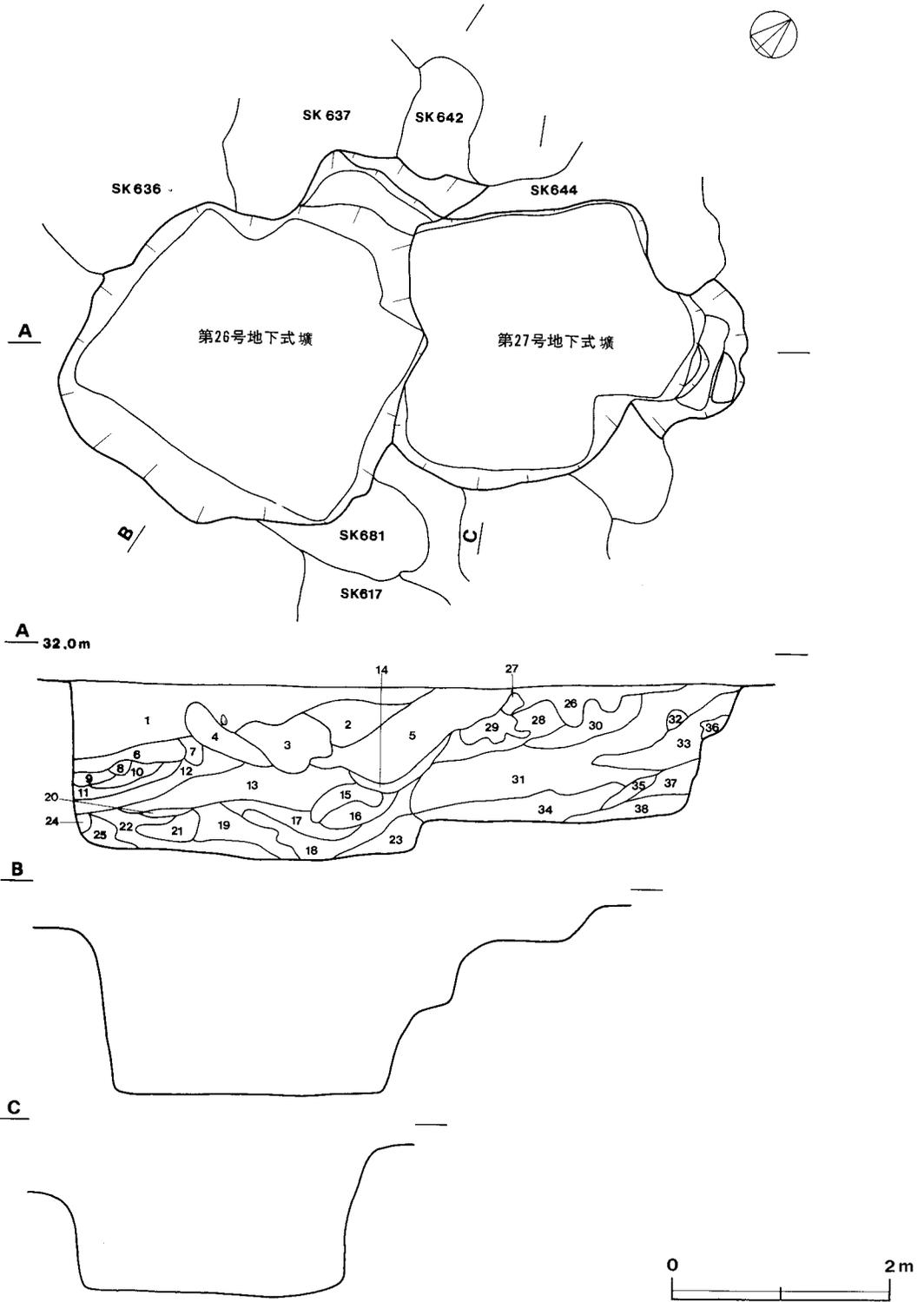
主室 底面は、長軸2.7m、短軸2.1mの長方形を呈し、平坦である。確認面から主室底面までの深さは、1.8mである。長軸方向はN-73°-Eを指している。

壁 竪坑は、北部から主室底面に向かって、階段状に掘られている。主室は、ほぼ垂直に立ち上がっている。

覆土 ロームブロック等を含み不自然な堆積をしており、人為堆積である。

遺物 覆土中、上層から石鉢や1の陶器片、内耳鍋、土師質土器の細片が出土している。

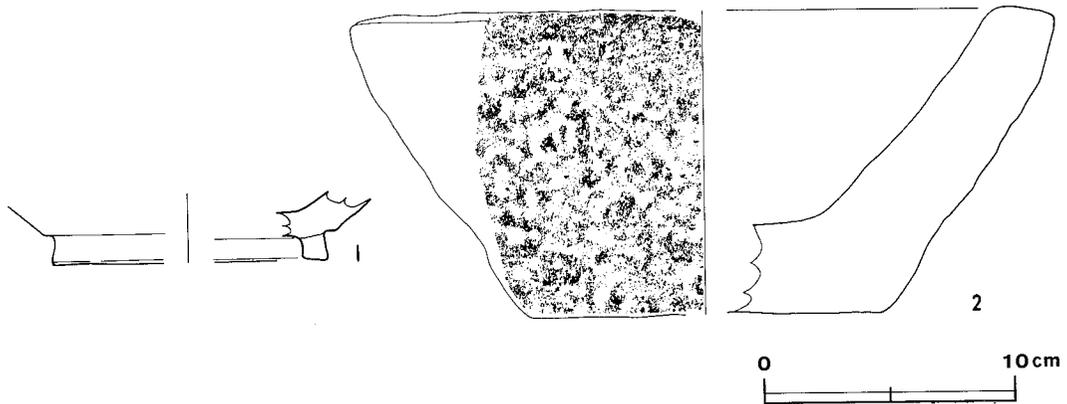
所見 本跡は、出土遺物等から15世紀後半のものと思われる。



第173図 第26・27号地下式墳実測図

第26・27号地下式墳 土層解説

- | | | | |
|--------|---|--------|---|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 燐微量 | 21 暗褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子少量 |
| 2 黄褐色 | ソフトローム小ブロック中量, 黒色粒子・パミス小ブロック少量, 焼土小ブロック微量 | 22 褐色 | 黒色粒子少量, パミス中ブロック極微量 |
| 3 黄褐色 | ソフトローム小ブロック中量, パミス小ブロック少量, 黒色粒子・焼土小ブロック微量 | 23 褐色 | 黒色粒子・ハードロームブロック・パミス小ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子極微量 | 24 褐色 | パミス粒子中量, ソフトローム小ブロック微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, ローム中ブロック・炭化粒子極微量 | 25 褐色 | ハードローム大ブロック少量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量 | 26 褐色 | 黒色粒子少量, 炭化粒子極微量 |
| 7 明褐色 | ローム漸移層 | 27 褐色 | ソフトローム小ブロック多量, 黒色粒子少量 |
| 8 褐色 | 黒色粒子少量, ローム小ブロック微量 | 28 褐色 | ハードローム大ブロック多量, 黒色粒子・パミス中ブロック少量 |
| 9 黄褐色 | 黒色粒子微量 | 29 黒褐色 | ローム粒子多量, ソフトローム小ブロック中量, ハードローム大ブロック極微量 |
| 10 褐色 | 黒色粒子少量 | 30 褐色 | ハードローム小ブロック多量, パミス小ブロック少量, 黒色粒子極微量 |
| 11 黄褐色 | 黒色粒子少量, ソフトローム含有 | 31 褐色 | パミス粒子・ハードローム中・小ブロック多量, ローム中ブロック中量 |
| 12 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・スコリア小ブロック微量 | 32 褐色 | ハードロームブロック少量 |
| 13 黄褐色 | ソフトローム小ブロック中量, パミス粒子少量, 黒色粒子極少量, ローム小ブロック微量 | 33 褐色 | ハードローム小ブロック多量, パミス粒子少量, ローム小ブロック微量, 黒色粒子極微量 |
| 14 褐色 | 黒色粒子中量, パミス粒子・ローム小ブロック極微量 | 34 褐色 | 黒色粒子・ハードローム小ブロック少量, ローム小ブロック微量 |
| 15 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 | 35 褐色 | 黒色粒子中量, パミス粒子少量, 炭化粒子極微量 |
| 16 黄褐色 | パミス粒子・黒色粒子・ハードローム小ブロック少量 | 36 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 17 褐色 | 黒色粒子・ローム漸移層小ブロック少量, パミス粒子・ハードローム中・小ブロック・ソフトローム小ブロック微量 | 37 黒褐色 | ローム粒子少量, スコリア含有ローム小ブロック微量 |
| 18 黒褐色 | 黒色粒子極多量, ソフトローム小ブロック多量, 炭化物・ローム漸移層中ブロック少量 | 38 褐色 | ハードローム大ブロック多量, 黒色粒子微量 |
| 19 黄褐色 | 黒色粒子・パミス小ブロック極微量, ソフトローム含有 | | |
| 20 黒褐色 | ローム粒子中量 | | |



第174図 第26号地下式墳出土遺物実測図

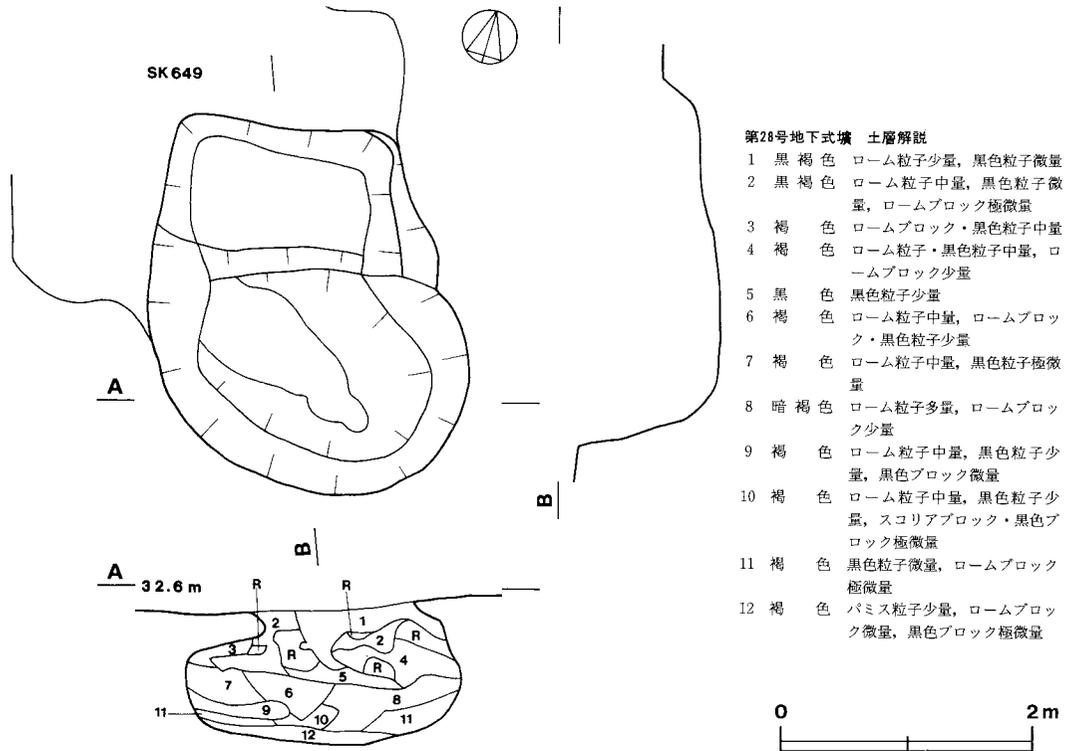
第26号地下式墳出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴				手法の特徴		胎土・色調・焼成	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考		
第174図 1	長頸壺 陶器	B (2.7) D [10.8] E 1.0	底部, 体部片。高台は低く, 幅が厚い。				付高台。体部内・外面横ナデ。		砂粒 灰色 普通	5% P222 覆土第1層。
2	石鉢	花崗岩	[28.2]	12.4	[14.0]	(1142.1)	覆土第1層		Q19	

第28号地下式墳 [SK-650] (第175図)

位置 館南部のD8i区を中心に確認されている。

重複関係 本跡の竪坑は, 第33号小竪穴状遺構と重複しているが, 新旧関係は不明である。



第175図 第28号地下式墳実測図

主軸方向 N-21°-W

竪坑 上面は、長軸1.9m、短軸1.0mの隅丸長方形を呈し、深さは、0.4mである。底面は長軸1.4m、短軸0.8mの隅丸長方形を呈している。長軸方向はN-85°-Eを指している。

主室 底面は、長径2.8m、短径2.0mの不整楕円形を呈し、皿状を呈している。確認面から主室底面までの深さは、1.2mである。長径方向はN-76°-Wを指している。

壁 竪坑は、主室底面に向かって緩やかに傾斜している。主室は、胴張りを呈している。

覆土 ロームブロックや鹿沼パミスを含んでおり、人為堆積である。

遺物 覆土下層から内耳鍋の細片や馬骨が出土している。

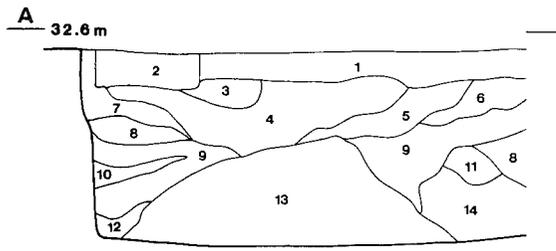
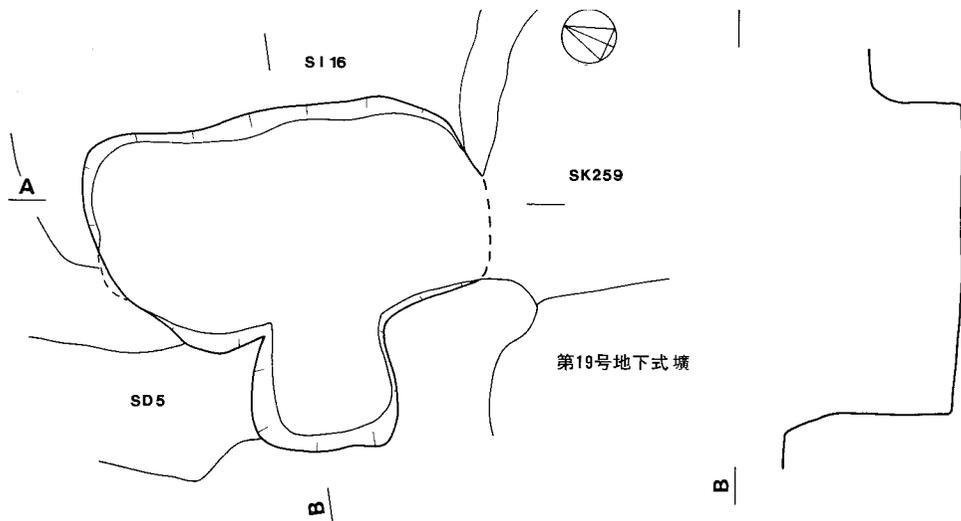
所見 本跡は、出土遺物等から15世紀後半のものと思われる。

第29号地下式墳 [SK-662] (第176図)

位置 館中央部のC7h₉区を中心に確認されている。

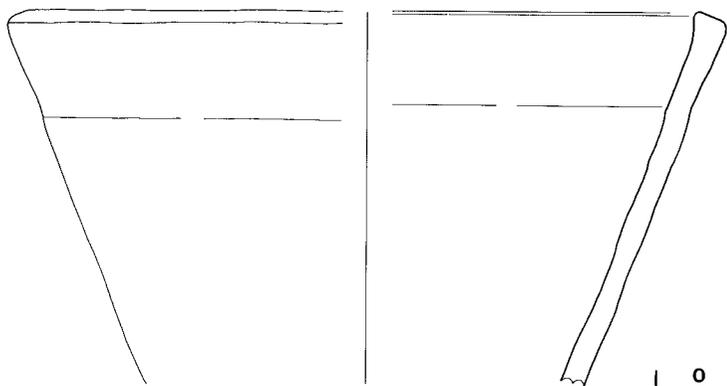
重複関係 本跡の南東壁は、第259号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。また、北東壁は第5号方形竪穴状遺構を掘り込んでいます。

主軸方向 N-56°-E



第29号地下式 塙 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 灰褐色 ローム粒子少量, 黒色粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, ロームブロック微量
- 4 黒褐色 黒色粒子・ローム粒子少量
- 5 褐色 黒色粒子極微量
- 6 褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子少量
- 7 灰褐色 ローム粒子中量, ロームブロック・パミス粒子少量, 黒色粒子微量
- 8 褐色 ロームブロック多量, パミス粒子少量
- 9 黒色 ローム粒子少量
- 10 黒褐色 ロームブロック・ローム粒子少量
- 11 黒褐色 ローム粒子少量, ロームブロック・黒色ブロック微量
- 12 褐色 黒色粒子極少量
- 13 におい褐色 黒色粒子極少量



第176図 第29号地下式 塙・出土遺物実測図

竪坑 上面は、一辺1.1mの方形を呈し、深さは、1.8mである。底面は一辺0.9mの方形を呈している。長軸方向はN-56°-Eを指している。

主室 底面は、長軸 [3.1]m、短軸1.5mの不整隅丸長方形を呈し、平坦である。確認面から主室底面までの深さは、1.8mである。長軸方向はN-34°-Wを指している。

壁 竪坑、主室ともに垂直に立ち上がっている。

覆土 覆土下層は、天井部のローム土が崩落して堆積したものと思われる。それより上層は、ブロック状の堆積をしており、人為堆積である。

遺物 覆土から1の内耳鍋片や土師質土器の細片が出土している。

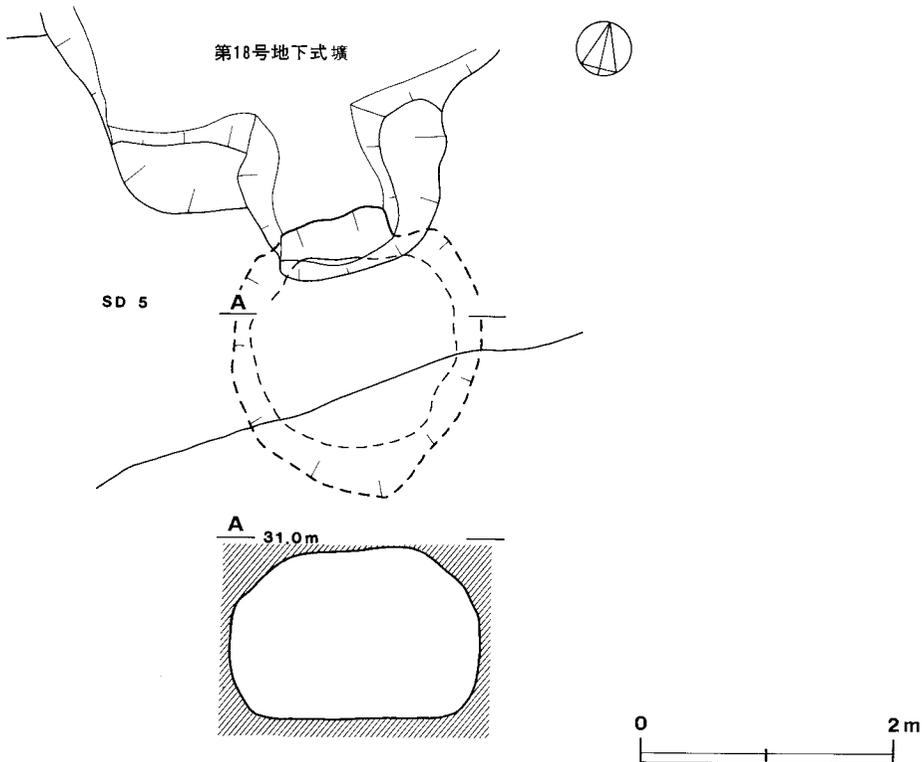
所見 本跡は、出土遺物や重複関係等から15世紀後半のものと思われる。

第29号地下式竈出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第176図 1	内耳鍋 土師質土器	A [28.8] B (15.1)	体部、口縁部片。体部と口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面横ナデ。	砂粒 黒褐色 普通	10% P223 ススが付着。 覆土。

第30号地下式竈 [SK-862] (第177図)

位置 館南西部のC6a₀区を中心に確認されている。



第177図 第30号地下式竈実測図

重複関係 本跡の竪坑は、第18号地下式墳と併用されている。

主軸方向 N-26°-W

竪坑 上面は、長軸1.7m、短軸1.4mの不定形を呈し、深さは、2.0mである。底面は長軸1.3m、短軸0.8mの不定形を呈している。長軸方向はN-26°-Wを指している。

主室 底面は、径1.6mの不整円形を呈し、竪坑から主室奥壁に向かって若干の傾斜が見られる。天井部の厚さは、1.9mで、良く遺存しており、底面から天井までの高さは1.3mである。確認面から主室底面までの深さは、3.1mである。長径方向はN-26°-Wを指している。

壁 竪坑は南東部から主室底面に向かって、傾斜している。主室は胴張りを呈しており、側壁にはノミ状工具痕が見られる。

覆土 ロームブロックを多量に含む単一層の堆積であり、人為堆積である。

遺物 覆土から内耳鍋の細片が出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から15世紀後半のものと思われる。

①小竪穴状遺構

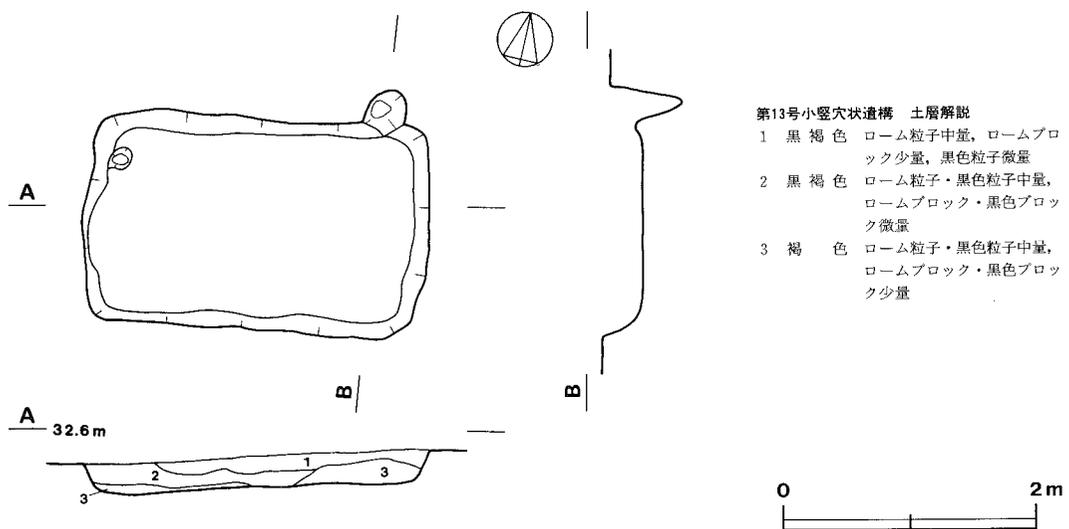
ここでは、形状が特徴的で、遺存状態の良い第13・23・30・36・41号小竪穴状遺構は文章で記述し、第3・7・8・11・18・25・27・48号小竪穴状遺構については、一覧表に記載する。

第13号小竪穴状遺構 [SK-370] (第178図)

位置 館北西部のC7a₅区を中心に確認されている。

規模と平面形 長軸2.8m、短軸1.7mの隅丸長方形を呈している。

主軸方向 N-80°-E



第178図 第13号小竪穴状遺構実測図

壁 壁高は25cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

ピット 2か所 (P₁, P₂) 検出されている。P₁は径15cmの円形を呈し、深さ20cmである。P₂は長径40cm, 短径30cmで楕円形を呈し、深さ25cmである。性格は不明である。

覆土 自然堆積。

所見 本跡は、遺構の形態等から15世紀後半のものと思われる。

第23号小竪穴状遺構 [SK-537] (第179図)

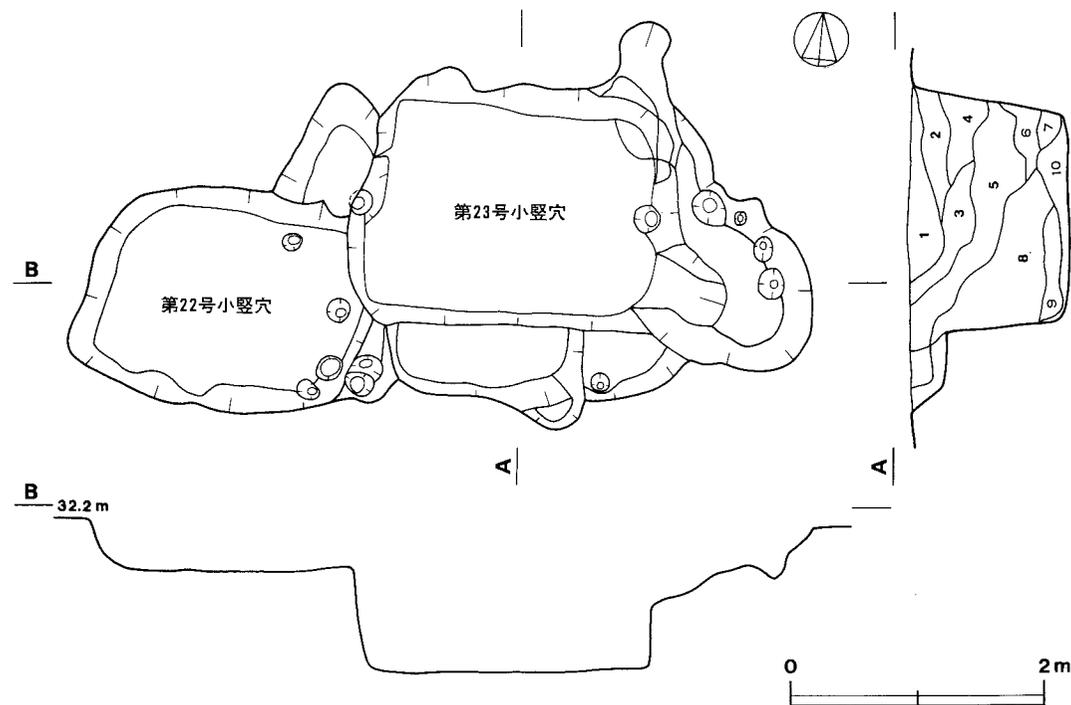
位置 館西部のD6b₇区を中心に確認されている。

重複関係 本跡の西壁の一部は、第22号小竪穴状遺構と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 長軸2.6m, 短軸2.0mの隅丸長方形を呈している。

主軸方向 N-88°-E

出入口部 南東コーナーの壁外に張り出している。平面形は隅丸長方形を呈し、床面に向かって



第23号小竪穴状遺構 土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------------|--------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量, ローム小ブロック極微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・パミス粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, パミス小ブロック極微量 | 7 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・スコリア粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・パミス粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量, パミス粒子極微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子・パミス粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量, パミス粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量, パミス粒子微量 |

第179図 第22・23号小竪穴状遺構実測図

緩やかに傾斜している。規模は、長軸0.7m、短軸0.6mである。

壁 壁高は120cmで、垂直に立ち上がっている。

床 平坦。

ピット 2か所 (P₁, P₂) 検出されている。P₁は径20cmの円形を呈し、深さ18cmである。P₂は径20cmの円形を呈し、深さ49cmで、どちらも柱穴と思われる。

覆土 ロームブロックを含んでおり、人為堆積である。

遺物 覆土から内耳鍋の細片が出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から15世紀後半のものと思われる。

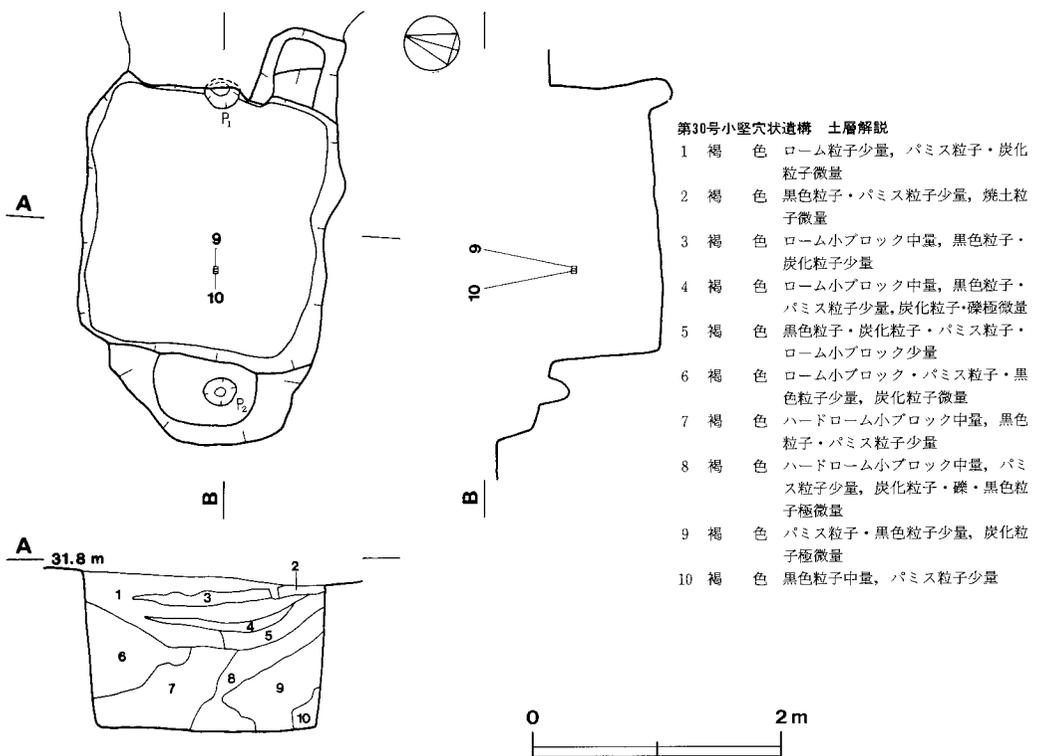
第30号小竪穴状遺構 [SK-622] (第180図)

位置 館の中央西寄りのD7c₂区を中心に確認されている。

重複関係 本跡は、第643号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 長軸2.2m、短軸1.9mで、西壁部に半円形状の張り出しを持っており、平面形は長方形を呈している。

主軸方向 N-78°-E



第180図 第30号小竪穴状遺構実測図

出入口部 東壁の中央から南東コーナー寄りに確認され、壁外に張り出している。規模は一辺0.6 mの方形を呈しており、床面に向かって緩やかに傾斜している。

壁 壁高は130cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

床 東から西に向かって若干の傾斜が見られる。

ピット 2か所 (P₁, P₂) 検出されている。P₁, P₂は径25cmの円形を呈し、深さ20cmで、柱穴と思われる。

覆土 ロームブロックを含んでおり、人為堆積である。

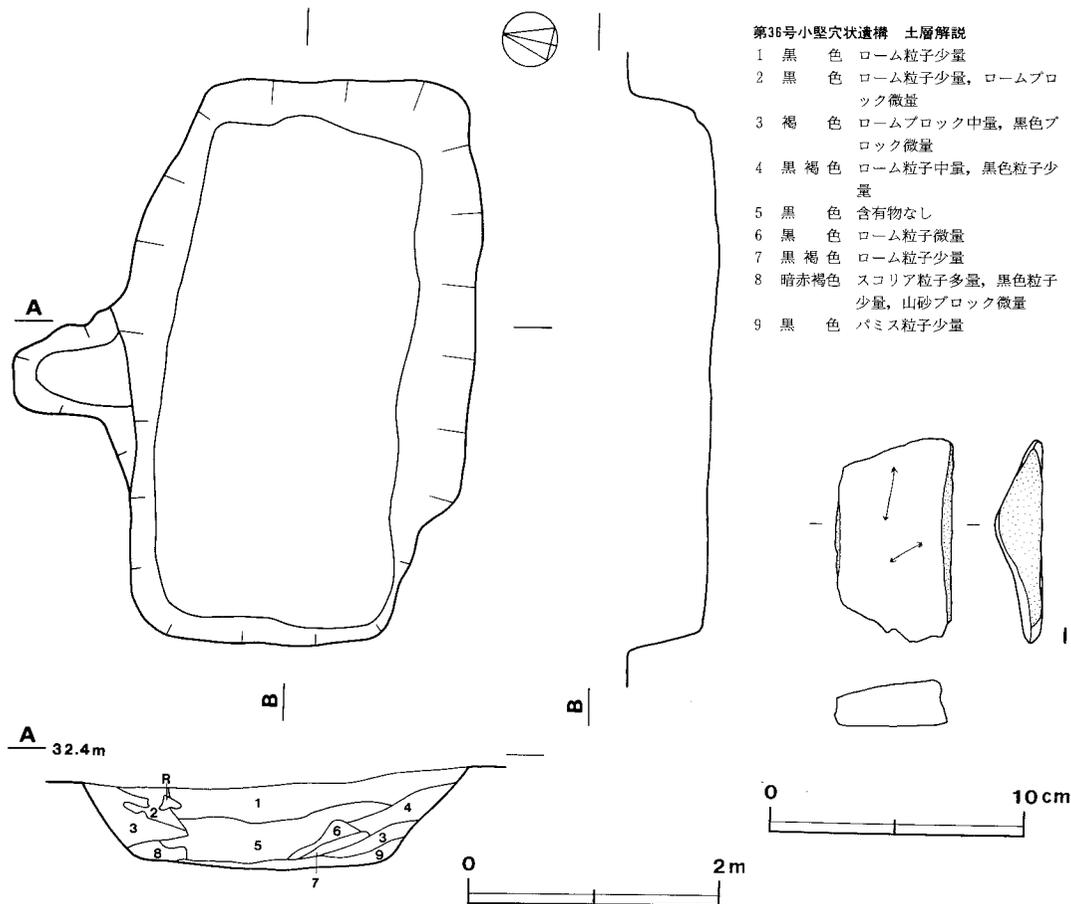
遺物 覆土下層から第234図9の古銭をはじめ、土師質土器の細片や陶磁器の細片が出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から15世紀後半の墓と思われる。

第36号小竪穴状遺構 [SK-655] (第181図)

位置 館中央部のD7j₀区を中心に確認されている。

規模と平面形 長軸4.6m、短軸2.8mの隅丸長方形を呈している。



第181図 第36号小竪穴状遺構・出土遺物実測図

主軸方向 N-5°-W

出入口部 北壁の中央部の壁外に張り出している。平面形は半楕円形を呈し、規模は長径0.9m、短径0.7mである。

壁 壁高は70cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

覆土 ブロック状の堆積をしており、人為堆積である。

遺物 覆土から内耳鍋の細片や陶磁器の細片を中心に多量の遺物が出土している。第234図11の古銭や第181図1の砥石は、覆土下層から出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から15世紀後半の墓と思われる。

第36号小竪穴状遺構出土遺物観察表

図版 番号	器種	石質	法量				出土地点	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第181図 1	砥石	凝灰岩	8.3	4.6	1.9	72.4	覆土下層	Q20

第41号小竪穴状遺構 [SK-679A] (第182図)

位置 館中央部の D8c₁区を中心に確認されている。

重複関係 本跡の出入口部は、第679B号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 一辺2.4mの不整形を呈している。

主軸方向 N-29°-E

出入口部 南コーナーの壁外に張り出している。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸1.1m、短軸0.8mである。

壁 壁高は70cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦。

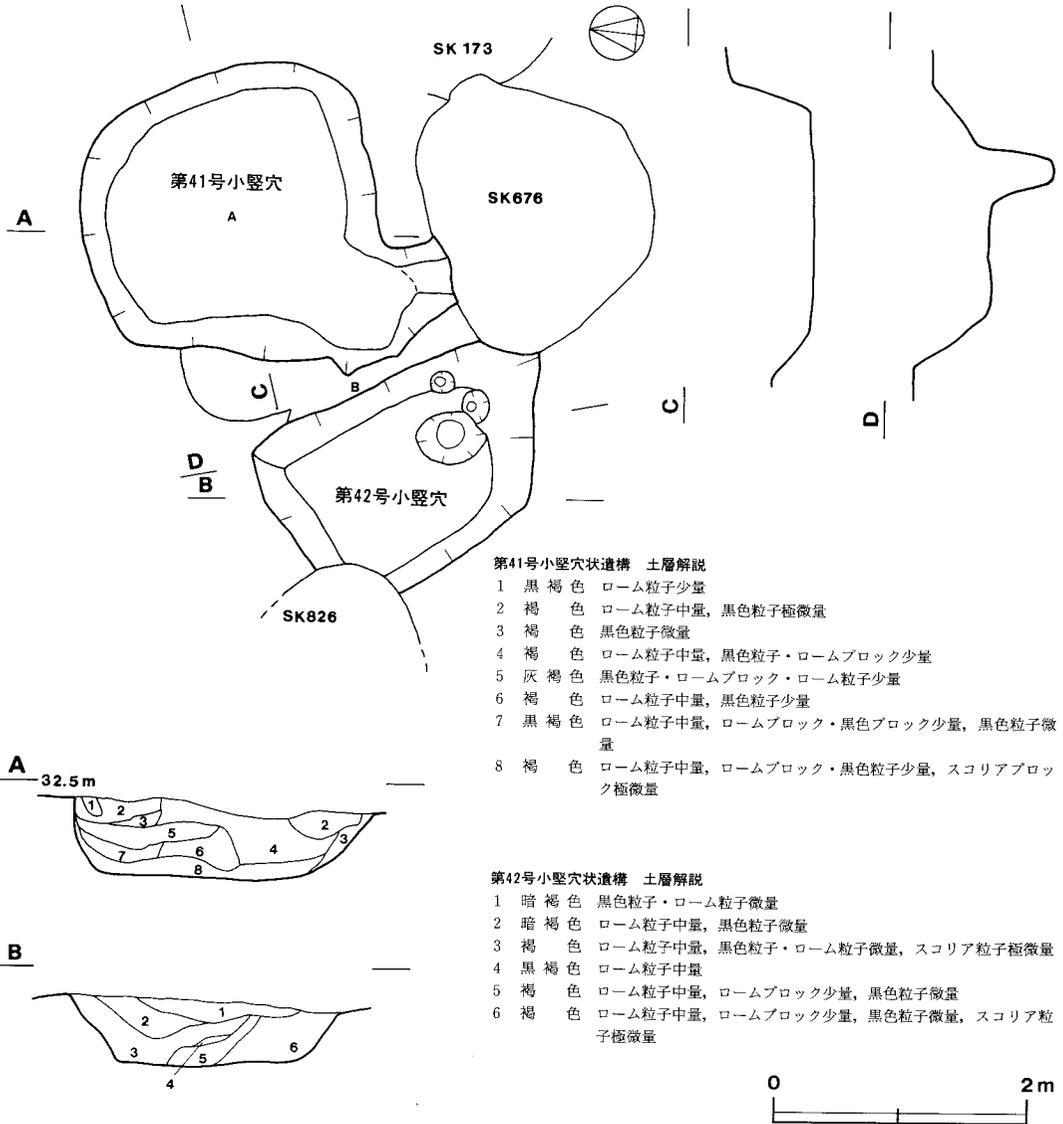
覆土 ブロック状の堆積をしており、人為堆積である。

遺物 覆土から陶磁器の細片や内耳鍋の細片が出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から15世紀後半のものと思われる。

第24号小竪穴状遺構 [SK-577]

Ⅲ期に引き続き機能しているものと思われる。



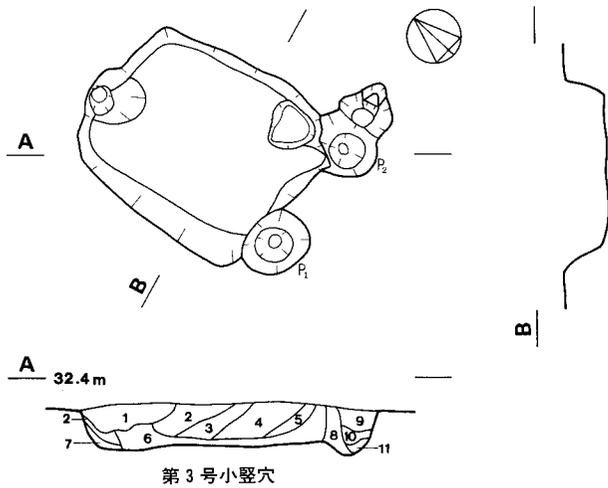
第182図 第41・42号小竪穴状遺構実測図

第8号小竪穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第185図 1	内耳鍋 土師質土器	A [33.0] B (17.8) C [18.2]	底部, 体部片。体部と口縁部の境に幅広い浅い凹線が巡る。	体部外面縦方向のヘラナデ。底部ナデ後一部ヘラ削り。	砂粒 黒褐色 普通	30% P185 ススが付着。 西壁覆土。

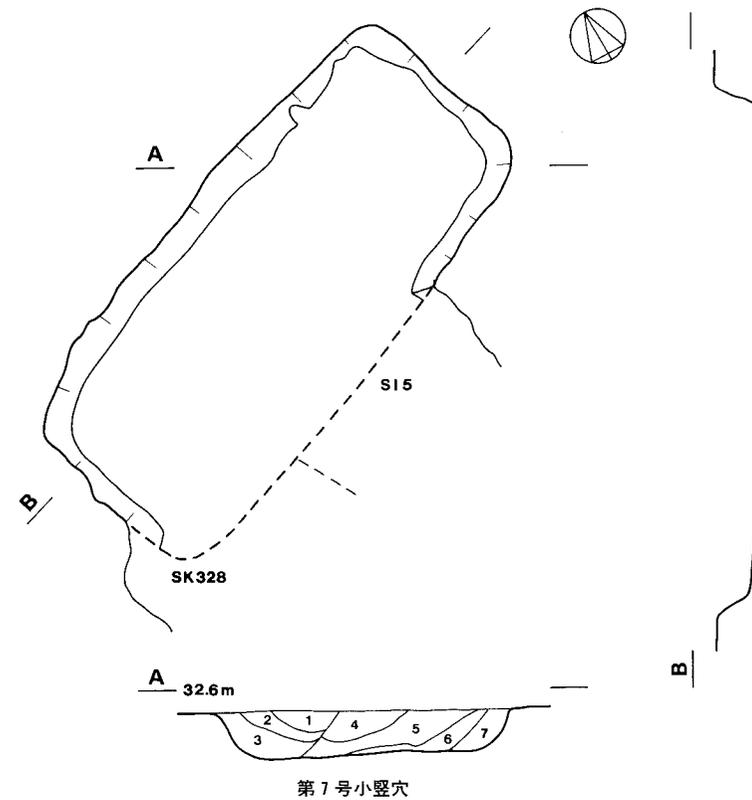
第27号小竪穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第188図 1	小皿 土師質土器	A [5.9] B 1.7 C [3.2]	底部から口縁部片。平底。体部は外傾し, 口縁部は内彎ぎみに外上方に立ち上がる。	木挽き成形。体部内面ヘラ磨き。底部回転糸切り。	砂粒 にぶい橙色 普通	40% P220 覆土。



第3号小竖穴状遺構 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子多量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量, 黒色ブロック・ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量
- 6 褐色 ローム粒子多量, ロームブロック微量
- 7 褐色 黒色粒子少量
- 8 黒褐色 ローム粒子微量
- 9 黒褐色 ローム粒子少量
- 10 黒色 含有物なし
- 11 黒褐色 ローム粒子少量, ロームブロック微量

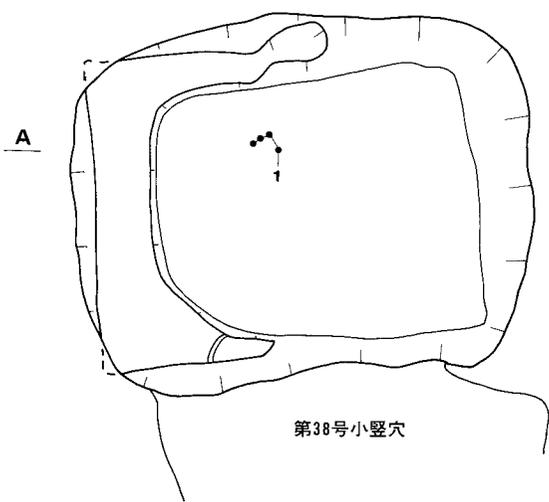


第7号小竖穴状遺構 土層解説

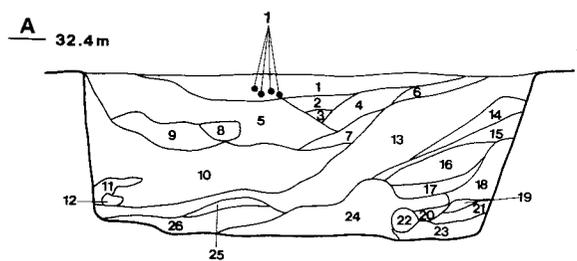
- 1 灰褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子・ロームブロック微量
- 2 黒色 ロームブロック・ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, ロームブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 黒色ブロック・ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, ロームブロック・黒色ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, ロームブロック・黒色ブロック微量
- 7 褐色 ローム粒子多量, 黒色ブロック微量



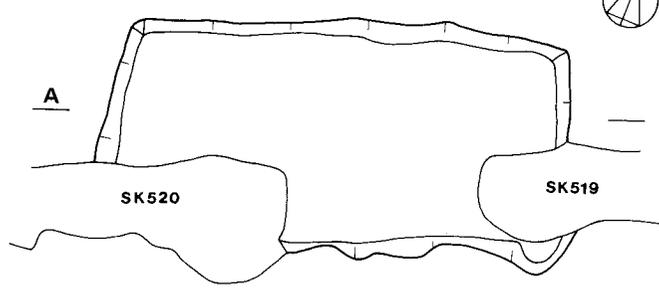
第183図 第3・7号小竖穴状遺構実測図



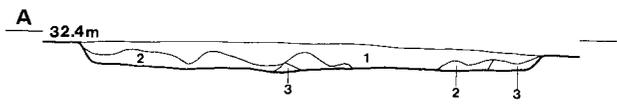
第38号小竪穴



第8号小竪穴



第11号小竪穴



第8号小竪穴状遺構 土層解説

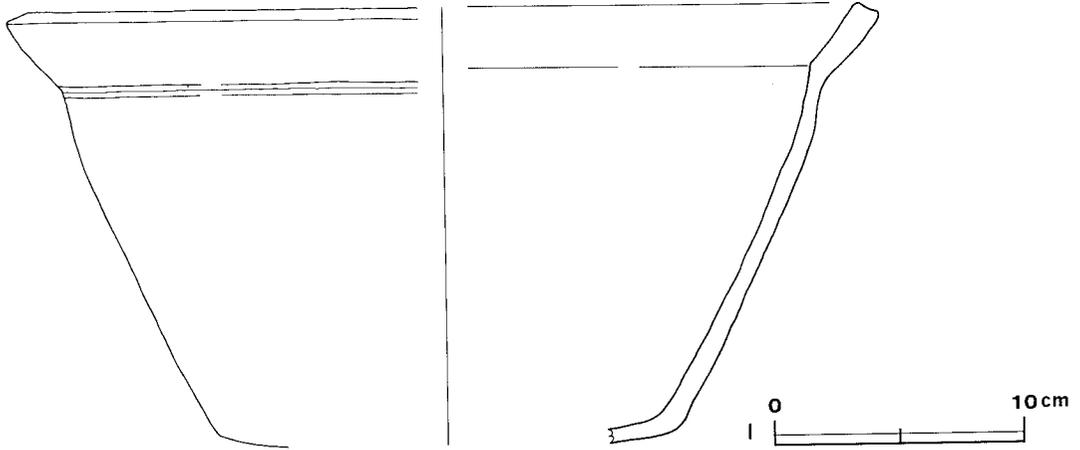
- 1 暗褐色 礫中量, ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 礫微量
- 3 黒褐色 黒色粒子中量, ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・スコリア粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子少量, ローム小ブロック・礫微量
- 6 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子少量, ローム小ブロック微量
- 8 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子少量, ローム小ブロック微量
- 9 黒褐色 黒色粒子少量, ローム粒子微量, ローム小ブロック・スコリア小ブロック極微量
- 10 黒色 黒色粒子多量, ローム粒子少量, ローム小ブロック・スコリア小ブロック微量
- 11 黒褐色 ローム粒子・粘土少量
- 12 極暗褐色 ローム粒子・粘土少量
- 13 明褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・パミス小ブロック・黒色粒子少量
- 14 黒褐色 黒色粒子中量, ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 15 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子少量, ローム小ブロック微量
- 16 黒色 黒色粒子多量, ローム粒子微量
- 17 極暗褐色 ローム粒子・黒色粒子少量, スコリア粒子微量
- 18 明褐色 ローム粒子多量, 黒色粒子少量
- 19 極暗褐色 ローム粒子・黒色粒子・粘土少量
- 20 黒褐色 黒色粒子中量, 粘土少量, ローム粒子微量
- 21 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子・粘土少量, スコリア粒子微量
- 22 黒褐色 ローム粒子・黒色粒子・粘土少量
- 23 黒色 黒色粒子多量, 粘土少量, パミス粒子極少量, ローム粒子微量
- 24 黒色 黒色粒子多量, ローム粒子・パミス粒子微量, パミス小ブロック極微量
- 25 黒色 黒色粒子多量, 粘土少量, ローム粒子微量
- 26 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・黒色粒子少量, ローム中ブロック極少量, ローム大ブロック・パミス粒子微量

第11号小竪穴状遺構 土層解説

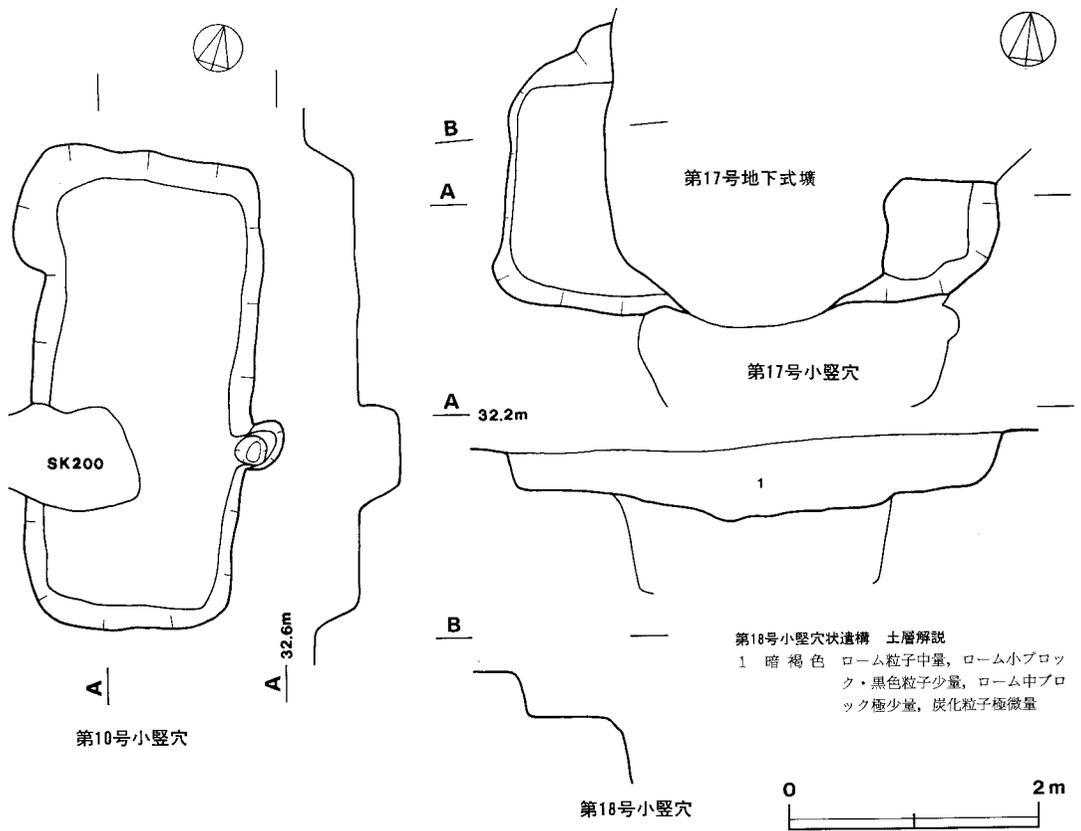
- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量, ロームブロック・黒色ブロック極微量
- 3 褐色 黒色粒子微量



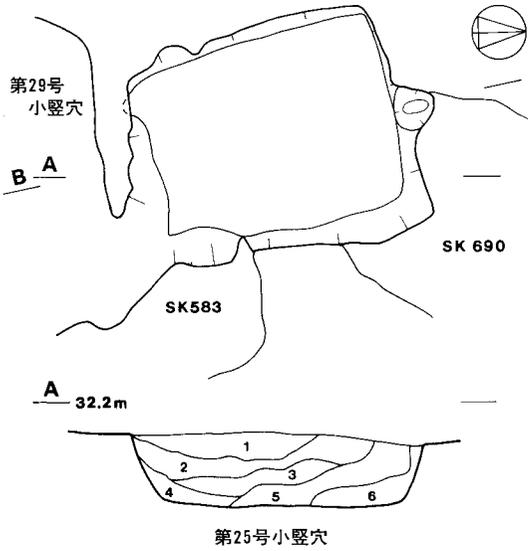
第184図 第8・11号小竪穴状遺構実測図



第185図 第8号小竪穴状遺構出土遺物実測図

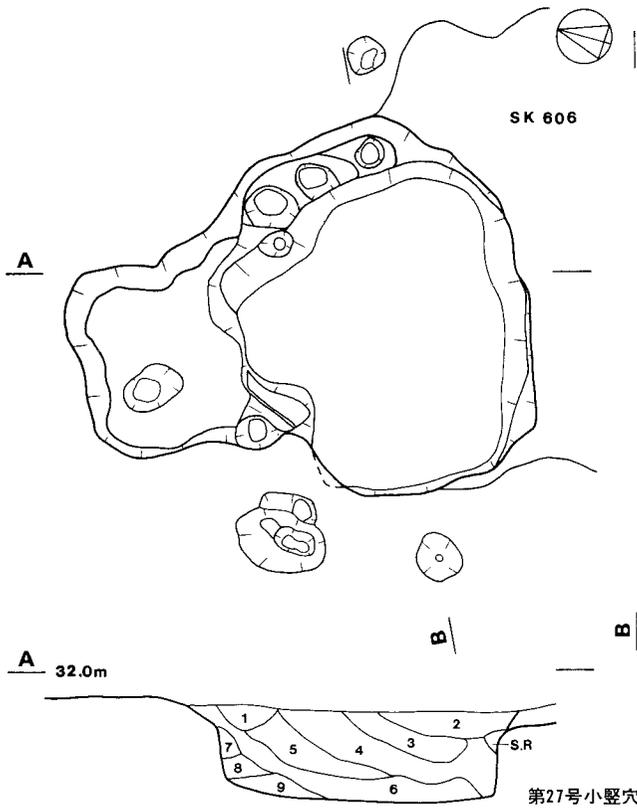


第186図 第10・18号小竪穴状遺構実測図



第25号小竖穴状遺構 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・スコリア微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量, 炭化粒子・礫微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量, パミス粒子微量

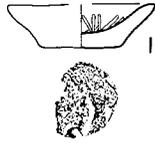


第27号小竖穴状遺構 土層解説

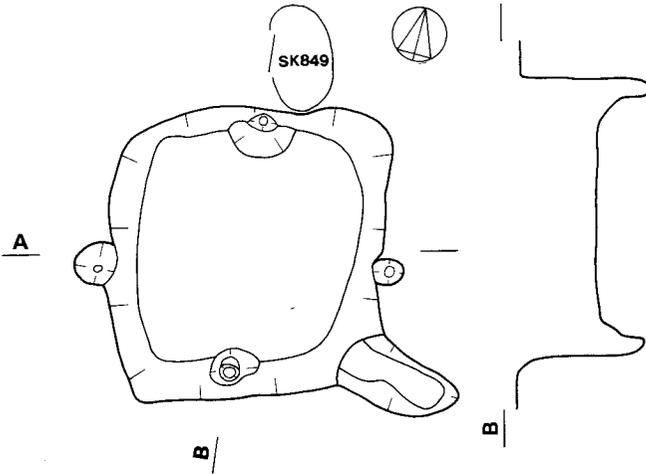
- 1 黒褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, 炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量, ローム中ブロック極微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化粒子微量, 焼土粒子極微量
- 4 黒色 ローム小ブロック多量, ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 6 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック微量, 焼土小ブロック極微量
- 7 褐色 黒色粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 9 褐色 鹿沼パミス中ブロック中量, ローム大ブロック微量



第187図 第25・27号小竖穴状遺構実測図

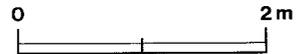
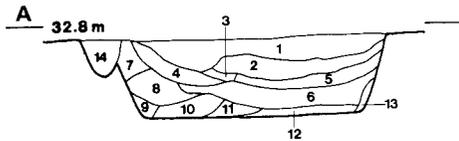


第188図 第27号小竪穴状遺構出土遺物実測図



第48号小竪穴状遺構 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量, 炭化材・炭化粒子微量
- 6 黒色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 黒色粒子中量, ローム漸移層中ブロック微量
- 8 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 9 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 10 暗褐色 黒色粒子・ローム小ブロック中量
- 11 黒褐色 ローム粒子・黒色粒子中量, 炭化粒子少量
- 12 黒褐色 ローム粒子中量
- 13 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 14 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック微量



第189図 第48号小竪穴状遺構実測図

⑫土坑

ここでは、形状が特徴的で、遺存状態の良い第126・847号土坑は文章で記述し、第2・171・217・256・257・502・511A・513号土坑については、一覧表に記載する。

第126号土坑 (第190図)

位置 館の中央北寄りのC7h₂区を中心に確認されている。

重複関係 本跡の南西部は、第460号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸2.1m, 短軸1.6mの隅丸長方形を呈し、深さは40cm程である。

長軸方向 N-57°-W

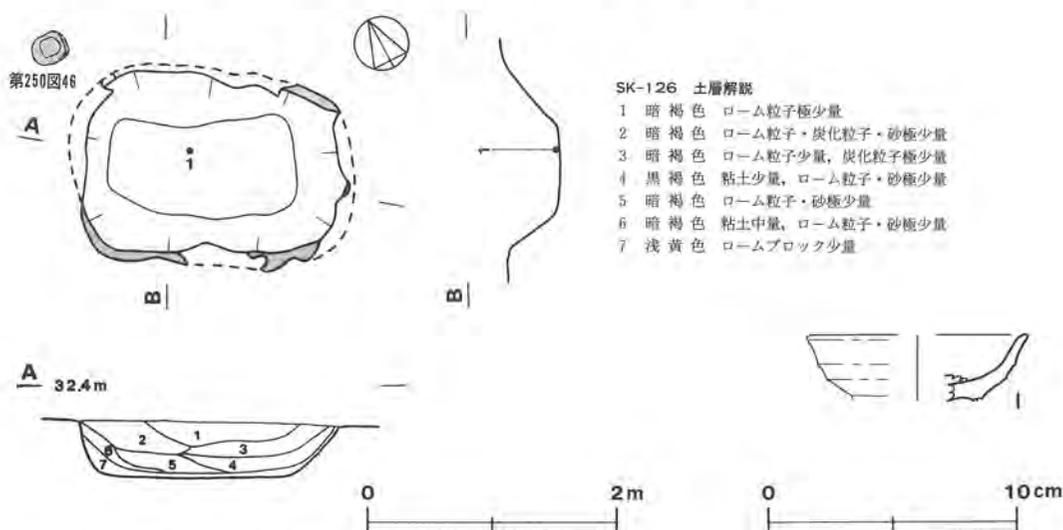
壁面 外傾して立ち上がっている。全面に厚さ10cm程の浅黄色粘土が貼り付けられている。

底面 平坦。壁面と同様に浅黄色粘土が貼り付けられている。

覆土 自然堆積。

遺物 底面から1の瀬戸産の陶器片や内耳鍋の細片が出土している。その他、礫が3点出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から16世紀の館跡に伴う水溜と思われる。



第190図 第126号土坑・出土遺物実測図

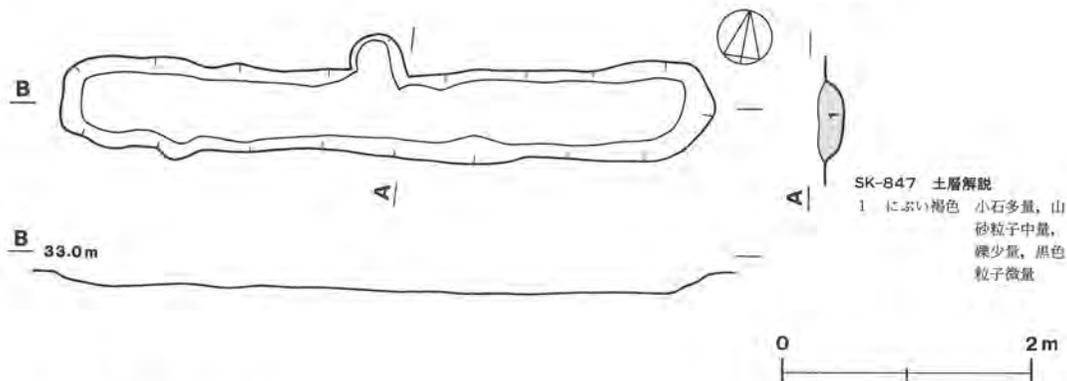
第126号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第190図 1	小 陶 器	A [8.8]	底部から口縁部片。体部は内彎	水挽き成形。	灰白色 (釉)無色 良好	25% P158 瀬戸産。 覆土。
		B (2.7)	しながら外上方に立ち上がり、			
		C [5.2]	口縁部上位は強く外反する。			

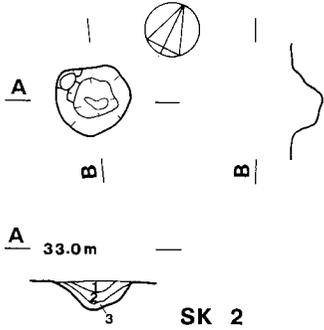
第847号土坑 (第191図)

位置 館東部の D8d₈区を中心に確認されている。

規模と平面形 長軸5.3m, 短軸0.6m の隅丸長方形を呈し、深さは15cmである。

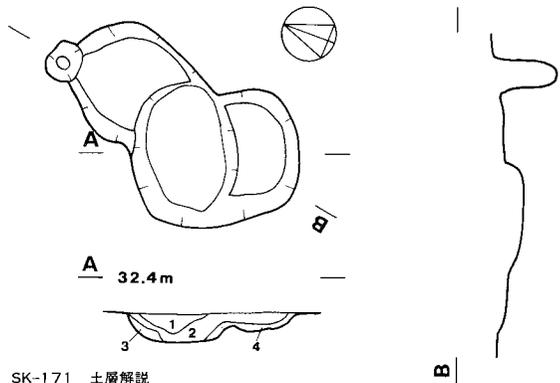


第191図 第847号土坑実測図



SK-2 土層解説

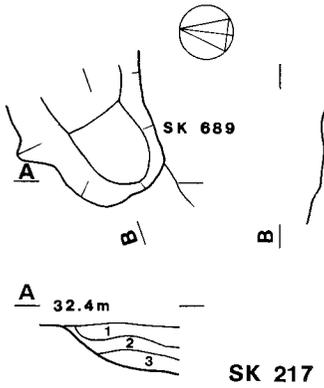
- 1 黒褐色 砂少量, ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・砂少量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック中量, 砂少量



SK-171 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック極少量
- 4 褐色 ローム粒子多量

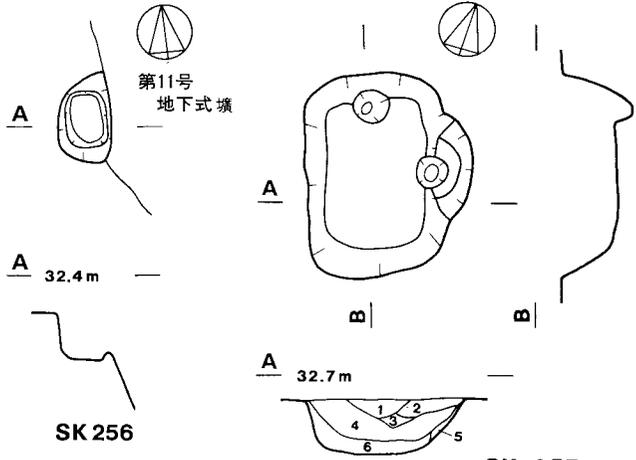
SK 171



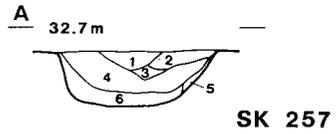
SK-217 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量, 黒色粒子極微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 黒色粒子極微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量

SK 217



SK 256



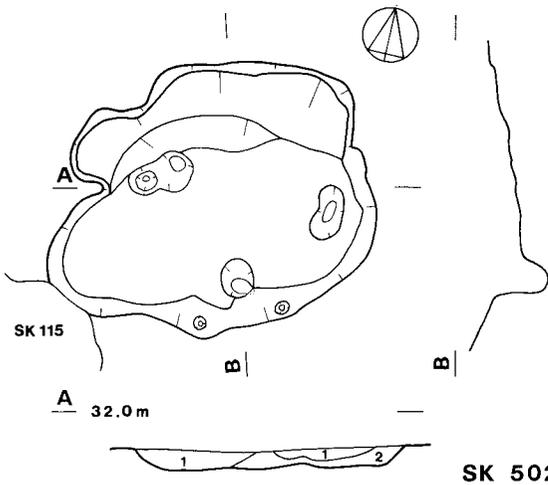
SK 257

SK-257 土層解説

- 1 黒色 黒色粒子多量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・黒色粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子少量
- 5 明褐色 ローム粒子多量, 黒色粒子極少量
- 6 黒褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子少量

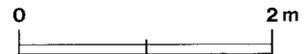
SK-502 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 黒色粒子少量



SK 115

SK 502



第192図 土坑実測図(1)

長軸方向 N-78°-E

壁面 緩やかに外傾している。

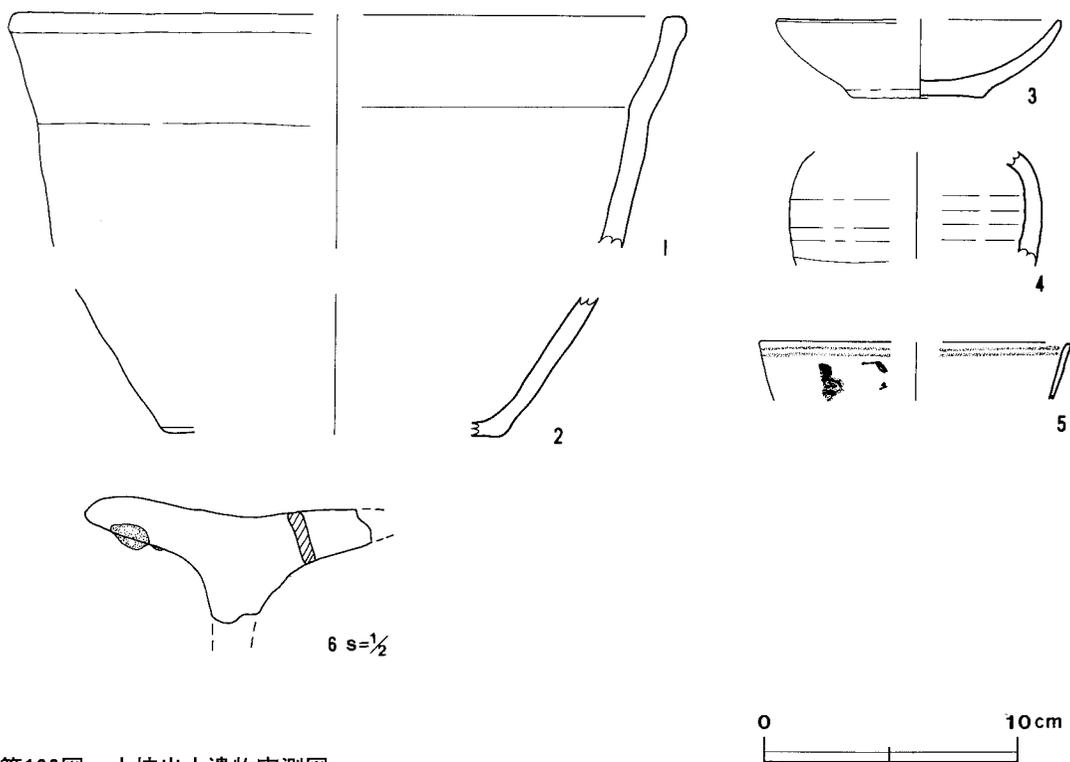
底面 皿状。

覆土 拳大の礫が少量と小石を多量に含む褐色土の単一層で、人為的堆積である。

所見 本跡は、副郭内にあること等から15世紀後半から16世紀前半の集石土坑と思われる。性格は、不明である。

第501号土坑

III期に引き続き機能しているものと思われる。



第193図 土坑出土遺物実測図

第2号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第192図 1	内耳鍋 土師質土器	A [26.6] B (9.4)	体部, 口縁部片。体部は直線的に外傾し, 口縁部は外反する。	口縁部, 体部内・外面横ナデ。	雲母・石英にぶい橙色普通	10% P155 覆土。
2	内耳鍋 土師質土器	B (5.6) C [13.6]	底部, 体部片。平底。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面横ナデ。体部と底部の境ヘラ削り。	砂粒 橙色 普通	5% P156 ススが付着。 覆土。

第217号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第192図 3	皿 土師質土器	A [11.4] B 3.2 C 5.2	底部から口縁部片。底部はわずかに突出する。体部、口縁部は内彎しながら外傾して立ち上がる。	水挽き成形。底部回転系切り。	砂粒にぶい橙色普通	45% 覆土。 P182

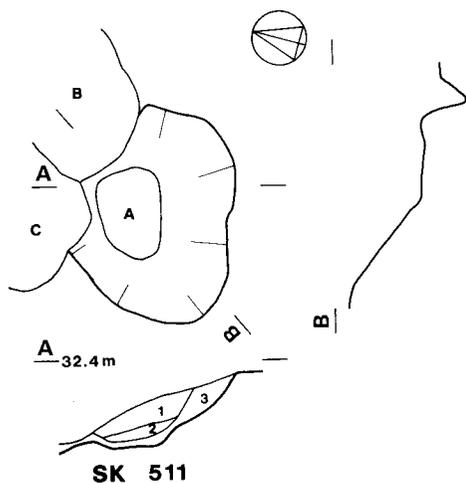
第256号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	小壺 陶器	B (4.7)	胴部片。胴部下位から上位に向かって、内彎しながら外上方に立ち上がり、上位から頸部に向かって内彎する。	胴部にロクロ目を残す。胴部下は施釉されていない。	灰黄褐色(釉)にぶい黄色普通	10% 16c。 覆土。 P355

第502号土坑出土遺物観察表

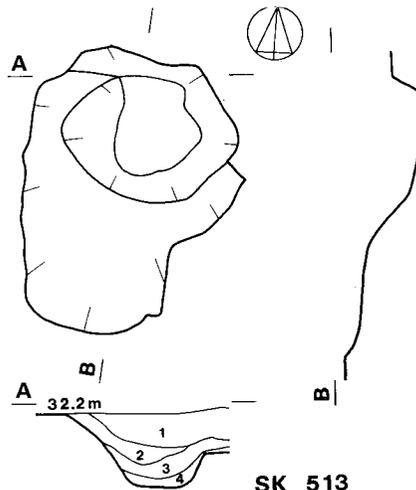
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	染付皿 磁器	A [14.2] B (2.3)	口縁部片。口縁部上位はわずかに外反する。	全面に薄い均一な釉が施されている。	灰白色(釉)無色良好	5% 龍泉窯染付E群。 覆土。 P356

図版番号	器種	法量				特徴	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
6	火打ち金	(7.6)	(3.5)	0.4	(17.5)		SK-217覆土	火縄銃, 鉄製 M40



SK-511 A 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 黒色粒子少量, ロームブロック微量



SK-513 土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子極微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 焼土ブロック少量, ロームブロック微量, 黒色ブロック極微量
- 4 褐色 黒色粒子微量



第194図 土坑実測図(2)

2 その他の遺構

ここでは、墓壙群3か所と4期の中に特定できない溝10条、井戸1基、地下式壙4基、小竪穴状遺構5基については文章で記述し、土坑66基については一覧表に記載する。

(1) 墓壙群

①第1号墓壙群（第195図）

調査区の東部、D8d₂区を中心に確認されている。ローム面まで掘り込み窪地にした区域に第127・131・134～138・140・663・669～672号土壙やピットが掘り込まれており、段切遺構の一種と思われる。本跡は、出土遺物等から14世紀前半から15世紀にかけての墓域と思われる。

第127号土壙（第196図）

位置 調査区の東部、D8e₂区に確認されている。

規模と平面形 径1.2mの円形を呈し、深さは50cm程である。

長径方向 N-3°-E

壁面 緩やかに外傾して立ち上がっている。

底面 皿状

覆土 ローム土が多く含まれており、人為堆積である。

遺物 覆土下層及び底面から人骨と馬骨が一緒に出土している。また、1の龍泉窯の青磁片や内耳鍋の細片が底面近くから出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から14世紀前半の墓壙と思われる。

第137号土壙（第196図）

位置 調査区の東部、D8e₁区を中心に確認されている。

重複関係 本跡は、第136号土壙と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径1.3m、短径1.0mの楕円形を呈し、深さは約70cmである。

長径方向 N-26°-W

壁面 緩やかに外傾して、立ち上がっている。

底面 皿状。

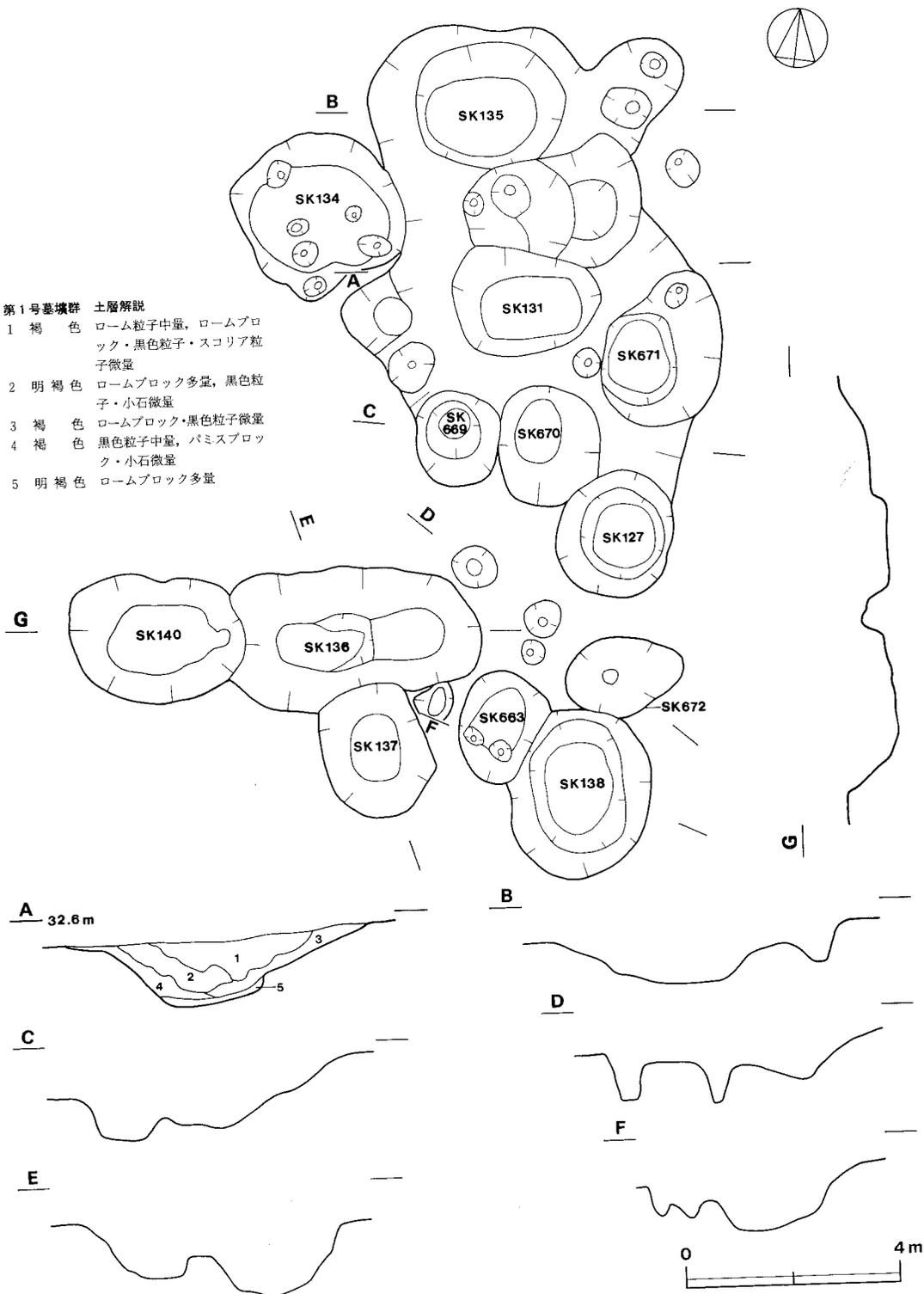
覆土 ブロック状の堆積をしており、人為堆積である。

遺物 覆土下層から古銭1枚や内耳鍋の細片が出土している。

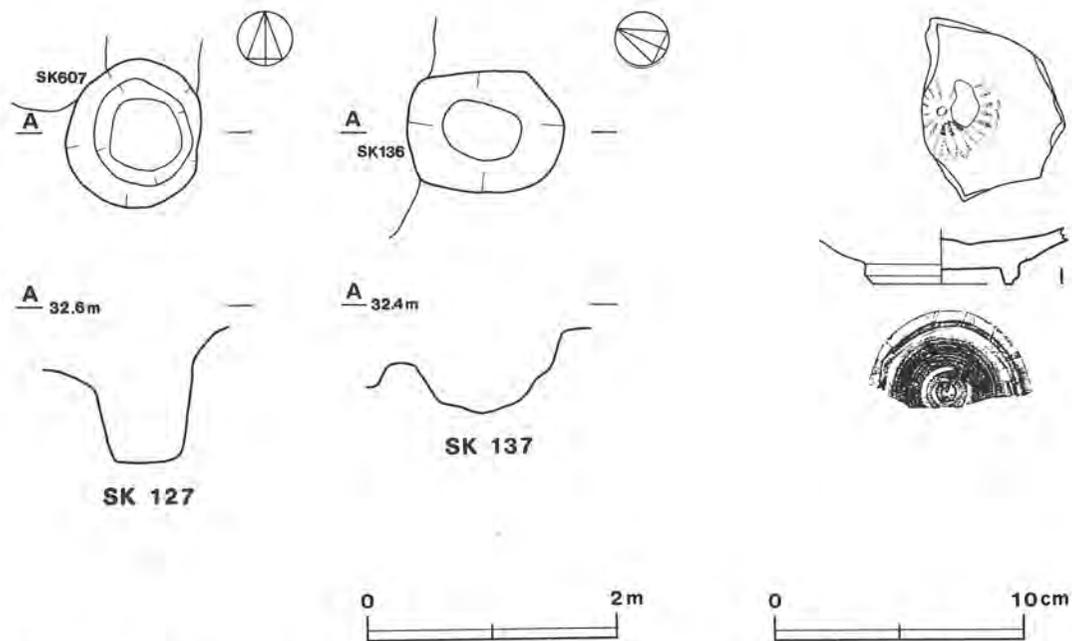
所見 本跡は、出土遺物等から中世のものと思われる。

第1号墓塚群 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ロームブロック・黒色粒子・スコリア粒子微量
- 2 明褐色 ロームブロック多量, 黒色粒子・小石微量
- 3 褐色 ロームブロック・黒色粒子微量
- 4 褐色 黒色粒子中量, パミスブロック・小石微量
- 5 明褐色 ロームブロック多量



第195図 第1号墓塚群実測図



第196図 第127・137号土坑・第127号土坑出土遺物実測図

第1号基壇群出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第196図 1	坏 青磁	B (2.3) D [5.8] E 0.9	底部、体部片。高台部は細く尖る。体部は丸みを持ち内灣ぎみに外上方に立ち上がる。	底部回転ヘラ切り。内面見込みに菊花のスタンプ文を施す。	灰黄色 (釉)明緑灰色 良好	25% P159 龍泉窯坏山類。 14c前。 SK-127覆土。

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模			壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 古→新	図版 番号
				長径(m)	短径(m)	深さ(cm)						
127	D8e2	N-3'-E	円形	1.2	1.2	50	緩傾	皿状	人為	土師質2片、内耳1片、青磁1片	14c後	195・196
131	D8d2	N-78'-E	楕円形	1.4	1.0	60	緩傾	皿状	人為	土師質1片		195
134	D8d1	N-66'-E	不整円形	1.5	1.4	15	外傾	平坦	人為			195
135	D8d2	N-76'-E	楕円形	1.4	1.2	40	緩傾	皿状	人為			195
136	D8e1	N-83'-E	楕円形	[2.2]	[1.1]	70	緩傾	皿状	人為		SK-137, 140不明	195
137	D8e1	N-26'-W	楕円形	1.3	1.0	70	緩傾	皿状	人為	内耳1片、古銭	SK-136不明	195・196
138	D8e2	N-13'-W	楕円形	1.6	1.3	60	緩傾	皿状	人為	内耳2片	SK-663不明	195
140	D8e1	N-83'-E	楕円形	1.6	1.2	50	緩傾	平坦	人為	礫1点	SK-137不明	195
663	D8e2	N-10'-E	楕円形	1.1	0.8	29	緩傾	皿状	人為	須恵1片	SK-138不明	195
669	D8d2	N-10'-W	楕円形	0.9	0.8	30	外傾	皿状	-		SK-670不明	195
670	D8d2	N-10'-W	楕円形	1.2	1.0	18	緩傾	皿状	-		SK-669不明	195
671	D8d2	N-12'-E	楕円形	1.5	1.1	40	緩傾	皿状	人為			195
672	D8e2	N-72'-E	楕円形	1.1	0.7	30	緩傾	皿状				195

②第2号墓墳群 [SX-4] (第197図)

調査区の中央部、D7e₃区を中心に確認されている。ローム土を80cm程掘り下げ、鹿沼層の面に窪地を掘り、さらに第571～573・579・580・586・590・592～594・596・598～601・614～619号土壙と第22号地下式壙が掘り込まれている。本跡は、出土遺物等から14世紀後半から16世紀前半の墓域と思われる。

第596号土壙 (第201図)

位置 調査区の中央部、D7e₅区を中心に確認されている。

重複関係 本跡は、第600号土壙と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径 [4.7]m, 短径3.4m の不定形を呈し、深さは150cmである。

長径方向 N-73°-W

壁面 緩やかに外傾して立ち上がっている。

底面 皿状。

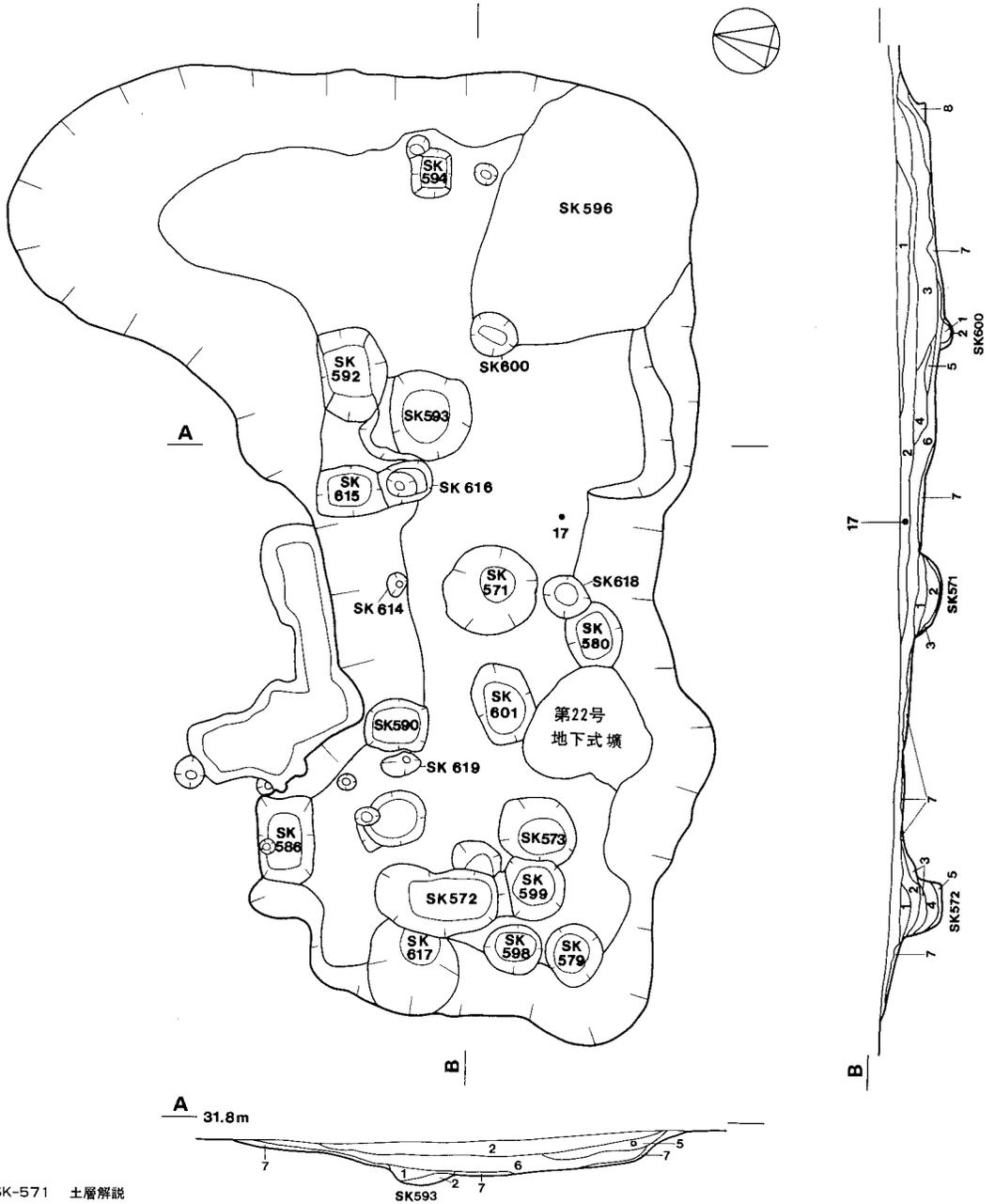
覆土 ローム土の堆積が多く人為堆積である。

遺物 覆土下層から第201図1の龍泉窯(南宋)の双魚文坏が出土している。その他、内耳鍋の細片や土師質土器の細片が出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から14世紀中葉の墓墳と思われる。

第2号墓墳群出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第198図 1	内耳鍋 土師質土器	A [30.0] B (8.6)	体部, 口縁部片。体部, 口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面横ナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	5% P302 ススが付着。 覆土。
2	内耳鍋 土師質土器	A [31.4] B (9.6)	口縁部片。口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 褐色 普通	5% P303 ススが付着。 覆土。
3	内耳鍋 土師質土器	A [25.4] B (5.8)	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がり, 口唇部は横方向につまみ出されている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 灰黄褐色 普通	5% P304 ススが付着。 覆土。
4	坏 土師質土器	A 12.2 B 4.0 C 5.8	平底。体部, 口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。	水挽き成形。底部静止糸切り。	雲母 にぶい黄褐色 普通	99% P305 内面にタールが 付着。覆土。
5	皿 土師質土器	A [11.4] B (2.9) C 4.8	底部から口縁部片。底部はわずかに窪む。体部, 口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒 にぶい黄褐色 普通	50% P306 二次焼成痕。 覆土。
6	皿 土師質土器	A [11.2] B 2.5 C 4.4	底部から口縁部片。体部は内彎しながら外上方に立ち上がる。口縁部は直線的に立ち上がる。	水挽き成形。	砂粒 にぶい橙色 普通	40% P307 二次焼成痕。 覆土。
7	皿 土師質土器	A [11.8] B (3.1) C [6.0]	底部から口縁部片。平底。体部口縁部はほぼ直線的に外傾して立ち上がる。	水挽き成形。	雲母 浅黄褐色 普通	20% P308 板目状圧痕。 覆土。



SK-571 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量, ロームブロック極微量,
- 3 明褐色 黒色粒子極微量

SK-572 土層解説

- 1 褐色 パミス粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子少量
- 3 褐色 パミス粒子中量, ローム粒子微量
- 4 におい褐色 パミス粒子多量, パミスブロック少量
- 5 明褐色 黒色粒子微量

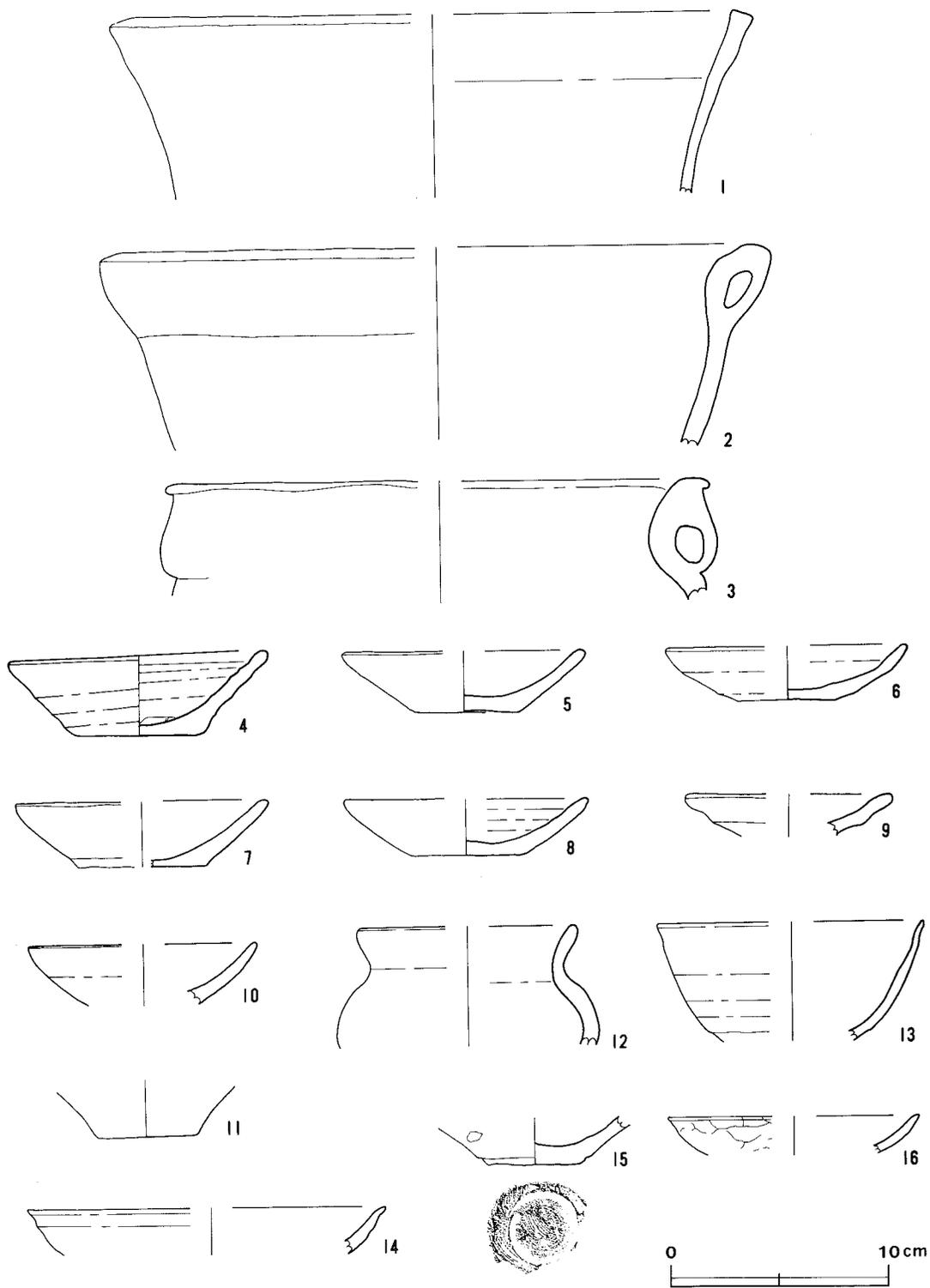
SK-600 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 におい褐色 黒色粒子微量

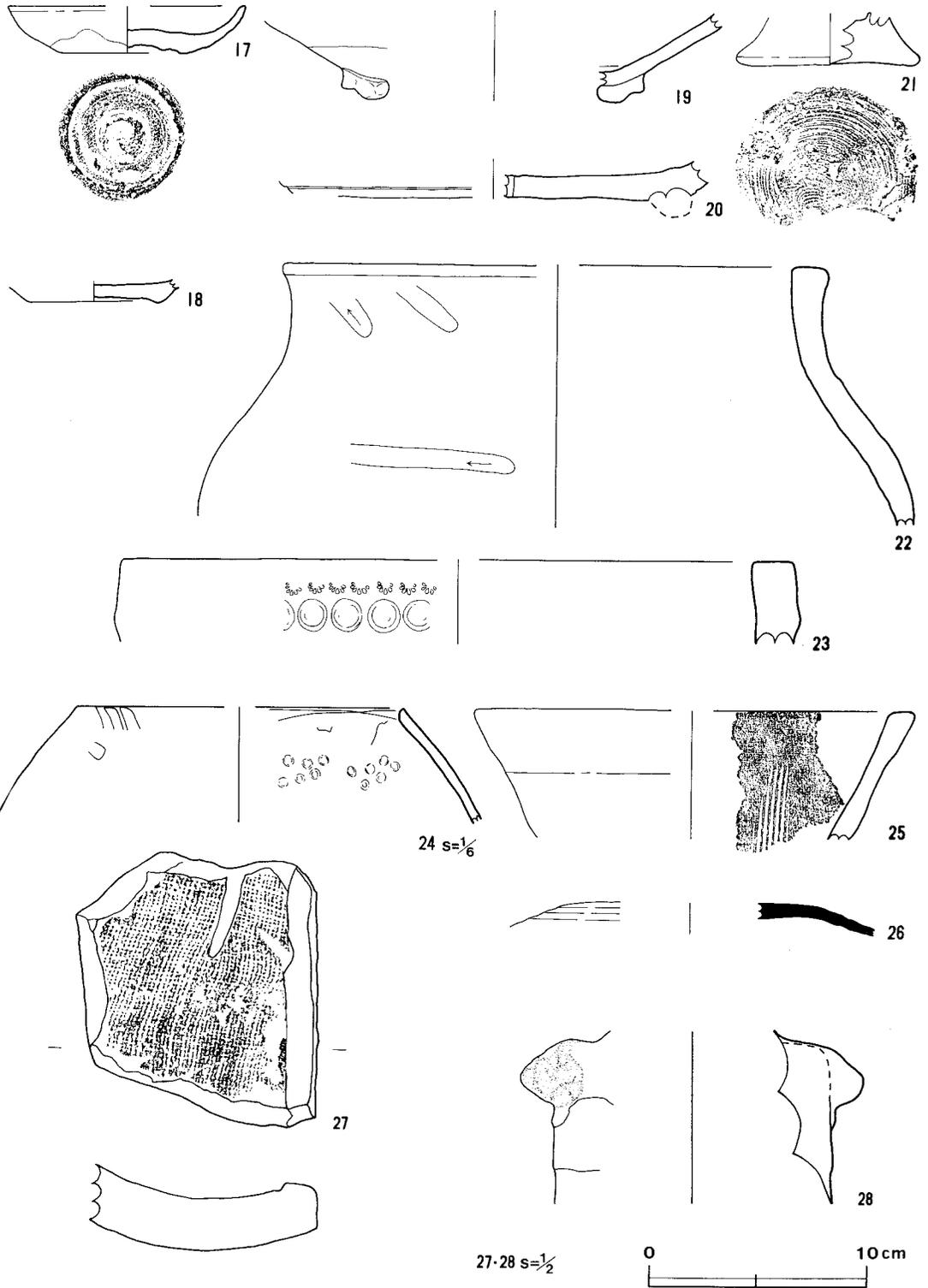
第2号墓墳群 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・小石少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 小石・炭化物極微量
- 5 褐色 ローム粒子多量, 炭化物極微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, 小石極微量
- 7 明褐色 黒色粒子極微量
- 8 明褐色 パミス粒子多量, 黒色粒子少量

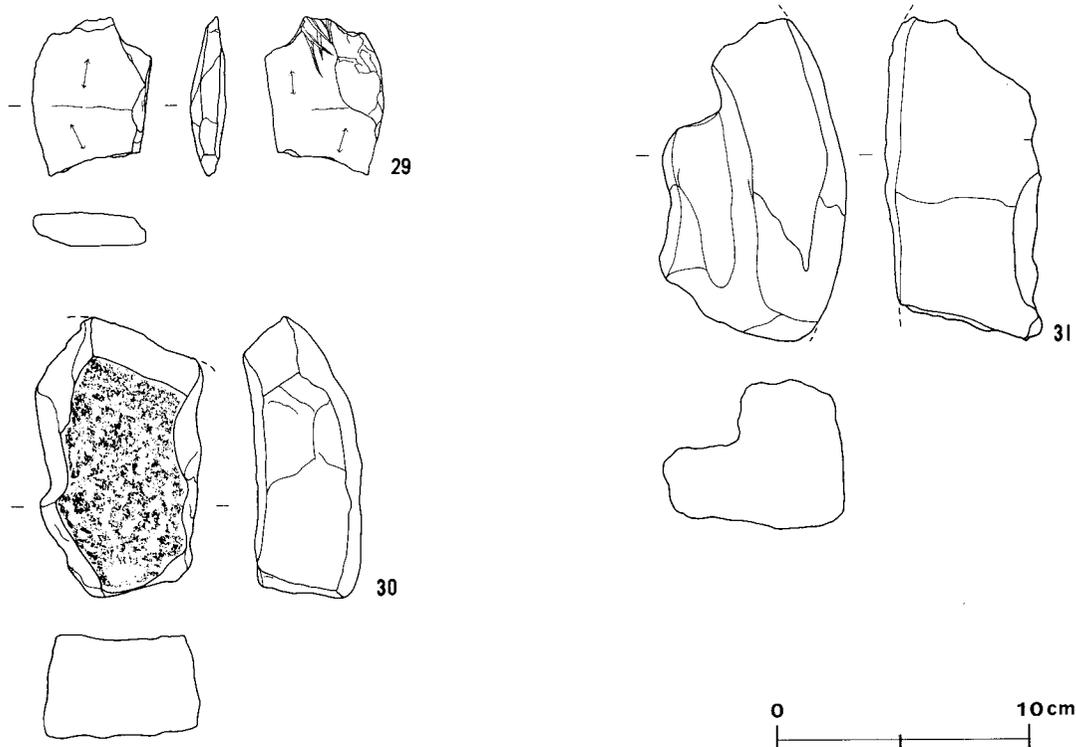
第197図 第2号墓墳群実測図



第198图 第2号墓群出土遗物实测图(1)



第199图 第2号墓壙群出土遺物実測図(2)



第200図 第2号墓墳群出土遺物実測図(3)

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第198図 8	皿 土師質土器	A [18.4] B 2.7 C [5.0]	底部から口縁部。平底。体部、口縁部はほぼ直線的に外傾して立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	雲母にぶい橙色普通	25% P 309 板目状圧痕。覆土。
9	小皿 土師質土器	A [9.6] B (2.0)	体部、口縁部片。器内は厚い。体部は中位で稜を持ち外傾し、口縁部は外反する。	水挽き成形。	砂粒にぶい黄橙色普通	20% P 310 覆土。
10	皿 土師質土器	A [10.8] B (2.9)	体部、口縁部片。体部は内彎しながら外傾し、口縁部は直線的に立ち上がる。	水挽き成形。	雲母にぶい橙色普通	15% P 311 覆土。
11	皿 土師質土器	B (2.3) C [4.8]	底部、体部片。平底。体部は外彎ぎみに立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒灰白色普通	5% P 208 覆土。
12	壺 陶磁器	A [10.4] B (5.7)	胴部、口縁部片。胴部は強く内彎して立ち上がる。頭部は「く」の字状を呈し、口縁部は直線的に立ち上がる。	剝離が激しく不明。	砂粒にぶい黄橙色不良	15% P 314 在地産。覆土。
13	天目茶碗 陶器	A [12.5] B (5.7)	体部、口縁部片。体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部上位はわずかに外反する。	水挽き成形。	灰白色(釉)黒色普通	15% P 315 瀬戸産。覆土。
14	平碗 陶器	A [16.7] B (2.2)	口縁部片。口縁部はわずかに外反する。	水挽き成形。	灰白色(釉)浅黄色良好	5% P 318 瀬戸産。覆土。
15	平碗 陶器	B (2.3) C [4.3]	底部、体部片。高台部と体部の境に明瞭な稜を持つ。体部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。後、削り出して高台部を作っている。高台部は無釉。	灰黄色(釉)浅黄色普通	15% P 320 瀬戸産。覆土。

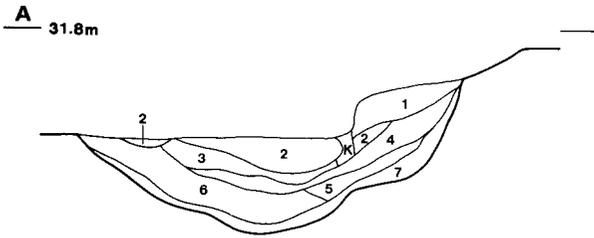
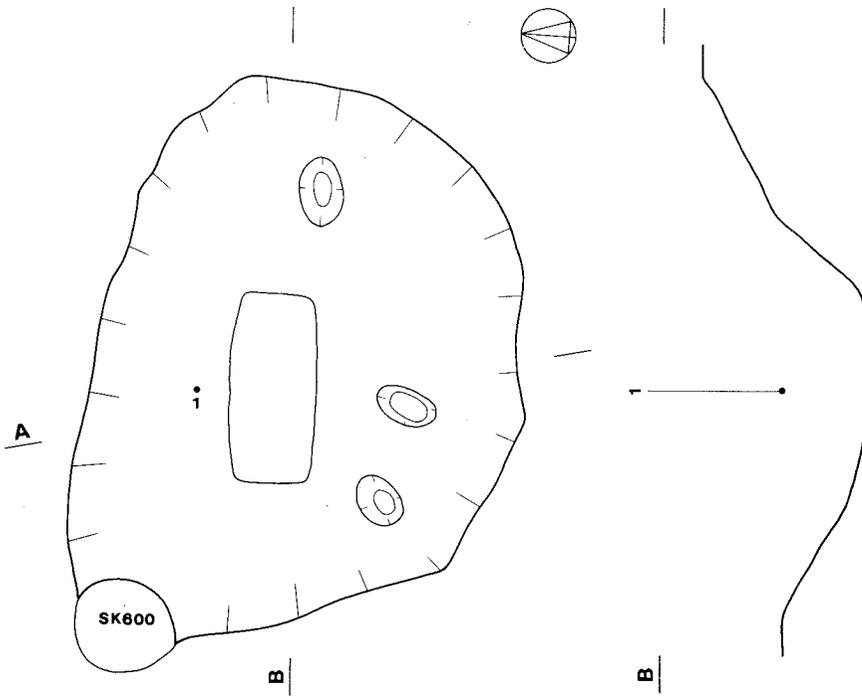
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第198図 16	皿 陶器	A [11.6] B (1.8)	口縁部片。体部と口縁部の境にわずかな稜を持ち、口縁部はわずかに外反する。	水挽き成形。	灰白色 (釉)無色 良好	15% P316 瀬戸産。 覆土。
第199図 17	小皿 陶器	A [11.1] B 2.3 C 5.8	口縁部一部欠損。底部は窪んでいる。体部、口縁部は内灣ぎみに外上方に立ち上がる。	水挽き成形。底部回転ヘラ削り。	灰色 (釉)灰赤色 普通	55% P319 初山窯。内面に焼き台痕。覆土。
18	皿 陶器	B (1.1) C [6.3]	底部片。高台部は断面三角形で低い。	底部焼き台痕。	灰色 オリーブ色 普通	10% P321 瀬戸産。 覆土。
19	盤 陶器	B (4.3) C [11.4]	底部片。獣足が3個付くと思われる。	水挽き成形。底部ヘラ削り調整。底部と腰部は施釉されていない。	灰オリーブ色 (釉)浅黄色 普通	10% P322 瀬戸産。 覆土。
20	不明 陶器	B (1.9) C [18.0]	底部片。平底で小孔が穿いてある。	水挽き成形。底部ヘラ削り調整。	にぶい黄橙色 オリーブ灰色 良好	10% P324 瀬戸産。 覆土。
21	花瓶 陶器	B (2.5) C 8.4	底部片。底部下位は内傾する。	水挽きロクロ成形。底部回転糸切り。釉は流条化している。台脚の胴部は接合。	灰白色 (釉)にぶい黄色 良好	10% P323 瀬戸産。 覆土。
22	壺 瓦質土器	A [25.4] B (12.2)	胴部、口縁部片。胴部は肩の張りが弱く、頸部から緩やかに口縁部に至る。口縁部は直立する。	胴部、口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 灰白色 普通	10% P325 在地産。 覆土。
23	火鉢 瓦質土器	A [32.4] B (3.9)	口縁部片。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。菊花の押印文と円形の粘土の貼り付け後円形の竹管による押印。	小石 灰色 普通	5% P327 覆土。
24	壺 陶器	A [30.6] B (10.9)	体部、口縁部片。体部は内灣しながら立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面縦方向のナデ、内面ヘラナデ。	小石・長石 灰黄褐色 普通	10% P362 在地産。指頭痕。 覆土。
25	擂鉢 瓦質土器	A [20.6] B (6.1)	体部、口縁部片。体部は直線的に外傾し、口縁部はわずかに器肉を増す。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面には7本単位の櫛目が施されている。	砂粒 暗灰黄色 普通	10% P364 覆土。
26	蓋 須恵器	B (1.5)	天井部片。天井部から緩やかに傾斜して口縁部に至る。	天井部回転ヘラ削り調整。口縁部内・外面横ナデ。	長石 灰白色 良好	20% P363 覆土。

図版番号	器種	法量				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
27	平瓦	(8.6)	(7.5)	1.8	(140.2)		一枚作り、凹面に布当痕, 9c DP13
28	羽口	(5.4)	(10.5)		(109.6)	覆土	外面に洋の付着, 胎土にスサ混入 DP19

図版番号	器種	石質	法量				出土地点	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第200図 29	砥石	緑色凝灰岩	6.4	4.7	1.4	44.5		Q38
30	石皿	砂岩	(11.4)	(6.7)	(4.3)	(421.8)		Q39
31	石白	花崗岩	13.0	(7.6)	(6.1)	(548.9)		Q40

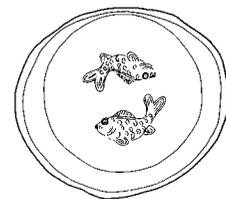
第596号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第207図 1	坏 青磁	B (2.2) D 5.5 E 0.6	底部, 体部片。高台は低く, 断面は三角形を呈する。体部は内灣しながら外上方に立ち上がる。	体部外面に削り出し蓮弁文, 見込みに双魚文を貼付。水挽き成形。畳付を除いて全面に施釉。露胎部と施釉部の境は赤色。	灰白色 (釉)明緑灰色 良好	70% P218 龍泉窯坏Ⅲ-4 ・b 覆土。



SK-596 土層解説

- 1 褐色 ロームブロック極微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 小石・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子少量, パミスブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量, ロームブロック微量
- 6 極暗褐色 ローム粒子少量, 小石極微量
- 7 にぶい褐色 黒色粒子中量, ローム粒子少量



第201図 第596号土壌・出土遺物実測図

土 墳 番 号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平 面 形	規 模			壁 面	底 面	覆 土	出 土 遺 物	備 考 古→新	図 版 番 号
				長径(m)	短径(m)	深さ(cm)						
571	D7e3	N-46'-W	円 形	1.6	1.6	40	緩 傾	皿 状	-	土師質 3片, 内 耳 1片		197
572	D7e2	N-13'-W	不整隅丸長方形	2.1	1.1	74	外 傾	皿 状	自 然	内耳 1片, 陶磁 3 片, 土師質 1片	SK-617, 599不明	197
573	D7e2	N-17'-E	楕 円 形	1.4	1.2	25	緩 傾	皿 状	人 為	土師質 1片, 内 耳 2片	14c 後~15 c 前	197
579	D7e2	N-83'-E	円 形	1.1	1.0	20	緩 傾	皿 状	-	内耳 2片		197
580	D7e3	N-61'-E	円 形	[1.1]	[1.0]	30	緩 傾	皿 状	自 然	内耳 3片, 須恵 1片	SK-575, 618不明	197
586	D7d2	N-80'-E	隅丸長方形	1.6	1.0	40	外 傾	平 坦	-	内耳 2片		197
590	D7e3	N-8'-W	隅丸長方形	1.1	0.9	30	外 傾	平 坦	人 為	土師質 4片, 陶 磁 1片		197
592	D7d4	N-67'-E	楕 円 形	1.7	1.1	30	緩 傾	平 坦	人 為	龍泉窯染付碗	15c 後~16 c 前	197
593	D7d4	N-62'-E	不整楕円形	2.0	1.6	27	緩 傾	皿 状	自 然			197
594	D7d5	N-53'-E	不 定 形	1.2	0.7	30	外 傾	平 坦	人 為			197
596	D7e5	N-73'-W	不 定 形	[4.7]	3.4	150	緩 傾	皿 状	人 為	内耳 4片, 陶磁 2片	SK-600不 明, 14c 後	197
598	D7e2	N-12'-W	楕 円 形	1.0	0.9	13	緩 傾	皿 状	-	内耳 3片		197
599	D7e2	N-43'-E	不整楕円形	1.2	[1.0]	60	緩 傾	皿 状	-		SK-572不 明	197
600	D7e4	N-18'-E	楕 円 形	0.9	0.8	23	外 傾	皿 状	自 然		SK-596不 明	197
601	D7e3	N-62'-E	楕 円 形	1.4	1.0	26	外 傾	皿 状	-	内耳 1片, 土師 質 1片		197
614	D7d3	N-77'-E	楕 円 形	0.5	0.4	35	外 傾	皿 状	-			197
615	D7d4	N-12'-W	隅丸長方形	[1.1]	0.9	30	緩 傾	皿 状	人 為		SK-616不 明	197
616	D7d4	N-30'-W	隅丸長方形	[0.9]	0.7	50	緩 傾	皿 状	人 為		SK-615不 明	197
617	D7e2	N-14'-W	円 形	1.6	[1.5]	27	緩 傾	皿 状	-	内耳 8片, 陶磁 1片	SK-572不 明	197
618	D7e3	N-9'-E	楕 円 形	0.9	0.8	55	外 傾	皿 状	人 為		SK-580不 明	197
619	D7e2	N-15'-W	楕 円 形	0.7	0.4	35	外 傾	皿 状	-			197

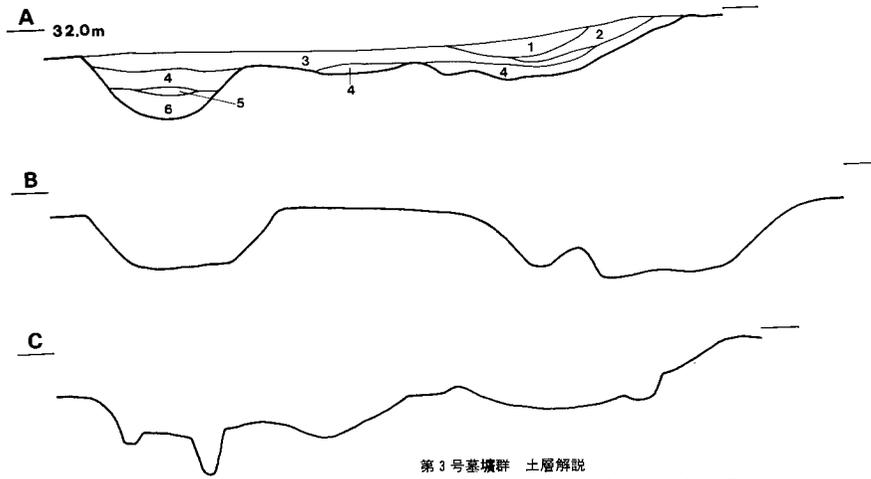
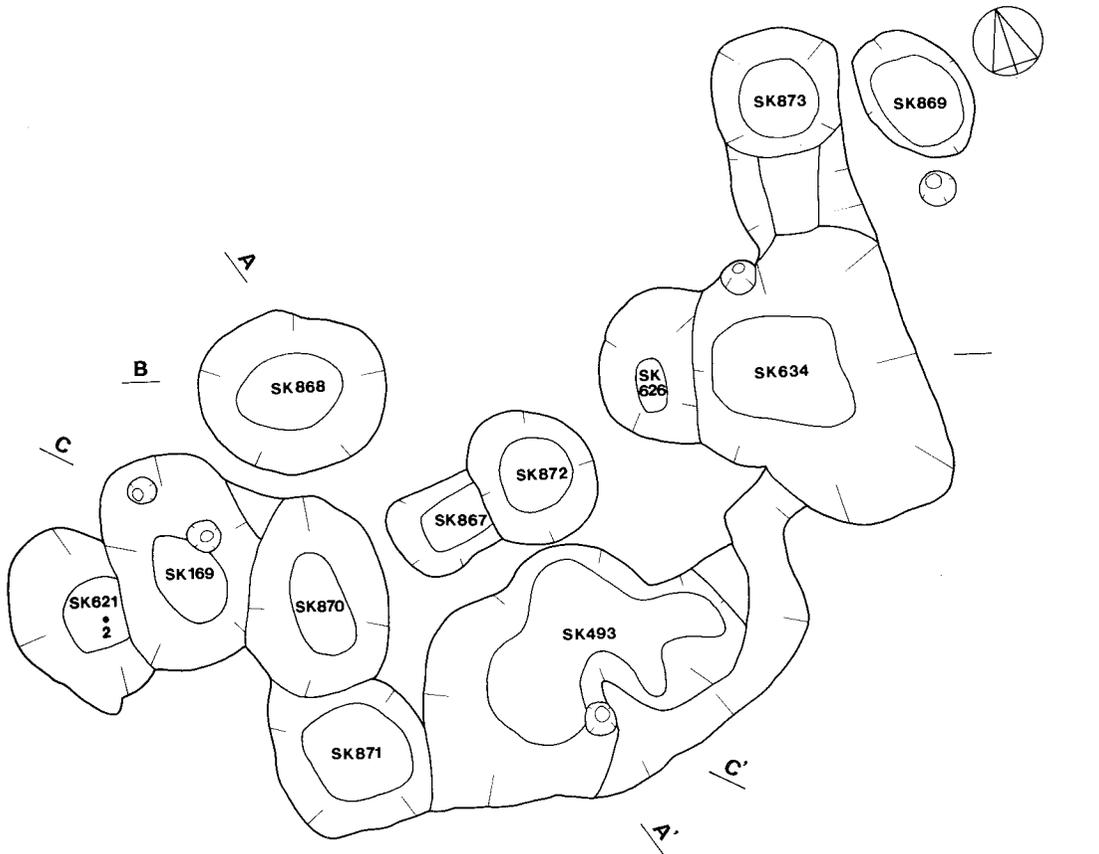
③第3号墓墳群 [SX-5] (第202図)

調査区の中央部, D6g₀区を中心に確認されている。ローム面を削り取り, 窪地にした区域に第169・493・621・626・634・867~873号土墳が掘り込まれている。本跡は, 出土遺物等から15世紀後半から16世紀前半の墓域と思われる。

第3号墓墳群出土遺物観察表

図版番号	器 種	法量(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第203図 1	内 耳 鍋 土師質土器	A [31.0] B (5.3)	口縁部片。器肉は厚い。口縁部は横方向につまみ出されている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 黒褐色 普通	5% P328 ススが付着。 覆土。
2	皿 土師質土器	A [10.1] B 2.9 C 4.0	口縁部一部欠損。平底で突出きみ。体部, 口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒 にぶい黄褐色 普通	50% P221 板目状圧痕。第 621号土墳覆土。

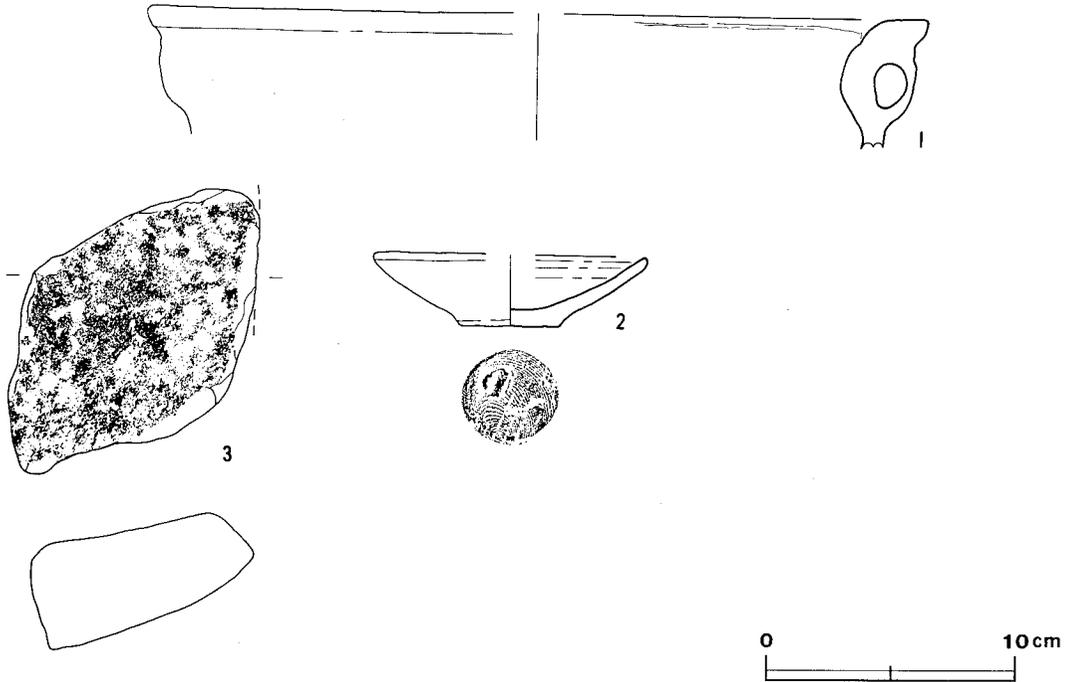
図 版 番 号	器 種	石 質	法 量				出 土 地 点	備 考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
3	石 皿	砂 岩	11.6	9.8	4.2	520.1	覆土	Q42



- 第3号墓塚群 土層解説
- 1 黒褐色 ローム粒子少量，黒色粒子微量
 - 2 黒褐色 ローム粒子少量
 - 3 暗褐色 ローム粒子中量，黒色粒子極微量
 - 4 褐色 黒色粒子微量
 - 5 褐色 ローム粒子中量，黒色ブロック少量
 - 6 灰褐色 ローム粒子少量，黒色粒子微量



第202図 第3号墓塚群実測図



第203図 第3号墓域群出土遺物実測図

土 墳 番 号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平 面 形	規 模			壁 面	底 面	覆 土	出 土 遺 物	備 考 古→新	図 版 番 号
				長径(m)	短径(m)	深さ(cm)						
169	D6f ₉	N-15°-W	楕 円 形	1.8	[1.2]	30	外 傾	平 坦	人 為		SK-621, 870不明	202
493	D6g ₀	N-79°-E	不 定 形	2.9	1.1	35	緩 傾	皿 状	自 然	内耳3片	SK-871不 明	202
621	D6f ₉	N-28°-W	楕 円 形	1.5	[1.0]	50	緩 傾	皿 状	人 為	土師質1片	SK-169不 明	202
626	D6f ₀	N-15°-E	楕 円 形	1.3	[0.8]	30	緩 傾	皿 状	-		SK-634不 明	202
634	D6f ₀	N-0°	不 定 形	2.4	[1.8]	50	緩 傾	皿 状	人 為		SK-626不 明	202
867	D6f ₉	N-73°-E	隅丸長方形	[0.8]	0.7	20	緩 傾	皿 状	自 然	土師質1片, 内 耳4片	SK-873不 明	202
868	D6f ₉	N-71°-W	楕 円 形	1.5	1.3	40	緩 傾	皿 状	自 然			202
869	D7f ₁	N-37°-W	楕 円 形	1.2	0.8	18	外 傾	皿 状	-			202
870	D6f ₉	N-0°	楕 円 形	1.6	[1.2]	38	緩 傾	皿 状	人 為		SK-169, 871不明	202
871	D6g ₉	N-40°-W	楕 円 形	[1.6]	1.3	20	緩 傾	凹 凸	-		SK-493, 871不明	202
872	D6f ₀	N-27°-W	楕 円 形	1.2	[1.0]	30	外 傾	皿 状	人 為		SK-867不 明	202
873	D6f ₀	N-40°-W	円 形	1.2	1.1	25	外 傾	皿 状	-			202

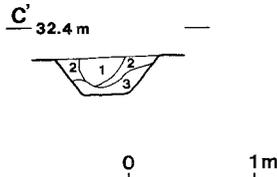
(2) 溝

第13号溝 (第204図)

位置 調査区の中央部, D6h₇・D6h₈・D6i₈区で確認されている。

重複関係 本跡は, 第5号堀, 第624号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 南西から北東へ13m
 程弧状に延びており、上幅0.6~0.9
 m、下幅0.2~0.4m、深さ30cmで、
 断面形は「 \cup 」状を呈している。底
 面は、平坦である。



SD-13 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 におい褐色 ローム粒子中量
- 3 橙 色 ローム粒子多量, 黒色粒子・
ロームブロック少量

第204図 第13号溝断面図

方向 N-36°-E

覆土 人為堆積。

遺物 覆土から内耳鍋の細片が出土している。

所見 本跡の時期や性格は、不明である。

第14号溝 (第205図)

位置 調査区の北西部, C5f₀・C5g₀区で確
 認されている。

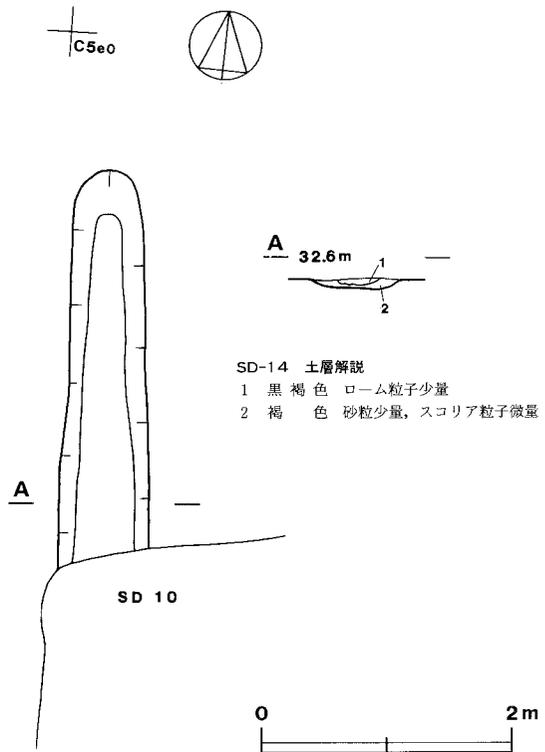
重複関係 本跡は、第10号溝に掘り込まれ
 ている。

規模と形状 南から北へ3.2m程直線的に
 延びており、上幅0.7m、下幅0.4m、深さ
 8cmで、断面形は「 \cup 」状を呈している。
 底面は、平坦である。

方向 N-2°-W

覆土 自然堆積。

所見 本跡は、第10号溝との重複から奈良
 ・平安時代、あるいはそれ以前のものと思
 われるが、出土遺物がなく、時期を特定す
 ることはできない。



SD-14 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 砂粒少量, スコリア粒子微量

第205図 第14号溝実測図

第17号溝 (第206図)

位置 調査区の北東部, C7e₁・C7e₂・C7f₁・C7f₂区で確認されている。

重複関係 本跡は、第2号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

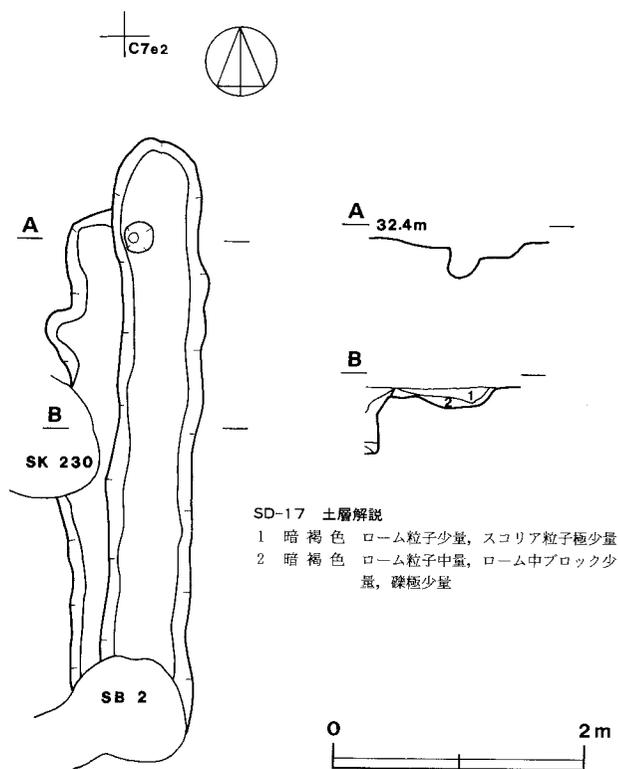
規模と形状 南から北へ4.2m程直線的に延びており、上幅1.1m、下幅0.4~0.5m、深さ14cmで、
 断面形は「 \cup 」状を呈している。また、西部は二段に掘り込まれている。底面は、平坦である。

方向 N-2°-E

覆土 ロームブロックをかなり多く含んでおり、人為堆積である。

遺物 覆土から土師器の甕の細片や須恵器の坏の細片が出土しているが、遺構内に混入したものと思われる。

所見 本跡の時期や性格は、不明である。



第206図 第17号溝実測図

第19号溝 (第207図)

位置 調査区の北東部, C7d₂・C7e₂・C7f₂区で確認されている。

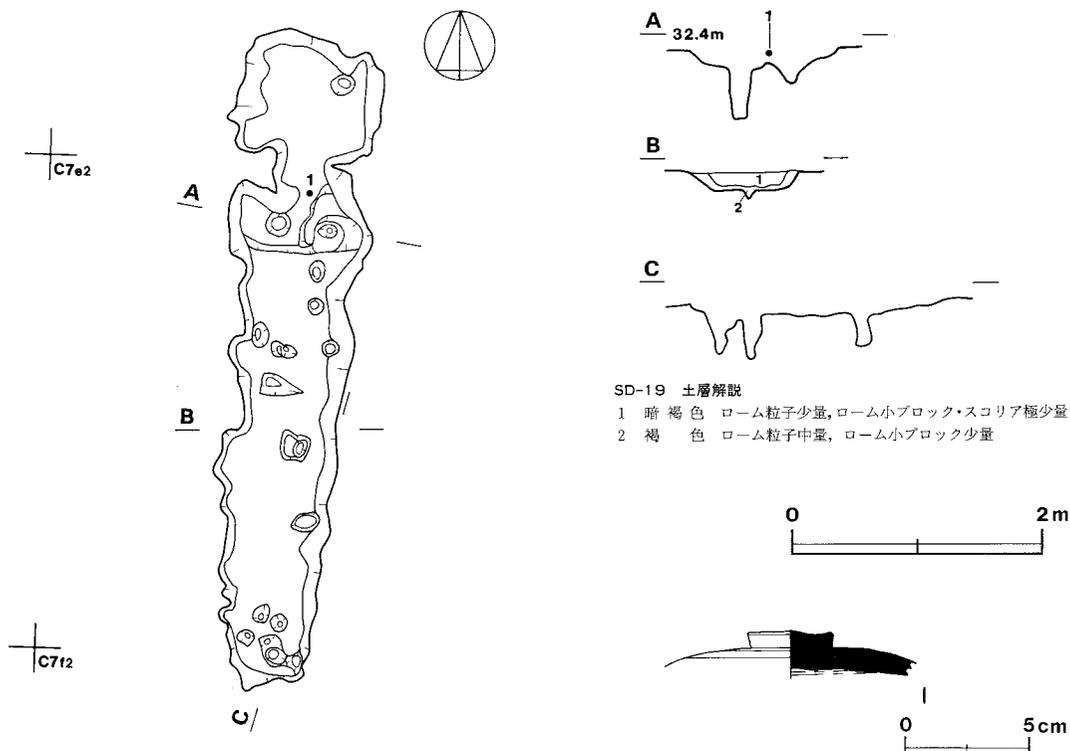
規模と形状 南から北へ5.3m直線的に延びており, 上幅1.0m, 下幅0.3~0.9m, 深さ14cmで, 断面形は「U」状を呈している。底面は, 平坦である。

方向 N-2°-E

覆土 自然堆積。

遺物 覆土から土師器と須恵器合わせて2片が出土している。1の須恵器の坏蓋片は, 底面からの出土である。

所見 本跡からの出土遺物は少なく, 本跡の時期を特定することはできない。



第207図 第19号溝・出土遺物実測図

第19号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第207図 1	蓋 須恵器	A [10.0] B (1.9) F [3.4] G 0.7	天井部, 口縁部片。偏平なつまみが付く。	天井部回転ヘラ削り調整。	長石 灰黄色 普通	20% P281 北寄り底面。

第22号溝 (第208図)

位置 調査区の北東部, C7e₂・C7e₃・C7e₄・C7d₃・C7d₄区で確認されている。

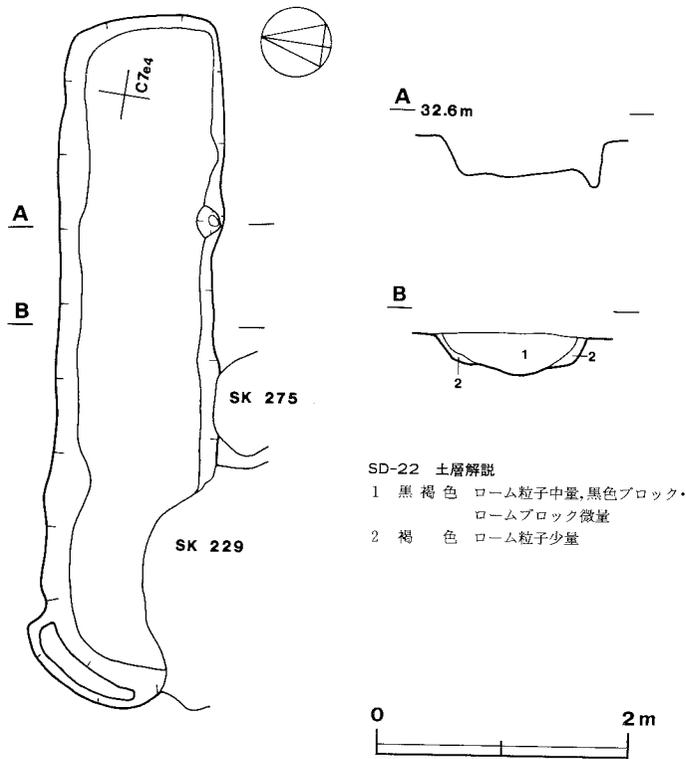
重複関係 本跡の西部は, 第229号土坑に掘り込まれている。また, 第275号土坑とも重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 東から西へ5.6m直線的に延びており, 上幅1.2m, 下幅1.0m, 深さ30cmで, 断面形は「U」状を呈している。底面は, 平坦である。

方向 N-70°-E

覆土 ローム粒子や黒色ブロックを含んでいることから人為堆積である。

所見 本跡は, 重複関係から中世以前の遺構であると思われるが, 出土遺物がなく, 時期を特定することはできない。



第208図 第22号溝実測図

第23号溝 (第209図)

位置 調査区の北部，C6c₀・C6d₀区で確認されている。

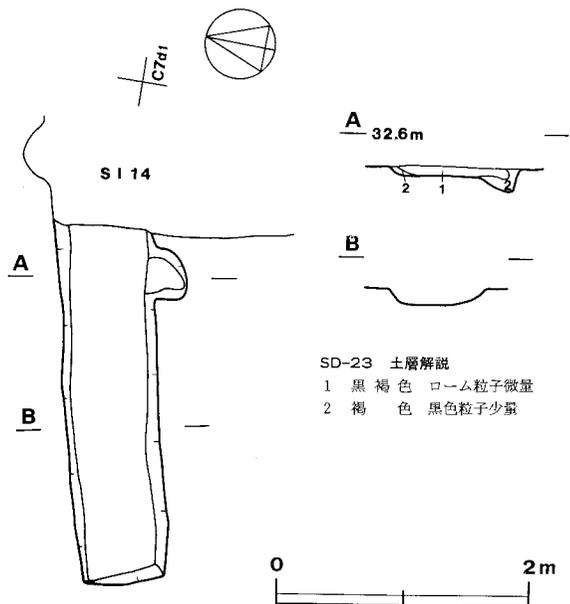
重複関係 本跡は，第14号方形竪穴状遺構，第2号掘立柱建物跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 南西から北東へ2.9m直線的に延びており，上幅0.8m，下幅0.6m，深さ14cmで，断面形は「┌」状を呈している。底面は，平坦である。

方向 N-77°-E

覆土 自然堆積。

所見 本跡は出土遺物がなく，新旧関係が不明であり，時期や性格を特定することはできない。



第209図 第23号溝実測図

第27号溝 (第210図)

位置 調査区の北東部, B
7区で確認されている。

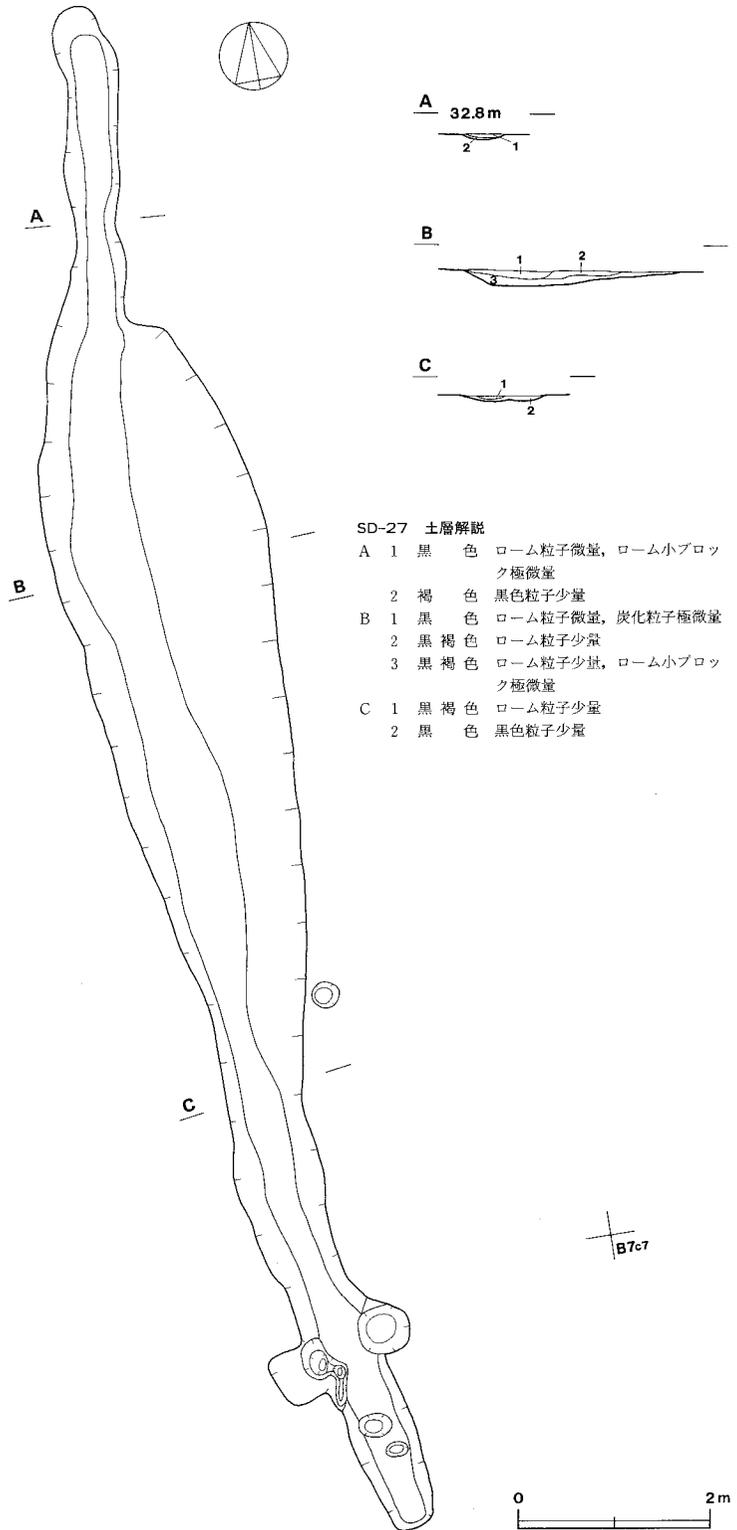
規模と形状 東から西へ
17.3m程直線的に延びて
おり, 上幅0.4~4.3m, 下
幅0.2~0.8m, 深さ25cmで,
断面形は「U」状を呈して
いる。底面は, 平坦である。

方向 N-85°-E

覆土 自然堆積。

遺物 覆土から土師器の細
片や須恵器の細片, 陶磁器
の細片が少量出土してい
る。

所見 本跡の出土遺物は流
れ込みであり, 時期を特定
することはできない。



第210図 第27号溝実測図

第28号溝 (第211図)

位置 調査区の北部, B7c₅・B7d₅区で確認されている。

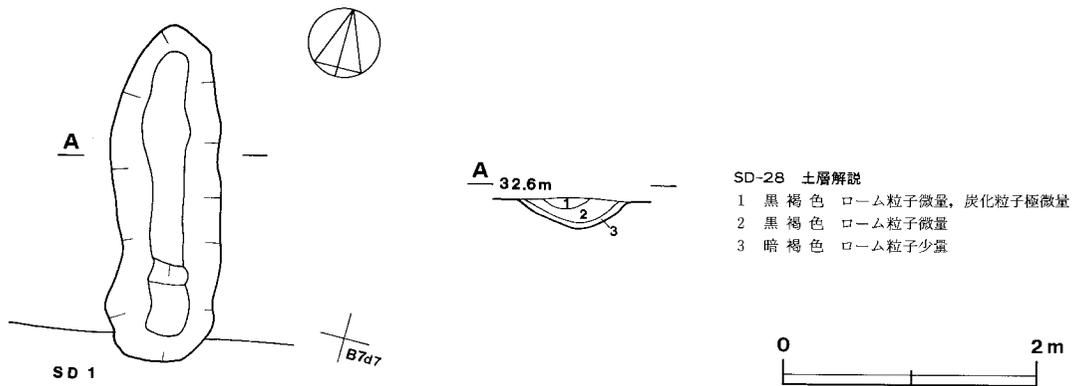
重複関係 本跡の南端は, 第1号堀に掘り込まれている。

規模と形状 南から北へ2.7m直線的に延びており, 上幅0.9m, 下幅0.3m, 深さ25cmで, 断面形は「U」状を呈している。底面は, 平坦である。

方向 N-14°-W

覆土 自然堆積。

所見 本跡は, 重複関係から15世紀後半から16世紀前半の館跡が構築される前の遺構と思われるが, 出土遺物がなく, 時期を特定できない。



第211図 第28号溝実測図

第29号溝 (第212図)

位置 調査区の北東端, A8e₅～A8g₁区で確認されている。

規模と形状 北西から南東へ直線的に27m程延びている。上幅1.0m, 下幅0.2m, 深さ36cmで, 北東部は二段掘り込みを呈しており, 断面形は「U」状を呈している。底面は, わずかな凹凸が見られる。

方向 N-76°-W

覆土 自然堆積。

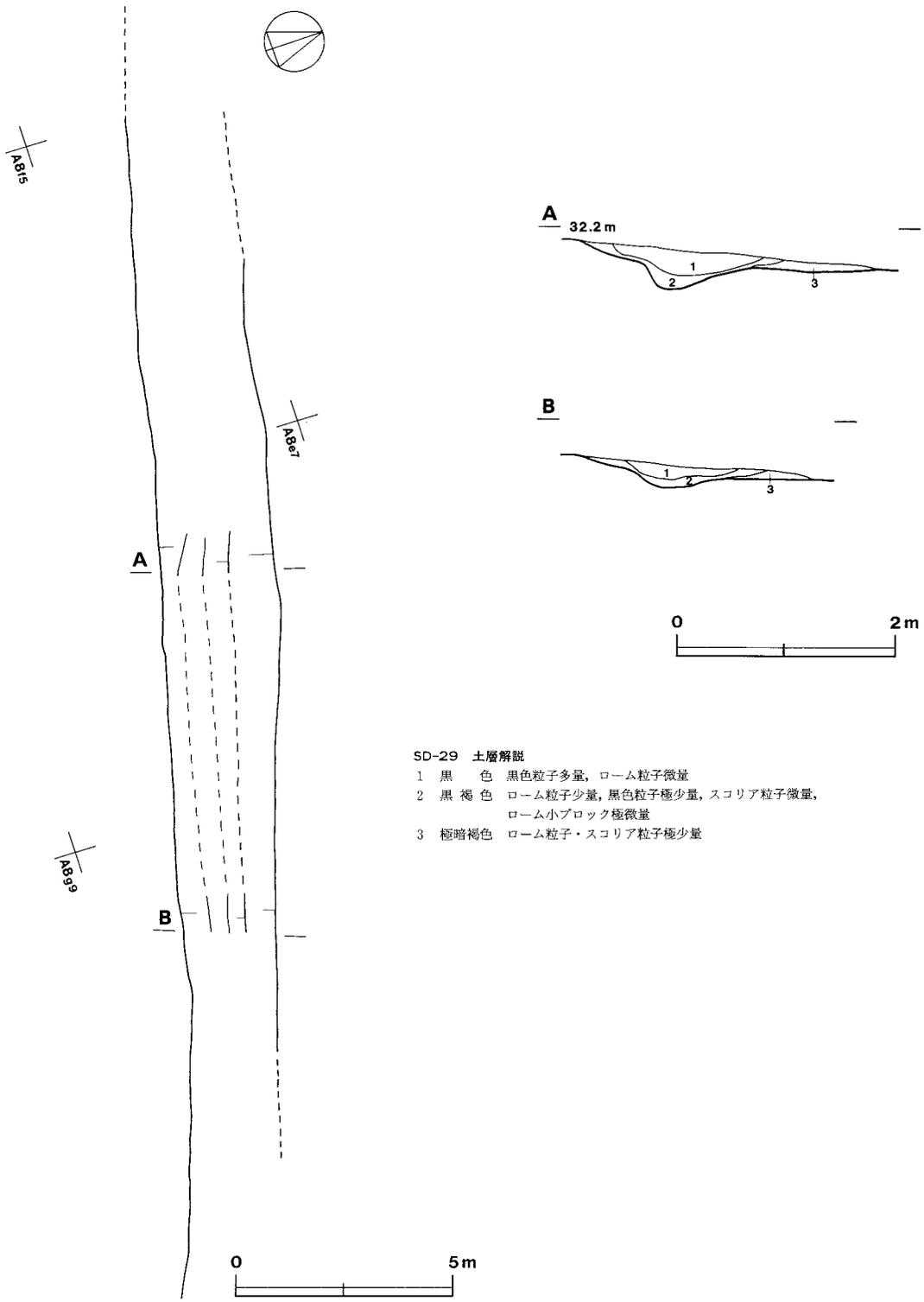
所見 本跡は全容は不明で, 出土遺物がないことから時期や性格は不明である。

第2号溝 <II区> (付図1)

位置 調査区の南西部, G4・G5区で確認されている。

重複関係 G4d₈区で, 第1号溝 <II区> を掘り込んでいる。

規模と形状 全長70m程で, 上幅0.5～1.0m, 下幅0.2～0.5m, 深さ10cm前後で, 断面形は「U」



SD-29 土層解説

- 1 黒色 黒色粒子多量, ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 黒色粒子極少量, スコリア粒子微量,
ローム小ブロック極微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・スコリア粒子極少量

第212図 第29号溝実測図

状を呈している。底面は、平坦である。

方向 G4f₅ から G5i₉ 区まで、東方向 (N-63°-E) へ若干蛇行しながら延びている。

覆土 自然堆積。

遺物 覆土から須恵器の甕底部の細片や縄文式土器の細片が5片程出土している。

所見 重複関係から8世紀以降に構築された遺構と思われるが、時期は特定できない。

(3) 井戸

第18号井戸 (付図1)

位置 調査区の北部、B7j₁ 区で確認されている。

重複関係 本跡は第1号堀と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 掘り方は、上面が径2.4mの円形を呈し、確認面から0.6mの深さまで急傾斜を呈する。

覆土 調査中に断面が崩落してしまい不明である。

所見 本跡は、位置等から中世のものと思われる。

(4) 地下式墳

第5号地下式墳 [SK-170] (第213図)

位置 調査区の中央部、D6i₄ 区を中心に確認されている。

重複関係 本跡の竪坑は、第5号堀を掘り込んでいる。

主軸方向 N-43°-E

竪坑 上面は、長軸2.4m、短軸1.5mの不定形を呈し、深さは、2.3mである。底面は長軸1.1m、短軸0.7mの不整長方形を呈している。長軸方向はN-29°-Wを指している。

主室 底面は、長軸2.4m、短軸1.9mの隅丸長方形を呈し、平坦である。確認面から主室底面までの深さは、2.5mである。長軸方向はN-46°-Wを指している。

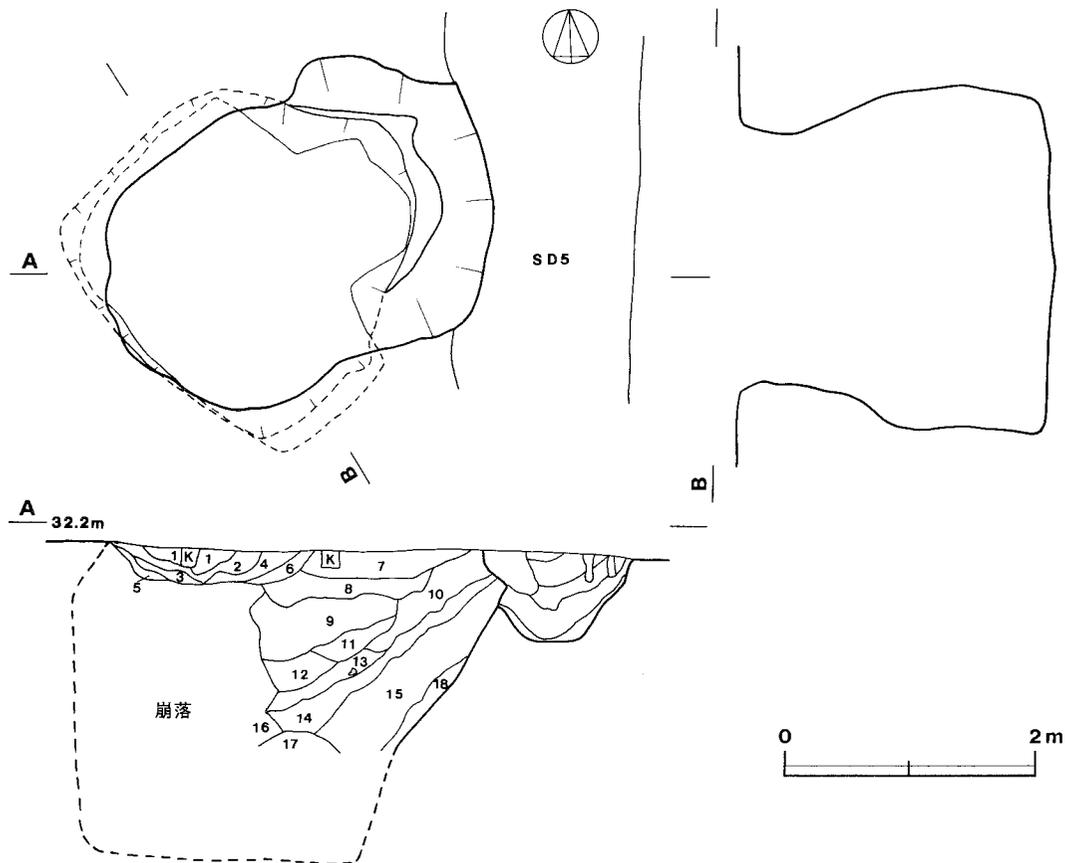
壁 竪坑は、ほぼ垂直に立ち上がっている。主室は、胴張りを呈している。

覆土 ロームブロックやローム粒子を含む褐色土の層が多いことから竪坑側から人為的に土砂を投げ入れたものと思われる。

所見 本跡は、第5号堀との重複関係から、堀が埋没した跡に掘られたものと思われるが、時期は不明である。

第22号地下式墳 [SK-575] (第214図)

位置 調査区の中央部、D7e₃ 区を中心に第2号墓墳群 (SX-4) 内に確認されている。



第5号地下式墳 土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------------|--------|------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 11 黒褐色 | 黒色粒子中量, ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 12 黒褐色 | 黒色粒子多量, ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 黒色粒子中量, ローム粒子少量 | 13 暗褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子少量 |
| 4 黒褐色 | 黒色粒子中量, ローム粒子・砂質粘土少量 | 14 黒褐色 | 黒色粒子中量, ローム粒子少量 |
| 5 褐色 | ローム粒子多量, スコリア粒子少量 | 15 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・黒色粒子少量, パミス粒子極少量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子少量 | 16 黒褐色 | 黒色粒子中量, ローム粒子極少量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量 | 17 黒褐色 | ローム粒子・黒色粒子少量 |
| 8 黒褐色 | 黒色粒子中量, ローム粒子少量 | 18 暗褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子極少量 |
| 9 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, スコリア粒子・黒色粒子極少量 | | |
| 10 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, パミス粒子・黒色粒子極少量 | | |

第213図 第5号地下式墳実測図

重複関係 本跡は、第580・601号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

主軸方向 N-34°-W

竪坑 上面は、長径1.5m、短径0.8mの半楕円形を呈し、深さは、1.0mである。底面は長径0.7m、短径0.6mの半楕円形を呈している。長径方向はN-34°-Wを指している。

主室 底面は、長軸1.8m、短軸1.3mの隅丸長方形を呈し、ほぼ平坦である。確認面から主室底面までの深さは、1.4mである。長軸方向はN-58°-Eを指している。

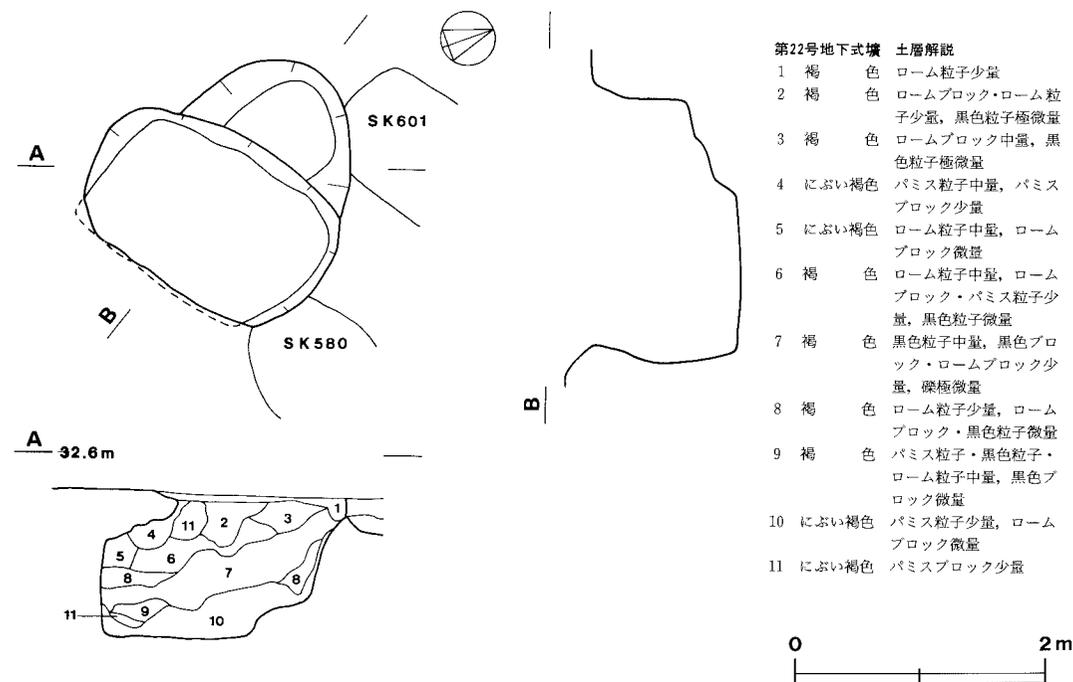
壁 竪坑は、確認面から深さ80cmまで垂直に下り、そこで若干の平場を持ち、さらに傾斜して主

室底面に至る。主室は、胴張りを呈している。

覆土 ローム土やロームブロック等の不自然な堆積をしており、人為堆積である。

遺物 覆土中層から内耳鍋の細片をはじめ、混入と思われる須恵器の坏片が出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から中世のものと思われる。



第214図 第22号地下式墳実測図

第23号地下式墳 [SK-581] (第215図)

位置 調査区の北東部, C7f₇区を中心に確認されている。

重複関係 本跡の主室は、第5・6号堀を掘り込んでいる。

主軸方向 N-12°-W

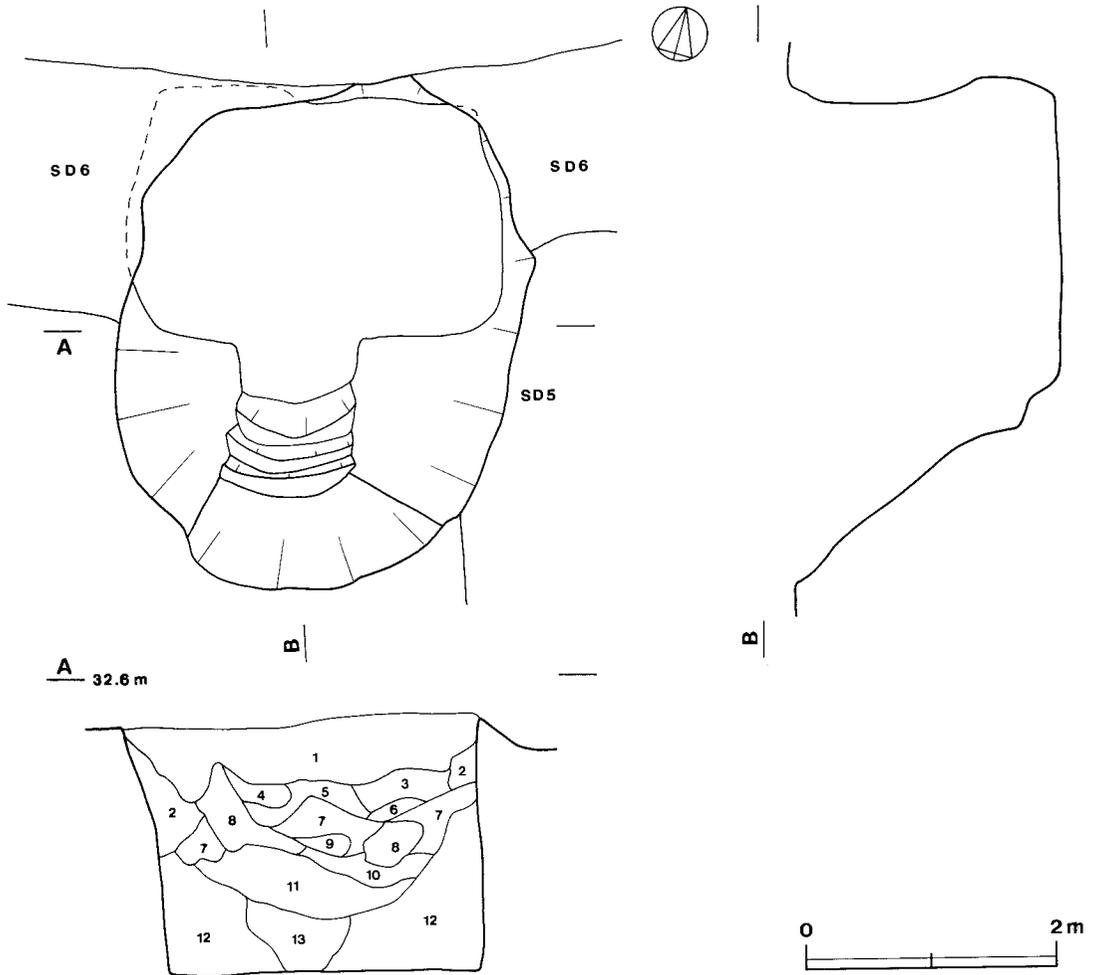
竪坑 上面は、長径3.1m, 短径2.1mの半楕円形を呈し、深さは、2.2mである。底面は長軸0.9m, 短軸0.5mの長方形を呈している。長径方向はN-12°-Wを指している。

主室 底面は、長軸3.0m, 短軸1.9mの隅丸長方形を呈し、平坦である。確認面から主室底面までの深さは、2.2mである。長軸方向はN-77°-Eを指している。

壁 竪坑は南部から主室底面に向かって、階段状に掘られている。主室は、西壁がオーバーハンクしているのに対し、他の壁はほぼ垂直に立ち上がっている。

覆土 覆土最下層は天井部の崩落層と思われる。全体的に土砂がブロック状に堆積しており、人為堆積である。

所見 本跡は、堀との重複関係から第Ⅳ期の館跡が廃絶された後に作られたものと思われる。



第23号地下式塙 土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------------------|---------|------------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子・ロームブロック微量 | 8 褐色 | ローム粒子少量, スコリアブロック・ロームブロック極微量 |
| 2 にぶい褐色 | ロームブロック少量, スコリア粒子・黒色粒子微量 | 9 にぶい褐色 | ロームブロック・黒色粒子極微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子少量, ロームブロック微量, 黒色粒子極微量 | 10 灰褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子微量, ロームブロック極微量 |
| 4 にぶい褐色 | ロームブロック中量, 黒色粒子極微量 | 11 褐色 | ローム粒子少量, 黒色粒子極微量 |
| 5 褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子少量, ロームブロック微量 | 12 褐色 | 黒色粒子極微量 |
| 6 灰褐色 | ローム粒子中量, ロームブロック微量, 黒色粒子極微量 | 13 黒褐色 | ローム粒子中量, ロームブロック・黒色粒子少量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子少量, 黒色ブロック・ロームブロック極微量 | | |

第215図 第23号地下式塙実測図

第27号地下式塙 [SK-640] (第173図)

位置 調査区の中央部, D7c₁区を中心に確認されている。

重複関係 本跡の北コーナー部は, 第644号土坑を, 南東壁は第630号土坑を掘り込んでいる。ま

た、第26号地下式墳との新旧関係は不明である。

主軸方向 N-40°-E

竪坑 上面は、長径1.3m、短径1.1mの半楕円形を呈し、深さは、1.3mである。底面は長軸1.2m、短軸0.5mの不定形を呈している。長径方向はN-46°-Wを指している。

主室 底面は、長軸2.3m、短軸1.7mの隅丸長方形を呈し、平坦である。確認面から主室底面までの深さは、1.3mである。

壁 竪坑は北東部から主室底面に向かって、階段状に掘られている。主室は、ほぼ垂直に立ち上がっている。長軸方向はN-50°-Wを指している。

覆土 ロームブロック等をかなり多く含んでおり、竪坑側から人為的に土砂を投げ入れたと思われる。

遺物 覆土中層から内耳鍋の細片が少量出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から中世のものと思われる。

(5) 小竪穴状遺構

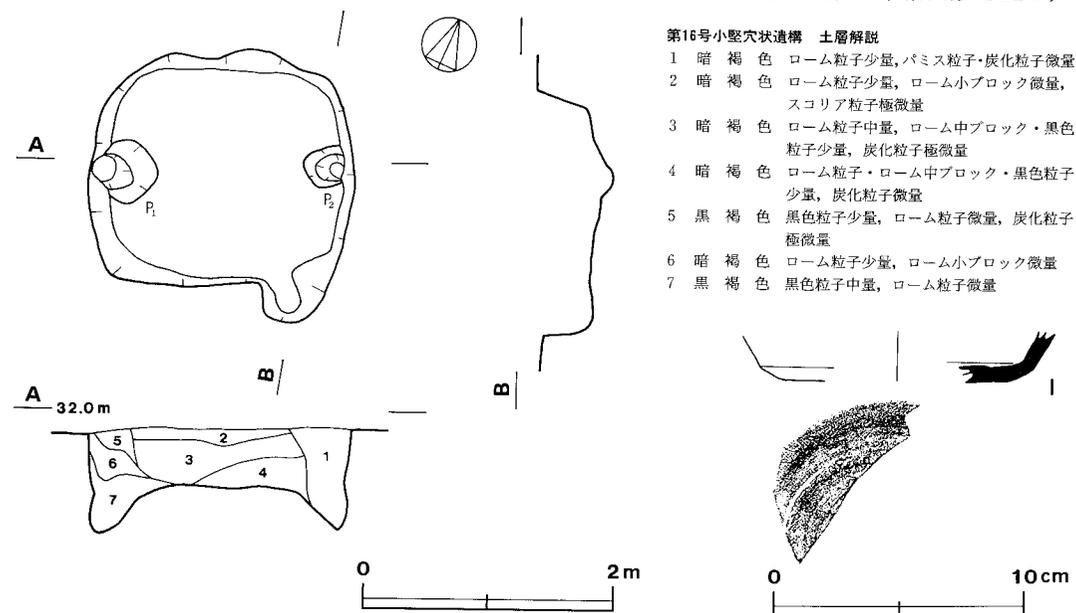
第16号小竪穴状遺構 [SK-477] (第216図)

位置 調査区の北東部中央寄り、D7a₂区を中心に確認されている。

規模と平面形 長軸2.1m、短軸1.8mの隅丸長方形を呈している。

主軸方向 N-26°-W

出入口部 南東壁の中央から東コーナー寄りの壁外に張り出している。平面形は半楕円形を呈し、



第216図 第16号小竪穴状遺構・出土遺物実測図

規模は長径0.6m、短径0.4mである。

壁 壁高は40cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

床 わずかな窪みがある。

ピット 2か所 (P₁, P₂) 検出されている。P₁は径30cmの円形を呈し、深さ30cmである。P₂は径50cmの円形を呈し、深さ40cmで、どちらも柱穴と思われる。

覆土 自然堆積。

遺物 床面から古銭1枚が出土している。その他、流入と思われる須恵器の坏片が出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から中世のものと思われる。

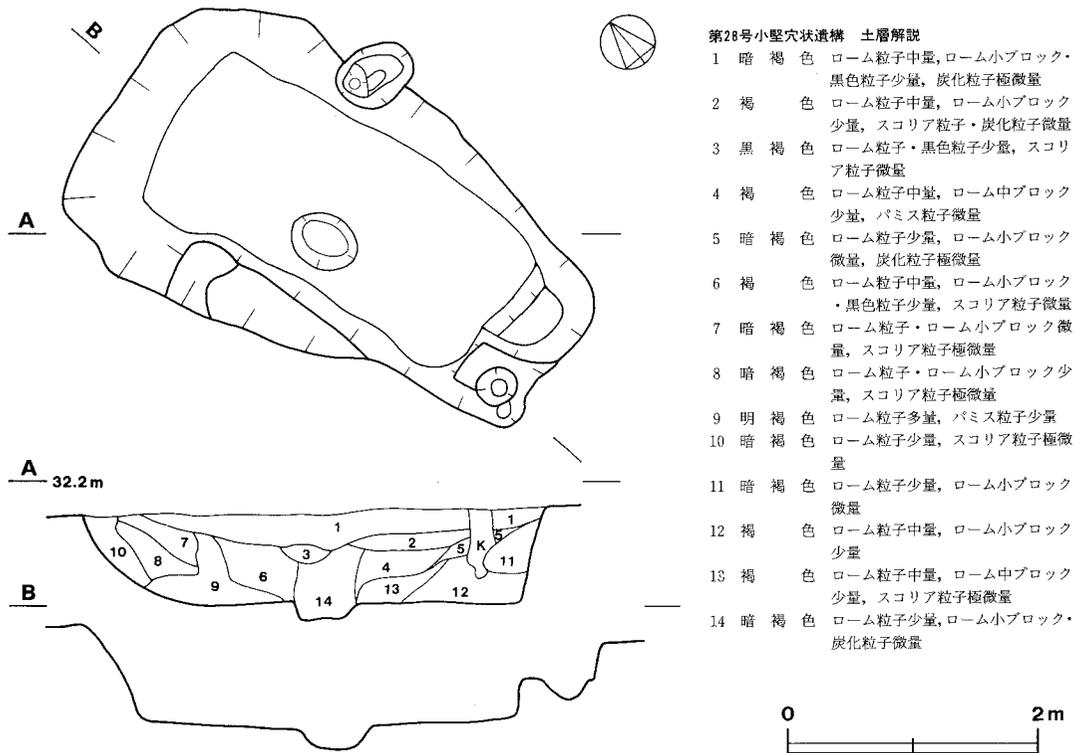
第16号小竪穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第216図 1	坏 須恵器	B (2.0) C [9.0]	底部, 体部片。平底。体部は外傾する。	体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り。	長石 灰色 普通	10% 覆土。 P190

第28号小竪穴状遺構 [SK-604] (第217図)

位置 調査区の北部中央寄り, D7a₁区を中心に確認されている。

規模と平面形 長軸3.6m、短軸1.8mの隅丸長方形を呈している。



第217図 第28号小竪穴状遺構実測図

主軸方向 N-13°-W

出入口部 南壁外に張り出している。平面形は隅丸長方形を呈しており、床面に向かって緩やかに傾斜している。規模は長軸1.0m、短軸0.5mである。

壁 壁高は80cmで、緩やかに外傾して立ち上がっている。

床 平坦である。西壁側に楕円形の落ち込みが検出されている。

覆土 各層共ロームブロックを含んでおり、人為堆積である。

所見 本跡は、遺構の形態等から中世のものと思われる。

第32号小竪穴状遺構 [SK-635] (第218図)

位置 調査区の中央部、D6g₇区を中心に確認されている。

規模と平面形 長軸3.1m、短軸1.5mの隅丸長方形を呈している。

主軸方向 N-6°-W

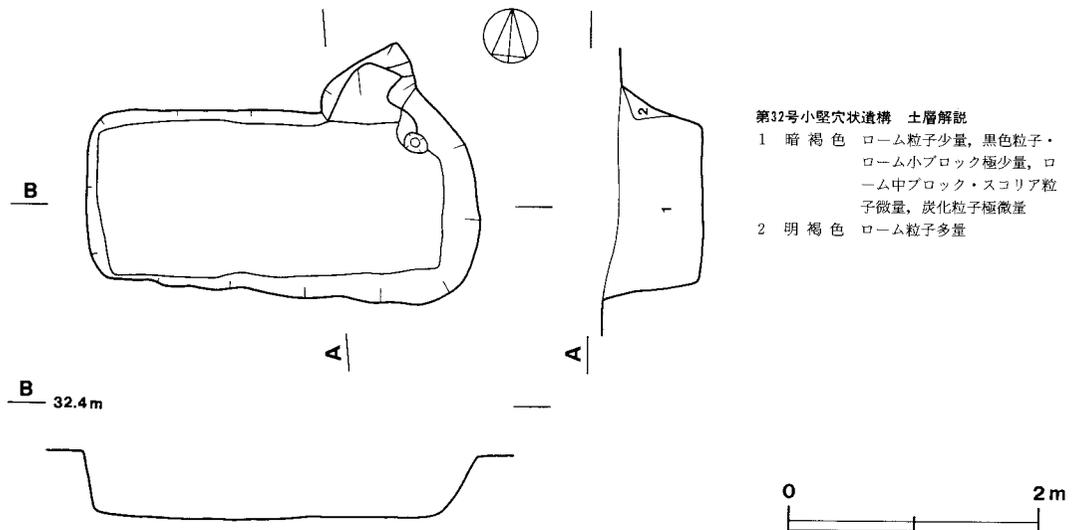
出入口部 北壁の中央から北東コーナー寄りの壁外に張り出している。平面形は半楕円形を呈しており、床面に向かって緩やかに傾斜している。規模は長径0.8m、短径0.6mである。

壁 壁高は50cmで、緩やかに外傾して立ち上がっている。

床 平坦。

覆土 人為堆積。

所見 本跡は、遺構の形態等から中世のものと思われる。



第218図 第32号小竪穴状遺構実測図

第37号小竪穴状遺構 [SK-658] (第219図)

位置 調査区の北部中央寄り, C7i₂区を中心に確認されている。

重複関係 本跡の北東コーナー部は, 第460号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と平面形 長軸2.3m, 短軸2.0mの隅丸長方形を呈している。

主軸方向 N-0°

出入口部 南壁の中央から南東コーナー寄りの壁外に張り出している。平面形は隅丸長方形を呈しており, 床面に向かって階段状に掘られている。規模は長軸0.8m, 短軸0.7mである。

壁 壁高は100cmで, 西壁はオーバーハングしている。他の壁は, ほぼ垂直に立ち上がっている。

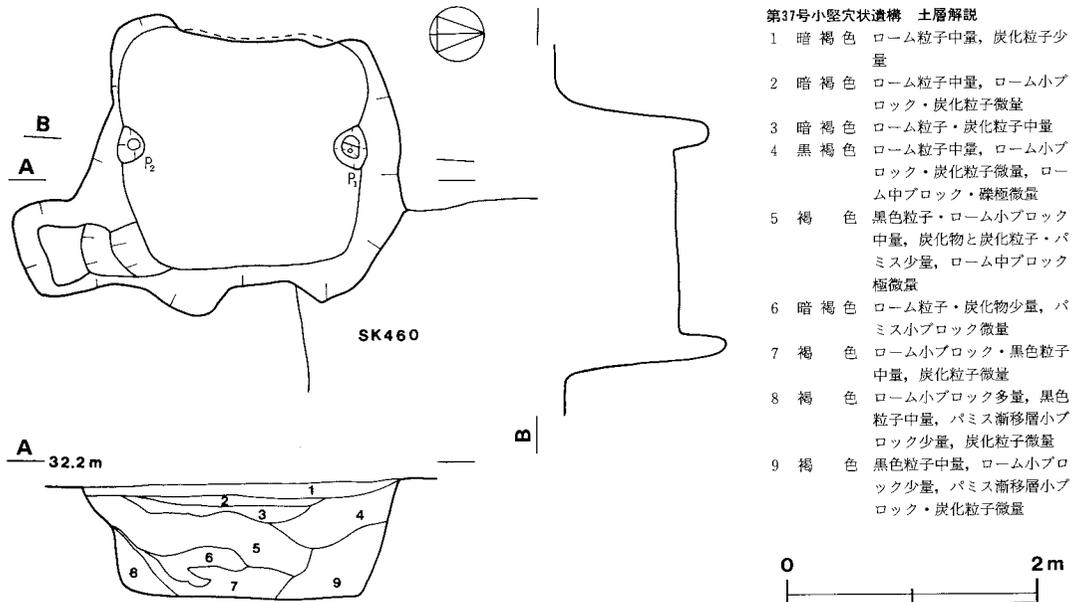
床 平坦。

ピット 2か所 (P₁, P₂) 検出されている。P₁, P₂とも長径35cm, 短径25cmの楕円形を呈し, 深さ30cmで, 柱穴と思われる。

覆土 ロームブロックがかなり多く含まれ, 不自然な堆積をしており, 人為堆積である。

遺物 覆土から内耳鍋の細片や混入と思われる須恵器片, 土師器片が出土している。

所見 本跡は, 出土遺物等から中世のものと思われる。



第219図 第37号小竪穴状遺構実測図

第39号小竪穴状遺構 [SK-664] (第220図)

位置 調査区の北東部, C7h₈区を中心に確認されている。

重複関係 本跡の出入口部は, 第530号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と平面形 長軸2.5m, 短軸2.2mの長方形を呈している。

主軸方向 N-29°-W

出入口部 北西壁の中央から北コーナー寄りの壁外に張り出している。平面形は半楕円形を呈している。規模は長径1.3m, 短径1.0mである。

壁 壁高は110cmで, 西, 北コーナー部でオーバーハングが見られる以外は, 垂直に立ち上がっている。

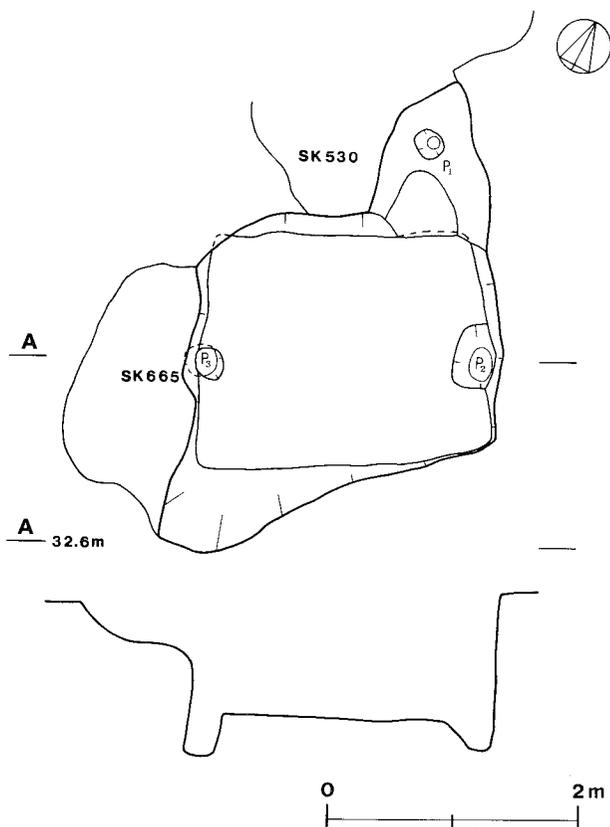
床 平坦。

ピット 3か所 (P₁~P₃) 検出されている。P₁は径24cmの円形を呈し, 深さ20cmである。P₂は長径50cm, 短径33cmの楕円形を呈し, 深さ25cmである。P₃は径23cmの円形を呈し, 深さ35cmである。

P₂, P₃は, 柱穴と思われる。P₁は, 性格不明である。

覆土 ローム粒子やロームブロックを含んでおり, 人為堆積である。

所見 本跡は, 遺構の形態等から中世のものと思われる。



第220図 第39号小竪穴状遺構実測図

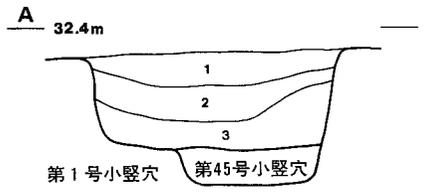
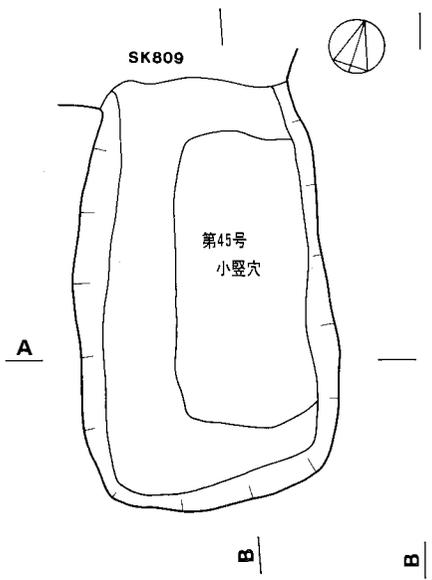
第1号小竪穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第230図 1	内耳鍋 土師質土器	A [29.4] B (7.9)	体部, 口縁部片。体部は内彎ぎみに外上方に立ち上がり, 口縁部でやや外反する。	口縁部, 体部内・外面横ナデ。	長石・石英にふい褐色普通	5% P157 ススが付着。 覆土。

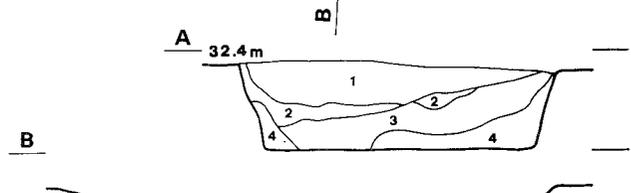
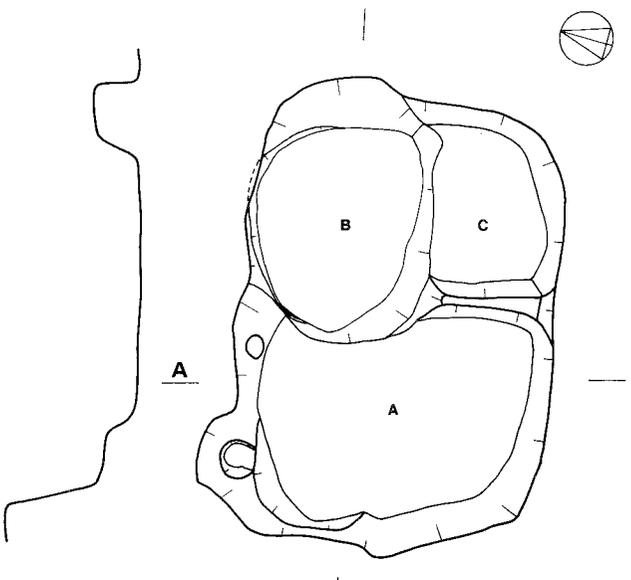
図版番号	器種	石質	法量				出土地点	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
3	砥石	凝灰岩	6.3	3.7	1.1	33.1	覆土。	Q 9

第52号小竪穴状遺構出土遺物観察表

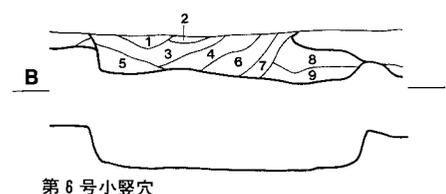
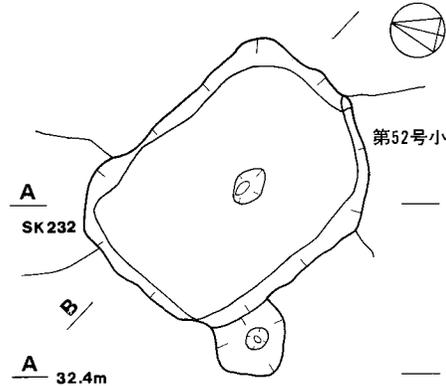
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第230図 2	香炉 瓦質土器	A [16.0] B (3.5)	体部片。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面横ナデ。体部上位に菊花の押印文。	砂粒黒褐色良好	5% P181 覆土。



- 第1号小竖穴状遺構 土層解説
- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量
 - 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・パミス粒子微量, 炭化粒子極微量
 - 3 黒褐色 ローム粒子極少量, ローム小ブロック・パミス粒子微量



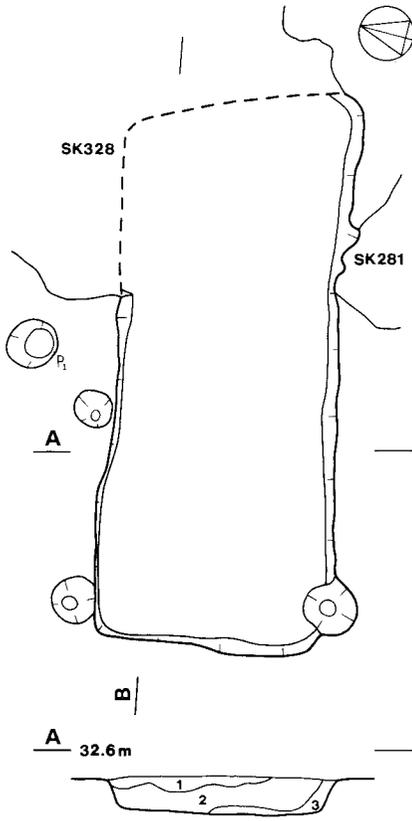
- 第5号小竖穴状遺構 土層解説
- 1 黒色 黒色粒子多量, ローム粒子極少量
 - 2 黒褐色 ローム粒子・黒色粒子中量, 砂質粘土少量
 - 3 黒褐色 黒色粒子多量, 砂質粘土少量, ローム粒子極少量
 - 4 灰褐色 ローム粒子中量, 砂・黒色粒子少量



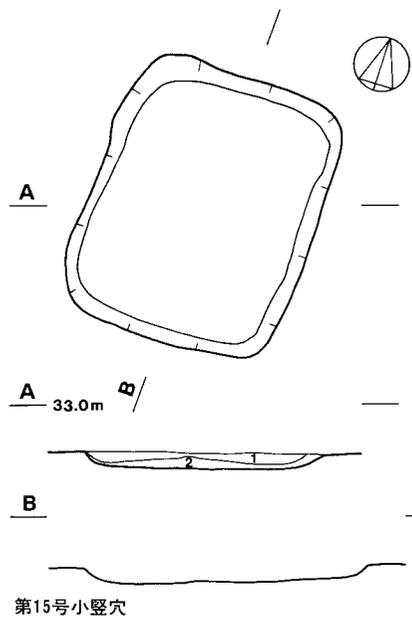
- 第6号小竖穴状遺構 土層解説
- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・スコリア粒子・炭化物極少量
 - 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子極少量
 - 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, スコリア粒子・炭化粒子極少量
 - 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・スコリア小ブロック少量, 黒色粒子極少量
 - 5 黒褐色 ローム粒子・黒色粒子少量, ローム小ブロック極少量
 - 6 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・黒色粒子極少量
 - 7 黒褐色 ローム粒子・スコリア小ブロック・黒色粒子少量
 - 8 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, スコリア小ブロック・炭化粒子・黒色粒子極少量
 - 9 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・スコリア粒子極少量



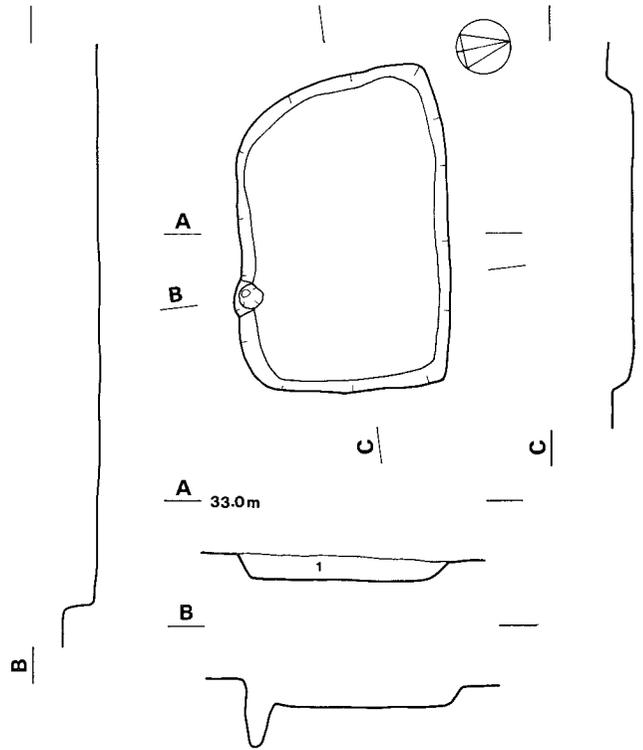
第221図 第1・5・6号小竖穴状遺構実測図



第12号小竪穴



第15号小竪穴



第14号小竪穴

第12号小竪穴状遺構 土層解説

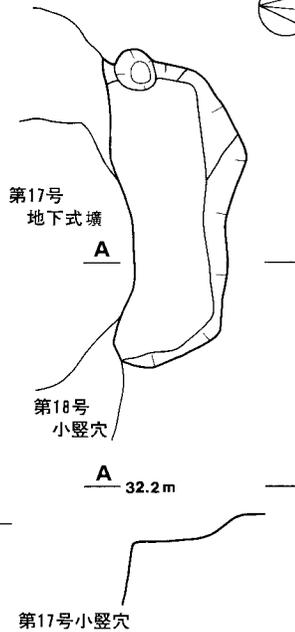
- 1 黒色 ローム粒子少量, 黒色粒子極微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, ロームブロック・黒色ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 黒色ブロック極微量

第14号小竪穴状遺構 土層解説

- 1 暗褐色 黒色粒子少量, ローム粒子・ローム小ブロック極少量, スコリア粒子微量, 炭化粒子極微量

第15号小竪穴状遺構 土層解説

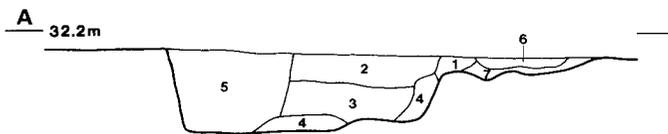
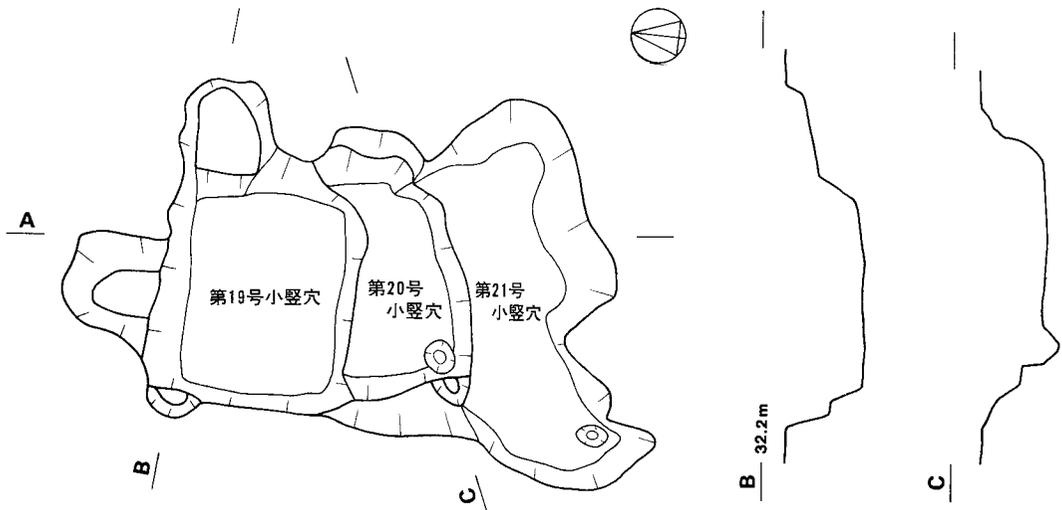
- 1 黒褐色 黒色粒子少量, ローム粒子極少量, スコリア粒子微量, ローム小ブロック極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・黒色粒子極少量, スコリア粒子微量



第17号小竪穴



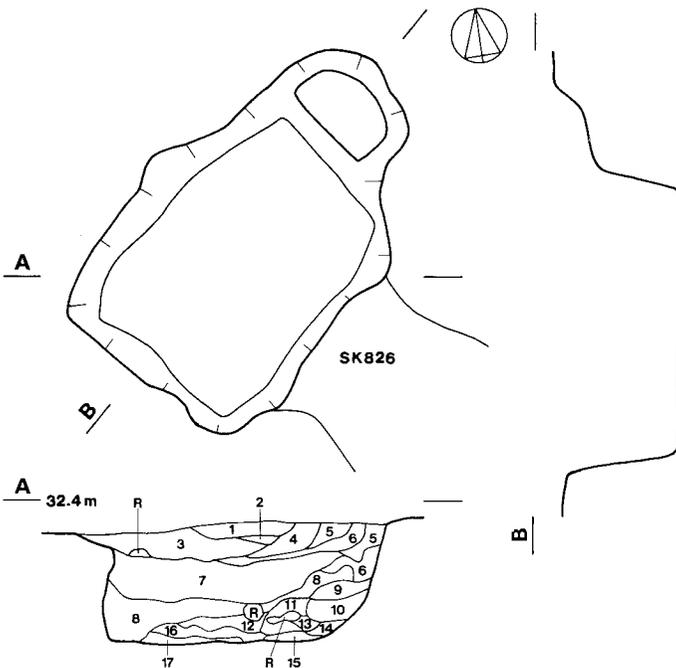
第222図 第12・14・15・17号小竪穴状遺構実測図



第19・20・21号小竪穴

第19・20・21号小竪穴状遺構 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, スコリア粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量, 炭化粒子極微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子極微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量, 炭化材微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量



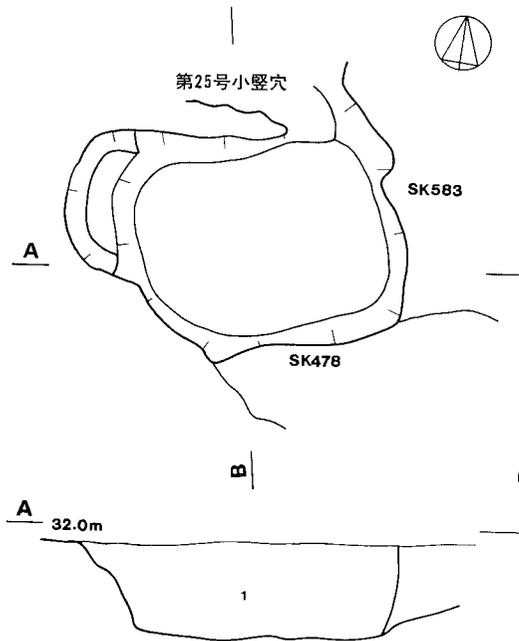
第26号小竪穴

第26号小竪穴状遺構 土層解説

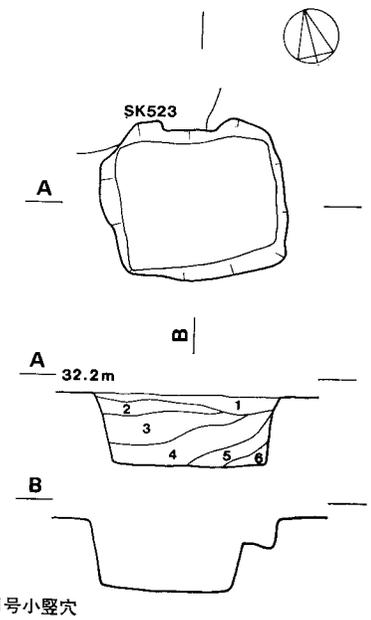
- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム粒子極微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量, 黒色粒子微量, スコリア粒子極微量
- 8 黒褐色 ローム粒子微量
- 9 黒褐色 ロームブロック微量
- 10 明褐色 黒色粒子極微量
- 11 褐色 黒色粒子少量
- 12 暗褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子少量
- 13 褐色 黒色粒子微量, スコリア粒子極微量
- 14 明赤褐色 スコリア粒子多量, 黒色粒子・パミス粒子極微量
- 15 におい褐色 パミス粒子・黒色ブロック微量
- 16 黒褐色 ロームブロック・ローム粒子極微量
- 17 褐色 ロームブロック少量, 黒色粒子微量, パミスブロック極微量



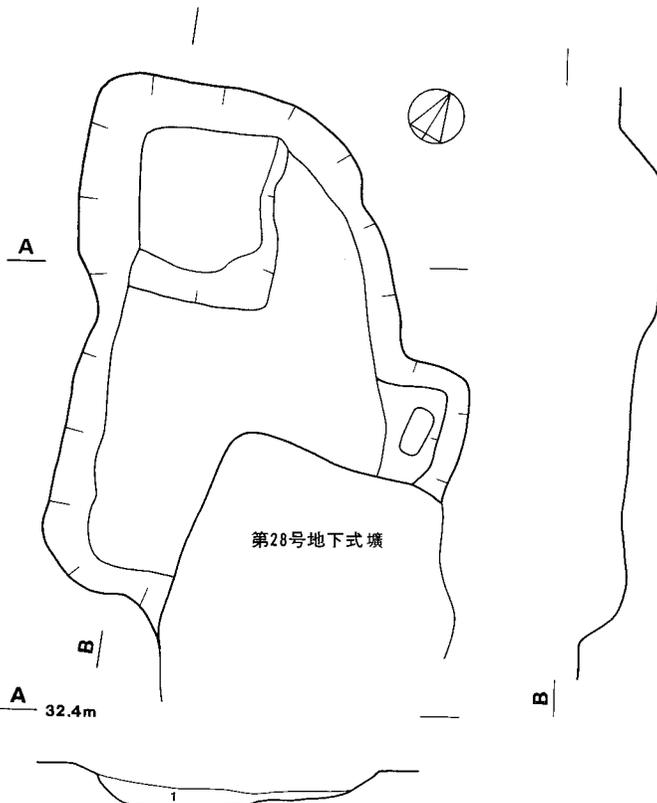
第223図 第19・20・21・26号小竪穴状遺構実測図



第25号小竖穴



第31号小竖穴



第29号小竖穴

第29号小竖穴状遺構 土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・パミス粒子少量, 黒色粒子・パミスブロック微量

第31号小竖穴状遺構 土層解説

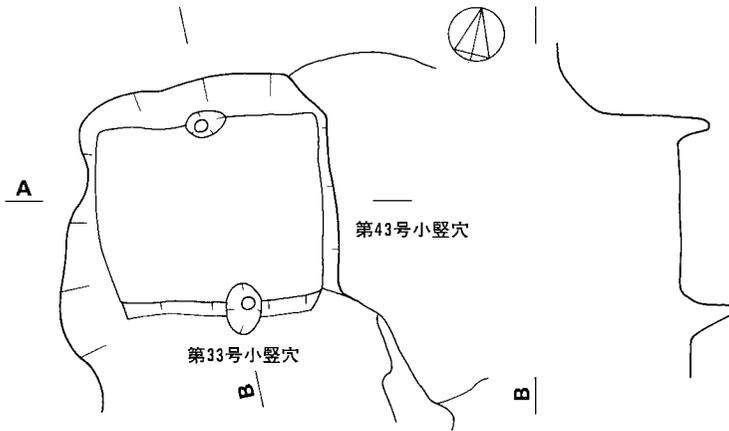
- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量, 炭化粒子極微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・黒色粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 6 極暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・黒色粒子微量

第33号小竖穴状遺構 土層解説

- 1 褐色 ローム大・小ブロック・黒色粒子極微量

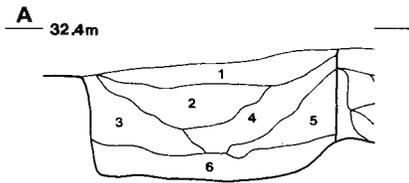


第224図 第29・31・33号小竖穴状遺構実測図

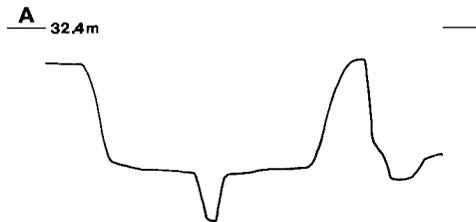
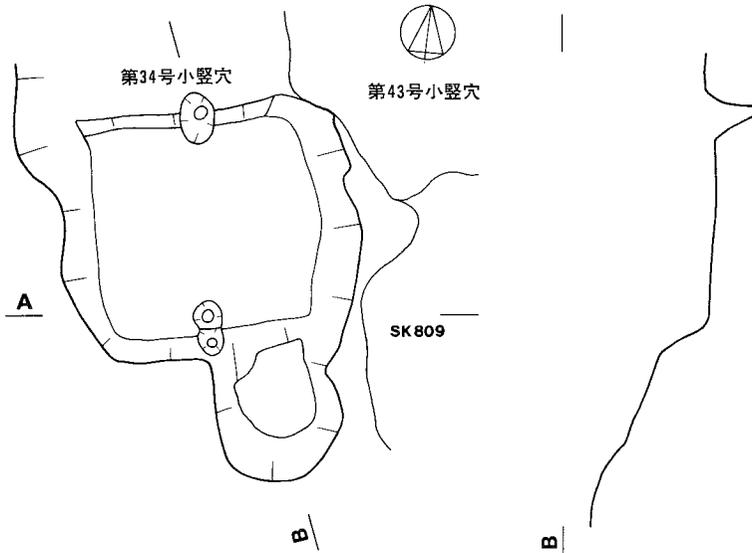


第34号小竪穴状遺構 土層解説

- | | | |
|---|-----|------------------------------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子中量, スコリア小ブロック微量, 炭化粒子極微量 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック極少量, 炭化粒子微量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化材微量, パミス粒子極微量 |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子極微量 |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量, 黒色粒子極少量, 炭化粒子極微量 |
| 6 | 暗褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック・黒色粒子少量 |



第34号小竪穴



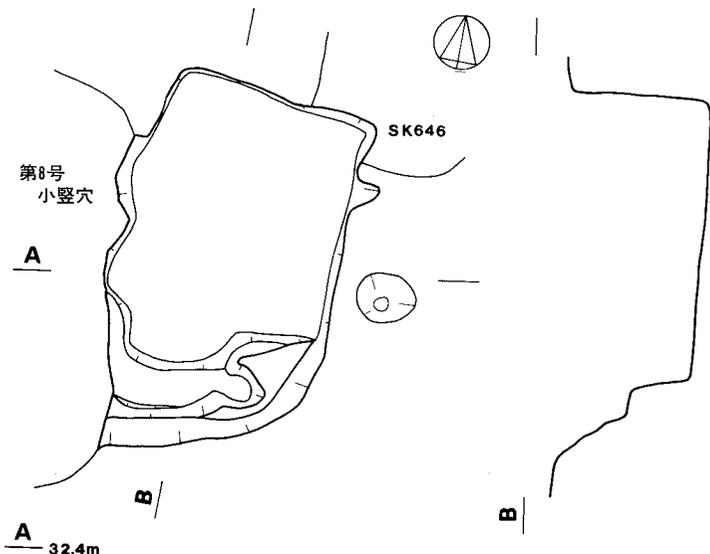
第35号小竪穴



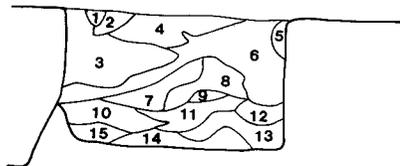
第225図 第34・35号小竪穴状遺構実測図

第8号
小竪穴

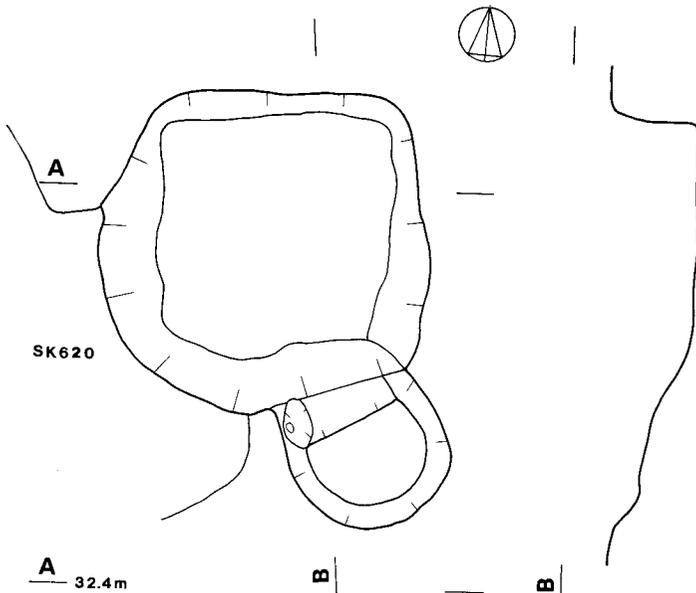
A



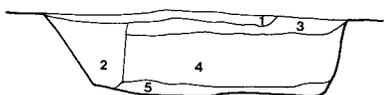
A 32.4m



第38号小竪穴



A 32.4m



第40号小竪穴

第38号小竪穴状遺構 土層解説

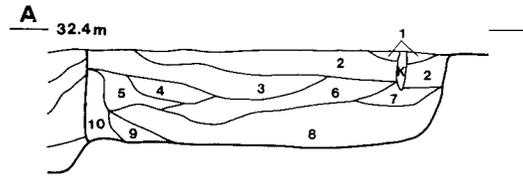
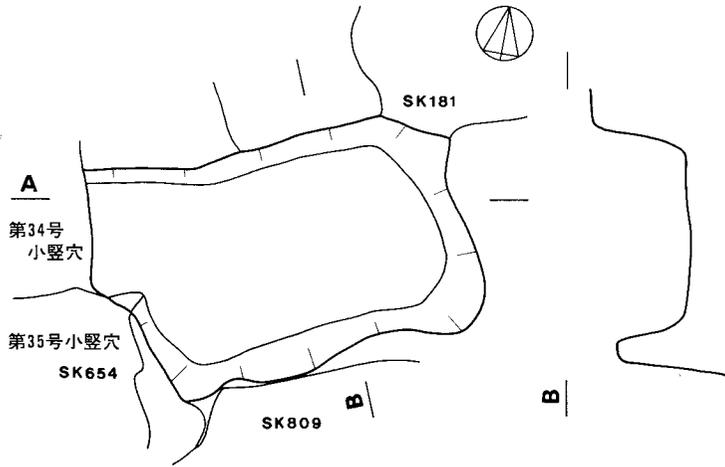
- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 黒色粒子微量
- 2 極暗褐色 黒色粒子中量, ローム粒子極少量, ローム小ブロック微量
- 3 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・黒色粒子少量, スコリア粒子極微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子少量, スコリア粒子極少量
- 6 黒褐色 黒色粒子多量, ローム粒子微量, スコリア粒子極微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・黒色粒子少量
- 8 黒褐色 黒色粒子中量, ローム粒子極少量
- 9 黒褐色 黒色粒子中量, ローム粒子極微量
- 10 褐色 ローム粒子・黒色粒子中量
- 11 暗褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子少量, スコリア粒子極少量
- 12 暗褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子少量, スコリア粒子極少量
- 13 黒褐色 ローム粒子・黒色粒子少量, スコリア粒子極少量
- 14 暗褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子少量, スコリア粒子微量
- 15 暗褐色 ローム粒子中量, パミス粒子極微量

第40号小竪穴状遺構 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子・炭化粒子混合少量, 炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量, 焼土粒子極微量
- 4 黄褐色 ローム粒子・黒褐色粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子極微量



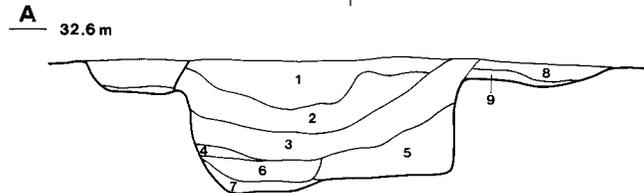
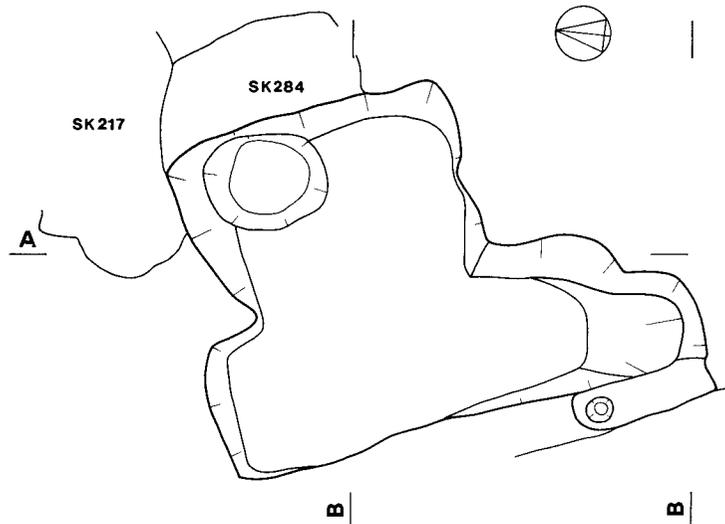
第226図 第38・40号小竪穴状遺構実測図



第43号小竪穴

第43号小竪穴状遺構 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量, スコリア粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子極少量, 炭化粒子極微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, スコリア粒子・黒色粒子極少量, 炭化材極微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子極微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・黒色粒子極少量, 炭化粒子極微量
- 6 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 黒色粒子極少量
- 7 褐色 ローム粒子多量, 黒色粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 黒色粒子極少量
- 9 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子少量
- 10 明褐色 ローム粒子多量(ハードローム)



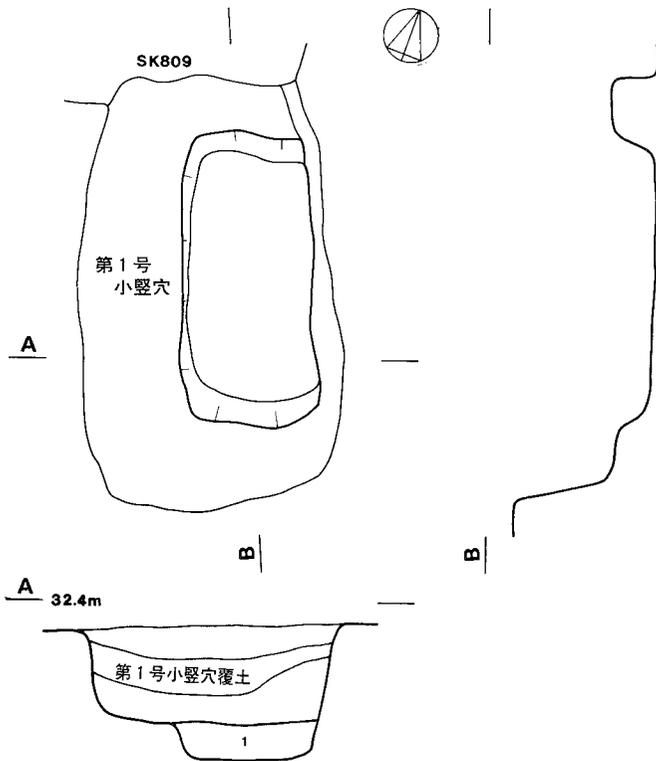
第44号小竪穴

第44号小竪穴状遺構 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 黒色粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 黒色粒子・スコリア粒子極微量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック少量, ローム小ブロック極少量, 黒色粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子極少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量, 炭化粒子微量
- 7 橙色 パミス粒子多量, ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子少量, スコリア粒子微量
- 9 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量



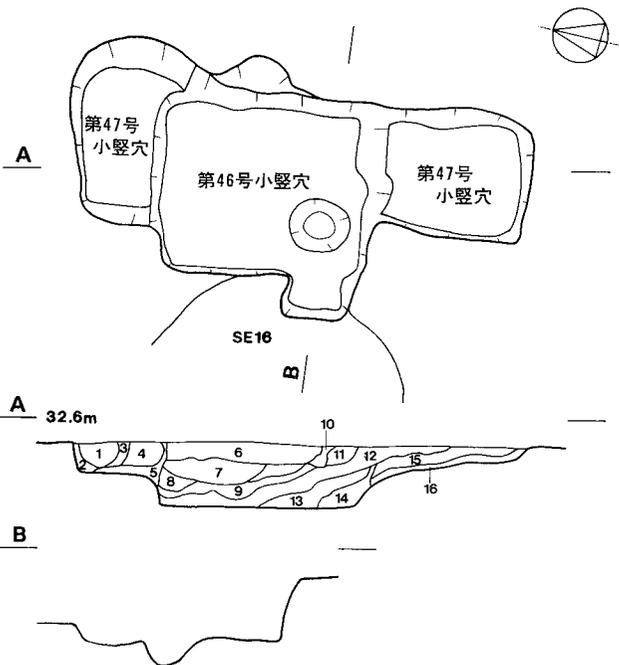
第227図 第43・44号小竪穴状遺構実測図



第45号小竖穴状遺構 土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・パミス粒子少量,
ローム粒子極少量

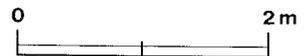
第45号小竖穴



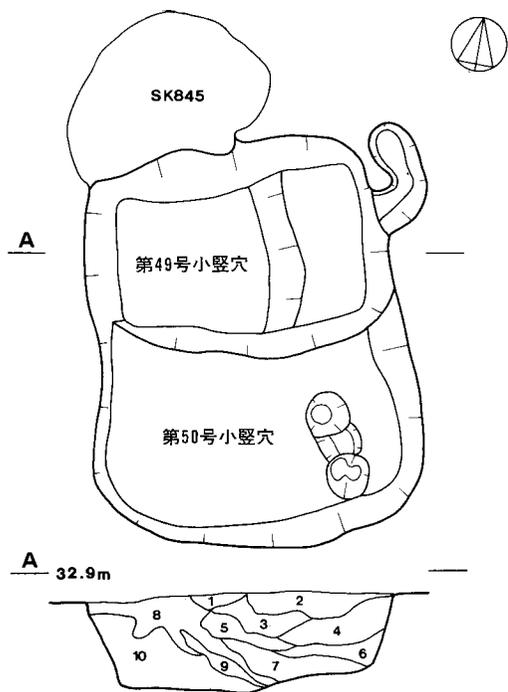
第46・47号小竖穴状遺構 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, ローム漸移層小ブロック微量, ローム小ブロック・炭化粒子極微量
- 4 黒色 ローム粒子微量
- 5 黒色 ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量
- 7 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量
- 8 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量, 炭化材・黒色粒子微量
- 9 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・黒色粒子中量
- 10 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, 黒色粒子微量
- 11 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 12 黒褐色 ローム粒子少量
- 13 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 14 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 15 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 16 暗褐色 黒色粒子少量

第46・47号小竖穴



第228図 第45・46・47号小竖穴状遺構実測図



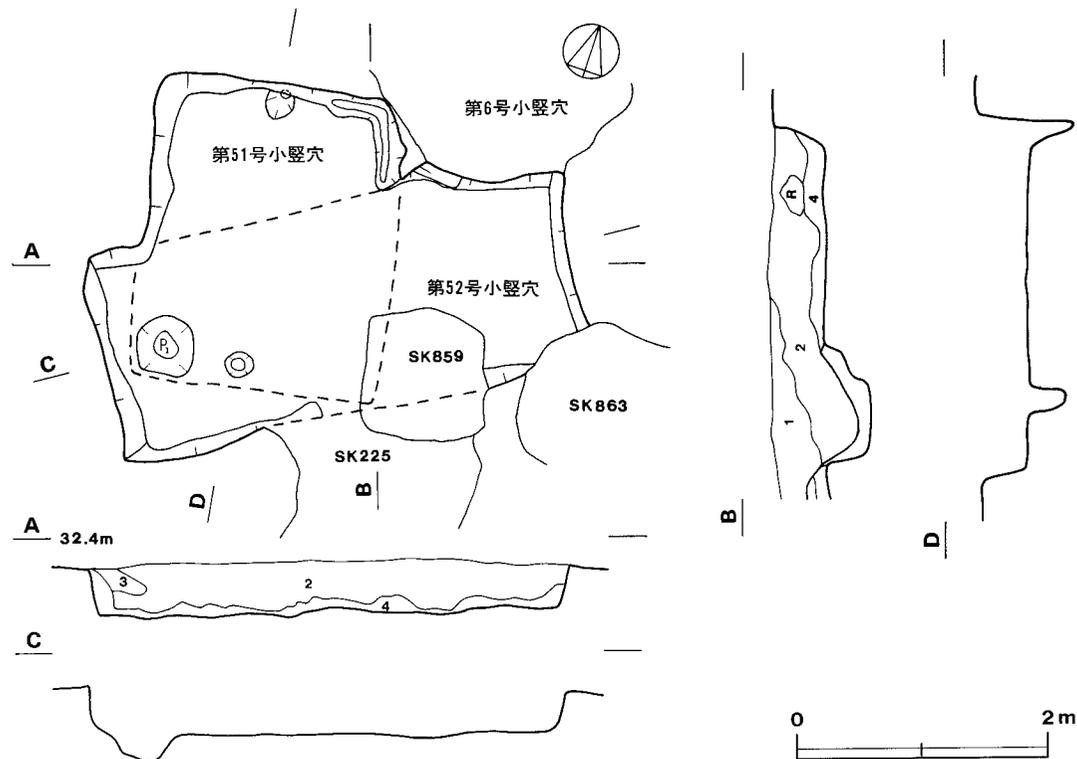
第49号小竪穴状遺構 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 黒色粒子極少量, スコリア粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, スコリア粒子極微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子少量, ローム小ブロック極少量, スコリア粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・黒色粒子少量, スコリア粒子極少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子極少量, スコリア粒子微量
- 6 黒褐色 ローム粒子・黒色粒子少量, ローム小ブロック微量, スコリア粒子極微量
- 7 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・黒色粒子少量, スコリア粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・黒色粒子少量
- 9 黒褐色 黒色粒子中量, ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 10 明褐色 ローム粒子多量, 黒色粒子極微量

第51・52号小竪穴状遺構 土層解説

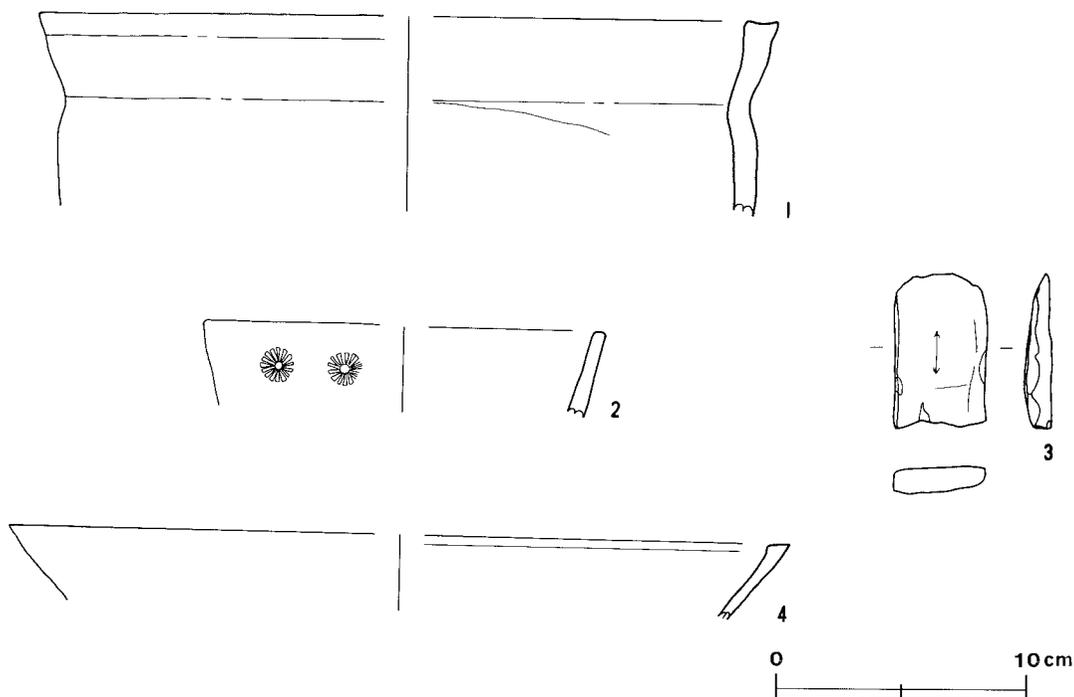
- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量, スコリア粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子少量, ローム小ブロック極少量, スコリア粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子極少量, スコリア粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・黒色粒子少量, ローム小ブロック微量, ローム中ブロック極微量

第49・50号小竪穴



第51・52号小竪穴

第229図 第49・50・51・52号小竪穴状遺構実測図



第230図 第1・52号小竪穴状遺構出土遺物実測図

第52号小竪穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	法量			特徴	出土地点	備考
		口径(cm)	器高(cm)	重量(g)			
4	鉄鍋	[31.0]	(3.1)	(28.3)		床面直上	2% M35

表3 小竪穴状遺構一覽表

番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模			壁面	床面	覆土	出土遺物	備考 古→新	図版 番号
				長径(m)	短径(m)	深さ(cm)						
1	C7h7	N-21°-W	隅丸長方形	[3.5]	2.0	80.0	垂直	平坦	人為	土師1片, 須恵4片, 縄文1片, 内耳9片	15c後~16c前 SK-327→本跡 SK-809不明 (SK-50)	221
2	B8h4	N-13°-W	隅丸長方形	[2.5]	1.5	34.0	外傾	皿状	自然		14c後~15c前 SK-121B不明 (SK-121A)	97
3	C6h3	N-11°-W	隅丸長方形	1.9	1.5	34.0	外傾	平坦	人為	陶磁1片, 土師質3 片, 内耳2片	15c後~16c前 (SK-216)	183
4	C7h2	N-6°-W	隅丸長方形	3.7	1.8	70.0	垂直	凹凸	人為	内耳12片, 土師質3 片, 須恵1片, 罌2 片	(SK-222)	133
5	C6i3	N-18°-W	不整隅丸 長方形	2.5	[1.9]	53.0	外傾	平坦	自然	内耳3片, 土師質4 片, 陶磁1片	本跡→SK-224B (SK-224A)	221
6	C7i1	N-35°-E	隅丸長方形	2.3	1.7	37.0	外傾	皿状	人為	内耳1片	SK-232, 861→本跡 (SK-233)	221
7	C7b3	N-23°-W	隅丸長方形	1.8	[1.4]	32.0	外傾	平坦	人為		本跡→SI-15 (SK-260)	183
8	C6j6	N-5°-W	隅丸長方形	3.6	[2.9]	135.0	外傾	平坦	人為	内耳15片, 陶磁2片, 須恵1片	15c後~16c前 SK-659→本跡 (SK-300)	184
9	D6b7	N-7°-E	隅丸長方形	2.7	2.2	100.0	外傾	皿状	自然	土師質1片, 内耳1 片	15c中~後 SB-1→本跡 (SK-301)	134

番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模			壁面	床面	覆土	出土遺物	備 考 古 → 新	図版 番号
				長径(m)	短径(m)	深さ(cm)						
10	C6e8	N-15°-W	隅丸長方形	3.8	1.8	38.0	外傾	平坦	人為		SB-2→本跡 (SK-332)	186
11	C6d0	N-74°-E	隅丸長方形	3.8	1.9	25.0	外傾	平坦	人為	陶磁2片, 土師質1片	15c後~16c前 SB-2→本跡 (SK-337)	184
12	C7c2	N-75°-E	長方形	[4.3]	[1.8]	30.0	垂直	平坦	自然	土師質1片	SK-281, 328不明 (SK-349)	222
13	C7a5	N-80°-E	隅丸長方形	2.8	1.7	25.0	外傾	平坦	自然		(SK-370)	178
14	B7a7	N-83°-W	不整隅丸 長方形	2.6	1.7	20.0	外傾	平坦	人為		(SK-444)	222
15	A7i9	N-5°-E	隅丸長方形	2.3	1.8	14.0	外傾	平坦	自然		(SK-451)	222
16	D7a2	N-26°-W	隅丸長方形	2.1	1.8	40.0	垂直	凹凸	人為	土師1片	(SK-477)	216
17	D6h6	N-2°-W	隅丸長方形	[4.1]	[2.5]	24.0	緩傾	平坦	人為		SK-492, 494不明 (SK-491)	222
18	D6h6	N-88°-E	隅丸長方形	3.9	[2.4]	38.0	外傾	平坦	人為	内耳4片	SK-494→本跡 SK-491不明 (SK-492)	186
19	D6c7	N-0°	長方形	1.9	[1.6]	55.0	垂直	平坦	人為	内耳9片, 土師質2片	SK-524C→本跡 (SK-524A)	223
20	D6c7	N-74°-E	長方形	[2.5]	[0.9]	52.0	垂直	平坦	人為		SK-524C→本跡→ SK-524A (SK-524B)	223
21	D6d7	N-59°-E	不定形	3.0	[1.1]	13.0	緩傾	皿状	自然		本跡→SK-524B, A (SK-524C)	223
22	D6c5	N-81°-W	隅丸長方形	2.3	1.8	43.0	外傾	平坦	-	土師1片	SK-537不明 (SK-525)	179
23	D7b7	N-88°-E	隅丸長方形	2.6	2.0	120.0	垂直	平坦	人為	内耳5片, 土師1片	SK-525不明 (SK-537)	179
24	D7c8	N-41°-W	隅丸長方形	4.9	2.5	80.0	外傾	平坦	人為	内耳35片, 陶磁2片, 土師質1片	15c中~16c前 (SK-577)	135
25	C7i3	N-14°-W	長方形	[2.1]	[1.9]	50.0	外傾	平坦	自然	内耳4片, 陶磁1片, 土師5片 龍泉窯染付碗	15c後~16c前 本跡→SK-690 SK-583, 612不明 (SK-582)	187
26	D7c9	N-48°-W	隅丸長方形	2.5	[1.9]	92.0	垂直	平坦	人為	内耳5片, 土師質3片	SK-826不明 (SK-591)	223
27	D7b5	N-25°-W	隅丸長方形	2.6	[1.8]	76.0	垂直	平坦	人為	内耳1片, 陶磁1片, 土師質1片	15c後~16c前 SK-606A, B→本跡 (SK-603)	187
28	D7a1	N-13°-W	隅丸長方形	3.6	1.8	80.0	外傾	平坦	人為	土師質1片	(SK-604)	217
29	C7i3	N-65°-E	隅丸長方形	2.1	[1.8]	80.0	垂直	平坦	人為		SK-478, 582, 583→本跡 (SK-612)	224
30	D7c2	N-78°-E	不定形	2.2	1.9	130.0	垂直	傾斜	人為	内耳7片, 土師質2片	(SK-622)	180
31	D6b8	N-81°-W	長方形	1.5	[1.2]	60.0	垂直	平坦	人為	土師質2片	SB-1→本跡 (SK-633)	224
32	D6g7	N-6°-W	隅丸長方形	3.1	1.5	50.0	外傾	平坦	人為		(SK-635)	218
33	D8i1	N-71°-E	不整隅丸 長方形	[4.2]	2.5	38.0	緩傾	平坦	人為		SK-650不明 (SK-649)	224
34	C7g8	N-77°-E	長方形	[2.1]	[1.9]	-	-	-	人為		SK-654, 688不明 (SK-653)	225
35	C7g8	N-77°-E	長方形	2.3	[2.0]	-	-	-	-		SK-653, 688, 809 不明 (SK-654)	225
36	D7j0	N-5°-W	隅丸長方形	4.6	2.8	70.0	外傾	平坦	人為	内耳5片, 須惠1片	(SK-655)	181
37	C7i2	N-0°	隅丸長方形	2.3	2.0	100.0	垂直	平坦	人為	内耳9片, 土師質1片, 須惠1片	SK-460不明 (SK-658)	219
38	C6j7	N-11°-E	方 形	[1.9]	[1.9]	115.0	垂直	平坦	人為	内耳2片, 陶磁1片	本跡→SK-300 SK-646不明 (SK-659)	226
39	C7h8	N-29°-W	長方形	[2.5]	2.2	110.0	垂直	平坦	人為		SK-530, 665不明 (SK-664)	220
40	C7g5	N-80°-E	隅丸方形	[2.7]	[2.6]	70.0	垂直	平坦	人為		SK-620不明 (SK-678)	226

番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模			壁面	床面	覆土	出土遺物	備 考 古 → 新	図版 番号
				長径(m)	短径(m)	深さ(cm)						
41	D8c ₁	N-29°-E	不正方形	[2.4]	2.4	70.0	外傾	平坦	人為	内耳1片, 陶磁1片	SK 679B 不明 (SK-679A)	182
42	D7c ₀	N-38°-W	不定形	[2.5]	1.5	57.0	緩傾	平坦	人為	内耳2片	SK-676, 679B, 826 不明 (SK-686)	182
43	C7g ₆	N-66°-E	長方形	[3.0]	1.8	-	-	-	人為		SK-181, 653, 654, 809不明 (SK-688)	227
44	C7g ₇	N-65°-E	不定形	[2.7]	1.8	65.0	外傾	平坦	人為		本跡→SK-217 SK-284, 827不明 (SK-689)	227
45	C7h ₇	N-21°-W	隅丸長方形	[2.4]	[1.2]	109.0	外傾	皿状	人為		本跡→SK-50 (SK-827)	228
46	E6e ₀	N-9°-W	長方形	1.9	1.5	52.0	垂直	平坦	人為	内耳1片, 陶磁1片, 縄文1片	SK-831B→本跡 SE-16不明 (SK-831A)	228
47	E6e ₀	N-9°-W	長方形	3.7	1.1	27.0	垂直	平坦	人為		本跡→SK-831A (SK-831B)	228
48	E8b ₀	N-19°-W	方形	2.4	2.3	53.0	外傾	平坦	人為	須惠1片	(SK-841)	189
49	E7c ₉	N-74°-E	隅丸長方形	2.4	[1.8]	80.0	外傾	平坦	人為	内耳2片, 陶磁1片, 縄文1片	SK-843B, 845不明 (SK-843A)	229
50	E7c ₉	N-74°-E	隅丸長方形	2.7	[1.5]	-	外傾	平坦	-		SK-843A 不明 (SK-843B)	229
51	C7j ₁	N-12°-W	長方形	[2.5]	[2.0]	42.0	垂直	平坦	人為	内耳1片, 土師質1 片	SK-859→本跡→SK -861, (SK-860)	229
52	C7j ₇	N-61°-E	長方形	3.8	[1.8]	45.0	外傾	凹凸	人為	内耳3片, 土師質13 片, 礫1点, 須惠6片	SK-859, 860→本跡, SK-233, 863不明 (SK-861)	229

(6) 土坑

表 4 中世土坑一覽表

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模			壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 古 → 新	図版 番号
				長径(m)	短径(m)	深さ(cm)						
2	E9d ₅	N-23°-E	楕円形	0.6	0.6	25	外傾	皿状	自然	土師1片, 縄文1 片, 内耳13片	15c 後~16c 前	192
44	B8f ₈	N-17°-W	不定形	2.4	1.3	35	緩傾	凹凸	自然	土師質2片		231
121B	B8h ₄	N-70°-E	隅丸長方形	1.9	[1.2]	36	外傾	凹凸	-		SK-121A 不明	
123	C8c ₅	N-32°-W	不整楕円形	1.3	0.5	20	外傾	凹凸	自然	内耳4片		
126	C7h ₂	N-57°-W	隅丸長方形	2.1	1.6	40	外傾	平坦	自然	内耳12片, 土師4 片, 礫4点	15c 後~16c 中	
139	D8c ₁	N-32°-E	不定形	[2.4]	[2.0]	27	外傾	平坦	自然	内耳3片	SK-130, 172, 174 不明	
151	C4e ₃	N-61°-E	不整楕円形	2.0	0.9	12	緩傾	皿状	自然	陶磁1片, 須惠1 片, 土師1片	15c 前	98
158	C4b ₀	N-22°-W	不整円形	0.6	0.6	25	外傾	凹凸	人為	青磁1片, 須惠1 片		
171	D7d ₈	N-3°-E	不定形	2.2	1.0	23	外傾	皿状	自然	須惠1片, 土師1 片, 内耳1片, 陶 磁1片	15c 後~16c 前	192
177	C7g ₃	N-70°-E	楕円形	3.5	[3.0]	93	外傾	平坦	自然	土師質1片	SD-6 不明	
181	C7f ₇	N-20°-W	不整長方形	[2.3]	1.4	34	垂直	平坦	人為		SD-6 不明	
186	C6d ₇	N-32°-W	不定形	1.6	1.0	56	垂直	凹凸	人為	礫19点		
217	C7g ₇	N-56°-E	不定形	2.1	[1.1]	27	緩傾	皿状	人為	内耳5片	本跡→SK-284, 689 15c 後~16c 前	192
224B	C6i ₉	N-76°-E	楕円形	2.2	1.5	93	垂直	平坦	自然		SK-224A, C→ 本跡	
224C	C6j ₉	N-77°-E	隅丸長方形	1.5	[1.1]	56	外傾	平坦	-		本跡→SK-224B	

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模			壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 古 → 新	図版 番号
				長径(m)	短径(m)	深さ(cm)						
225	C7j ₁	N-4°-E	不整長方形	[3.1]	0.6	40	外傾	凹凸	自然	内耳2片, 陶磁1片 土師質1片	本跡→SK-860 SK-604, 859不明	
229	C7e ₃	N-19°-W	楕円形	[3.0]	2.0	52	外傾	皿状	人為	内耳3片, 土師質3片, 陶磁4片	SD-22→本跡	
232	C7i ₁	N-10°-W	楕円形	[1.8]	1.1	28	緩傾	皿状	自然		本跡→SK-233	
256	C6h ₀	N-4°-E	楕円形	0.7	0.4	38	垂直	皿状	-	内耳1片, 陶磁1片, 土師1片	SK-234不明, 16c	192
257	C7e ₆	N-18°-W	隅丸長方形	1.6	1.1	44	外傾	皿状	自然	内耳1片	15c 後~16c 前	192
259	C7h ₉	N-88°-W	楕円形	3.1	2.2	144	垂直	平坦	人為	内耳1片, 土師質2片	SK-529, 662不明	
280	C7g ₂	N-56°-E	不定形	1.5	1.2	70	垂直	凹凸	自然		SE-3 共伴 15c 中~後	137
281	C7c ₂	N-68°-W	楕円形	2.7	0.9	15	緩傾	皿状	自然		SI-15不明	
282	C7f ₂	N-58°-W	不整楕円形	1.2	0.8	80	緩傾	皿状	自然	内耳8片	SE-3 共伴 15c 中~後	137
284	C7g ₈	N-25°-W	楕円形	[1.7]	[0.7]	28	緩傾	皿状	人為	内耳1片, 土師質2片	SK-529, 662不明	
302	D6a ₈	N-19°-W	楕円形	2.0	1.3	45	外傾	凹凸	人為	内耳3片, 土師質3片, 陶磁5片		231
361	C7b ₃	N-16°-W	楕円形	[1.4]	0.6	14	外傾	皿状	人為		SI-12不明	
379	D8c ₄	N-30°-W	楕円形	1.4	0.6	30	外傾	皿状	-	内耳4片, 古銭	15c 前	
479	C7h ₃	N-81°-W	隅丸長方形	1.7	[1.0]	30	緩傾	平坦	-	内耳11片, 陶磁1片, 土師質3片, 礫1点	SK-480→本跡, SE-7, SK-682, 690不明, SK-491不明	
501	D7j ₄	N-37°-W	楕円形	2.1	1.2	28	外傾	凹凸	自然	内耳11片, 土師質2片, 陶磁1片	SK-511不明 15c 中~16c 前	137
502	D7j ₅	N-61°-E	不整楕円形	2.7	2.2	25	緩傾	凹凸	人為	内耳7片, 陶磁1片	SK-511不明 15c 後~16c 前	192
503	E6a ₀	N-90°-E	不整隅丸方形	[1.7]	[1.7]	65	外傾	皿状	-	陶磁1片, 土師質1片	SE-4 不明	
508	E7a ₂	N-55°-E	不整楕円形	2.5	[1.9]	30	緩傾	凹凸	-	内耳4片	SD-24不明 15c 中	137
511A	E7a ₄	N-51°-E	不整円形	[1.5]	1.4	55	緩傾	平坦	自然	内耳3片, 陶磁2片	SK-511B, C 不明, 15c 後~16c 前	
513	C6j ₈	N-6°-E	不定形	[2.3]	1.7	55	緩傾	凹凸	人為	内耳1片, 陶磁1片	本跡→SK-514 15c 後~16c 前	
514	C6j ₉	N-90°-E	長方形	[1.8]	1.6	50	外傾	凹凸	自然	内耳4片, 陶磁1片, 須惠1片, 礫1点, 土師3片	SK-513→本跡 SK-515, 675不明	
528	D7j ₉	N-40°-W	不定形	3.1	2.5	38	緩傾	皿状	自然	内耳26片, 陶磁2片, 軽石1点	SK-647不明	
530	C7h ₈	N-33°-W	円形	[1.3]	[1.2]	-	緩傾	皿状	-	内耳8片	SK-664不明	
553	D7h ₈	N-18°-W	不整円形	1.2	1.2	50	外傾	平坦	人為	内耳12片, 礫1点		
574A	D7d ₂	N-69°-E	不整長方形	3.8	0.7	51	外傾	皿状	-	内耳7片, 須惠1片, 鉄1点	SK-574B 不明	
574B	D7d ₂	N-28°-W	不整長方形	3.0	1.3	51	外傾	平坦	-		SK-574A 不明	
578	D7f ₂	N-70°-E	円形	3.1	2.8	130	外傾	凹凸	人為	内耳16片, 土師質2片, 陶磁1片	井戸か	
587	D7g ₈	N-71°-W	楕円形	8.3	7.3	13	緩傾	皿状	自然			
602	B6c ₀	N-0°	楕円形	1.9	1.4	65	緩傾	皿状	-	内耳3片, 陶磁2片	SK-876不明	
606A	D7b ₉	N-27°-E	不整楕円形	2.1	[1.2]	34	緩傾	皿状	-	鉄1点	本跡→SK-604	
606B	D7c ₉	N-60°-E	楕円形	3.7	[1.5]	18	緩傾	皿状	人為		本跡→SK-604	

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模			壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 古 → 新	図版 番号
				長径(m)	短径(m)	深さ(cm)						
606C	D7c6	N-72°-E	楕円形	1.2	[0.9]	17	緩傾	皿状	-			
613	D7c2	N-0°	楕円形	2.2	[1.1]	49	垂直	平坦	人為	内耳1片	SK-630不明	
620	C7g4	N-34°-W	不定形	4.8	1.3	35	緩傾	皿状	人為	内耳12片	SK-677, 678不明	
630	D7c2	N-68°-E	楕円形	0.9	0.8	-	緩傾	皿状	-	土師質3片		
639	D7d1	N-11°-W	不定形	[2.5]	2.0	43	外傾	平坦	人為		SK-638不明	
645	D6i3	N-0°	楕円形	1.5	1.1	75	緩傾	皿状	人為			
647	D7j0	N-77°-E	隅丸長方形	[2.1]	1.8	80	垂直	平坦	人為		SK-528不明	
656	D7i0	N-78°-E	不整楕円形	4.0	1.6	29	緩傾	凹凸	人為	内耳5片, 土師質 4片	SK-648→本跡	
665	C7h8	N-19°-W	楕円形	[1.9]	[1.0]	40	緩傾	皿状	人為	内耳4片	SK-664不明	
666	D7c4	N-32°-W	楕円形	2.0	1.8	50	緩傾	平坦	-	土師質1片	SK-597不明	
673	D8h1	N-77°-E	方形	[2.3]	2.2	40	緩傾	平坦	人為	内耳1片	SK-687→本跡	
674	D8g2	N-35°-E	不定形	[3.3]	[2.6]	135	垂直	平坦	人為	内耳14片	SK-133, 687不明	
677	C7h5	N-79°-E	楕円形	[0.9]	0.7	40	外傾	皿状	-		SK-620不明	
679B	D8c1	N-28°-W	不定形	[2.3]	[0.4]	24	緩傾	皿状	-		SK-676, 679A, 686不明	
681	D7d1	N-70°-E	円形	[0.9]	[0.9]	-	外傾	平坦	-		SK-617, 638不明	
687	D8h1	N-44°-W	楕円形	[2.2]	[1.4]	34	緩傾	皿状	自然		本跡→SK-673	
826	D7c0	N-40°-W	楕円形	[1.7]	1.2	78	外傾	傾斜	-	内耳1片	SK-591不明	
842	E8b1	N-65°-E	方形	1.5	1.5	37	外傾	平坦	人為			231
847	D8d8	N-78°-E	隅丸長方形	5.3	0.6	15	外傾	皿状	人為		集石 15c後~16c前	191
859	C7j1	N-20°-W	方形	1.1	1.0	76	垂直	平坦	自然		SK-225→本跡→ SK-860, 861	

第379号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備 考
第232図 1	内耳 鉢 土師質土器	A [35.1] B (15.5)	体部, 口縁部片。体部は直線的 に外傾し, 口縁部は内彎して立 ち上がる。	口縁部, 体部内・外面横ナデ。	砂粒 黒褐色 普通	25% P188 ススが付着。 覆土。

第528号土坑出土遺物観察表

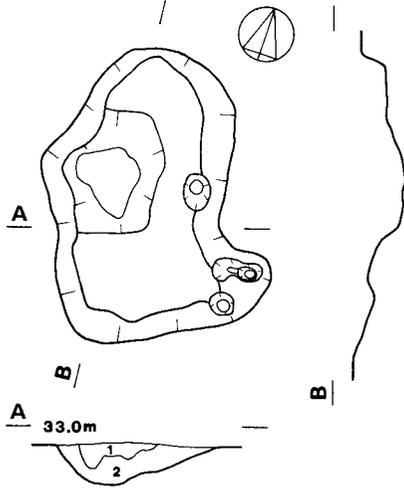
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備 考
第232図 2	皿 土師質土器	B (1.3) C 4.0	底部, 体部片。平底。体部は内 彎ぎみに外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒 にぶい黄橙色 不良	20% P202 覆土。

第578号土坑出土遺物観察表

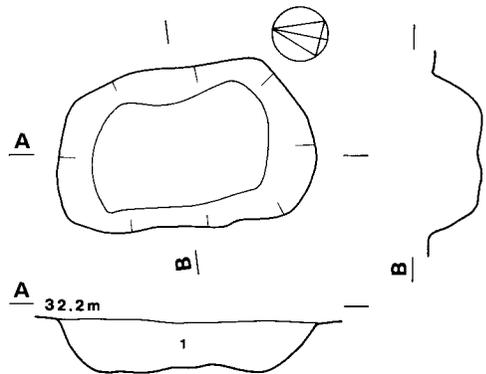
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第232図 3	皿 土師質土器	B (1.5) C 4.3	底部片。底部は平底で突出ぎみ。	水挽き成形。底部回転ヘラ切り。	砂粒 橙色 普通	30% 覆土。 P213
4	播鉢 陶器	B (10.3) C [14.2]	底部，体部片。平底。体部は直線的に外傾する。	体部外面ナデ。内面には6本1単位の櫛目が施されている。	砂粒 褐色 普通	10% 覆土。 P214

第587号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第232図 5	皿 土師質土器	A [11.6] B (3.0)	体部，口縁部片。体部はやや内彎しながら外傾する。口縁部は直線的に立ち上がる。	水挽き成形。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	10% 覆土。 P215



SK 44



SK 302

SK-44 土層解説

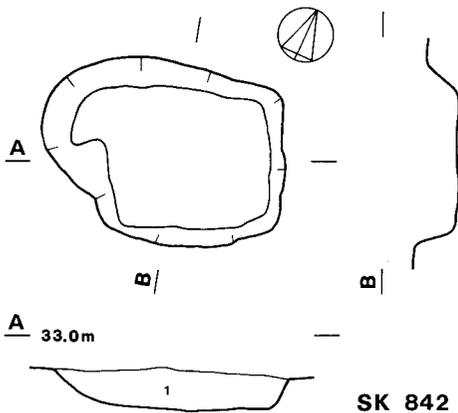
- 1 褐色 炭化粒子・焼土粒子極微量
- 2 明褐色 炭化粒子微量

SK-302 土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量，ロームブロック微量

SK-842 土層解説

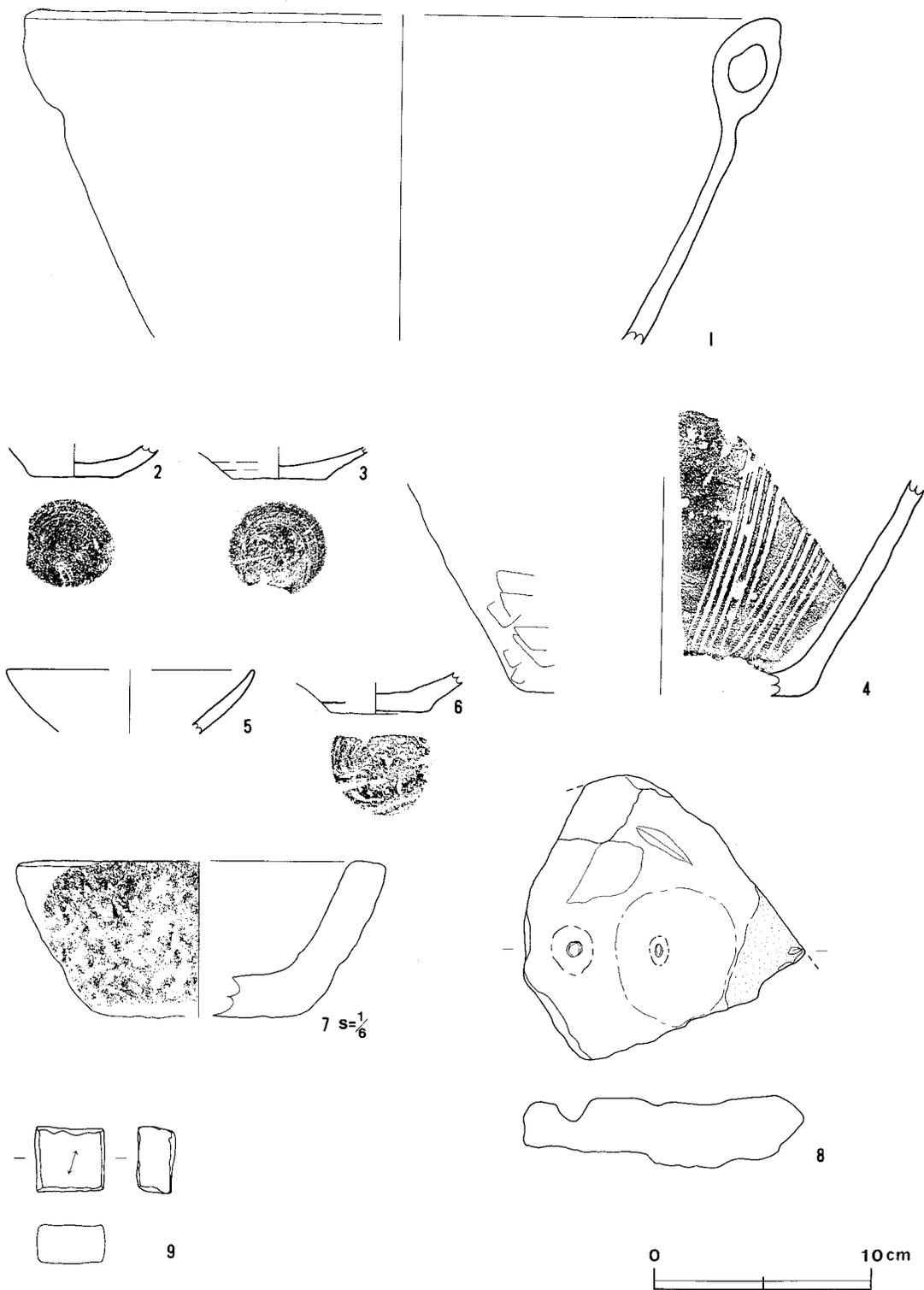
- 1 黒色 含有物なし



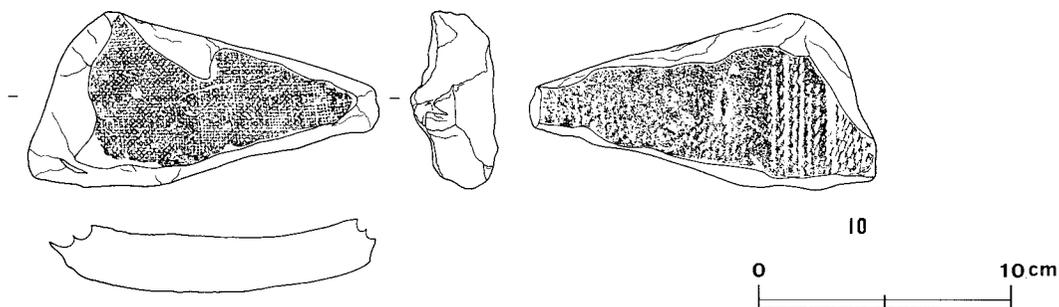
SK 842



第231図 土坑実測図



第232图 土坑出土遺物実測図(1)



第233図 土坑出土遺物実測図(2)

第602号土坑出土遺物観察表

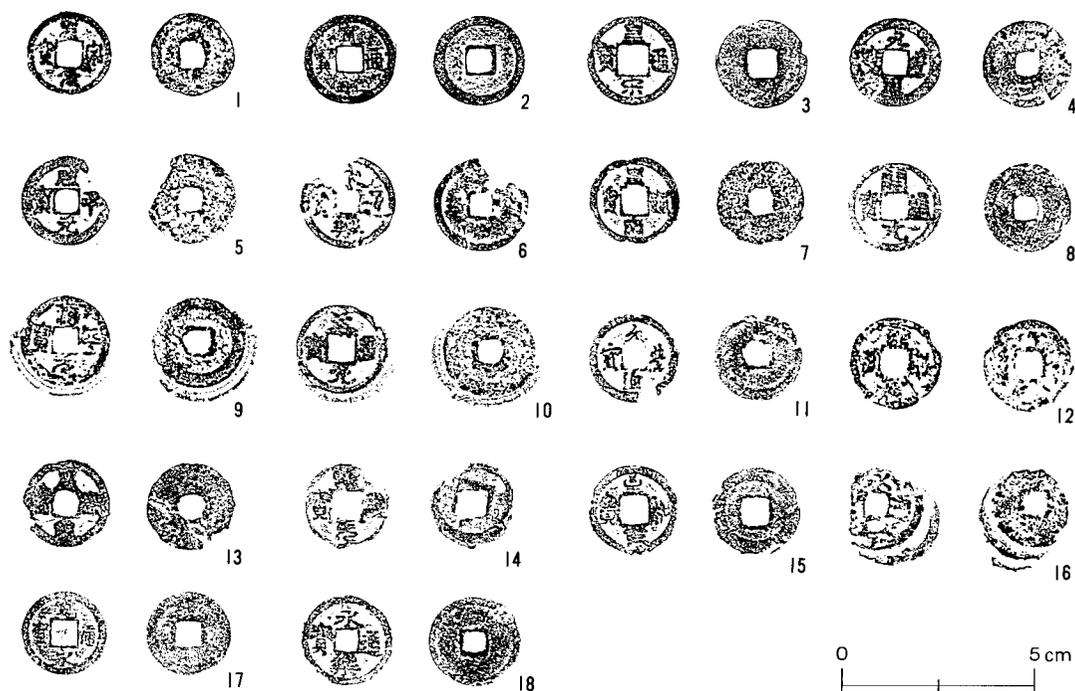
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第232図 6	皿 土師質土器	B (2.0) C [4.8]	底部片。平底でわずかに突出する。	水挽き成形。底部回転糸切り後ナゲ調整。	長石・雲母・スコリアにふい橙色普通	10% P219 板目状圧痕。覆土。

図版番号	器種	石質	法量				出土地点	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
7	石鉢	花崗岩	[34.4]	14.7	[20.0]	(4342.1)	SK-578	Q15
8	石皿, 凹石	花崗岩	12.5	12.7	3.4	590.3	SK-578	Q17
第233図9	砥石	緑色凝灰岩	3.2	3.2	1.9	32.0	SK-613	Q18

図版番号	器種	法量				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
10	平瓦	(7.1)	(13.9)	2.3	(222.2)	SK-578	凹面に布当痕, 凸面に縄目の圧痕, 9c DP 5

表5 古銭一覧表

図版番号	銭名	初 鑄 年		出土地点	備考
		時代	年号(西暦)		
	不明			SI-18第3号竈	M6
第234図1	皇宋通寶	北宋	寶元2年(1039)	第4号地下式壇覆土	篆書 M30
	不明			SK-137	M31
2	寛永通寶	江戸		第7号地下式壇覆土	M33
3	皇宋通寶	北宋	寶元2年(1039)	SK-215	M36
4	元豊通寶	北宋	元豊元年(1078)	SK-215	M37
5	咸平元寶	北宋	(998)	SK-215	M38
6	永樂通寶	明	永樂6年(1408)	SK-215	M39
7	皇宋通寶	北宋	寶元2年(1039)	SK-217	M41
8	開通元寶	唐	武徳4年以降(621~)	SK-379	M43
	不明			第16号小堅穴覆土	M44
	熙寧元寶	北宋	熙寧元年(1068)	SK-553	M46
9	治平元寶	北宋	治平元年(1064)	第30号小堅穴覆土下層	3枚密着 M48~50篆書



第234図 古銭拓影図

図版 番号	銭名	初 鑄 年		出 土 地 点	備 考
		時 代	年 号 (西 曆)		
10	天 ○ 元 寶			第30号小堅穴覆土下層	天聖元寶か3枚密着 M51~53
	不 明			SK-630	M54
	不 明			SK-630	M55
	○ ○ ○ 寶			SK-630	M56
11	元 豐 通 寶	北 宋	元豐元年 (1078)	第36号小堅穴覆土下層	M57
12	不 明			第49号小堅穴覆土	M58
13	○ ○ ○ 寶			南側土壘	篆書 M59
14	○ ○ 元 寶			SD-26	篆書 M66
	○ 豐 ○ ○			D7区表面採取	元豐通寶か M67
	至 和 元 寶	北 宋	(1054)	D7d _e 区表面採取	篆書 M73
15	照 寧 元 寶	北 宋	熙寧元年 (1068)	D7d _e 区表面採取	篆書 M74
	不 明			D7b _s 区表面採取	3枚密着 M75~77
16	不 明			D7b _s 区表面採取	鉄銭 M78
	寬 永 通 寶	江 戸		表面採取	M80
18	永 樂 通 寶	明	永樂6年 (1408)	表面採取	M81

第6節 その他の遺構と遺物

本節では、時期を特定できない塚2基については文章で記述し、土坑233基と遺構外遺物については一覧表に記載する。

1 塚

第1号積石状塚 [SX-1] (第235図)

位置 調査区の東部、D9e₃区を中心に確認されている。

規模と形状 基底面は、長径4.5m、短径3.9mの楕円形を呈し、現地表面から塚頂部までの高さは1.0mである。

長径方向 N-28°-E

構築状況 上層は、拳大の河原石（焼礫、破礫を含む）が30cmの厚さに積まれている。中、下層は小指大の小石を含む褐色土を30cmの厚さに積んで構築している。

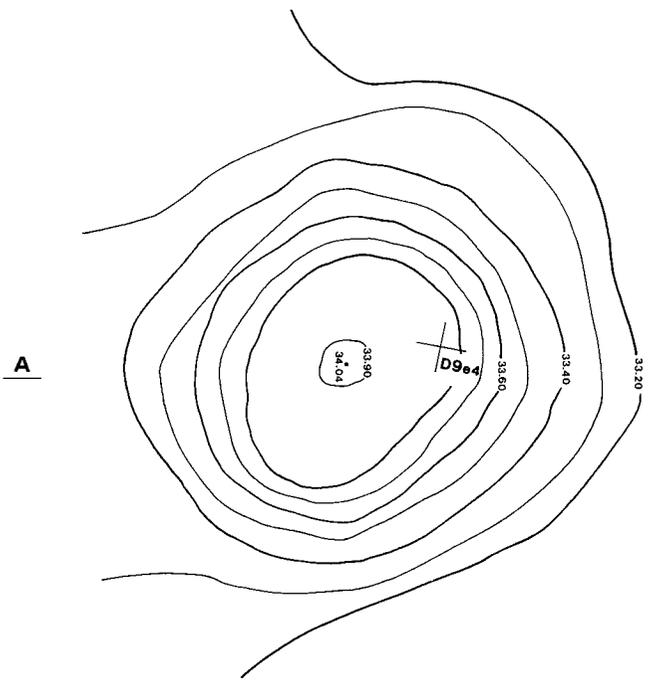
遺物 石の間に挟まって1や2、5の陶磁器片、3の土師質土器片が出土している。その他、混入と思われる4の土師器の甕片が出土している。

所見 本跡は、構築状況や出土遺物等から16世紀後半以降のものであるが、性格は不明である。

第1号積石状塚出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第235図 1	甕 陶器	A [28.5] B (5.4)	口縁部片。口縁部は折り返して、縁帯を形成している。	口縁部内・外面横ナデ。	長石 黒褐色 普通	5% P296 常滑産。 覆土。
2	皿 陶器	B (1.2) C 6.0	底部片。底部には低い高台が付き、断面三角形を呈す。	水挽き成形。	灰色 (釉)オリーブ黄色 普通	25% P298 瀬戸産。底部に 焼き台痕。覆土。
3	香炉 土師質土器	A [18.2] B (5.8)	体部、口縁部片。体部、口縁部は内彎しながら外上方に立ち上がる。	口縁部、体部内・外面横ナデ。	砂粒 黒褐色 普通	10% P295 覆土。
4	甕 土師器	B (3.6) C 7.6	底部、胴部片。平底。胴部は外傾する。	胴部外面へラ削り、内面へラナデ。木葉痕。	小石・長石 にぶい黄橙色 普通	10% P294 覆土。
第236図 5	瓶子 陶器	A [14.2] B (4.0)	胴部片。一部露胎。	胴部内面にロクロ目を残す。	浅黄色 (釉)にぶい黄橙色 普通	5% P361 瀬戸産。 覆土。
6	染付碗 陶磁器	B 2.1 C 4.2	底部片。高台部の断面は逆台形状を呈す。	水挽き成形。	灰白色 (釉)明緑白色 普通	30% P297 内面に焼き台痕。 17c。覆土。

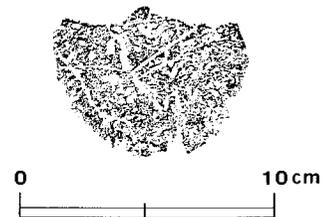
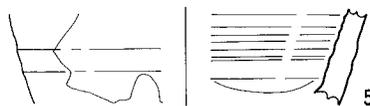
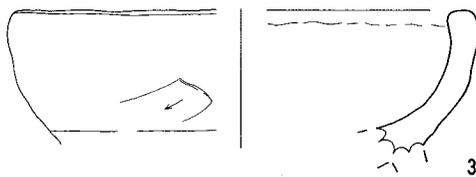
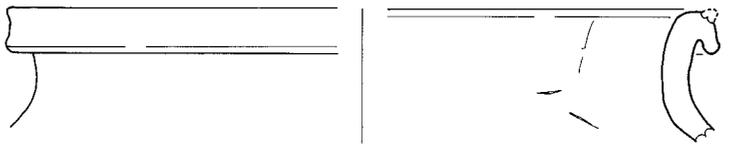
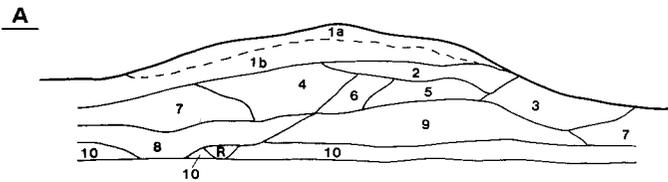
図版番号	器種	法量				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
7	平瓦	(8.7)	(9.9)	1.9	(213.0)		一枚作り、凹面に布当痕、凸面の一部に布当痕、9c DP12



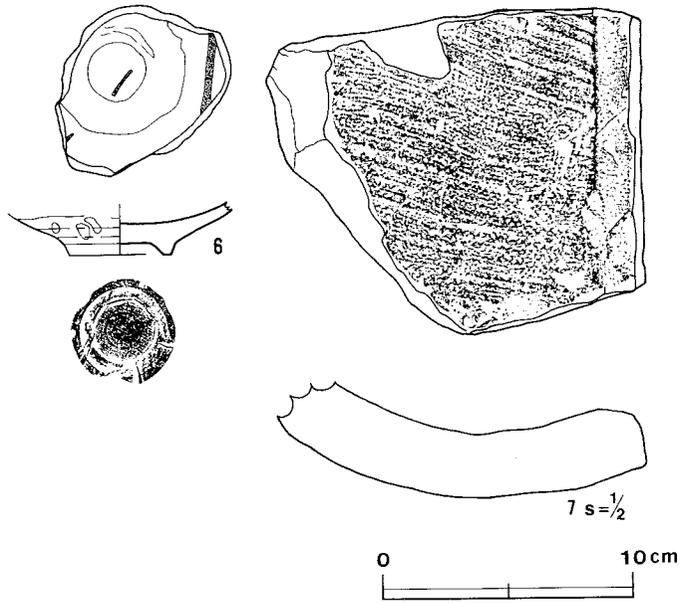
A

第1号積石状塚 土層解説

- 1a 浅黄橙色 礫(焼礫, 破礫)
- 1b 浅黄橙色 礫
- 2 灰褐色 小石中量, ローム粒子少量
- 3 褐色 小石中量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 5 にぶい橙色 ローム小ブロック中量, 小石少量
- 6 灰褐色 ローム粒子少量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量
- 8 黒褐色 ローム粒子少量
- 9 黒色 含有物なし
- 10 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック微量



第235図 第1号積石状塚・出土遺物実測図(1)



第236図 第1号積石状塚・出土遺物実測図(2)

第2号積石状塚 [SX-2] (第237図)

位置 調査区の北東部, C8e₈区を中心に確認されている。

規模と形状 基底面は長径9.0m, 短径8.7mの楕円形を呈し, 現地表面から塚頂部までの高さは, 0.5m程である。

長径方向 N-12°-W

構築状況 上層は, 拳大や親指大の河原石が20cmの厚さに積まれている。中, 下層は小指大の小石を多量に含む褐色土を30cmの厚さに積んで構築している。

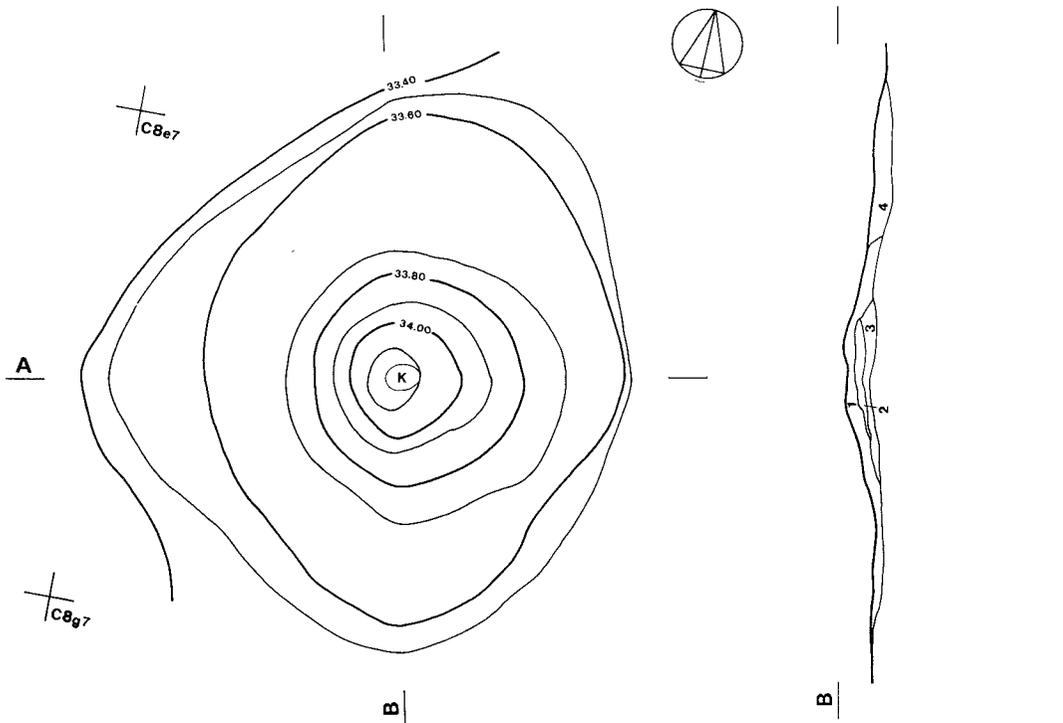
遺物 覆土から内耳鍋の細片や1の陶器片が出土している。また, 混入したと思われる土師器, 須恵器の細片も出土している。

所見 本跡は, 第1号積石状塚と同様に構築状況や出土遺物等から16世紀後半以降のものであるが, 性格は不明である。

第2号積石状塚出土遺物観察表

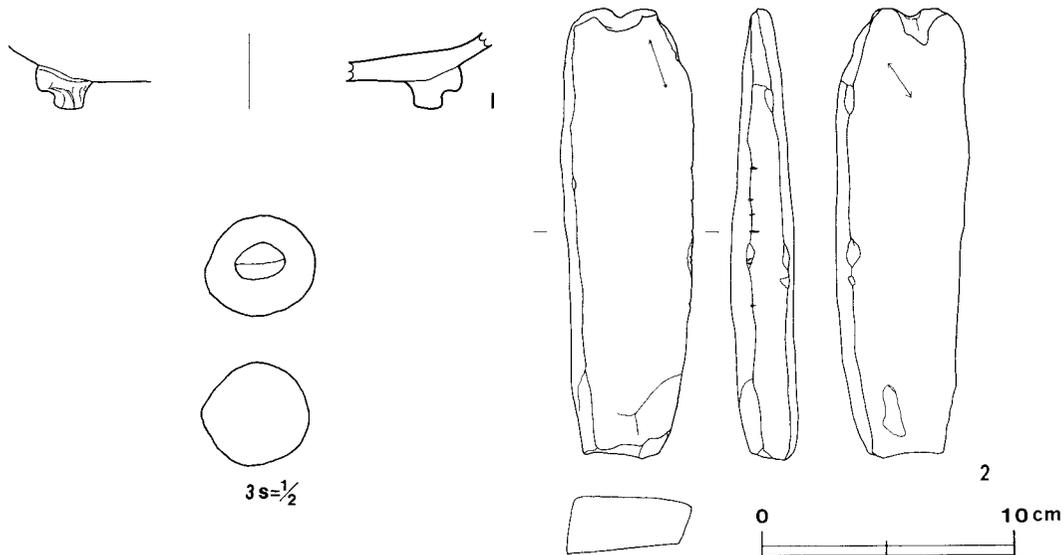
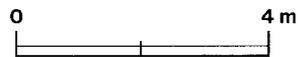
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第237図 1	盤 陶器	B (1.9) D [15.0] E 1.1	底部, 体部片。体部は強く外傾する。獣足が3個付くものと思われる。	水挽き成形後底部はヘラ削り調整。	灰黄色 (釉)浅黄色 普通	10% 瀬戸産。 覆土。

図版番号	器種	石質	法量				出土地点	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
2	砥石	凝灰岩	18.2	5.3	2.7	334.4	覆土	Q37



第2号積石状塚 土層解説

- 1 におい褐色 大礫（河原石），小礫，人為的層
- 2 におい橙色 礫
- 3 褐色 ロームブロック中量，小礫
- 4 におい褐色 小礫，ブロック状層



第237図 第2号積石状塚・出土遺物実測図

図版 番号	器種	法 量				特 徴	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第237図 3	鉄砲玉	1.4	1.5		13.8		覆土	鉛製 M89

(2) 土坑

表 6 その他の土坑一覧表

土坑 番号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模			壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 古 → 新	図版 番号
				長径(m)	短径(m)	深さ(cm)						
1	E8f ₆	N-28°-E	楕円形	1.3	1.1	20	外傾	平坦	自然			
3	E9a ₃	N-57°-E	楕円形	0.9	0.8	25	外傾	皿状	自然			
4	D9i ₂	N-40°-E	楕円形	0.7	0.6	20	外傾	皿状	自然			
5	D9i ₃	N-10°-W	楕円形	1.5	0.9	56	外傾	皿状	自然			
6	D9i ₃	N-10°-E	楕円形	0.6	0.5	10	外傾	皿状	自然			
7	D9i ₃	N-19°-E	不整楕円形	0.9	0.8	20	緩傾	皿状	自然			
8	D9h ₃	N-50°-E	不整円形	0.8	0.7	15	外傾	平坦	自然			
11	D9h ₄	N-60°-W	楕円形	0.9	0.8	35	緩傾	皿状	自然			
16	D9g ₄	N-39°-W	楕円形	0.6	0.5	20	外傾	皿状	自然			
17	D9f ₄	N-41°-E	楕円形	0.6	0.5	18	外傾	平坦	自然			
19	D9f ₄	N-38°-W	円形	0.6	0.6	15	外傾	皿状	自然			
21	D9f ₂	N-32°-E	楕円形	0.6	0.5	12	緩傾	皿状	自然			
22	D9e ₃	N-73°-E	楕円形	0.5	0.5	20	外傾	皿状	自然			
23	D9d ₂	N-52°-E	楕円形	1.2	1.0	25	垂直	傾斜	自然			
24	D9d ₃	N-14°-E	楕円形	0.7	0.5	19	外傾	平坦	自然			
26	C9j ₁	N-21°-W	楕円形	1.3	1.0	24	外傾	凹凸	自然			
27	C9i ₁	N-31°-E	不整円形	0.8	0.8	24	緩傾	凹凸	自然			
28B	C9h ₁	N-38°-E	円形	1.2	1.2	45	外傾	凹凸	自然			
30	C9g ₁	N-22°-E	楕円形	0.8	0.7	26	緩傾	皿状	自然			
31	C9f ₃	N-20°-W	不整隅丸方形	1.5	1.5	25	外傾	平坦	自然			
32	C9c ₁	N-53°-W	円形	0.6	0.5	20	垂直	平坦	自然			
33	C9c ₂	N-18°-E	楕円形	1.2	1.1	15	外傾	凹凸	人為			
35	C9a ₂	N-25°-W	楕円形	0.7	0.7	25	垂直	凹凸	自然			
36	B9j ₂	N-45°-E	楕円形	0.8	0.6	15	垂直	凹凸	人為			
37	B9j ₂	N-52°-W	円形	0.5	0.5	22	垂直	平坦	自然			
38	B9j ₂	N-44°-W	不整楕円形	0.8	0.7	25	緩傾	皿状	自然			
39	B8i ₀	N-26°-E	円形	0.8	0.7	30	外傾	皿状	自然			
40	B9h ₁	N-51°-E	不整楕円形	1.0	0.9	20	緩傾	凹凸	自然			

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模			壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 古 → 新	図版 番号
				長径(m)	短径(m)	深さ(cm)						
41	B8g ₈	N-51°-W	不整楕円形	0.9	0.7	23	外傾	凹凸	人為			
42	B8g ₉	N-0°	不整楕円形	1.1	0.9	10	外傾	皿状	自然			
43	B8f ₇	N-40°-W	楕円形	0.9	0.6	30	外傾	皿状	自然			
45	B8c ₀	N-79°-E	楕円形	1.7	0.6	18	外傾	平坦	自然			
46	B8c ₀	N-72°-W	楕円形	0.7	0.4	14	緩傾	皿状	自然			
47	B8e ₅	N-6°-E	不整楕円形	1.3	0.5	27	緩傾	皿状	自然			
51	B8d ₀	N-52°-W	不整楕円形	0.7	0.5	24	緩傾	皿状	自然			
52	B8d ₉	N-34°-E	不整楕円形	1.1	0.9	19	外傾	皿状	自然			
53	B8d ₈	N-64°-W	円形	1.0	0.9	17	外傾	皿状	人為			
54	B8c ₈	N-44°-E	楕円形	1.1	1.0	30	緩傾	皿状	人為			
56	B8d ₆	N-27°-W	不整楕円形	1.0	0.8	17	緩傾	皿状	自然			
57	B7d ₆	N-11°-E	楕円形	0.7	0.5	16	外傾	皿状	自然			
58	B8f ₈	N-67°-W	円形	0.7	0.7	18	外傾	皿状	人為			
59	B8d ₈	N-46°-E	不整円形	0.7	0.7	13	緩傾	皿状	人為			
60	B8e ₉	N-42°-E	不定形	0.8	0.5	22	外傾	皿状	自然			
61	B8e ₀	N-11°-E	円形	0.6	0.6	20	外傾	皿状	自然			
63	B8c ₉	N-23°-W	楕円形	1.0	0.8	27	緩傾	皿状	自然			
64	B8c ₉	N-79°-E	楕円形	1.0	0.5	16	緩傾	凹凸	自然			
65	C8a ₈	N-32°-E	不整楕円形	1.4	0.6	35	緩傾	凹凸	自然			
67	C8b ₈	N-30°-E	楕円形	0.9	0.8	19	外傾	皿状	自然			
68	C8b ₀	N-44°-W	不整楕円形	0.9	0.8	20	外傾	皿状	自然			
69	C8b ₈	N-68°-W	円形	0.7	0.7	43	外傾	皿状	人為			
70	C8b ₈	N-35°-W	楕円形	1.0	0.8	20	緩傾	皿状	人為			
71	C8b ₉	N-58°-E	楕円形	0.6	0.5	12	緩傾	皿状	自然			
72	C8b ₉	N-74°-W	楕円形	1.5	0.7	20	緩傾	皿状	-			
73	C8b ₉	N-65°-W	楕円形	0.7	0.6	28	緩傾	皿状	自然			
74	B8h ₇	N-24°-W	楕円形	0.6	0.5	18	緩傾	凹凸	自然			
75	B8j ₆	N-62°-E	隅丸長方形	2.6	1.0	20	外傾	平坦	自然	礫1点		238
76	C8a ₆	N-14°-E	不定形	1.5	0.7	22	垂直	皿状	人為			
78	C8b ₆	N-75°-W	不整楕円形	1.0	0.6	44	外傾	皿状	人為			
81	C8c ₉	N-47°-W	不整楕円形	0.8	0.6	25	外傾	凹凸	-			
82	C8d ₉	N-35°-W	不整楕円形	1.5	0.9	13	緩傾	皿状	自然			
83	C8f ₉	N-34°-W	円形	0.8	0.8	17	外傾	平坦	-			
88	D8a ₀	N-48°-E	不整楕円形	3.9	2.4	104	緩傾	凹凸	自然			238

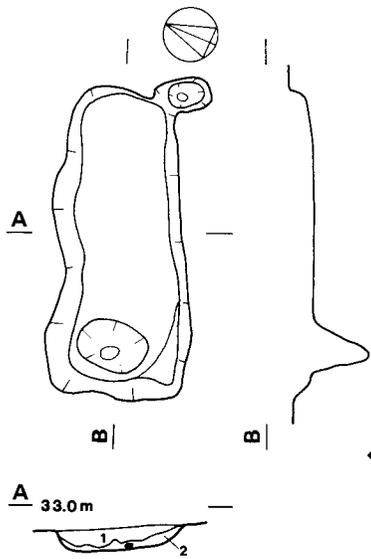
土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模			壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 古 → 新	図版 番号
				長径(m)	短径(m)	深さ(cm)						
101	B8e ₅	N-31°-E	楕円形	0.9	0.6	11	緩傾	皿状	自然			
102	B8e ₄	N-16°-E	楕円形	0.8	0.6	20	緩傾	凹凸	自然			
105	B8f ₄	N-26°-W	楕円形	0.7	0.6	19	外傾	平坦	自然			
106	B8f ₅	N-79°-E	不整楕円形	1.5	0.9	20	緩傾	凹凸	自然			
107	B8i ₂	N-52°-W	不定形	2.9	2.4	20	外傾	皿状	人為	須惠1片		238
108	B8e ₃	N-13°-E	楕円形	0.7	0.6	18	外傾	凹凸	自然			
114	D8f ₂	N-70°-E	楕円形	0.9	0.7	10	緩傾	皿状	人為			
116	D8g ₂	N-51°-E	楕円形	2.0	1.0	15	緩傾	皿状	自然			238
117	B8i ₂	N-73°-E	楕円形	2.0	1.2	10	緩傾	皿状	自然			238
120	B8g ₃	N-8°-E	楕円形	1.3	0.8	29	緩傾	凹凸	自然			
122	C8a ₅	N-40°-E	不定形	1.8	1.2	26	緩傾	凹凸	自然			
142	D3e ₇	N-80°-W	不整楕円形	2.0	1.2	38	外傾	凹凸	自然	土師1片		239
143	D3f ₅	N-24°-W	隅丸方形	1.2	1.2	28	外傾	平坦	人為	土師1片, 陶磁1片, 内耳1片, 須惠1片, 鉄1点		
144	D3g ₅	N-25°-W	隅丸長方形	2.6	0.7	47	外傾	平坦	人為	土師4片		239
145	C4b ₀	N-18°-E	不整楕円形	0.9	0.8	20	外傾	凹凸	自然			
147	C3h ₇	N-60°-E	楕円形	1.0	[0.7]	30	外傾	凹凸	人為		SK-153→本跡	
148	C3h ₉	N-57°-E	楕円形	1.6	[2.0]	20	外傾	皿状	自然	土師1片, 縄文1片, 鉄1点		
149	C3g ₉	N-32°-W	不整楕円形	[1.2]	1.1	18	緩傾	凹凸	自然			
150	C4f ₂	N-55°-E	不整円形	1.3	1.3	15	緩傾	皿状	自然			
152	C4e ₄	N-31°-W	長方形	[1.2]	0.8	47	外傾	皿状	人為			
153	C3i ₇	N-60°-E	楕円形	1.4	[0.7]	40	外傾	凹凸	人為		本跡→SK-147	
156	C4b ₉	N-0°	不整楕円形	2.1	1.9	12	緩傾	皿状	人為			239
157	C4b ₉	N-25°-W	楕円形	0.7	0.6	20	外傾	皿状	自然			
160	C5c ₂	N-40°-E	楕円形	1.0	0.7	30	外傾	凹凸	人為	礫1点		
162	C5d ₂	N-15°-W	楕円形	1.5	1.1	25	緩傾	皿状	人為	内耳2片		
163	C5d ₃	N-81°-W	不整楕円形	0.8	0.5	20	緩傾	皿状	自然			
164	C5a ₃	N-51°-E	不整楕円形	1.4	1.2	26	緩傾	皿状	人為			
165	C5f ₄	N-75°-E	不整円形	1.0	1.0	15	外傾	皿状	人為			
166	C5f ₅	N-47°-E	不整楕円形	1.0	0.8	13	緩傾	皿状	自然			
167	C5f ₄	N-83°-E	不整楕円形	1.5	1.0	28	緩傾	凹凸	人為			
168	C5g ₄	N-60°-E	楕円形	1.2	0.8	25	緩傾	凹凸	人為			
175	C8e ₃	N-10°-W	楕円形	3.0	1.7	14	緩傾	皿状	自然			239
176	C8d ₃	N-60°-W	不整楕円形	1.1	1.0	20	緩傾	凹凸	自然			
178	C7g ₆	N-71°-E	楕円形	1.4	[1.0]	17	緩傾	皿状	-	内耳3片	SK-179不明	

土坑 番 号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規		模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考 古 → 新	図版 番号
				長径(m)	短径(m)							
179	C7i ₆	N-85°-E	楕円形	2.8	[0.8]	38	緩傾	皿状	-		SD-6不明	
180	C6c ₆	N-7°-W	不整円形	2.2	[2.1]	24	緩傾	凹凸	自然	角釘	SD-9不明	
191	C7f ₆	N-41°-E	不定形	[1.8]	[0.9]	17	垂直	平坦	-		SD-6不明	
209	C6g ₈	N-68°-E	不整円形	1.1	1.0	19	外傾	皿状	自然			
235	C6f ₀	N-13°-E	楕円形	[1.0]	0.6	12	緩傾	皿状	自然		SK-223→本跡	
236	C6f ₀	N-16°-W	楕円形	2.7	[0.9]	70	外傾	平坦	人為		SK-237→本跡→ SD-18	240
237	C6f ₁	N-21°-W	楕円形	0.9	[0.7]	29	緩傾	皿状	自然		本跡→SK-236	
251	C7f ₂	N-0°	楕円形	0.9	0.6	24	緩傾	凹凸	自然			
254	C7f ₂	N-5°-W	不整円形	0.7	0.7	19	緩傾	皿状	自然			
270	C7c ₅	N-65°-W	不整楕円形	1.7	1.0	50	外傾	凹凸	自然			
271	C7b ₇	N-86°-W	不定形	1.4	1.0	-	外傾	-	-			
272	C7c ₇	N-57°-E	不整楕円形	1.4	1.1	60	外傾	凹凸	人為	縄文1片	SK-277不明	
274	C7e ₃	N-2°-E	楕円形	1.1	0.7	20	緩傾	皿状	自然			
278	C7d ₇	N-25°-W	不定形	1.3	1.2	23	外傾	凹凸	自然			
283	C6i ₀	N-28°-W	楕円形	[1.3]	1.0	26	緩傾	皿状	自然		SK-234不明	
285	C7d ₃	N-82°-W	不整楕円形	1.2	0.6	13	緩傾	皿状	人為			
298	C7d ₃	N-20°-W	楕円形	0.7	0.5	16	外傾	皿状	自然			
329	C6d ₃	N-43°-W	不定形	1.3	0.7	25	緩傾	皿状	-			
331	C6d ₃	N-75°-E	不整楕円形	0.9	0.7	40	緩傾	皿状	-			
341	C6d ₁	N-52°-E	不整円形	1.1	1.0	20	緩傾	皿状	自然			
346	C7b ₁	N-59°-W	円形	0.6	0.6	15	緩傾	皿状	自然			
358	C7b ₂	N-13°-W	楕円形	0.6	0.5	19	緩傾	平坦	自然			
360	C7b ₂	N-19°-W	円形	0.7	0.7	18	緩傾	皿状	自然			
375	C7c ₃	N-20°-E	楕円形	1.0	[0.7]	20	緩傾	皿状	自然			
384	C7b ₆	N-8°-E	楕円形	1.1	0.7	-	緩傾	皿状	自然			
420	C7a ₄	N-72°-E	不定形	1.7	[1.1]	25	外傾	皿状	自然		SK-5不明	
428	C6i ₂	N-13°-W	隅丸長方形	2.1	0.7	43	外傾	平坦	人為			
438	C6f ₅	N-90°-E	楕円形	0.7	0.5	16	外傾	平坦	-			
439	C6g ₅	N-19°-W	楕円形	1.9	1.2	27	緩傾	皿状	自然			
442	C6g ₄	N-0°	楕円形	[1.2]	0.8	25	外傾	皿状	自然		SK-453不明	
443	C6f ₄	N-90°-E	楕円形	1.5	1.0	30	緩傾	平坦	-			
460	D7h ₂	N-10°-W	隅丸方形	[2.6]	[2.4]	80	緩傾	皿状	-		SK-480→本跡→ SK-126, SK- 658不明	
465	D6i ₅	N-18°-W	隅丸長方形	1.2	0.7	38	外傾	皿状	人為			
467	C6i ₅	N-15°-W	楕円形	1.1	0.6	21	外傾	皿状	自然			

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模			壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 古 → 新	図版 番号
				長径(m)	短径(m)	深さ(cm)						
468	C6i ₅	N-21°-W	楕円形	1.1	0.6	15	外傾	平坦	自然			
469	C6j ₂	N-80°-E	長楕円形	2.5	0.5	33	垂直	平坦	人為			239
470	D6i ₄	N-13°-W	隅丸長方形	2.0	0.8	30	外傾	平坦	人為			
473	C6c ₇	N-87°-E	楕円形	2.1	1.8	50	緩傾	皿状	人為		風倒木痕か	
475	B7e ₇	N-90°-E	不定形	4.5	[1.8]	47	緩傾	平坦	-		本跡→SD-1	
478	C7j ₃	N-69°-E	楕円形	2.5	[0.8]	22	緩傾	皿状	自然		本跡→SK-612	240
487	D6d ₆	N-8°-W	楕円形	2.4	0.6	20	外傾	平坦	自然			
495	D7j ₂	N-79°-E	方形	[1.1]	1.0	18	外傾	皿状	人為		SD-24不明	
496	D7j ₃	N-0°	不整楕円形	[1.4]	[1.2]	38	緩傾	皿状	自然		SK-495,500不明	
498	D7j ₆	N-79°-E	不定形	[1.9]	1.4	25	緩傾	皿状	自然		SD-25不明	
499	D7j ₅	N-0°	円形	1.0	1.0	20	緩傾	皿状	自然			
500	D7j ₃	N-87°-E	不定形	[1.4]	1.2	28	緩傾	皿状	-		SK-496不明	
504	E6a ₀	N-90°-E	隅丸長方形	1.1	0.9	42	外傾	皿状	-			
505	E7a ₁	N-39°-E	不定形	1.5	0.7	38	緩傾	皿状	自然			
506	D7j ₁	N-24°-W	不整楕円形	1.8	1.5	45	外傾	皿状	自然	土師2片, 内耳3片		
507	E7a ₁	N-25°-W	楕円形	[1.4]	1.0	43	緩傾	皿状	-		SD-24不明	
509	E7a ₂	N-73°-E	楕円形	0.7	0.5	23	外傾	凹凸	-			
510	E7a ₂	N-83°-W	不整楕円形	0.6	0.5	36	垂直	皿状	-			
511B	D7j ₄	N-77°-W	不整円形	[1.1]	[1.0]	15	緩傾	皿状	自然		SK-502, 511A, C不明	
511C	D7j ₄	N-52°-E	不整円形	1.3	[1.2]	15	緩傾	皿状	-		SK-501, 511A, B不明	
515	C6j ₈	N-47°-W	不定形	[3.0]	1.5	40	外傾	垂直	-		SK-512, 514不明	240
516	D6e ₇	N-0°	不整楕円形	2.0	1.0	20	外傾	皿状	自然	土師質2片		
517	D6e ₇	N-35°-W	楕円形	0.6	0.5	18	緩傾	皿状	-			
526	D6g ₈	N-27°-E	不定形	1.8	[1.5]	20	外傾	凹凸	自然		SK-535不明	
535	D6g ₈	N-43°-E	不整楕円形	1.6	[0.9]	13	緩傾	皿状	自然	内耳2片, 須恵1片	SK-526不明	
536	D6e ₈	N-4°-W	不整楕円形	2.5	0.8	26	外傾	皿状	自然	土師1片		240
550	C7g ₂	N-81°-E	円形	0.8	0.7	42	緩傾	皿状	-			
554	D7g ₈	N-83°-E	楕円形	1.1	0.8	14	緩傾	皿状	自然	内耳1片		
556	D7e ₇	N-23°-W	不整円形	2.5	2.4	44	外傾	平坦	自然	内耳2片, 土師3片	SK-561不明	241
557	D7g ₂	N-25°-W	不整円形	0.9	0.6	28	外傾	皿状	-	土師3片		
561	D7e ₈	N-23°-W	不定形	2.2	[2.0]	38	外傾	皿状	人為	内耳1片	SK-556不明	241
562	D6j ₉	N-0°	隅丸長方形	[1.8]	1.3	62	外傾	皿状	人為		SK-651, SE-4, SD-5不明	
563	D7i ₇	N-20°-E	楕円形	[1.3]	[0.9]	15	緩傾	皿状	-	内耳4片	SD-26不明	
576	D7i ₄	N-19°-W	楕円形	1.5	1.0	32	外傾	皿状	自然			

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模			壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 古 → 新	図版 番号
				長径(m)	短径(m)	深さ(cm)						
583	C7i ₃	N-0°	橢円形	4.1	[1.2]	60	緩傾	皿状	自然		本跡→SK-612, SK-478不明	241
588	D7f ₈	N-15°-E	不整橢円形	2.1	1.1	32	緩傾	皿状	自然			241
597	D7c ₄	N-65°-E	不定形	3.2	1.3	27	緩傾	皿状	自然		SK-666不明	
605	D7d ₃	N-18°-W	隅丸長方形	2.1	[0.7]	45	外傾	皿状	-	内耳4片, 土師1片	SK-608, 609不明	
607	D7c ₃	N-79°-E	不整橢円形	[2.6]	[1.5]	75	外傾	皿状	人為		本跡→SK-608, SK-641, 643不明	
608	D7c ₃	N-17°-W	隅丸長方形	[2.5]	0.8	80	外傾	平坦	人為		SK-607→本跡	
609	D7d ₃	N-26°-W	橢円形	[1.8]	[0.9]	110	緩傾	皿状	人為		本跡→SK-608, SK-605不明	
624	D6i ₇	N-17°-W	不整長方形	[1.8]	1.2	70	外傾	平坦	-		SD-5, 13不明	
636	D6c ₀	N-10°-W	橢円形	1.9	[1.1]	-	緩傾	皿状	-		SK-637, 638不明	
637	D6c ₀	N-0°	隅丸長方形	[2.2]	[1.0]	-	緩傾	平坦	-		SK-636, 638不明	
641	D7c ₃	N-50°-W	不整橢円形	2.2	[2.0]	40	緩傾	皿状	-		SK-607不明	
642	D7c ₁	N-28°-W	橢円形	[1.1]	[0.6]	-	緩傾	平坦	-	内耳1片	SK-637, 638, 640不明	
643	D7b ₃	N-20°-W	不整橢円形	[3.6]	[2.6]	65	緩傾	凹凸	-		SK-607, 622不明	241
644	D7c ₁	N-57°-W	不定形	[1.7]	1.3	-	外傾	平坦	-		SK-640不明	
648	D7i ₀	N-24°-W	不定形	[2.4]	[1.4]	50	緩傾	皿状	人為	内耳4片	本跡→SK-656	
651	D6j ₉	N-43°-W	円形	0.8	0.8	56	垂直	皿状	人為			
660	C8i ₂	N-37°-E	橢円形	1.9	1.2	35	緩傾	皿状	自然			
675	C6j ₉	N-18°-W	不整橢円形	[2.2]	1.0	25	緩傾	凹凸	-		SK-514不明	
680	D7d ₀	N-48°-E	橢円形	1.7	1.0	30	緩傾	皿状	-	内耳2片, 須恵1片		
682	C7h ₃	N-18°-W	不整橢円形	1.7	[1.2]	35	垂直	凹凸	-		SK-479, 690不明	
684	D7j ₉	N-74°-E	橢円形	[1.9]	1.5	40	緩傾	皿状	-	内耳1片	SD-5不明	
685	C7d ₂	N-50°-E	円形	0.8	0.8	39	外傾	凹凸	自然			
725	D8b ₇	N-68°-E	橢円形	1.0	0.8	15	緩傾	皿状	自然			
726	D8a ₉	N-90°-E	橢円形	1.1	0.6	17	垂直	平坦	自然			
728	C8g ₆	N-43°-E	橢円形	0.6	0.5	20	外傾	傾斜	人為			
739	D8b ₅	N-90°-E	不整橢円形	1.2	0.8	10	外傾	皿状	人為			
743	D8c ₅	N-17°-W	不整橢円形	0.8	0.7	20	外傾	平坦	-			
755	D8a ₄	N-36°-W	橢円形	0.7	0.3	20	外傾	皿状	自然			
767	D8c ₈	N-40°-W	不整橢円形	0.8	0.7	19	外傾	平坦	-			
814	D8b ₉	N-89°-E	円形	1.1	1.0	17	外傾	平坦	-			
816	D8c ₀	N-48°-W	橢円形	0.7	0.6	25	外傾	皿状	自然			
817	C8i ₈	N-13°-W	長方形	2.2	1.3	14	外傾	平坦	自然			242
821	D8c ₇	N-31°-E	橢円形	0.9	0.7	20	外傾	皿状	-			
824	C8a ₈	N-39°-E	円形	0.7	0.7	30	外傾	皿状	人為			

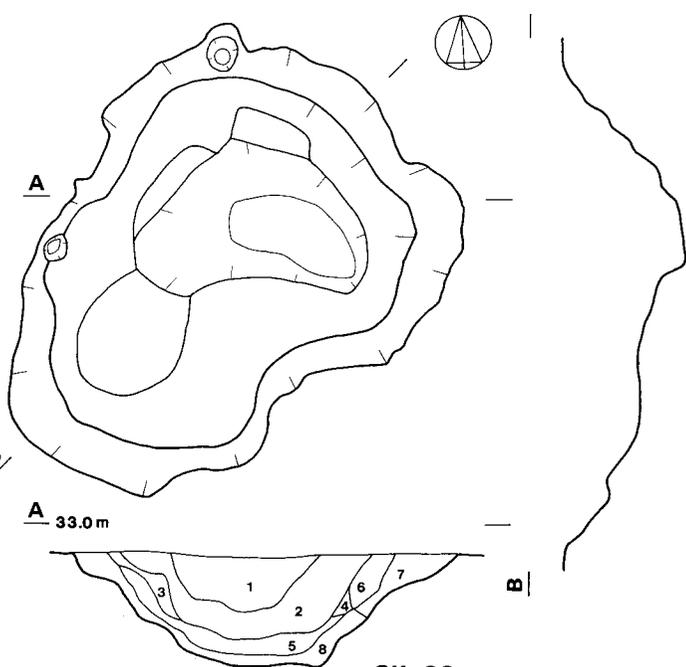
土坑 番号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模			壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考 古 → 新	図版 番号
				長径(m)	短径(m)	深さ(cm)						
825	D7es	N-36°-E	不 定 形	2.2	1.6	38	外傾	平坦	人為			242
832	E6e7	N-71°-E	橢 円 形	1.3	0.7	16	緩傾	皿状	自然			
833	E6es	N-75°-E	橢 円 形	1.2	0.9	11	緩傾	皿状	自然			
836	E6ds	N-76°-E	不整長方形	[2.7]	0.6	19	垂直	平坦	自然		SD-3不明	242
837	E7a1	N-69°-E	橢 円 形	0.8	0.5	12	外傾	皿状	自然			
838	E7d1	N-70°-E	橢 円 形	1.6	0.8	10	緩傾	皿状	自然			
839	E7d2	N-19°-W	不整楕円形	4.6	2.4	136	外傾	皿状	自然			242
840	E7d4	N-4°-W	橢 円 形	1.4	0.9	26	外傾	皿状	自然			
844	E8b0	N-4°-E	橢 円 形	[0.8]	0.6	40	外傾	皿状	-		SK-848不明	
845	E7b9	N-32°-E	橢 円 形	1.7	[1.3]	28	緩傾	皿状	自然		SK-843A不明	
848	E8a0	N-59°-W	橢 円 形	0.7	0.6	14	外傾	凹凸	-		SK-844不明	
849	E8b0	N-23°-W	橢 円 形	0.9	0.5	33	外傾	皿状	-			
851	E8b0	N-35°-E	橢 円 形	0.6	0.5	16	外傾	皿状	自然			
855	E8b1	N-16°-E	橢 円 形	0.7	0.5	87	垂直	皿状	人為			
856	E8b1	N-79°-W	不整円形	0.9	0.8	23	緩傾	皿状	自然			
857	E8b1	N-90°-E	橢 円 形	1.1	0.7	20	緩傾	皿状	自然	縄文1片, 土師1片		
863	C7j2	N-64°-E	橢 円 形	1.6	1.1	52	外傾	皿状	人為	須恵1片, 土師1片	SK-861, 866不明	
866	C7j2	N-66°-W	橢 円 形	[0.8]	0.7	62	外傾	皿状	-		SK-863不明	
874	B6e0	N-90°-E	不 定 形	[1.1]	1.0	25	緩傾	皿状	-		SK-875不明	
875	B6e0	N-32°-E	円 形	[1.5]	1.4	19	緩傾	皿状	-		SK-874, 876不明	
876	B6e0	N-89°-W	不整円形	[1.2]	1.1	30	緩傾	皿状	-		SK-602, 875不明	
27<II>	C4is	N-48°-W	不整円形	[1.3]	[1.1]	35	外傾	皿状	人為			
37<II>	D5a3	N-64°-E	橢 円 形	1.9	0.7	18	外傾	皿状	自然			
51<II>	D4e9	N-44°-E	橢 円 形	1.0	0.9	47	外傾	凹凸	自然			
53<II>	D4b9	N-42°-W	橢 円 形	1.0	0.8	50	外傾	皿状	自然			
61<II>	D4b7	N-50°-E	橢 円 形	0.9	0.8	31	外傾	凹凸	人為			
64<II>	D4b7	N-34°-W	橢 円 形	[0.7]	[0.6]	44	垂直	皿状	人為			
66<II>	D4e3	N-74°-W	不整楕円形	[0.8]	[0.6]	40	外傾	皿状	人為			
71<II>	D4f3	N-65°-E	橢 円 形	[1.1]	[0.7]	17	垂直	平坦	自然			
78<II>	D5a3	N-26°-E	橢 円 形	2.1	1.4	30	外傾	皿状	人為			243
79<II>	D5b3	N-64°-W	不整楕円形	3.8	0.8	27	外傾	平坦	人為			243
82<II>	D4f9	N-19°-E	橢 円 形	0.9	0.8	32	外傾	皿状	人為			
84<II>	D4g0	N-38°-W	円 形	1.0	1.0	40	外傾	平坦	人為			
85<II>	D4h0	N-84°-W	円 形	0.8	0.7	28	外傾	皿状	人為			



SK 75

SK-75 土層解説

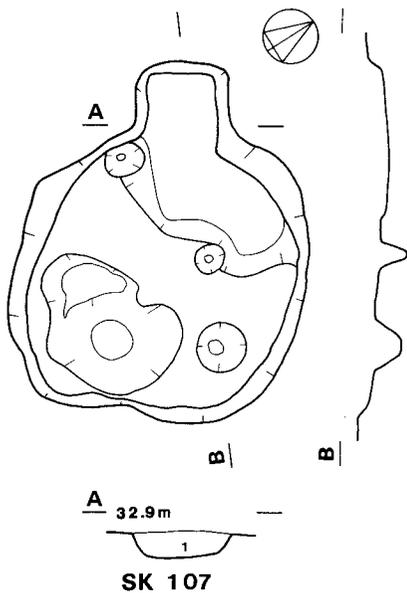
- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子極微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量



SK 88

SK-88 土層解説

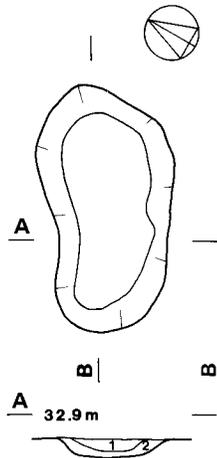
- 1 黒色 ローム粒子極微量，黒色大・中・小ブロック含有
- 2 黒色 ローム粒子・小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量，スコリア粒子極微量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子極微量
- 6 暗褐色 含有物なし
- 7 浅黄橙色 含有物なし
- 8 にぶい黄橙色 黒色粒子少量



SK 107

SK-107 土層解説

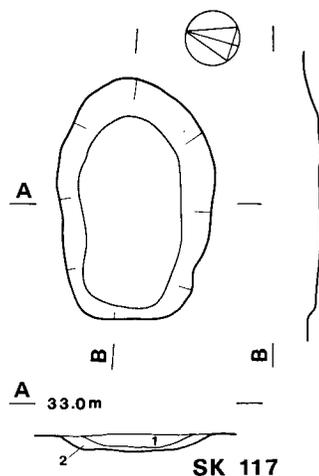
- 1 黒褐色 ローム粒子微量，ロームブロック極微量



SK 116

SK-116 土層解説

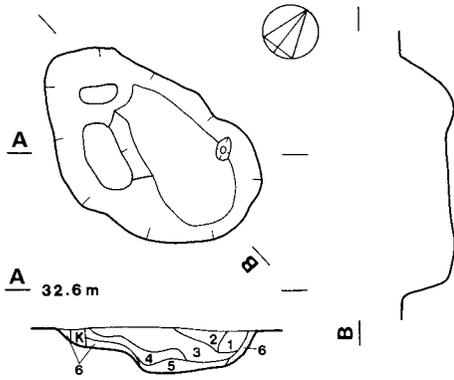
- 1 暗褐色 ローム粒子・砂少量，パミス粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・パミス粒子少量，砂・スコリア粒子極少量



SK 117

SK-117 土層解説

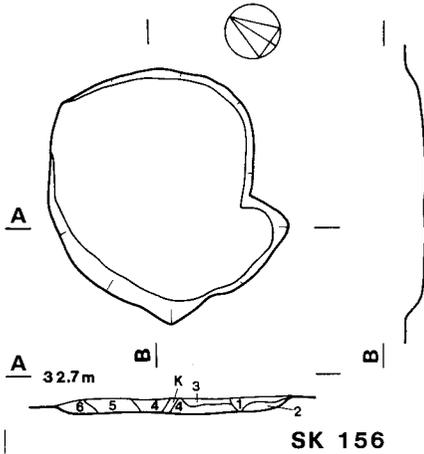
- 1 黒色 ローム粒子少量，スコリア粒子極少量
- 2 褐色 ローム粒子多量，スコリア粒子少量



SK 142

SK-142 土層解説

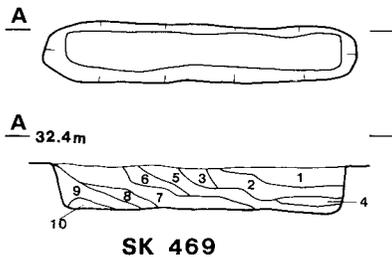
- 1 黒色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量
- 3 黒色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子・ロームブロック少量
- 6 褐色 ロームブロック多量, 黒色粒子少量



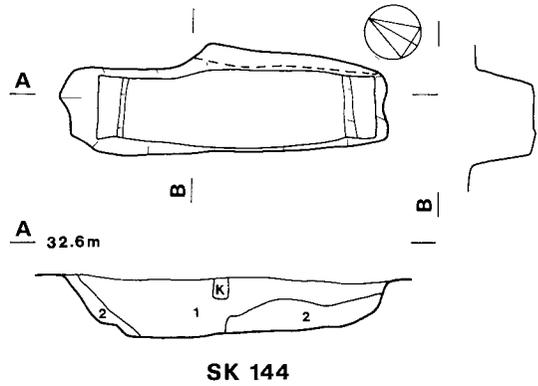
SK 156

SK-156 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, スコリア粒子極少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, スコリア粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 砂極少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, スコリア粒子極少量
- 6 褐色 ローム粒子多量, スコリア粒子・パミス粒子極少量



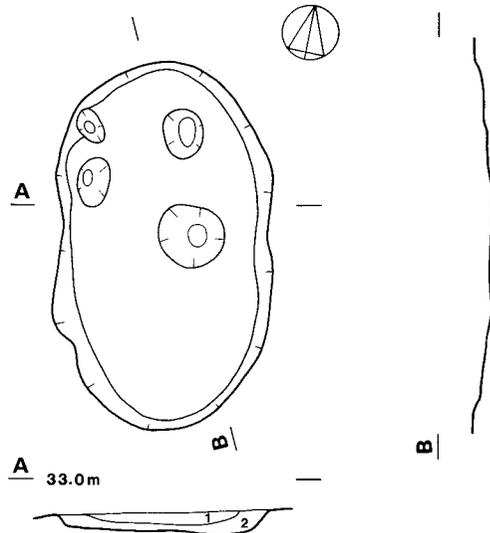
SK 469



SK 144

SK-144 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量, ロームブロック中量, 黒色ブロック少量
- 2 灰褐色 ローム粒子中量, ロームブロック少量



SK 175

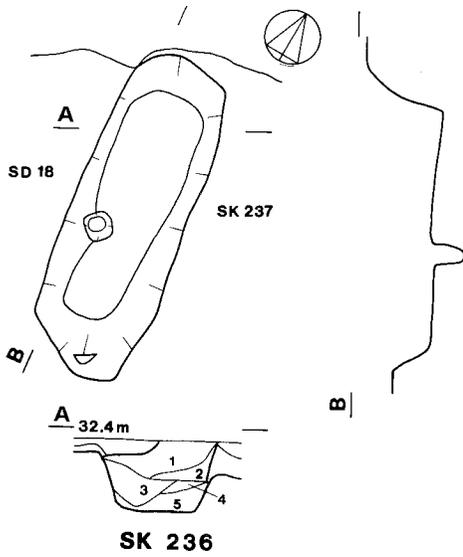
SK-175 土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量, ロームブロック微量
- 2 灰褐色 黒色粒子中量, ロームブロック微量

SK-469 土層解説

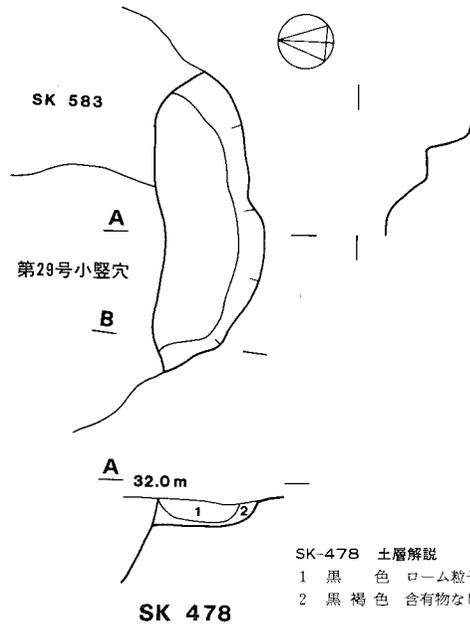
- 1 黒色 黒色粒子多量, ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子少量, ローム中ブロック微量, ローム小ブロック極微量
- 3 褐色 ローム中量, 黒色粒子少量
- 4 明褐色 ローム粒子多量, 黒色粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子少量, スコリア粒子極微量
- 6 黒褐色 黒色粒子中量, ローム粒子少量, 炭化材微量
- 7 極暗褐色 黒色粒子中量, ローム粒子少量, スコリア粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子微量
- 9 黒褐色 黒色粒子中量, ローム粒子極少量
- 10 明褐色 ローム粒子多量





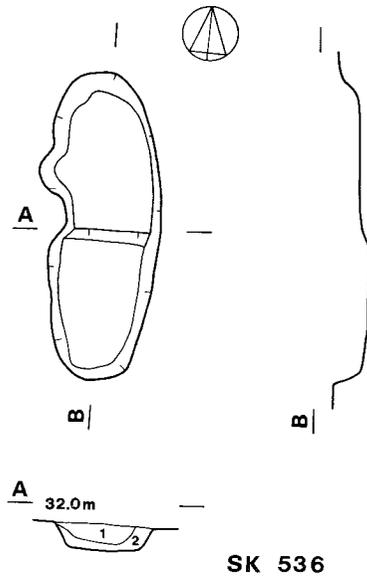
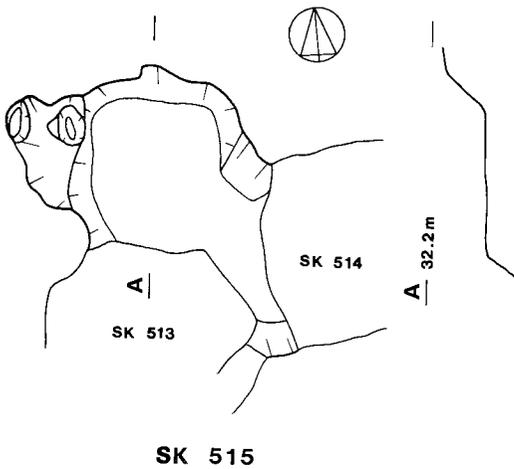
SK-236 土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子中量, 黒色ブロック・ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 黒色ブロック・ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, ロームブロック・黒色ブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 黒色ブロック微量
- 5 明褐色 黒色粒子少量, スコリアブロック・黒色ブロック微量



SK-478 土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 含有物なし

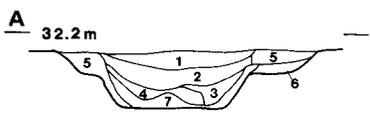
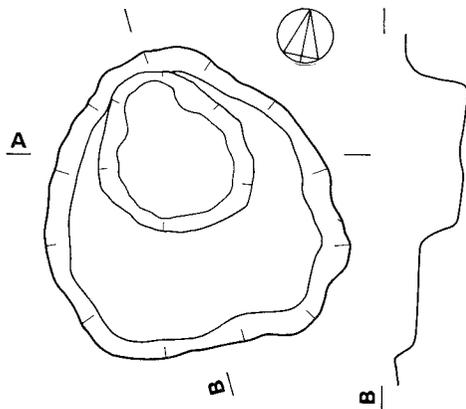


SK-536 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子・焼土粒子極微量
- 2 褐色 黒色粒子少量

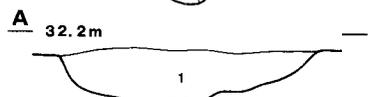
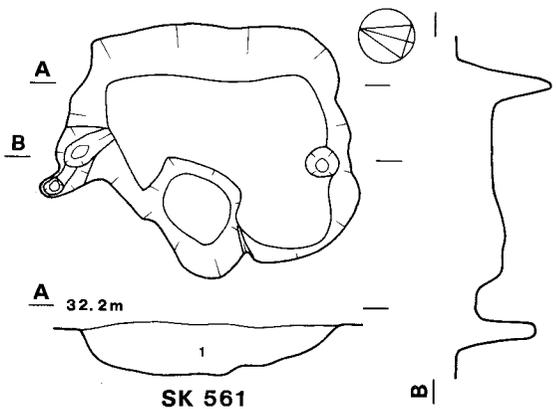


第240図 土坑実測図(3)



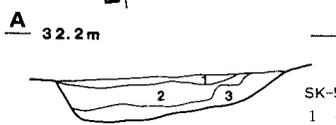
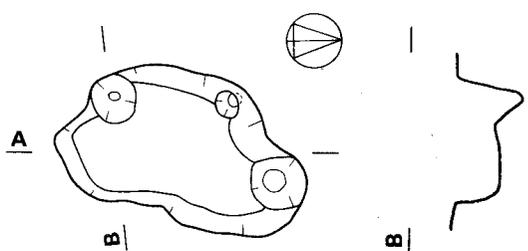
SK 556

- SK-556 土層解説
- 1 褐色 ローム粒子少量
 - 2 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子極微量
 - 3 黒褐色 ローム粒子中量
 - 4 灰褐色 ローム粒子少量, 黒色粒子微量
 - 5 褐色 ローム粒子少量
 - 6 明褐色 黒色粒子極微量
 - 7 暗褐色 ローム粒子少量, 黒色粒子・スコリア粒子極微量



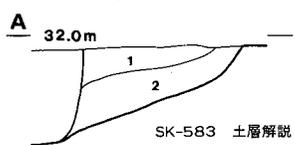
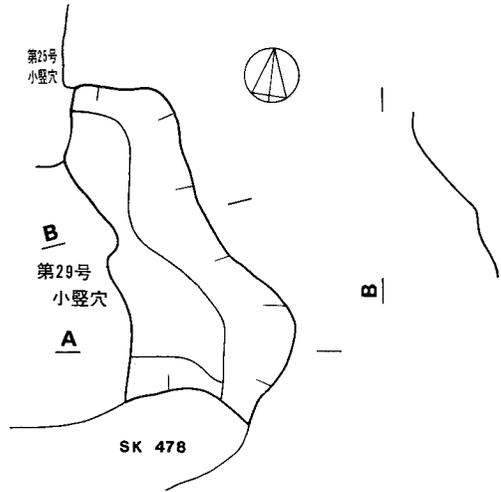
SK 561

- SK-561 土層解説
- 1 明褐色 ローム小ブロック多量



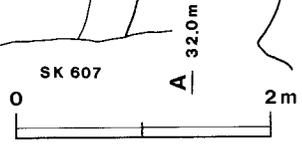
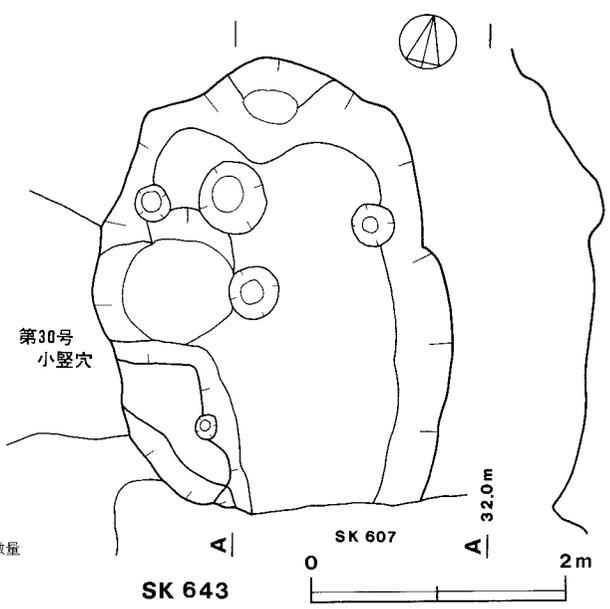
SK 588

- SK-588 土層解説
- 1 褐色 ローム粒子中量
 - 2 暗褐色 ローム粒子中量
 - 3 褐色 黒色粒子微量

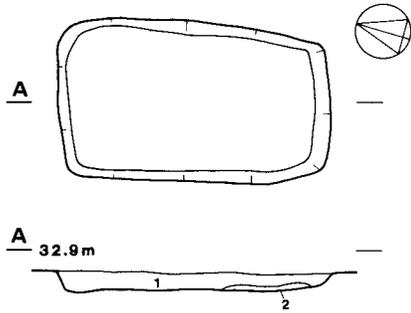


SK 583

- SK-583 土層解説
- 1 褐色 黒色粒子少量, ローム粒子微量
 - 2 褐色 ローム小ブロック少量



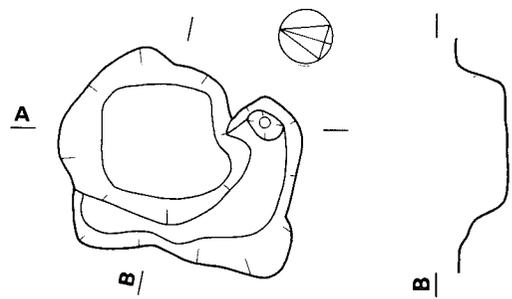
第241図 土坑実測図(4)



SK 817

SK-817 土層解説

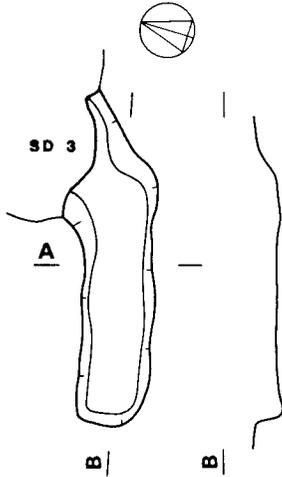
- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・黒色粒子少量, スコリア粒子微量
- 2 黒褐色 黒色粒子中量, ローム粒子極少量



SK 825

SK-825 土層解説

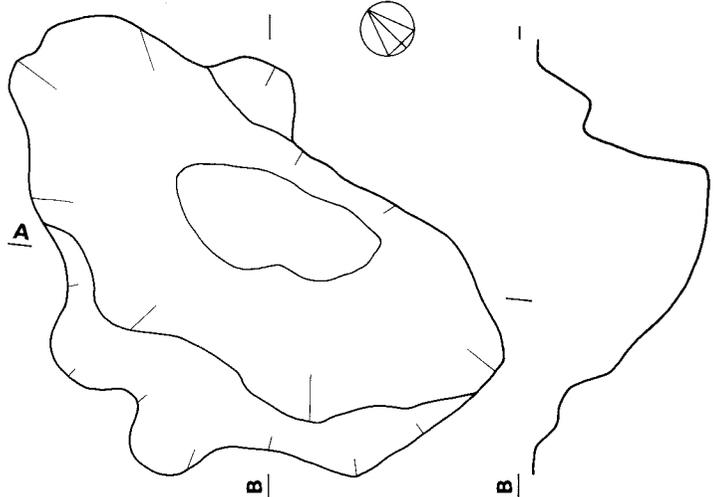
- 1 褐色 ローム粒子多量, 黒色粒子少量



SK 836

SK-836 土層解説

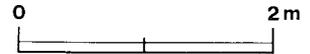
- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量, 炭化粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・礫極少量, ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子極少量, スコリア小ブロック微量, スコリア粒子極微量
- 4 暗褐色 ローム粒子極少量, ローム小ブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子中量, スコリア粒子極少量
- 6 明褐色 ローム粒子多量



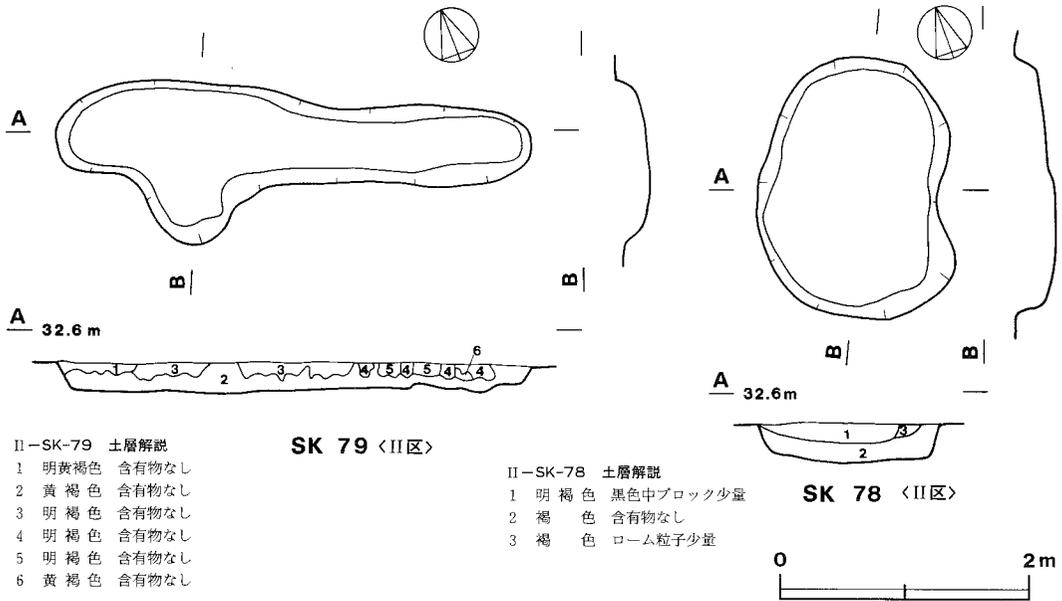
SK 839

SK-839 土層解説

- 1 黒褐色 黒色粒子中量, ローム粒子極少量
- 2 黒色 黒色大ブロック多量, ローム粒子微量, 炭化粒子極微量
- 3 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・スコリア粒子極微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, スコリア粒子極微量
- 5 黒褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量
- 6 黒色 ローム粒子極微量
- 7 黒色 ローム粒子微量, ローム小ブロック極微量
- 8 黒色 ローム粒子微量, ローム小ブロック極微量



第242図 土坑実測図(5)



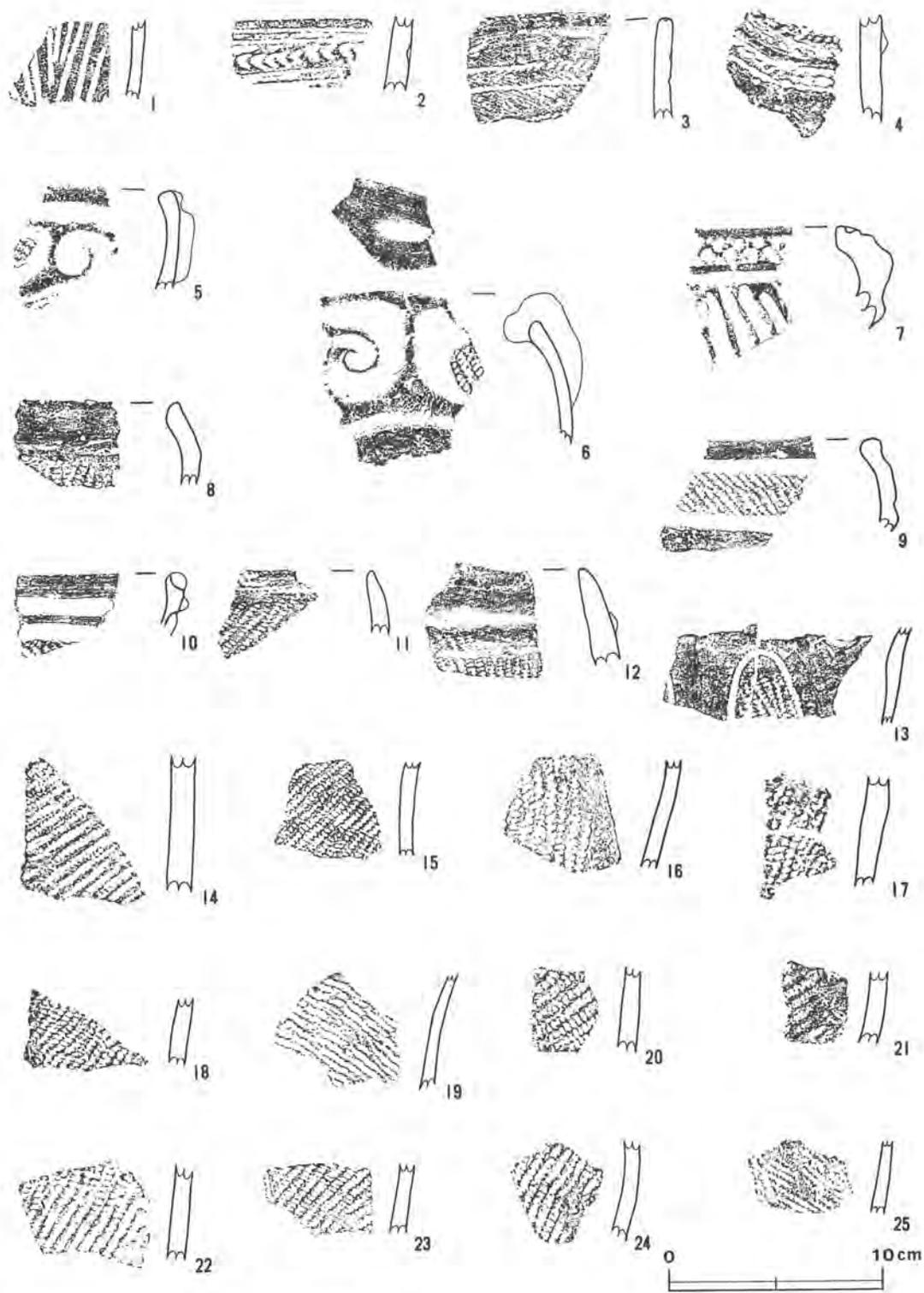
第243図 土坑実測図(6)

3 遺構外遺物

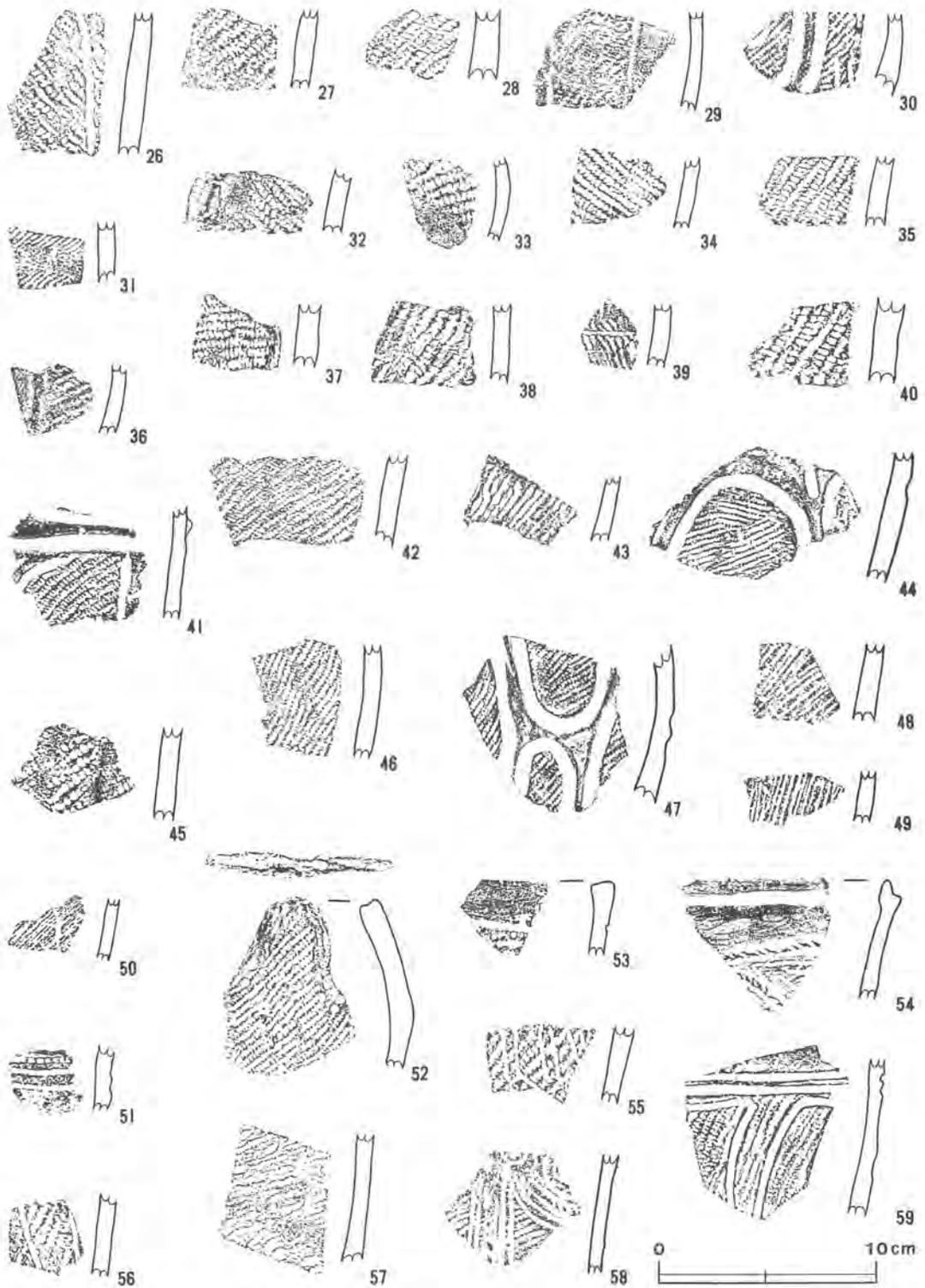
ここでは、遺構外から出土した遺物や表面採取された遺物について記述する。

第244図の拓影図の1は、田戸下層式土器の胴部片で、太い沈線が施されている。2は浮島式土器の胴部片で、横位の沈線や「C」字状の刺突文が施されている。3は浮島式土器の口縁部片で、押引き文や刺突文が施されている。4は阿玉台式土器の口縁部付近の破片で、断面三角形の隆線と結節沈線文が施されている。5、6は加曾利EⅢ式土器の口縁部片で、渦巻き文が見られる。7～12は加曾利EⅢ式土器の口縁部片である。13～25は加曾利EⅢ式土器の胴部片である。26～47は加曾利EⅢ式土器の口縁部中位片や胴部片で、沈線区面の無文帯や回転縄文帯が見られる。48～50は加曾利EⅢ式土器の胴部片で、条痕文が施されている。51は大木系の縄文中期の土器の胴部片で、沈線文や角押文が施されている。52は加曾利EⅣ式土器の口縁部片である。53は称名寺式土器の口縁部片である。54～59は堀ノ内式土器の口縁部片や胴部片で、縄文地上に沈線文を描かれている。

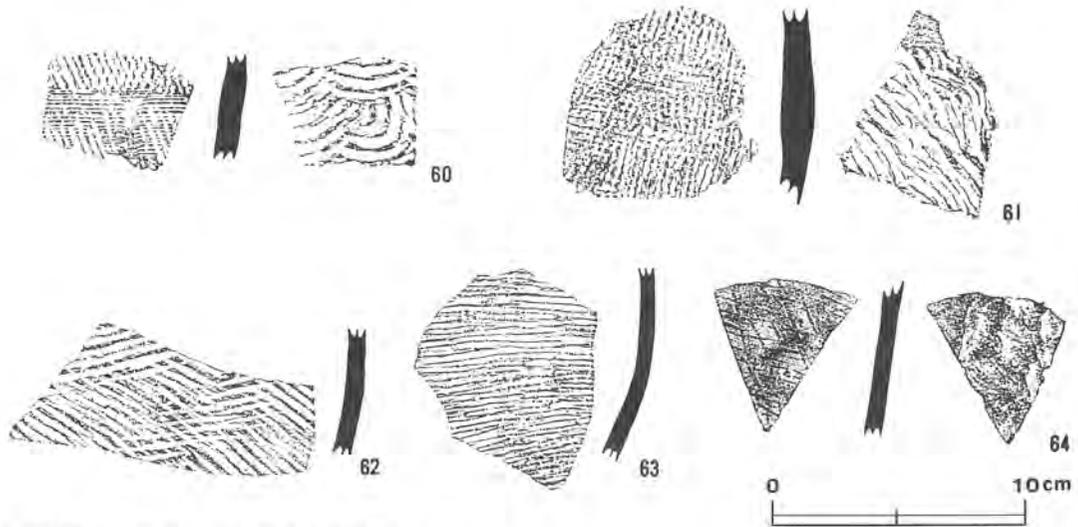
60は須恵器の甕片で、外面に縄目のタタキを施し、その上に横位のカキ目が施されている。61は須恵器の甕片で、外面に格子状のタタキ目が、内面には青海波文が施されている。62は木葉下窯産の須恵器の甕片で、外面に綾杉状のタタキ目が施されている。63は須恵器の甕片で、外面に平行タタキ目が施されている。64は陶器の甕片である。



第244圖 遺構外出土繩文式土器拓影圖(1)



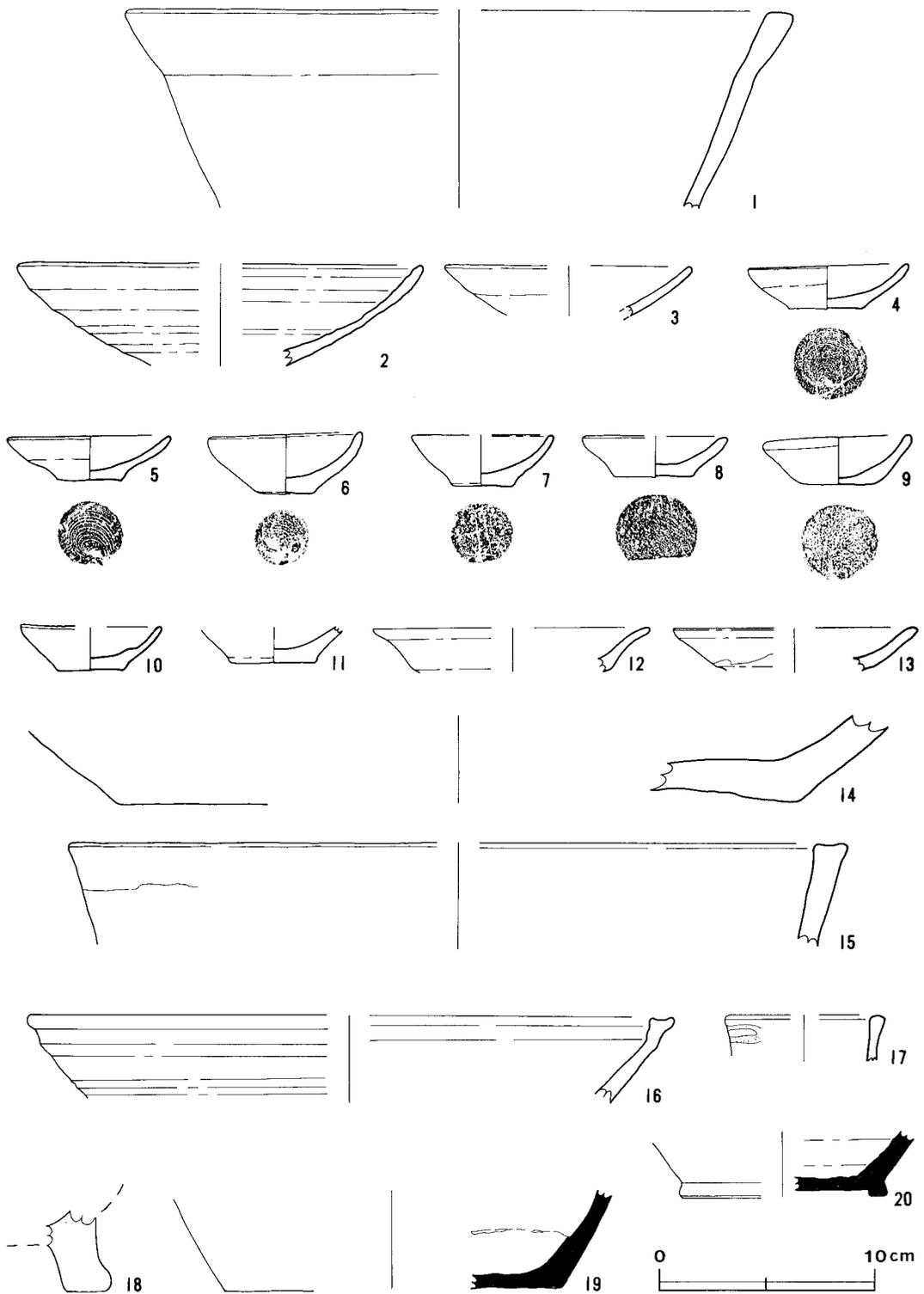
第245図 遺構外出土縄文式土器拓影図(2)



第246図 遺構外出土須恵器拓影図

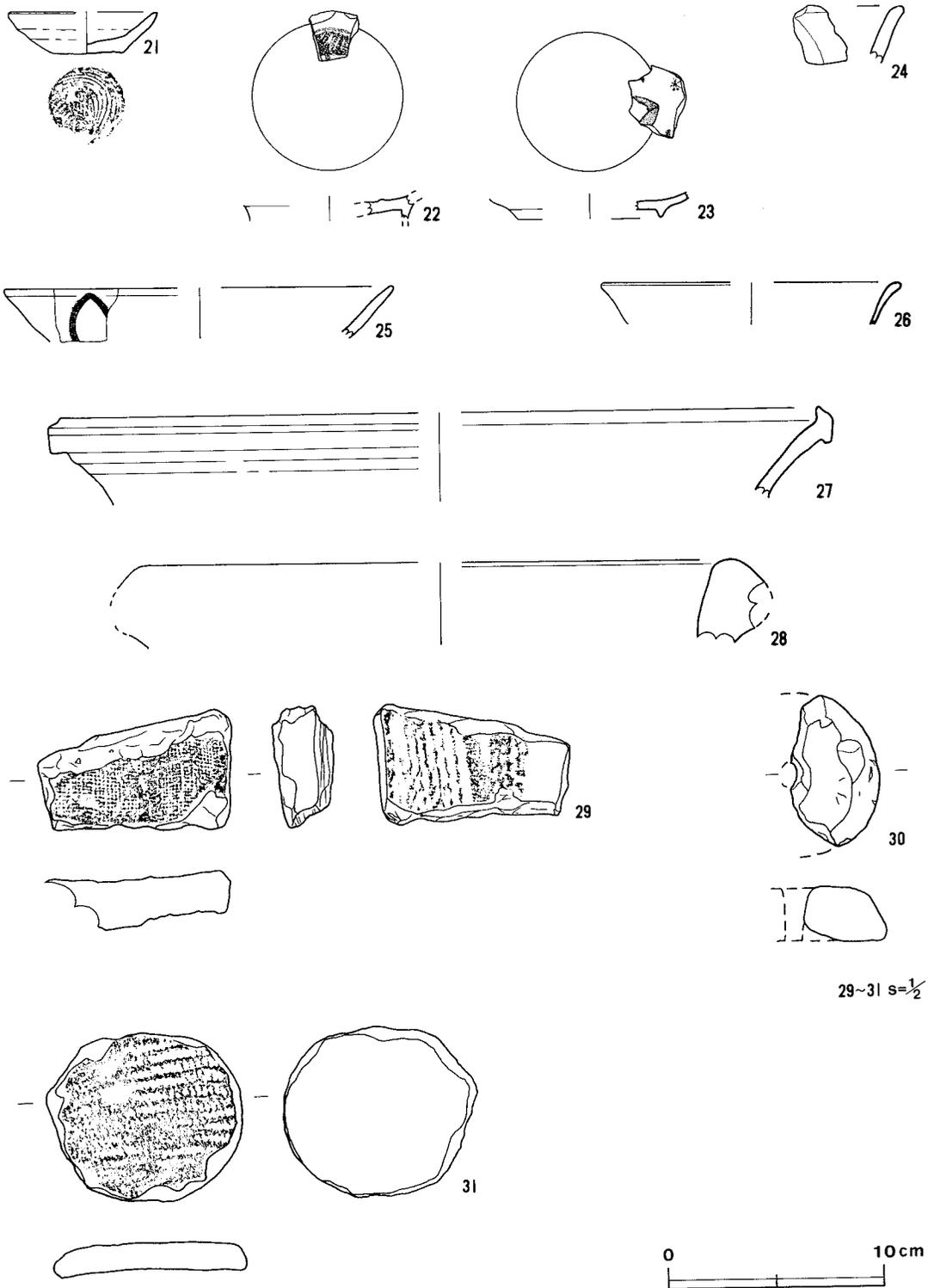
グリッド出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第247図 1	内耳鍋 土師質土器	A [31.0] B (9.4)	体部, 口縁部片。体部は直線的に外傾し, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部横ナデ。体部縦方向のナデ。	砂粒 黒褐色 普通	10% P 331 C7g ₃ 区。 ススが付着。
2	大皿 土師質土器	A [19.0] B (4.8)	体部, 口縁部片。体部, 口縁部は内彎しながら外上方に立ち上がる。	口縁部, 体部横ナデ。	砂粒 浅黄橙色 普通	20% P 338 D7a ₃ , D7b ₃ 区。
3	皿 土師質土器	A [11.4] B (2.4)	体部, 口縁部片。体部, 口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。	水挽き成形。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	10% P 345 D7a ₃ 区。
4	小皿 土師質土器	A 7.5 B 2.1 C 3.4	口縁部一部欠損。底部は平底で突出ぎみ。体部, 口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒 黒褐色 不良	90% P 339 D7b ₃ 区。
5	小皿 土師質土器	A 7.8 B 2.2 C 3.0	口縁部一部欠損。底部は平底で突出する。体部, 口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒 褐灰色 普通	60% P 341 D7b ₃ 区。
6	小皿 土師質土器	A 7.2 B 2.9 C 2.6	口縁部一部欠損。底部は平底で径が小さい。体部, 口縁部は内彎して立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒 黒褐色 普通	90% P 340 D7b ₃ 区。
7	小皿 土師質土器	A [6.6] B 2.4 C 2.9	口縁部一部欠損。底部は平底で突出ぎみ。体部, 口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。	水挽き成形。	砂粒 灰黄褐色 不良	75% P 342 D7b ₃ 区。
8	小皿 土師質土器	A [6.8] B 1.9 C 3.7	口縁部一部欠損。底部は平底で突出ぎみ。体部は直線的に外傾し, 口縁部は内彎する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒 浅黄色 普通	70% P 344 D7g ₇ 区。
9	小皿 土師質土器	A 7.0 B 2.3 C 3.4	平底。体部は直線的に外傾し, 口縁部上位で直立する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒 浅黄色 普通	95% P 346 D7b ₃ 区。



第247図 遺構外出土遺物実測図(1)

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第247図 10	小皿 土師質土器	A [6.6] B 2.1 C 3.0	口縁部一部欠損。平底。体部、口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒 灰白色 不良	50% P 343 D7b _s 区。
	皿 土師質土器	B (1.7) C 4.0	底部片。平底でわずかに突出する。	水挽き成形。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	30% P 330 Aグリッド。
12	小鉢 陶器	A [12.8] B (2.1)	口縁部片。口縁部上位は外反する。	口縁部横ナデ。	灰白色 (釉)浅黄色 普通	10% P 365 Cグリッド。
13	小鉢 陶器	A [11.4] B (2.0)	体部、口縁部片。体部中位で屈曲し、口縁部は直線的に立ち上がる。	体部にクロロ目を残す。	灰白色 (釉)浅黄色 良好	10% P 369 D3i _r 区。
14	甕 陶器	B (4.1) C [31.8]	底部、胴部片。平底。	胴部外面ナデ。	砂粒 にぶい褐色 普通	10% P 333 C 8区。常滑産。 15c。
15	鉢 陶器	A [36.2] B (4.8)	体部、口縁部片。体部は直線的に外傾する。口唇部に面を持つ。	口縁部横ナデ。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	5% P 366 Cグリッド。 常滑産。
16	盤 陶器	A [30.0] B (4.0)	体部、口縁部片。体部は内彎しながら外傾し、口唇部は外方向に折り曲げ、わずかに内傾する。	体部にクロロ目を残す。	灰白色 (釉)オリーブ黄色 普通	5% P 347 D7a _o 区。
17	香炉 陶器	A [7.4] B (2.2)	体部、口縁部片。体部、口縁部は直立する。口唇部肉厚。	体部横ナデ。	灰白色 (釉)灰オリーブ色 普通	5% P 368 D7e ₁ 区。 瀬戸産。
18	香炉 土師質土器	B (3.8)	足部片。足は粘土の貼り付け。	足部ナデ。	砂粒 にぶい黄褐色 普通	5% P 332 Cグリッド。
19	壺 須恵器	B (4.6) C [15.6]	底部、胴部片。平底。胴部は内彎しながら外上方に立ち上がる。	胴部横ナデ。輪積み痕。	砂粒 灰黄色 普通	5% P 348 D7i _o 区。
第248図 20	長頸壺 須恵器	A [3.0] D [9.6] E 0.7	底部、胴部片。低い高台。胴部は直線的に外傾する。	胴部横ナデ。	長石 褐灰色 普通	5% P 349 D8f _r 区。
	皿 土師質土器	A [7.0] B 2.0 C 3.3	平底。体部は内彎ぎみに外傾し、口縁部は直線的に立ち上がる。	水挽き成形。底部静止糸切り。	小石・長石 にぶい黄褐色 普通	50% P 351 I区。
22	染付碗 磁器	B (1.1)	高台部片。高台部は直線的に内傾する。	釉は全体的に薄く施されている。	淡橙色 (釉)灰白色 良好	5% P 357 龍泉窯蓮子碗I類。I区。
23	染付皿 磁器	B (1.2) D [6.6] E 0.5	底部片。高台部は低く、断面は「U」字状を呈する。	内面見込みに虫の絵。	白色 (釉)灰白色 良好	10% P 373 龍泉窯染付皿E群。I区。
24	碗 青磁	B (2.7)	口縁部片。口唇部はわずかに外反する。器肉は全体的に厚い。	均一に施釉されている。	灰白色 (釉)明緑灰色 良好	5% P 358 龍泉窯。 II区。
25	碗 青磁	A [18.0] B (2.5)	体部、口縁部片。体部は直線的に外傾し、口縁部はわずかに外反する。	体部外面に蓮弁文。	灰白色 (釉)灰オリーブ色 良好	5% P 372 龍泉窯碗I-5。 I区。
26	皿 白磁	A [14.1] B (2.0)	口縁部片。口縁部は強く外反する。	釉は、均一に施されている。	灰白色 (釉)白色 良好	5% P 371 龍泉窯。II区。



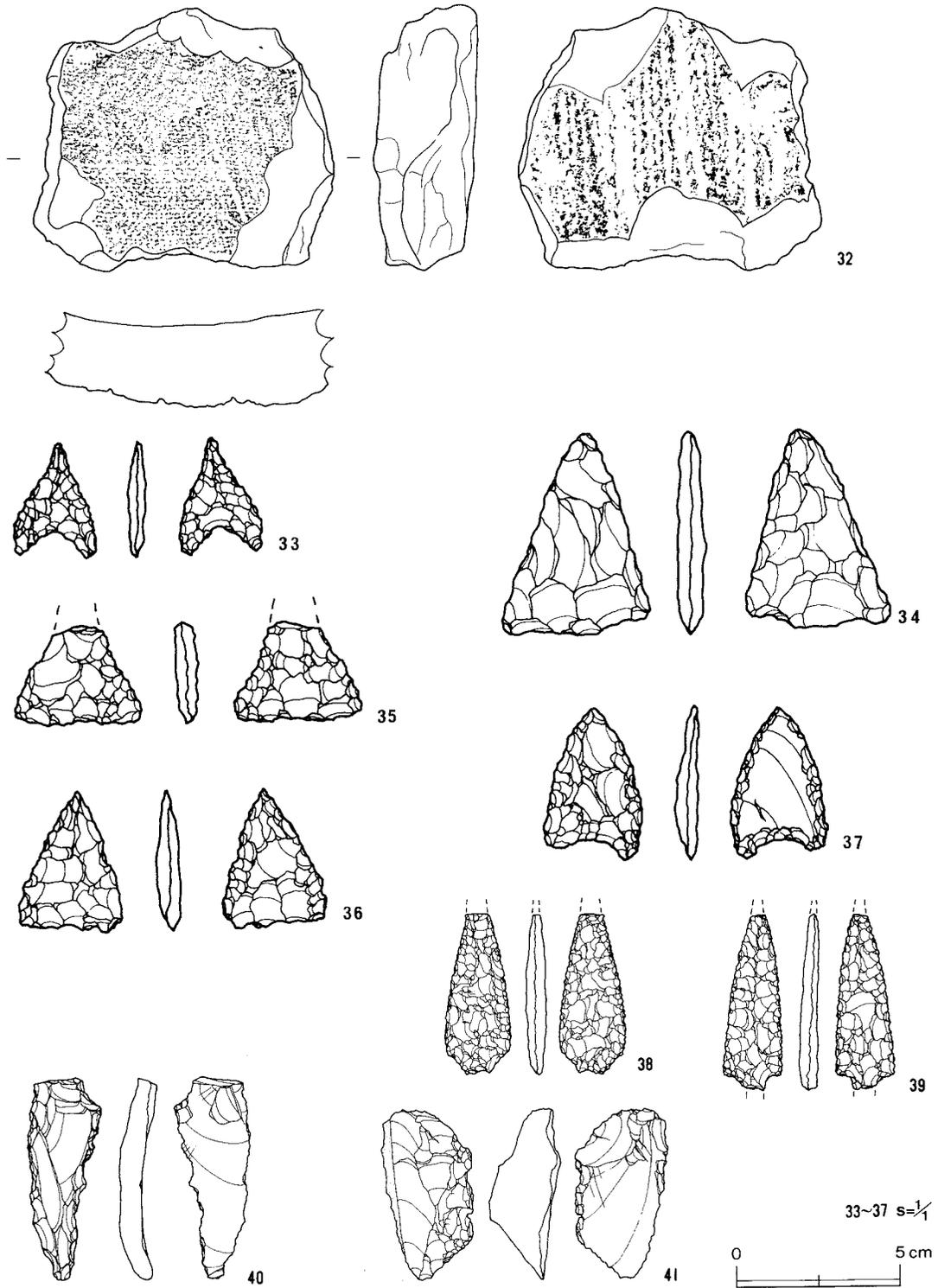
第248図 遺構外出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第248図 27	甗 陶磁器	A [36.6] B (4.2)	口縁部片。口唇部は内上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒にぶい褐色良好	5% P370 在地産。II区。
28	甗 陶器	A [30.0] B (3.9)	口縁部片。器肉は厚い。	口縁部内・外面横ナデ。	小石明赤褐色普通	5% P374 在地産。II区。

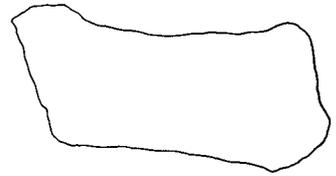
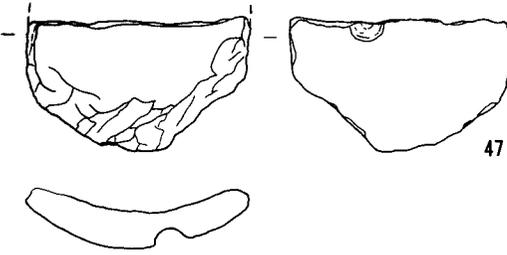
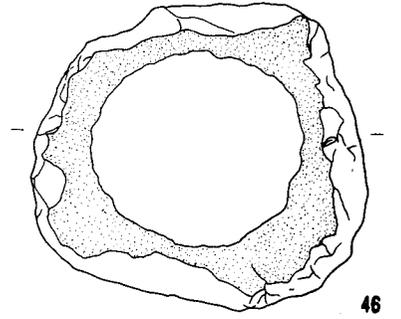
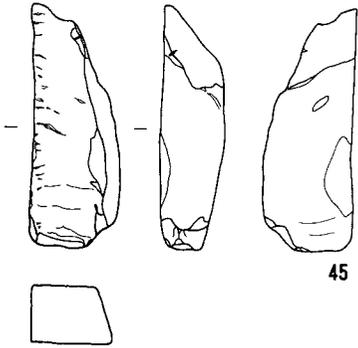
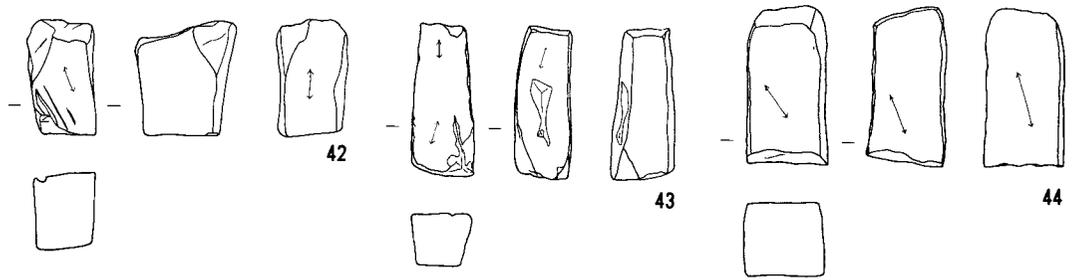
図版番号	器種	法量				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第248図 29	平瓦	(3.8)	(6.0)	1.5	(27.7)	D8c ₂	凹面に布当痕, 凸面に縄目の圧痕, 9c DP15
30	土製紡錘車	(2.8)	(4.7)	1.7	21.1	<II区> E3i ₇ 区	DP18
31	円板	5.3	6.0	0.8	34.6	<II区> D4g ₁ 区	土器転用, 縄文時代中期 DP17
第249図 32	平瓦	(8.2)	(9.1)	2.8	(207.4)	<II区> D3a ₃ 区	凹面に布当痕, 凸面に縄目の圧痕, 9c DP16

図版番号	器種	石質	法量				出土地点	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
33	石鏃	チャート	1.8	1.2	0.3	0.1	B8e ₅ 区表面採取	Q45
34	石鏃	安山岩	3.1	2.3	0.5	2.1	C8h ₀ 区	Q48
35	石鏃	頁岩	1.5	2.0	0.4	0.4	表面採取	Q52
36	石鏃	チャート	2.1	1.6	0.4	1.0	D4区表面採取	Q54
37	石鏃	瑪瑙	2.3	1.5	0.4	0.9	F3e ₅ 区	Q59
38	尖頭器	黒曜石	4.0	2.0	0.6	5.9	B9g ₁ 区	有舌 Q46
39	尖頭器	頁岩	5.4	1.8	1.7	5.1	D4区表面採取	有舌 Q55
40	スクレーパー	頁岩	6.2	2.3	1.2	11.2	E3区	Q58
41	スクレーパー	瑪瑙	5.3	2.8	2.2	22.5	D4区	Q56
第250図 42	砥石	緑色凝灰岩	4.7	4.1	2.8	54.9	C区	Q47
43	砥石	凝灰岩	6.2	2.5	2.3	49.4	D7f ₅ 区	Q49
44	砥石	凝灰岩	6.5	3.4	3.2	96.0	表採	Q1
45	砥石	頁岩	9.5	3.6	2.7	128.7	D5e ₅ 区	Q57
46	礎石	砂岩	26.8	24.9	9.2	10kg	C7g ₂ 区	Q53
47	石皿・凹石	砂岩	17.8	(10.8)	2.8	(780.2)	D8e ₉ 区	Q50
48	凹石	砂岩	(11.2)	5.3	4.7	(451.3)	表面採取	Q51
49	打製石斧	砂岩	8.9	5.7	1.9	118.0	G4a ₃ 区	分胴形 Q60

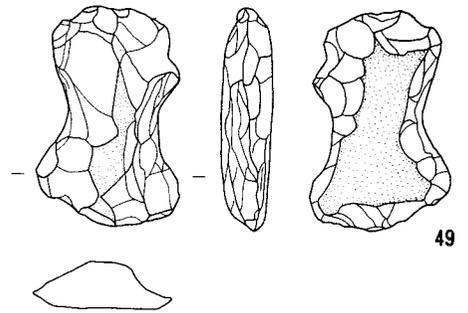
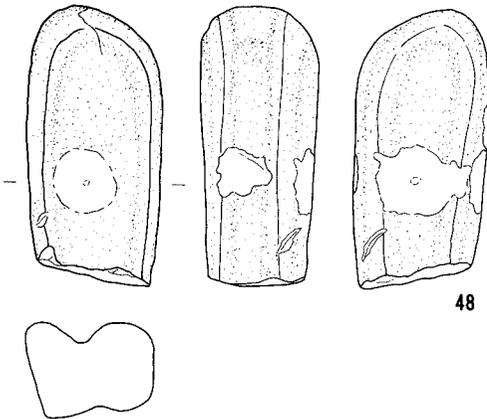
図版番号	器種	法量				特徴	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第251図 50	キセル吸い口	(4.1)	(1.5)		(3.6)		C7j ₉ 区	銅製 M70
51	キセル吸い口	(4.5)	(1.0)		(2.1)		C7j ₉ 区	銅製 M71
52	キセル吸い口	(5.3)	1.5		(4.4)		表面採取	銅製 M79
53	キセル吸い口	(7.5)	(0.9)		(8.5)		D5区	銅製 M82
54	キセル吸い口	(8.2)	1.1		(11.6)		F5c ₁ 区	銅製 M85
55	キセル吸い口	(7.5)	0.9		(8.5)		E5区	銅製 M83
56	キセル雁首	(4.3)	(0.9)		(2.9)		<II区>	銅製 M86



第249図 遺構外出土遺物実測図(3)

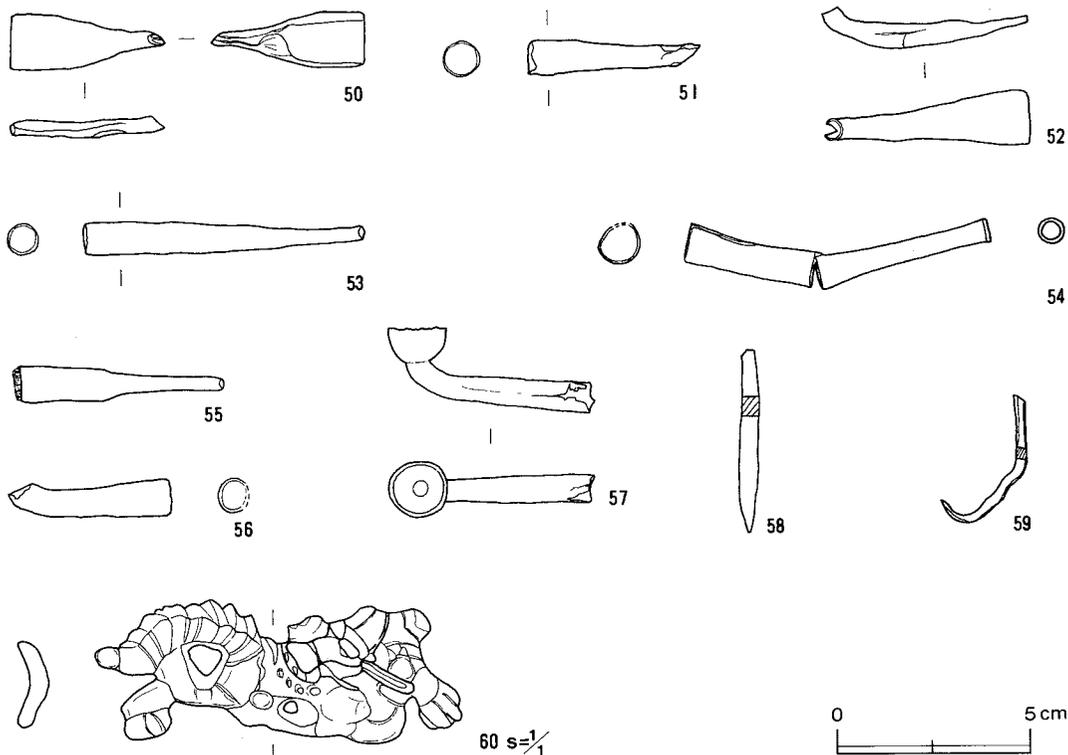


46·47 s=1/6



第250图 遺構外出土遺物実測图(4)

図版番号	器種	法 量				特 徴	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第251図57	キセル雁首	(5.4)	1.5		(6.1)		<II区> 表面採取	銅製 M87
58	角 釘	(5.0)	0.7	0.5	(3.3)	頭部を欠損	D7g8区	鉄製 M72
59	飾 金 具	3.6	0.3	0.3	2.0	頭部整形なし	F5d4区	銅製 M84
60	目 貫	4.9	1.9	0.3	11.3	「麒麟」	C7i8区	室町時代, 銅製 M69



第251図 遺構外出土遺物実測図(5)

表 7 白石遺跡住居跡一覽表

住居跡番号	主軸方向	位置(長軸)	平面形	規 模		床面	柱穴数	炉・竈	覆土	出土遺物	時 期	備 考
				長軸(m)×短軸(m)	壁高(cm)							
1	B8g0	N-63°-E	長 方 形	5.1×3.7	16~26	平坦	6	北 東 竈 北コーナー竈	自然	土師26片, 礫7点	8c 前	
2	E9c3	N-14°-W	円 形	5.0×5.0	20	平坦	5	炉	自然	縄文76片, 須恵2片, 陶磁3片, 礫5点	縄文中期	
3	D6g2	N-32°-W	隅丸方形	4.1×3.9	28~36	凹凸	-	北 西 竈	自然	土師105片, 礫26点, 須恵7片	8c 第1 四半期	
4	E7j6	N-90°-E	隅丸方形	3.6×3.0	20	平坦	12	東 竈	自然	土師29片, 陶磁1片, 礫2点	10c	
5	E7i4	N-73°-E	隅丸方形	3.1×3.1	8~23	平坦	4	東 竈	自然	土師40片, 礫1点	10c	
6	E7f1	N-10°-W	隅丸方形	3.1×2.9	20~35	平坦	9	北 竈	自然	土師81片, 須恵14片	9c 後半	本跡→ SK-830

住居跡 番 号	主軸方向	位置(長軸)	平面形	規 模		床面	柱穴数	炉・竈	覆土	出土遺物	時 期	備 考
				長軸(m)×短軸(m)	壁高(cm)							
7	E6i ₃	N-14°-W	隅丸方形	4.4×4.3	20~28	平坦	6	北 竈	自然	土師280片, 礫10点, 須惠10片	9c 後半	SK-828→ 本跡
8	E8j ₃	N-49°-E	楕 円 形	3.6×3.2	2~10	凹凸	3	石 囲 炉	人為	縄文20片, 礫13点, 土師1片	縄文中期	
9	E9e ₄	N-25°-W	隅丸長方形	3.0×2.5	50	皿状	6	北 西 竈	自然	土師73片, 須惠5片	9c 後末	
10	D3g ₂	N-55°-E	長 方 形	3.6×3.0	6~12	-	-	北 東 竈	-	土師3片, 須惠1片	平安時代	
17	E9d ₃	N-36°-E	不整楕円形	4.2×3.7	4~8	平坦	27	石 囲 炉	自然	縄文21片, 礫9点	縄文中期	
18	D7h ₄	N-0°	方 形	[4.6×4.2]	4~6	平坦	-	北西コーナ 竈, 北竈	人為	土師3片, 須惠1片, 内耳竈7片	15c 中葉	
1<II>	D3j ₄	N-0°	方 形	8.6×8.4	15~50	平坦	4	北 竈	自然	土師734片, 須惠36片, 礫44点	7c 前半	
2<II>	D3f ₆	N-5°-E	隅丸長方形	5.9×5.3	25	-	4	北 竈	自然	土師349片, 陶磁3片, 須惠13片, スラグ1点	7c 前半	
3<II>	E3b ₃	N-0°	隅丸方形	[4.2]×3.5	14~22	-	-	北 竈	自然	土師65片, 須惠7片, 礫2点	9c 初頭	SI-4<II> 新旧不明
4<II>	E3b ₄	N-90°-E	隅丸長方形	[4.9]×3.7	10	-	-	東 竈	自然	土師65片, 須惠5片, 礫2点	不明	SI-3<II> 新旧不明
5<II>	E4a ₇	N-87°-E	隅丸方形	5.2×5.0	40	平坦	5	東 竈	自然	土師26片, 須惠5片	8c 中頃	
6<II>	D5f ₂	N-19°-W	隅丸方形	4.0×3.9	20	平坦	-	北 竈	自然	土師71片, 須惠7片	8c 初頭	
7<II>	E4a ₉	N-52°-E	隅丸長方形	4.0×3.4	30~45	凹凸	-	北 東 竈	人為	土師21片, 須惠11片, 礫3点	8c 中頃	
8<II>	E4f ₉	N-8°-E	隅丸方形	4.0×3.7	25	平坦	-	北 竈	自然	土師48片	7c 前半	
9<II>	F5c ₆	N-35°-W	隅丸長方形	4.9×4.5	30	-	4	北 西 竈	-	土師46片, 縄文1片, 須惠6片, 陶磁1片	8c 中葉	
10<II>	F5e ₄	N-72°-E	隅丸長方形	3.6×3.1	10	-	-	東竈・西竈	-	土師52片	9c 後半 以降	
11<II>	E3e ₃	N-75°-E	隅丸長方形	4.8×2.9	20	-	-	東 竈	-	土師62片, 須惠5片, 縄文1片, 礫5点	8c 初頭	

第5章 考 察

本章では、白石遺跡から検出された竪穴式住居跡22軒から出土した遺物をもとに、縄文時代から平安時代までの土器編年を立てることにする。縄文時代は2期（1・2期）に、古墳時代は1期（3期）に、奈良・平安時代は5期（4～8期）に分類する。

また、中世館跡については、第4章5節でⅠからⅣ期に分類した館跡の変遷に中世土器の編年を当てはめ、おおよその存続年代を推定すると共に、中世文献面から館主の推定も試みる。

第1節 縄文時代から平安時代の土器

1 縄文時代

(1) 第1期

本期に編年される住居跡は、調査区の南部から1軒（第2号住居跡）検出され、縄文時代中期の加曾利EⅢ式土器を伴う。本期の土器は、口縁部上位に横位の沈線や隆起線で無文帯と縄文帯を区画されている点に特徴をもっている。（第252図）

(2) 第2期

本期に編年される住居跡は、調査区の南東部から2軒（第8・17号住居跡）検出され、縄文時代中期の加曾利EⅣ式土器を伴う。本期の土器は、口縁部文様が隆起線による「U」字文や沈線による渦巻き文、懸垂文が施されている点と、頸部のくびれが著しい点に特徴がある。（第252図）

2 古墳時代

古墳時代から平安時代の土師器、須恵器の細分基準は下記の通りである。

[土師器]

〈坏〉

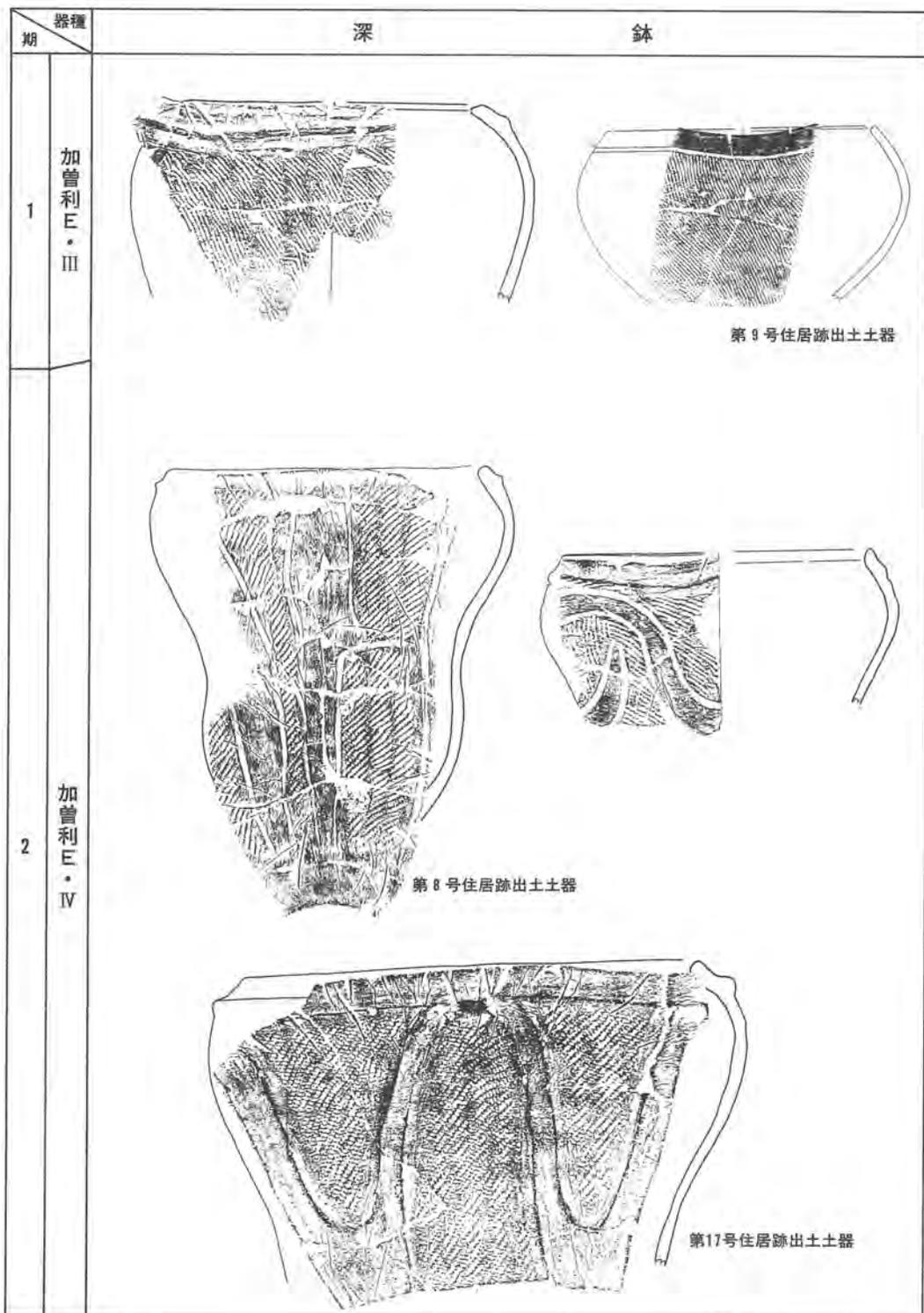
A 類—陶邑の須恵器坏蓋を模倣したもので、底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境に明瞭な稜を有する。

1：口縁部が外反 2：口縁部が短く直立し、1に比べ小形

B 類—A 類に類似しているが、丸底から内彎ぎみに立ち上がり、体部と口縁部の境にわずかな稜を有するもの。

1：口縁部が内傾 2：口縁部が直立し、器高が低い

C 類—常陸太田市幡山窯跡の須恵器坏蓋を模倣したもの。



第252図 土器編年図-1

D 類—平底で、体部は内彎ぎみに外傾し、口唇部がわずかに外反するもの。

1: 器高が高い 2: 器高が低い

E 類—高台が付き、体部が内彎しながら外傾するもの。

1: 器高が高く、口縁部が直立 2: 器高が低く、口縁部が外反

<埴>

A 類—丸底で、口縁部がやや外反するもの。

B 類—体部と口縁部の境に稜を持ち、口縁部が直線的に外傾し、口唇部内面に沈線が巡る関西系のもの。

C 類—丸底で、体部と口縁部の境にわずかな稜を持ち、口縁部が直立するもので、体部外面に粗いヘラ削り、内面にヘラ磨きが施されている。

<甕>

A 類—平底で、長胴を呈するもの。

B 類—古墳時代中期の伝統をひくもので、胴部は球形を呈し、頸部は「く」の字状を呈する。

C 類—小形のもの。

1: 平底で、胴部中位から上位にかけて直線的に立ち上がり、口縁部上位がわずかに外反

2: 丸底ぎみで、胴部最大径が下位にあり、口縁部が外反

D 類—長胴で、頸部は強い「く」の字状を呈し、口唇部に凹線が巡る「常陸型」のもの。

E 類—口縁部は強く外反し、口唇部をつまみ上げたもの。

F 類—頸部が「く」の字状を呈し、口唇部の断面が三角形状を呈するもの。

G 類—長胴で、口縁部断面が「S」字状を呈するもの。

[須恵器]

<坏>

A 類—平底で、器高が低く、口縁部上位がわずかに外反し、口唇部内面に1条の沈線が巡る関西系のもの。

B 類—丸底ぎみで、体部、口縁部は直線的に外傾して立ち上がるもの。

1: 大形 2: 小形

C 類—高台が付き、器高が高く、大形のもの。

D 類—平底で、底部と体部の境は明瞭で、口縁部上位は強く外反するもの。

<蓋>

A 類—天井部は丸く、天井部と口縁部の境に沈線が巡るもの。

B 類—つまみが付き、天井部が回転ヘラ削り調整がなされているもの。

1: ボタン状のつまみが付き、天井部は丸みを持ち、口縁部内面にかえり

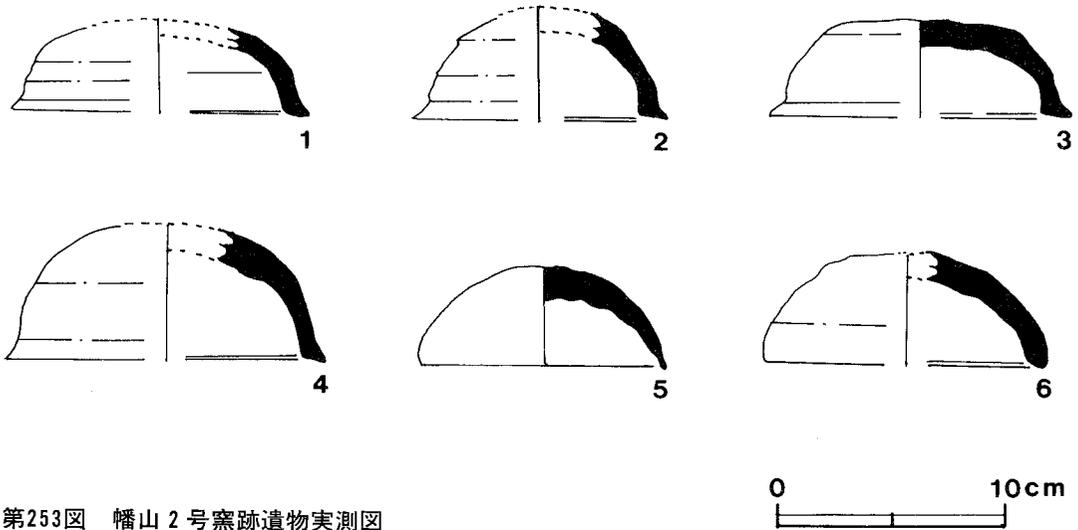
₂：内面が窪んだ偏平なつまみが付き、天井部は直線的で、口唇部は下方につまみ出し

(1) 第3期

本期に編年される住居跡は、調査区の西部から3軒（第1・2・8号住居跡〈II区〉）検出されており、出土遺物から7世紀前葉の集落と思われる。

・土師器

坏：須恵器坏蓋を模したA類が主体を占め、口縁部が外反するA₁類や口縁部が短く直立するA₂類が見られる。A類は外面にヘラ削り、内面はヘラ磨きが施されている。また、丸底で口縁部内面にわずかな稜を持つB₁類や器高が低く皿に近い形態を示すB₂類、常陸太田市幡山第2号窯跡出土の須恵器の坏蓋（第253図）を模したと思われるC類が見られる。（第254図）

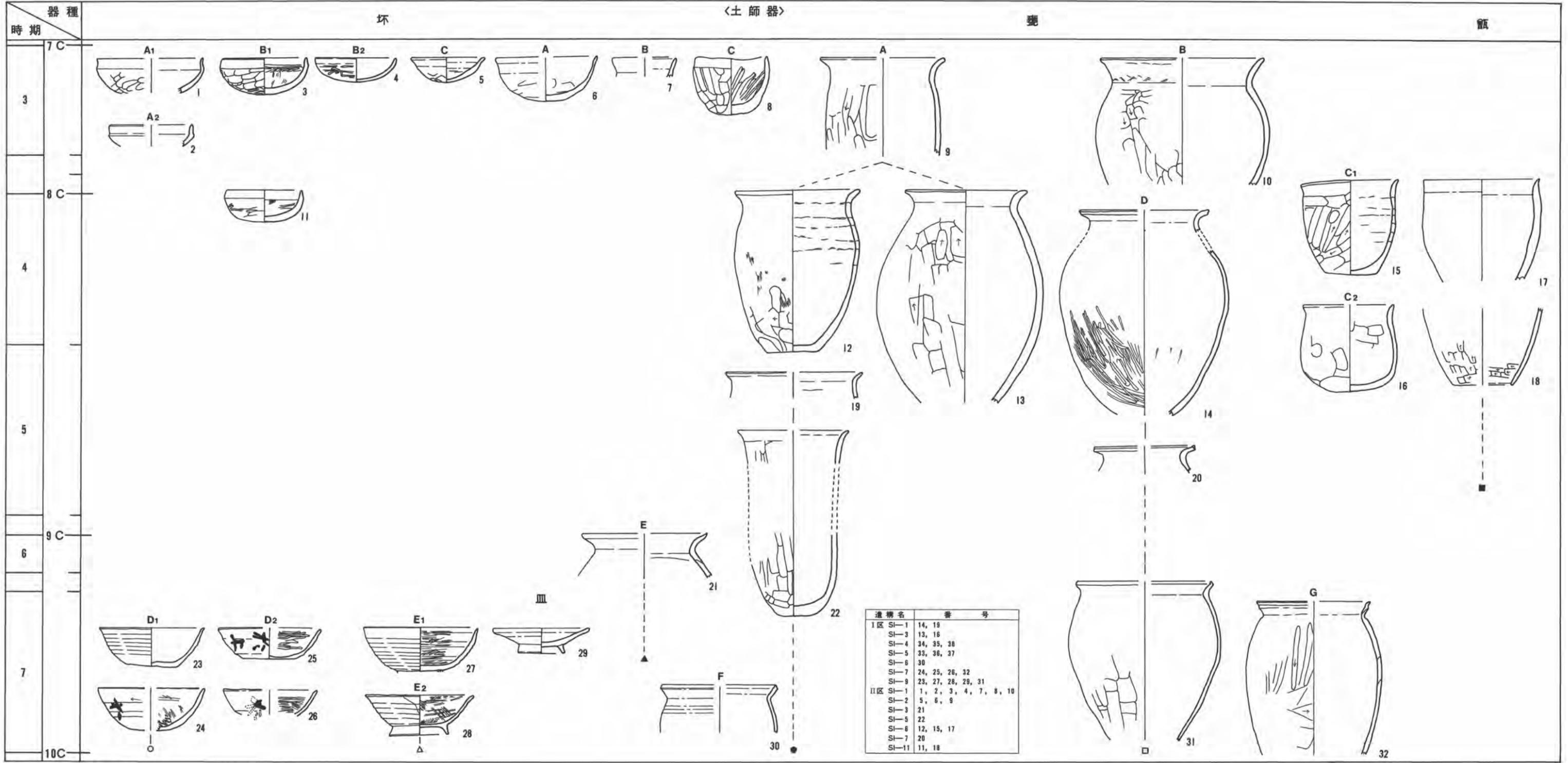


第253図 幡山2号窯跡遺物実測図

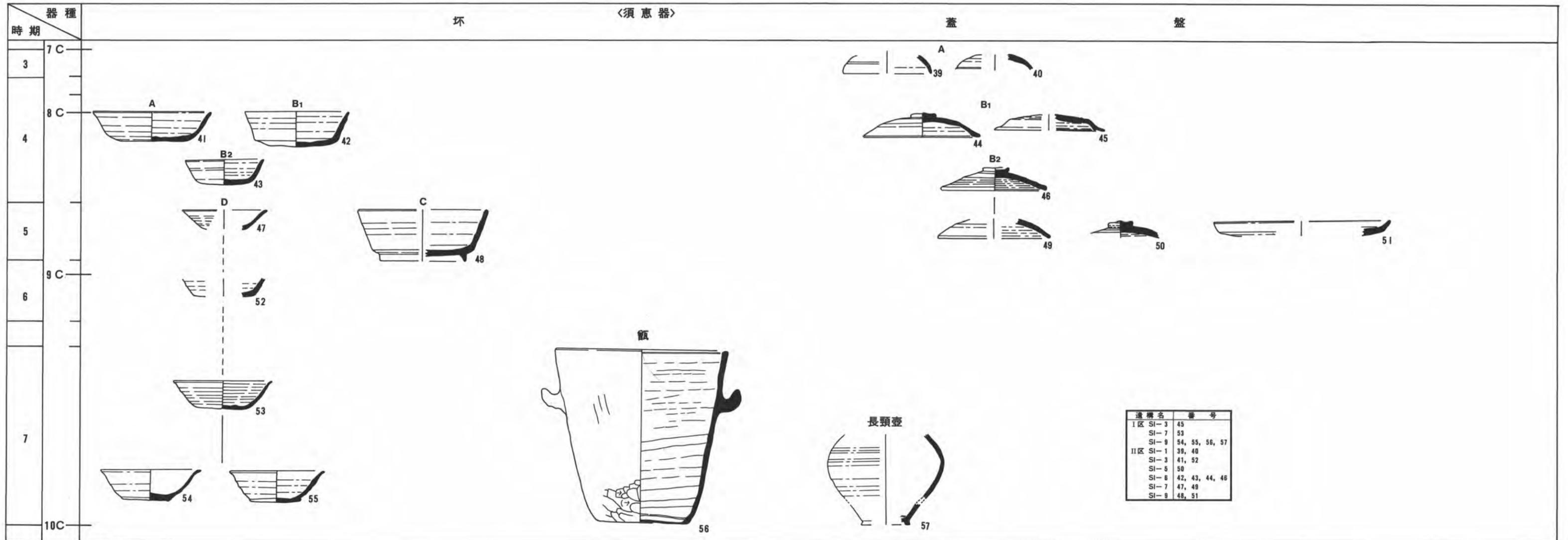
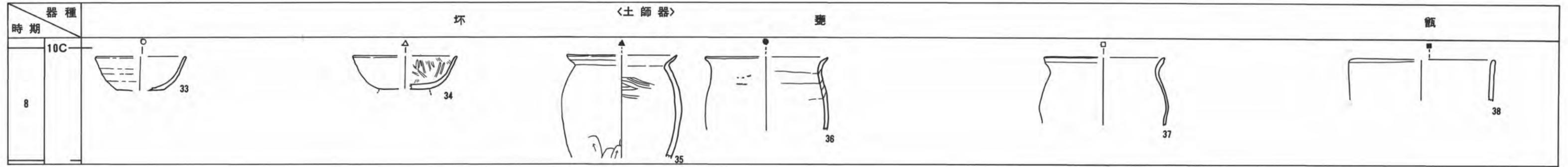
碗：丸底で口縁部がやや外反するA類や体部と口縁部の境に稜を持ち、口唇部内面に沈線が巡る関西系のもと思われるB類、丸底で口縁部が直立するC類が見られる。（第254図）
甕：わずかな頸部のくびれを持ち、口縁部が外反する長胴のA類と、「く」の字状を呈し、胴部が球形のB類が見られるが、これは本期で消滅する。外面は、縦方向のヘラ削りが施されている。（第254図）

・須恵器

蓋：天井部は丸みを持ち、天井部と口縁部の境に浅い沈線が巡るA類が見られる。（第255図）



第254図 土器編年-2



第255図 土器編年-3

3 奈良時代

(1) 第4期

本期の住居跡は、調査区の中央部や西部からまばらに4軒（第1・3号住居跡、第6・11号住居跡〈II区〉）検出されており、出土遺物から8世紀前葉の集落と思われる。

・土師器

坏：B₁類が形態変化し、口縁部が器肉を減じながら直立する。

甕：A類は最大径を中位に持つものが見られる。小形甕は平底を呈するC₁類と丸底ぎみのC₂類が見られる。D類は、胴部下位に縦方向のヘラ磨きが施され、口縁部は強く外反し、口唇部にわずかな凹線が巡るもので、本期に初現が認められる。

甔：底部は無底式で、口唇部でわずかに外反する。（第255図）

・須恵器

坏：口唇部内面に沈線が巡る関西系のA類や底部は丸みを呈し、体部下位に回転ヘラ削り調整がなされており、口径の大きさによってB₁類とB₂類が見られる。

蓋：天井部は回転ヘラ削りがなされ平坦面を呈し、口唇部でかえりが付くB₁類と天井部から口縁部に向かって直線的に傾斜し、口唇部にかえりがないB₂類が見られる。（第255図）

(2) 第5期

本期の住居跡は調査区の南部から3軒（第5・7・9号住居跡〈II区〉）検出されており、出土遺物から8世紀中葉の集落と思われる。

・土師器

甕：A類はさらに長胴化を呈し、砲弾状になる。また、D類は口唇部が上位につまみ上げられるようになる。（第255図）

・須恵器

坏：平底で、口径に比べ器高が低く、口縁部上位がわずかに外反するD類や高台が低く直線的に伸び、口縁径の大きいC類も見られる。

蓋：B₂類は、天井部が丸みを持つようになる。

盤：体部はわずかに膨らみを持って立ち上がり、口縁部で外上方に立ち上がるものが見られる。（第255図）

4 平安時代

(1) 第6期

本期の住居跡は調査区の中央部から1軒(第3号住居跡<II区>)検出されており、出土遺物から9世紀前葉の住居跡と思われる。

・土師器

甕：頸部が「く」の字状で、口唇部をつまみ上げたE類が見られる。(第255図)

・須恵器

坏：第5期のD類に比べ器高が高くなるものと思われる。(第255図)

(2) 第7期

本期の住居跡は調査区の北東部や南部から3軒(第6・7・9号住居跡)検出されており、出土遺物から9世紀後葉から9世紀末の集落と思われる。

・土師器

坏：口唇部がわずかに外反するD類は、器高の高いD₁類と器高の低いD₂類に分類することができる。高台の付くE類も同様である。

皿：胴部が直線的に伸びるものが見られる。本器種は本期に出現するものと思われる。

甕：A類は本期になると口縁部の外反が強くなる。また、D類は胴部中位に縦方向のヘラ削りを施し、口唇部をやや内側につまみ上げたものが見られ、この器種が本期の主体を占めるものと思われる。口唇部断面が三角形状を呈するF類や口縁部断面が「S」字状を呈するG類も見られる。(第254図)

・須恵器

坏：底部と体部の境が不明瞭になり、底部はヘラ切り後無調整のものが多くなる。9世紀末になると突出ぎみの底部が見られる。

甗：把手が付き、体部は直線的に立ち上がる。

長頸壺：台部は低く直線的に開き、胴部中位に最大径を持つ。(第255図)

(3) 第8期

本期の住居跡は調査区の南部から3軒(第4・5号住居跡、第10号住居跡<II区>)検出されており、出土遺物から10世紀のものと思われる。

・土師器

坏：D類は底部と体部の境が明瞭になり、口径が小さくなる。E類は、口縁部上位の外反が前期に比べ弱くなる。

甕：D類は前期に比べ、口縁部の外反が弱くなり、口唇部の凹線も幅広くなり、本期においても主体を占める。E類は口唇部をつまみ上げ幅が広がる。A類は、ほとんど変化を示さ

ない。

甕：体部は直線的に立ち上がり、口縁部との区別がつかなくなる。(第255図)

以上、白石遺跡から検出された竪穴住居跡は22軒と少なく、土器のセットも欠けるものが多く、明確な土器編年を組み立てることはできなかった。しかし、古墳時代後期においては、甕が甕の出現と共に長胴化の傾向を示すものと思われる。5世紀後半に出現した模倣杯は、器高や口縁部等の形態変化を示しながら奈良時代へと続く。奈良時代においては、口唇部を直立ぎみにつまみ出し、胴部下位をへら磨きし、底部に木葉痕を残す、所謂常総型甕⁽²⁾が、東北地域では8世紀前半から見られ、口唇部の形態や外面整形、胴部の膨らみに変化を示しながら長い間存在する。須恵器の杯蓋は、この時代から天井部に偏平なつまみが付く。平安時代においては、高台付皿は9世紀後半に出現するものと思われる。それに対し、須恵器は10世紀以降完全に姿を消すものと思われる。

本跡は、縄文時代中期に集落が形成された後途絶え、7世紀前半になって、また集落が形成され10世紀代まで存続していたものと思われる。

注 (1) 海老沢稔 「常陸太田市幡山窯の検討」『常総台地 13』 1985

(2) 黒沢彰哉 「常陸における奈良・平安時代の土器について」『房総における奈良・平安時代の土器』 1983

第2節 館跡の変遷と中世土器

ここでは、中国陶磁器や瀬戸、常滑産の陶磁器を時間軸とし、編年を立てると共に、4期に分類した館跡におおよその実年代を当てはめ、館跡の変遷を考えてみたい。

土師質土器の細分基準は下記の通りである。以後、この基準を基に編年を立てて行く。

〈内耳鍋〉

A類－丸底で、体部が直線的に外傾するもの。

B類－丸底ぎみで、体部が内彎ぎみに外傾するもの。

C類－平底で、体部が内彎ぎみに外傾するもの。

D類－体部は内彎ぎみに外傾し、口唇部を横方向につまみ出したもの。

E類－体部は内彎しながら外傾し、口縁部の長さが長く、耳部が大きいもの。

F類－体部が浅く楕円形を呈し、頸部が「く」の字状に外反するもの。

〈皿〉

A類－突出ぎみの平底で、小形のもの。

B類—突出ぎみの平底で、大形のもの。

C類—平底で、体部は直線的に外傾する器内の厚い中形のもの。

D類—突出ぎみの平底で、中形のもの。

1：体部，口縁部が直線的に外傾して立ち上がる

2：体部，口縁部が内彎ぎみに外傾して立ち上がる

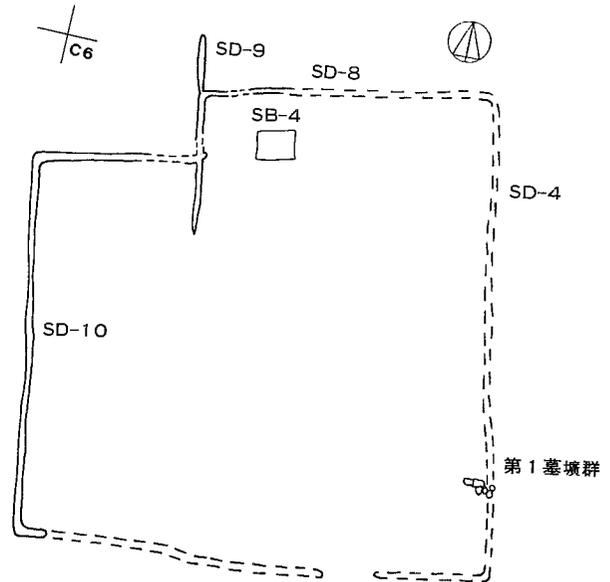
E類—器高が他類に比べ低く，体部に稜を持つもの。

1：弱い稜で，中形 2：強い稜で，小形

1 I期

本期の館は，東西[77]m，南北[80]m，深さ20cm程の浅い溝で区画し，内部に居宅を構えたもので，防禦面はほとんど意識されておらず，溝は屋敷の範囲を示す程度のものである（第256図）。これは，橋口定志氏の言う水田経営等を目的とした農地開発型の館⁽¹⁾と思われ，福島県須賀川市の蛭館跡⁽²⁾の初期の形態にその類例を求めることができる。

本期の遺構と思われる第159号土壇の覆土から出土した，見込みに菊花のスタンプ文が施されている第259図59



第256図 白石館跡I期

の青磁の坏は龍泉窯坏Ⅲ類に，グリッドから出土した体部外面に大ぶりの蓮弁文を持つ58の青磁の碗は，龍泉窯碗Ⅰ－5類に分類できる。いずれも，13世紀後半から14世紀前半のものと思われる。

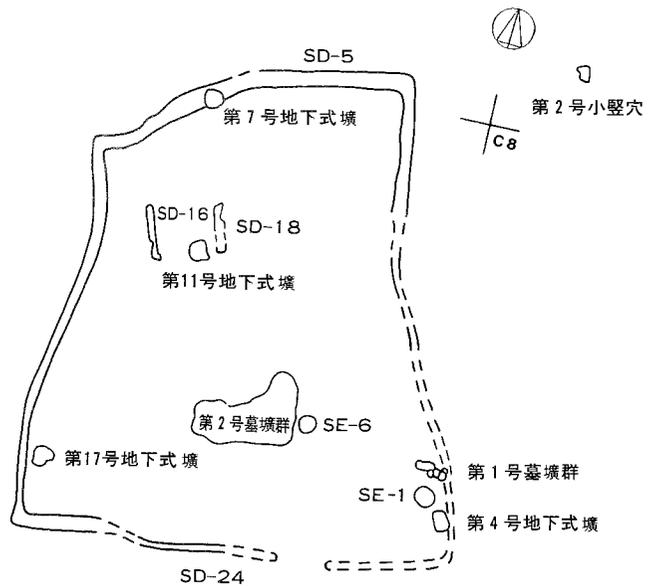
本期の存続時期は，出土遺物や重複関係等から13世紀から14世紀前葉の時期を当てはめることができよう。

2 II期

本期の館は，前期の溝や軸線を一部踏襲し，東西65m，南北[80]mの長さの堀を巡らしている。北側と南側の堀の長さは10mの差があり，南に向かって末広がり呈している（第257図）。堀の深さも前期に比べかなり深く掘られており，防禦の意識がわずかに感じられる。常時は居館

であり、戦時には城郭的役割を果すものと思われる。若干の違いはあるが、「末広がり」という点では埼玉県河越館⁽⁴⁾や栃木県鏝阿寺⁽⁵⁾と同類と思われる。

本期の第596号土壇の覆土から出土した内面見込みに、双魚文の貼り付けがなされている第259図60の青磁の坏は龍泉窯坏Ⅲ-4・b類に分類できる。また、表面採取された龍泉窯碗や第1号井戸の覆土から出土した第



第257図 白石館跡Ⅱ期

259図64の瀬戸産窯窯Ⅳ期と思われる天目茶碗、第4号地下式塙から出土した内耳鍋A・B類や皿A・B類が主な遺物である。これらは、14世紀中ごろから15世紀前半のものと思われ、本期の存続時期を14世紀後葉から15世紀前葉の時期とすることができる。

内耳鍋：耳部の中心線が体部の傾斜と一致し、直線的に立ち上がるA類や体部が内彎ぎみに外傾するB類が見られる。出土量は、少ない。

皿：底部が突出ぎみで、器肉が薄く、体部が直線的に立ち上がり、底径が口径の2分の1以下で小形のA類や大形のB類が見られる。

3 III期

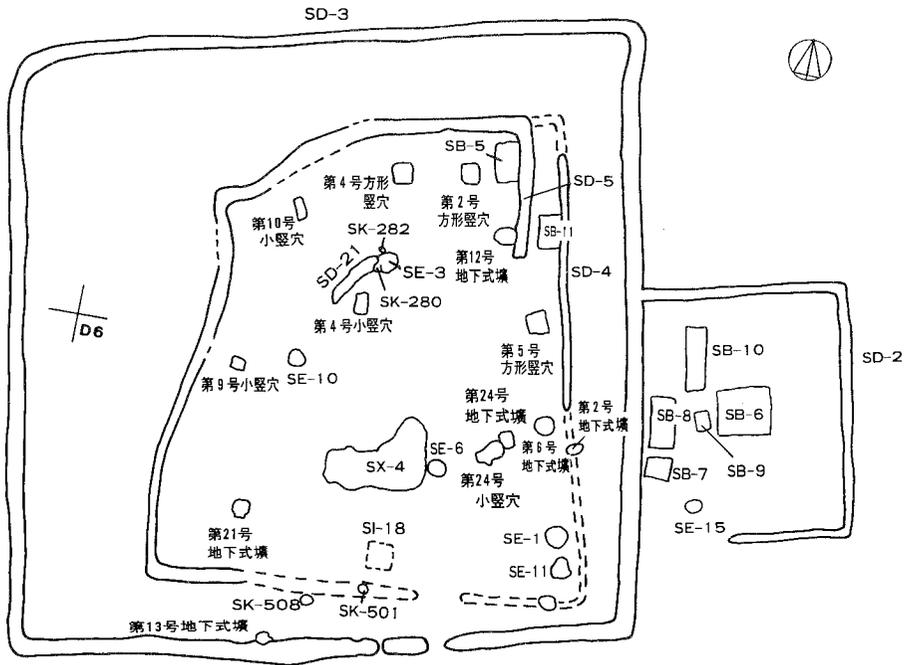
本期の館は、前期の堀の外側に一辺103m程の方形の堀を巡らし、東側に副郭を設けている。

副郭内には、5棟の掘立柱建物跡が配置されており、第8・10号の2棟の掘立柱建物跡は形状から見て、厩になるものと思われる。第3号堀の内側には、堀の覆土含有物から推測すると土塁が四方に巡っていたものと思われる。出入口部は、第3号堀の南側の中央から東寄りにあり、そこを入ると内郭の出入口部に突き当たる。また、郭内中心部は土塁や柵によって、守られていたものと思われる。このように前期に比べ、より防禦面を意識した複郭式館跡になり、常時城郭的役割を果していたものと思われる（第258図）。類例は、不明である。

本期の遺物としては、第3号井戸の覆土から出土した第259図67の瀬戸産の盤や、第24号小竪穴状遺構の床面から出土した第259図72の瀬戸産の瓶子、第6号地下式墳の覆土から出土した74の常滑産の鉢、第282号土坑の覆土から出土した内耳鍋、第6号井戸の覆土から出土した皿等が見られ、15世紀中ごろのものと思われる。本期の存続時期は15世紀中葉から15世紀後葉の時期を当てはめることができる。

内耳鍋：A類は、尖がりぎみの丸底を呈し、耳部上端がわずかに外反する。B類は、ほとんど形態変化しない。新たに、平底を呈するC類や耳部上端に肉厚のつまみ出しが見られるD類が出現する。

皿：底部が不明瞭で、体部、口縁部が直線的に外傾して立ち上がり、器肉が厚いC類が見られる。



第258図 白石館跡Ⅲ期

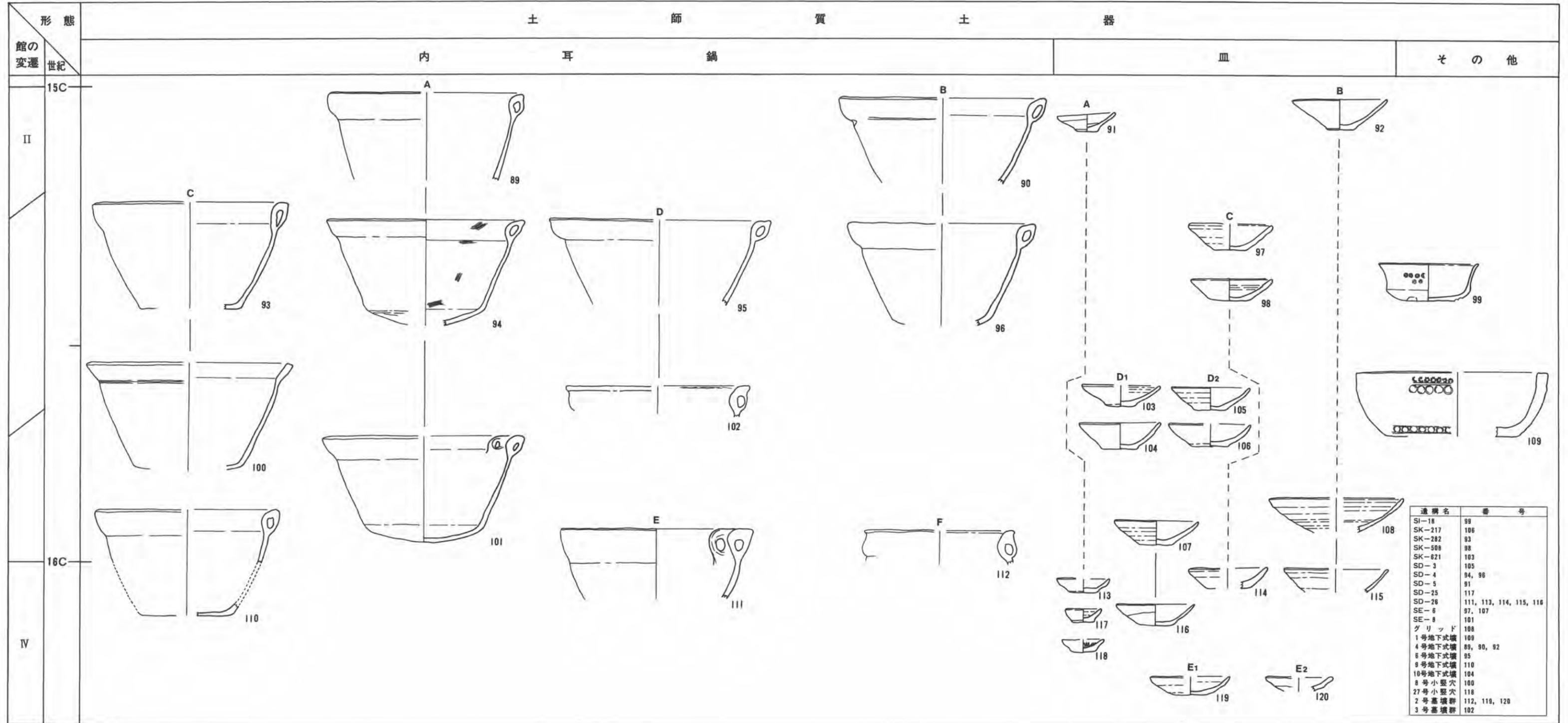
4 IV期

本期の館は、Ⅲ期の方形館の外側にさらに一辺165mの方形の堀を巡らして巨大化し、三重の堀と二重の土塁によって、さらに防禦面の強化が図られている。南側の出入口部には、第1号堀・門・土塁が一体化し、クランク状に出入りする虎口が設けられたり、西側の出入口部の第3号堀には木橋が架けられ、郭内への侵入を防いだり、逆茂木を打ち込み敵が堀内を通過して、主郭へ侵入することを防ぐなどの施設が設けられている。また、内郭の出入口部は平行する第25・26号

館の変遷 世紀	産地	中国製品		国内製品						
		青磁	白磁	瀬戸	常滑	山初	不明			
I	14C									
II	15C									
III	16C									
IV										

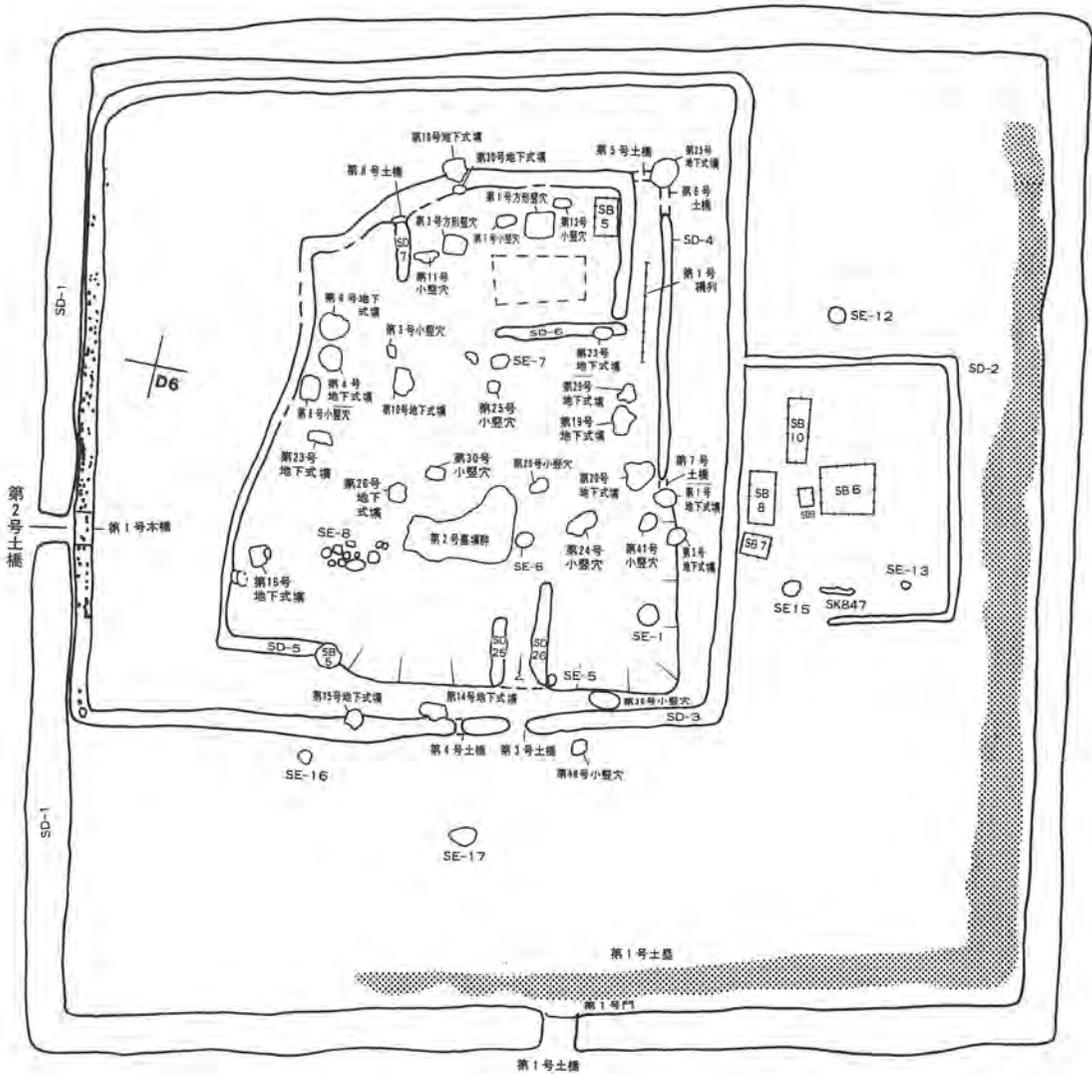
遺構名	番 号
SK-128	88
SK-158	59
SK-258	84
SK-502	78
SK-596	72
24号小型穴	60
SD-1	66
SD-2	71
SD-3	78
SE-1	64
SE-3	67
SE-6	62, 77, 81, 86
グリッド	58, 76
表面探査	61, 75, 80
TM-1	73
TM-2	68
2号墓塚群	63, 65, 69, 82, 85, 87
5号地下式墳	70
6号地下式墳	74
28号地下式墳	83

第259図 土器編年-4



遺構名	番 号
SI-18	99
SK-217	106
SK-282	93
SK-508	98
SK-621	103
SD-3	105
SD-4	94, 96
SD-5	91
SD-25	117
SD-26	111, 113, 114, 115, 116
SE-6	97, 107
SE-8	101
グリッド	108
1号地下式墳	109
4号地下式墳	89, 90, 92
6号地下式墳	95
8号地下式墳	110
10号地下式墳	104
8号小竪穴	100
27号小竪穴	118
2号墓塚群	112, 119, 120
3号墓塚群	102

第260図 土器編年-5



第261図 白石館跡Ⅳ期

堀を掘り、道にスロープを持たせ「坂小口」としている。坂を降りきった正面には、土塁や柵等の障害物が築かれていたものと思われ、第25号堀の長さが第26号堀に比べ5.5m程短くなっており、その部分を左折するようになっていたものと思われる（虎口部）。郭内中央部は鹿沼パミス層上面まで掘り下げられており、郭内を見えないようにしたり、雨水をここに集める工夫がなされている。主郭は第6・7号堀と第5号堀（特に主郭部の部分は、深く掘られている。）によって守られており、その内に居宅があったものと思われる。また、主郭を囲む第6・7号堀は第5号堀との連結部に幅1m程の埋め戻しが見られ、本書では土橋としたが、あるいは堀内を通して主郭内に侵入するのを防ぐためのものであった可能性もある。この様に幾つもの施設が複雑に

設置されており、まさに戦国期の堅固な館となっている（第261図）。この時期の館跡は、柴田龍司氏の言う居館と一体化し、恒常的に機能する城郭（＝館城⁽⁶⁾）であると思われる。

本期は、グリッドから出土している第259図76の龍泉窯の白磁皿や、第6号井戸の覆土から出土した81の瀬戸産大窯Ⅰ・Ⅱ期の皿、第20号地下式墳の覆土から出土した83の常滑産の甕、第7号井戸の覆土から出土した内耳鍋、第621号土坑の底面から出土した皿等多くの遺構から多量の遺物が出土しており、15世紀後半から16世紀前半のものと思われる。また、16世紀中ごろの遺物も少量見られる。

本期の存続時期は15世紀後葉から16世紀中葉の時期を当てはめることができる。

内耳鍋：A類は、平底ぎみの丸底となり、耳部は外反する。C類は、前期で耳部が断面長楕円形を呈していたものが、やや丸みを帯びる。D類は、耳部上端のつまみ出しが肉厚となる。体部の内彎が強く、耳部が大きいE類や体部が浅い楕円形を呈し、頸部が「く」の字状に外反する遠江産と思われるF類が見られる。出土量、器種共に豊富である。

皿：A類は、器肉が厚くなる。B類は、さらに大形化しA類同様内彎ぎみのものが見られる。

C類は、さらに肉厚になり重量感を増す。その他、中形のD類や体部に稜を持つE類も見られ、器種も多彩になる。

以上、簡単に述べてきたが全体的に見てみると、館跡のⅠ・Ⅱ期は農地開発経営を目的とした初期館跡で、防禦面はさほど重視されていない。出土遺物は次期の館を構築する際に整理されたのか、中国産や常滑産の磁器が少量出土しているだけである。Ⅲ・Ⅳ期は、戦闘を目的とした館城で、防禦面の施設が各所に見受けられる。出土遺物は15世紀後半から16世紀前半の生活にかかわる土器が多く、館の最終期を示す資料と思われる。このようにして、本館跡は時代の状況と共にその性格を変え、巨大化していったものと思われる。

また、館の立地する田谷は那珂川の氾濫原の肥沃な土壌を有し、常陸国有数の穀倉地帯であり、群雄が自領にするための闘いが頻繁にあった地域である。そういう意味でも本館跡は、斎藤慎一氏の言う「戦闘に対応する軍事拠点や最前線の兵員屯地、分国境の通交監視施設として使用された境目の城⁽⁷⁾」であり、特に最前線の兵員屯地の色合いが濃いと思われ、内耳鍋の出土が多いのも、このことから理解できよう。

本跡出土の土器は陶磁器に比べ土師質土器が9割と断然多い。特に、内耳鍋の出土量が多く、本館跡の性格を考える上で重要な意味を持つものと思われる。また、瀬戸産の陶磁器が全体の3割を占めているのに対し、龍泉窯産のものは1割である（第262図）。しかし、他の地域では逆の数値を示しており、本跡での傾向は茨城の特徴であろうか。器種の構成は、第262図を見てもわかる様に小野正敏氏の言う「一つの産地からは、ある焼物群がやって来て、必要な器種だけが選

第262図 陶磁器の構成図

在 地 93	
常滑	3
瀬戸	3
	1

(総数 3,180点) 龍泉窯

器種構成図

〈瀬戸産〉	
皿	17
瓶子	22
小鉢	3
盤	32
平碗	11
天目茶碗	14

おろし

(総数 92点)

〈常滑産〉	
甕	96
鉢	3

壺 1

(総数 106点)

〈土師質土器〉	
内耳	87
皿	13

(総数 2,940点)

扱われて流通する。⁽⁸⁾という考えを端的に表しており、瀬戸産と龍泉窯産は飲食器、常滑産は貯蔵具というように産地と器種の区別が明確になされている。また、土師質土器は、明瞭な形態変化をつかむことができなかつたし、共伴関係から無理に縦に並べた部分もあり、今後検討する余地が十分にある。

第6号井戸や第3号堀内からは、馬の骨や歯が出土しており、雨乞いの祭祀⁽⁹⁾が行われた可能性が考えられる。

注

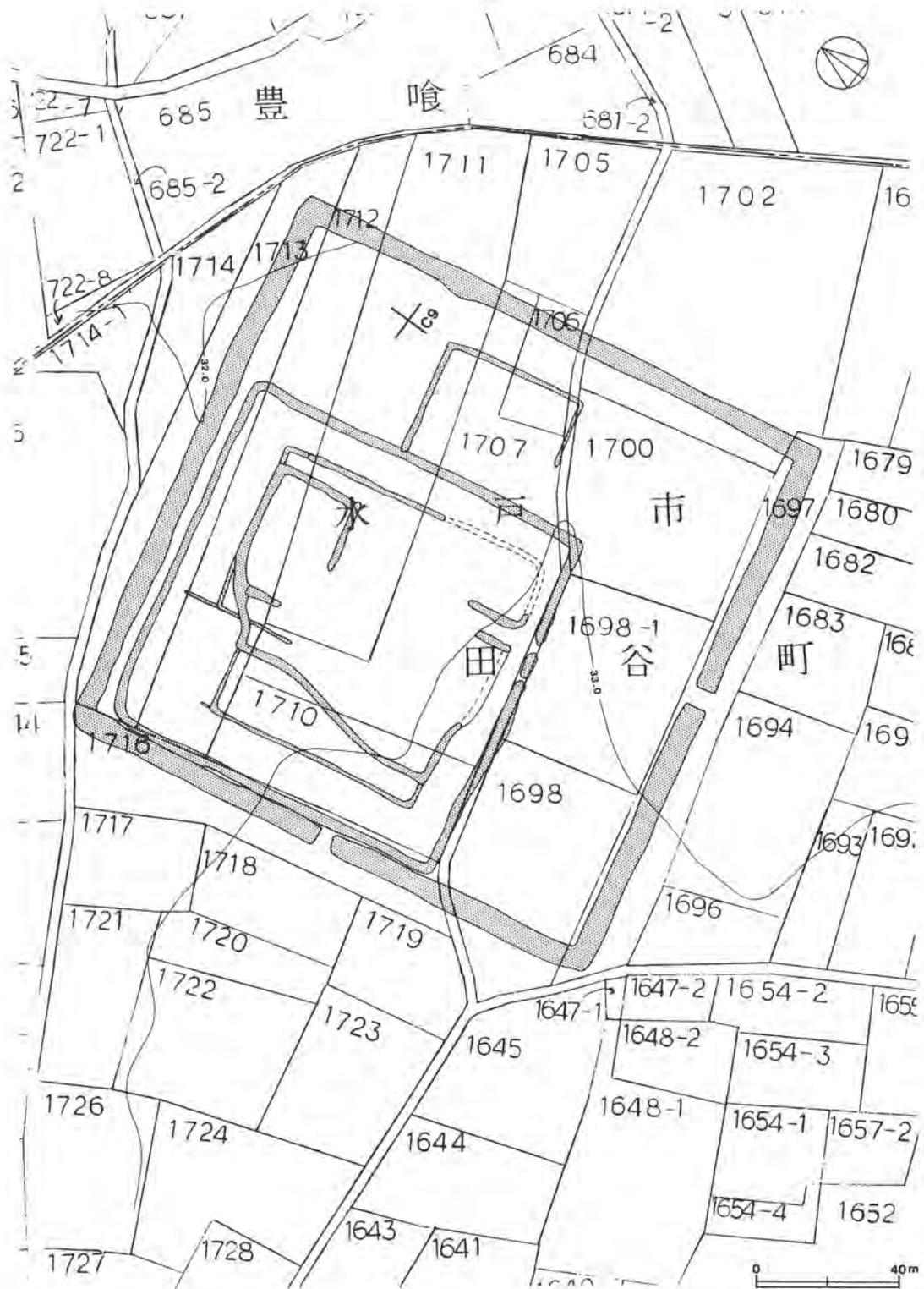
- (1) 橋口定志 「中世居館の再検討」 『東京考古 5』 1987
- (2) 須賀川市教育委員会 『蛭館址』 1987
- (3) 横田、森田 「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」 『九州歴史資料館研究論集 4』 1978
- (4) 川越市教育委員会 『河越氏館跡領域確認発掘調査報告書』
- (5) 小室栄一 『中世城郭の研究』 1965
- (6) 柴田龍司 「中世城館の画期」 『中世の城と考古学』 1991
- (7) 斎藤慎一 「上野国中山城の考察」 『中世城郭研究 1』 1987
- (8) 小野正敏 「中世陶磁器研究の視点と方法」 『考古学と中世史研究』 1991
- (9) 大間知篤三 他 『民俗の事典』 (岩崎美術社1985) の雨乞いの項の中に「水の中に石を投げ込んだり、汚物、死馬の骨等を入れて、雨を呼ぼうとする形式のものがある。」という記述がある。

第3節 文献から見た館跡

前節では、館跡の存続年代を出土遺物や重複関係等から言及してきた。そこで、本節では『新編常陸国誌⁽¹⁾』や『水府志料⁽²⁾』等の文献資料をもとに遺跡の位置する那珂川左岸部（以後、田谷で記載する。）の時期別勢力（Ⅰ～Ⅳ期）を明らかにし、本館跡の館主の推定を試みる。

1 Ⅰ期（13～14世紀前葉）

平安時代末期の田谷は、平姓馬場氏の領地である吉田郡か源姓国井氏の領地の国井保⁽³⁾のいずれかであったものと思われる。本期の田谷は、惣社文書弘安二年（1279）作田惣勘文案に「国井保東方十五丁」「田谷東方十五丁」「同田谷西方十五丁」と記載されており、国井氏の領地と目される。しかし、弘安八年（1285）霜月騒動以降、当地は没収され北条氏領となった可能性が考えら



第263図 地割と館跡

れる。本跡から古い中国磁器や宋銭が出土しているのは、北条氏つまり鎌倉との関係が強かったことを物語っているのではなかろうか。また、本跡から北に2 km程の地点から中国渡来銭が6144枚出土している⁽⁴⁾ことも注目したい。

2 II期 (14世紀後葉～15世紀前葉)

元弘三年(1333)後醍醐天皇の挙兵と共に、北条支配に不満を持っていた常陸の土豪は、天皇方に加担し、北条氏を滅ぼした。その後、南北朝動乱で北朝方についた佐竹氏は常陸守護職を手中にし、常陸北東部の領地拡大を図っている。しかし、文和四年(1355)2月の佐竹義篤が嫡子義香(義宣)に与えた讓状⁽⁵⁾によると田谷は、その領地に入っておらず依然として吉田郡に属していた可能性が高い。となると常陸大掾氏(馬場氏)関係の者が館に住んでいたものと思われる。しかし、これも長続きせず、大掾氏は応永年間(1394～1428)に江戸氏によって追放されている。

3 III期 (15世紀中葉～後葉)

『新編常陸国誌』に「高倉七郎祐義、白石氏祖ナリ⁽⁶⁾」と記載されている。それを受け、昭和38年(1963)に発行された『水戸市史』では、本跡を田谷白石台城跡として、佐竹の一族、白石氏が居住した所であるとしている。以上のことから、本期は白石祐義を館主と推定できよう。(白石氏にとっては初代館主であるが館自体にとっては何代目かの館主となる)。というのは、祐義の祖父泰義(第264図)について、御的日記に「建武二年(1335)鎌倉幕府始射、泰義射手タリ。」の記載があり、それから推測すると祐義は15世紀始め頃の人物と考えられるからである。

応永十四年(1407)佐竹義盛の死後、佐竹一族の家督争いが始まり内乱が起こる。その争いの一つが、『水府志料』の「古屋敷 土人白石の城と云傳ふ。馬場のあと今に有す。或説に、むかし白石志摩と云もの住しが、額田氏の為に亡びしという。今村老に尋るに知るものなし。⁽⁷⁾」と「額田野 福田村の境に散野あり。額田野と呼。昔額田氏、白石氏を攻し時陣せしよしなれど、その證たしかならず。⁽⁸⁾」の記載が当てはまるものと思われる。この時期は、額田氏を含め小野崎一族が争いに乗じて佐竹の領地を71ヶ所も侵犯している⁽⁹⁾ことから窺い知ることができる。『水府志料』では、白石志摩の時に額田氏によって滅ぼされたとあるが、白石志摩なる人物は白石志摩義光しか存在しない。しかし、義光は岩瀬城主(現那珂郡大宮町)で貞和元年(1345)佐竹氏との合戦で討ち死にしており祐義よりも昔の人物であり時代が合わなく『水府志料』の内容に疑問が残る。いずれにせよ、白石一族が滅亡した後、江戸氏が内乱に乗じて藤井川以北の地域までも横領⁽¹⁰⁾しており、江戸氏関係の者が館主になった可能性も考えられる。

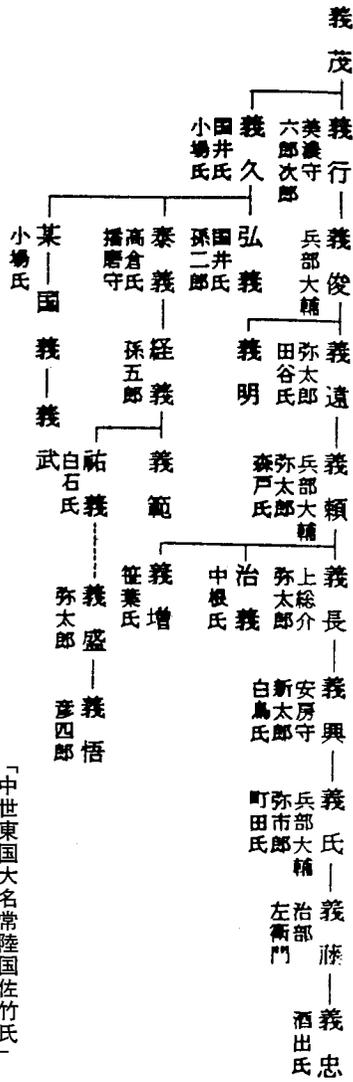
4 IV期（15世紀後葉～16世紀中葉）

本期は常陸国においても群雄割拠の時代であり、乱世へと突入していく。16世紀初頭、佐竹義舜は一族の内乱を治め、近隣諸氏に横領、侵犯されていた領地を奪還し、常陸奥七郡（多珂，久慈東，久慈西，那珂東，那珂西）の支配拡大を図っている。しかし、天文十六年から十九年（1547～1550）にかけて、江戸忠通は佐竹義祐，義昭と大部平（水戸市）と戸村（那珂町）で合戦をし、義昭の軍勢を敗っており、⁽¹¹⁾ 本期も田谷は江戸氏領と考えられる。また、このころの田谷は佐竹氏と江戸氏の領地争いの前線地であり、本館跡は重要な役割を果たしていたものと思われ、館の縄張りにも防禦面の充実が図られている。天正十八年（1589）江戸氏は、佐竹氏に水戸城を追われ、その後は田谷も佐竹領となり本館の必要性もなくなり廃城となったものと思われる。

以上、館主の推定をしてきたが文献が少ないことと、本跡の位置している所が戦国期の領地争いの中心地であったこと等、館主の入れ代わりも激しく、特定の館主を推定できなかった。しかし、戦国期においては、佐竹氏や江戸氏の一族か家来筋が居館していたことは間違いないものと思われる。今後の資料等の増加を待ってさらに研究して行きたい。

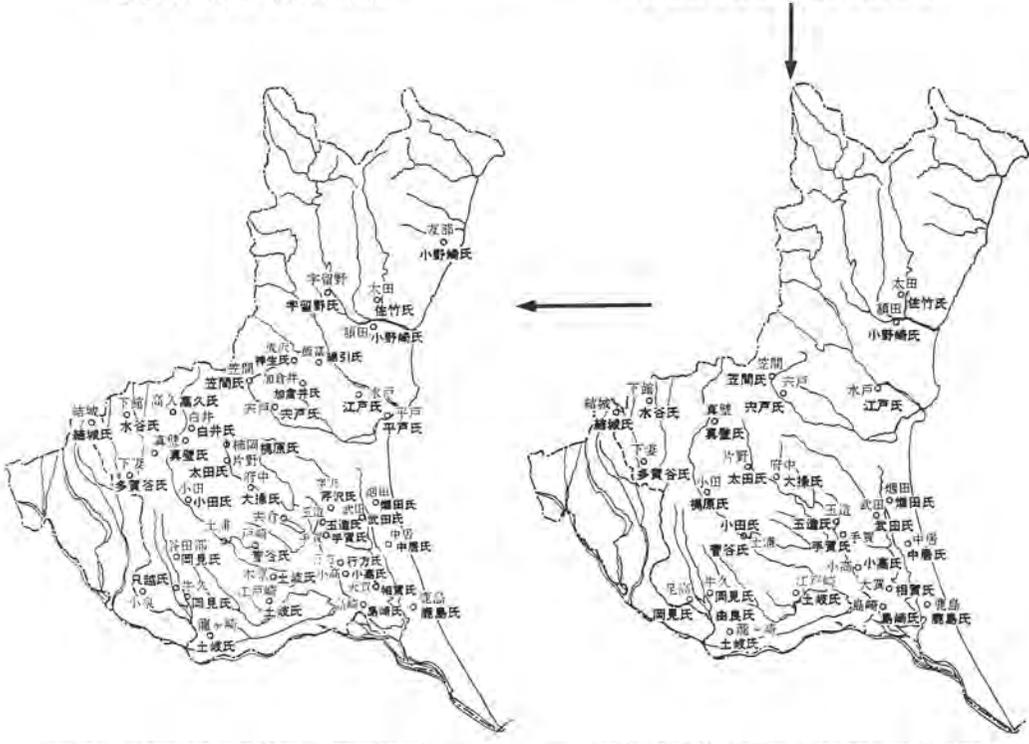
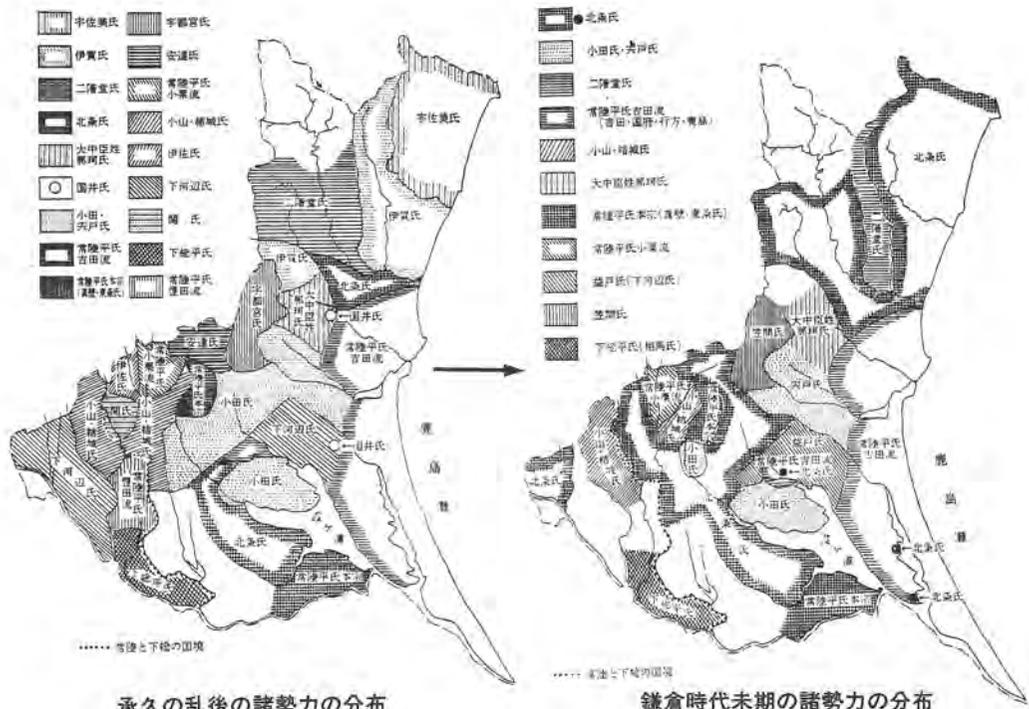
注

- (1) 本書は、信名の在命中には完成せず、明治34年（1901）に歴史家栗田寛によって完成した。
- (2) 本書は、文化4年（1807）に小宮山楓軒によって作られた。
- (3) 遠藤元男 『日本古代史事典』「国司が立保して保司を任じ開発せしめた国衙領で、11世紀ごろより急速に発展し、平安末期から中世にかけて地方行政区画となった。」
- (4) 「田谷町出土の古銭」『水戸市史 上巻』第5節
- (5)(11) 『常陸誌料』
- (6) 卷九「氏族」の中にある。
- (7) 那珂郡1 「常葉組 田谷村」の中にある。
- (8) 那珂郡1 「常葉組 豊喰村」の中にある。
- (9) 『茨城県史 中世編』第4章 第1節
- (10) 『茨城県史 中世編』第4章 第1節の江戸氏の佐竹領押領とその形態一覧表の中に「当乱相違地、田谷近所上野之内、本主白石方」の記載があり、上野は本跡の所在する田谷町内に小字として残っている。



「中世東国大名常陸国佐竹氏」
 江原 忠昭著より

第264図 佐竹支族（南酒出氏）系図



第265図 中世の常陸国の勢力図 (茨城県史料・中世編より)

参考文献

- ・ 浅野晴樹 「関東における中世在地産土器について」『埼玉県埋蔵文化財調査事業団研究紀要 第4号』 1988
- ・ 〃 「中世遺跡の土器組成における問題点」『埼玉考古学論集』 1991
- ・ 石川県埋蔵文化財センター 『普正寺遺跡』 1984
- ・ 茨城県史編纂中世部会 『茨城県史料中世編 II・IV』 1981
- ・ 茨城県教育財団 『屋代B遺跡III』 茨城県教育財団文化財調査報告第45集 1987
- ・ 江崎武 「中世地下式墳の研究」『古代探叢 II』 1985
- ・ 小野正敏 「15～16世紀の染付碗・皿の分類と年代」『貿易陶磁研究 No.2』 1982
- ・ 〃 「出土陶磁よりみた15・16世紀における画期の素描」『ミュージアム』 1985
- ・ 櫻村, 浅井 「常陸地方の鬼高式土器」『考古学ジャーナル 342』 1992
- ・ 新発田市教育委員会 『三光館跡・宝積寺館跡』 1990
- ・ 高橋裕文 「中世の城館と文化財保護」『那珂町史研究 第10号』 1989
- ・ つくば市教育委員会 『小泉館跡』 1989
- ・ 東海村教育委員会 『石神城跡』 1991
- ・ 栃木県教育委員会 『石那田館跡』 1975
- ・ 〃 『赤塚遺跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告書第36号 1981
- ・ 栃木県文化振興事業団 『自治医科大学周辺地区』 栃木県埋蔵文化財調査報告書第111号 1991
- ・ 鳥羽正雄 『日本城郭辞典』 1971
- ・ 橋口定志 「絵巻物に見る居館」『豊島区立郷土資料館研究紀要 第2号』 1986
- ・ 〃 「中世方形館を巡る諸問題」『歴史評論』 1988
- ・ 〃 「方形館はいかに成立するか」『争点日本の歴史 4』 1991
- ・ 中井均 「中世城館の発生と展開」『物質文化 48』 1987
- ・ 服部実喜 「関東地方出土の輸入陶磁器について」『神奈川考古 第20号』 1985
- ・ 〃 「関東地方における中世土器群の構成とその特質について」『神奈川考古第22号』 1987
- ・ 日立市教育委員会 『久慈吹上』 1981
- ・ 藤本正行 他 「中世の城館」『筑波町史 上巻』 1989
- ・ 村田修三 『中世城郭研究論集』 1990
- ・ 安田龍太郎 「中世土師器と内耳土器」『野州史学 第5号』 1981
- ・ 龍ヶ崎市教育委員会 「龍ヶ崎の中世城郭跡」『龍ヶ崎市史 別編I』 1987

結 語

平成2年4月から平成3年9月にかけて実施された水戸市田谷町に所在する、白石遺跡の発掘調査は（仮称）水戸浄水場建設に伴うもので、平成4年4月から平成5年3月までの整理作業をもって完了する運びとなった。

調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡3軒と古墳時代の竪穴住居跡3軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡16軒、中世城館跡等が検出され、縄文時代以降中世に至るまでの先人達の生活の足跡を窺い知ることができた。

縄文時代においては加曽利EⅢ、EⅣ式土器の良好な資料を得ることができた。また、古墳時代においては後期の大型住居跡が1軒検出され、同住居跡内からは金環やガラス玉等の貴重な遺物が出土し、集落内における有力者の様子の一端を知ることができた。奈良・平安時代においては全容は明らかにできなかったが、溝に囲まれた掘立柱建物跡や軸線、規模を同じくする3棟の大型掘立柱建物跡と基壇等の公的建物跡と思われる遺構が検出された。これらの遺構の在り方については研究途上の段階にあり、今後さらに検討して行かなければならないと思われる。中世においては戦国期に近づくとつれ、本館跡が農地開発型の居館から恒常的な城郭である館城へと規模を拡大しながら4期に渡り変化して行ったことがわかった。また、館跡並びにそれに付随する遺構の全容を把握できたことは、茨城県においては龍ヶ崎市の屋代城に次いで二例目であり、茨城の中世考古学研究の上で貴重な資料となるものと思われる。

以上のように白石遺跡の発掘調査によって得られた成果が、今後、当地域の歴史の解明の一助になれば幸いである。

なお、本書をまとめるにあたり、関係各機関、関係各位から御指導と御協力を賜り、心から感謝する次第である。

附 章

白石遺跡第9号住居跡から出土した炭化豆種子について

農林水産省農業生物資源研究所
遺伝資源第一部

江川 宣伸

1. はじめに

平安時代中頃（10世紀前後）の白石遺跡第9号住居跡から多量の食用豆類と思われる炭化種子が出土した。作物遺物は、わが国への作物の伝播と栽培の歴史を考察する上で興味深い材料である。ここでは、本炭化豆種子についての調査結果の概要を報告する。

2. 調査方法

遺物出土層より、土壌を採取し、注意深く水洗いし、炭化種子のみ選び分けた。ついで、KONTRON ELEKTRONIK 社の画像解析システム VIDAS を用いて、炭化種子の長さ、幅、長幅比を約600粒の種子サンプルについて測定し、形状に関する調査を行った。

3. 結果および考察

白石遺跡第9号住居跡から多量に出土した炭化豆種子は、種子と臍（へそ）の形態がよく保存されていた。種子はやや肝臓形をし、臍が腹面の中央部より上部に位置していた。これらの形態的特徴から本炭化種子はササゲと容易に判定できた。

水洗し土壌を取り除いた炭化種子を無作為に約600粒選びだし、画像解析装置を用いて、外観の形態調査を行った結果を第1, 2図に示した。これによると、本炭化種子は、長さが5.1~7.0mmのもの7.1~9.0mmのものというように大きく2つのグループに分けられ、種子の長さに関して少なくとも2つ以上の系統（品種）が混在していたと思われる。我々が関東、東北地方の農家調査で収集する在来のササゲ品種は、7.0~8.0mmのものが多く、種子の長幅比は平均値1.5で、約80%の種子が1.4~1.6の範囲にあった。この値はこれまで収集したササゲ在来品種とほぼ同じ値である。

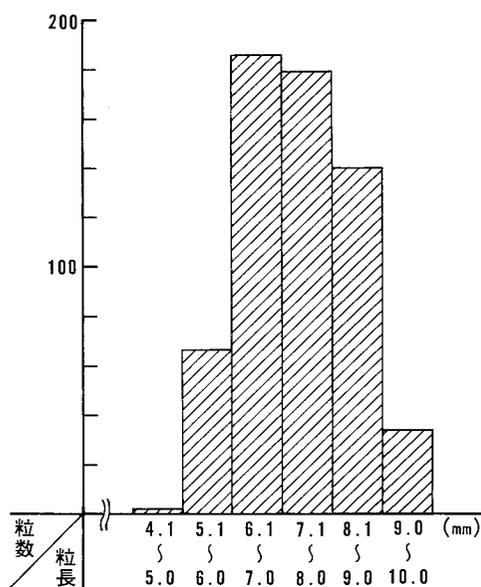
ササゲは、アフリカの熱帯サバンナに起原した豆で、わが国へ伝播した年代は明らかではないが、前田（1987）によると、延喜式（927年）にササゲの中国名として「大角豆」がでてくるといふ。白石遺跡より出土した炭化豆種子の本調査結果は、平安時代中頃（10世紀前後）には、サ

サゲは茨城県において、今日の在来品種とほぼ同じ大きさの品種が栽培されていたことを示し、ササゲのわが国への伝播の年代、経路に関して貴重な資料を提供するものといえる。

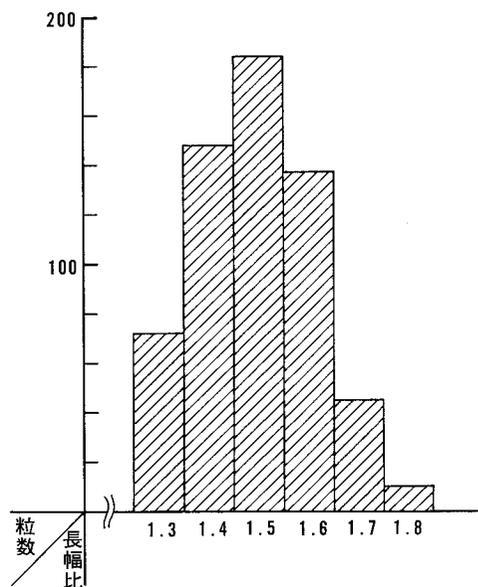
なお、画像解析システムの使用については、農林水産省農業研究センター大麦育種研究室の牧野徳彦研究室長にご指導を賜った。ここに記して感謝の意を表する。

4. 文献

前田和美 1987. マメと人間。古今書院（東京）



第1図 炭化豆種子の長さの変異



第2図 炭化豆種子の長幅比の変異

白石遺跡出土炭化材の樹種

1. 試料

白石遺跡は那珂川の左岸台地上に位置し、縄文時代～中世に亘る遺物・遺構が検出されている。今回の試料は、平安時代（9c末）の焼失住居址（9号住居址）から検出された炭化材5点である。このうち、4点（試料No.1～4）はホゾ穴を有する木製品と櫛、皿、盆であり、1点（試料No.5）はカマド内から検出された炭化材である。本試料の用途については不明である。なお、試料番号は便宜上当社にて付した（表1）。

2. 方法

試料を乾燥させたのち木口面・柾目面・板目面の3断面を作製、実体鏡・走査型電子顕微鏡（無蒸着・反射電子検出型）を用いて観察・同定した。同時に電子顕微鏡写真図版（図版1）も作製した。

3. 結果

同定結果を表1に示す。5点の試料のうち、櫛（試料No.2）は広葉樹（散孔材）であったが、炭化した小片のため属などの種類の同定には至らなかった。その他の4点は以下の3種類に同定できた。試料の主な解剖学的特徴や現生種の一般的な性質は次のようなものである。なお、一般的な性質などについては「木の事典 第1巻～第17巻」（1979～1982）を参考にした。

・コナラ属アカガシ亜属（*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* sp.） ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では柵状となる。放射組織は同性、単列、1～15細胞高のものと同複合組織よりなる。柔組織は短接線状および散在状。柔細胞はしばしば結晶を含む。年輪界は不明瞭。

アカガシ亜属（カシ類）には、アカガシ（*Quercus acuta*）、イチイガシ（*Q. gilva*）、アラカシ（*Q. glauca*）など7種があるが、果実の構造からコナラ亜属に分類される常緑低木～小高木のウバメガシ（*Q. phylllyraeoides*）も、材構造上はカシ類と類似する。カシ類は、暖温帯常緑広葉樹林（いわゆる照葉樹林）の主要な構成種であり、主として西南日本に分布する。このうち最も高緯度地域まで分布するのがアカガシで、宮城・新潟県が北限である。材は重硬・強靱で、器具・機械・建築・薪炭材などに用いられる。また種子は食用となる。

・ケヤキ (*Zelkova serrata*) ニレ科

環孔材で孔圏部は1～2列，孔圏外で急激に管径を減じのち漸減，塊状に複合し接戦・斜方向の紋様をなす。大道管は管壁は厚く，横断面では円形～楕円形，単独，小道管は管壁厚は中庸～薄く，横断面では多角形で複合管孔をなす。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列，小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型，1～10細胞幅，1～30細胞高であるが，時に60細胞高を越える。しばしば結晶を含む。柔組織は周囲状。年輪界はやや不明瞭。

ケヤキは本州・四国・九州の谷沿いの肥沃地などに自生し，また屋敷林や並木として植栽される落葉高木で，時に樹高50mにも達する。材はやや重硬で，強度は大きい，加工は困難でなく，耐朽性が高く，木理が美しい。建築・造作・器具・家具・機械・彫刻・薪炭材など各種の用途が知られ，国産広葉樹材の中で最良のものの一つに上げられる。

・ヌルデ (*Rhus javanica*) ウルシ科

環孔材で孔圏部は2～4列，孔圏外で急激に管径を減じのち漸減する。大道管は管壁は薄く，横断面では楕円形，単独，小道管は管壁厚は中庸，横断面では楕円形～やや角張り，2～3個が複合，複合部はさらに厚くなる。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列，小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ～Ⅱ型，1～5細胞幅，1～40細胞高であるが，時に上下に連結する。柔組織は周囲状および短接線状。柔細胞はしばしば結晶を含む。年輪界はやや不明瞭。また，試料No.3（蓋）は年輪界がなかったため類似種とした。

ヌルデは北海道（石狩以南）から琉球の山野に普通にみられる落葉小高木である。材は軽軟～中程度で，加工は容易，耐朽性が高い。器具材や旋作・薪炭材として用いられるほか，杭や浮子としての用途も知られる。樹皮は染料に，また葉にできる虫えい（＝五倍子）はタンニン原料となる。

表1 白石遺跡出土炭化材の樹種

No.	検出遺構など	用途	種名
1	9号住居址No.8	ホゾ穴有	コナラ属アカガシ亜属の一種
2	9号住居址No.24	楕状炭化物	広葉樹（散孔材）
3	9号住居址No.46	フタ	ヌルデ類似種
4	9号住居址	曲物	ケヤキ
5	9号住居址	炭化物	ヌルデ

4. 考察

日本の遺跡から出土した木製品の樹種同定の結果をまとめたものとしては、島地・伊東(1988)および伊東(1990)がある。今回同定された盆の樹種はケヤキである。また、皿の用材はヌルデ類似種としたが、これまでの報告ではヌルデを用いている例はない。今回の結果は類似種ではあるが、貴重な資料である。

櫛は試料が小さく、樹種の同定には至らなかった。島地・伊東(1988)によると、櫛の材として最も多く使用されるのはイスノキである。「日本の野生植物Ⅰ」(佐竹他, 1989)によると、イスノキは、現在では本州(関東南部以西)・四国・九州・琉球に自生している。しかし、新潟県における平安時代の遺跡からイスノキの櫛が報告されており(川村, 1983), 当時の流通を示唆する結果もある。島地・伊東(1988)によると、古代の櫛の材はツゲ, イスノキ・モッコク等密度が高く, 肌目の細かい樹種が使用されているとしている。今回の櫛の樹種は不明であるが, 顕微鏡下では密度が高い緻密な材であった。

ホゾ穴を有する木製品(試料No.1)とカマド内から出土した炭化材(試料No.5)は, 用途が不明であるため詳細な検討は難しい。しかし, 同定したコナラ属アカガシ亜属の一種は栗田かなくそ山製鉄遺跡(パリノ・サーヴェイ株式会社, 1990)で, ヌルデは西原遺跡(パリノ・サーヴェイ株式会社, 1986)でそれぞれ同定された報告例があり, 現在の植生から考えても当時遺跡周辺で比較的入手可能な樹種であったと思われる。

参考文献

- 平井信二(1979~1982)「木の事典 第1巻~第17巻」, かなえ書房。
- 伊東隆夫(1990) 日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途Ⅱ, 木材研究・資料, No.26, p.91-189.
- 川村恵洋(1983) 曾根遺跡出土木材の識別, 新大演報, No.16, p.75-82.
- パリノ・サーヴェイ株式会社(1986) 西原遺跡出土試料種子及び材同定報告について, 「水海道都市計画事業・内守谷土地区画生理事業地内埋蔵文化財調査報告書2 奥山A遺跡・奥山C遺跡・西原遺跡」茨城県教育財団文化財調査報告書第31集, 財団法人 茨城県教育財団, p.242-243.
- パリノ・サーヴェイ株式会社(1990) 栗田かなくそ山遺跡出土炭化材固定報告, 「栗田かなくそ山製鉄遺跡調査報告」新治郡千代田村文化財調査報告・高倉・栗田地区埋文第1次調査報告, 新治郡千代田村教育委員会・高倉・栗田地区埋蔵文化財発掘調査会, p.41-42.
- 佐竹義輔・原 寛・亙理俊次・冨成忠夫 編(1989)「日本の野生植物 木本Ⅰ」, 平凡社, 321p.
- 島地 謙・伊東隆夫(1988) 「日本の遺跡出土木製品総覧」, 雄山閣, 259p.

白石遺跡 2 次

はじめに

白石遺跡（水戸市田谷町所在）は、那珂川左岸の台地（那珂台地南端）上に立地し、縄文時代中期から中世にわたる遺構、遺物が検出されている。本遺跡の第 1 次調査では、平安時代（9 世紀末）の焼失住居址から完形の櫛や盆などの木製品が炭化した状態で検出された。今回、本遺跡では 2 次調査が行われ、7 世紀代に相当する住居址（SI-1）内から炭化材が検出された。炭化材は、床面直上から検出されたものと床面よりやや上位から検出されたものがある。これらの炭化材は、本住居址の建築材と推測されている。また、本住居址は発掘調査所見から焼失住居址と考えられている。

今回の分析調査では、本住居址から検出された炭化材について材同定を行い、建築材の樹種名を明らかにすることとした。

1. 試料

試料は、SI-1 住居址から検出された炭化材 4 点（No.67, 157, 231, 256）である。No.67 の試料のみ住居址床面より 28cm 上位から検出され、他の 3 点は全て床面直上から検出された。

2. 方法

試料を乾燥させたのち、横断面・放射断面・接線断面の 3 断面を作製し、走査型電子顕微鏡（無蒸着・反射電子検出型）で観察・同定した。

3. 結果

同定結果を表 2 に示す。4 点の試料は以下の 3 種類に同定された。同定根拠とした主な解剖学的特徴や現生種の一般的な性質を以下に記す。なお、一般的性質などについては「木の事典 第 2 巻、第 6 巻」（平井，1979, 1980）を参考にした。

・ヒノキ属類似種（cf. *Chamaecyparis* sp.） ヒノキ科

早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭く、年輪界は明瞭。樹脂細胞は晩材部に限って認められ、樹脂道はない。放射仮道管はなく、放射柔細胞の壁は滑らか、分野壁孔はヒノキ型で 1～4 個。放射組織は単列、1～15 細胞高。

ヒノキ属には、ヒノキ（*Chamaecyparis obtusa*）とサワラ（*C. pisifera*）の 2 種がある。ヒノキは本州（福島県以南）・四国・九州に分布し、また各地で植栽される常緑高木で、国内ではスギに次ぐ植林面積を持つ重要樹種である。材はやや軽軟で加工は容易、割裂性は大きい、強度

・保存性は高い。建築・器具材など各種の用途が知られている。サワラは本州（岩手県以南）・九州に自生し、また植栽される高木で多く園芸品種がある。材は軽軟で割裂性は大きく、加工も容易、強度的にはヒノキに劣るが耐水性が高いため、樽や桶にするほか各種の用途がある。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種 (*Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Cerris sp.*) ブナ科
環孔材で孔圏部は1～3列、孔圏外で急激に管径を減じのち漸減しながら放射状に配列する。大道管は管壁は厚く、横断面では円形、小道管は管壁は中庸～厚く、横断面では角張った円形、ともに単独。単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では柵状となる。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと同複合組織よりなる。柔組織は周囲状および短接線状。柔細胞はしばしば結晶を含む。年輪界は明瞭。

クヌギ節は、コナラ亜属（落葉ナラ類）の中で、果実（いわゆるドングリ）が2年目に熟するグループで、クヌギ (*Quercus acutissima*) とアベマキ (*Q. variabilis*) の2種がある。クヌギは本州（岩手・山形県以南）・四国・九州に、アベマキは本州（山形・静岡県以西）・四国・九州（北部）に分布するが、中国地方に多い。クヌギは樹高15mになる高木で、材は重硬である。古くから薪炭材として利用され、人里近くに萌芽材として造林されることも多く、薪炭材としては国産材中第一の重要材である。このほかに器具・杭材、柁木などの用途が知られる。樹皮・果実はタンニン原料となり、果実は染料・飼料ともなった。アベマキはクヌギによく似た高木で、樹皮の Cork 層が発達して厚くなる。材質はクヌギに似るが、さらに重い。用途もクヌギと同様であるが、樹皮が厚いため薪材にはむかず、炭材としてもクヌギ・コナラより劣るとされる。

・コナラ属アカガシ亜属の一種 (*Quercus subgen. Cyclobalanopsis sp.*) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では柵状となる。放射組織は同性、単列、1～15細胞高のものと同複合組織よりなる。柔組織は短接線状および散在状。柔細胞はしばしば結晶を含む。年輪界は不明瞭。

アカガシ亜属（カシ類）には、アカガシ (*Quercus acuta*)、イチイガシ (*Q. gilva*)、アラカシ (*Q. glauca*) など7種があるが、果実の構造からコナラ亜属に分類される常緑低木～小高木のウバメガシ (*Q. phyllyraeoides*) も、材構造上はカシ類と類似する。カシ類は、暖温帯常緑広葉樹林（いわゆる照葉樹林）の主要な構成種であり、主として西南日本に分布する。このうち最も高緯度地域にまで分布するのがアカガシで、宮城・新潟県が北限である。材は重硬・強靱で、器具・機械・建築・薪炭材などに用いられる。また種子は食用となる。

4. 考察

関東地方では、7世紀代の住居の建築材について樹種同定を行った例はあまり知られていない。これままでの分析調査例(例えば、高岡, 1984; パリノ・サーヴェイ株式会

社, 1984, 1987など)により5世紀後半～6世紀の建築材には、クヌギ節やコナラ節が多く用いられていたことが推測される。県内でもヤツノ上遺跡や中久喜遺跡などで、古墳時代中期の住居の建築材にこの両種が用いられていたことが知られている。

今回の結果と似たような類例は、埼玉県東松山市上野本籠田遺跡が知られているが、その他には、あまり知られていない。アカガシ亜属については、1次調査でもホゾ穴有とされる試料に用いられていた。この試料については、用途が明確でなかったが、試料の形状等を考えると本遺跡では平安時代にアカガシ亜属が建築材として用いられた可能性もある。

また、今回の結果のみを見ると、時代が異なる県内のヤツノ上遺跡や中久喜遺跡などの住居址と樹種構成に違いが認められる。これが周辺植生の違いや変化によるものか、樹種選択の変化によるものなのかは現時点では判断できない。この点については、今後さらに多くの試料について同定を行い、資料を蓄積する必要があるだろう。

文 献

平井信二 (1979, 1980) 木の事典 第2巻, 第6巻, かなえ書房。

高橋利彦 (1982) 東松山市上野本籠田遺跡炭化材樹種鑑定報告。「一般国道254線東松山地内埋蔵文化財発掘調査報告書-I-籠田・鶴田」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第20集, p.84-86。

パリノ・サーヴェイ株式会社 (1984) 古墳時代の樹種鑑定。「尾ヶ崎遺跡-縄文・古墳時代集落跡の調査-」, 埼玉県庄和町・尾ヶ崎遺跡調査界, p.159-162。

パリノ・サーヴェイ株式会社 (1987) 炭化材・炭化種子同定。「一宇都宮競馬場附属総合きゅう舎建設地内遺跡-御新田遺跡・富士前遺跡・ヤツチャラ遺跡・下り遺跡」栃木県埋蔵文化財調査報告第85集, p.193-197。

高岡正之 (1984) 赤羽根遺跡出土の炭化物について。「赤羽根一般国道50号(岩舟～小山バイパス)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告〈本文編〉」, 栃木県教育委員会・財団法人 栃木県文化振興事業団, p.360-361。

表2 白石遺跡2次出土炭化材の樹種

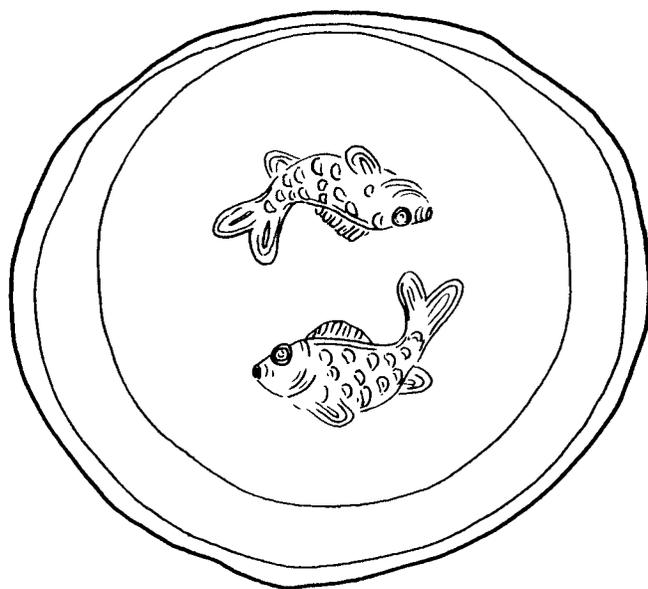
遺構・試料名	樹 種 名
SI-1 (No. 67)	コナラ属アカガシ亜属の一種
SI-1 (No.157)	ヒノキ属類似種
SI-1 (No.231)	コナラ属アカガシ亜属の一種
SI-1 (No.256)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種

総 論

分析調査の結果、高崎貝塚、北前遺跡、ヤツノ上遺跡、中久喜遺跡の古墳時代の住居址の建築材には、関東地方に限定すれば、最も一般的な樹脂であったと思われるクヌギ節とコナラ節が多く認められた。また、白石遺跡の2次の7世紀代とされる住居址から検出された建築材は、他の4遺跡とは異なった樹種構成が認められた。

茨城県では、これまで住居址の建築材の同定を行った例がほとんどなかったため、建築材の樹種構成については不明な点が多い。今回の分析調査により、茨城県でも古墳時代の建築材にはクヌギ節、コナラ節が多く用いられていたことが考えられる。また、ヤツノ上遺跡の結果から、住居址によってクヌギ節とコナラ節を使い分けていた可能性も考えられる。また、白石遺跡の7世紀の住居址では樹種構成に違いがみられる。これについては、遺跡周辺の植生が元々違ったことや、元は同じ様な植生であったが時間とともに変化したこと等が考えられるが、白石遺跡は今回調査を行った他の4遺跡とは距離的に離れており、今回の結果のみで判断するには試料数が少ない。今後さらに多くの試料を同定し、資料を蓄積するとともに、花粉分析等を用いた遺跡周辺の植生についても検討が必要であろう。特に海岸地域から内陸地域にかけて、空間や時間を意識した資料蓄積が必要であろう。

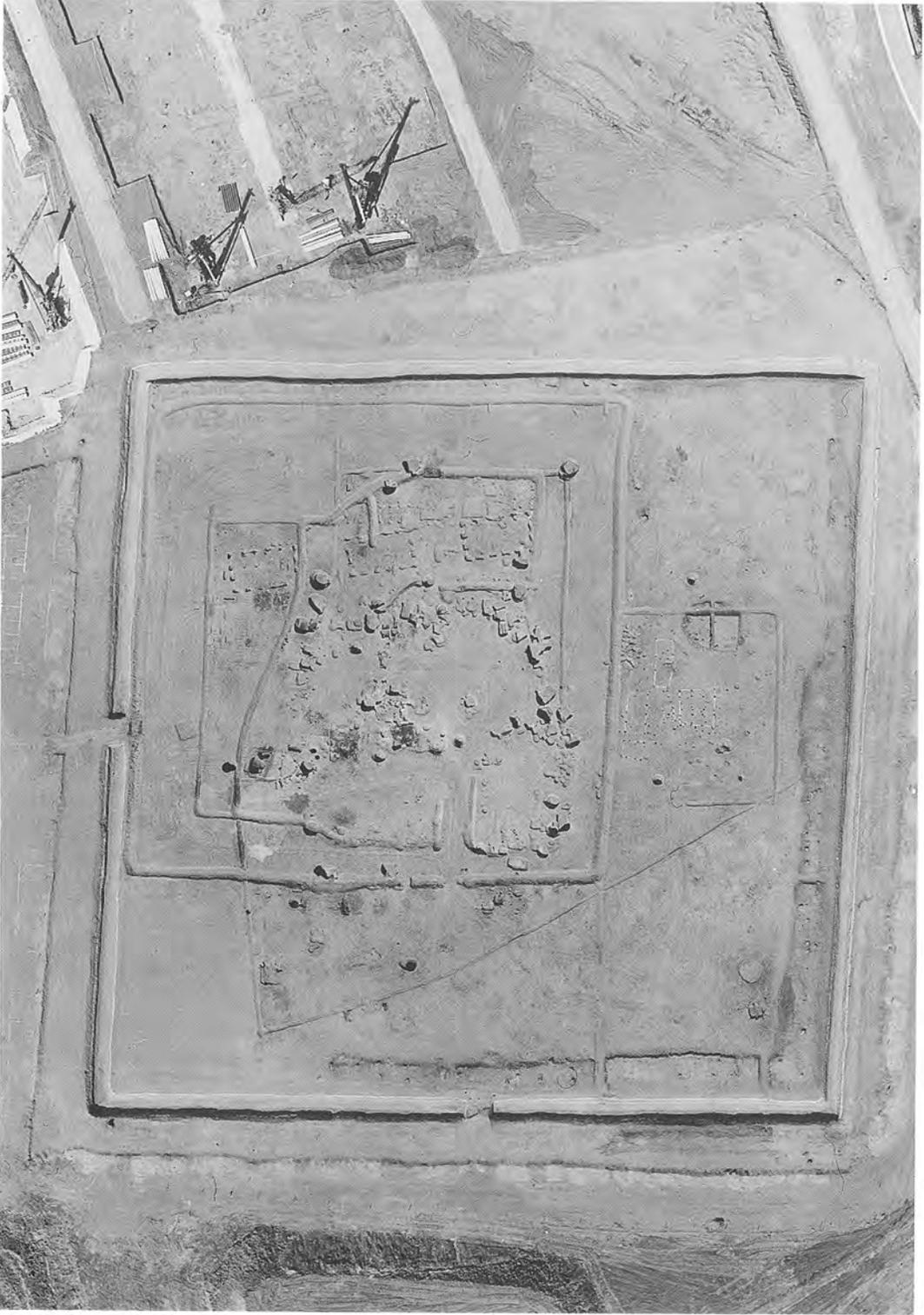
写 真 图 版





調査前風景

PL2

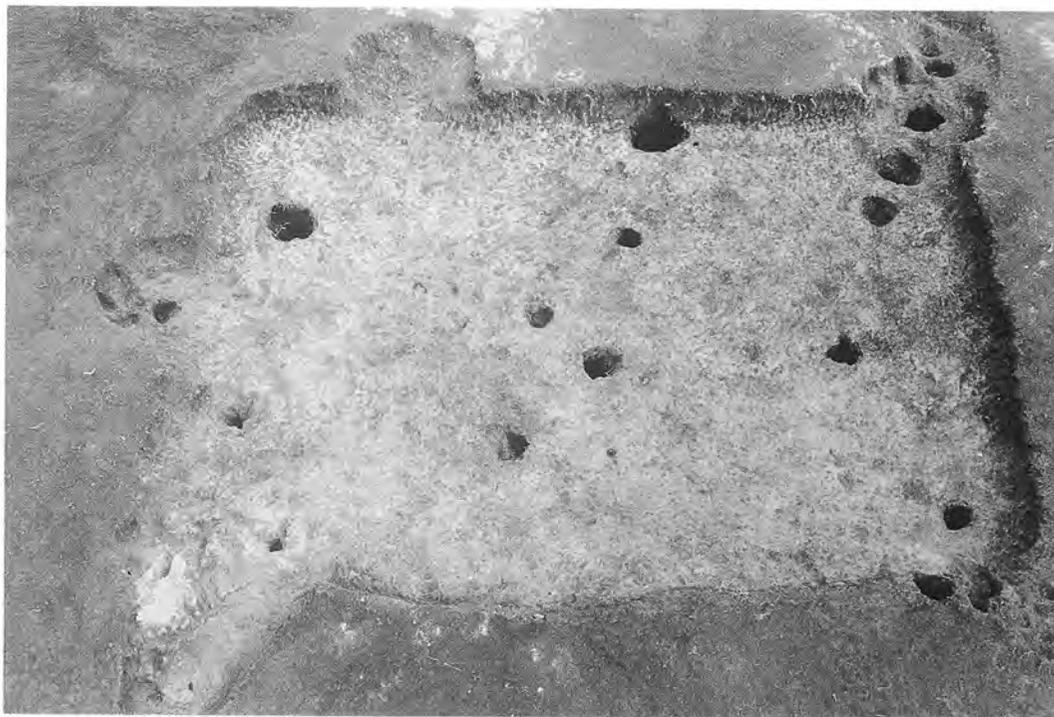


白石遺跡 1次全景



白石遺跡 2次全景

PL4



第1号住居跡



第1号住居跡竈



第 2 号住居跡遺物出土状況



第 3 号住居跡竈

PL6



第7号住居跡遺物出土状況



第8号住居跡



第9号住居跡遺物出土状況

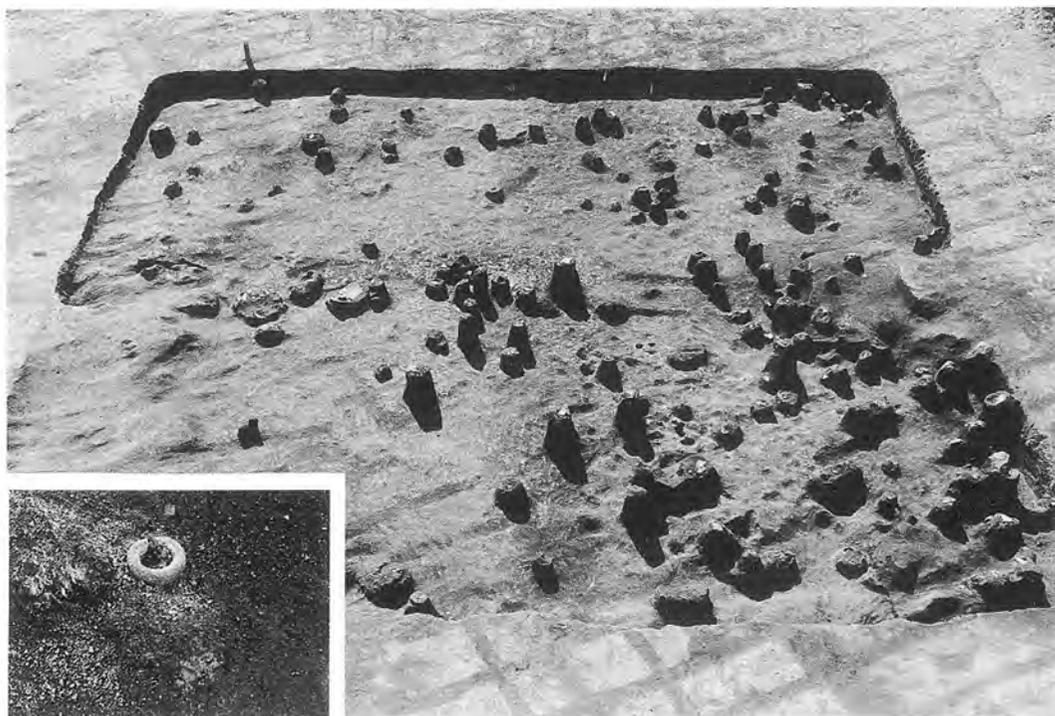


第9号住居跡遺物出土状況

PL8



第10号住居跡



第1号住居跡〈Ⅱ区〉遺物出土状況



第4号住居跡 <II区>



第6号住居跡 <II区> 遺物出土状況

PL10



第6号住居跡〈Ⅱ区〉竈遺物出土状況



第6号住居跡〈Ⅱ区〉遺物出土状況



第7号住居跡〈Ⅱ区〉

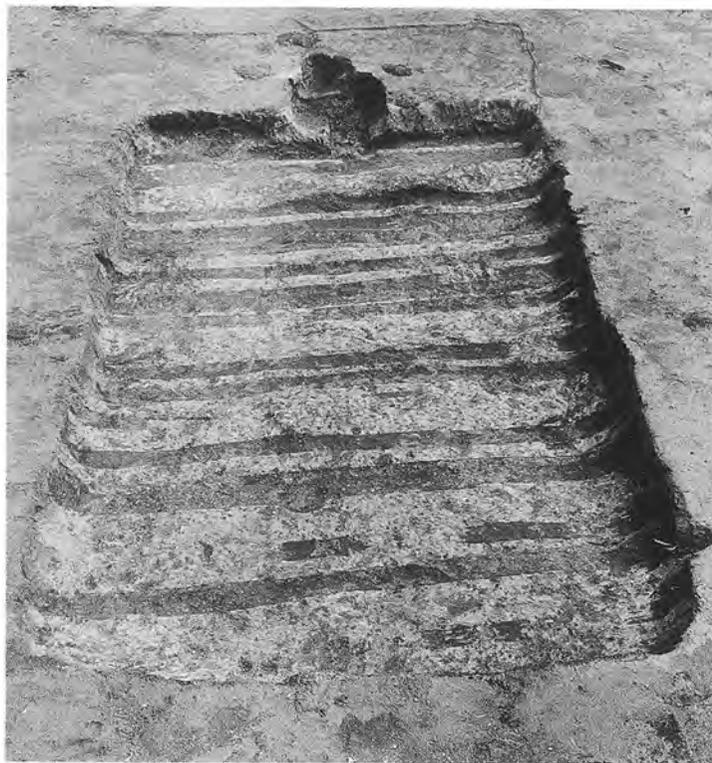


第8号住居跡〈Ⅱ区〉

PL12



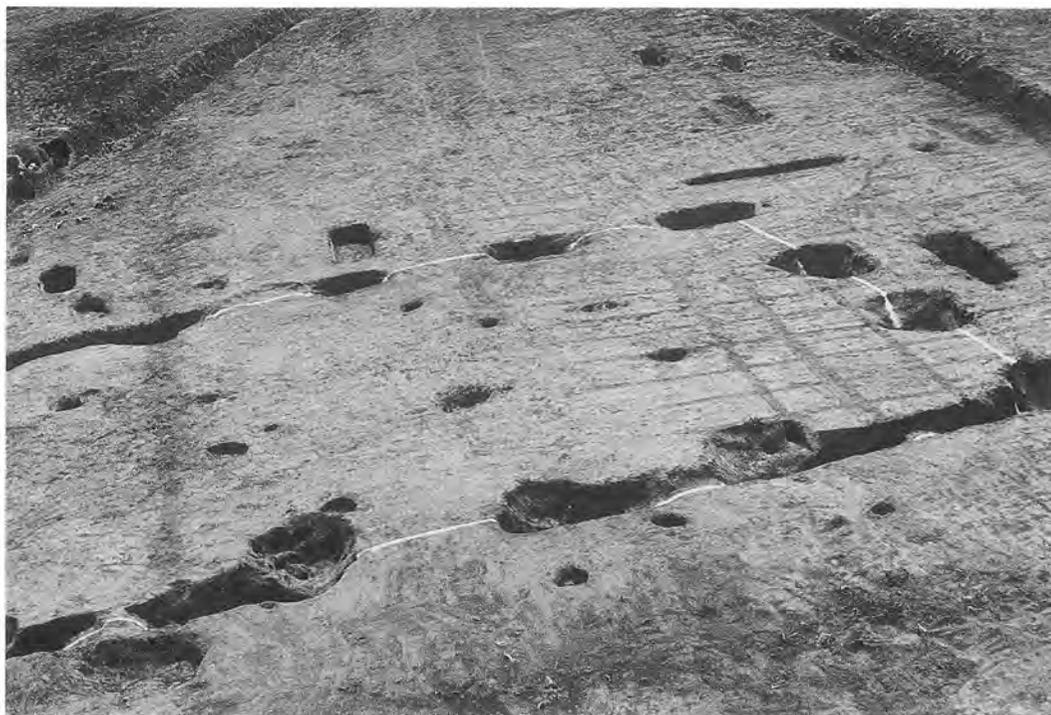
第9号住居跡 <II区>



第11号住居跡 <II区>

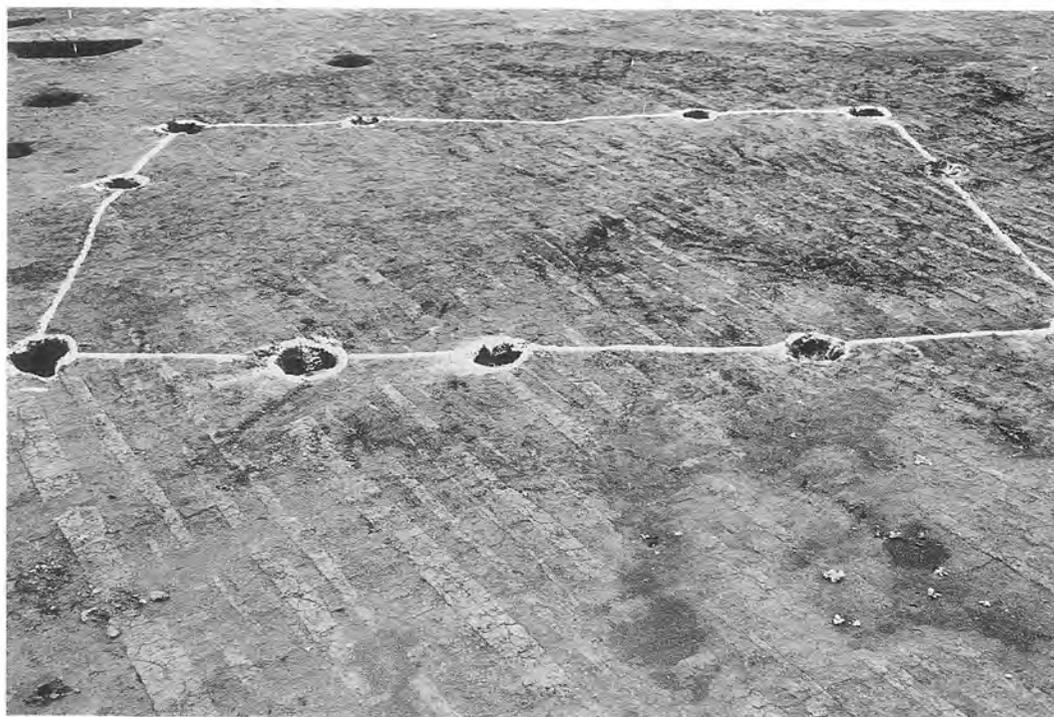


第1・2号掘立柱建物跡



第3号掘立柱建物跡

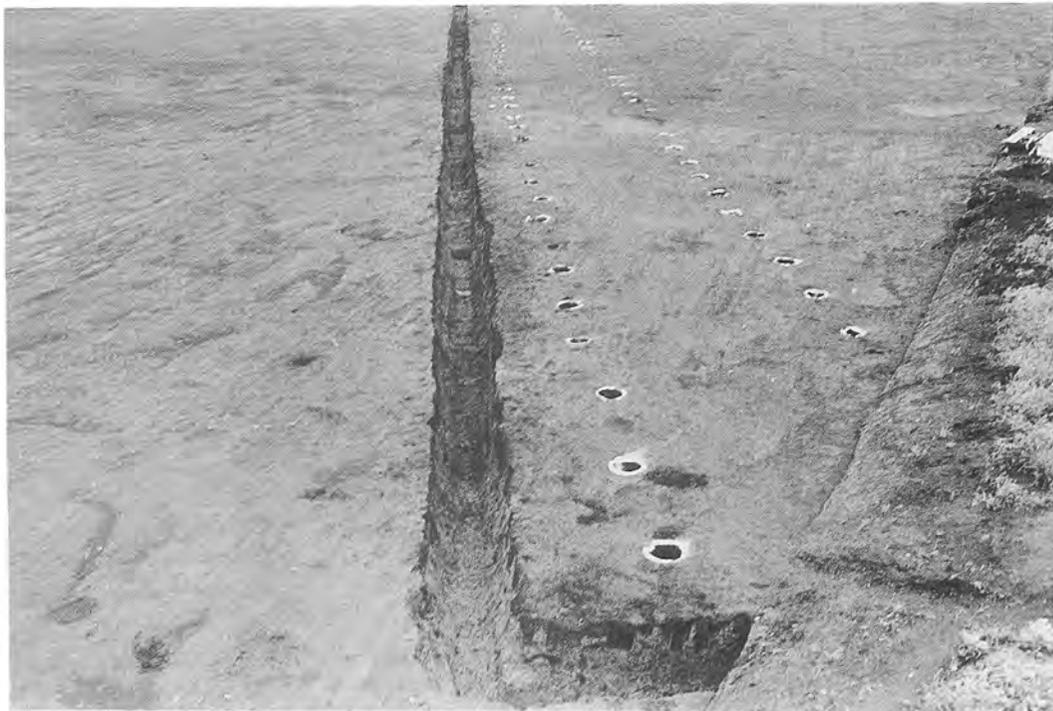
PL14



第1号掘立柱建物跡〈Ⅱ区〉



第2号掘立柱建物跡〈Ⅱ区〉



第1号沟，第3号掘立柱建物跡〈Ⅱ区〉



第829・830号土坑

PL16



第1号基壇



第1号基壇版築状況



第 2 号土橋



第 1 号土橋

PL18



第1号堀西側



第1号堀南西コーナー



第1号堀西側作業風景



第2号堀

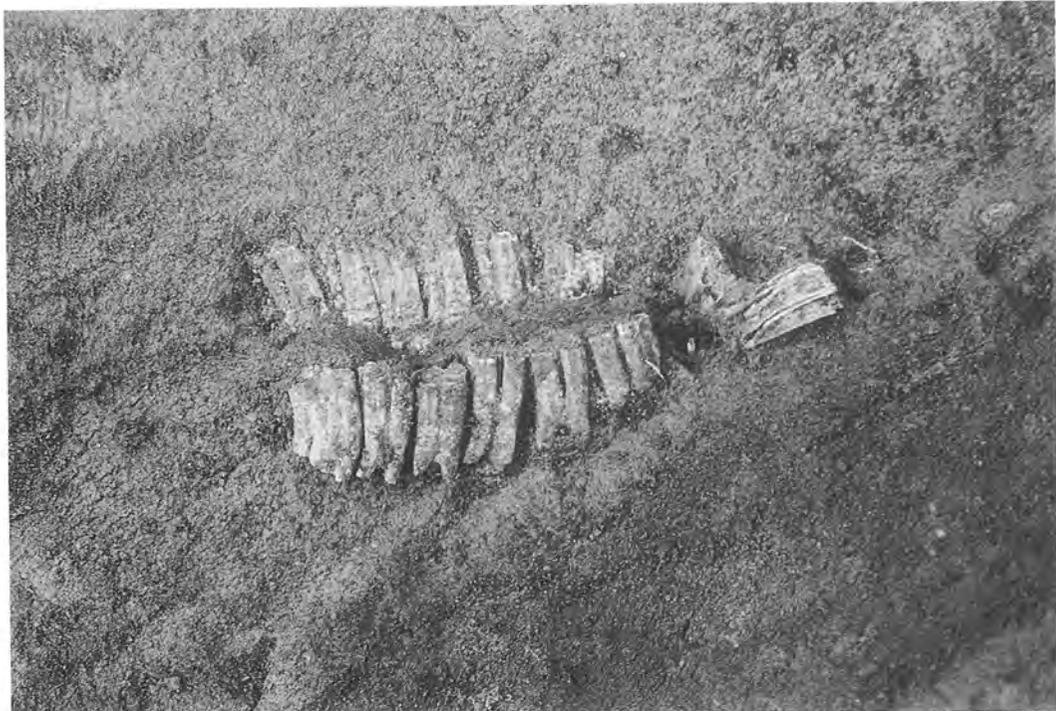
PL20



第1・3号掘北側



第3号掘東側



第3号堀西側馬齒出土状況



第4号堀北東コーナー



第4号掘東側遺物出土状況



第5号掘西側



第 6 号掘



第 6 号掘

PL24



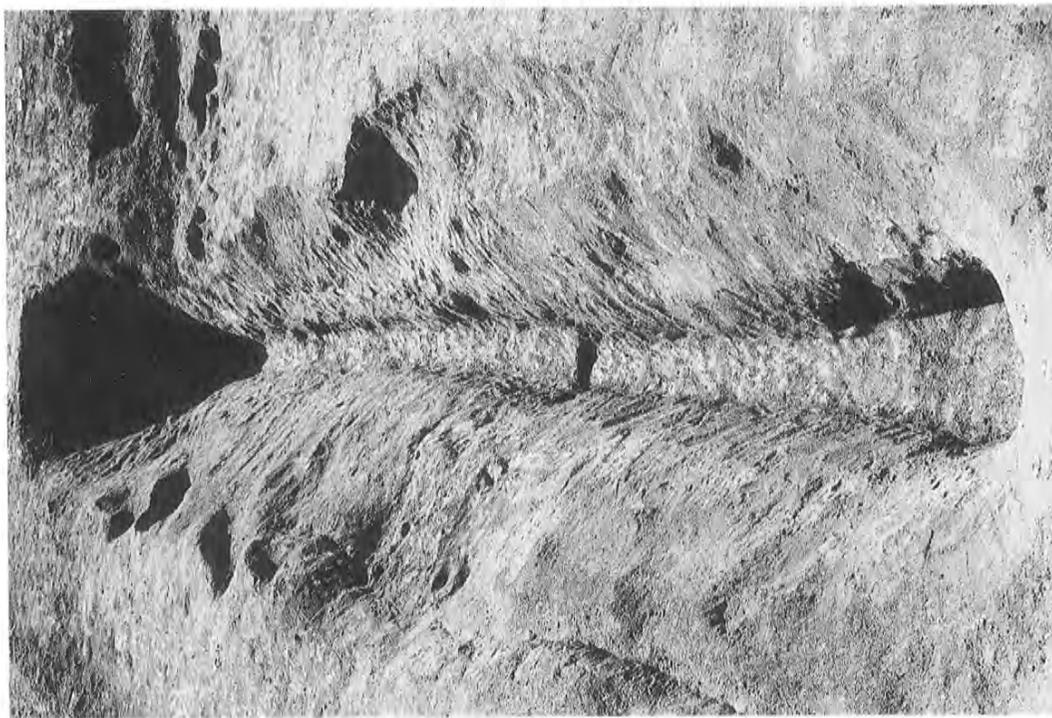
第7号堀



第21号堀

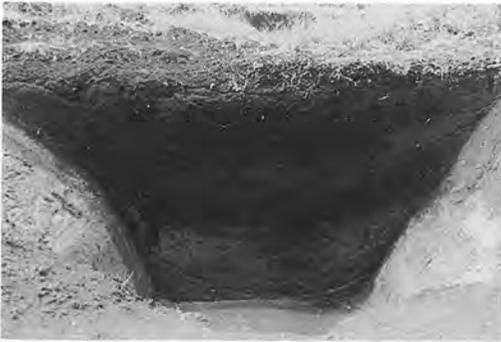


第26号堀



第25号堀

PL26



第1号掘断面



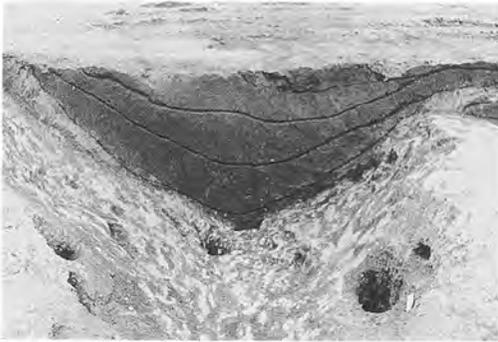
第1号掘断面



第2号掘断面



第3号掘断面



第3号掘断面



第4号掘断面



第4号掘断面



第5号掘断面



第 6 号掘断面



第 7 号掘断面



第 8 号沟断面



第 9 号沟断面



第10号沟断面



第21号掘断面

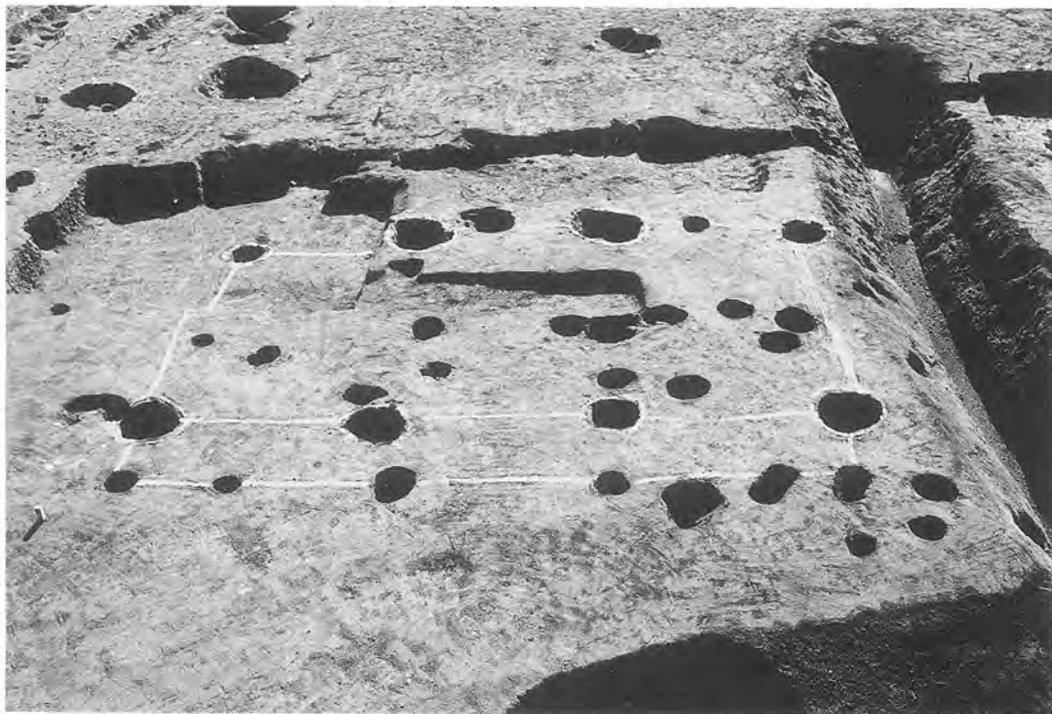


第25号掘断面

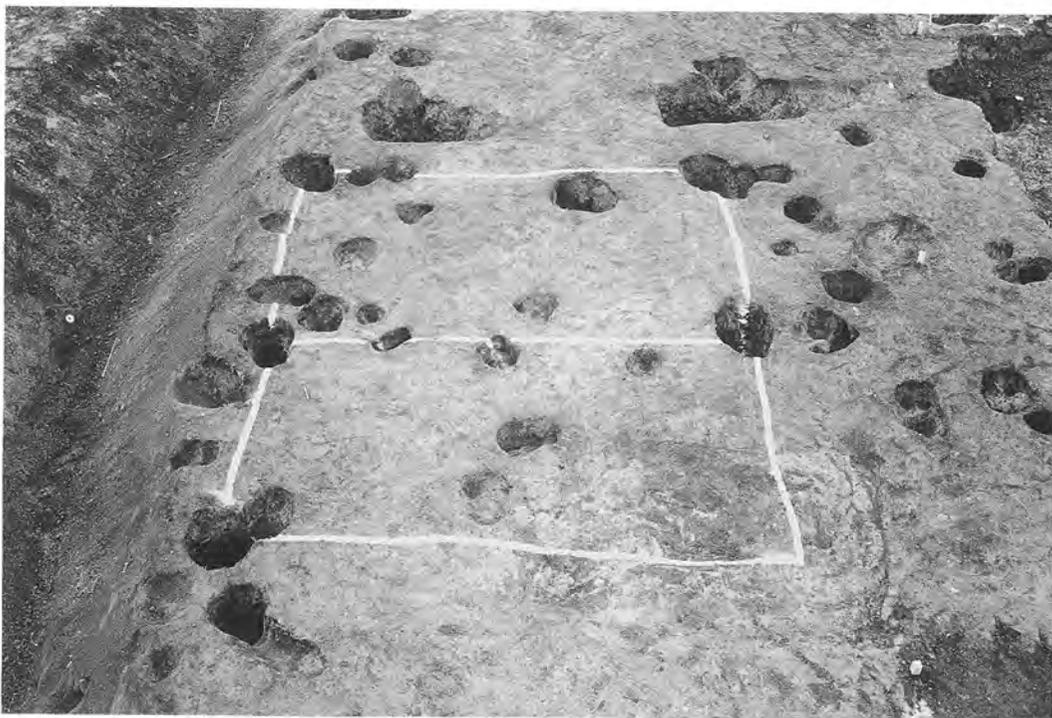


第26号掘断面

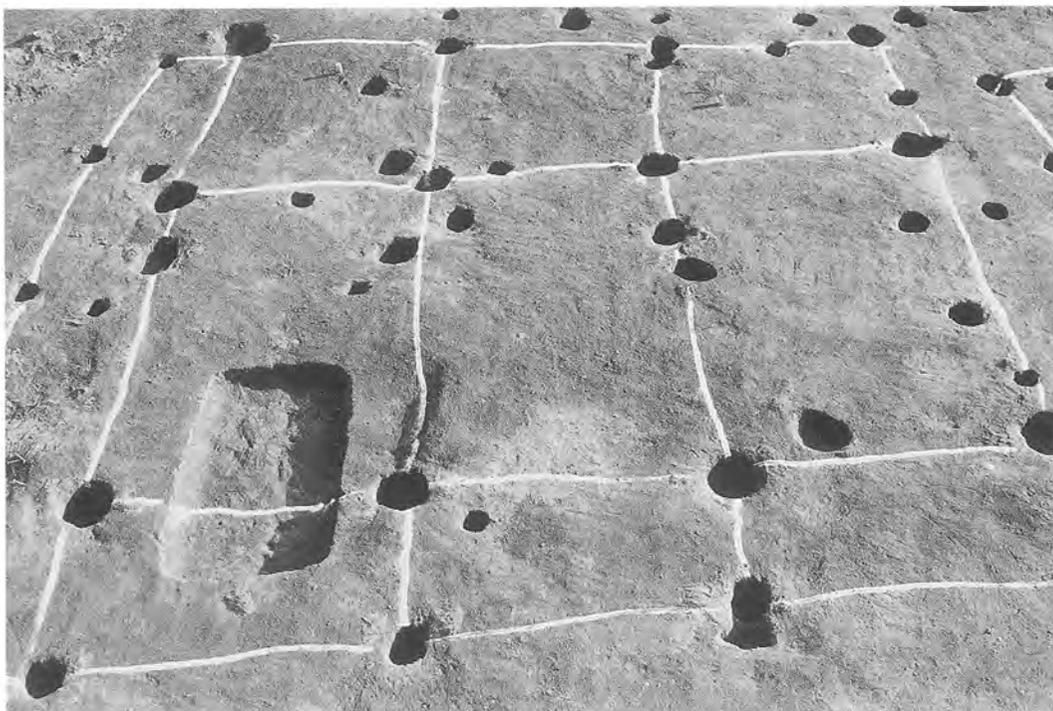
PL28



第 4 号掘立柱建物跡



第 5 号掘立柱建物跡

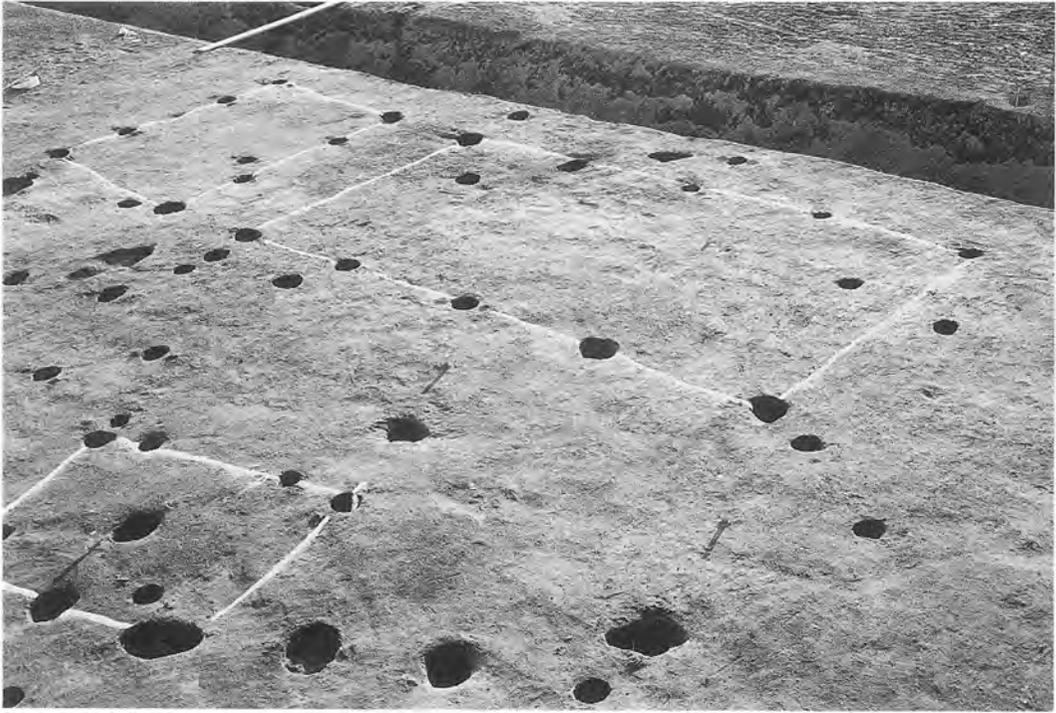


第 6 号掘立柱建物跡

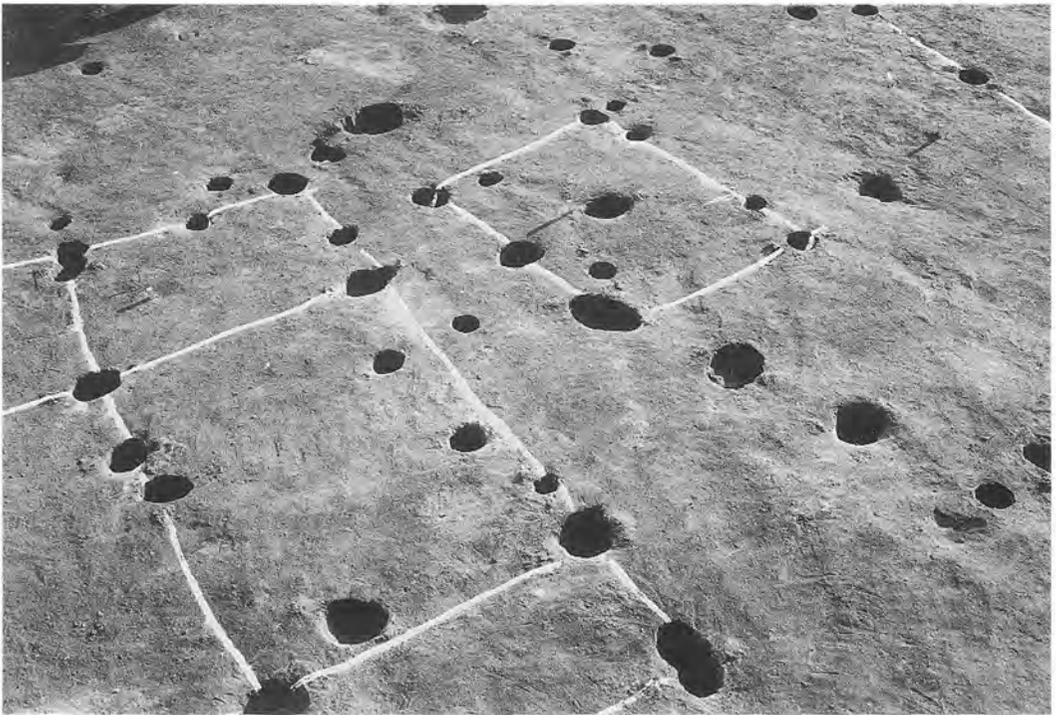


第 7 号掘立柱建物跡

PL30



第 8 号掘立柱建物跡



第 9 号掘立柱建物跡

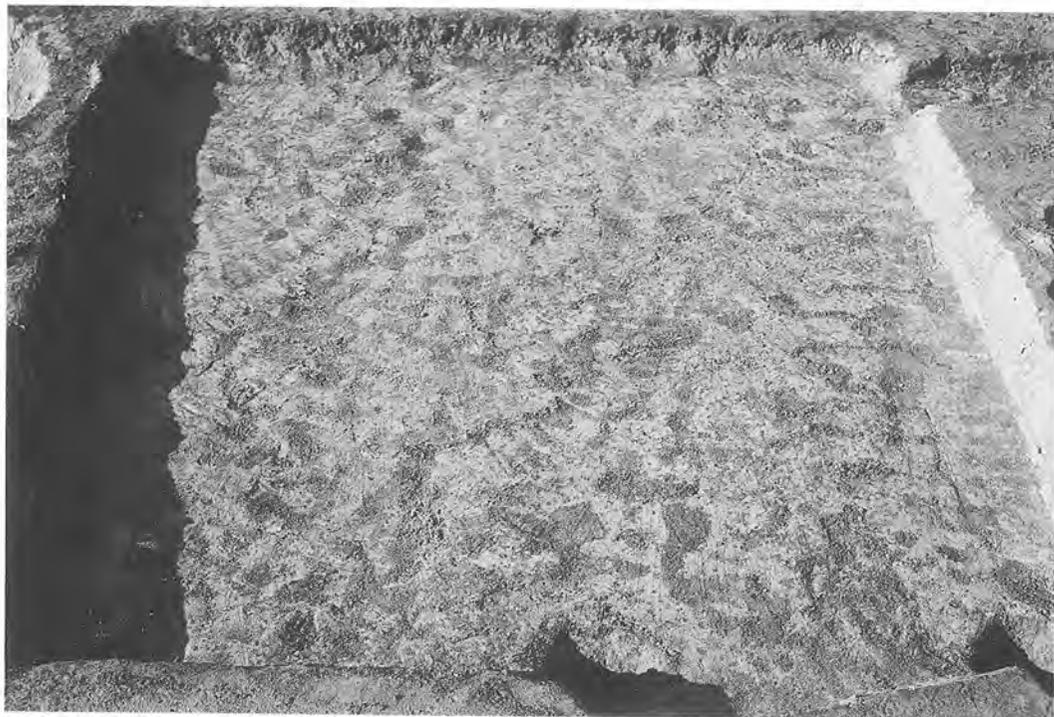


第18号住居跡

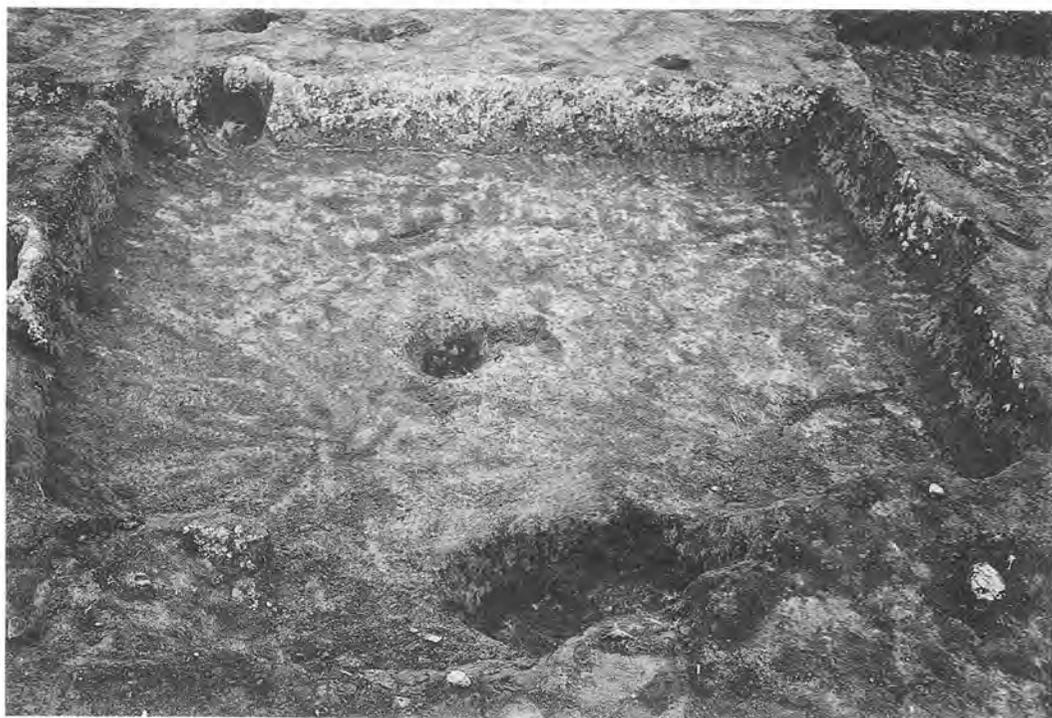


第18号住居跡竈

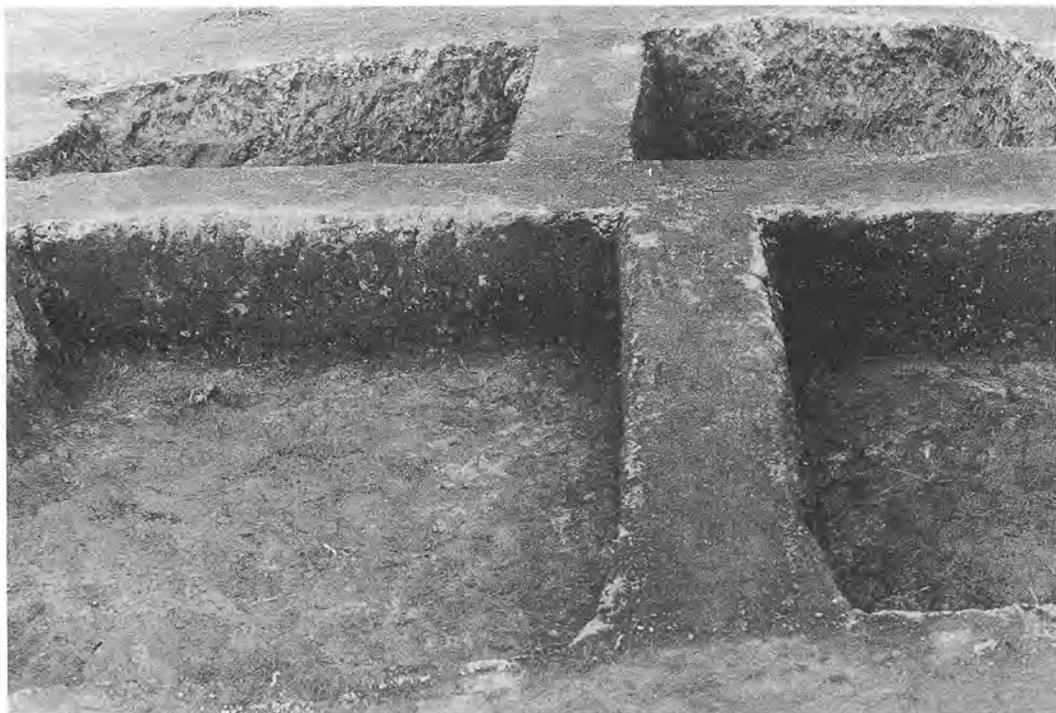
PL32



第1号方形竖穴状遺構



第3号方形竖穴状遺構



第 2 号方形竖穴状遺構断面



第 4 号方形竖穴状遺構

PL34



第1号井戸



第4号井戸



第3号井戸



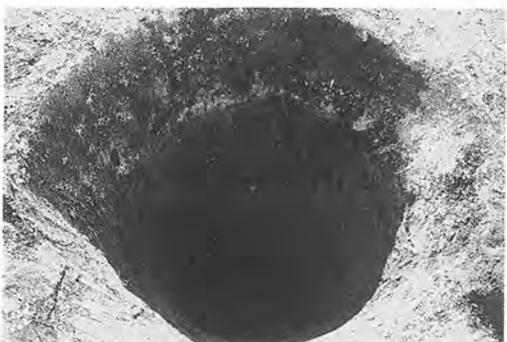
第3号井戸断面



第5号井戸



第10号井戸



第6号井戸



第6号井戸断面



第11号井戸



第12号井戸



第13号井戸



第14号井戸断面



第15号井戸



第17号井戸



第16号井戸



第16号井戸断面

PL36



第7号地下式墳



第9号地下式墳断面



第 8 号地下式墳



第 8 号地下式墳断面

PL38



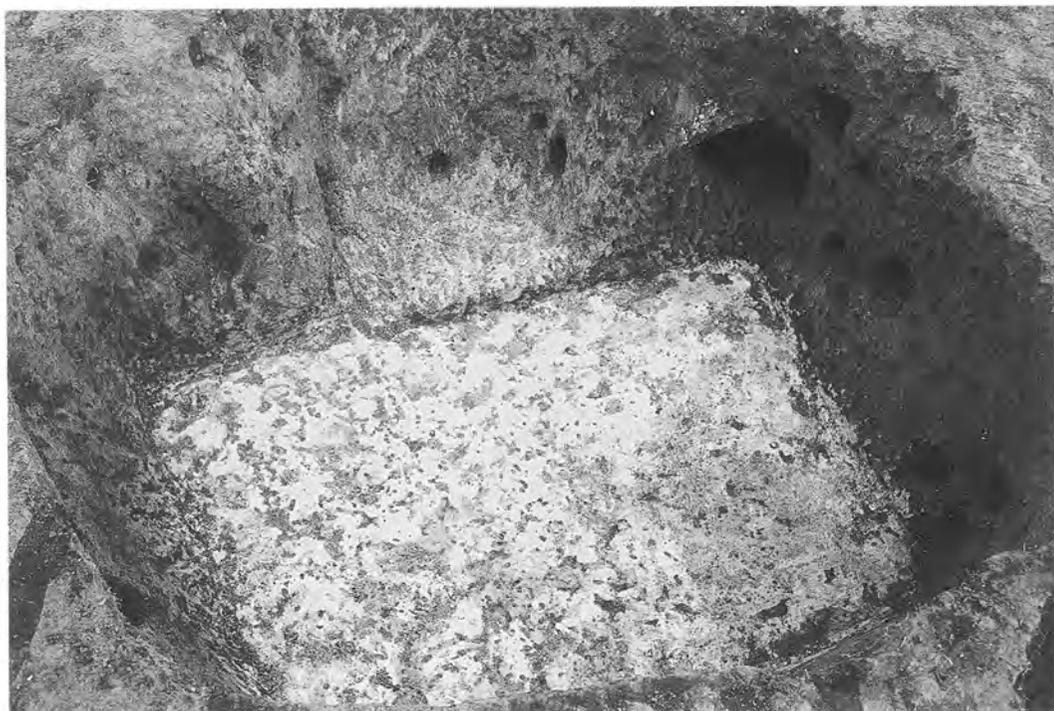
第11号地下式墳



第12号地下式墳

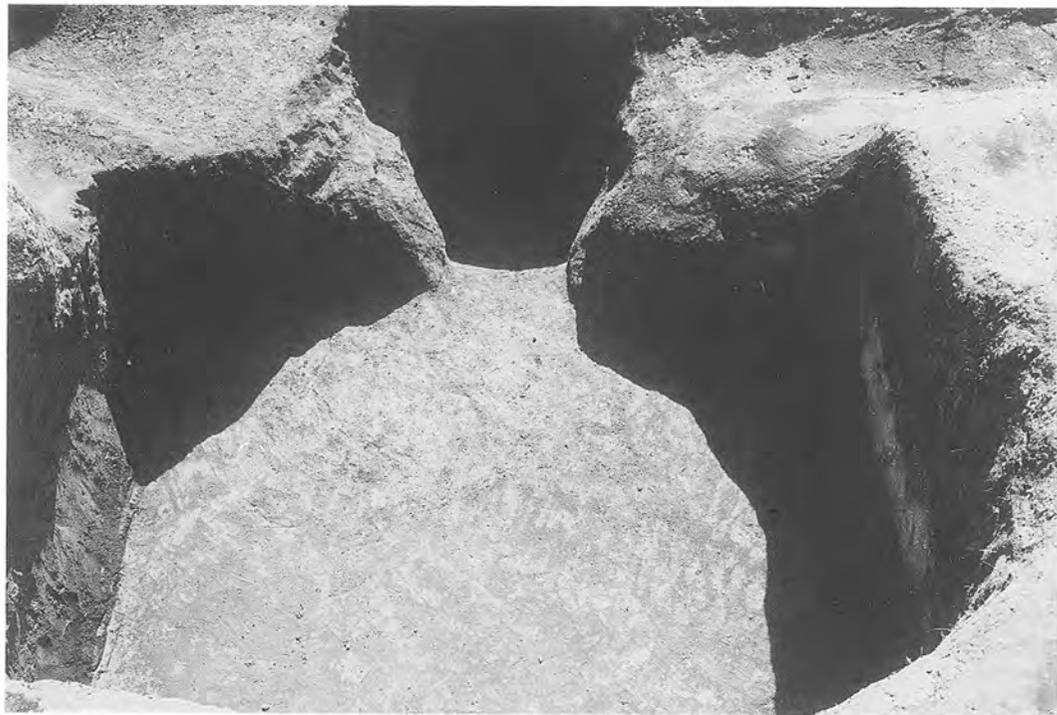


第13号地下式墳人骨出土状況



第16号地下式墳

PL40



第18号地下式墳



第19号地下式墳断面



第21号地下式墳断面



第24号地下式墳

PL42



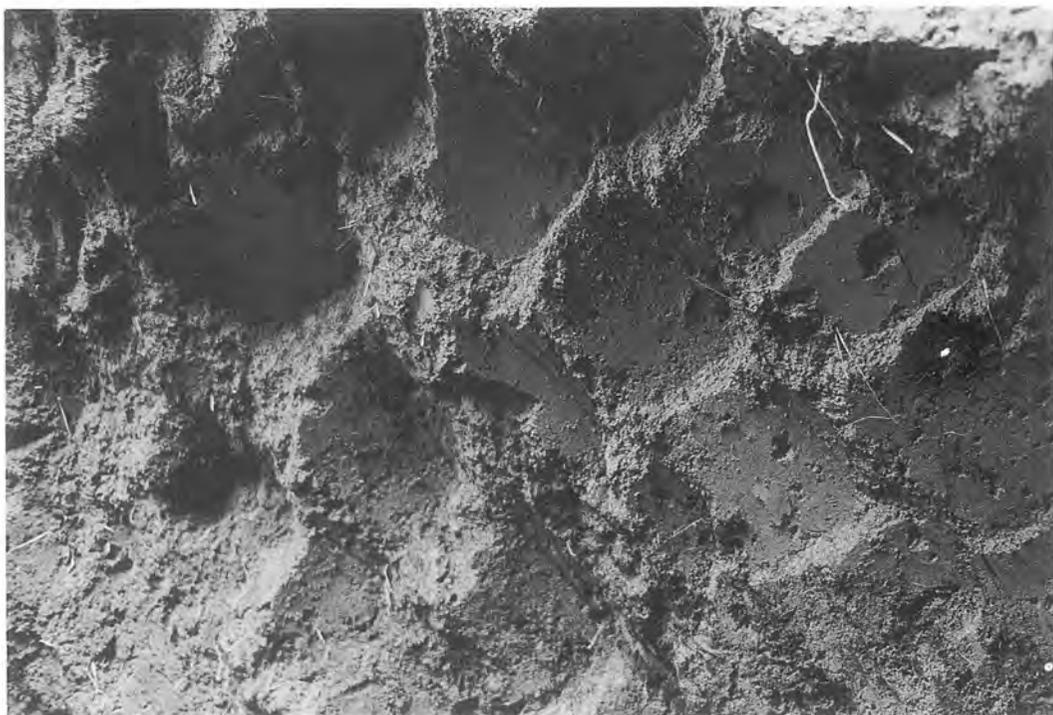
第25号地下式墳



第29号地下式墳



第30号地下式墳



第30号地下式墳側壁工具痕



第1・45号小豎穴状遺構断面



第3号小豎穴状遺構



第4号小豎穴状遺構



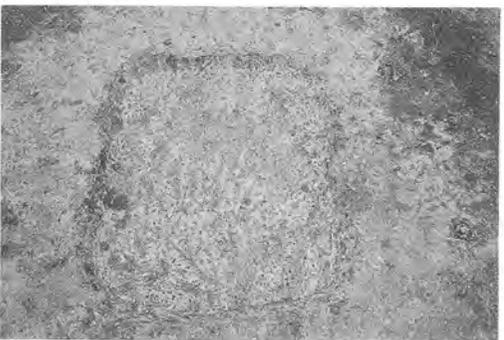
第9号小豎穴状遺構



第10号小豎穴状遺構



第14号小豎穴状遺構



第15号小豎穴状遺構



第16号小豎穴状遺構



第19・20・21号小豎穴状遺構



第19・20・21号小豎穴状遺構断面



第22号小豎穴状遺構



第24号小豎穴状遺構遺物出土状況



第26号小豎穴状遺構



第27号小豎穴状遺構



第32号小豎穴状遺構



第35号小豎穴状遺構断面

PL46



第38号小竖穴状遺構断面



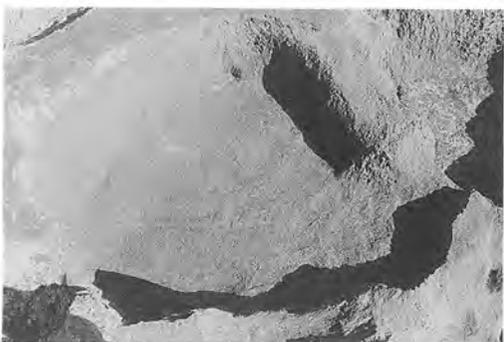
第39号小竖穴状遺構



第40号小竖穴状遺構



第40号小竖穴状遺構断面



第41号小竖穴状遺構



第42号小竖穴状遺構



第46・47号小竖穴状遺構



第48号小竖穴状遺構



第1号墓塚群



第1号墓塚群

PL48



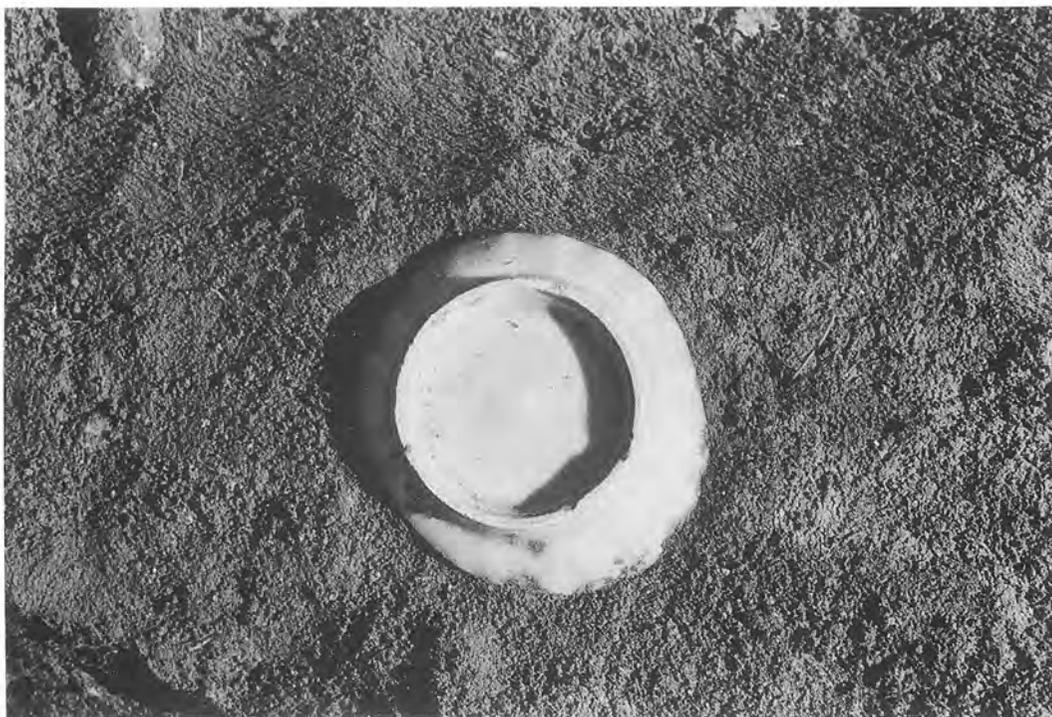
第2号墓坑群



第2号墓坑群



第596号土坑

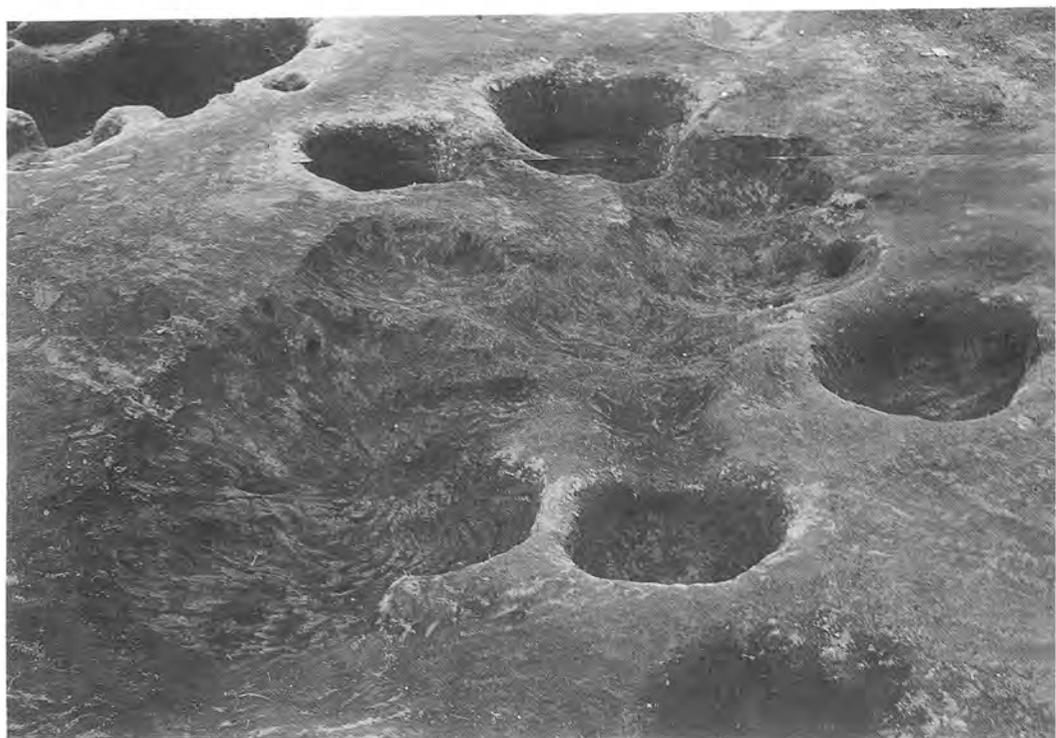


第596号土坑遺物出土狀況

PL50



第2号墓坑群



第3号墓坑群



第80号土坑



第126号土坑



第177号土坑



第244号土坑



第257号土坑



第553号土坑



第578号土坑



第863号土坑

PL52



第556号土坑



第375号土坑



第847号土坑



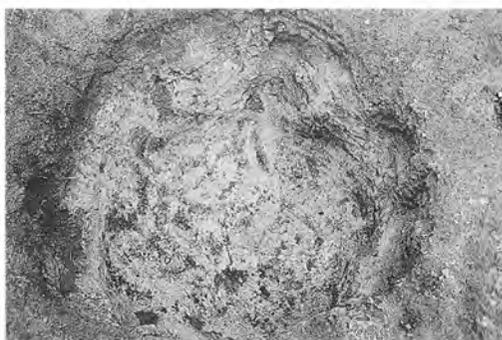
第27号土坑



第61号土坑 <II区>



第84号土坑 <II区>



第85号土坑 <II区>



第1号積石状塚作業風景



第1号積石状塚断面



第2号積石状塚



第2号積石状塚作業風景



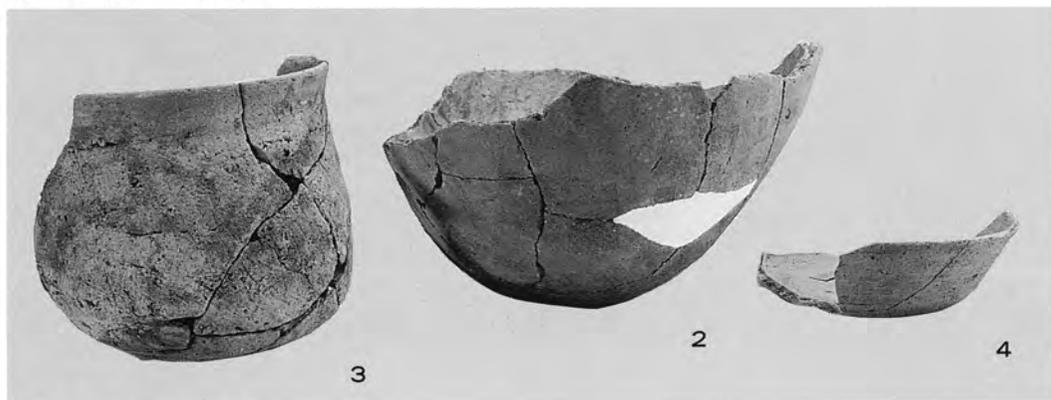
第2号墓壙群出土初山窯皿



第1号住居跡出土遺物



第2号住居跡出土遺物



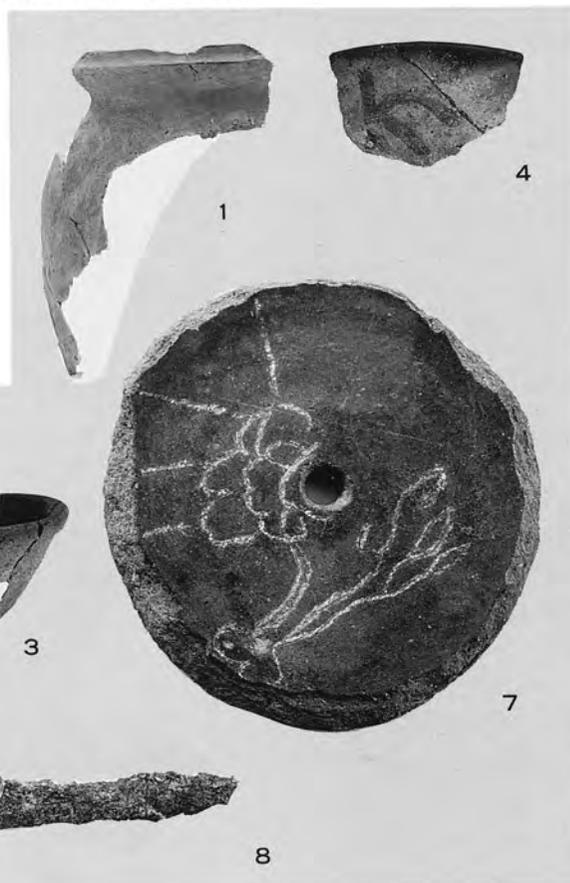
第3号住居跡出土遺物(1)



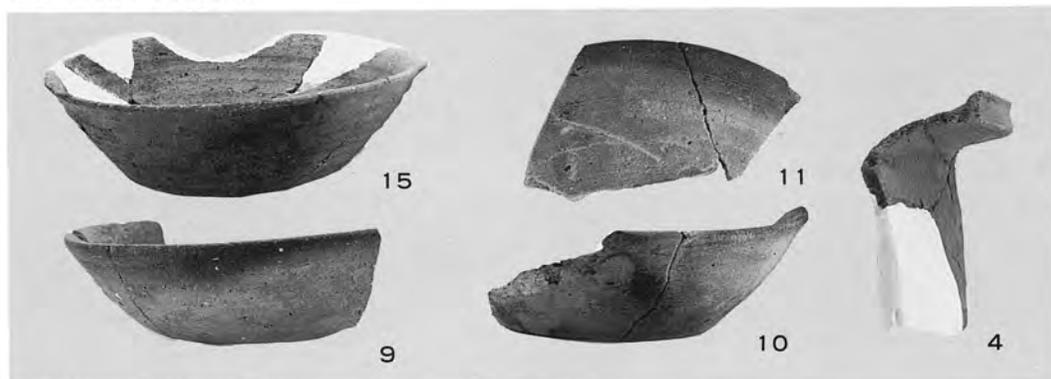
第3号住居跡出土遺物(2)



第5号住居跡出土遺物



第6号住居跡出土遺物



第7号住居跡出土遺物(1)



第7号住居跡出土遺物(2)



第9号住居跡出土遺物(1)

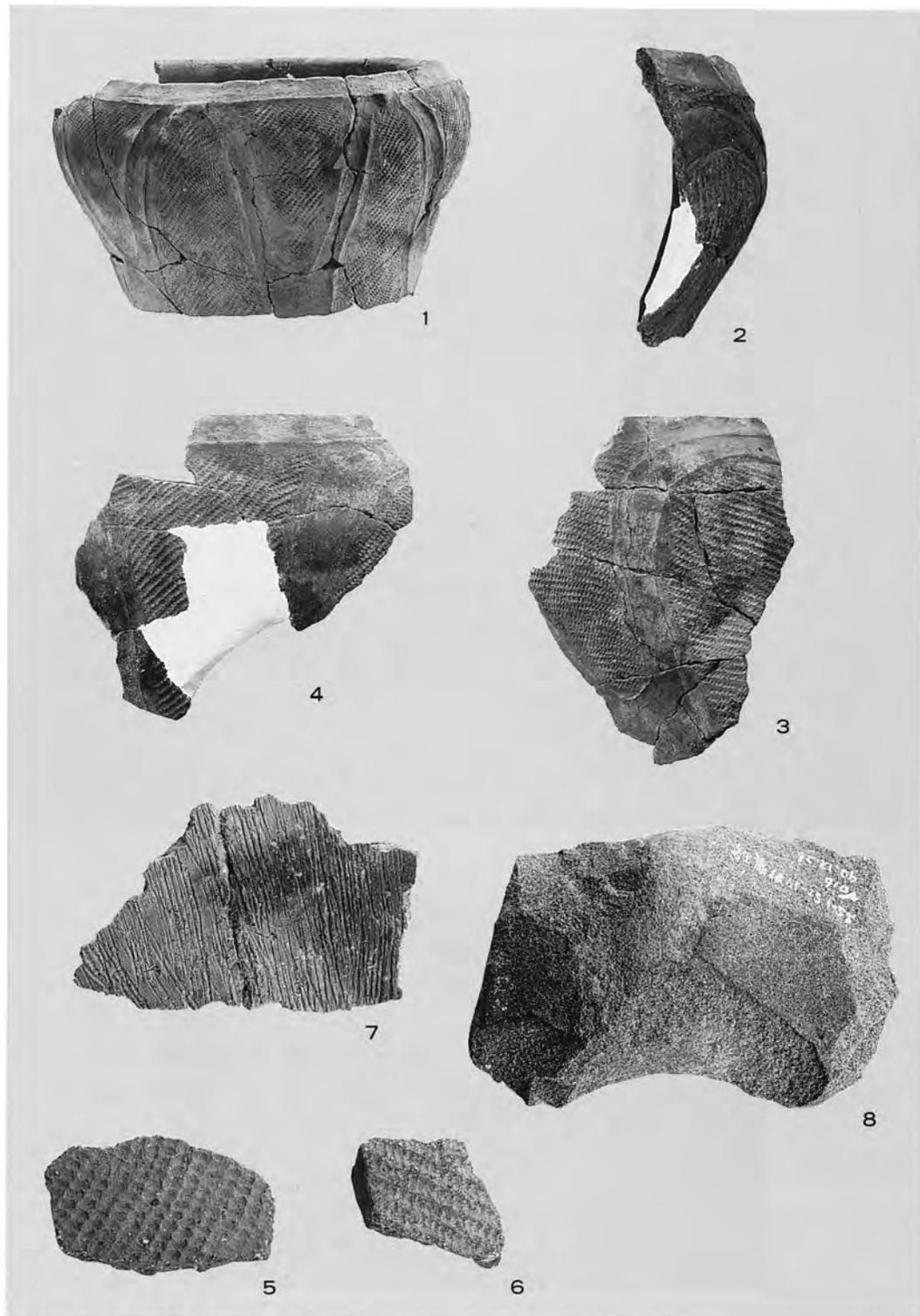


第9号住居跡出土遺物(3)

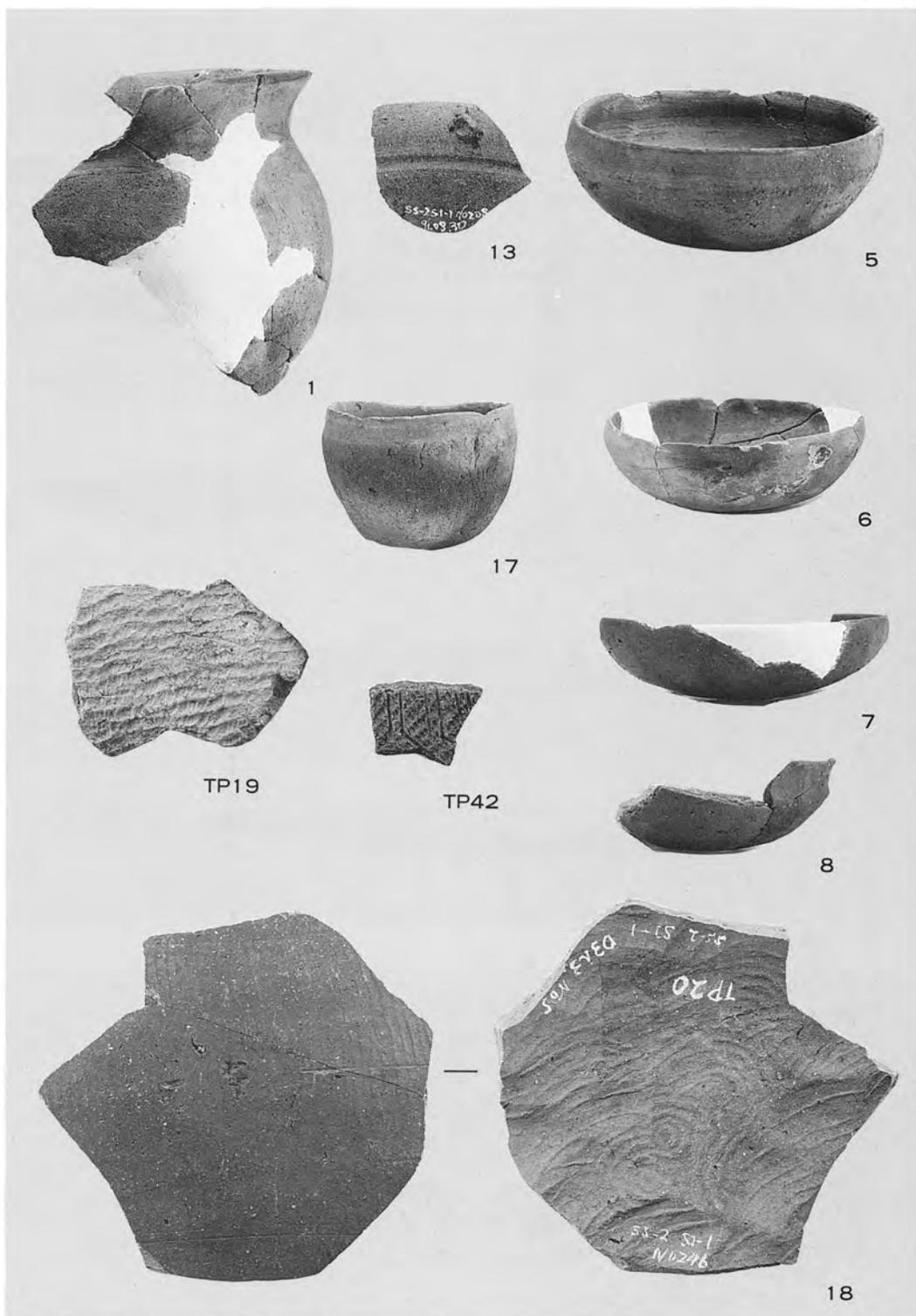


18

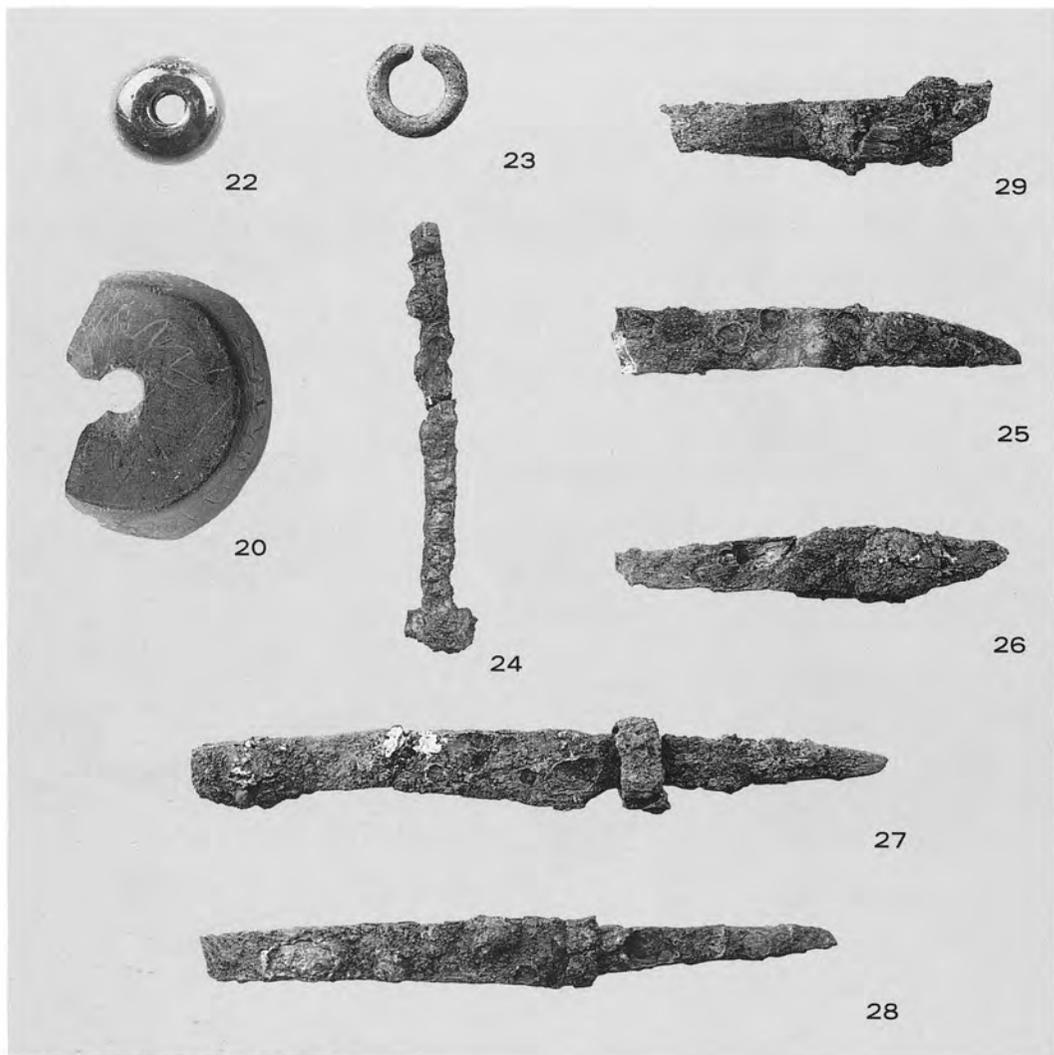
第9号住居跡出土遺物(4)



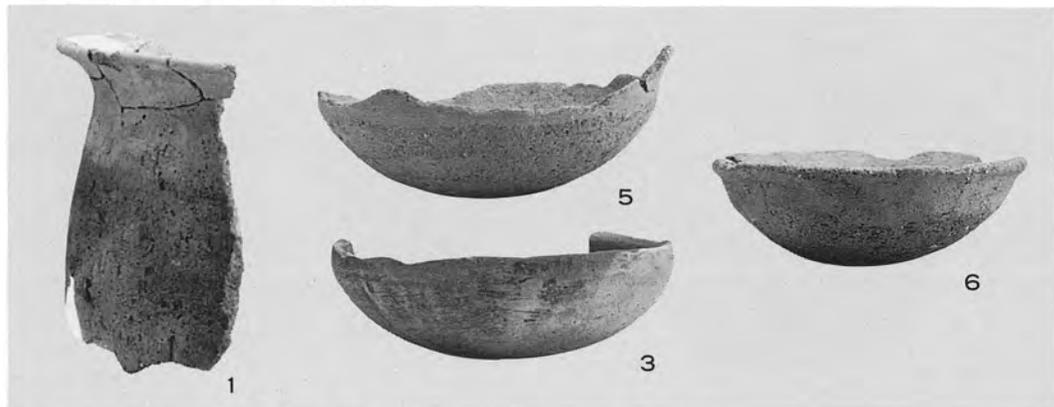
第17号住居跡出土遺物



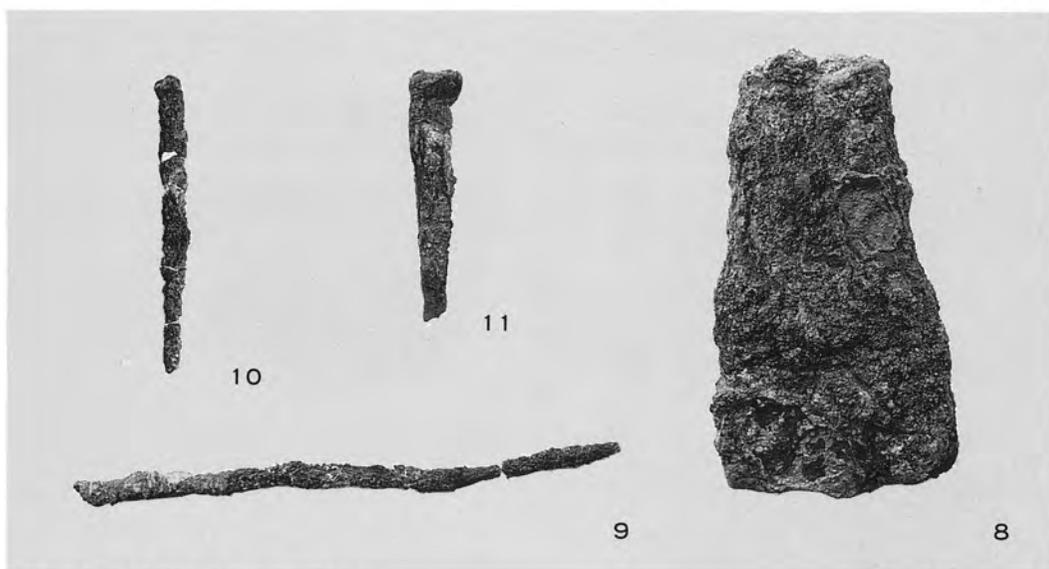
第1号住居跡〈Ⅱ区〉出土遺物(1)



第1号住居跡〈Ⅱ区〉出土遺物(2)



第2号住居跡〈Ⅱ区〉出土遺物(1)



第2号住居跡〈II区〉出土遺物(2)



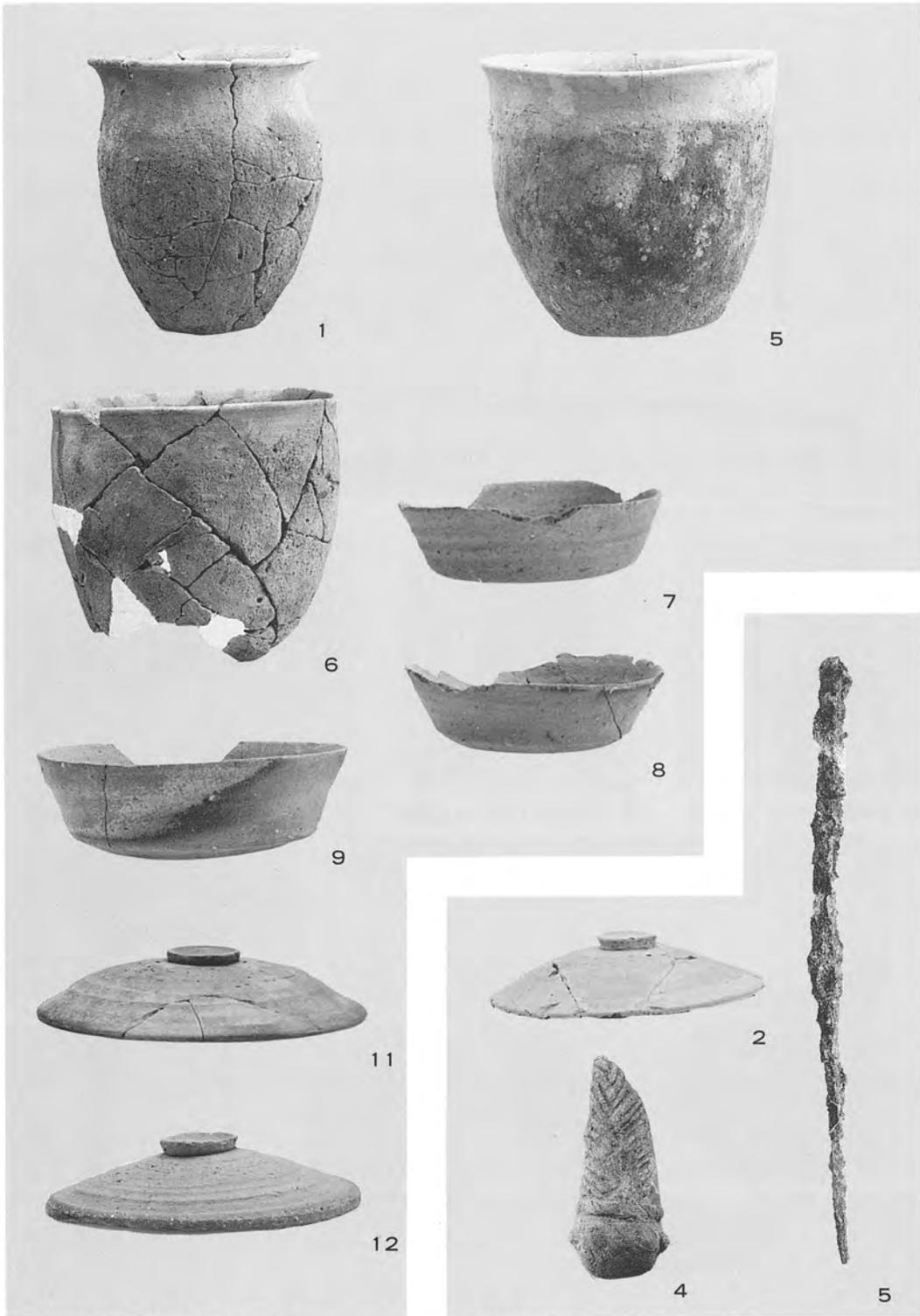
第3号住居跡〈II区〉出土遺物



第4号住居跡〈II区〉出土遺物

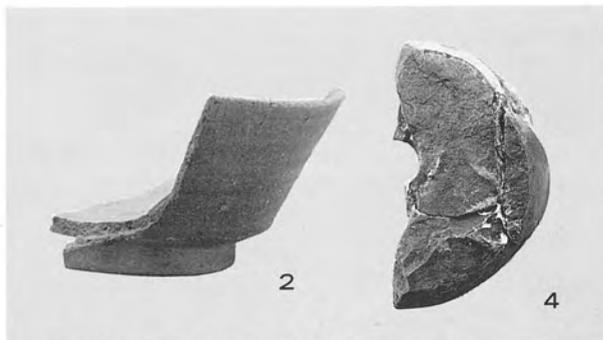


第5号住居跡〈II区〉出土遺物



第6号住居跡〈II区〉出土遺物

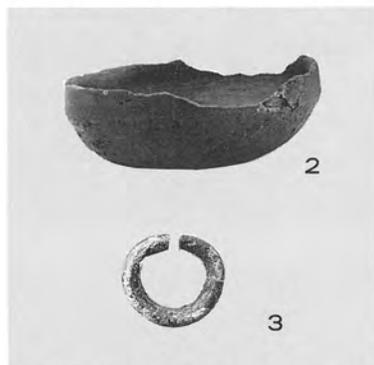
第7号住居跡〈II区〉出土遺物



第9号住居跡〈Ⅱ区〉出土遺物



6



第11号住居跡〈Ⅱ区〉出土遺物



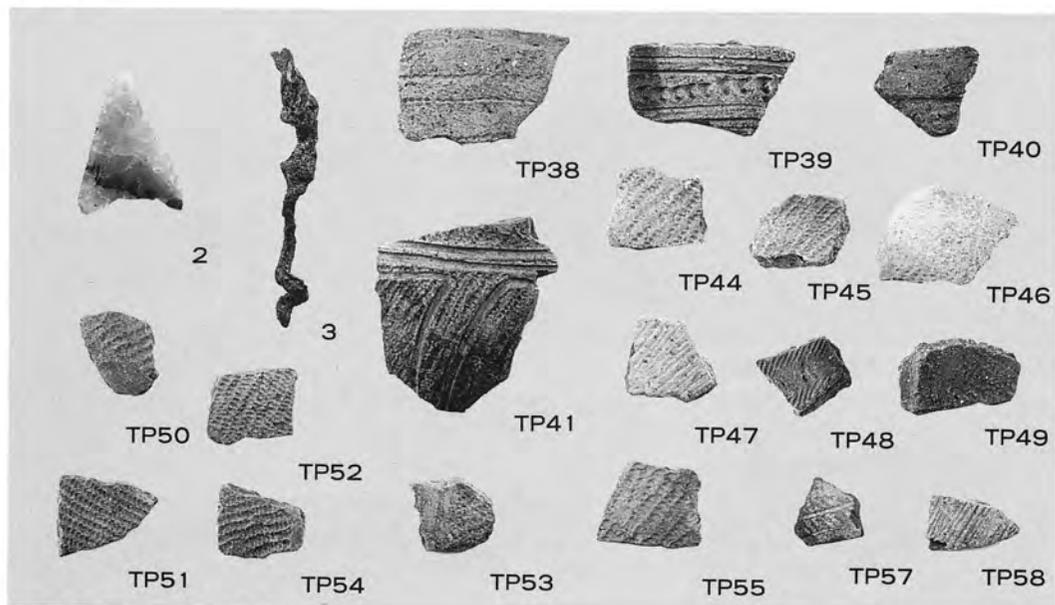
第10号住居跡〈Ⅱ区〉出土遺物

5



第3号掘立柱建物跡出土遺物

1



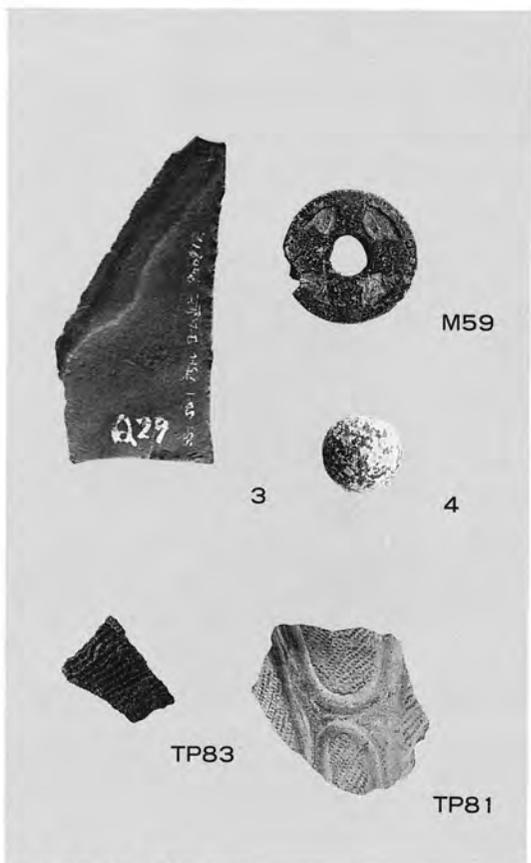
第1号溝 <II区> 出土遺物



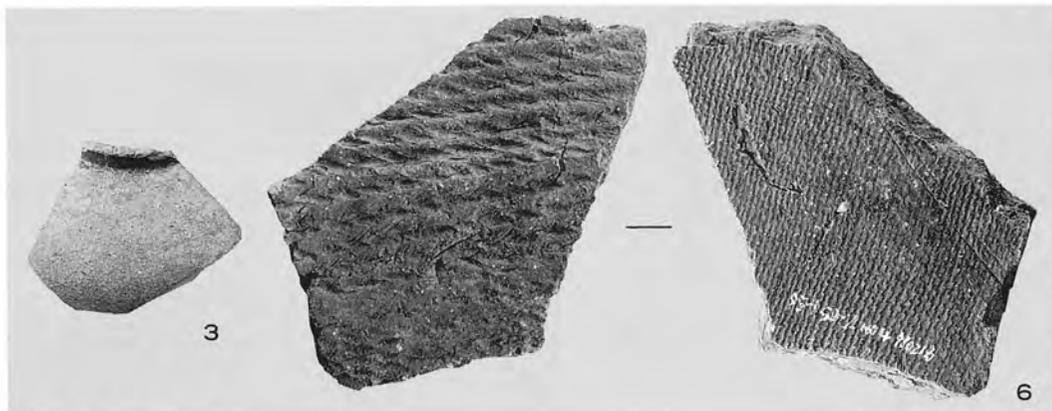
第1号基壇出土遺物



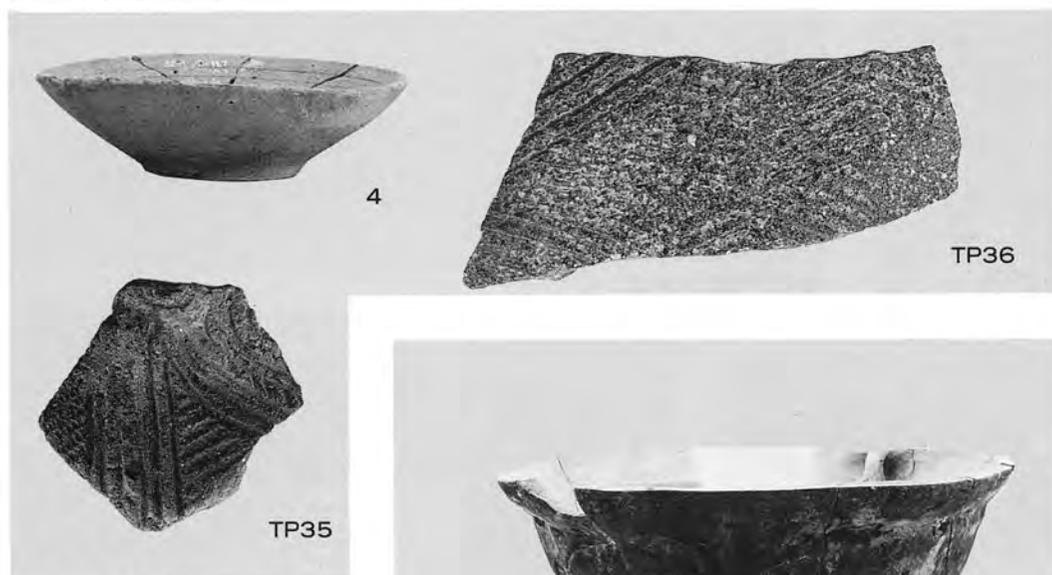
第2号掘出土遺物(1)



第1号掘出土遺物



第 2 号掘出土遺物(2)

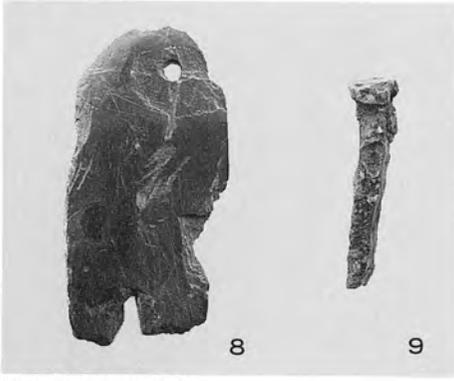


第 3 号掘出土遺物



第 4 号掘出土遺物

PL70



第4号掘出土遺物



第5号掘出土遺物



第15号溝出土遺物



第25号掘出土遺物



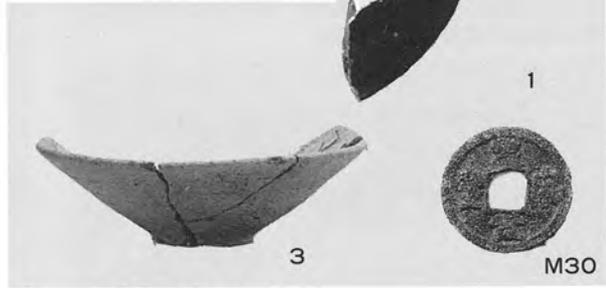
第26号掘出土遺物



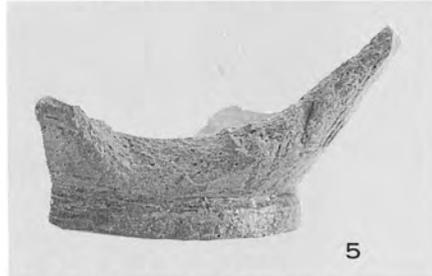
第 8 号住居跡出土遺物



第 1 号地下式墳出土遺物



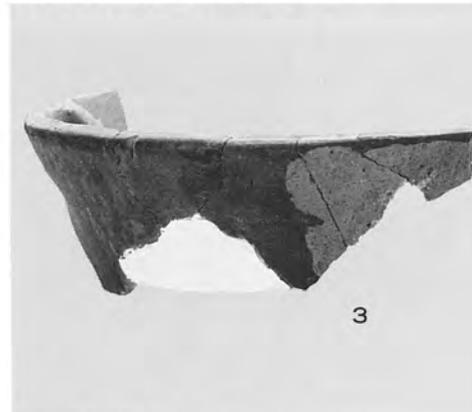
第 4 号地下式墳出土遺物



第 6 号地下式墳出土遺物



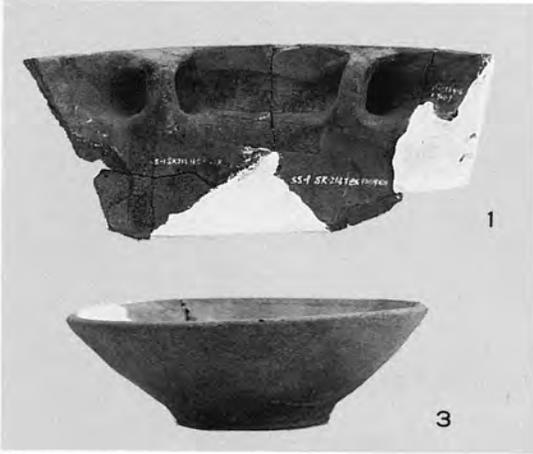
第 7 号地下式墳出土遺物



第 9 号地下式墳出土遺物



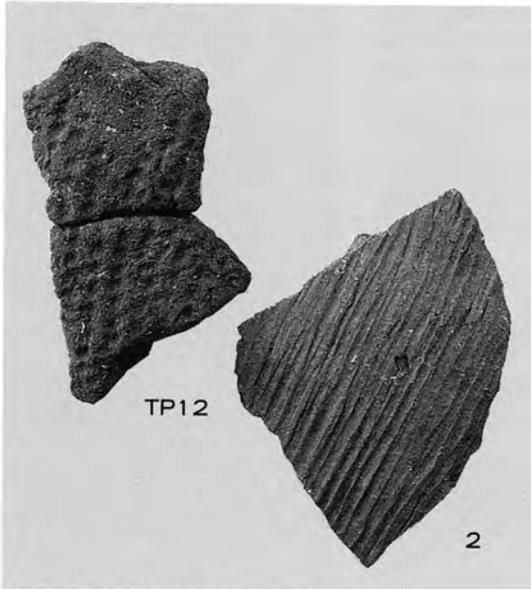
第10号地下式墳出土遺物(1)



第10号地下式墳出土遺物(2)



第16号地下式墳出土遺物



第2号方形竖穴状遺構出土遺物



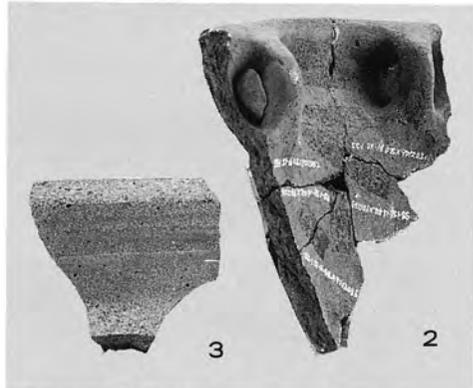
第11号地下式墳出土遺物



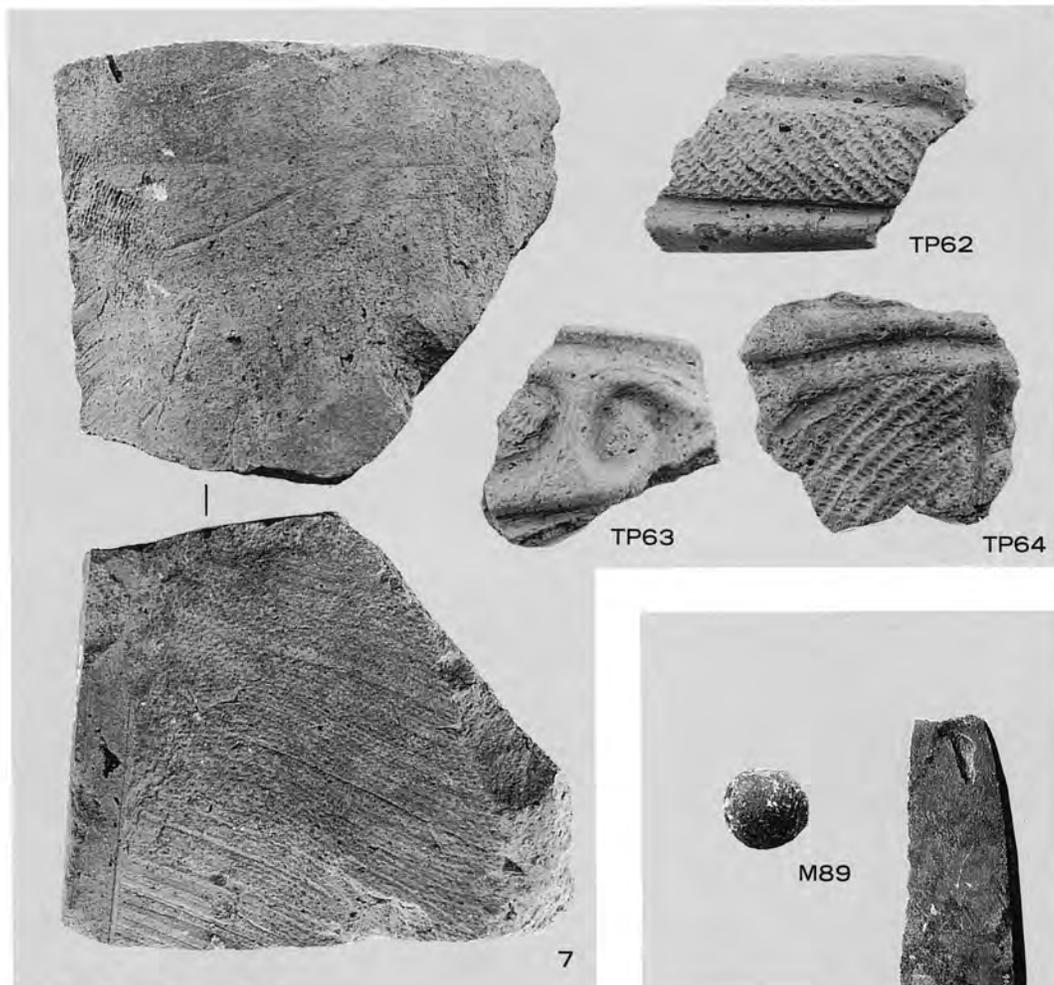
第21号地下式墳出土遺物



第20号地下式墳出土遺物



第5号方形竖穴状遺構出土遺物



第1号積石状塚出土遺物



第2号墓墳群出土遺物

第2号積石状塚出土遺物



第3号墓墳群出土遺物



第9号小竪穴状遺構出土遺物

PL74



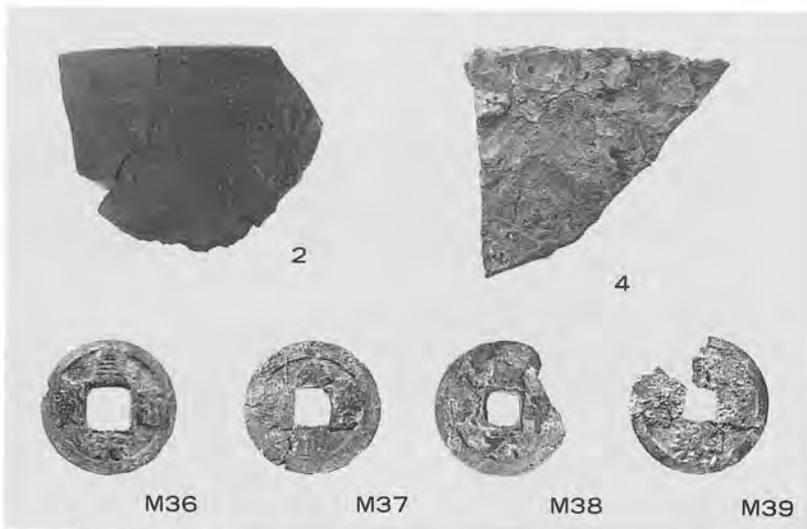
M57

第36号小竖穴状遺構出土遺物



M58

第49号小竖穴状遺構出土遺物



2

4

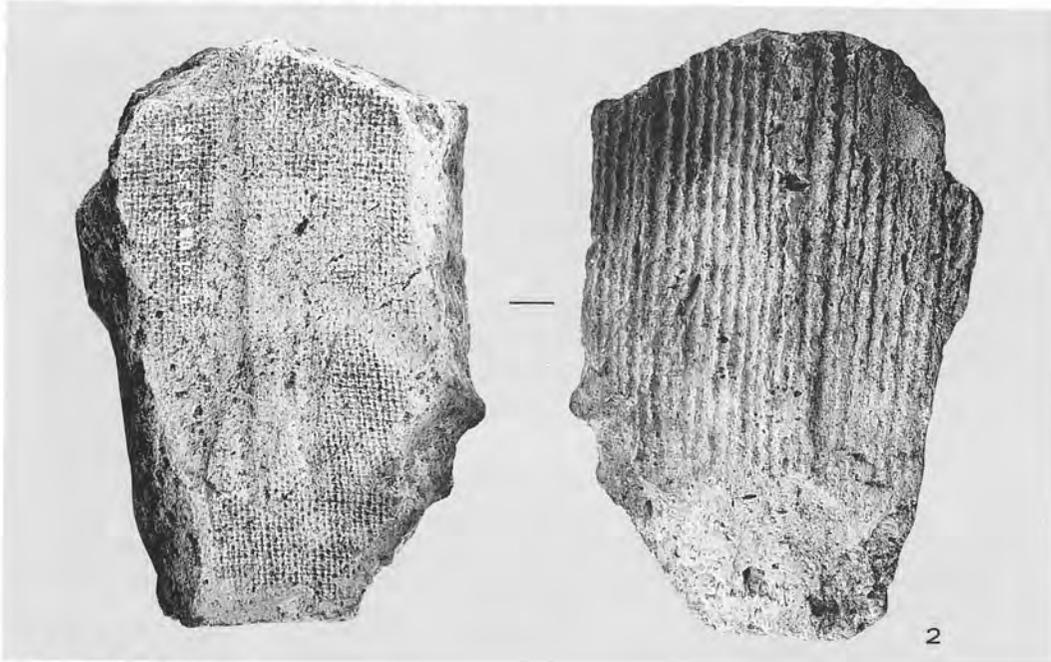
M36

M37

M38

M39

第52号小竖穴状遺構出土遺物



2

第5号住居跡出土遺物

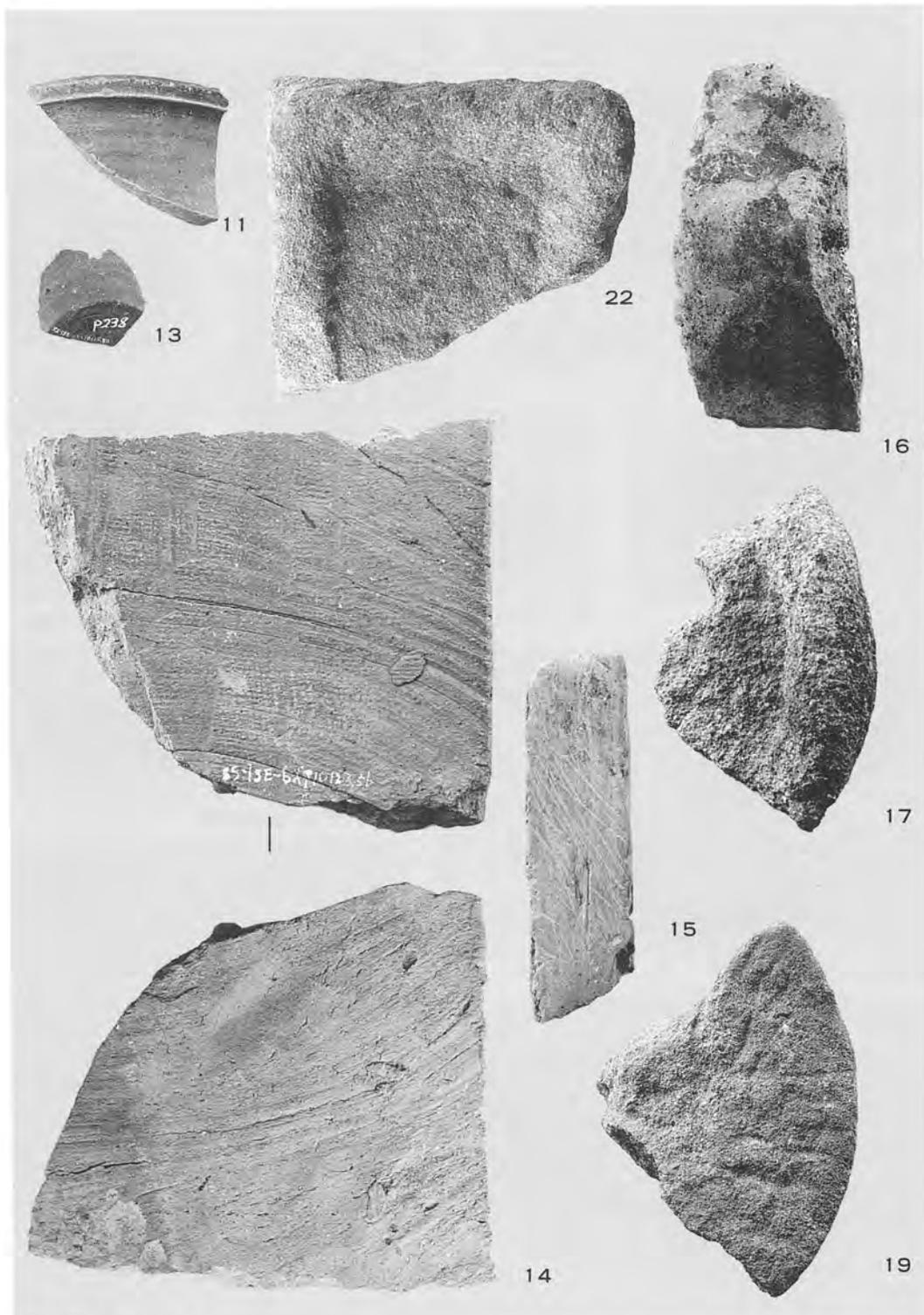


4

9

10

第6号住居跡出土遺物

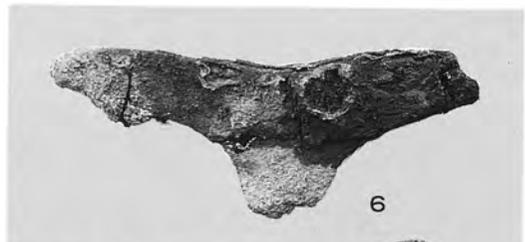


第6号井戸出土遺物

PL76



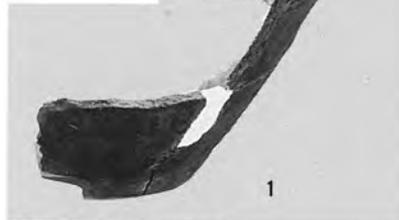
第8号井戸出土遺物



第217号土坑出土遺物



第159号土坑出土遺物



第282号土坑出土遺物



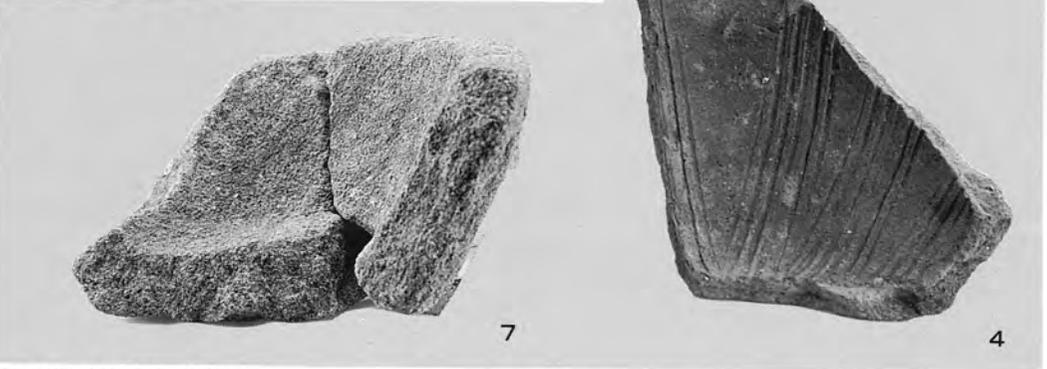
第432号土坑出土遺物



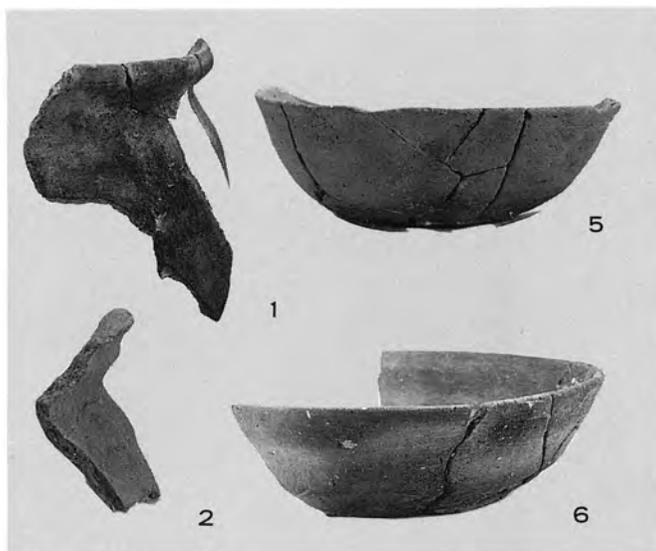
第480号土坑出土遺物



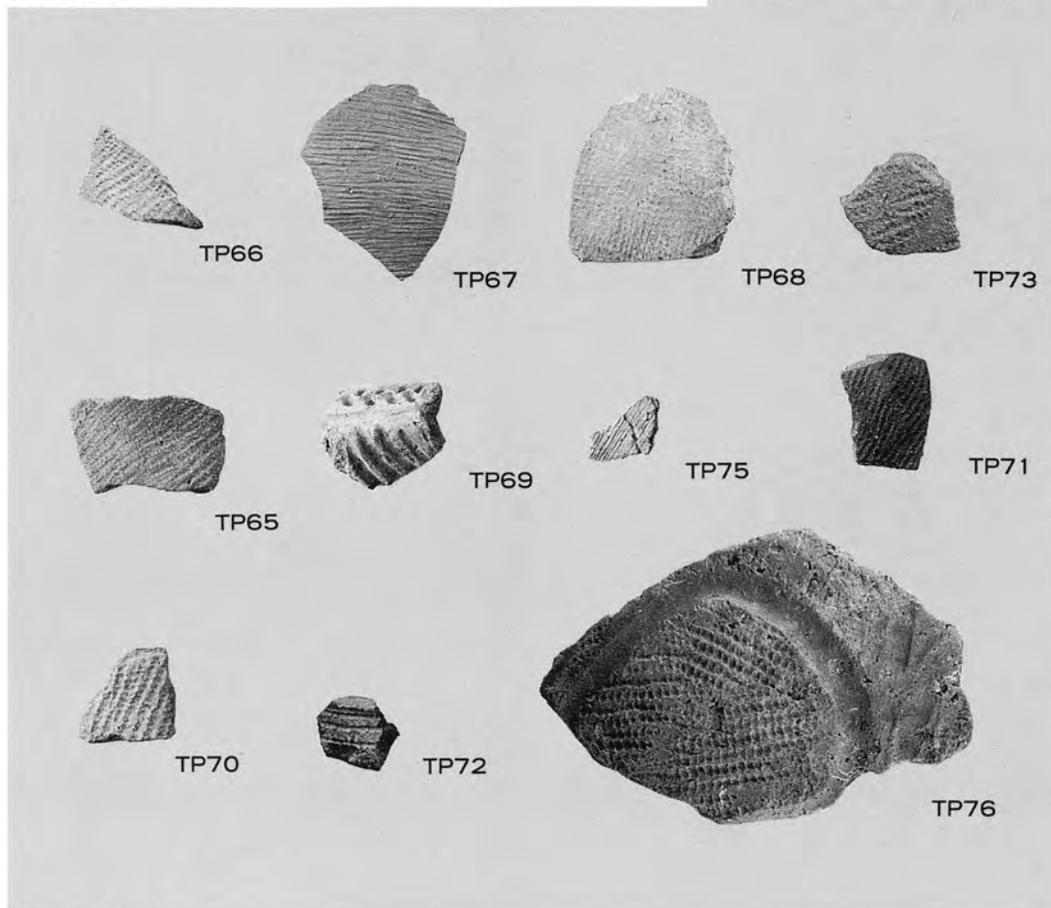
第508号土坑出土遺物



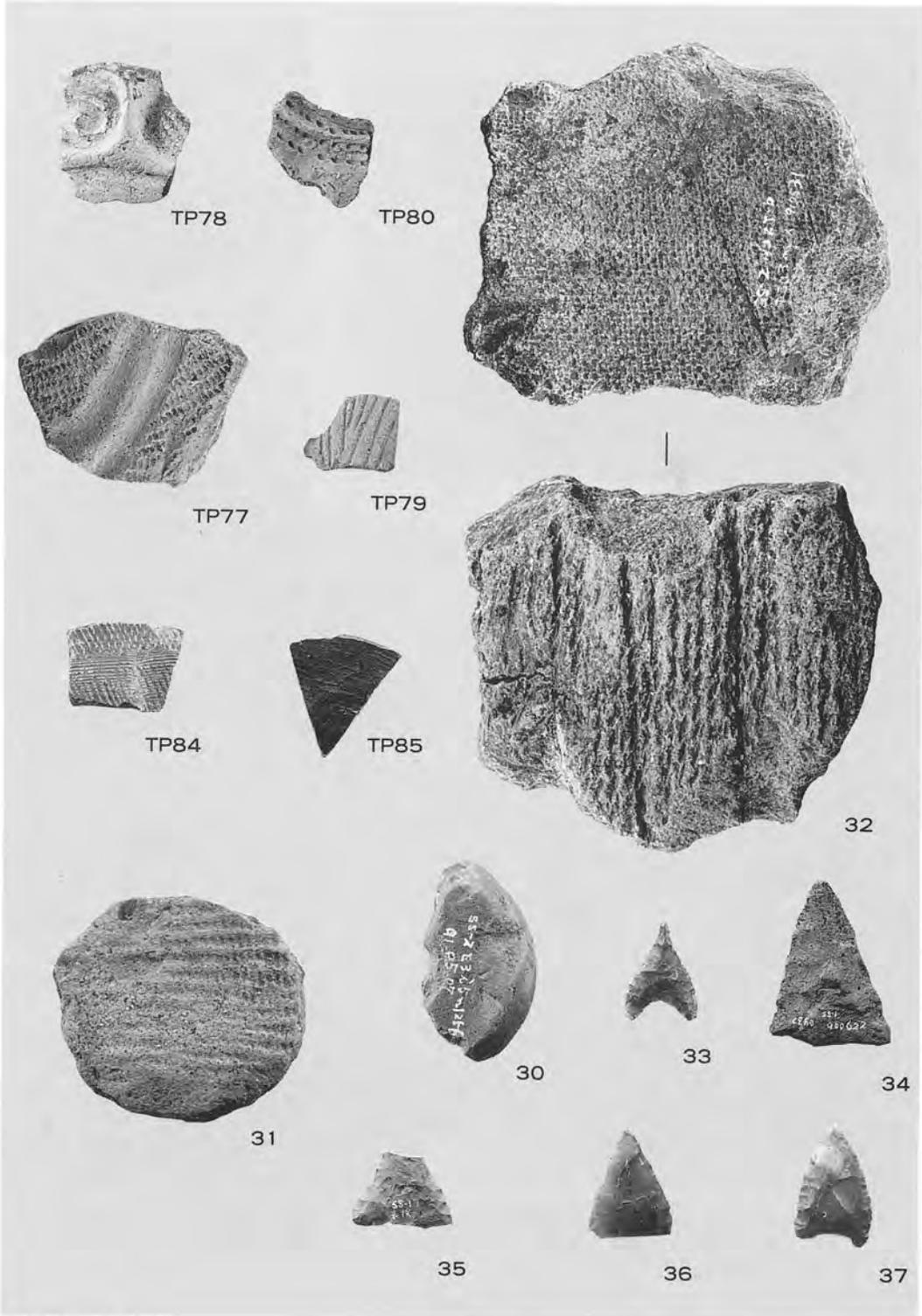
第578号土坑出土遺物



第828号土坑出土遺物



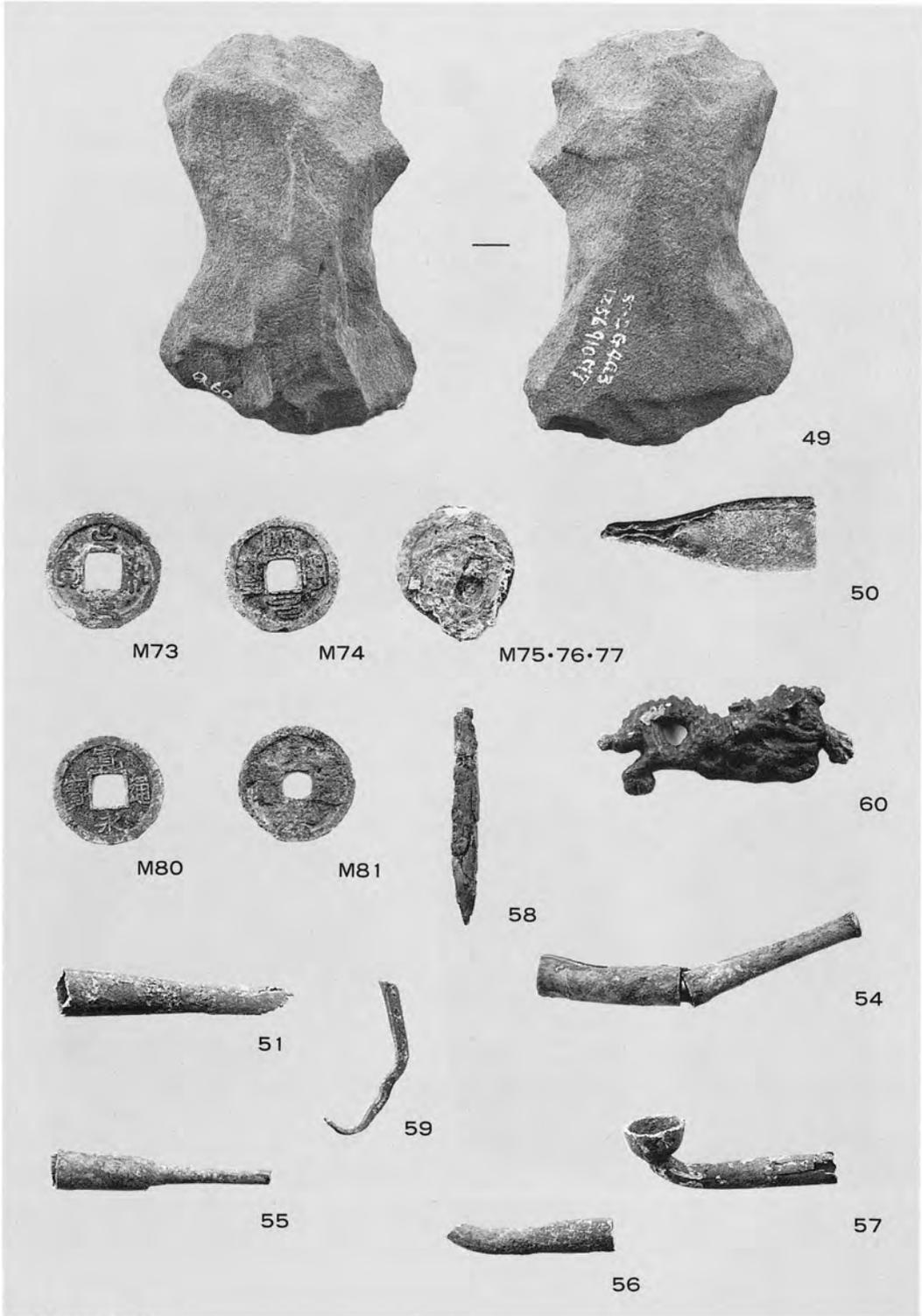
遺構外出土遺物(1)



遺構外出土遺物(2)

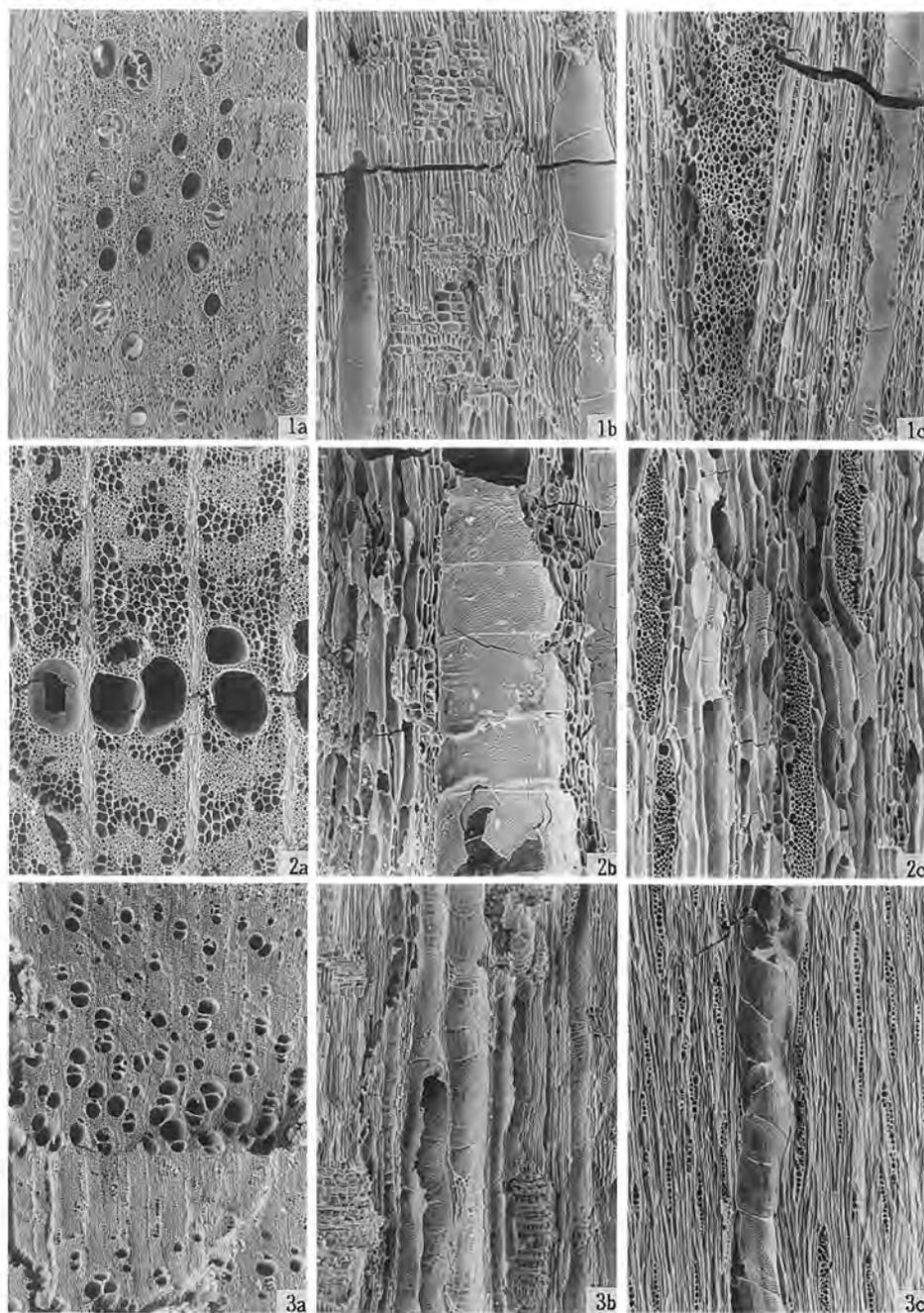


遺構外出土遺物(3)



遺構外出土遺物(4)

白石遺跡1次・炭化材の顕微鏡写真

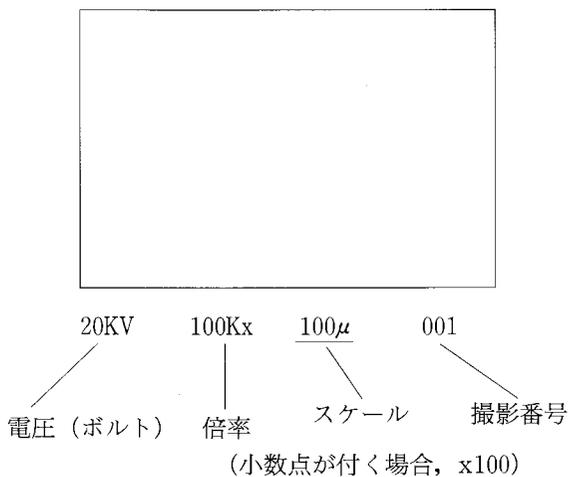


- 1.コナラ属アカガシ亜属の一種 (No.1) a (木口) x35, b (柀目) x70, c (板目) x70
 2.ケヤキ (No.4) a x35, b x70, c x70
 3.ヌルデ (No.5) a x35, b x70, c x70

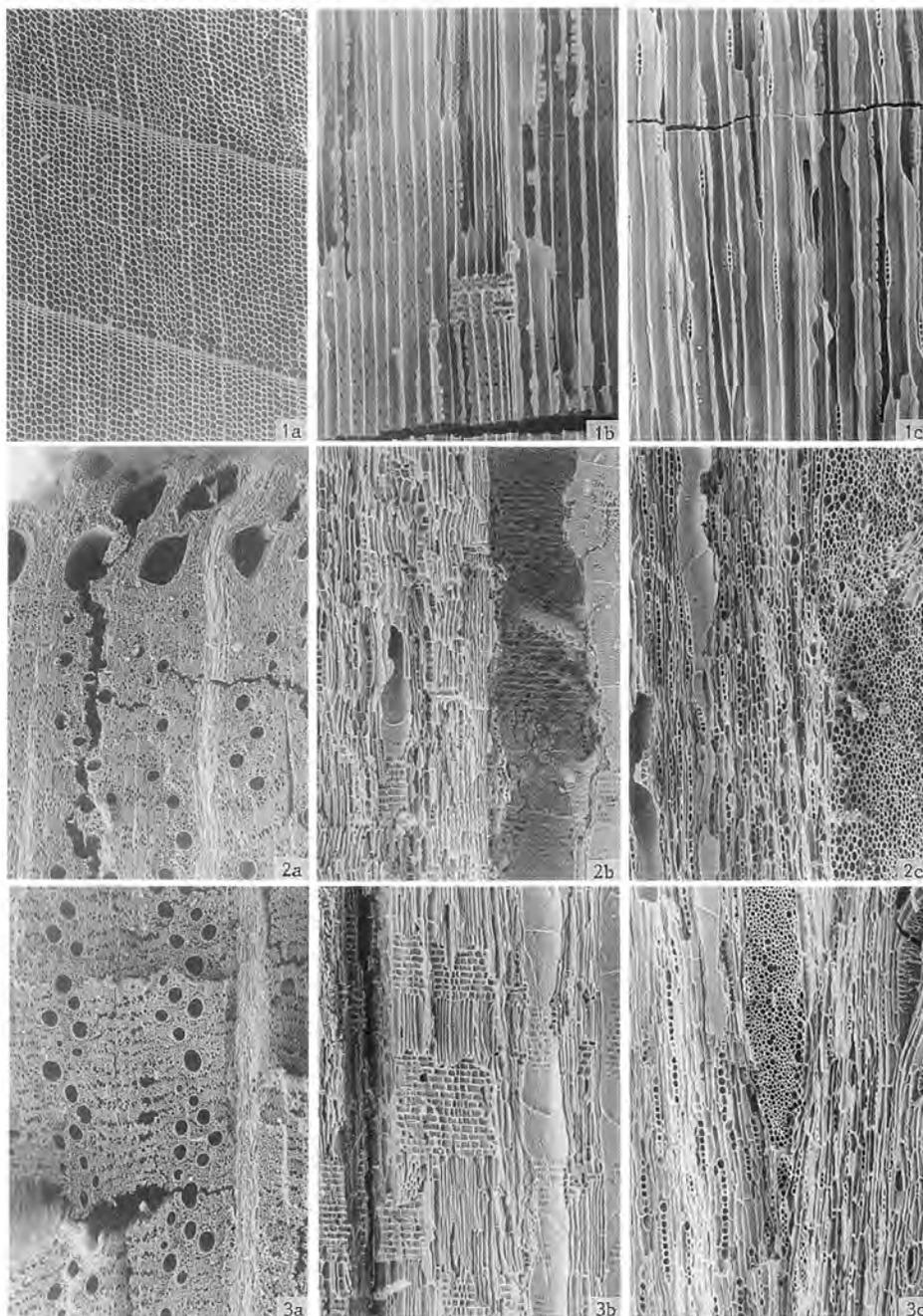
ネガ説明

ネガ番号	樹種名	試料番号	断面
6・004	ケヤキ	No. 4	木口
7・005	ケヤキ	No. 4	柾目
8・006	ケヤキ	No. 4	板目
9・007	ヌルデ	No. 5	木口
10・008	ヌルデ	No. 5	柾目
11・009	ヌルデ	No. 5	柾目
12・010	ヌルデ	No. 5	板目
13・011	コナラ属アカガシ亜属の一種	No. 1	木口
14・012	コナラ属アカガシ亜属の一種	No. 1	柾目
15・013	コナラ属アカガシ亜属の一種	No. 1	板目

*ネガ番号は、ネガの上部にあらかじめ付されている番号を先に、ネガの右下に示した撮影番号を次に記してある。ネガの下部にある数字は、下記の通りである。



白石遺跡 2次・炭化材の顕微鏡写真



1. ヒノキ属類似種 (SI-01 No. 157)
 2. コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種 (SI-01 No. 256)
 3. コナラ属アカガシ亜属の一種 (SI-01 No. 67)
- a: 木口, b: 柱目, c: 板目

200 μ : 2a, 3a
 200 μ : 1a
 200 μ : 2b-c, 3b-c
 200 μ : 1b-c

〈白石遺跡 2 次〉

ネガ番号	撮影番号	樹種名	試料番号	断面	図版・写真番号
11	009	ヒノキ属類似種	SI-01 No.157	木口	6-1a
12	010	ヒノキ属類似種	SI-01 No.157	板目	6-1b
13	011	ヒノキ属類似種	SI-01 No.157	柁目	6-1c
14	012	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種	SI-01 No.256	木口	6-2a
15	013	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種	SI-01 No.256	板目	6-2b
16	014	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種	SI-01 No.256	柁目	6-2c
17	015	コナラ属アカガシ亜属の一種	SI-01 No. 67	木口	6-3a
18	016	コナラ属アカガシ亜属の一種	SI-01 No. 67	柁目	6-3b
19	017	コナラ属アカガシ亜属の一種	SI-01 No. 67	板目	
20	018	コナラ属アカガシ亜属の一種	SI-01 No. 67	板目	
21	019	コナラ属アカガシ亜属の一種	SI-01 No. 67	板目	6-3c

茨城県教育財団文化財調査報告第82集

(仮称) 水戸浄水場予定地内
埋蔵文化財調査報告書

白石遺跡

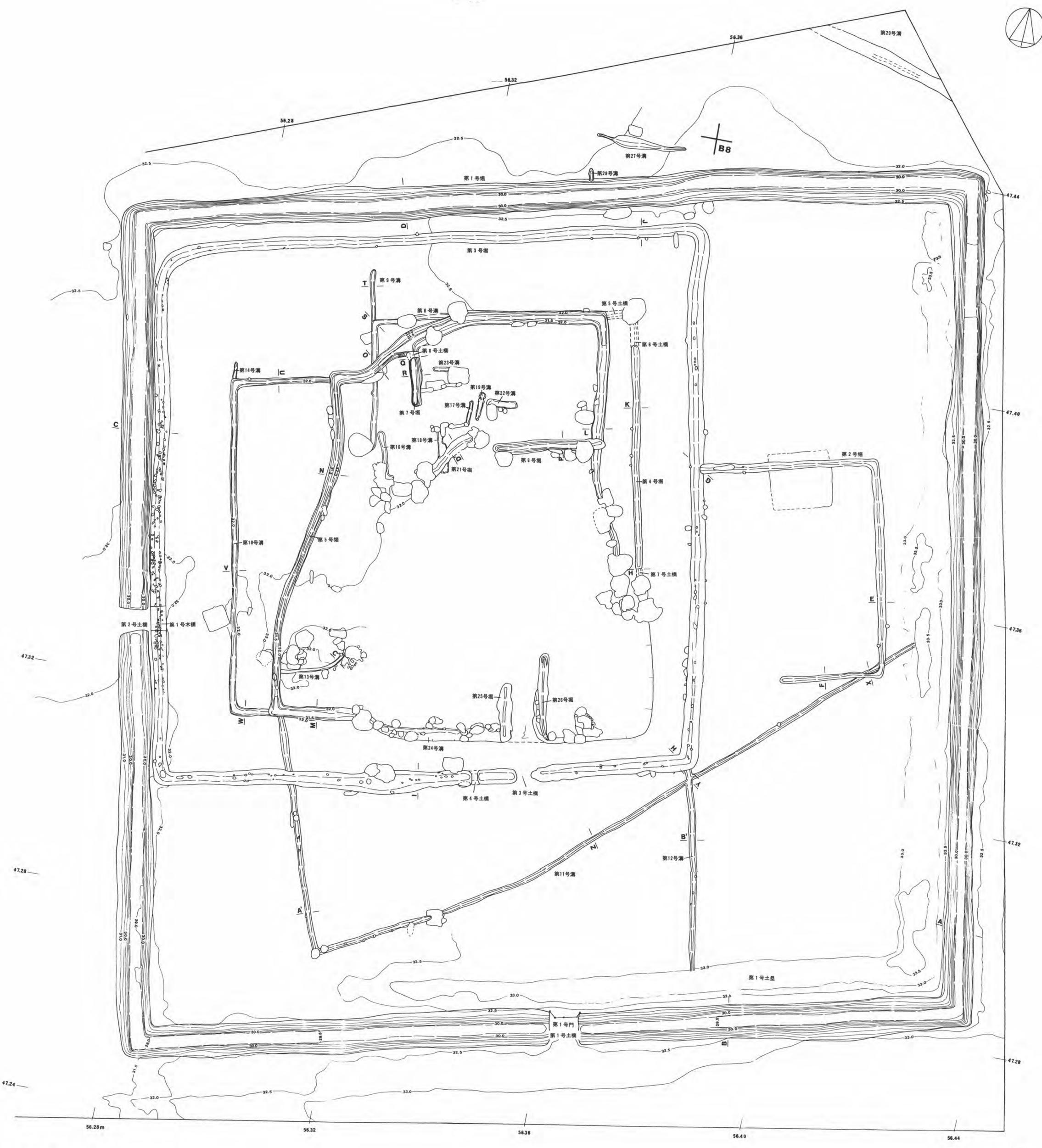
平成5年3月25日印刷

平成5年3月31日発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
水戸市見和1丁目356番2号
TEL：0292-25-6587

印刷 有限会社 川田プリント
水戸市上水戸4丁目6番53号
TEL：0292-53-5551(代)





付图2 堀・溝配置图

0 100m

1000